

第146図 遺構内出土遺物 (91) S X Q73④

出土遺物は石器のみで、接合資料・剥片がある。

接合資料(247・253・257) 247には、248～252の剥片が接合。a面上位の打面形成の後、縦長・横長剥片を順次剥離する。素材は礫皮面をもつ河原石と考えられる。253には、254～256の剥片が接合。257には258・259の剥片が接合したが、打点が180°異なる。

剥片(248～252・254～256・258～265) 248～252の接合資料が247、254～256の接合資料が253、258・259の接合資料が259である。すべて同一個体である。260～263は横長、264・265は縦長剥片である。

(7) 石器集中部

SXQ01(第140・141図、図版20・73)

下段で調査区中央やや北西のME58区、MF58・59区に位置し、高い位置では削平面の僅かに下で検出。主に河道A堆積層出土と考えられるが、一部平面的には礫層上部に当たる所もある。出土遺物の総数は169点で、長軸7m×短軸3mの広がりをもつ。垂直分布では、東側上部の幅が狭く平坦で、西側程深い傾向にある。西側では平均約1m、東側では約0.2mである。

出土遺物は石器のみで、両面調整素材・石鏃・削器・二次加工ある剥片がある。

両面調整素材(266) 片側が厚い河原石の素材で、a面上位右側縁の表裏面に調整がある。

石鏃(267) 細長い二等辺三角形で、尖端と底辺の両端を欠損。円基式で側縁の剥離は粗い。

削器(268～270) すべて縦長剥片で、両側縁に調整のあるもの(268・269)と、片側だけのもの(270)がある。268のa面右上位の側縁には、使用痕と考えられる微小剥離痕がある。

二次加工ある剥片(271) 横長剥片で、下端に使用痕と考えられる微小剥離痕がある。

SXQ31(第140図、図版20)

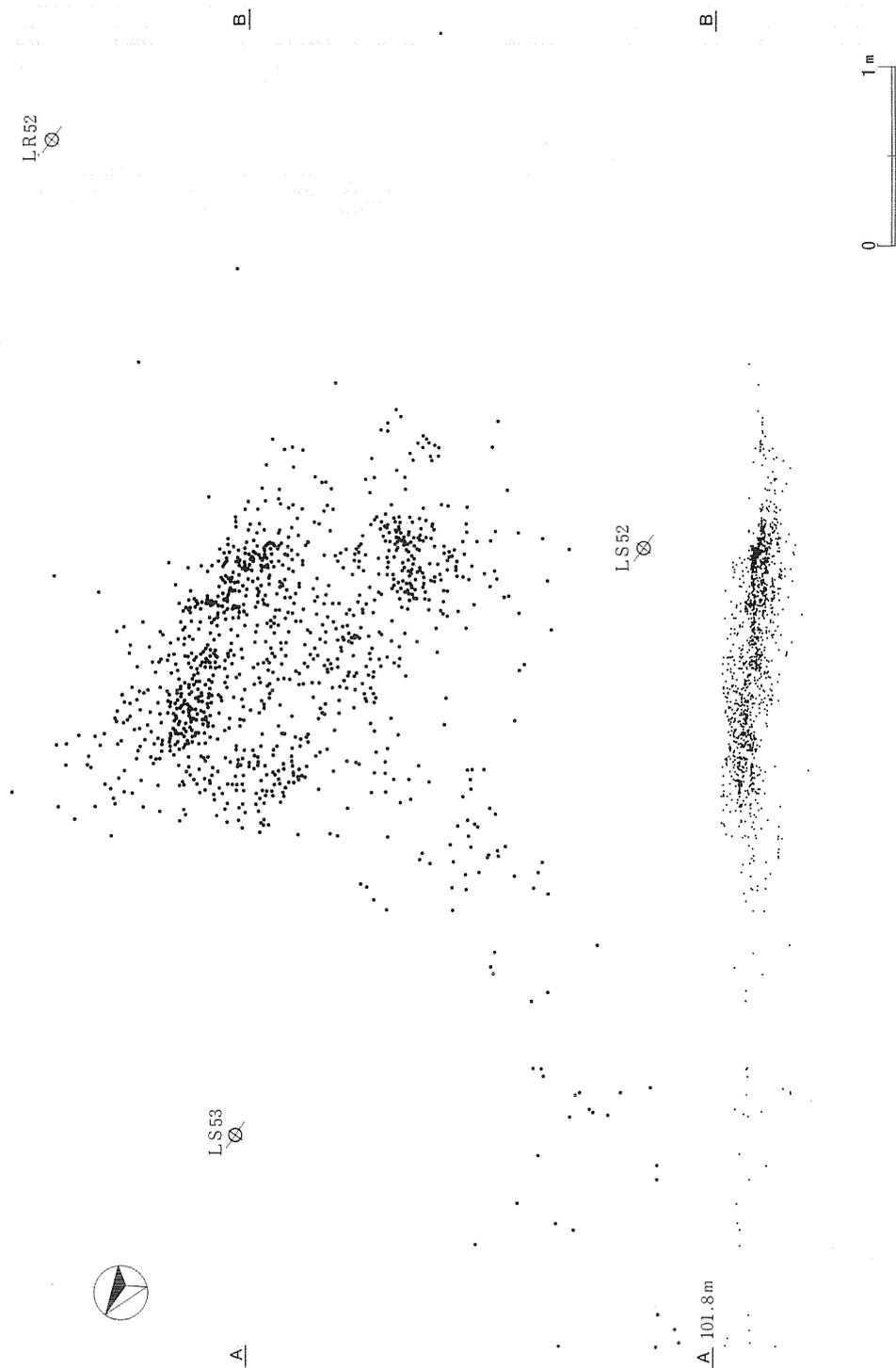
下段で調査区中央やや北西のMF57区に位置し、表土下約0.4mの河道A堆積層上部と考えられる砂層で検出。総数は81点で、長軸3.2m×短軸2.4mの広がりをもつ。これらはチップが主体を占めるが、南西の径0.4mの円内に特に集中している。垂直分布は、平面でまとまりを示す所が約0.15m、全体では約0.4mの幅がある。SXQ32と関連する可能性がある。

SXQ32(第140図、図版20・21)

下段で調査区中央やや北西のME57区に位置し、表土下約0.5mの河道A堆積層上部と考えられる砂層で検出。総数は647点で、チップを主体に僅かな剥片を伴っている。その広がりには長軸0.9m×短軸0.7mの楕円形で、狭い範囲に集中している。垂直分布では、ほぼ0.1mの幅に収まる。SXQ31と関連する可能性がある。

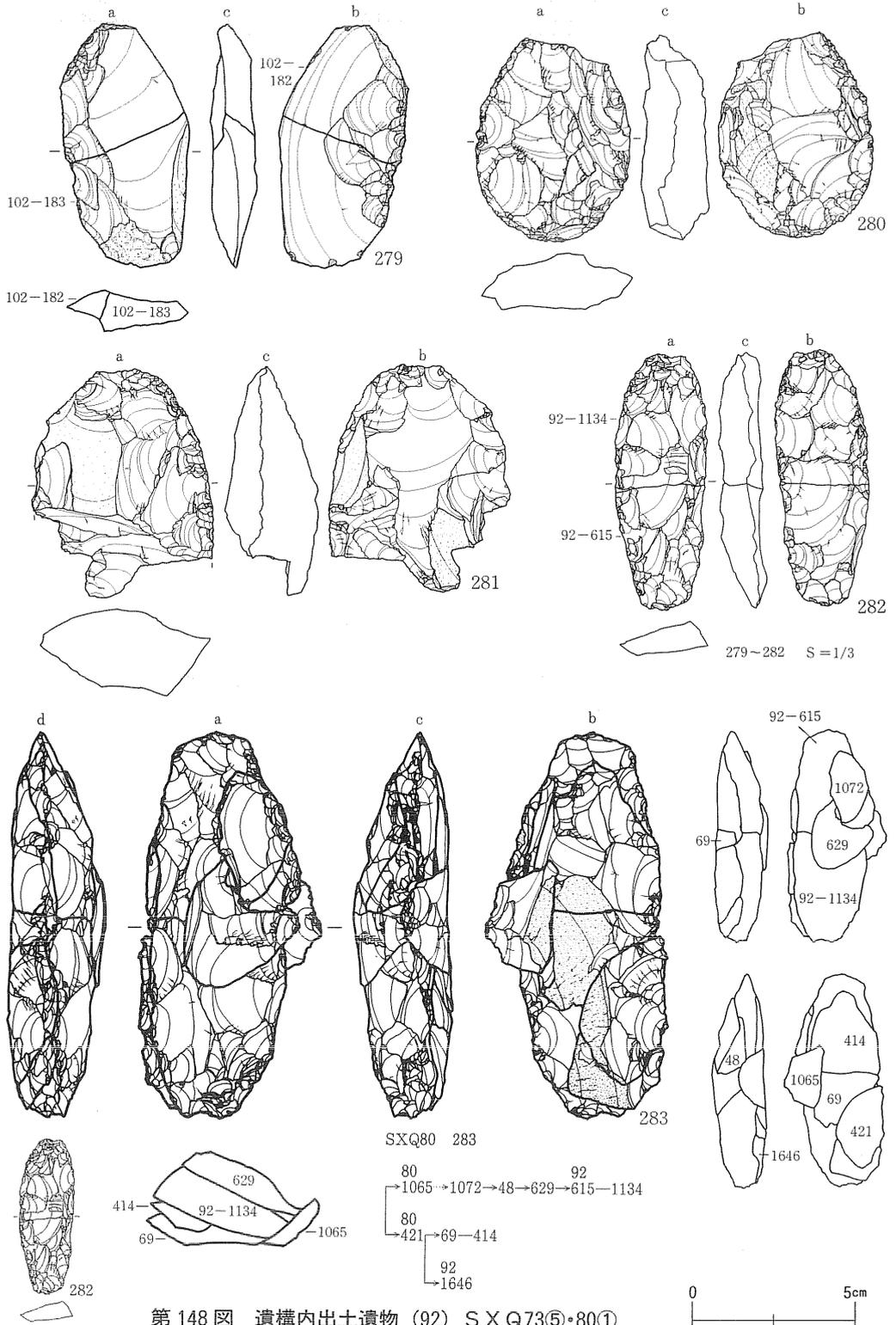
SXQ73(第142図、図版18・21・48・52・55・74)

上段で調査区中央やや東側のLS53区に位置し、表土下約0.3mの河道B堆積層下部で検出。取り上げ総数は776点で、約3.5m×2mの広がりがある。ここでは、大きく東西2つのブロッ

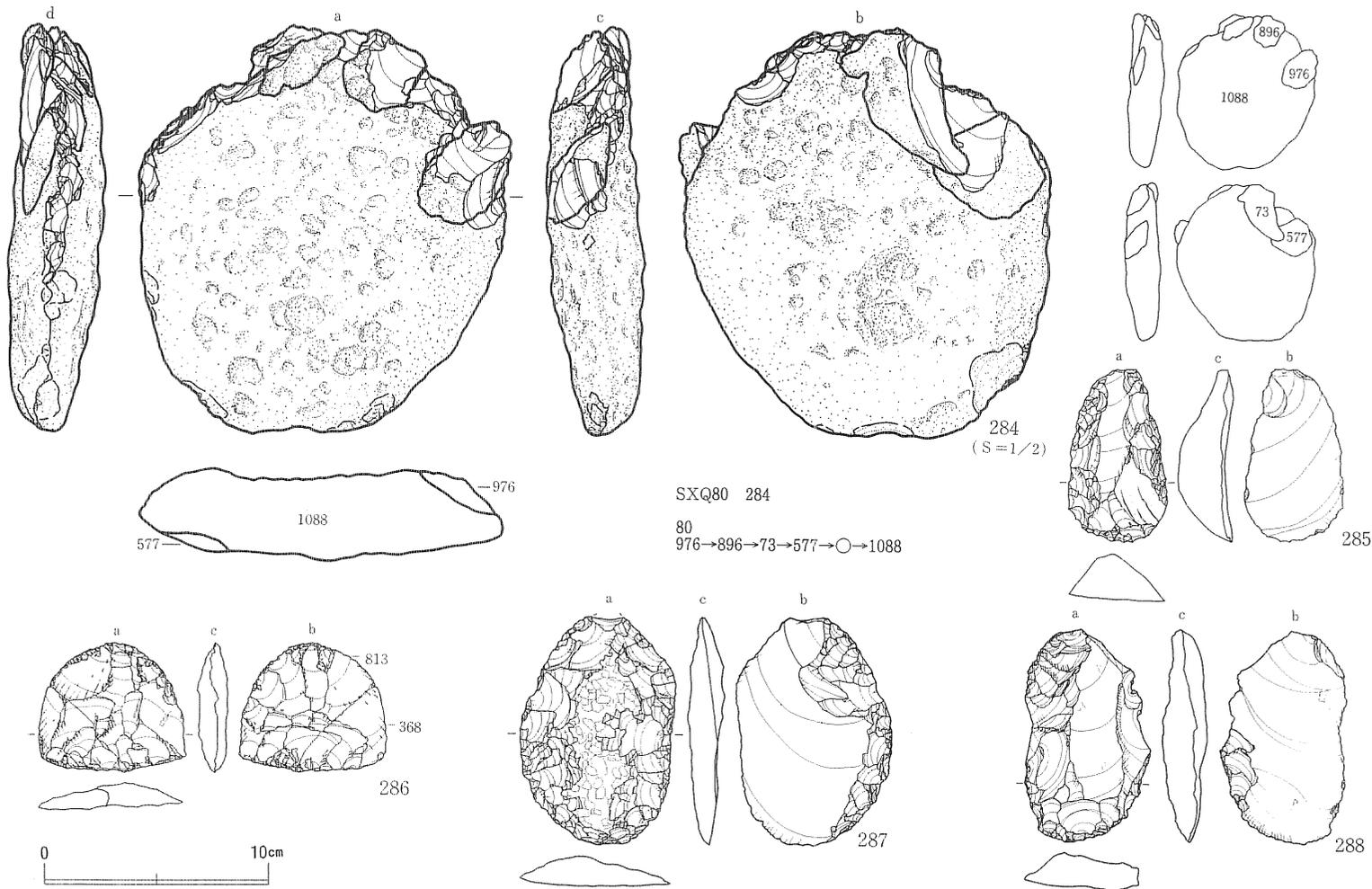


第147図 石器集中部(14) SXG80

第4章 調査の記録



第148図 遺構内出土遺物 (92) S X Q73⑤・80①



第 149 図 遺構内出土遺物 (93) S X Q80②

クに分けられ、東側は径0.8mの円形に西側では1.1m×0.8mの楕円形にまとまる。垂直分布の最大幅は、東側が0.1m西側では0.3mで、後者は摺鉢状を呈した落ち込みであったことを示唆する。遺構は、多量のチップが共伴する石器製作跡である。

出土遺物は石器のみで、接合資料・両面調整素材・両面調整石器・削器がある。

接合資料(272~276・283) 272には278、273には280・281、274には279の、両面調整素材および石器(Tool)に、剝片が接合したもの。272は厚く扁平な河原石を素材にしている。上端は原石の段階から平坦で、a面上位右側縁と共に打面に利用している。c・d両側縁は、交互剝離で調整を施す。273は表裏の自然面より、分割礫を素材にしている。当初、楕円形の石斧もしくは両面調整石器を意図したが、a面からの折断で製作を断念している。この後下位の剝片に調整を施す。274は横長剝片を素材にしている。275は上位で折断があり、そこから剝離を施す。276は、削器に剝片が接合したもの。

両面調整素材(275・277) 277は扁平な大型の河原石を素材にする。縁辺に粗い剝離がある撥形の形態で、礫皮面を大きく残す。a・b両側縁には交互剝離を施す。

両面調整石器(278~282) 278は272の石核で、両面に粗い調整がある。279は274の石核で、横長剝片の素材である。打点の表裏に調整があり、b面の左側縁上部に二次加工を施す。a面からの折断がある。280・281は273の石核で、折断後新たに調整を施す。比較的整った楕円形を呈し、b面には自然面が残る。

削器(276) 一部(a面上位)は、縦長剝片を素材にする。a面の右側縁下位に剝離がある。同面の左側縁と右側縁上位には、礫皮面が残る。

S X Q80 (第147~149図、図版21・50・74)

上段で調査区中央やや南東のLR・LS52区に位置し、表土下約0.4mの河道B堆積層上部で検出。取り上げ総数(チップを含む)は1,146点で、約長軸5.5m×短軸3.5mの広がりをもつ。この内、北東側の長軸2m×短軸1.2mの範囲には特に集中している。北東側の垂直分布は、最大幅0.3mである。遺構は、多量のチップが共伴する石器製作跡である。

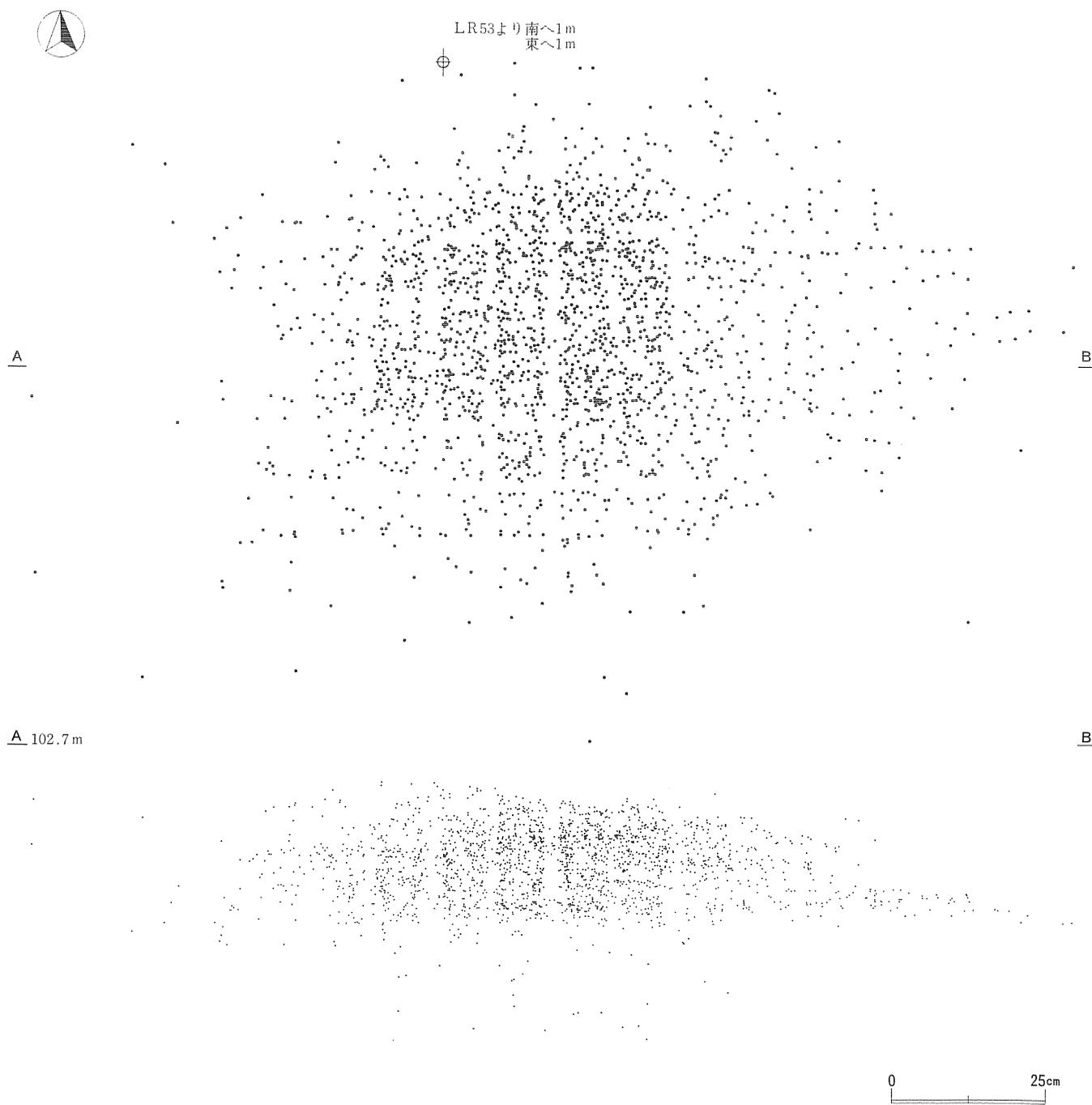
出土遺物は石器のみで、接合資料・両面調整素材・両面調整石器・搔器・削器がある。

接合資料(283・284) 283は両面調整石器に、284は両面調整素材に剝片が接合したもの。283は分厚く細長い。b面は平坦な摂理面で、分割礫を素材にしたと考えられる。284は、楕円形で薄く扁平な河原石を素材にする。

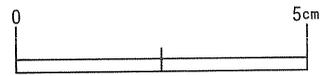
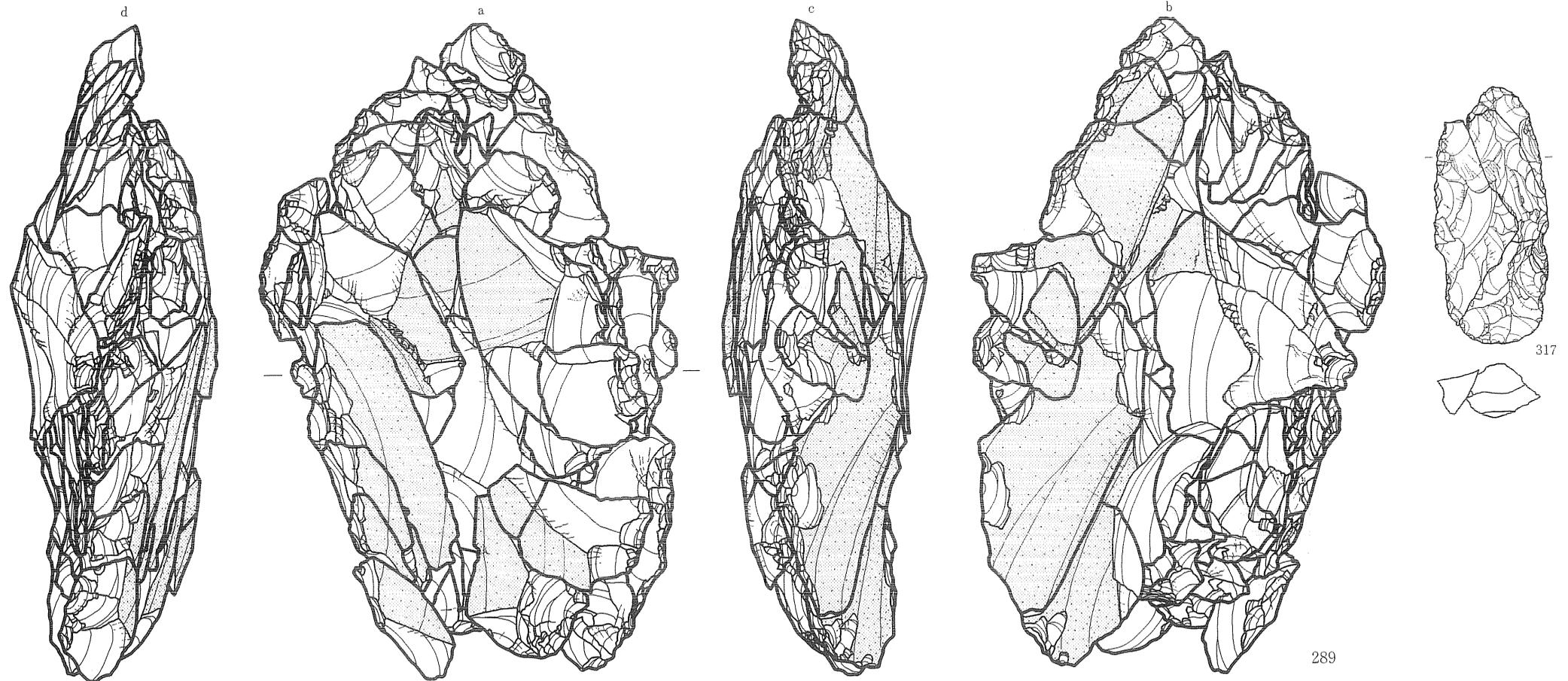
両面調整素材(284) 両面調整素材は284の石核。上端に調整があり、刃部状に作り出す。

両面調整石器(282) 283の石核。下端は表裏に調整がある両刃で、石斧を意図した可能性がある。中央a面からの折断があり、a面中央左側縁からの剝離が影響したと考えられる。

搔器(285~287) 285は縦長剝片、286・287は横長剝片である。285は甲高で、両側縁や刃



第150図 石器集中部(15) SXQ92



SXQ92 289

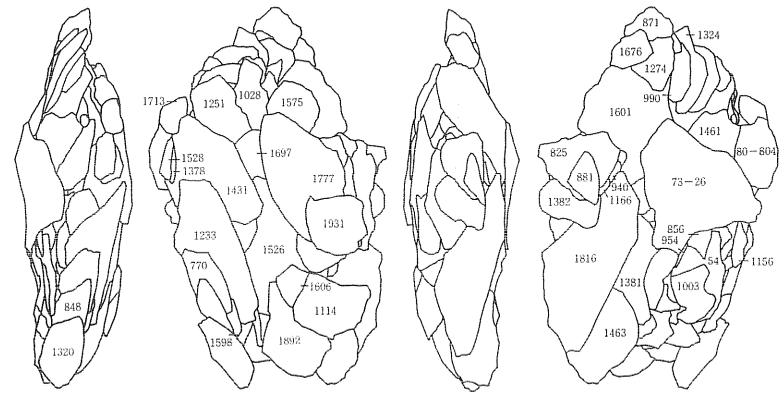
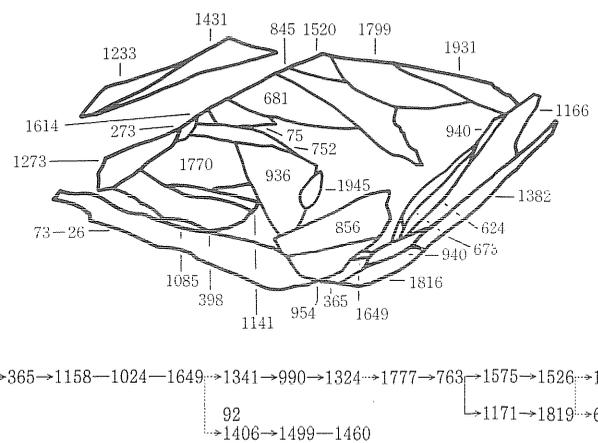
92
1320→848→770→1598→1233→1713→1528→

92
→1378→1431→881→825→1382→26→1816→
→1676→871→1274

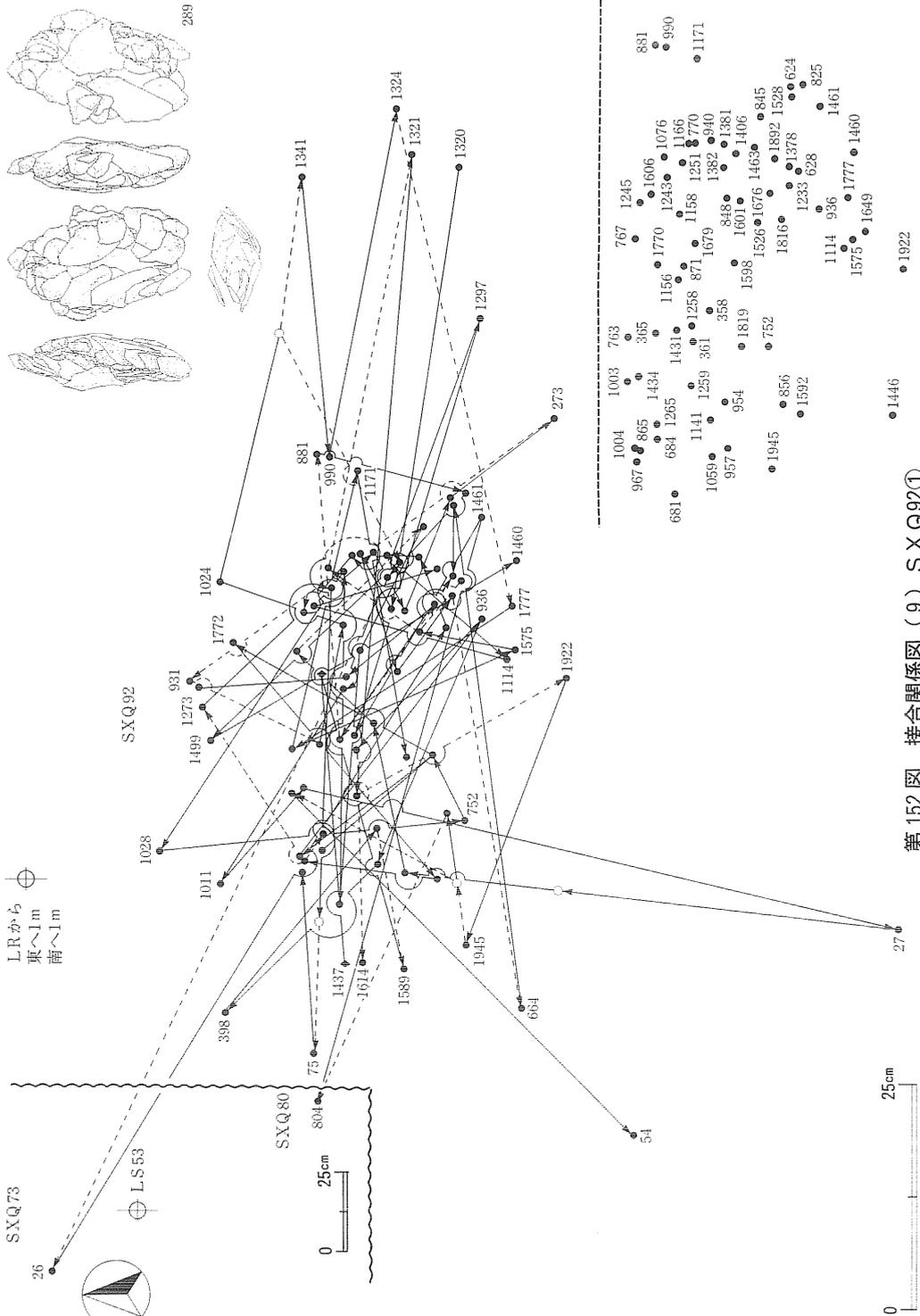
92
→1463→1381→1166→1245→940→1601→624→273→1931→365→1158→1024→1649→1341→990→1324→1777→763→1575→1526→1076→1321→
→1114→1606→1892

92
→1259→1922→664→954→856→80→92→804→1461→1258→1297→1156→1011→1434→27→188→957→358→767→845→1679→681→1251→1028→1592→752→1772→1945→865→1265

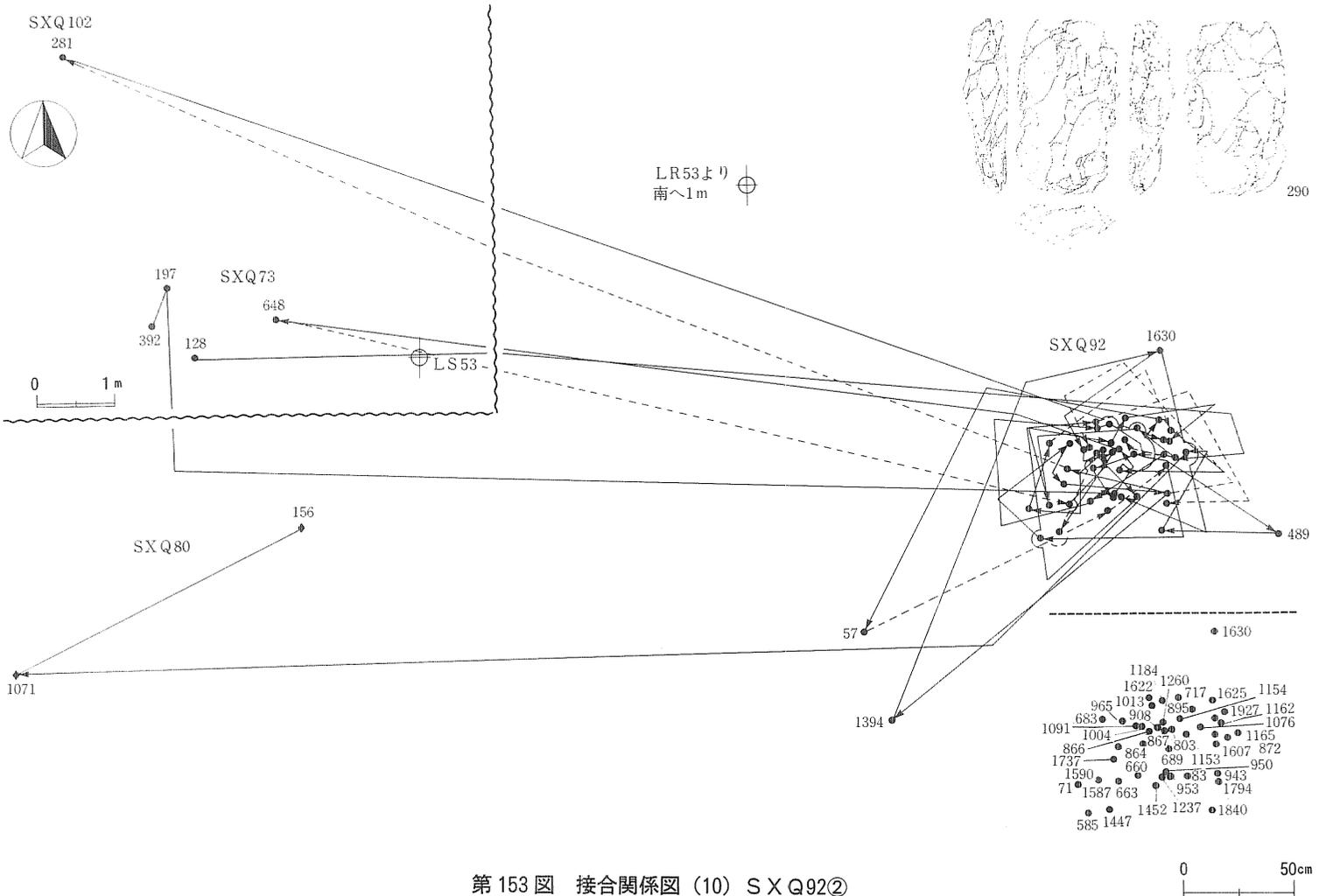
92
→936→1085→398→1141→1589→1770→1437
→361→1614
→361→1614



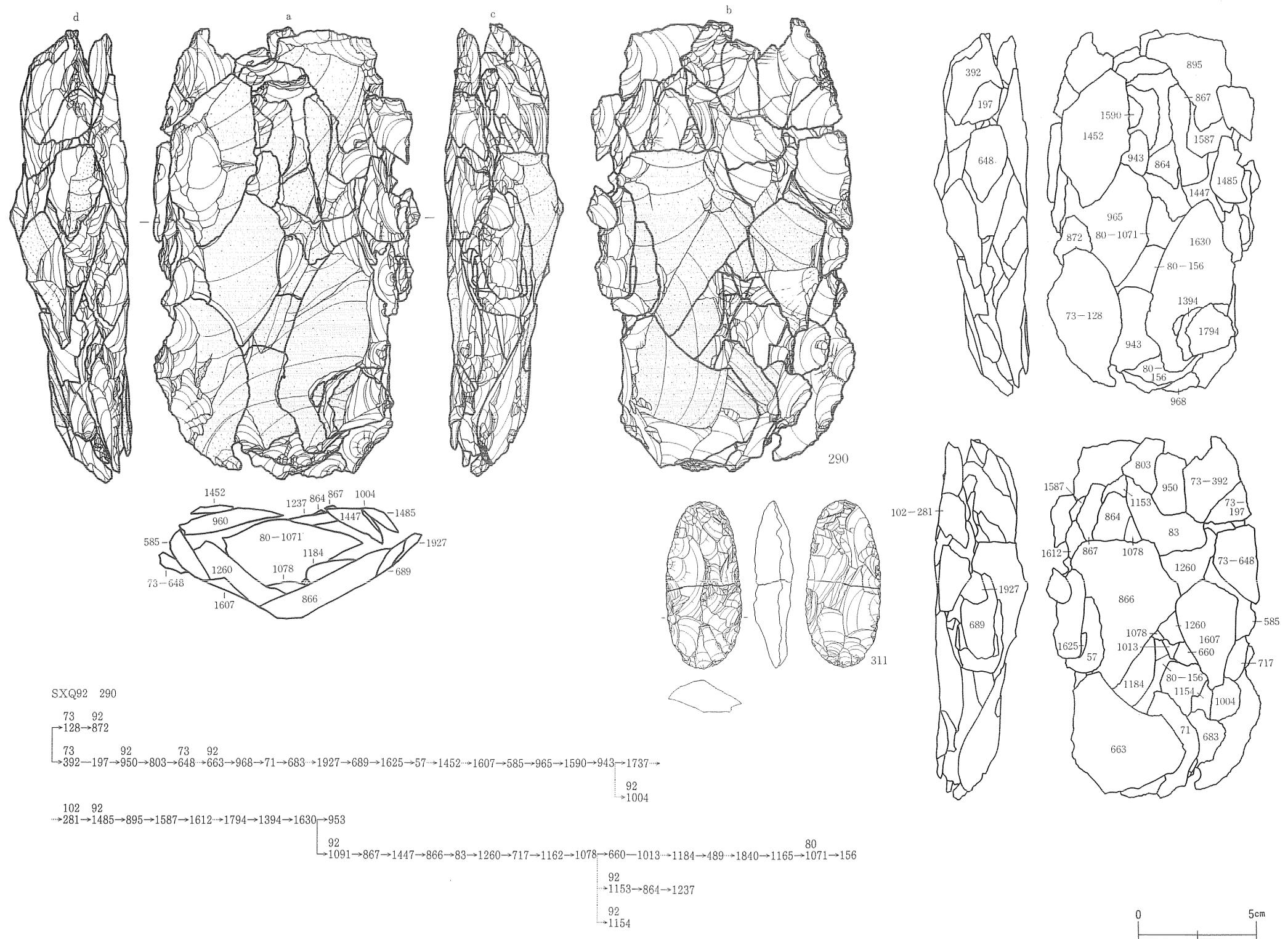
第151図 遺構内出土遺物 (94) SXQ92①



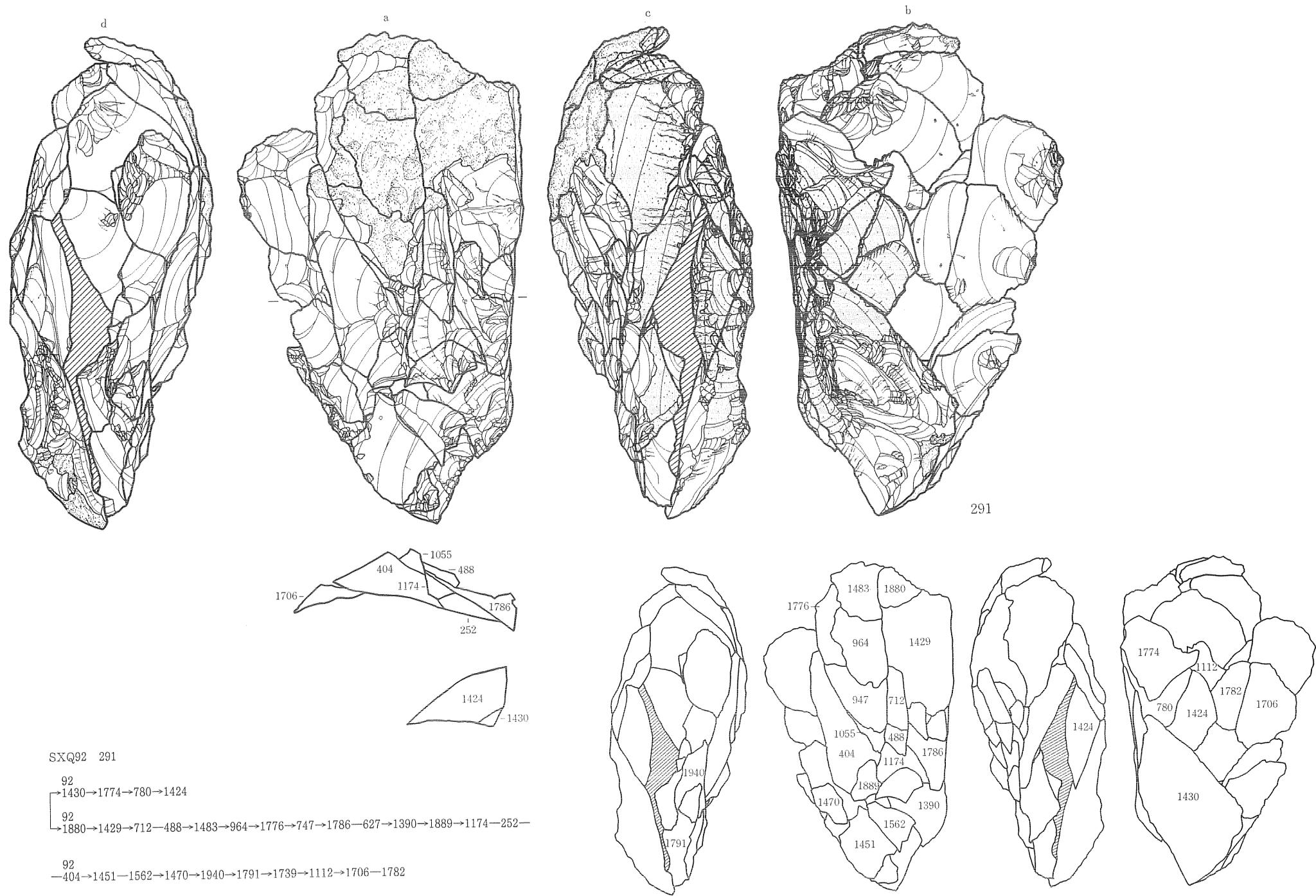
第152図 接合関係図(9) SXQ92①



第153図 接合関係図(10) SXQ92②



第154図 遺構内出土遺物(95) SXQ92②



SXQ92 291

92
 →1430→1774→780→1424

92
 →1880→1429→712→488→1483→964→1776→747→1786→627→1390→1889→1174→252→

92
 →404→1451→1562→1470→1940→1791→1739→1112→1706→1782

第155図 遺構内出土遺物 (96) S X Q92③

部に丁寧な調整がある。286 は薄い半円状の形態で、定形化している。刃部に a・b 両面の調整がある。287 は薄く、両側縁と刃部に丁寧な調整がある。a 面には礫皮面が残る。

削器 (288) 縦長剥片で a 面の左側縁下位には細かな、右側縁には粗い調整がある。

SXQ92 (第150～171 図、巻頭図版 4・8、図版 47～49・51～55・74)

上段で調査区東側 LQ52 区に位置し、表土下約 0.4m の河道 B 堆積層上部で検出。取り上げ総数は 1,963 点で、約長軸 1.5m×短軸 1m の広がりをもつ。この西側の径 0.5m の狭い範囲からは、特に集中して出土した。垂直分布は最大 0.2m で、中央部がやや山成りを示す。遺構は、多量のチップが共伴する石器製作跡である。

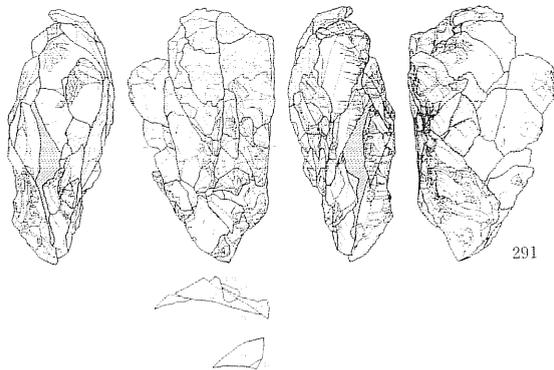
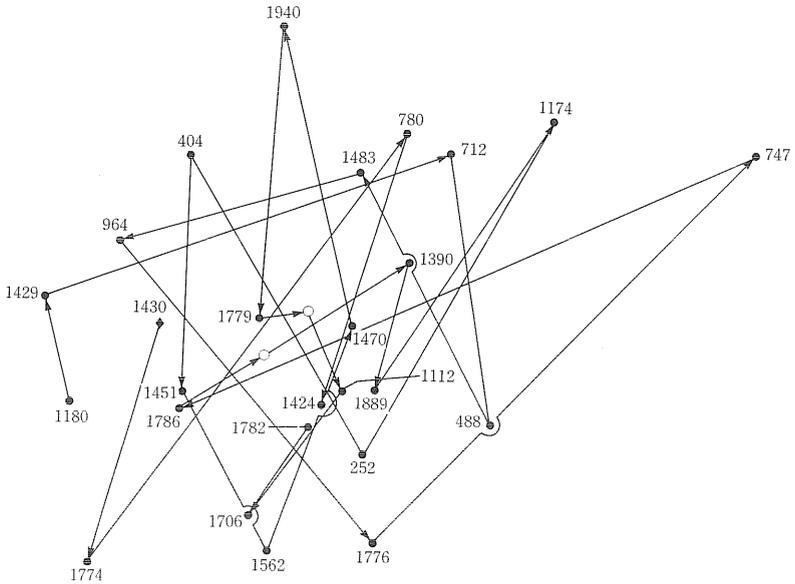
出土した遺物は石器のみで、接合資料・石核・両面調整素材・両面調整石器・石斧・石篋・搔器・削器がある。

接合資料 (289～304) 290 は 311、292 は 310、294 は 309、295 は 308・315、301 は 306 の、両面調整素材や石器に剥片が接合したもの。300・297・304 は、石斧 (317)、石核 (305)、搔器に剥片が接合したもの。291・293・296・298・299・302・303 は、両面調整を意図した剥片接合資料で、291・298 の両側の例とこれ以外の片側がある。

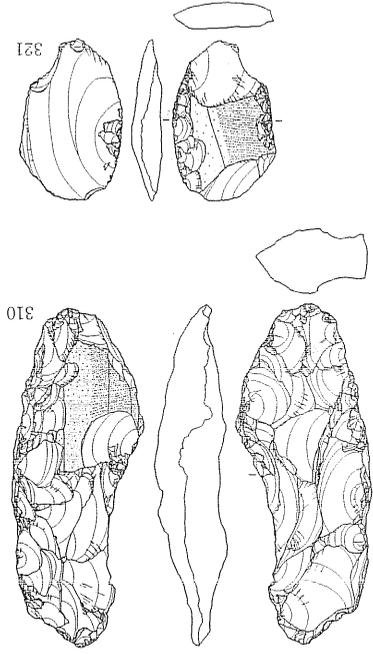
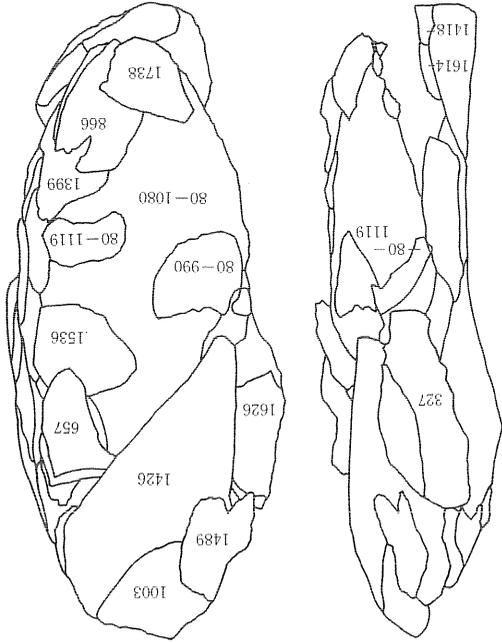
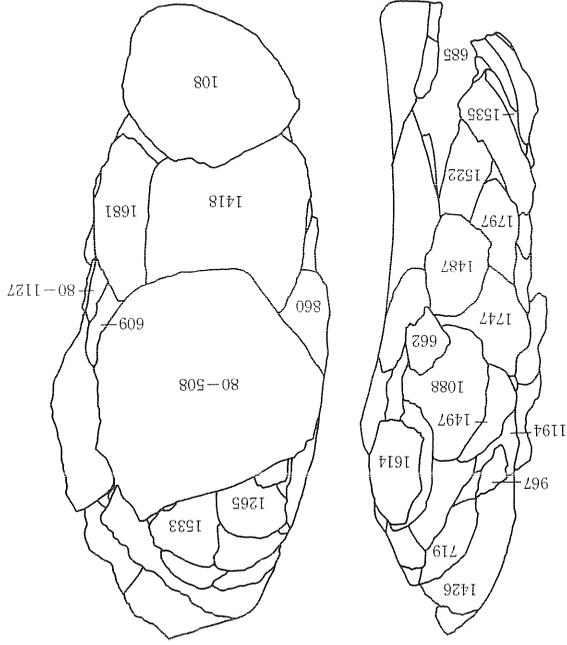
289 は両面に自然面が残り、大きめの河原石を素材にしたことが判る。側縁の交互剝離が、重畳している。石核に当たる 317 は原石に対比して小さく、途中の失敗で当初想定していた大きさが得られなかったと考えられる。290 は b 面が平坦なことから、分割礫を素材にしたものである。b 面上位が分厚く、側縁と上下の縁に交互剝離がある。291 は、細長く分厚い河原石が素材である。c 面と b 面下位の右側縁を平坦に分割し、左右側縁の打面に利用している。分厚い剥片が多い。292 は分厚く扁平で、かつ細長い河原石を素材にしている。c 面はざらついた礫皮面である。ここでは、先に c 面の左右で a・b 面側を調整してから、同面の中央に左右からの薄い剝離を施し、礫皮面を除去している。さらに、交互剝離で稜線を作り出す。293 は、a 面に礫皮面を b 面に摺理面を残した分割礫で、薄く扁平な素材である。上下の端部には、平坦な礫皮面をそのまま残す。294 は断面三角形の河原石を素材にする。c・d 両側縁に調整を施すが、特に d 面では交互剝離が良好。295 は、a 面に礫皮面のある分割礫を素材にしていると考えられる。当初、上端を丸く整えた楕円形の両面調整石器を意図したが、b 面からの折断で断念している。296 は、a 面に自然面が残る厚みのある礫を素材にする。下端に刃部を形成したが、その部分には a 面からの折断がある。297 は、b 面の小さな礫皮面や a 面上位の接合剥片の礫皮面より、僅かに厚い河原石を素材にしたと考えられる。298 は、分厚い楕円形の河原石を素材にする。礫皮面の a 面左の側縁は僅かに角張り、その角度を打面に利用している。剥片は分厚いものが多い。299 は、すべて礫皮面のある剥片の接合資料である。薄く小さいものが多い。300 は横長剥片を素材にしており、a 面に礫皮面がある。301 も横長剥片を素材に



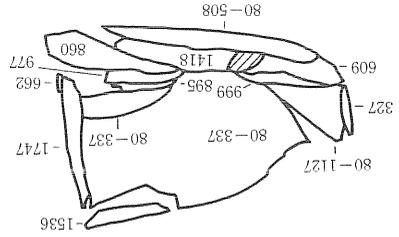
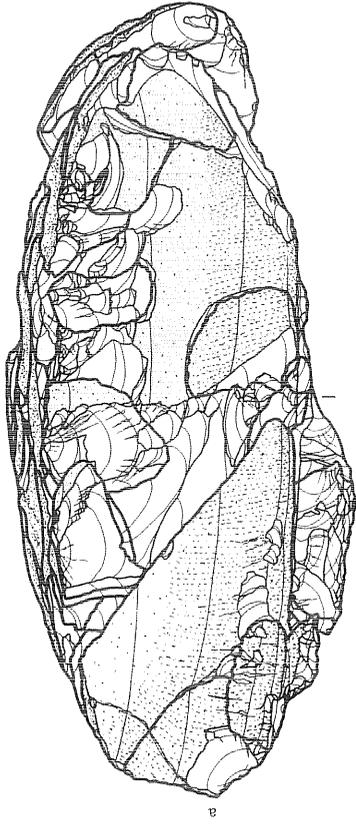
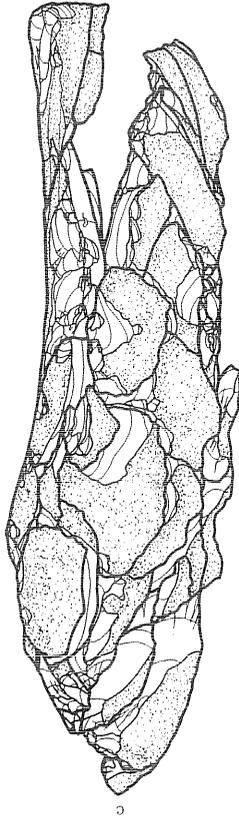
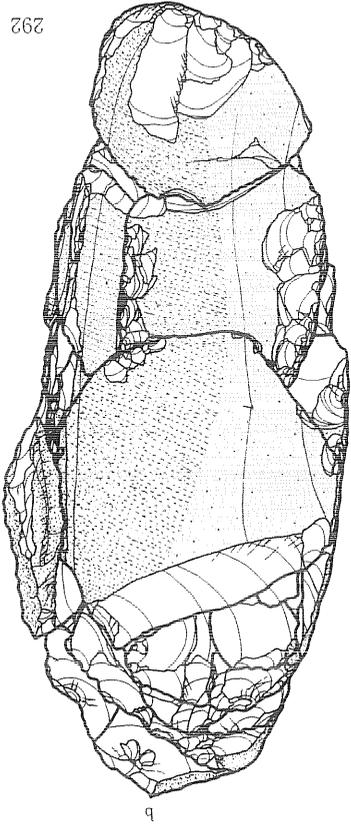
LR53から
東へ1m
南へ1m



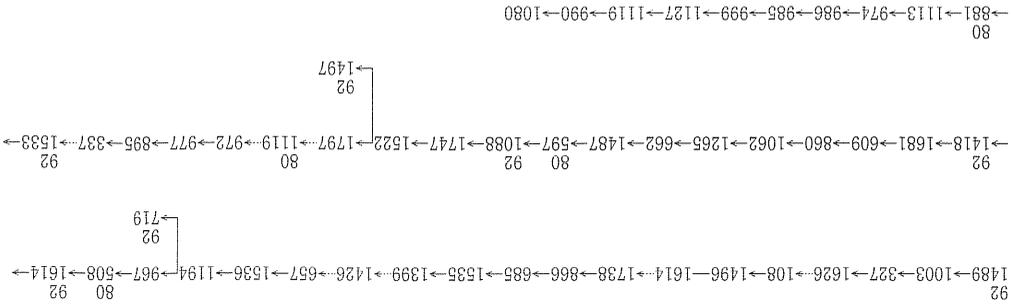
第156図 接合関係図(11) SXQ92③



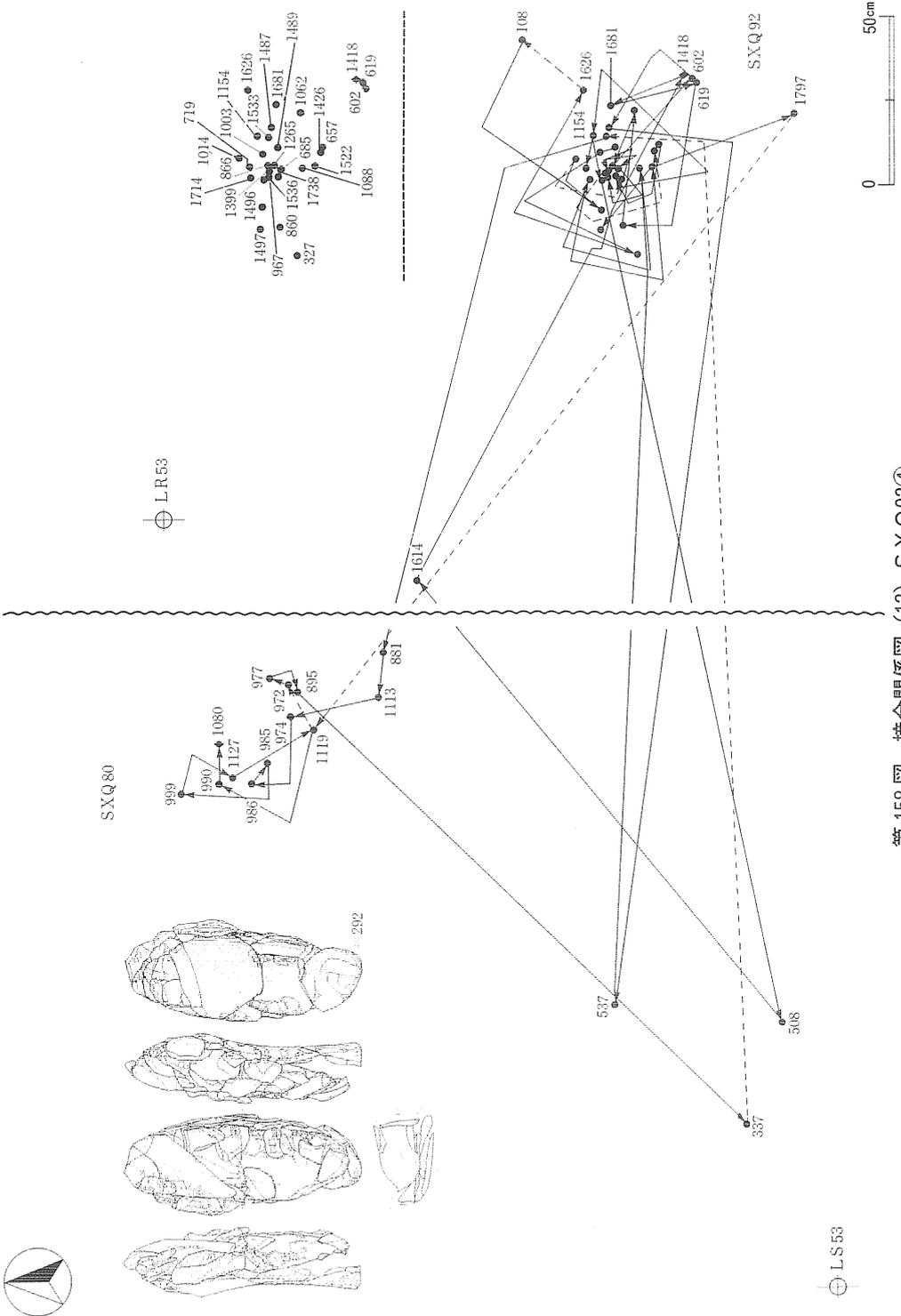
292



SXQ92 292



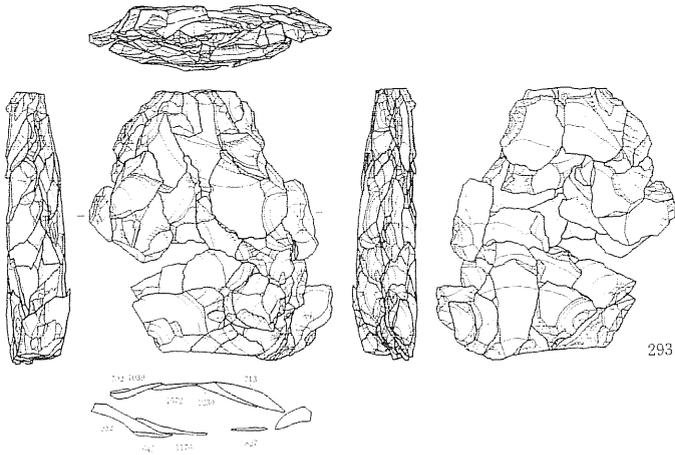
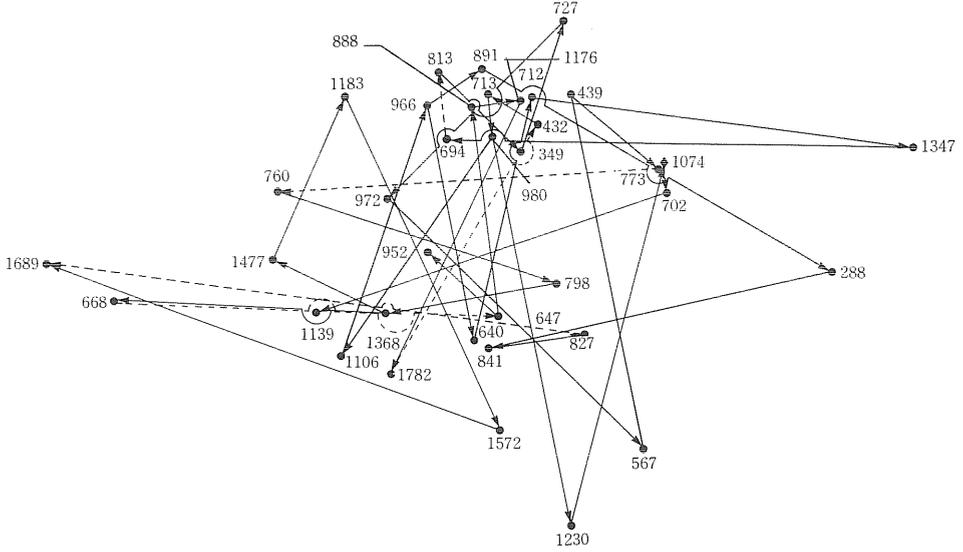
第157図 遺構内出土遺物(97) SXQ92④



第158図 接合関係図(12) SXQ92④

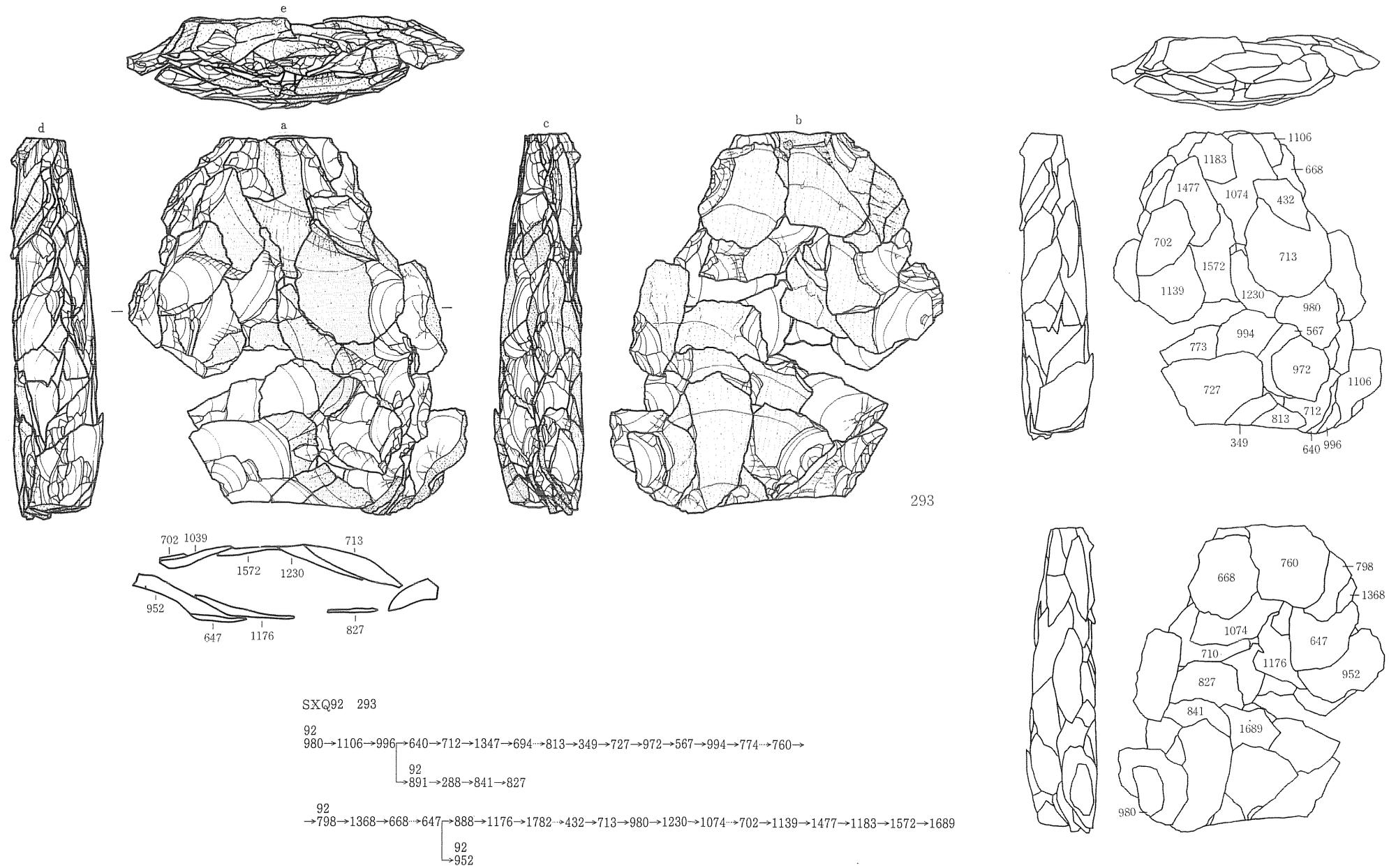


⊕
LR53から
東へ1m
南へ1m

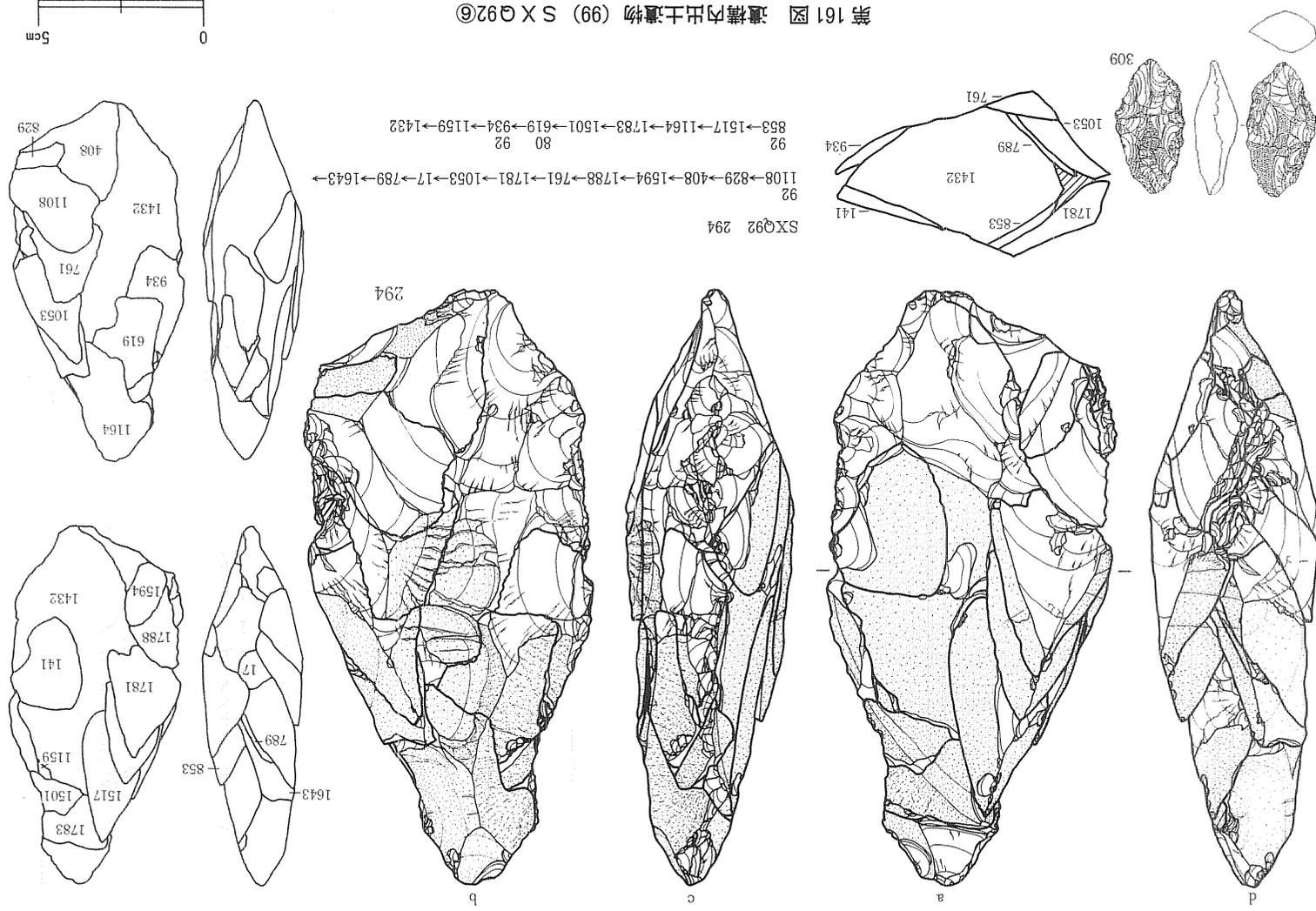


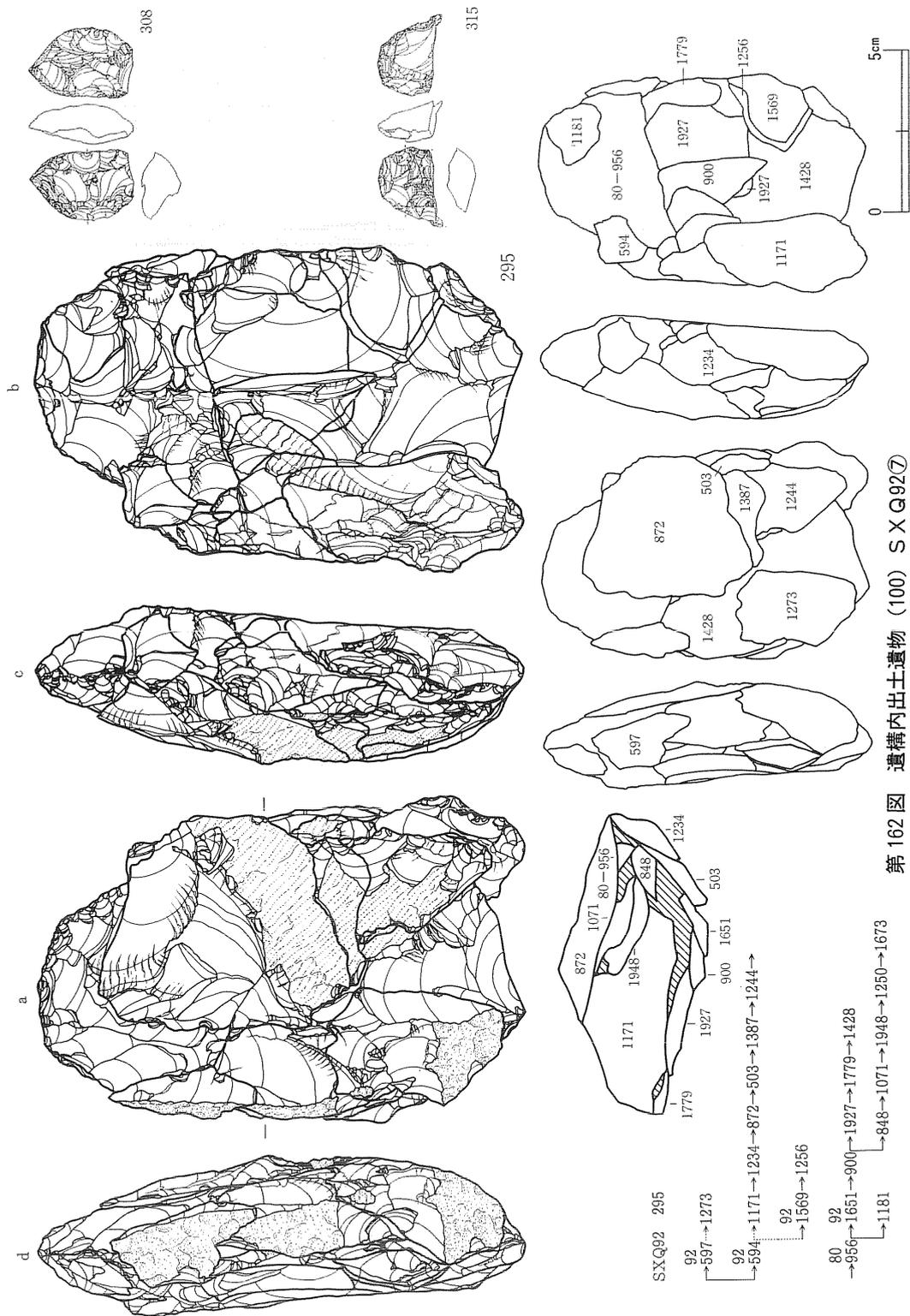
0 25cm

第159図 接合関係図(13) SXQ92⑤

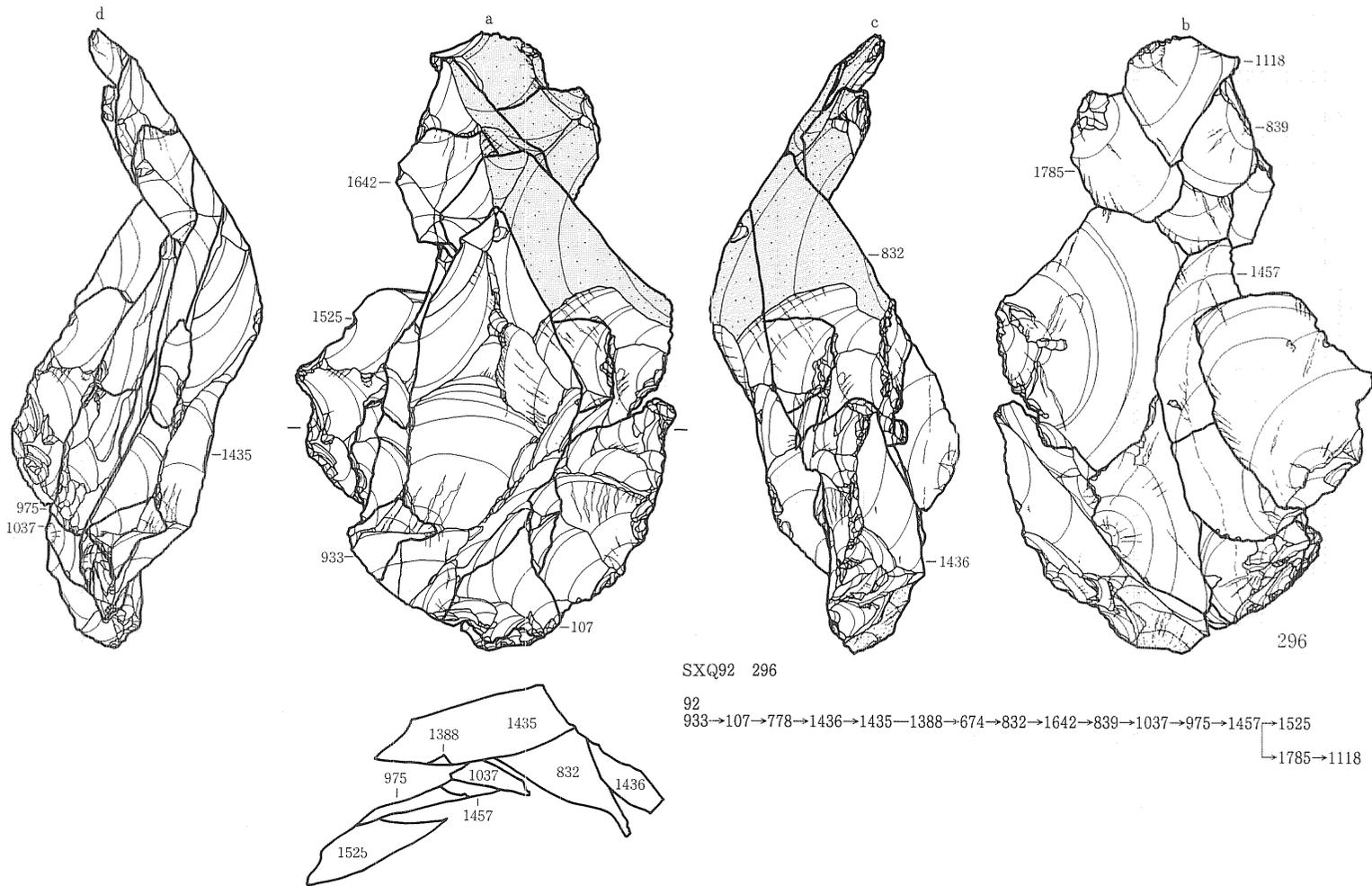


第160図 遺構内出土遺物(98) S X Q92⑤





第162図 遺構内出土遺物 (100) SXQ92⑦

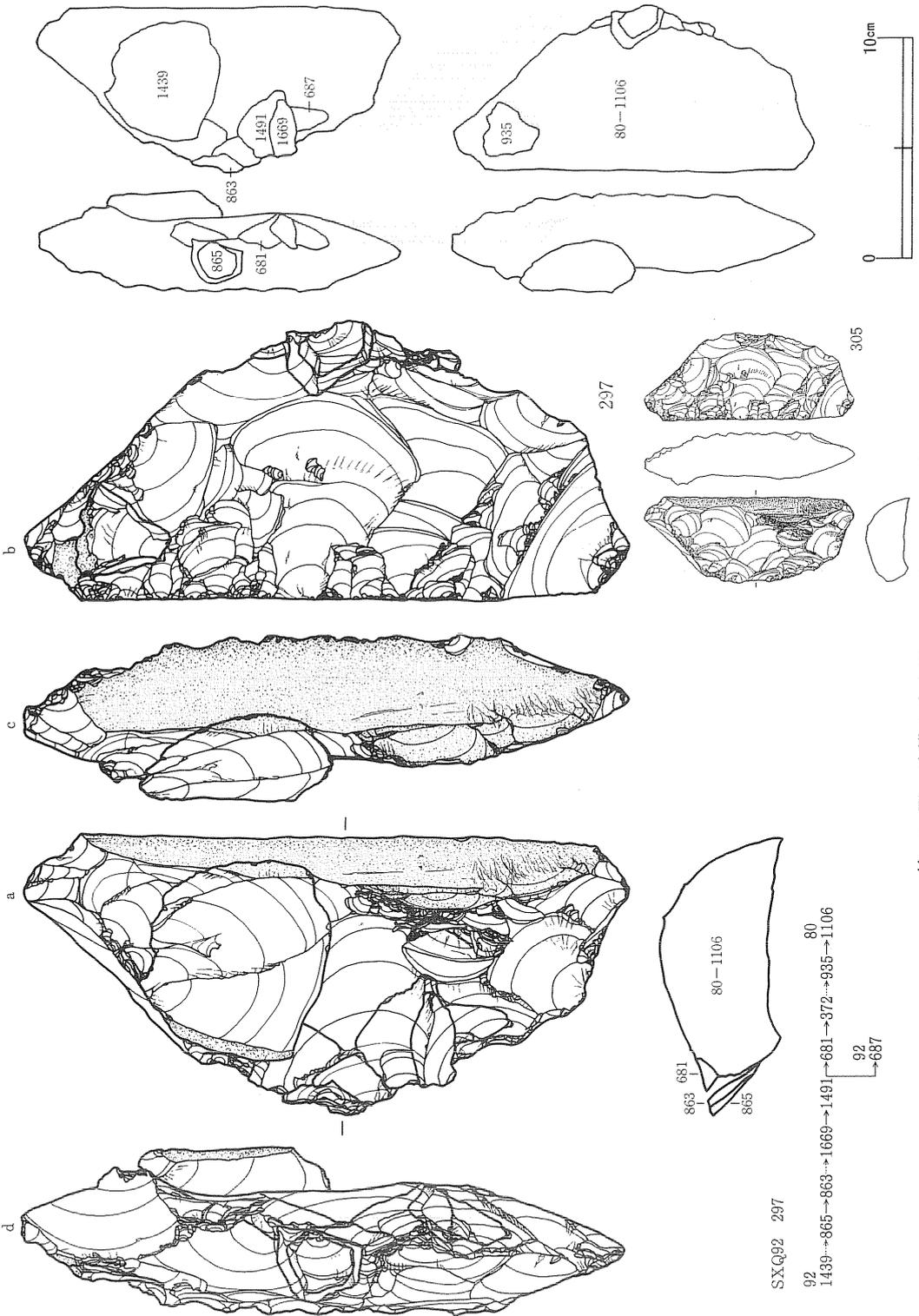


SXQ92 296

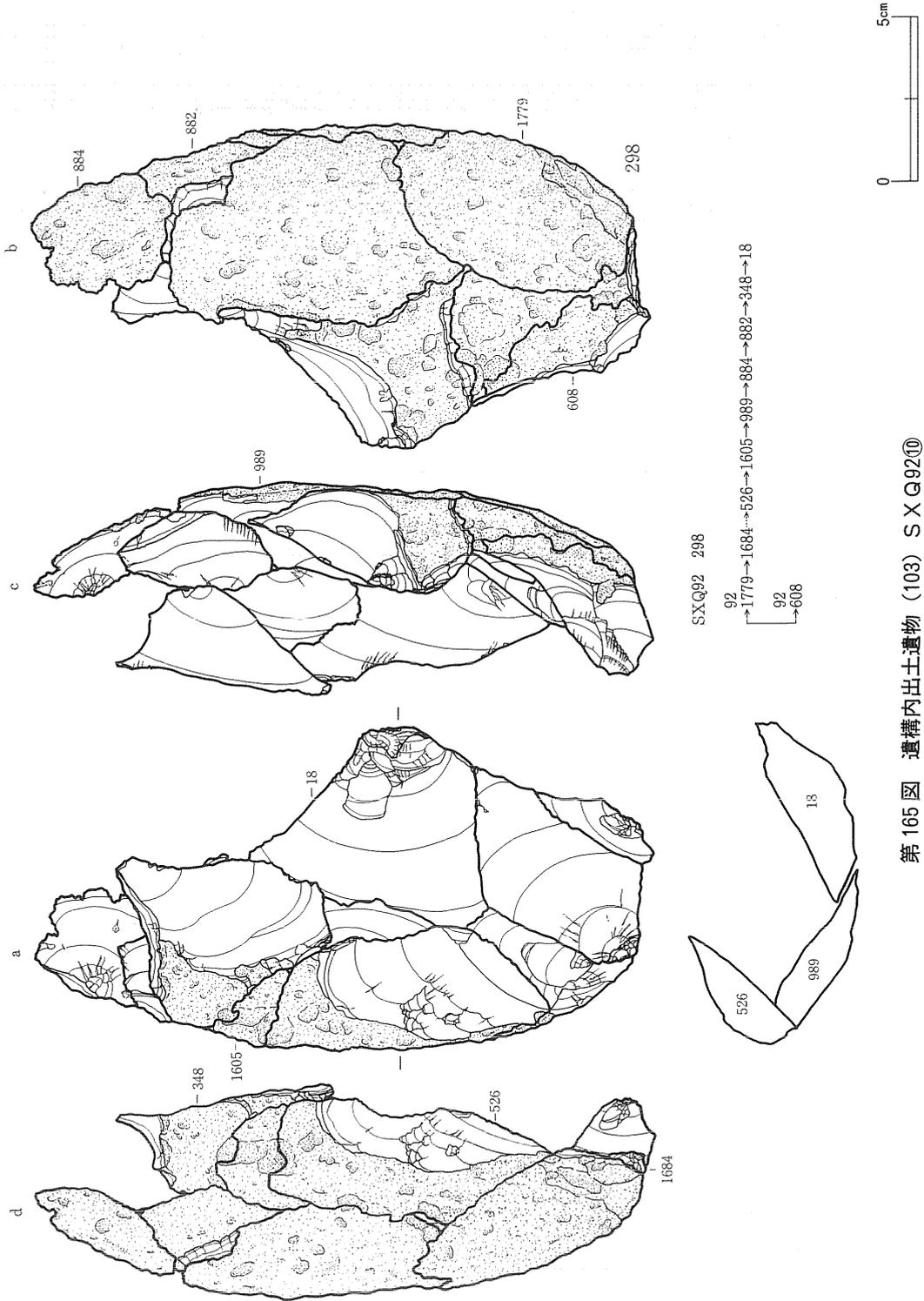
92
 933→107→778→1436→1435→1388→674→832→1642→839→1037→975→1457→1525
 1785→1118

第 163 図 遺構内出土遺物 (101) S X Q92⑧

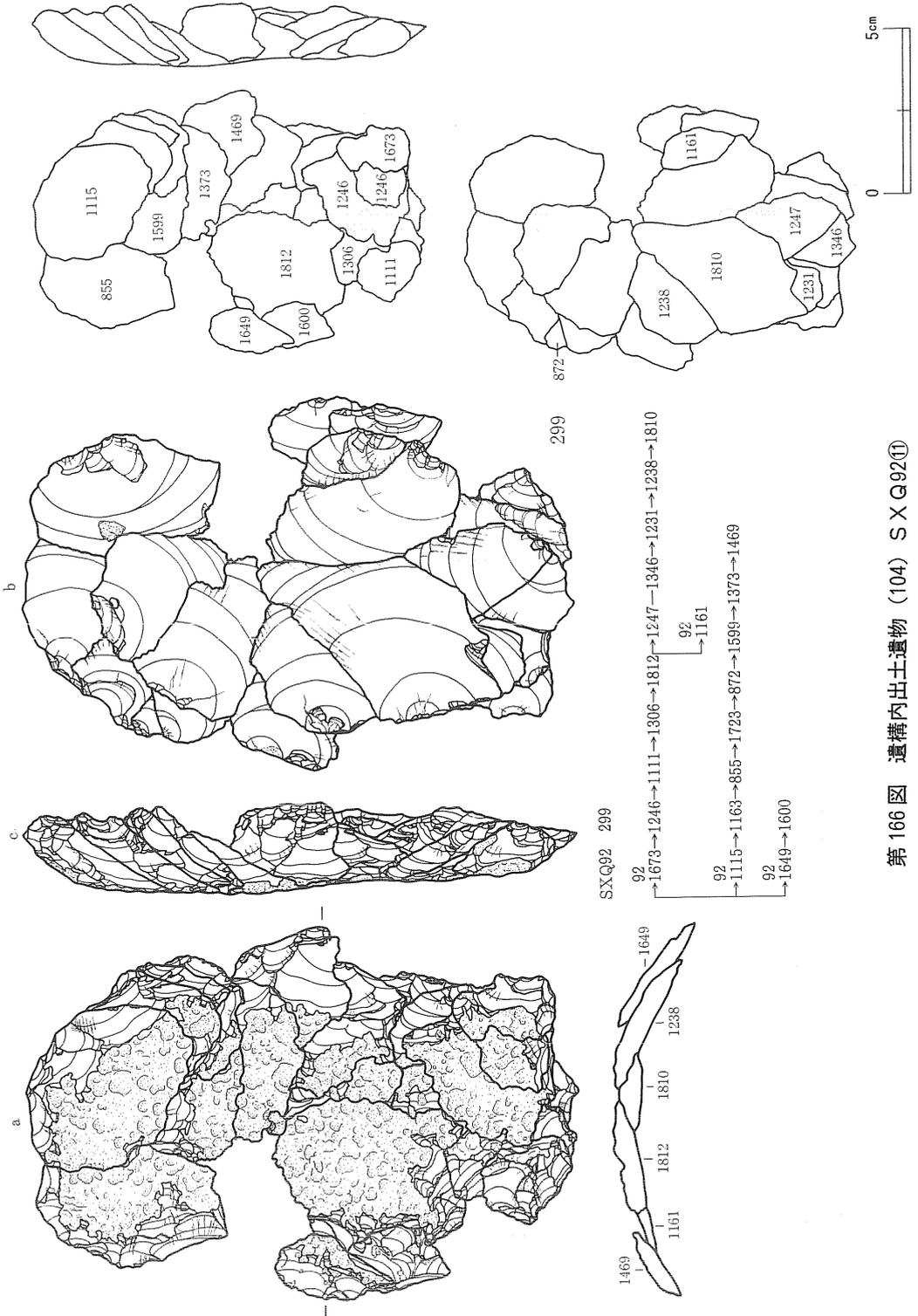
0 5cm



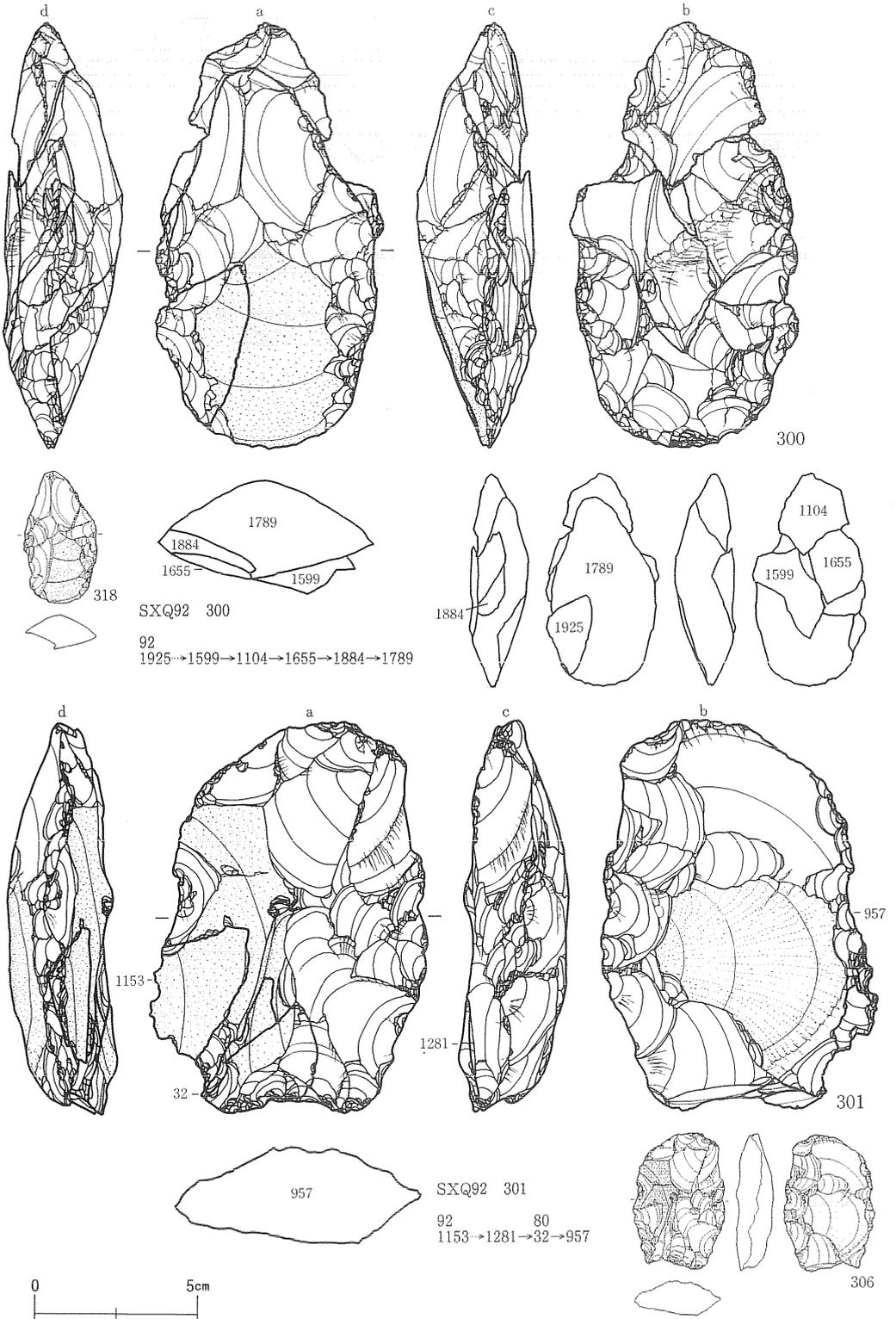
第164図 遺構内出土遺物(102) SXG92⑨



第165図 遺構内出土遺物 (103) SXQ92⑩

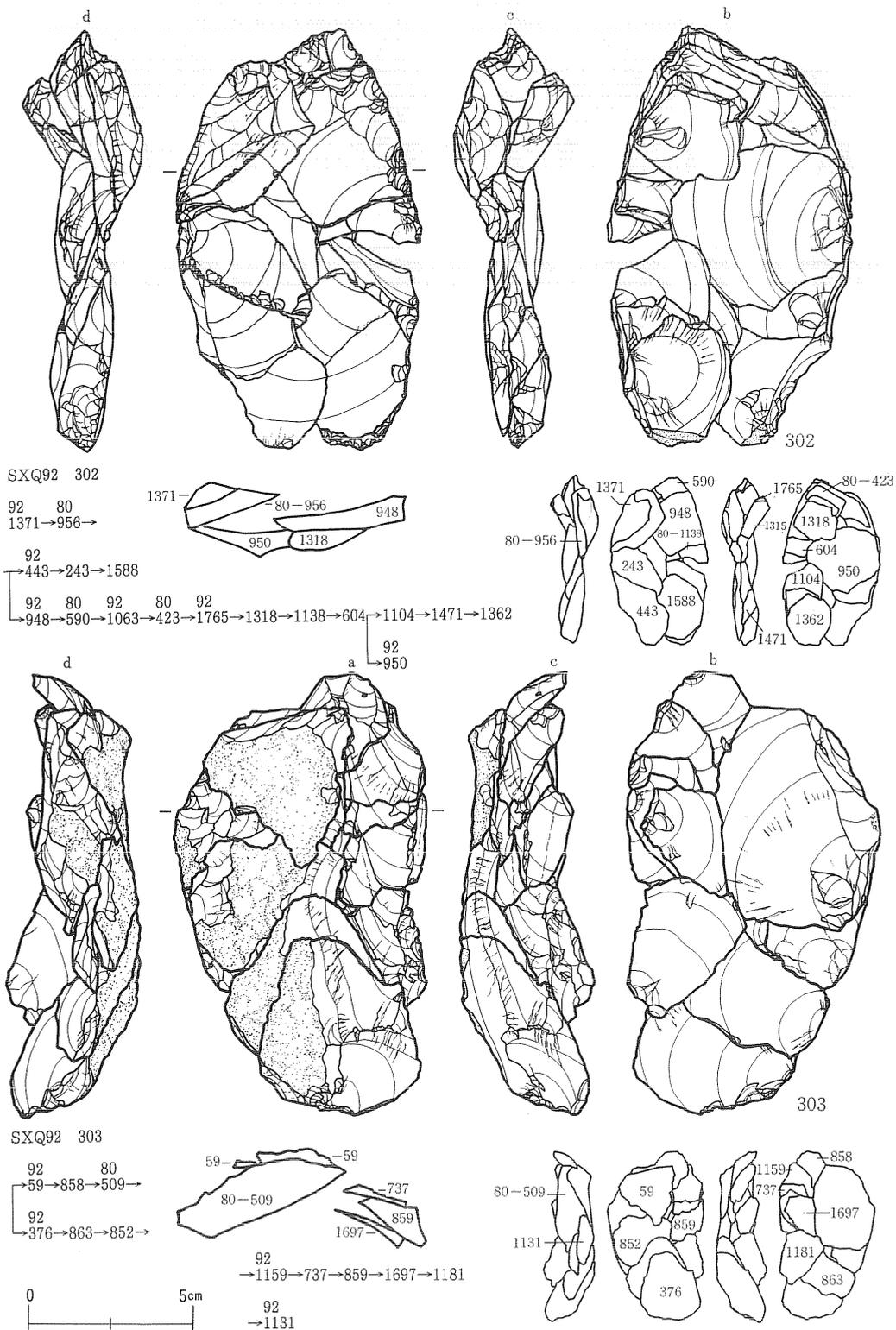


第166図 遺構内出土遺物 (104) SX Q92①

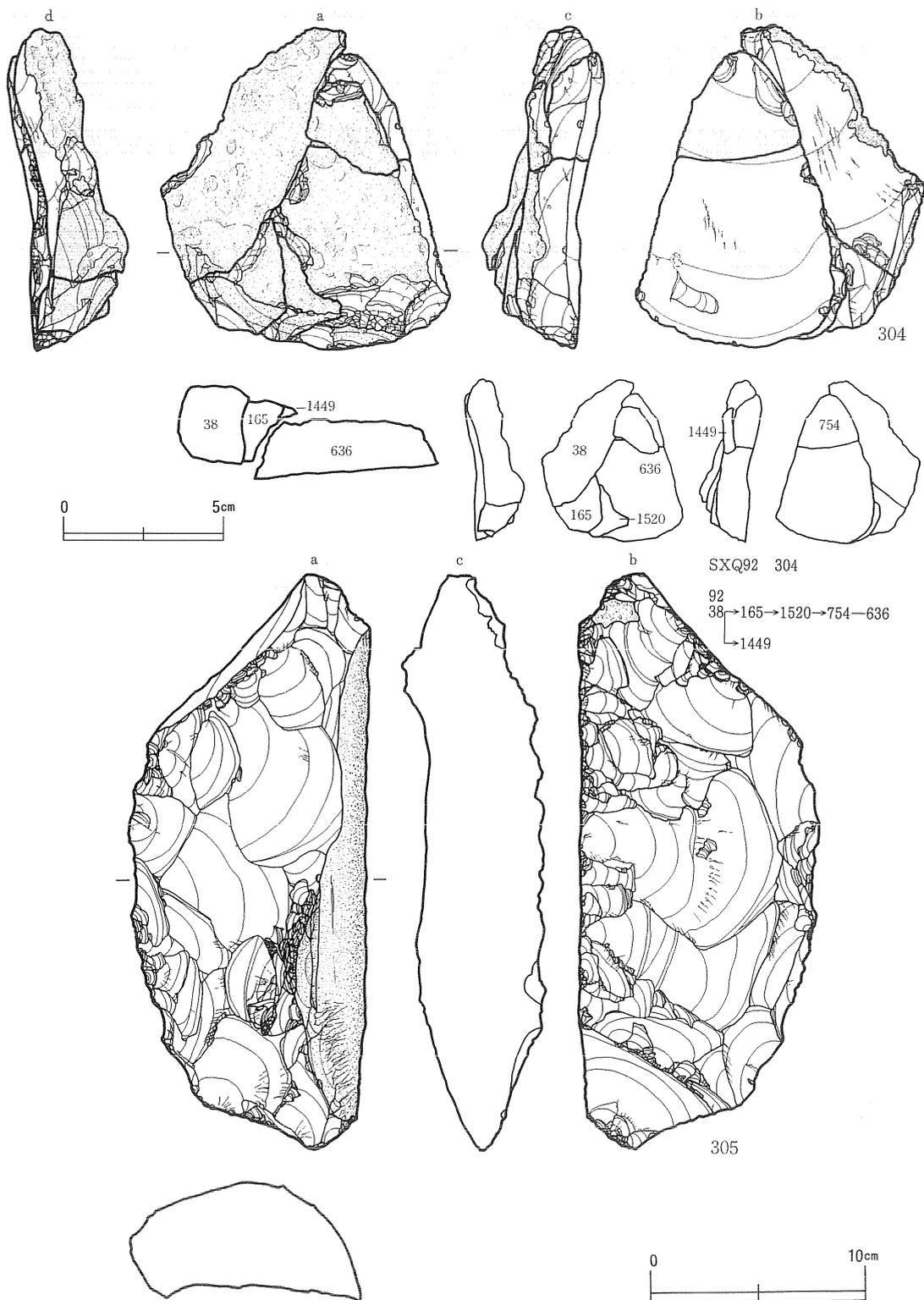


第167図 遺構内出土遺物 (105) S X Q92⑫

第4章 調査の記録

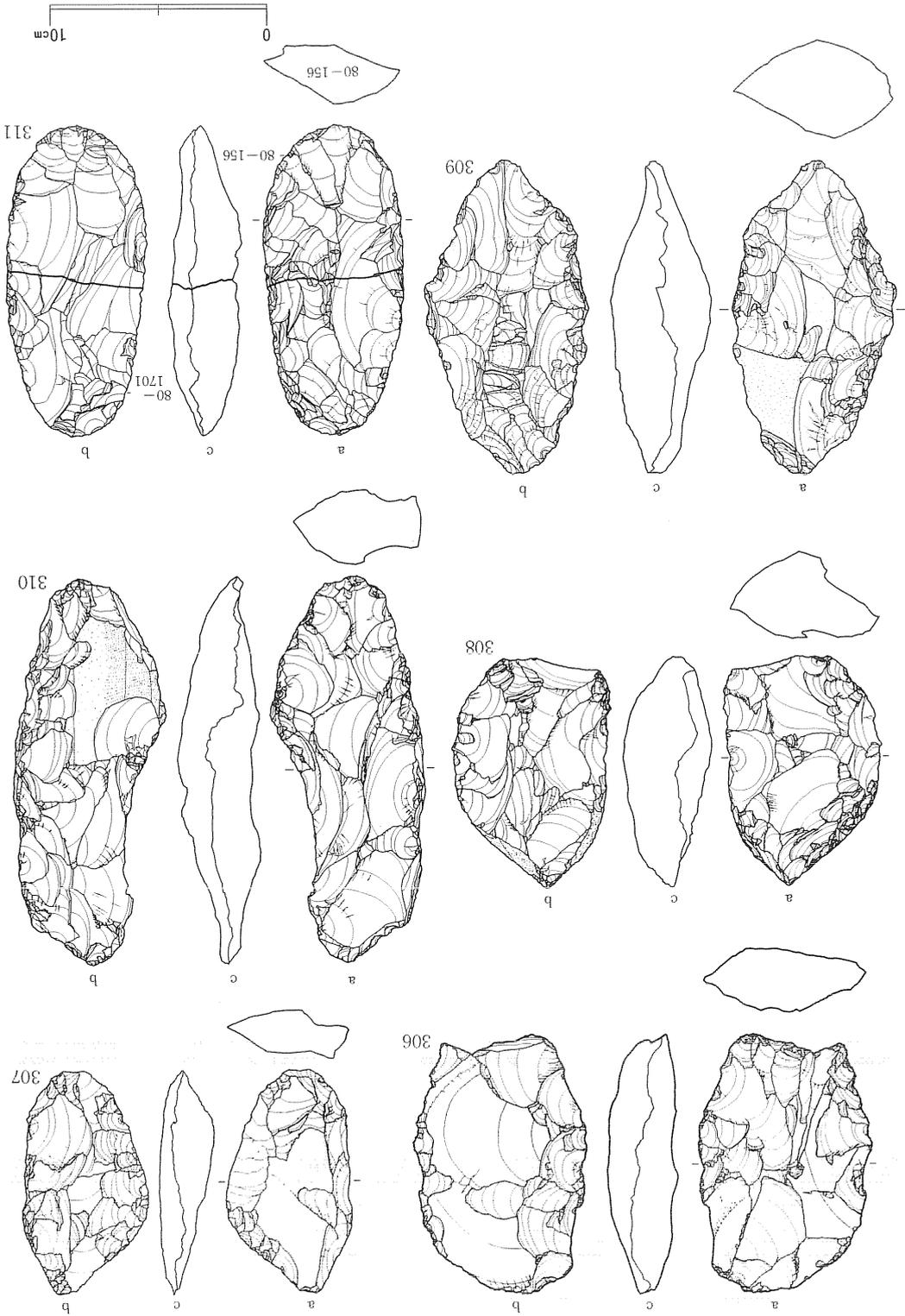


第168図 遺構内出土遺物 (106) S X Q92⑬

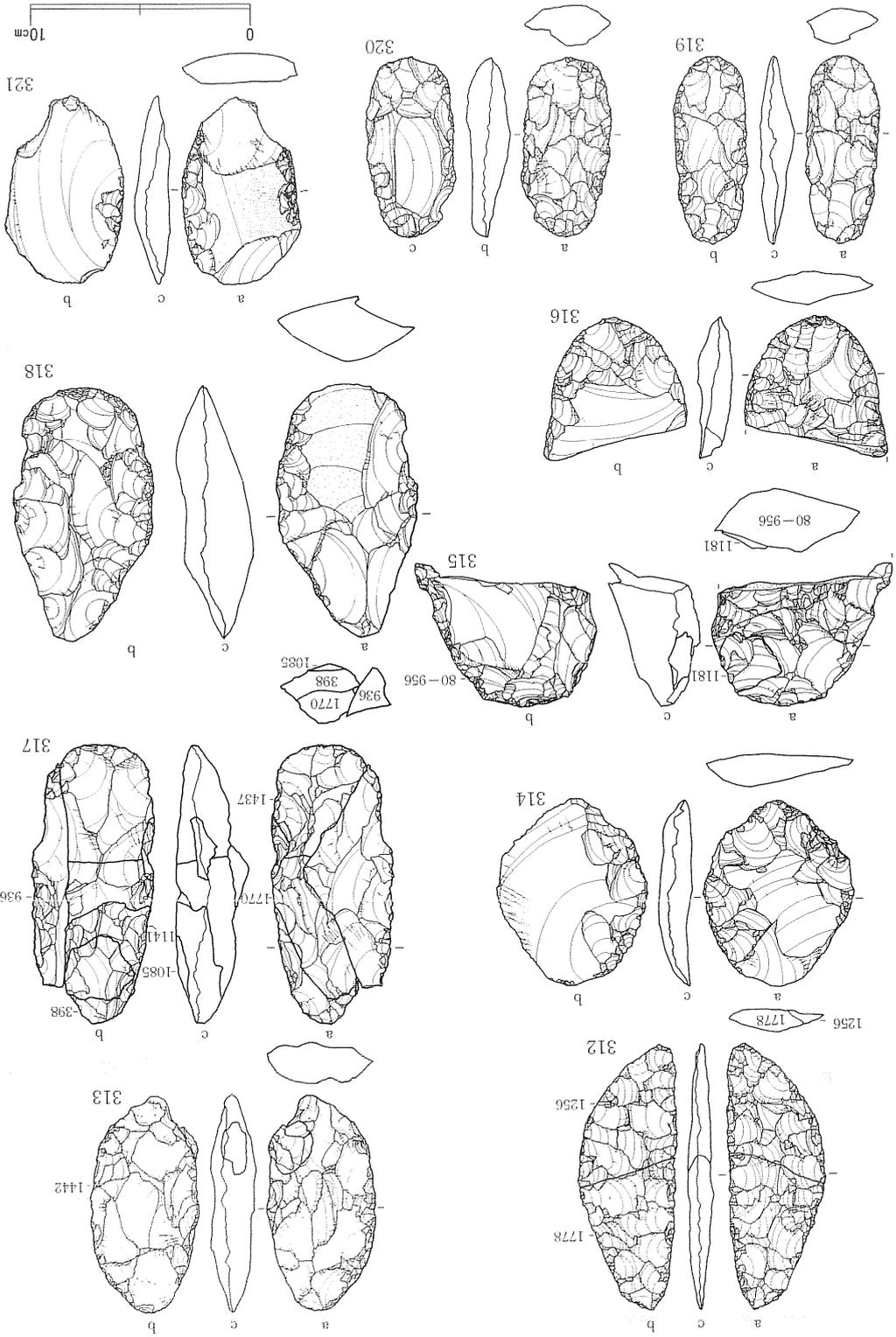


第169図 遺構内出土遺物 (107) S X Q92⑭

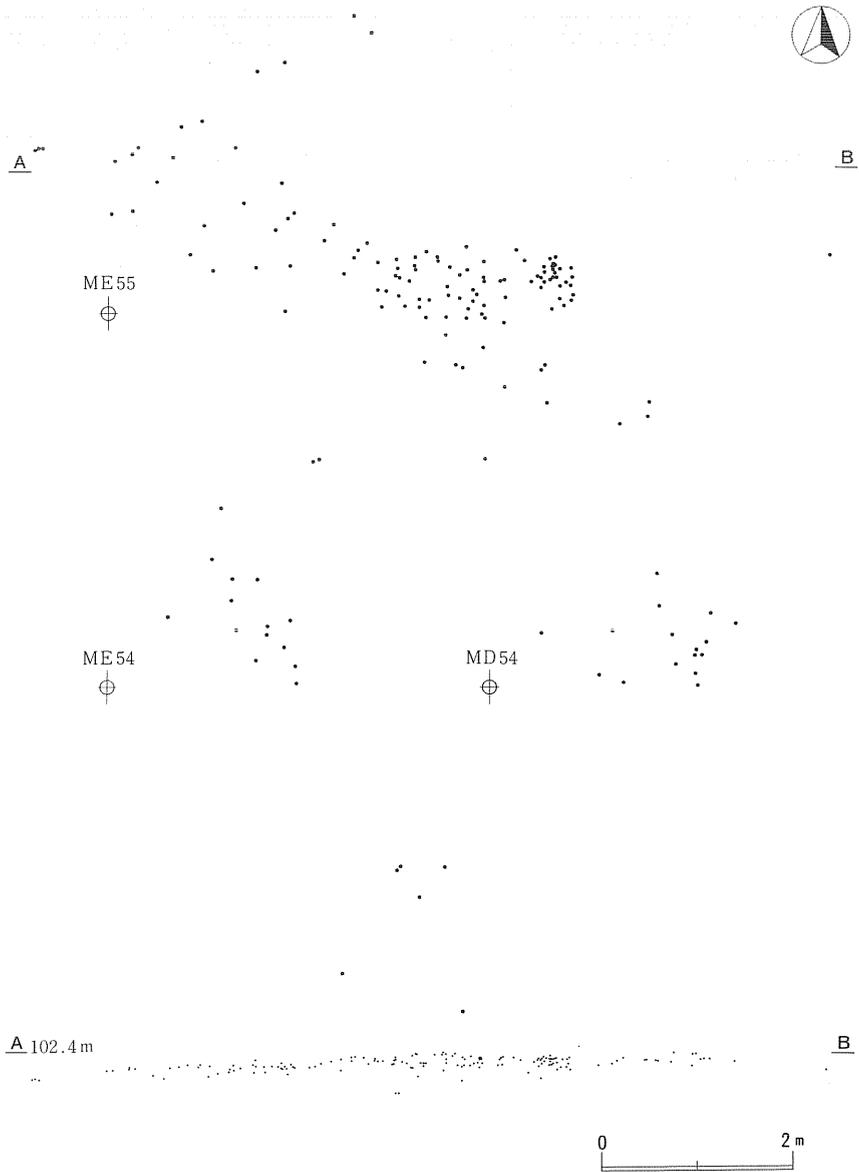
第170図 遺構内出土遺物 (108) S X Q92⑮



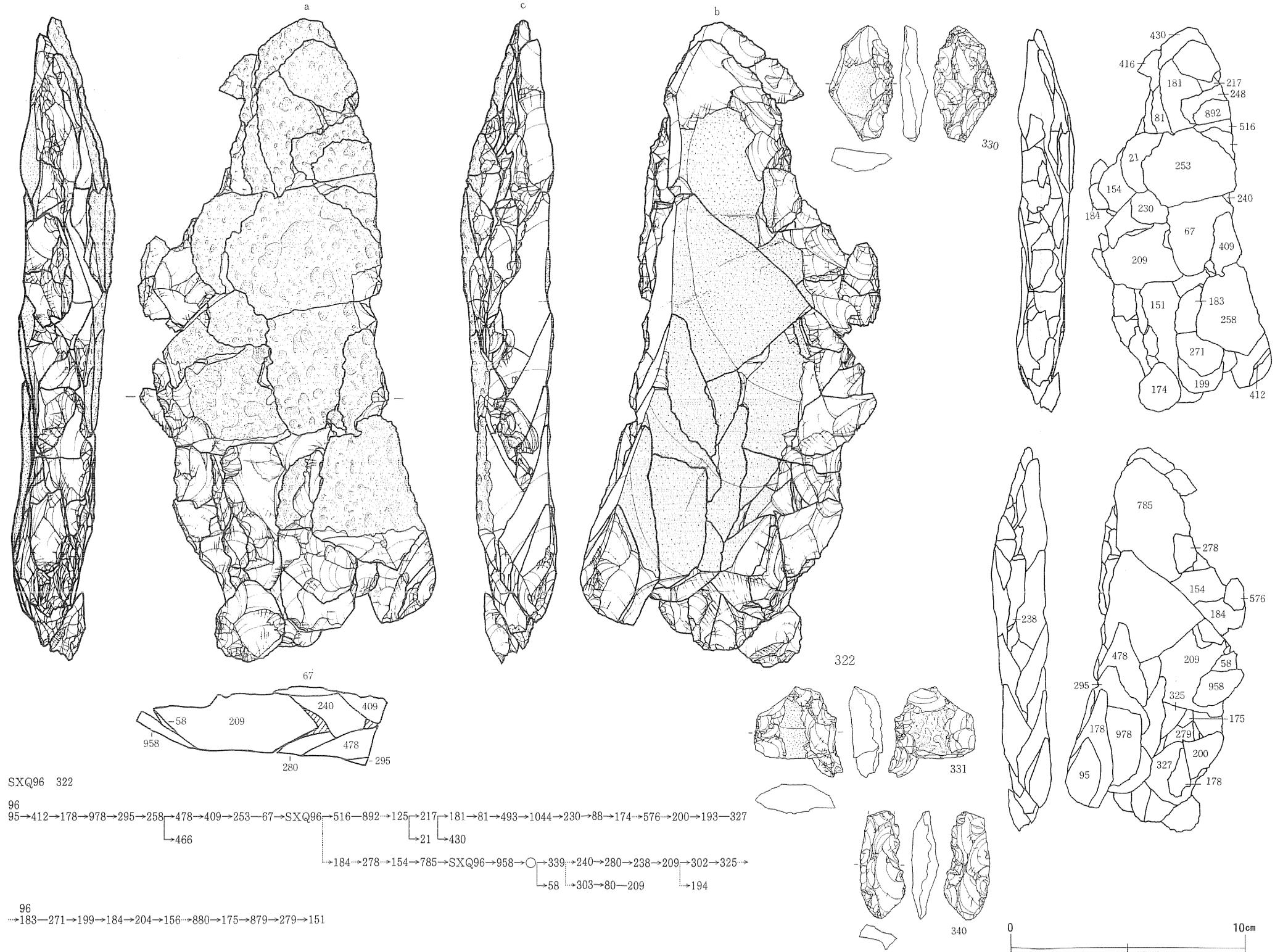
第171図 遺構内出土遺物 (109) S X Q92⑩



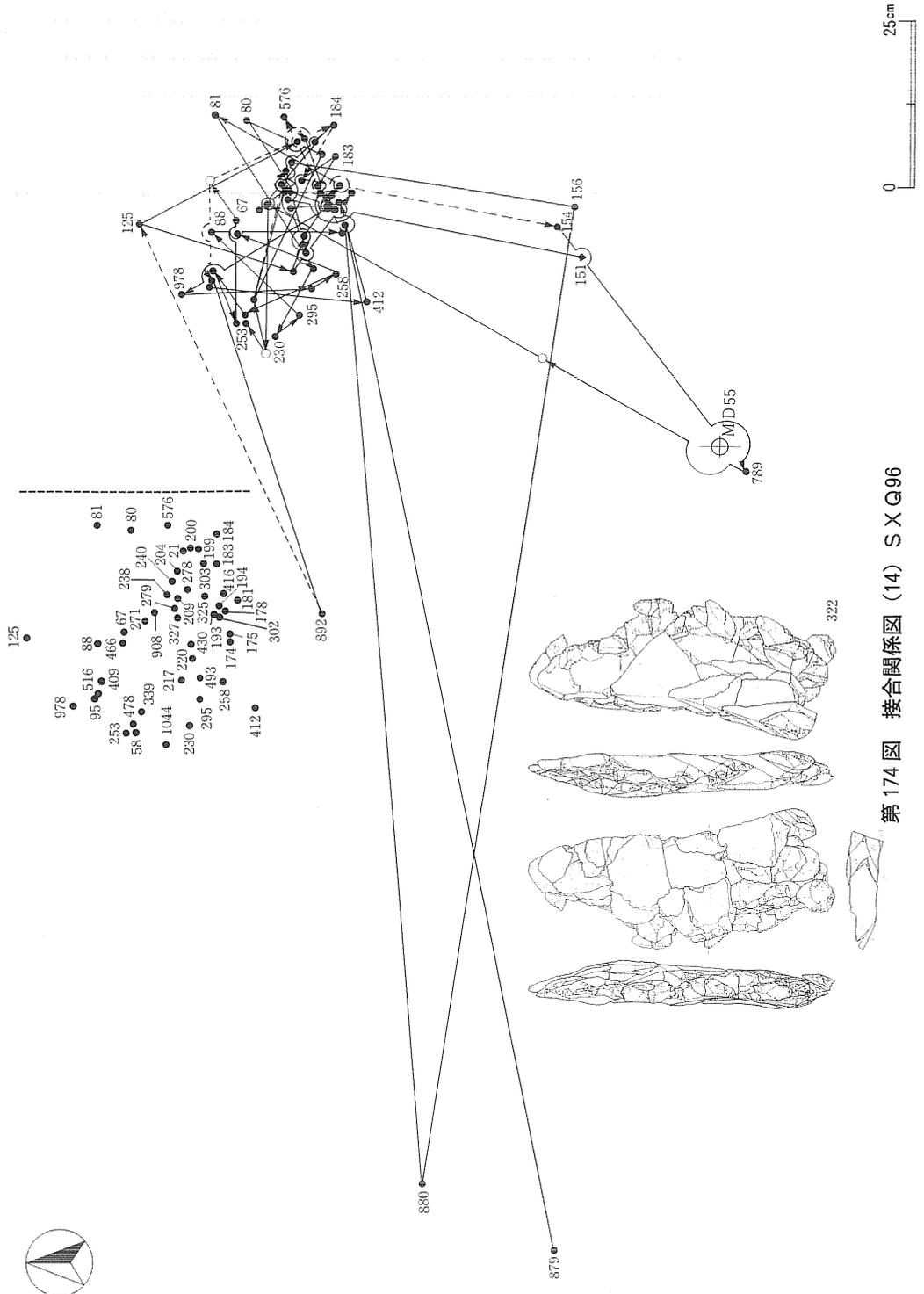
第1節 縄文時代の検出遺構とその遺物



第 172 図 石器集中部 (15) S X Q96



第173図 遺構内出土遺物 (110) SXQ96①



第174図 接合関係図(14) SXG96

して、b面に摂理面を残す。302はb面に平坦な自然面の一部を残す。303はa面の左側縁に打面を形成し、下から上へ連続した剝離がある。304は礫皮面のある剝片が接合している。

石核(305) a面左側縁やb面左側縁で、多くの剝片を得ていることから石核に分類した。しかし、b面右側縁の調整より、石核から両面調整素材に転化した可能性がある。

両面調整素材(306~310) 306は301の石核。a・bの両側縁に粗い調整がある。a面に自然面を残す。307は横長剝片を素材にしている。b面左側縁中央の調整は、a面右中央の剝離と対応して、鋭い刃部を作る。308は295の石核で、a・b両側縁に粗い調整がある。309は294の石核で、分厚い木の葉形を呈す。a・b両面に自然面を残す。310は292の石核。a面右上位が大きく抉れた形で、全体として粗い調整がある。

両面調整石器(311~316) 311は290の石核。楕円形の整った形で、上下の端部を丸く仕上げる。石斧を意図した可能性がある。a面からの折断がある。312は扁平で薄く、a面右側縁が直線的な半月状を呈す。a・b両側縁には丁寧な調整を施すが、a面からの折断がある。313は、左右非対称形でa・b両側縁に調整があり、a面右側縁に細かく丁寧な剝離を施す。小さな1片の破片が接合する。314は横長剝片を素材にし、a面の左側縁と同右側縁の表裏に調整がある。搔器にすべきかもしれない。315は295の石核に当たり、両面調整石器の片割れである。316は縦長剝片で、打点を残す両面に調整がある。a面からの折断がある。

石斧(317・318) 317は289の石核。細かい短冊形を呈すが、刃部は丸く基部はやや尖りぎみである。製作途中の刃部は、一時直刃状を呈し見事な両刃に整えている。318は300の石核。刃部は丸く鋭角な両刃を呈すが、a面では自然面をそのまま利用している。両面調整石器の可能性もある。

石篋(319・320) 小型で細長い楕円形。刃部は丸く鋭角で、石斧に分類すべきかもしれない。全体がやや分厚い楕円形。a面の上半と刃部の一部に自然面が残る。

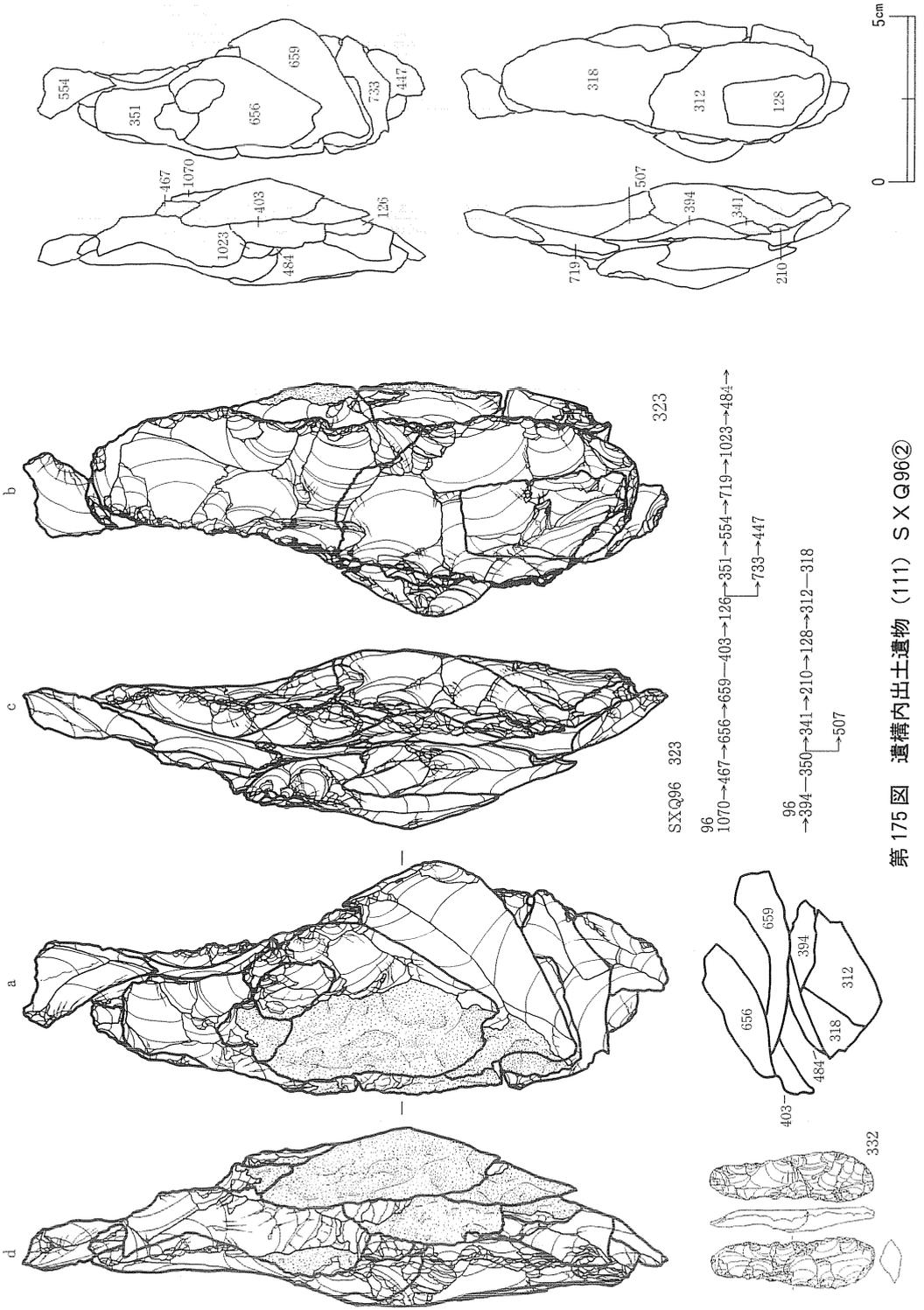
搔器(304) 304の片割れで、二等辺三角形の底辺部を刃部として加工。a面右側縁は剝離面のままで、同左側縁には調整がある。

削器(321) 292の1つで、横長剝片のa面両側縁とb面左側縁に調整がある。c面の側縁は鋭角に仕上がる。

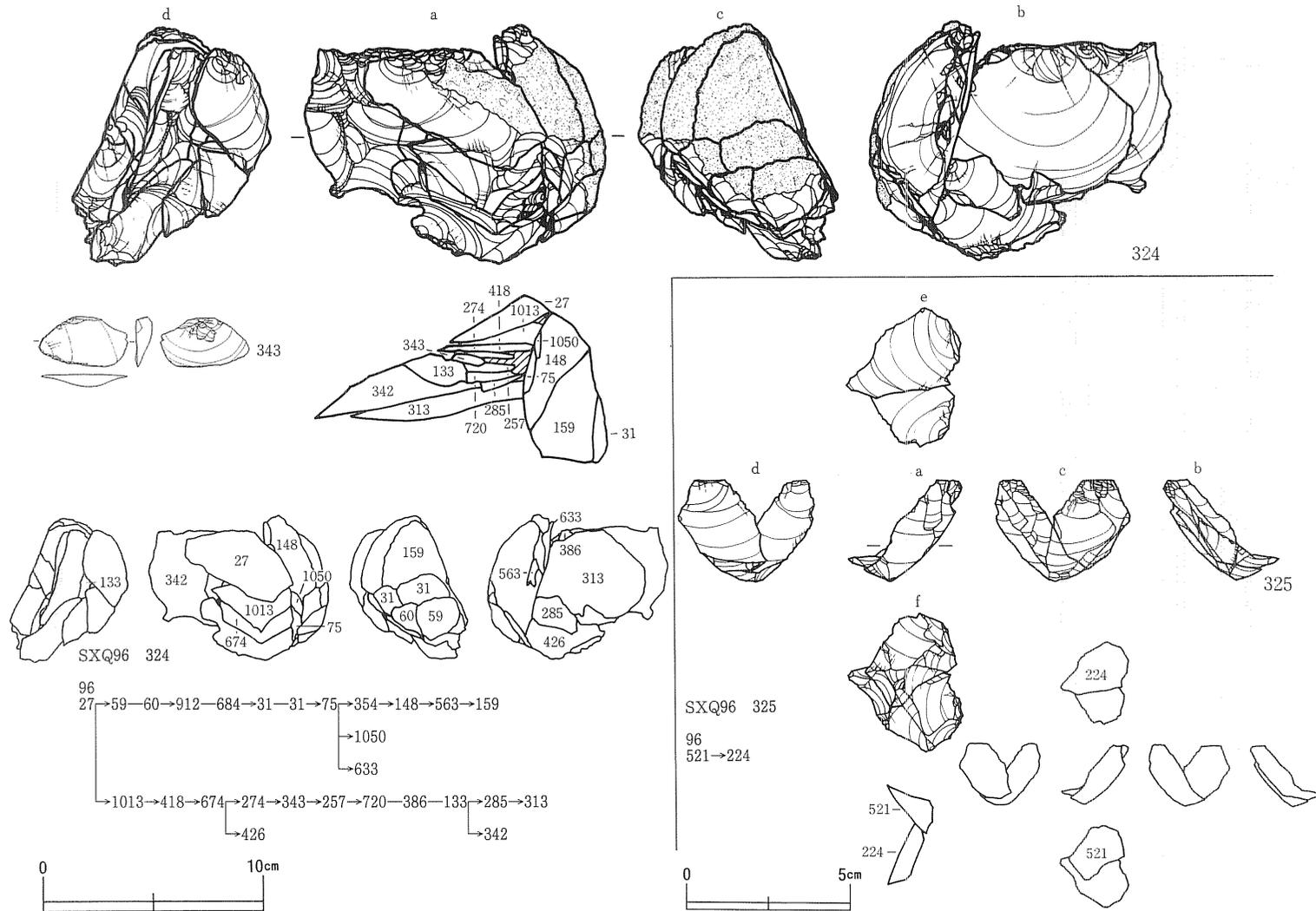
SXQ96(第172~180図、図版21・56・57・74)

上段で調査区中央部のMC54・55区、MD53~55区に位置し、表土下約0.8mの河道B堆積層上部で検出。取り上げ総数は1,111点で、長軸9.4m×短軸8.2mの広がりをもつ。この北側には、径0.6mと径0.8mの近接したブロックがある。これらのブロックの垂直分布は、約0.2mの幅がある。遺構は、多量のチップが共伴している石器製作跡である。

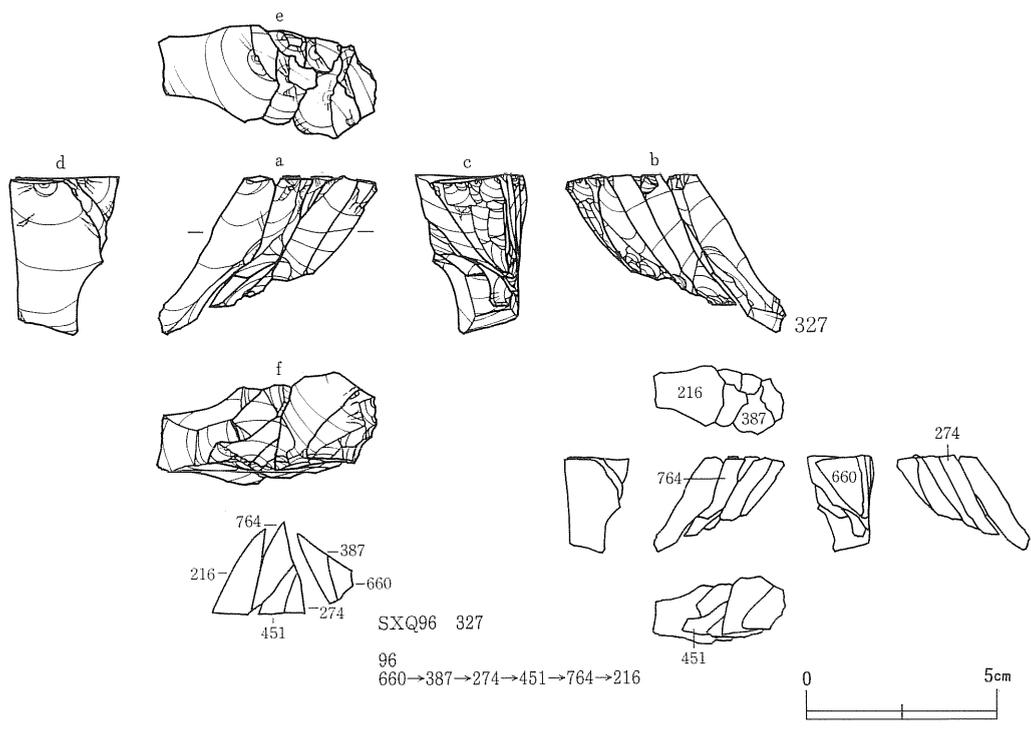
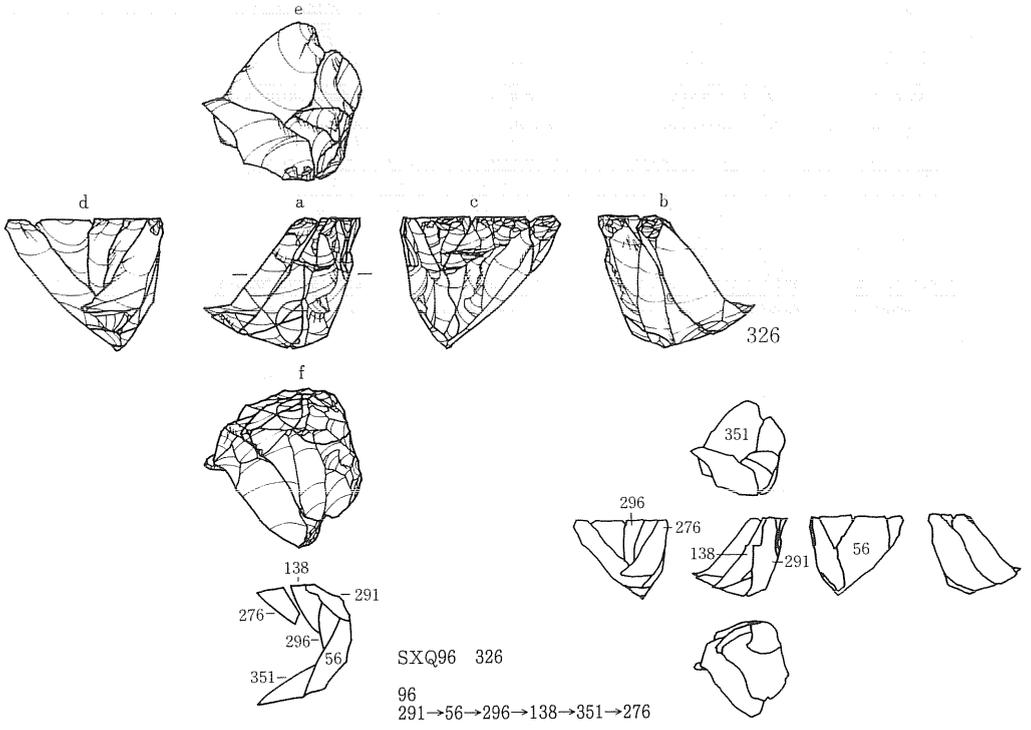
出土遺物は石器のみで、接合資料・両面調整素材・両面調整石器・石篋・搔器・削器・二次



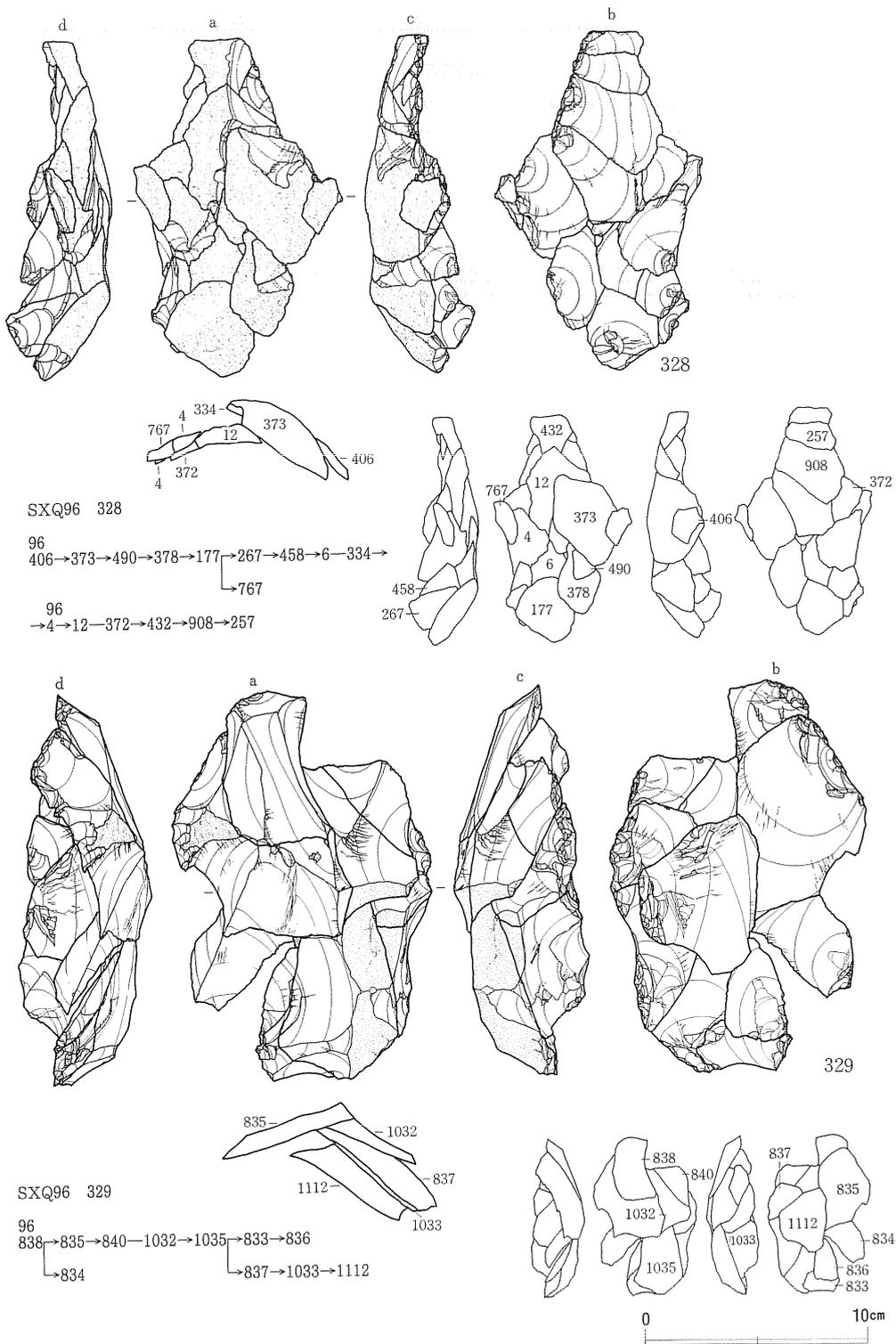
第175図 遺構内出土遺物(111) SXQ96②



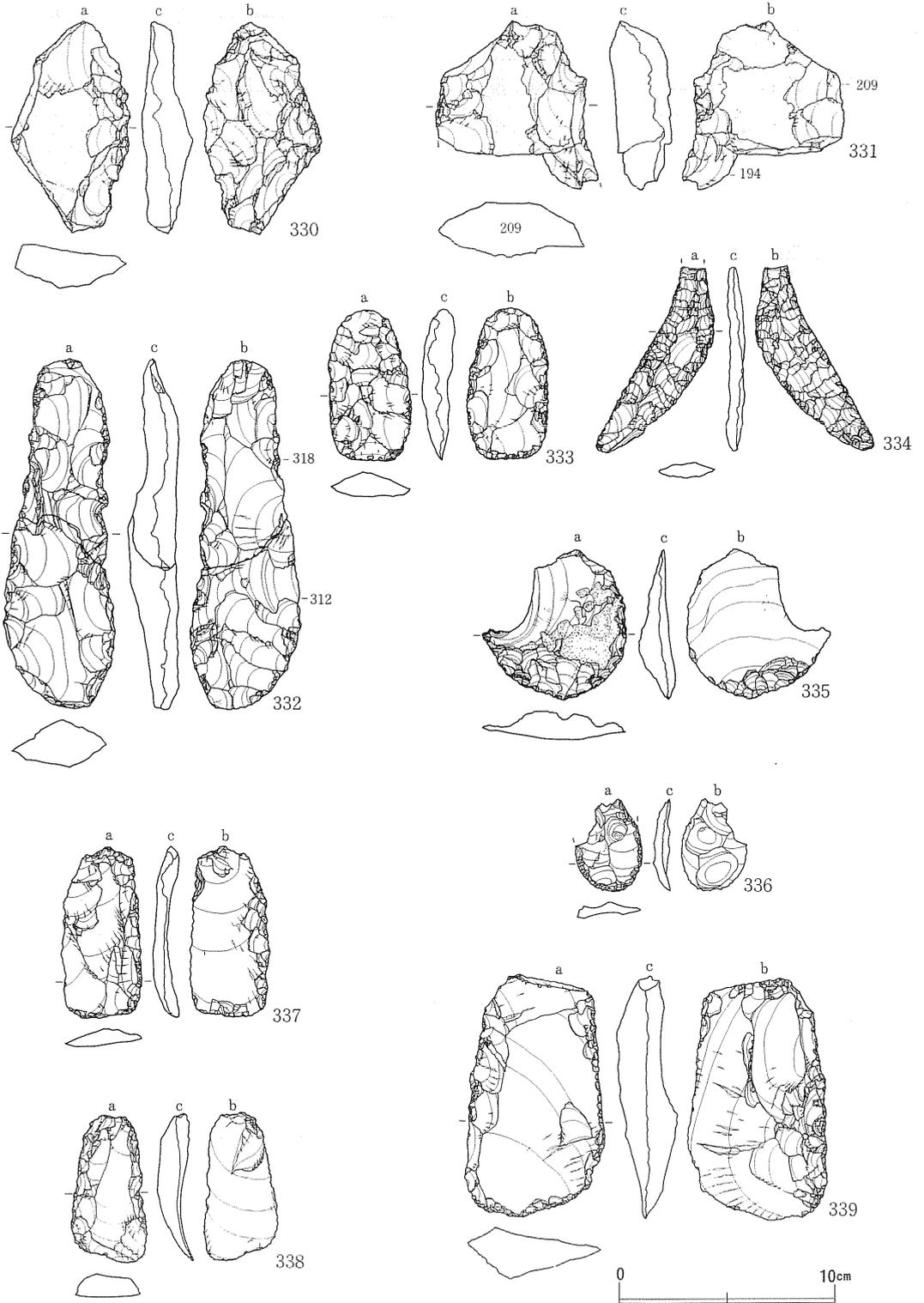
第176図 遺構内出土遺物 (112) S X Q96③



第177図 遺構内出土遺物 (113) S X Q96④

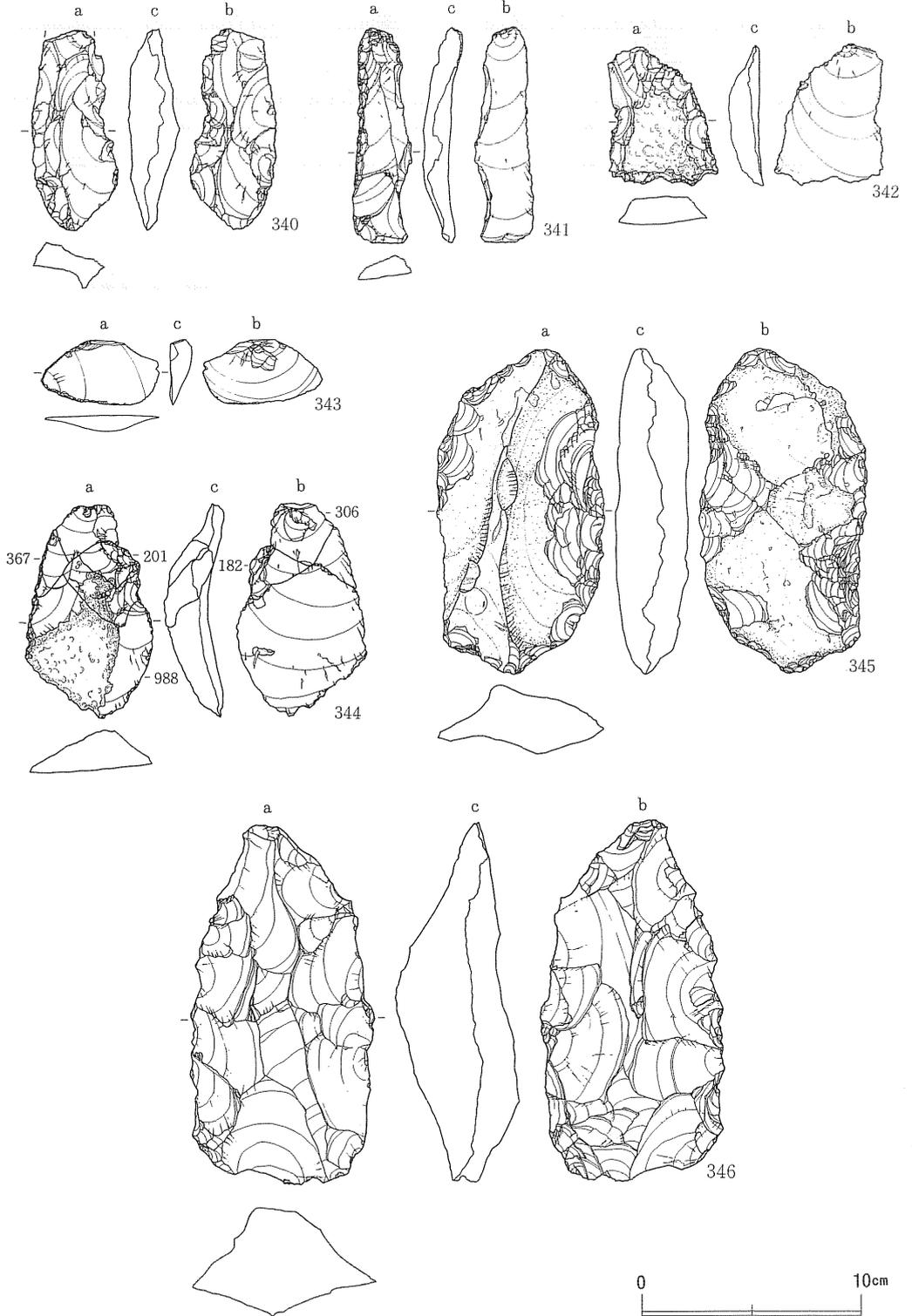


第178図 遺構内出土遺物 (114) SXQ96㊦



第179図 遺構内出土遺物 (115) S X Q96⑥

第4章 調査の記録



第 180 図 遺構内出土遺物 (116) S X Q96⑦・99①・102①

加工ある剥片がある。

接合資料(322~329) 322は、平坦な分割礫を素材にしたと考えられる。c面の左右は自然面が平坦面で、下半部は交互剝離が下から上へ及ぶ。効率の良い剝離を意図したが、失敗している。323は、厚みのある細長い河原石を素材にしたと考えられる。a面右下側縁の剝離後、同面左上位側縁からの剝離がある。礫皮面側の剥片が分厚い特徴をもつ。324は、a面で右側の固まりを分割した後、左側の固まりから多くの剥片素材を確保している。それは、d面上から右端の剥片を1つ剝離してから、90°転移しa面分割面を打面にして行ったもので、その後90°戻ってd面左の上からさらに剥片を得ている。a面分割面の右側にある固まりでは、c面の左右側縁から小さな剥片を得ている。325~327は上面が平坦な舟底形石核から、細石刃状の小さな縦長剥片を連続して剝離したもの。これらは同一個体の可能性がある。328と329は、両面調整を意図した片面の剥片接合資料である。両資料共、分割礫か河原石を原石にしていると考えられ、328は小形の329は大形の剥片である。

両面調整素材(330・331) 330・331は322の一部で、両面調整を意図した石器の製作途中に折断したもの。330はa面に摂理面が、331はa面に摂理面をb面には礫皮面を残す。

両面調整石器(332) a面上方が窄まり下方が膨らむ、左右非対称形の形態である。c面も逆S字状を呈す。両側縁に粗い調整がある。

石筥(333) 短冊形で横長剥片と考えられる。刃部は表裏とも素材面を利用し、b面に小さな剝離を施すのみ。刃部は鋭い両刃を作ることから、石斧にすべきかもしれない。

搔器(334~336) 334はつまみの付く三ヶ月状の形態である。つまみ部は折れ、先端部の調整はa面側が途中である。両側縁を刃部にしたと考えられる。335は横長剥片、336は縦長剥片と考えられる。縁辺に丁寧な調整があり、刃部を丸く仕上げている。

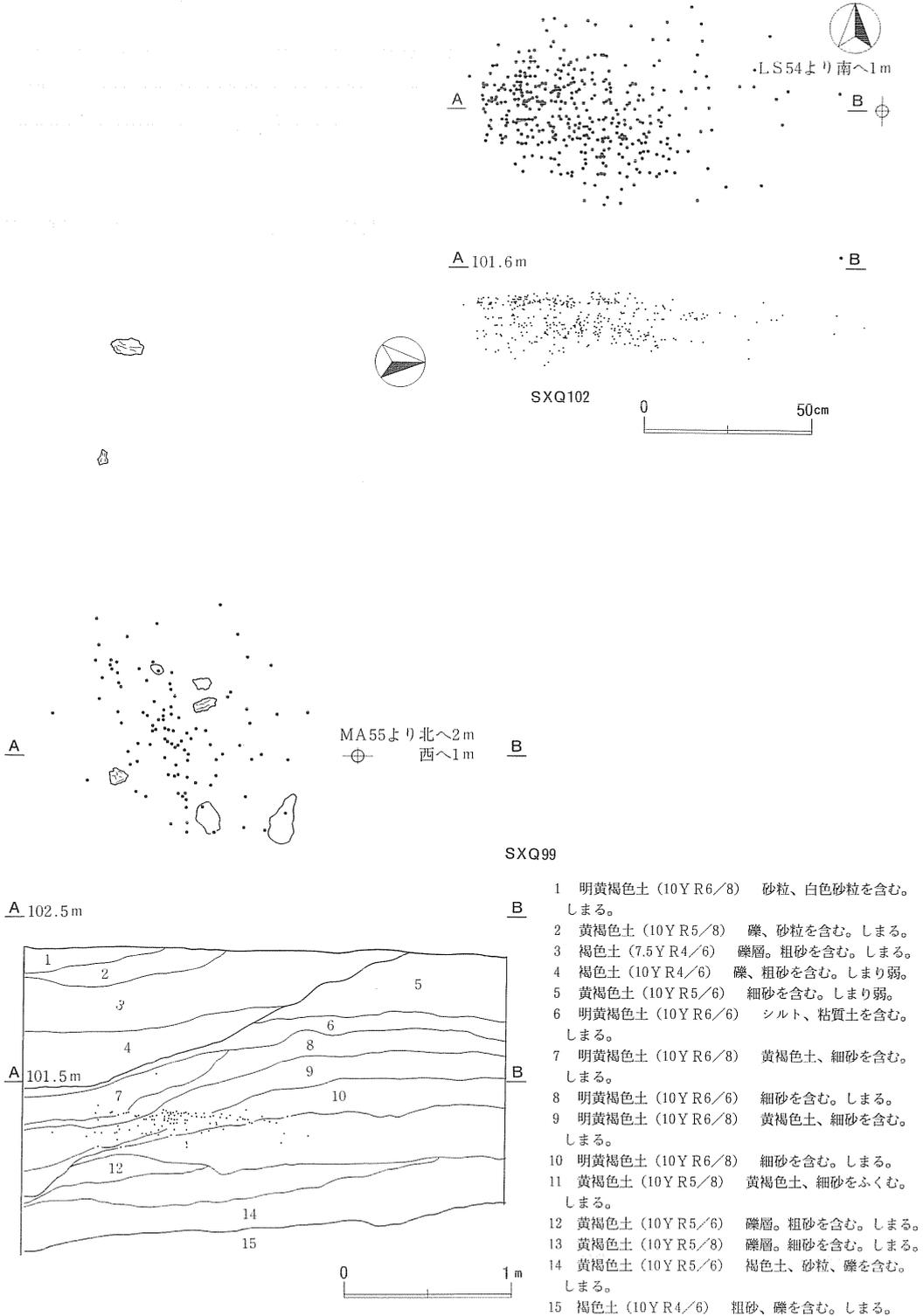
削器(337~342) 337と338は、縦長剥片で両側縁に調整がある。339は横長剥片で両側縁に調整があり、a面の右側縁には直線的な細かい剝離を施す。340では、a面右側縁中央の一部と左側縁に調整がある。341は縦長剥片で、a面左側縁に調整がある。342は細長い縦長剥片で、a面の左側縁に急角度の調整がある。

二次加工ある剥片(343・344) 343は横長剥片で、a面下位と上位左に細かい調整がある。344は、a面下位と右側縁に粗い調整がある。

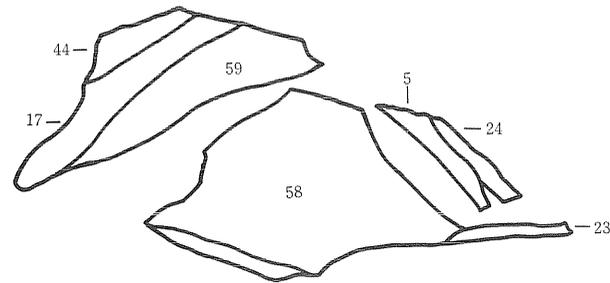
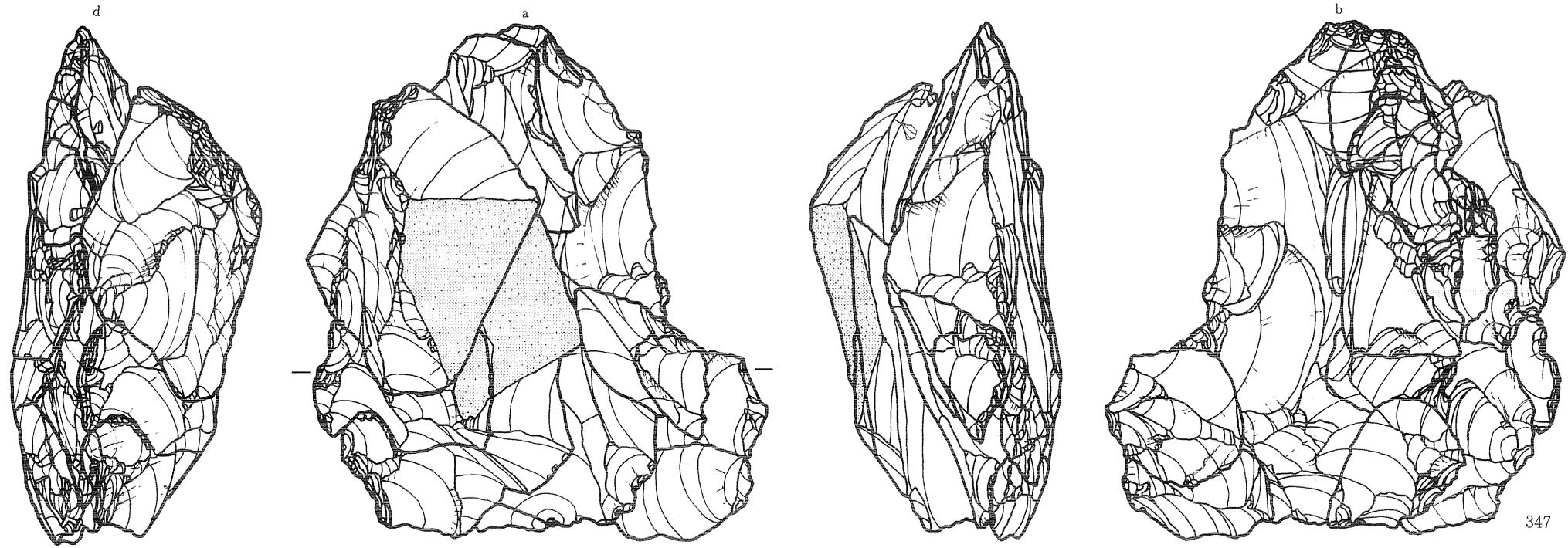
S X Q99 (第180~183図、図版21・62)

上段で調査区中央のMB56区に位置し、表土下約0.7mの河道B堆積層上部で検出。取り上げ総数は107点で、主に径0.8mの範囲にまとまる。これらには僅かに礫を含んでいる。垂直分布は、最大約0.2mの幅がある。遺構は、チップが共伴している石器製作跡である。

出土遺物は石器のみで、接合資料・両面調整素材がある。

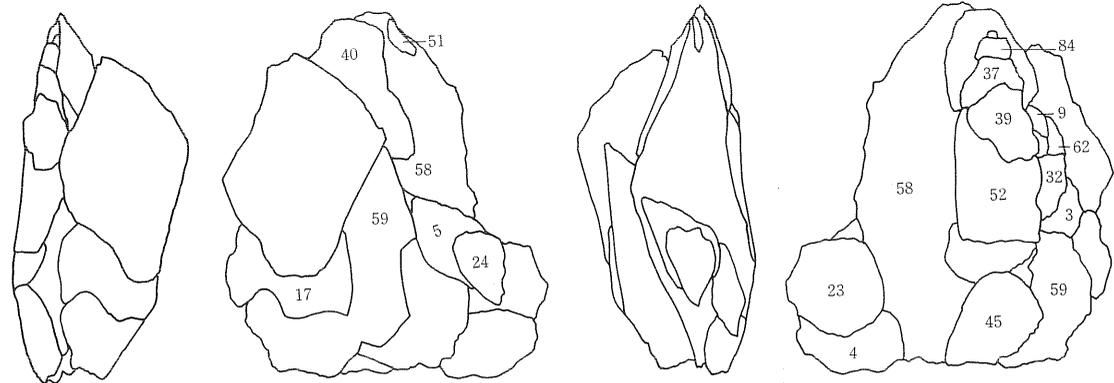
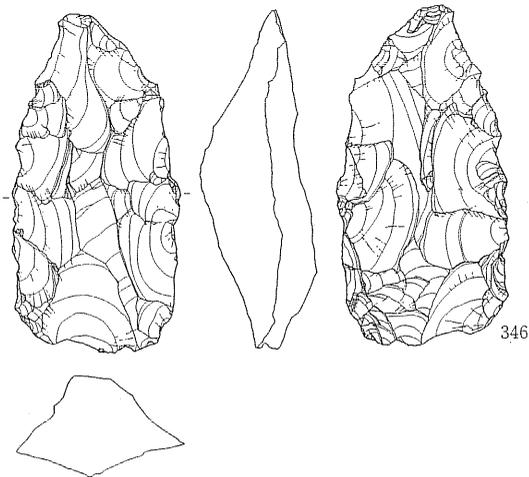


第181図 石器集中部 (16) SXQ99・102

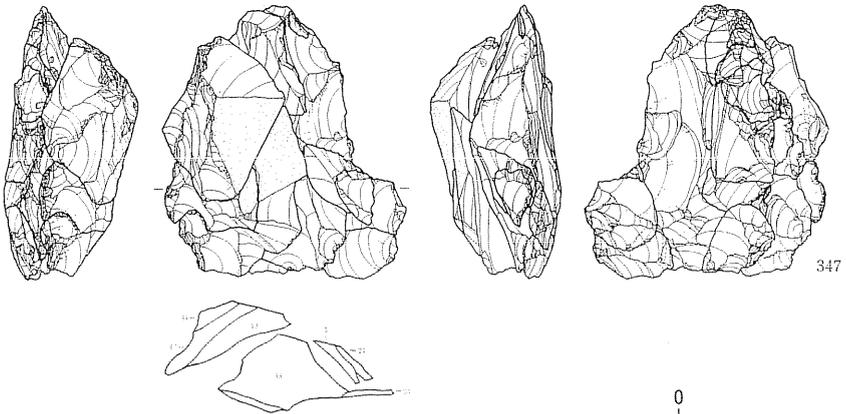
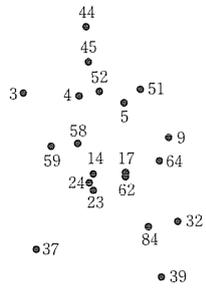
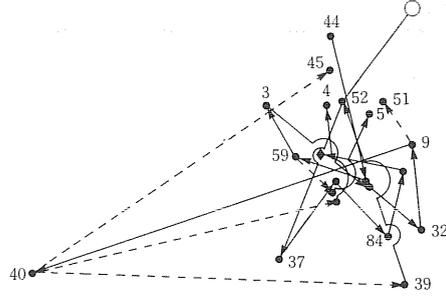


SXQ99 347

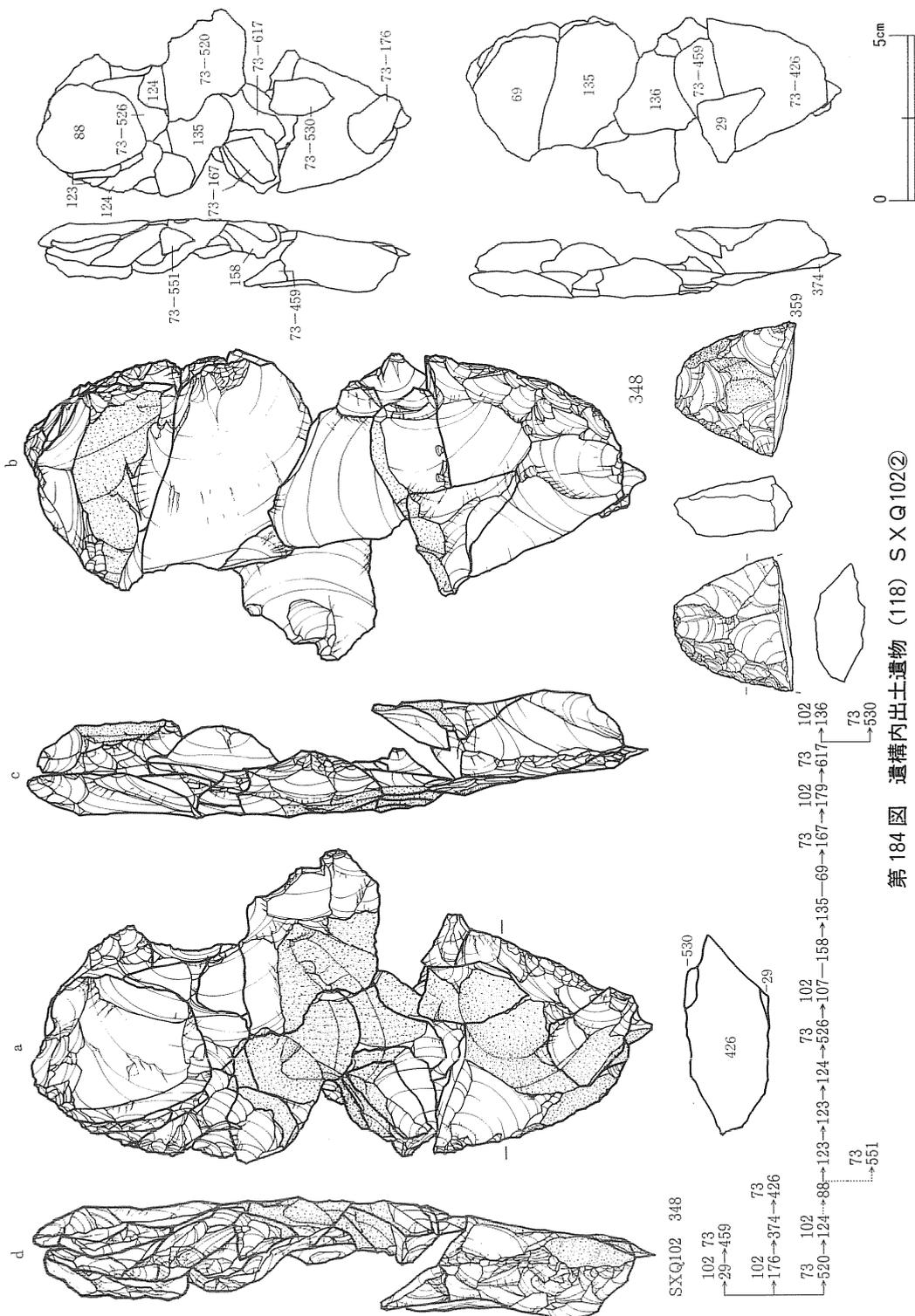
99
 44→17→59→3→62→32→9→40→45→39→52→37→14→84→64→58
 99 99 99 99
 →24→5 →51→23→4 →99



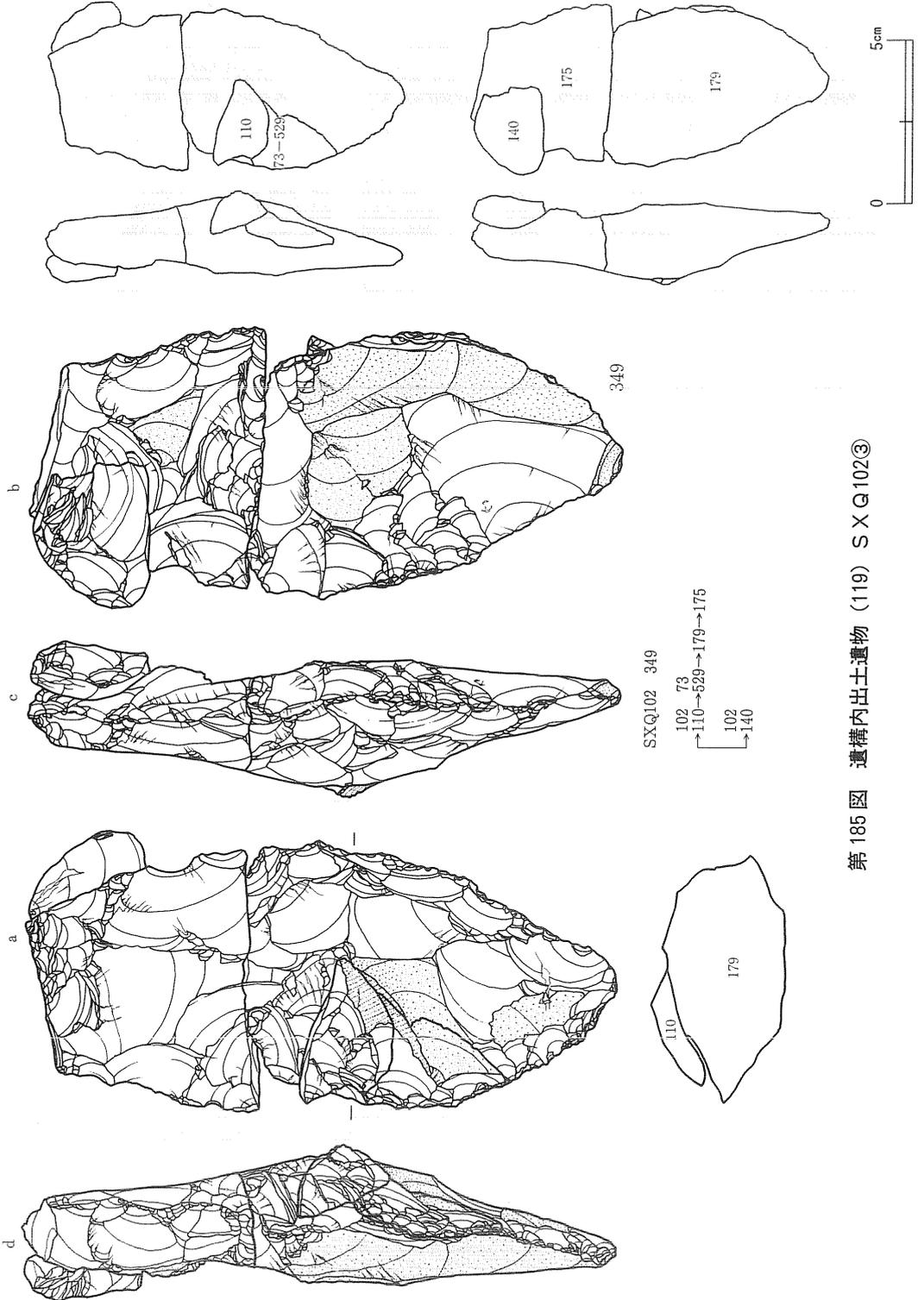
第182図 遺構内出土遺物 (117) DXQ99②



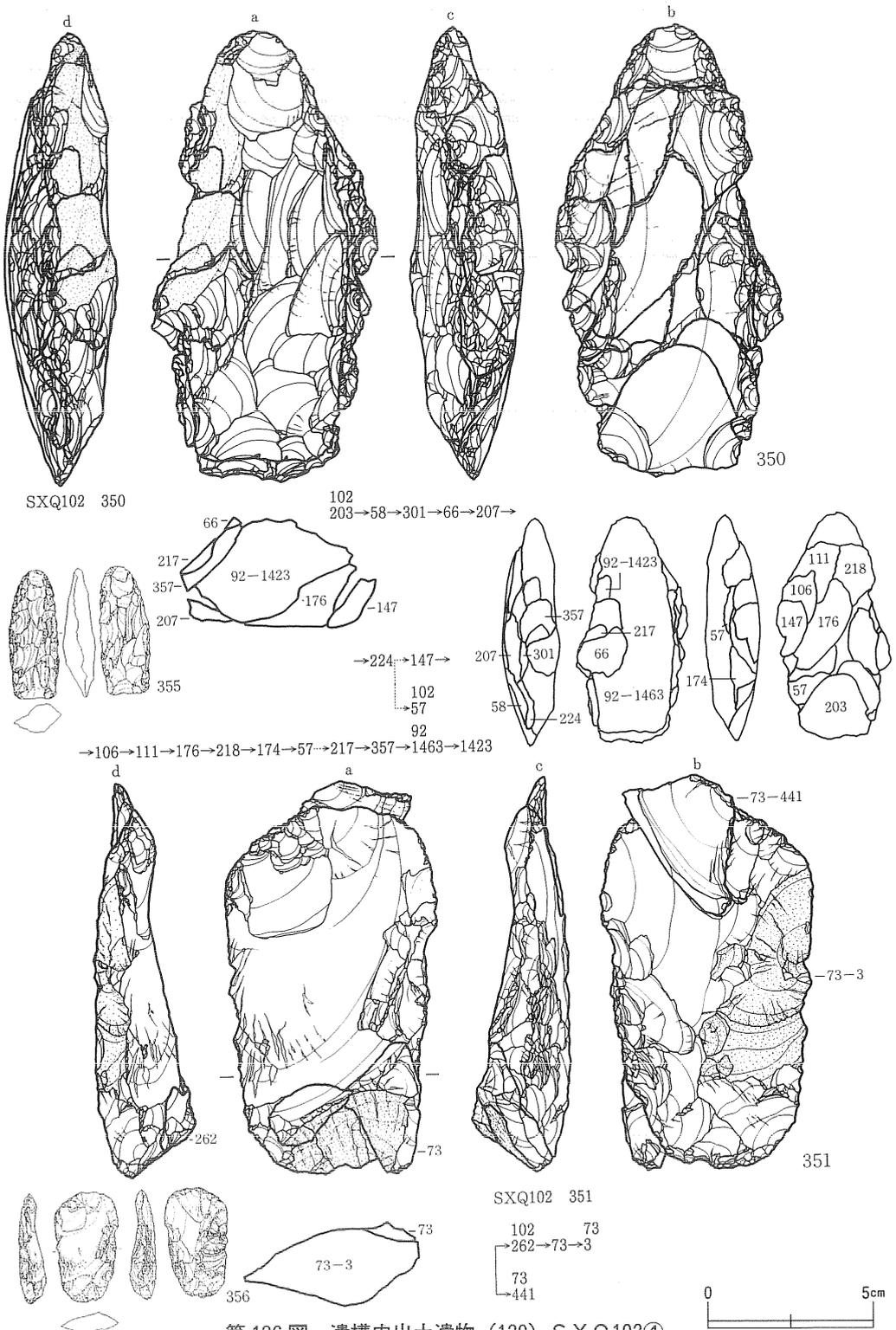
第183図 接合関係図(15) SXQ99



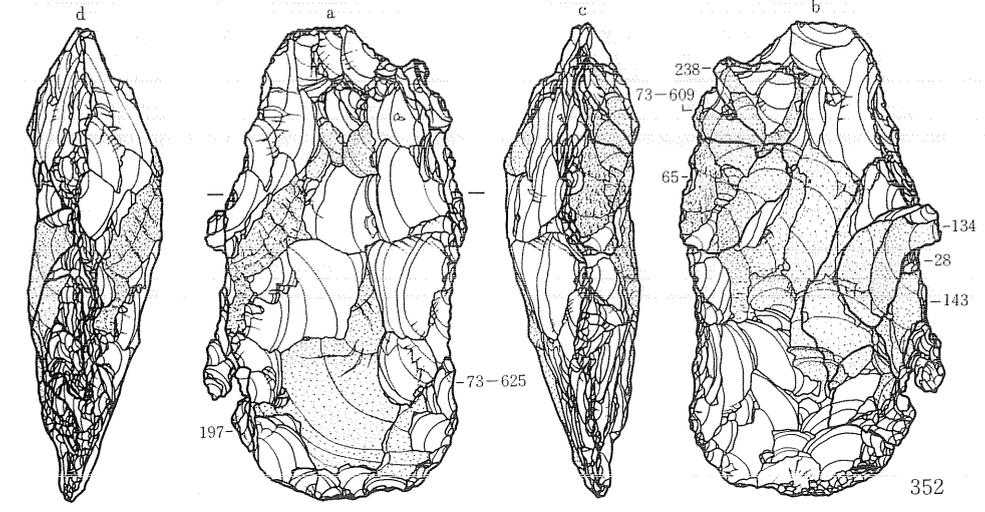
第184図 遺構内出土遺物 (118) SXG102②



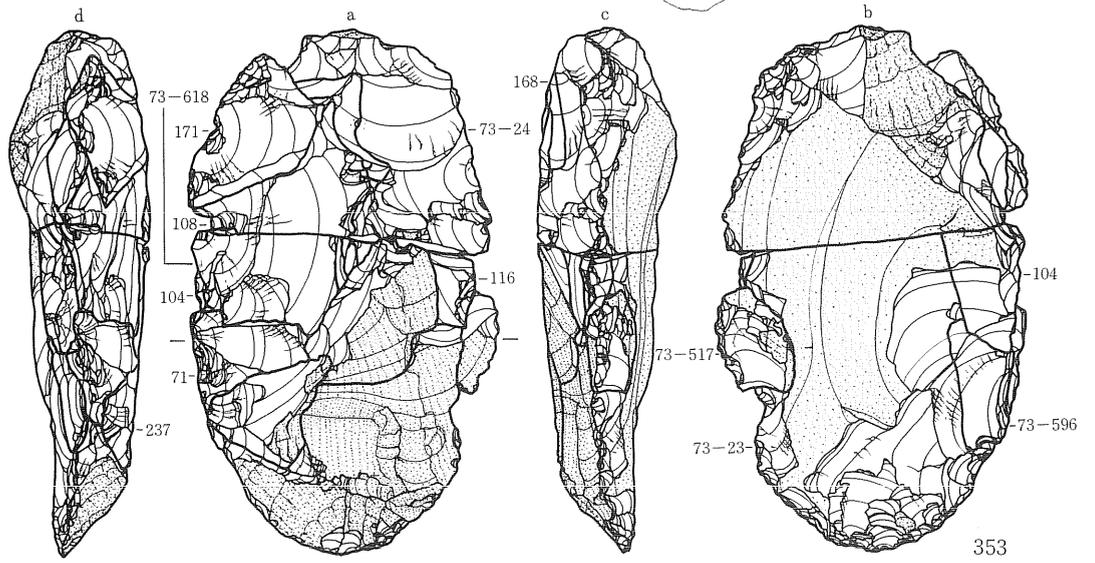
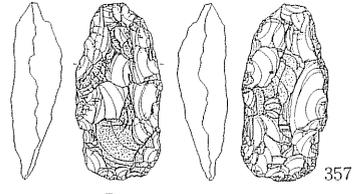
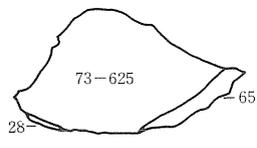
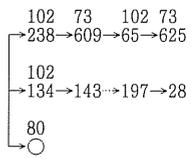
第185図 遺構内出土遺物(119) SXG102③



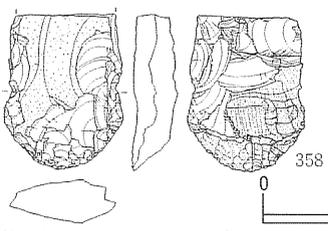
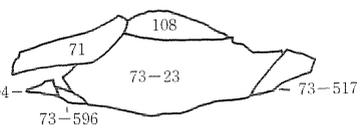
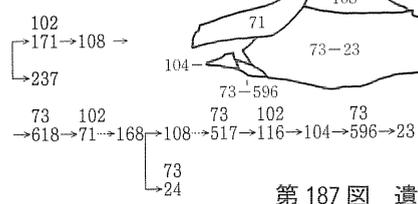
第186図 遺構内出土遺物 (120) SXQ102④



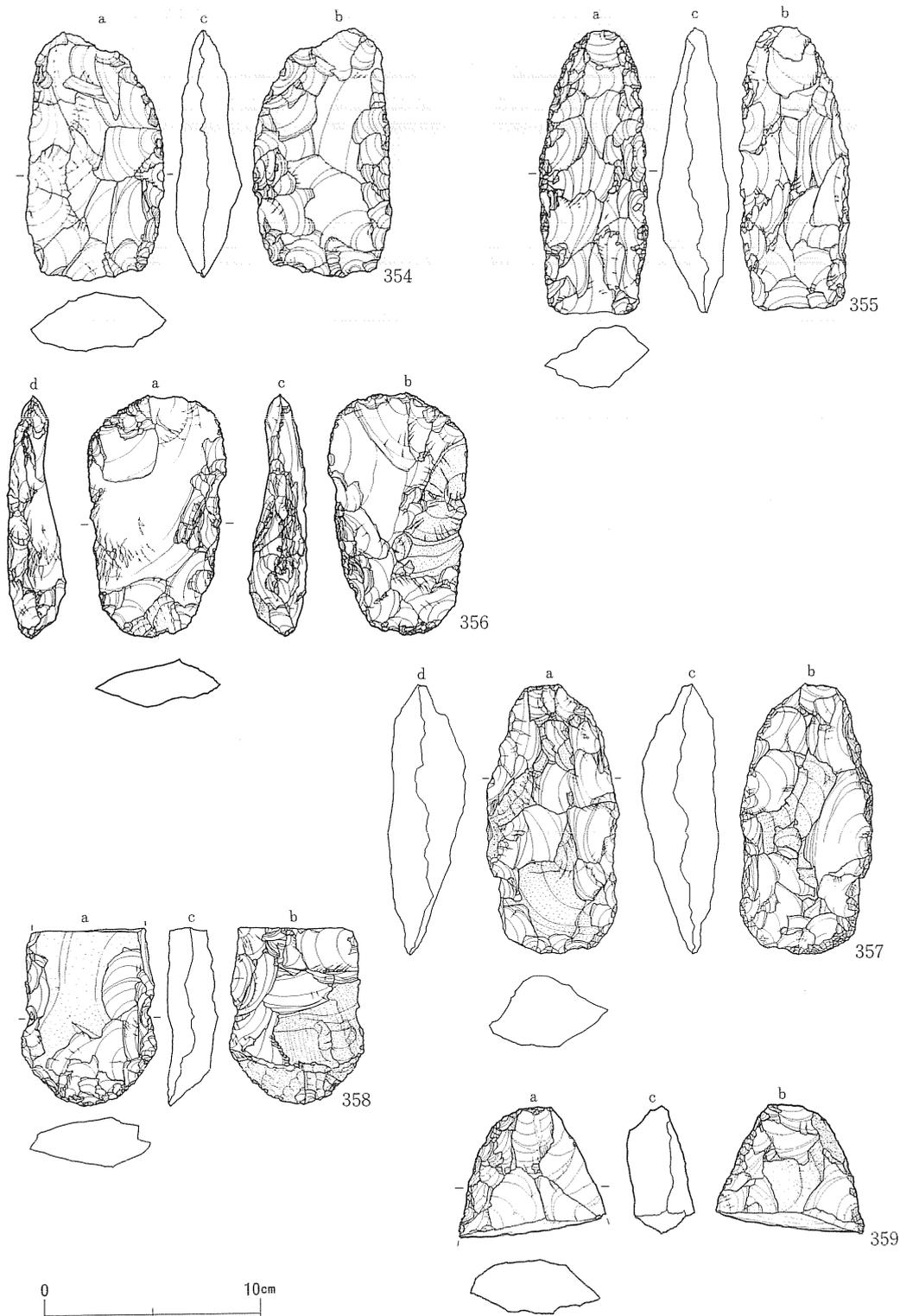
SXQ102 352



SXQ102 353



第187図 遺構内出土遺物 (121) SXQ102⑤



第188図 遺構内出土遺物 (122) S X Q102©

接合資料(347) 分割礫を素材にしたと考えられ、a面左側縁より横長の大きく厚い剝片を剝離している。同面の中央に礫皮面がある。

両面調整素材(345・346) 345は礫皮面のある横長剝片を素材とし、両側縁に粗い調整がある。346はa面が甲高で、両側縁に粗い調整をもつ。

S X Q 102 (第180・181・184~188 図、巻頭図版10、図版50・52~54)

上段で調査区東側のL S 53 区に位置し、表土下約0.5mの河道B堆積層上部で検出。取り上げ総数は389点で、主として長軸1m×短軸0.7mの楕円形の範囲に集中している。特に0.6m×0.4mの範囲では、濃厚な分布状態を示す。垂直分布は最大0.3mの幅がある。遺構は、多量のチップが共伴している石器製作跡である。

出土遺物は石器のみで、接合資料・両面調整石器・石斧がある。

接合資料(348~359) 348は、摂理面で分割している古く扁平な礫を素材にしている。両面調整を意図する。349は分割礫を素材にしたと考えられ、下端が尖った両面調整石器を意図している。a面下位の両側縁に丁寧な調整がある。中央と上位にa面からの折断がある。350は分厚い横長剝片が素材で、両側縁と刃部に交互剝離を施す。a面に礫皮面が残る。351は横長剝片の素材である。352は古い分割礫を素材にしているが、その厚さや大きさは本資料とさほど変わらない。353も古い分割礫を素材にしたもので、この素材も本資料とあまり変わらない。中央やや上でa面からの折断がある。

両面調整石器(354・359) 354は素材が横長剝片の可能性があり、やや分厚い半月形に近い形状である。c面の側縁は直線的で、下端は両面からの調整がある。359は348の一部で、b面左側縁に細かく丁寧な調整がある。

石斧(355~358) 355は350の石核。甲高の短冊形で、刃部は水平な直刃状を作る。356は351の石核。刃部を両刃状に作り出しており、全体の形状から石斧の失敗品と考えられる。357は352の石核。上位が甲高の素材で、それに僅かに手を加えたものである。刃部はやや丸みのある両刃である。全体に素材の形を生かした、無駄の少ない作りである。358は353の石核の一部。効率の良い作りで、丸い刃部は素材面の傾斜を利用している。

S X Q 104 (第189~193 図、巻頭図版6、図版22・58・59・75)

上段で調査区東側のL O 51 区一帯とL O 52 区南東杭付近を中心にして位置し、表土下約1mの河道A堆積層上部の砂層で検出。取り上げ総数は370点で、この外に縄文早期の土器数片が出土している。L O 52 区南東杭の所に径1.6m(aブロック)の、これより南西3mには1.5m×1.1m(bブロック)と2つのブロックがある。土器は、これらブロック外のL O 51 区北側で同一層から出土した。垂直分布は、a・bブロック共に幅が0.1m前後の水平な状態で安定しているが、両者は約0.4mの高低差がある。2つのブロックは、チップを共伴している

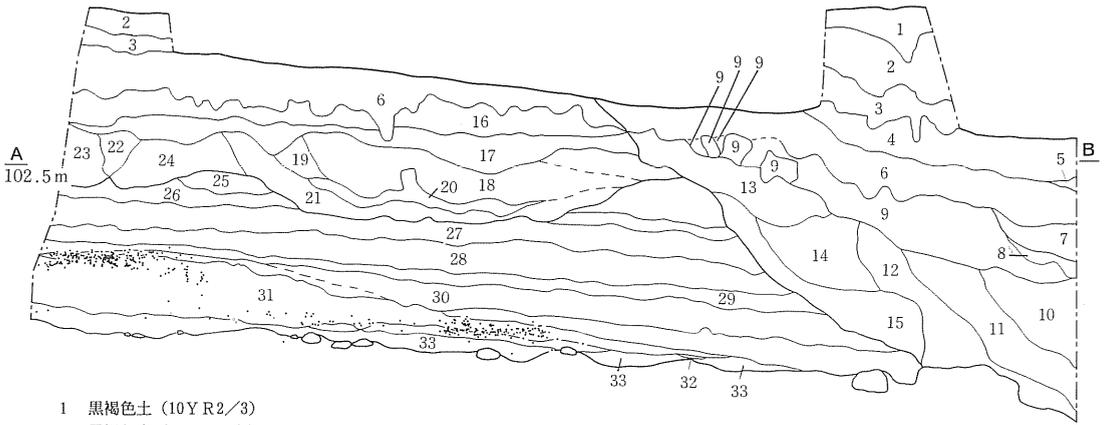


LO51



A 103.5 m

B



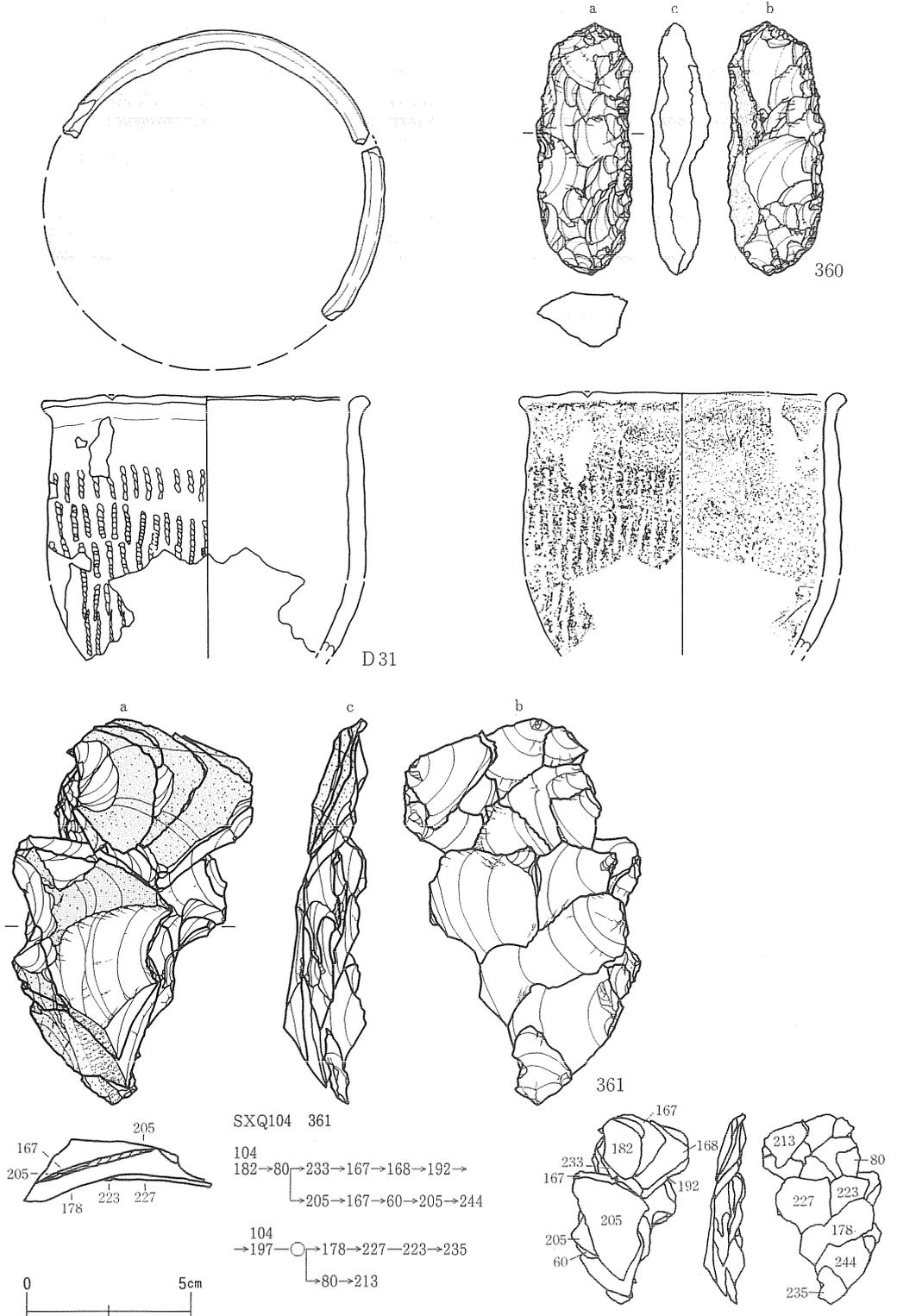
A 102.5 m

B

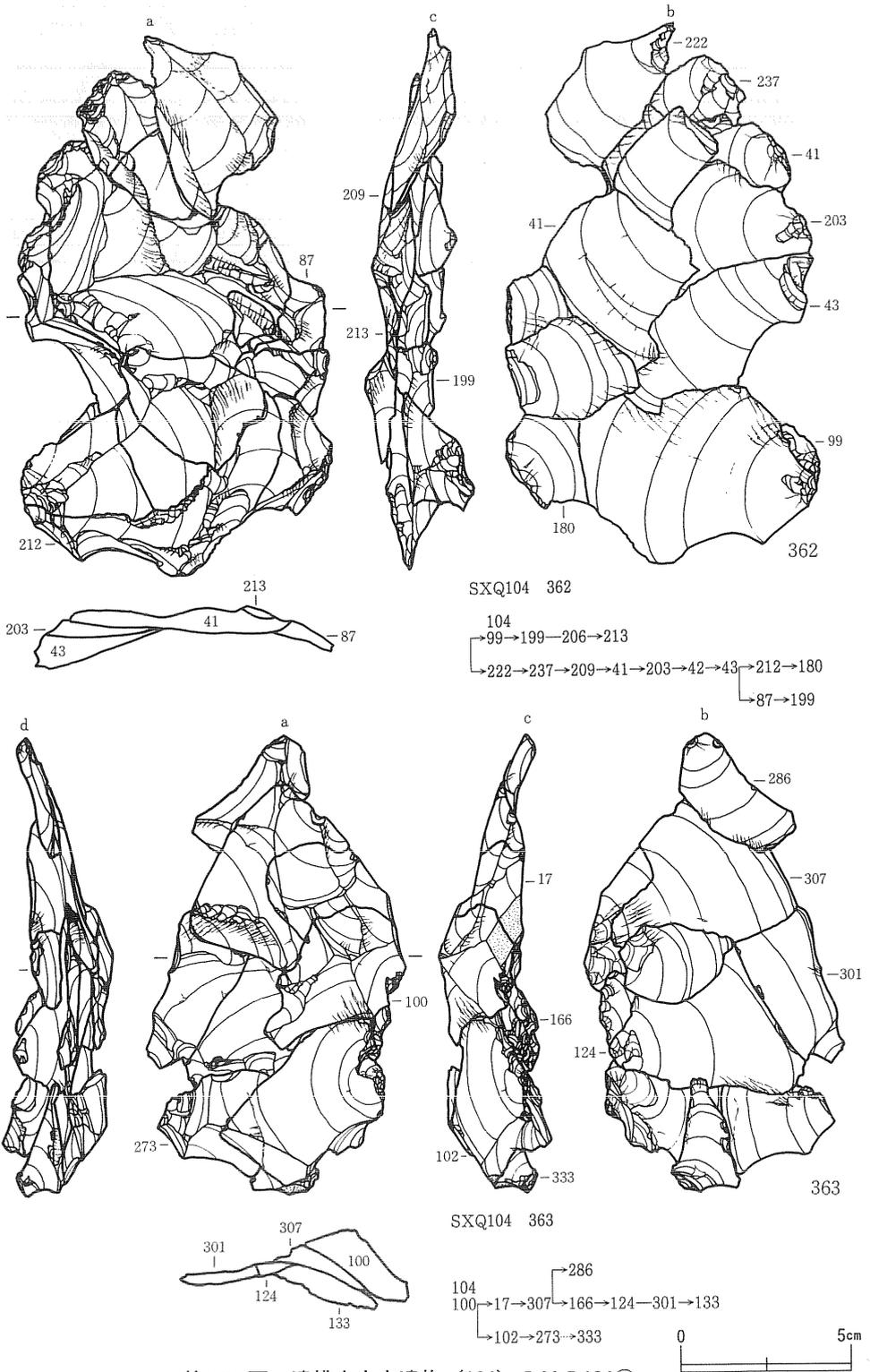
- | | | |
|----------------------|----------------------|----------------------|
| 1 黒褐色土 (10YR2/3) | 14 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) | 25 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) |
| 2 黒褐色土 (10YR2/3) | 15 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) | 26 黄褐色土 (10YR5/6) |
| 3 黒褐色土 (10YR3/2) | 16 黄褐色土 (10YR5/6) | 27 黄褐色土 (10YR5/8) |
| 4 褐色土 (10YR4/4) | 17 黄褐色土 (10YR5/6) | 28 黄褐色土 (10YR5/6) |
| 5 褐色土 (10YR4/4) | 18 黒褐色土 (10YR3/1) | 29 黄褐色土 (10YR5/6) |
| 6 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) | 19 黄褐色土 (10YR5/6) | 30 黄褐色土 (10YR5/6) |
| 7 明褐色土 (10YR6/6) | 20 黄褐色土 (10YR5/6) | 31 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) |
| 8 黄褐色対 (10YR5/6) | 21 暗褐色土 (10YR3/4) | 32 黄褐色土 (10YR5/6) |
| 9 黄褐色土 (10YR5/6) | 22 明黄褐色土 (10YR6/6) | 33 褐色土 (10YR4/6) |
| 10 明黄褐色土 (10YR6/6) | 23 褐色土 (10YR4/6) | |
| 11 黄褐色土 (10YR5/6) | 24 褐色土 (10YR4/6) | |
| 12 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) | | |
| 13 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) | | |

0 1 m

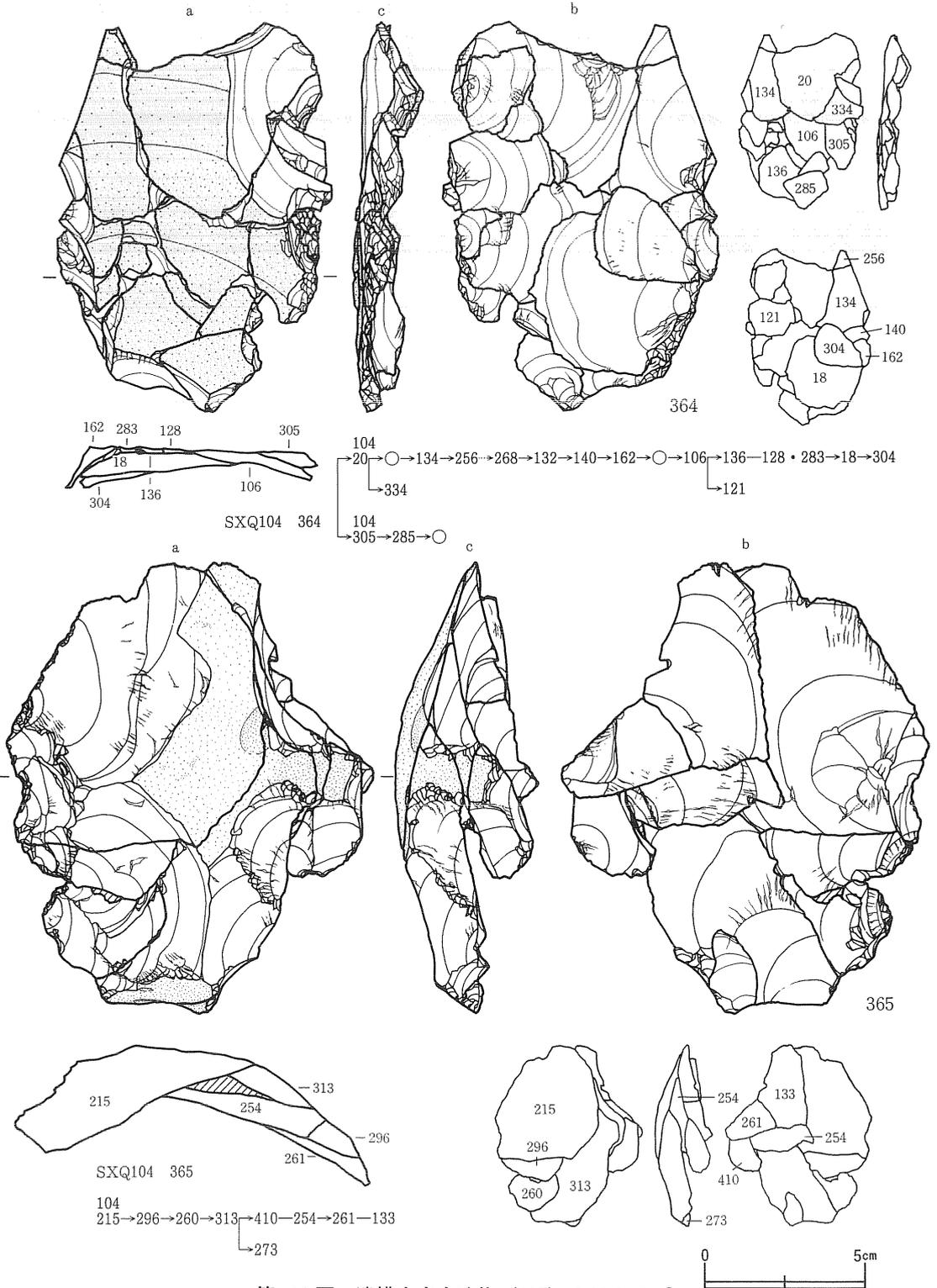
第 189 図 石器集中部 (17) S X Q104



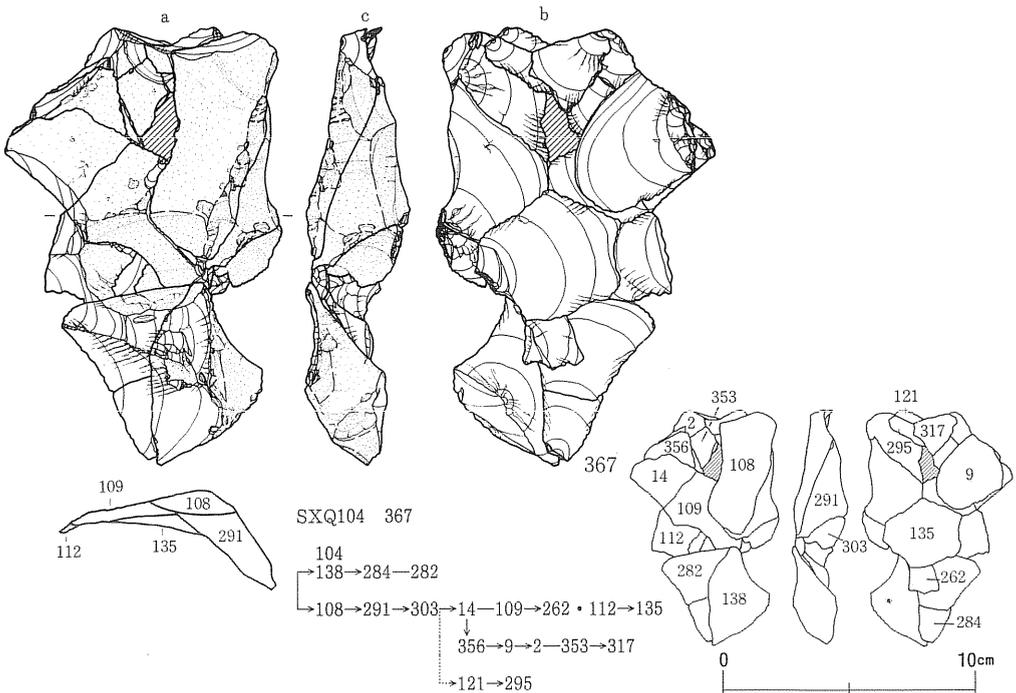
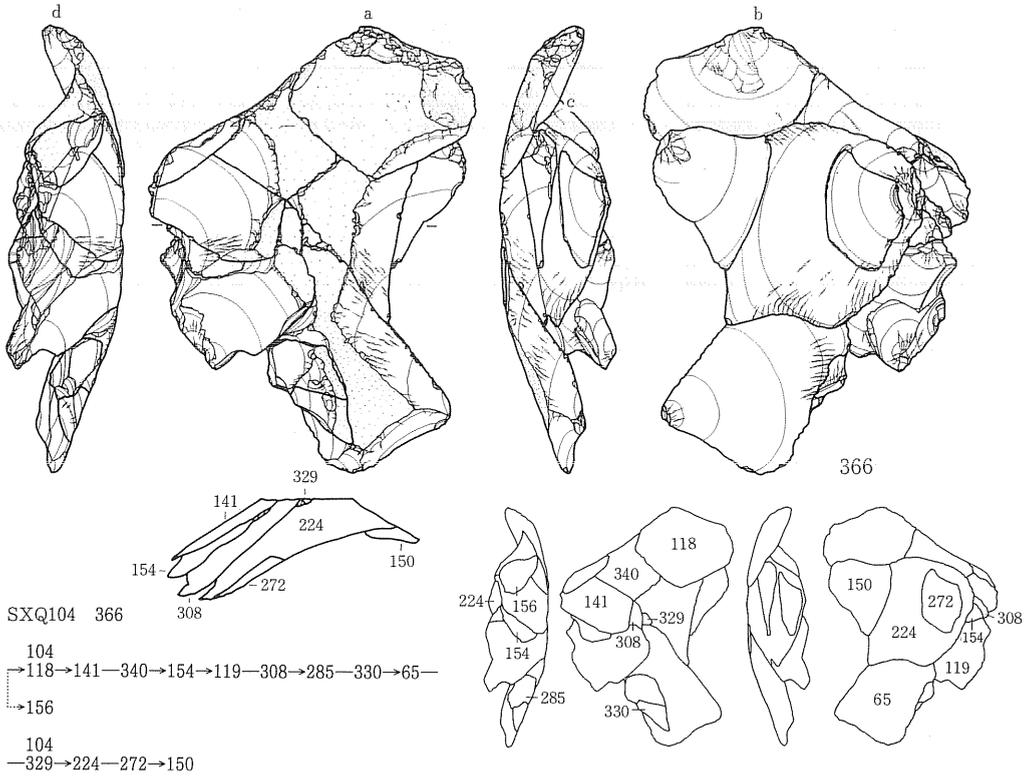
第190図 遺構内出土遺物 (123) S X Q104①土器・石器



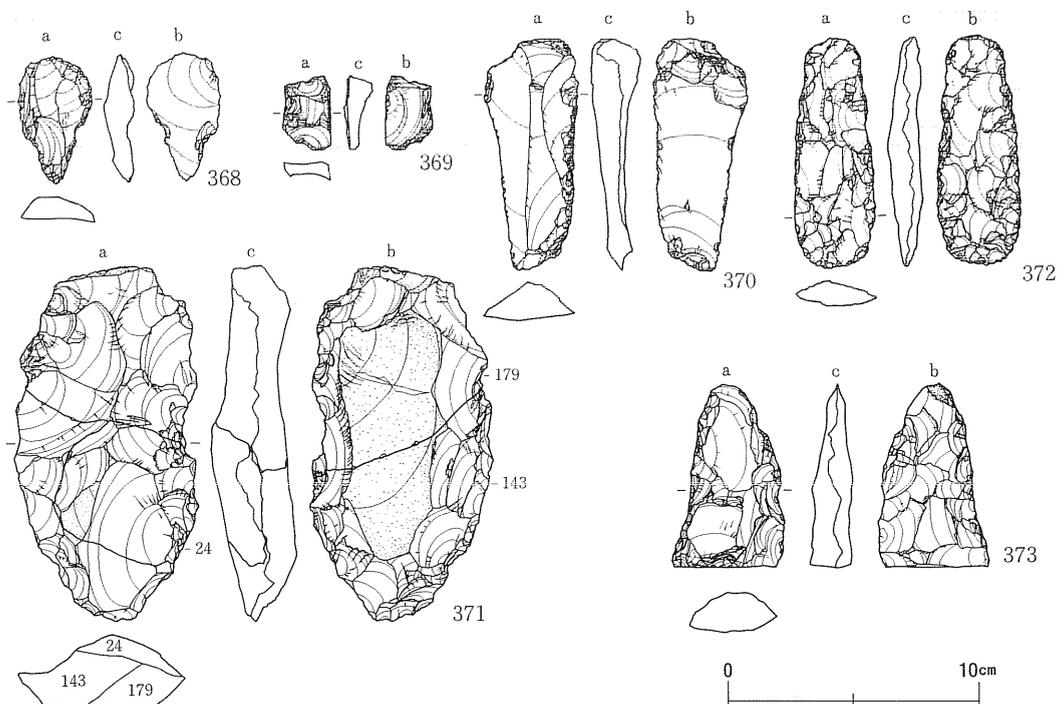
第191図 遺構内出土遺物 (124) S X Q104②



第192図 遺構内出土遺物 (125) SXQ104③



第193図 遺構内出土遺物(126) SXQ104④



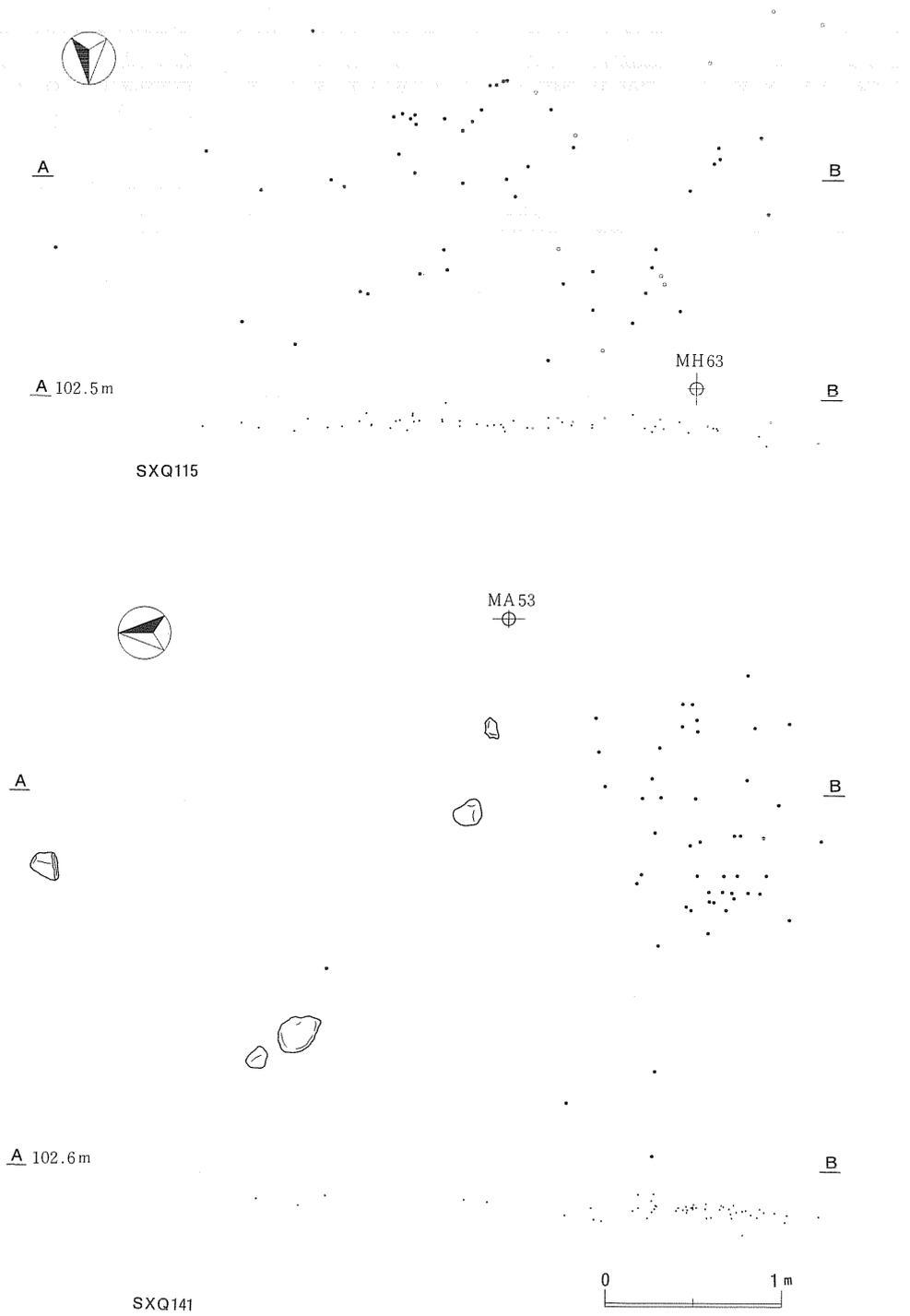
第194図 遺構内出土遺物 (127) S X Q 115・150①

石器製作跡である。

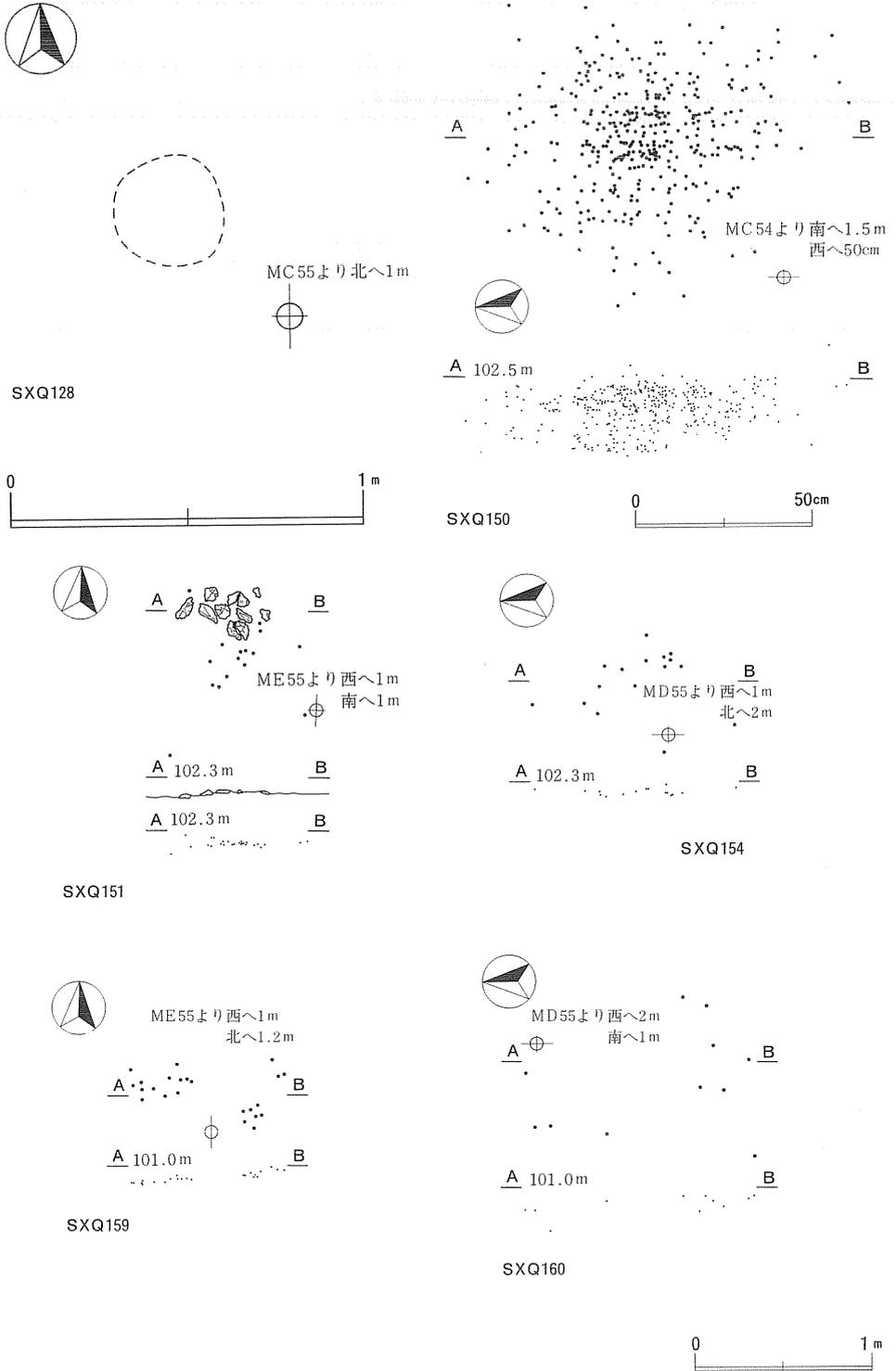
出土遺物は、深鉢の縄文土器以外に接合資料・両面調整素材の石器がある。

深鉢 (D31) 口縁の1/2、胴部の約1/4を残存。口径10cm、現存高8cmである。口唇は肥厚し、口縁部は外湾する。胴部は直線的で、中央やや下位より底部にかけて丸みを帯びる。口唇部は丸みをもつ。口縁部は幅1.5~2cmの無文帯で、その下に縦位の捺糸文がある。捺糸文はRの原体と考えられ、条の長いもので約1cmあり、横位に帯状のまとまり(帯縄文)をもつ。最も長く現存する胴部で、5段の帯縄文が確認される。2段以下の条は、上にある条より僅かづつずれている。したがって、原体を各々の幅分だけ上下に回転しそれを横に連続させたか、大きな原体を用いて絡状体圧痕文を施したかである。帯幅の短いことを考慮すれば、後者の可能性が強い。内面には指頭圧痕があり、器厚は3~4mmである。色調は内外面とも褐色が主体で、下位の一部に黄橙色が認められる。外面と内面上位に、煤が付着している。胎土は砂粒を僅かに含む。焼成は良好。この土器については第6章で考察するが、早期の範疇として捉えた。

接合資料 (361~367) 361~367は、両面調整を意図した片側の剝片接合資料である。361・364~367は、礫皮面を大きく残している。362と363は同一個体と考えられ、縦長剝片が多い。



第195図 石器集中部(18) SXQ115・141



第196図 石器集中部 (19) SXQ128・150・151・154・159・160

365～367 は大型剝片が目立ち、分厚く横長になる傾向がある。364 の a 面は平坦である。

両面調整素材 (360) 細長い楕円の形状で、上下の先端はやや尖らせている。a 面の左側縁を両面から調整するが、b 面の左側には礫皮面を残す。

S X Q 115 (第 194・195 図、図版 22・75)

上段で調査区北西部の MG・MH62 区に位置し、表土下約 0.6m の V 層で検出。取り上げ総数は 59 点で、約長軸 4.5m × 短軸 2.4m の広がり疎らな在り方を示す。垂直分布は 0.2m の幅に収まる。チップは確認できなかった。出土遺物には、石錐・削器がある。

石錐 (368) 横長剝片で、刃部に当たる所の両側縁に浅い抉りを施す。先端には細かい調整があり、その断面は三角形を呈す。

削器 (369・370) 369 は、a 面左側縁に調整を施す黒曜石である。同上下端にもノッチ状の剝離がある。370 は縦長剝片で、a 面の右側縁に調整がある。

S X Q 128 (第 196 図、図版 22)

上段で調査区中央の MC55 区に位置し、表土下約 0.5m の河道 B 堆積層上部で検出。すでに多くが掘り上げられていたが、状況を聞いて元に近い状態の撮影だけは行った。総数は 14 点で、径 0.3m の狭い範囲に集中しており、垂直分布は 0.1m の幅に収まる。チップは出土していない。

S X Q 141 (第 134・195 図、図版 73)

上段で調査区中央の MA52・53 区に位置し、表土下約 0.8m の河道 B 堆積層上部で検出。SQ79 の南西に近接する。総数は 48 点で、南側の径 0.8m の広がり比較的まとまる。垂直分布は幅 0.2m 以内に収まる。

出土遺物は石器のみで、両面調整素材・両面調整石器・削器がある。

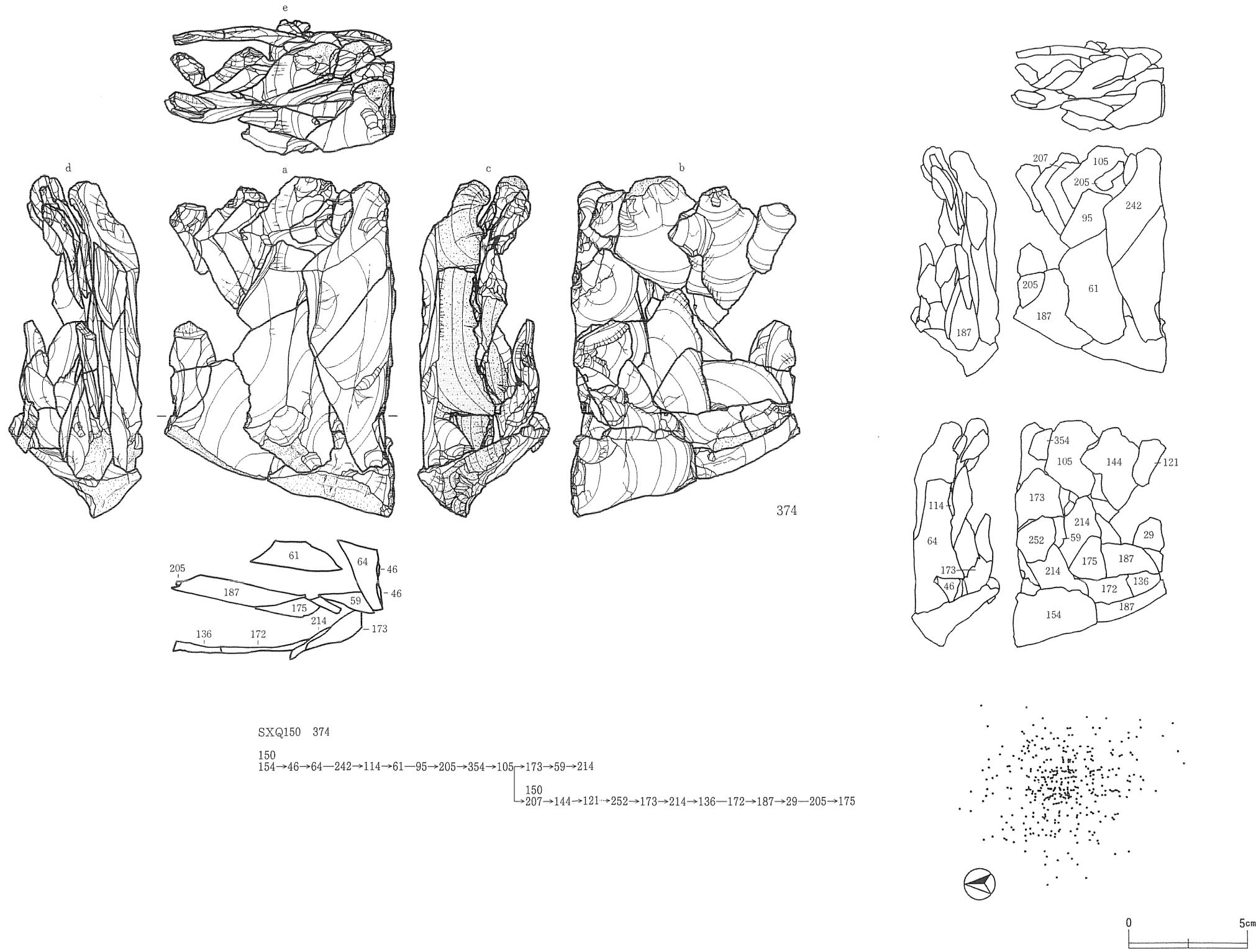
両面調整素材 (244) a 面の左側縁には粗い調整を施すが、c 面下方は 1 cm 内外の幅で自然面を残す。剝片を得ていた残核の可能性もある。

両面調整石器 (245) 薄い仕上がりで、横長剝片素材の可能性もある。a 面左側縁が直線的で、右側縁は大小 2 つの膨らみがあり、全体に剝離を施す。

削器 (246) 横長剝片で、a 面右側縁の表裏と b 面下端の右側縁に調整がある。未調整の片側側縁は、大小 2 つの膨らみから 245 の形態をもつ両面調整石器の、未製品の可能性がある。

S X Q 150 (第 194・196～200 図、図版 22・61・62・75)

上段で調査区中央の MB・MC53 区に位置し、表土下約 0.5m の河道 B 堆積層上部で検出。取り上げ総数は 382 点で、長軸 1.1m × 短軸 0.9m の楕円形の狭い範囲に集中している。特に中央の径 0.25m の部分は濃密である。垂直分布は、最大 0.2m で端ほど浅い傾向があり、土坑



SXQ150 374

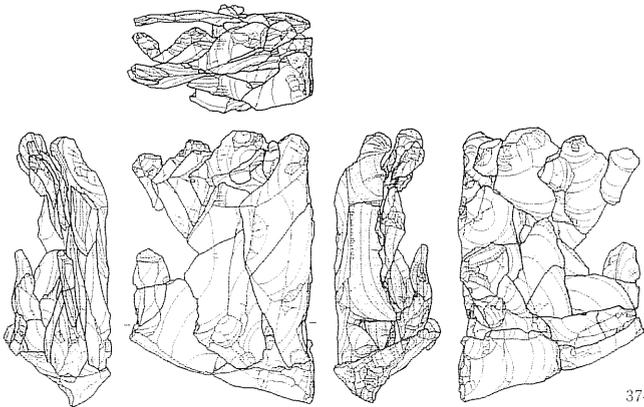
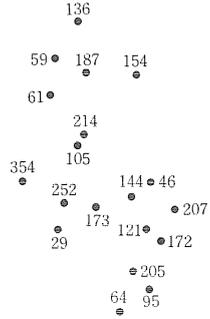
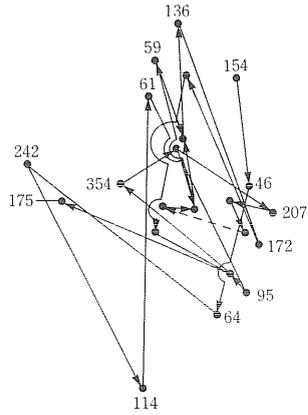
150

154→46→64→242→114→61→95→205→354→105→173→59→214

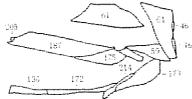
150

207→144→121→252→173→214→136→172→187→29→205→175

第197図 遺構内出土遺物(128) SXQ150②



374



第198図 接合関係図(16) S X Q150

の存在を示唆するものかもしれない。遺構からは、多量のチップが出土している。

出土遺物は、接合資料・両面調整素材・両面調整石器・石筥がある。

接合資料 (374・375) 374 は分割礫を素材にしたもので、上面側で右から左へ連続した調整がある。b面の左上と右下を結んだ線を軸にした、両面調整を意図したようである。375 は、平坦な面をもつ河原石を素材にしたもので、両面調整石器 (373) に礫皮面のある多くの剝片が接合する。376 には、両面調整素材 (371) に自然面の付く剝片が接合。377 はc面上位のように、打点が礫皮面になるものがほとんどである。

両面調整素材 (371) 扁平な河原石を素材にして、両側縁に粗い調整を施す。a面の左側縁は、幅のある礫皮面を打面として利用している。b面からの折断がある。

両面調整石器 (373) 375 の石核。槍状の先端部破片で、b面からの折断がある。両側縁の調整は粗いが、形は整っている。

石筥 (372) 剝片素材と考えられ、刃部と基部を丸く整えている。特に刃部は両刃で、小型の石斧にすべきかもしれない。

S X Q 151 (第 196・201 図、図版 23・75)

上段で調査区中央のMD54区に位置し、表土下約0.7mの河道B堆積層上部で検出。総数は27点で1m×0.8mの広がりをもつ。特に、径0.3mの範囲では集中して出土している。垂直分布は0.1mの幅に収まる。微細なチップは含んでいない。

出土遺物は石器のみで、搔器・削器がある。

搔器 (379) 横長剝片でa面の底辺が直線的になる。上の縁辺は、両面からの調整で鋭利に仕上がる。

削器 (378) 横長剝片で、a面右下の側縁を除いて両面からの調整がある。定形的な石器の可能性はある。

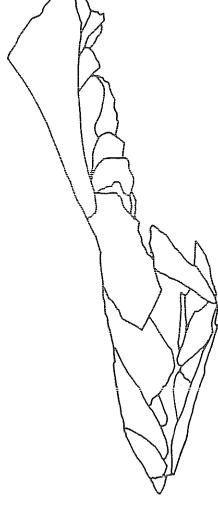
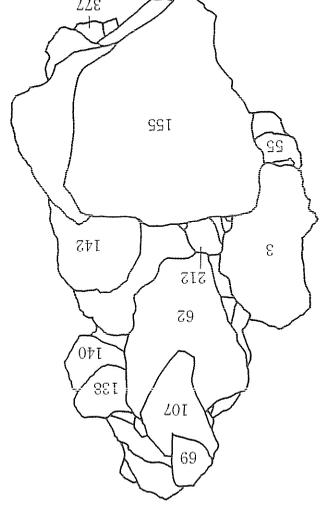
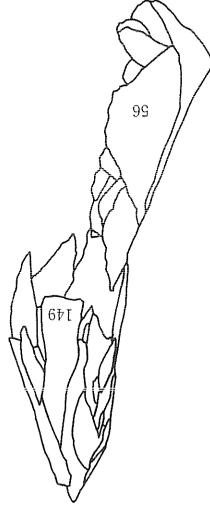
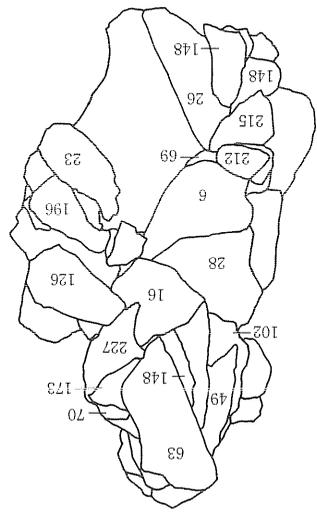
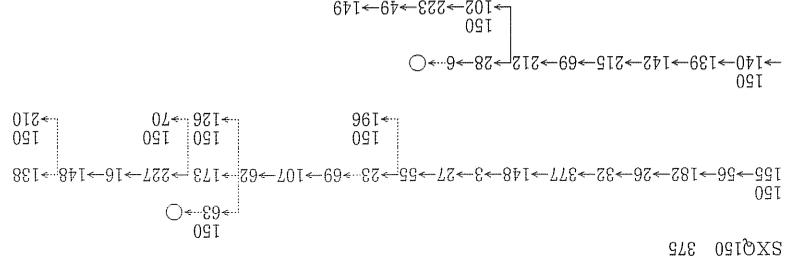
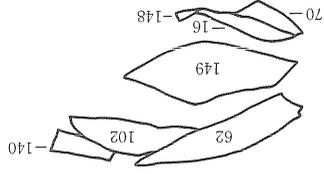
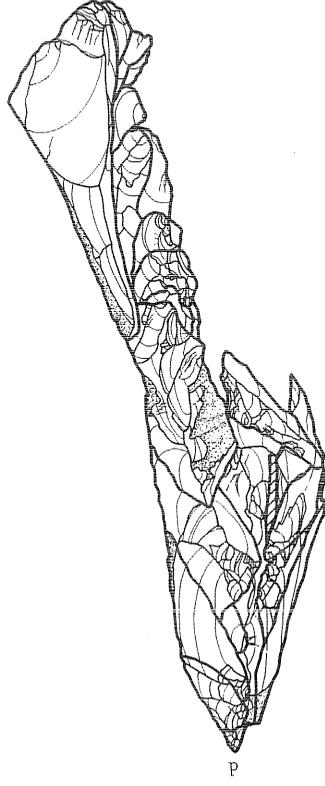
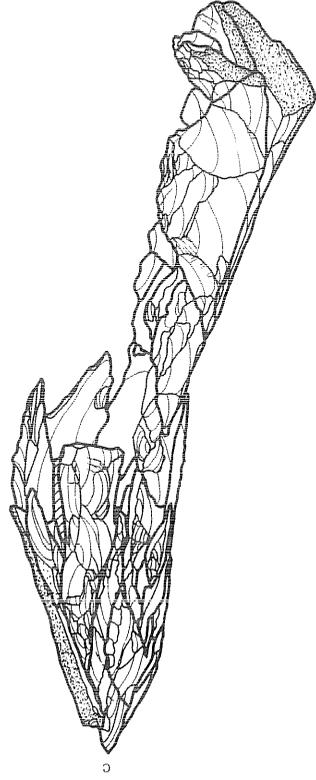
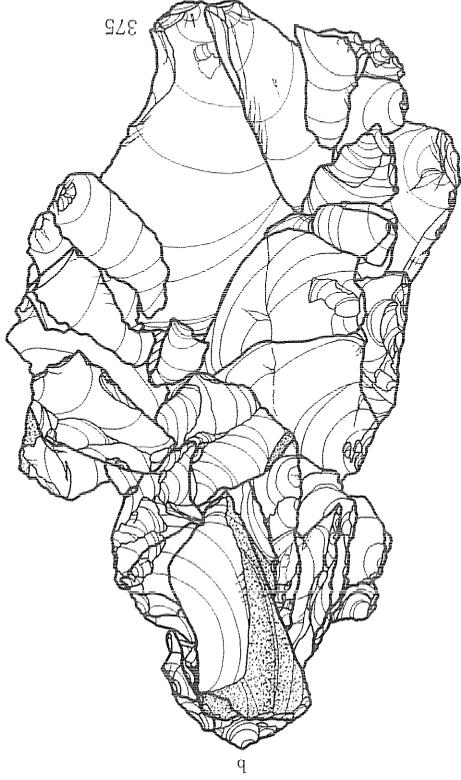
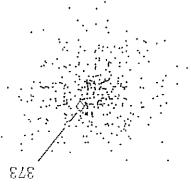
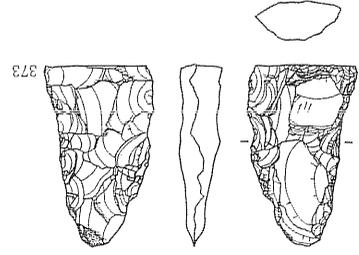
S X Q 154 (第 196・201 図、図版 23・75)

上段で調査区中央のMD55区に位置し、表土下約0.7mの河道B堆積層上部で検出。総数は18点で、長軸1.8m×短軸1.5mの楕円形の広がりをもつ。全体には、疎らな在り方を示している。中でも、東側の長軸0.7m×短軸0.3mの範囲には集中して出土した。垂直分布は0.1mの幅に収まる。チップは含まない。

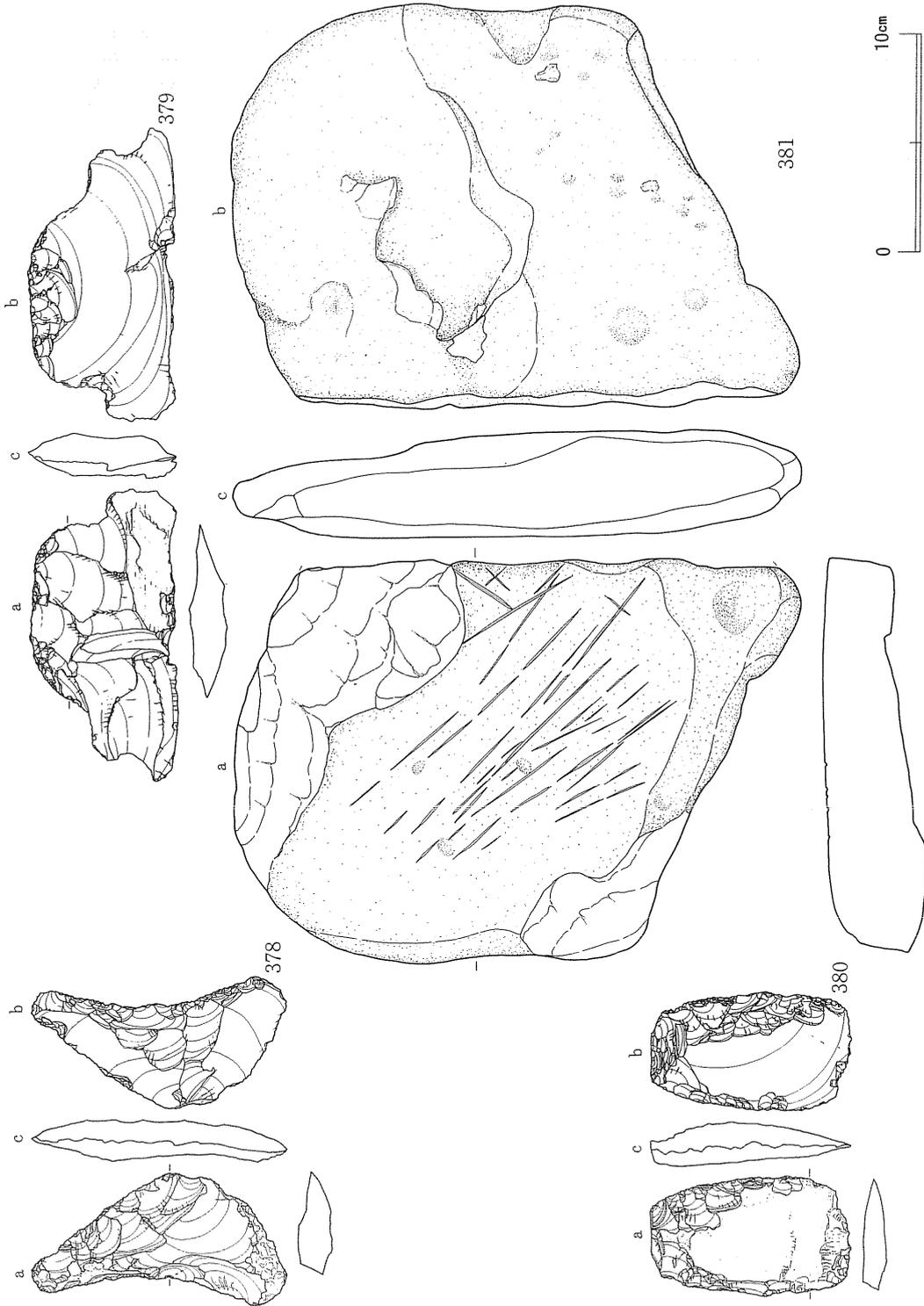
出土遺物には、石筥・線刻礫がある。

石筥 (380) 横長剝片で両側縁に調整がある。刃部は主要剝離面を生かした作りで、a面に僅かな調整がある。同面に礫皮面を大きく残す。

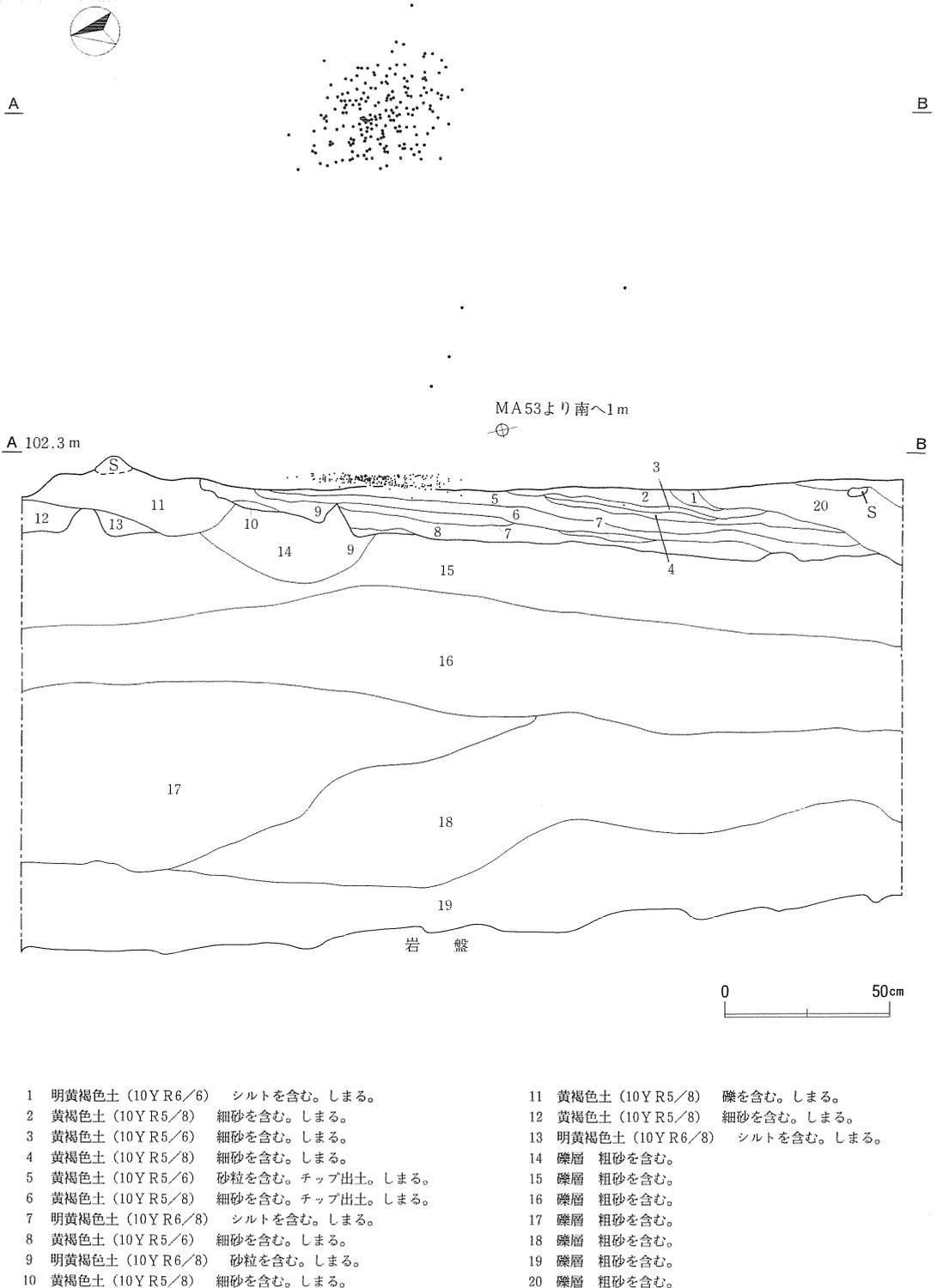
線刻礫 (381) 板状礫の片側に、幅約1mmの浅い線刻がある。方向はほぼ一定しており、最大約10cmの幅がある。台石として使用した可能性がある。



第199図 遺構内出土遺物 (129) S X Q150③

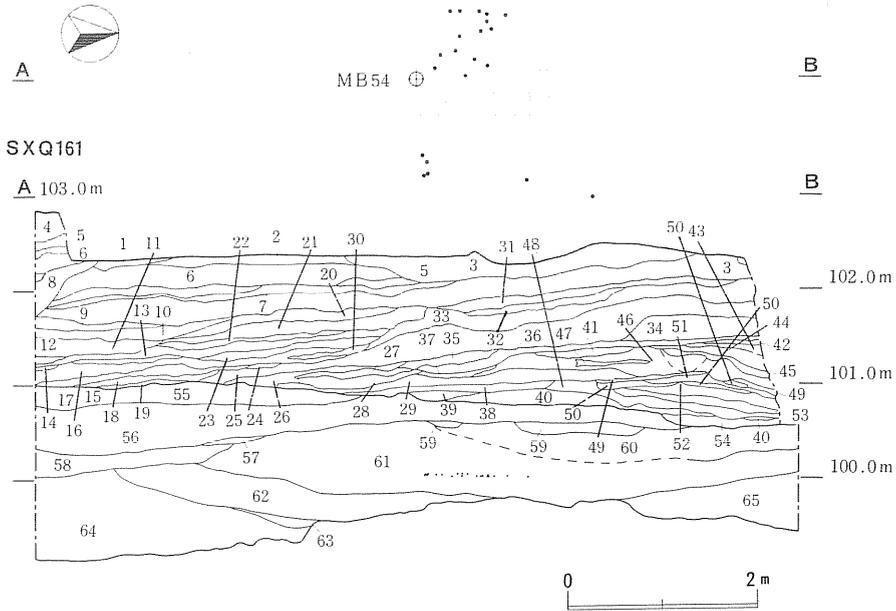


第201図 遺構内出土遺物 (131) S X Q 151・154

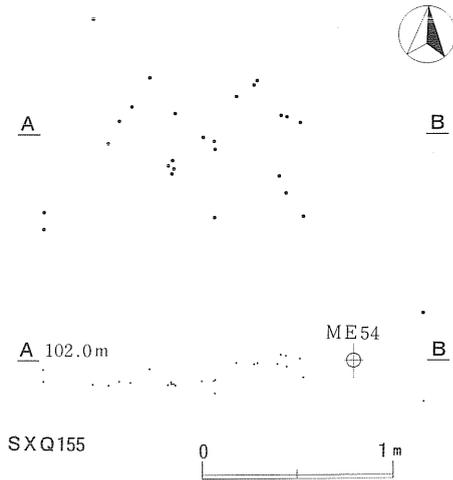


第202図 石器集中部 (20) S X Q156

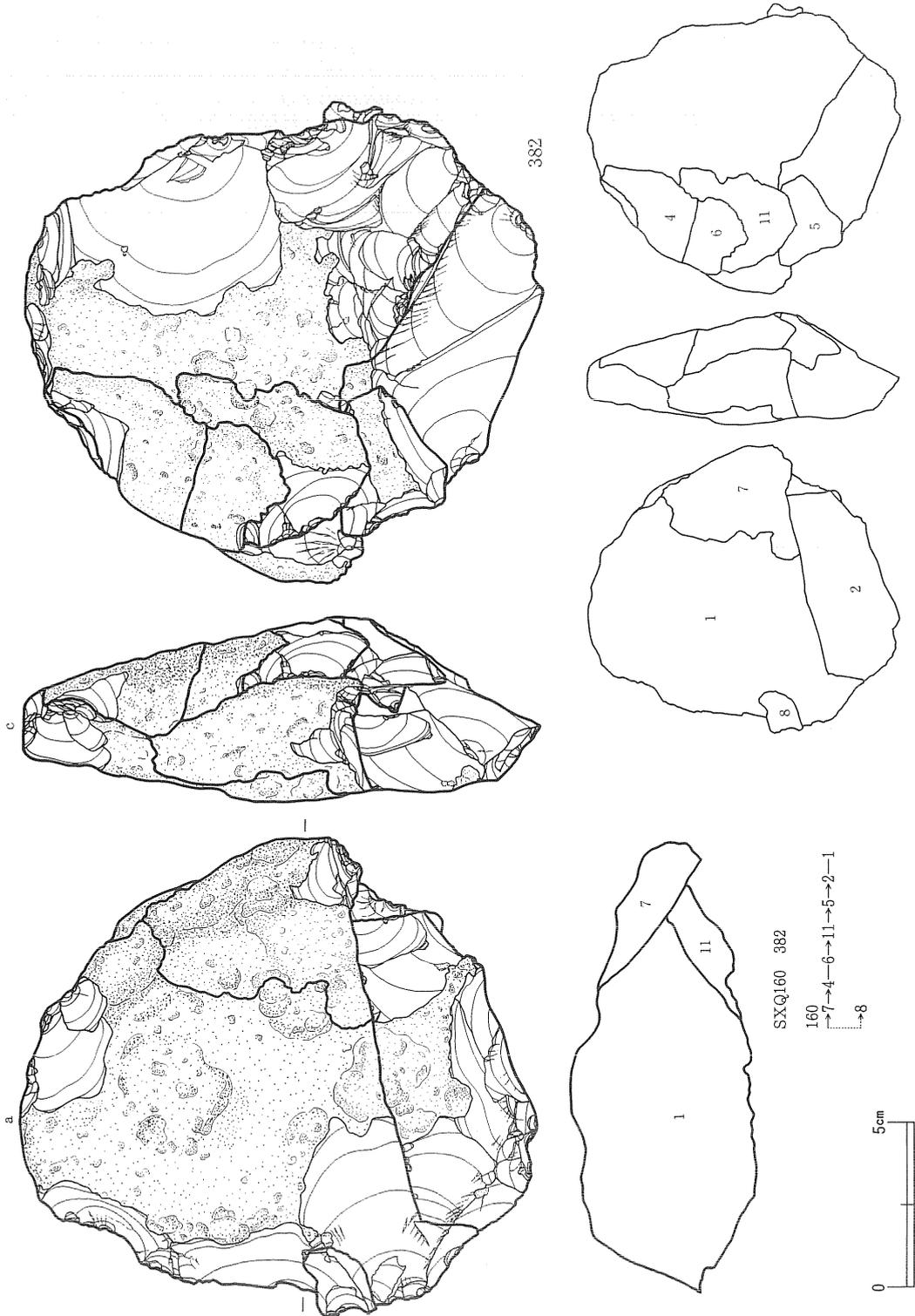
第4章 調査の記録



- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 黄褐色土 (10Y R5/8) | 34 黄褐色土 (10Y R5/8) |
| 2 黄褐色土 (10Y R5/8) | 35 黄褐色土 (10Y R5/8) |
| 3 黄褐色土 (10Y R5/8) | 36 黄褐色土 (10Y R5/8) |
| 4 黄褐色土 (10Y R5/8) | 37 黄褐色土 (10Y R5/8) |
| 5 黄褐色土 (10Y R5/8) | 38 礫層 |
| 6 明黄褐色土 (10Y R6/8) | 39 黄褐色土 (10Y R5/8) |
| 7 明黄褐色土 (10Y R6/8) | 40 黄褐色土 (10Y R5/6) |
| 8 黄褐色土 (10Y R5/8) | 41 黄褐色土 (10Y R5/8) |
| 9 黄褐色土 (10Y R5/8) | 42 明黄褐色土 (10Y R6/6) |
| 10 明黄褐色土 (10Y R6/8) | 43 明黄褐色土 (10Y R6/6) |
| 11 黄褐色土 (10Y R5/8) | 44 黄褐色土 (10Y R5/8) |
| 12 黄褐色土 (10Y R5/8) | 45 黄褐色土 (10Y R5/8) |
| 13 明黄褐色土 (10Y R6/8) | 46 黄褐色土 (10Y R5/8) |
| 14 黄褐色土 (10Y R5/8) | 47 明黄褐色土 (10Y R6/6) |
| 15 黄褐色土 (10Y R5/8) | 48 黄褐色土 (10Y R5/8) |
| 16 明黄褐色土 (10Y R6/8) | 49 黄褐色土 (10Y R5/8) |
| 17 黄褐色土 (10Y R5/8) | 50 黄褐色土 (10Y R5/6) |
| 18 黄褐色土 (10Y R5/8) | 51 黄褐色土 (10Y R5/6) |
| 19 黄褐色土 (10Y R5/8) | 52 黄褐色土 (10Y R5/6) |
| 20 黄褐色土 (10Y R5/8) | 53 黄褐色土 (10Y R5/6) |
| 21 明黄褐色土 (10Y R6/8) | 54 黄褐色土 (10Y R5/8) |
| 22 黄褐色土 (10Y R5/8) | 55 礫層 細砂を含む。 |
| 23 黄褐色土 (10Y R5/8) | 56 礫層 粗砂を含む。 |
| 24 黄褐色土 (10Y R5/8) | 57 礫層 |
| 25 黄褐色土 (10Y R5/6) | 58 礫層 |
| 26 黄褐色土 (10Y R5/8) | 59 黄褐色土 (10Y R5/6) |
| 27 黄褐色土 (10Y R5/8) | 60 礫層 |
| 28 黄褐色土 (10Y R5/8) | 61 礫層 |
| 29 黄褐色土 (10Y R5/8) | 62 礫層 |
| 30 黄褐色土 (10Y R5/8) | 63 黄褐色土 (10Y R5/6) |
| 31 黄褐色土 (10Y R5/8) | 64 礫層 |
| 32 黄褐色土 (10Y R5/8) | 65 礫層 |
| 33 黄褐色土 (10Y R5/8) | |



第203図 石器集中部 (21) SXQ155・161



第204図 遺構内出土遺物 (132) SXG160

S X Q 155 (第 203 図、図版 23)

上段で調査区中央のMD54 区に位置し、表土下約 1 m の河道 B 堆積層下部の礫層上面で検出。総数は 26 点で、約径 1.4 m の広がりをもつが疎らである。垂直分布は 0.1 m の幅に収まり、礫層の凹凸に沿うように僅かな高低差が見られる。チップは確認されなかった。

S X Q 156 (第 202 図、図版 23)

上段で調査区中央の L T 52 区に位置し、表土下約 1.8 m の河道 A 堆積層上部の砂層で検出。取り上げ総数は 160 点で、主に長軸 0.6 m × 短軸 0.4 m の楕円形の狭い範囲に集中している。垂直分布は平均 0.1 m でほぼ水平な状態を示し、石器集中範囲の下に窪みらしいものは認められない。遺構は、多量のチップが共伴する石器製作跡である。

S X Q 159 (第 196 図、図版 23)

上段で調査区中央の M E 55 区に位置し、表土下約 1 m の河道 A 堆積層下部の礫層上面で検出。総数は 23 点で、長軸 0.8 m × 短軸 0.4 m の楕円形の範囲に集中している。垂直分布は 0.05 m の幅に収まるものの、東から西へ緩やかに傾斜する。チップは確認されなかった。

S X Q 160 (第 196・204 図、図版 23・62)

上段で調査区中央のMD54 区に位置し、表土下約 2 m の河道 A 堆積層下部の礫層上面で検出。総数は 11 点で、長軸 4 m × 短軸 3 m の範囲に疎らな在り方を示す。垂直分布は 0.2 m の幅に収まるものの、個々には高低差のばらつきが激しい。チップは確認されなかった。

出土遺物は、接合資料・両面調整素材がある。

接合資料 (382) 分厚い円盤状の河原石を素材にし、縁辺に粗い調整がある。両面調整素材に、いくつかの剝片が接合する。

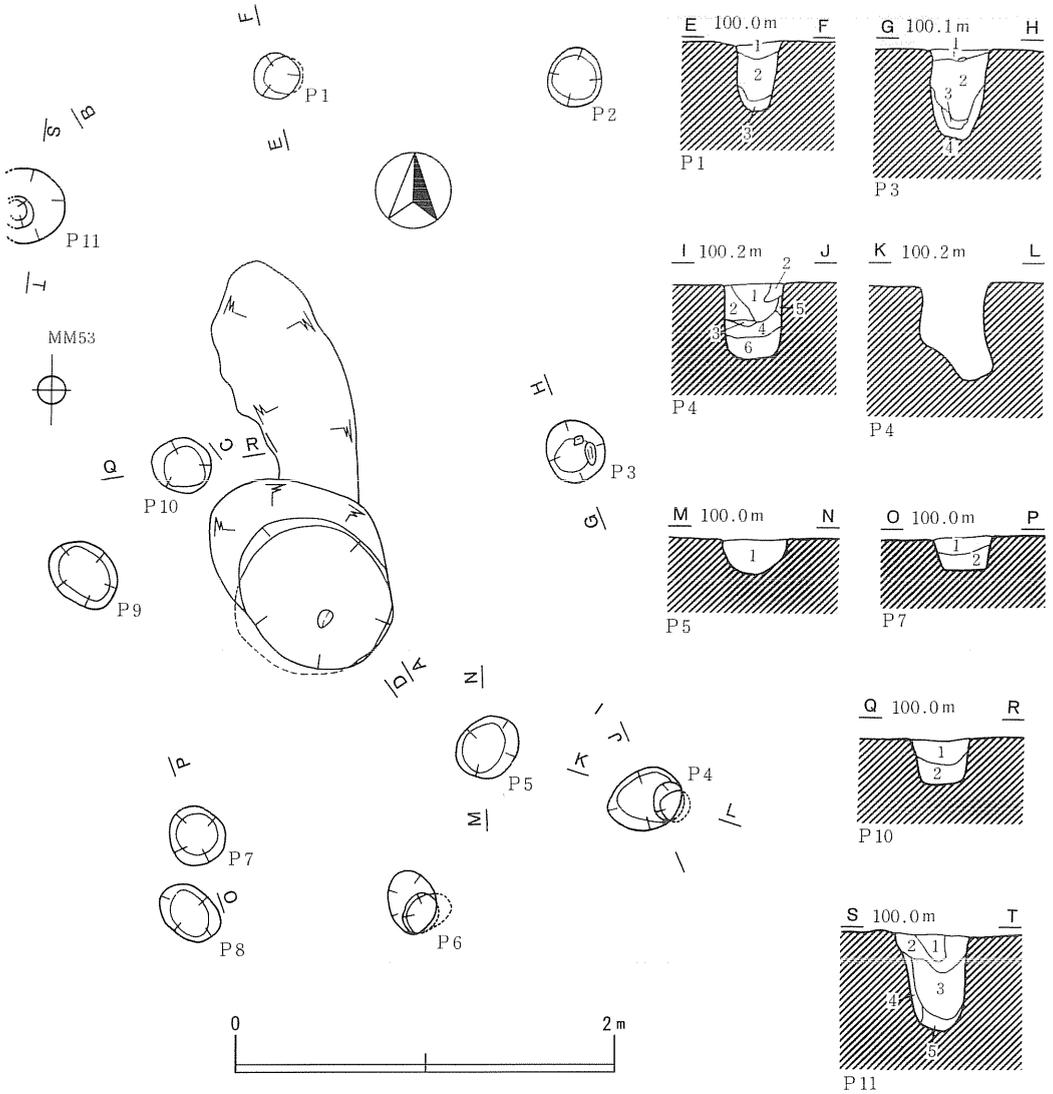
両面調整素材 (382) a 面右上の側縁を除いて粗い調整がある。下位に同面からの折断があり、途中で製作を断念している。

S X Q 161 (第 203 図、図版 24)

上段で調査区中央のMA・MB54 区に位置し、表土下約 2.5 m で河道 A 堆積層中位の礫と砂層の混在する層から検出。総数は 21 点で、長軸 1.3 m × 短軸 1 m の楕円形の範囲に疎らに出土した。垂直分布は 0.1 m の幅に収まり、水平な状態を示す。チップは確認されなかった。

3 前期

前期の遺構と遺物は、調査区西側で河道 G 堆積層を中心に弧状の分布を示す。層位的には、河道 F 堆積層から河道 H 堆積層までで、基本層位の IV 層が中心と考えられる。遺構の種類と数は、竪穴住居跡 2 軒、竪穴状遺構 1 基、土坑 13 基、石器石材集積遺構 1 ヲ所、焼土遺構 1 基、土器集中部 1 ヲ所、石器集中部 8 ヲ所である。遺物は、羽状縄文・条痕文の前期土器の外に、



P 1 1 暗褐色土 (10Y R3/3) 炭粒を含む。しまる。
 2 褐色土 (10Y R4/4) 炭粒を含む。しまる。
 3 黄褐色土 (10Y R5/6) しまる。

P 3 1 黒褐色土 (10Y R2/3) 炭粒を含む。しまる。
 2 暗褐色土 (10Y R3/3) 炭粒を含む。しまる。
 3 褐色土 (10Y R4/6) しまる。
 4 黄褐色土 (10Y R5/6) しまる。

P 4 1 黒褐色土 (10Y R2/3) 炭粒を含む。しまる。
 2 暗褐色土 (10Y R3/3) 炭粒を含む。しまる。
 3 黄褐色土 (10Y R5/6) 砂粒を含む。しまる。
 4 暗褐色土 (10Y R3/4) 炭粒を含む。しまる。
 5 暗褐色土 (10Y R3/4) 炭粒を含む。しまる。
 6 黄褐色土 (10Y R5/6) しまる。

P 7 1 褐色土 (10Y R4/6) 炭粒を含む。しまる。
 2 黄褐色土 (10Y R5/6) しまる。

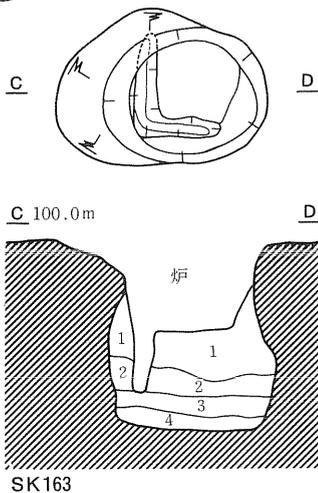
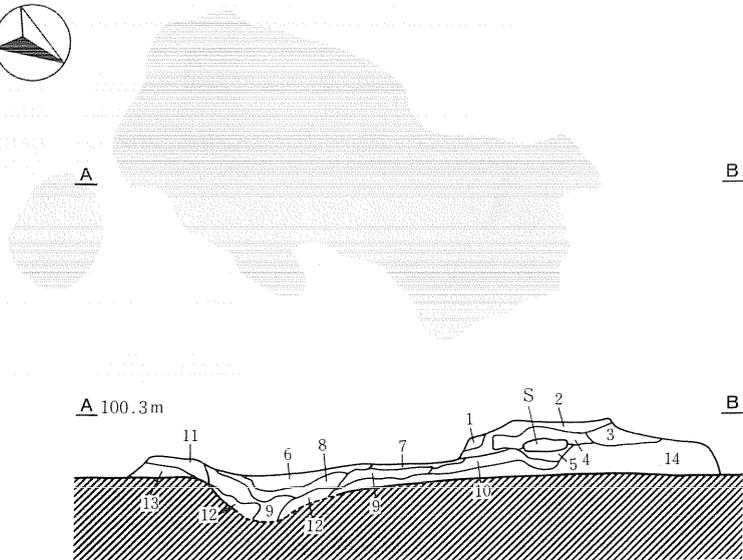
P 5 1 褐色土 (10Y R4/4) 暗褐色土、炭粒を含む。

P10 1 暗褐色土 (10Y R3/4) 炭粒を含む。しまる。
 2 黄褐色土 (10Y R5/6) 砂粒を含む。しまる。

P11 1 暗褐色土 (10Y R3/3) 炭粒を含む。しまる。
 2 暗褐色土 (10Y R3/4) 炭粒を含む。しまる。
 3 褐色土 (10Y R4/4) 炭粒を含む。しまる。
 4 黄褐色土 (10Y R5/6) 炭粒を含む。しまる。
 5 褐色土 (10Y R4/6) 炭粒を含む。しまる。

第205図 竪穴住居跡(1) S I 46

第4章 調査の記録

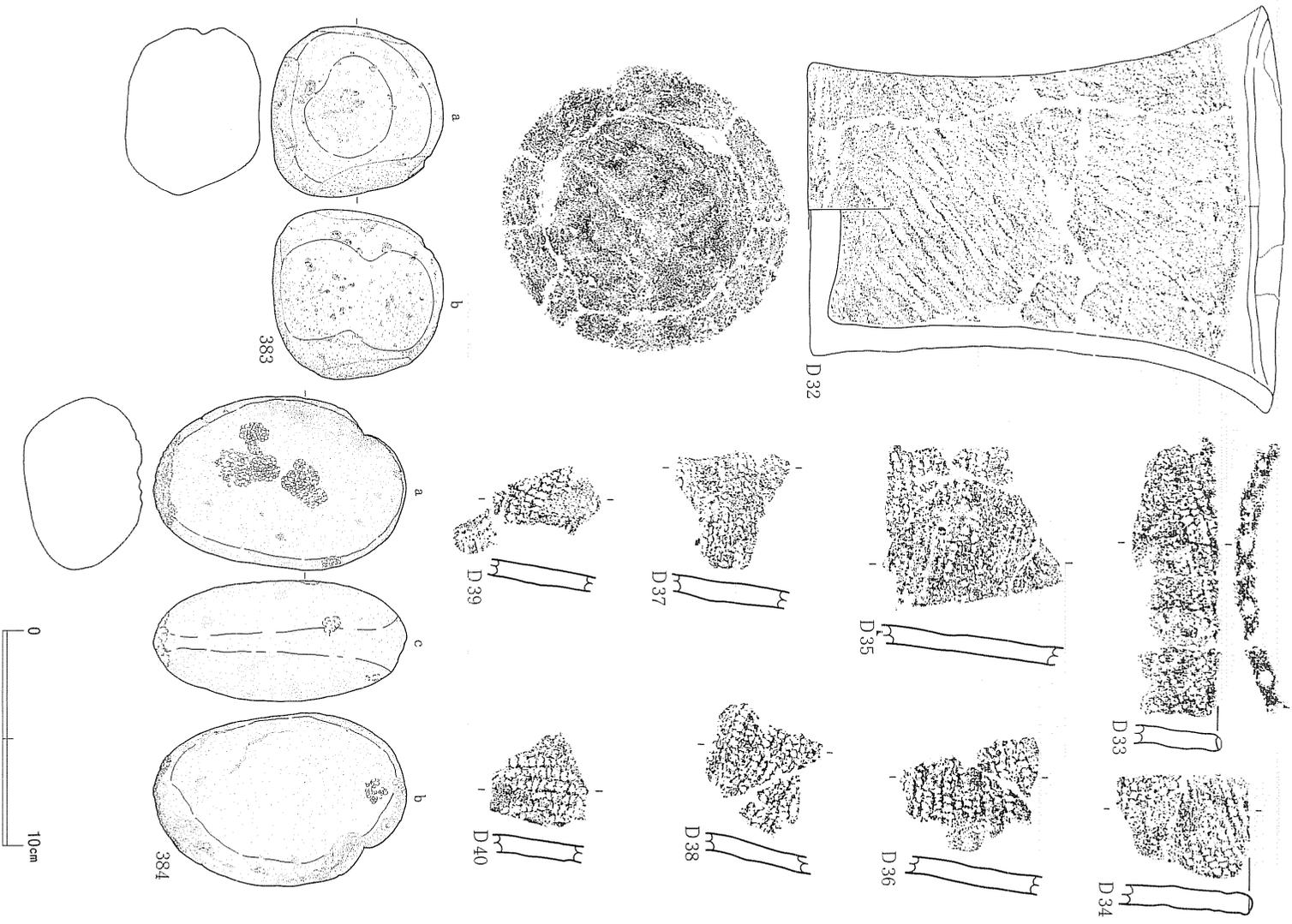


- 1 黄褐色土 (10Y R5/8) 炭粒を含む。しまり弱。
- 2 暗褐色土 (10Y R3/4) 炭粒を含む。しまる。
- 3 暗褐色土 (10Y R3/3) 炭粒を含む。しまる。
- 4 褐色土 (10Y R4/6) 炭粒を含む。しまる。
- 5 暗褐色土 (10Y R3/4) 炭粒を含む。しまる。
- 6 褐色土 (10Y R4/4) 炭粒を含む。しまる。
- 7 暗褐色土 (10Y R3/3) 焼土、炭粒を含む。しまる。
- 8 暗褐色土 (10Y R3/3) 焼土粒、炭粒を含む。しまる。
- 9 暗赤褐色土 (10Y R3/4) 焼土を含む。しまる。
- 10 褐色土 (7.5Y R4/4) 焼土、炭粒を含む。しまる。
- 11 黒褐色土 (10Y R2/3) 焼土粒、炭粒を含む。しまる。
- 12 褐色土 (10Y R4/4) 炭粒を含む。しまる。
- 13 黄褐色土 (10Y R5/6) しまる。
- 14 暗褐色土 (10Y R3/4) 炭粒を含む。しまる。

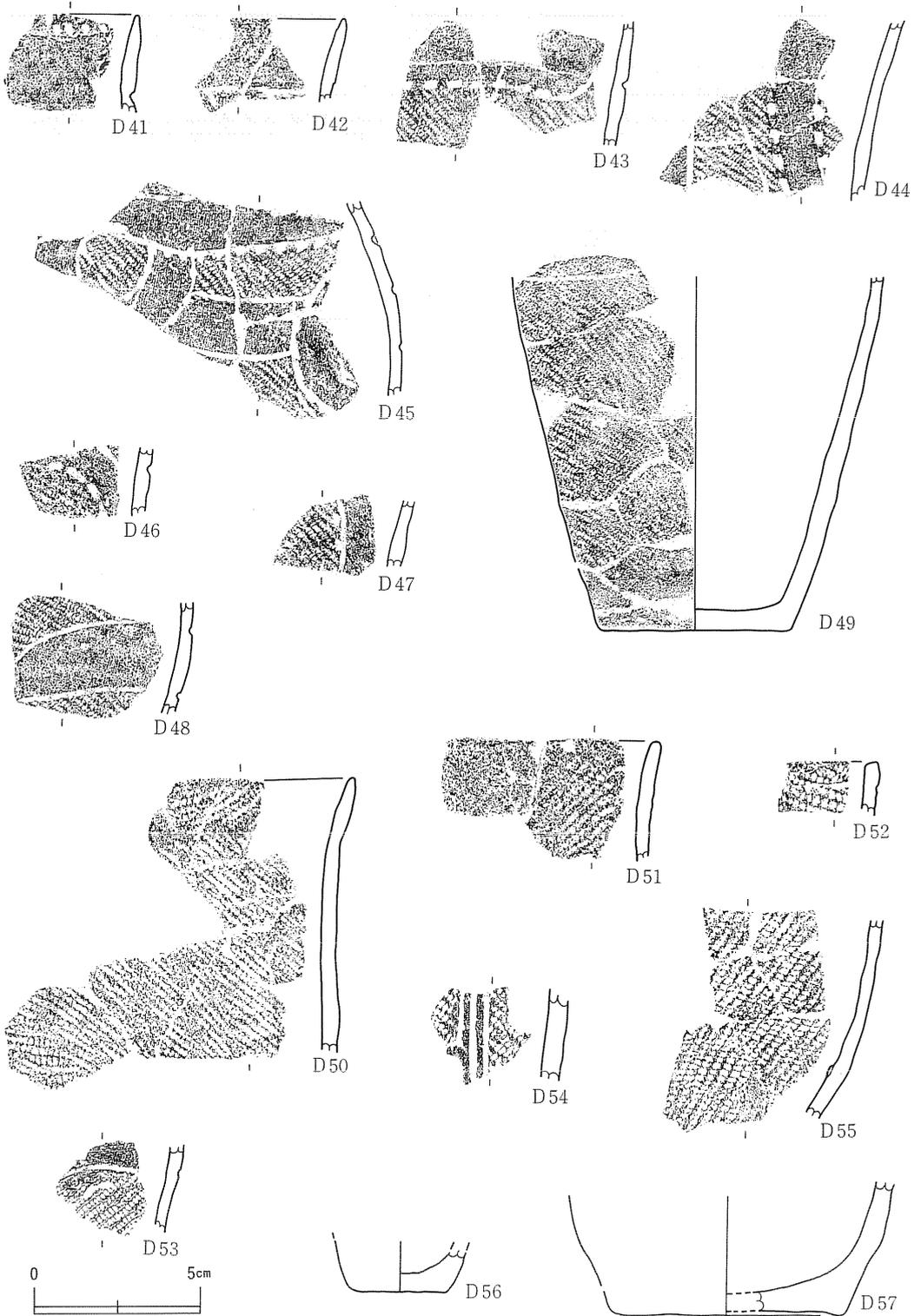
- 1 褐色土 (10Y R4/4) 礫、砂粒を含む。しまる。
- 2 暗褐色土 (10Y R3/3) 炭化物を含む。しまる。
- 3 褐色土 (10Y R4/4) 炭化物、砂粒を含む。しまる。
- 4 暗褐色土 (10Y R3/3) 炭化物、砂粒を含む。しまる。



第206図 竪穴住居跡(2) S I 46 炉・SK 163



第207図 遺構内出土遺物(133) S146①土器・石器



第208図 遺構内出土遺物 (134) S I 46②土器

石鏃・石匙・石篋等各種の石器が出土している。

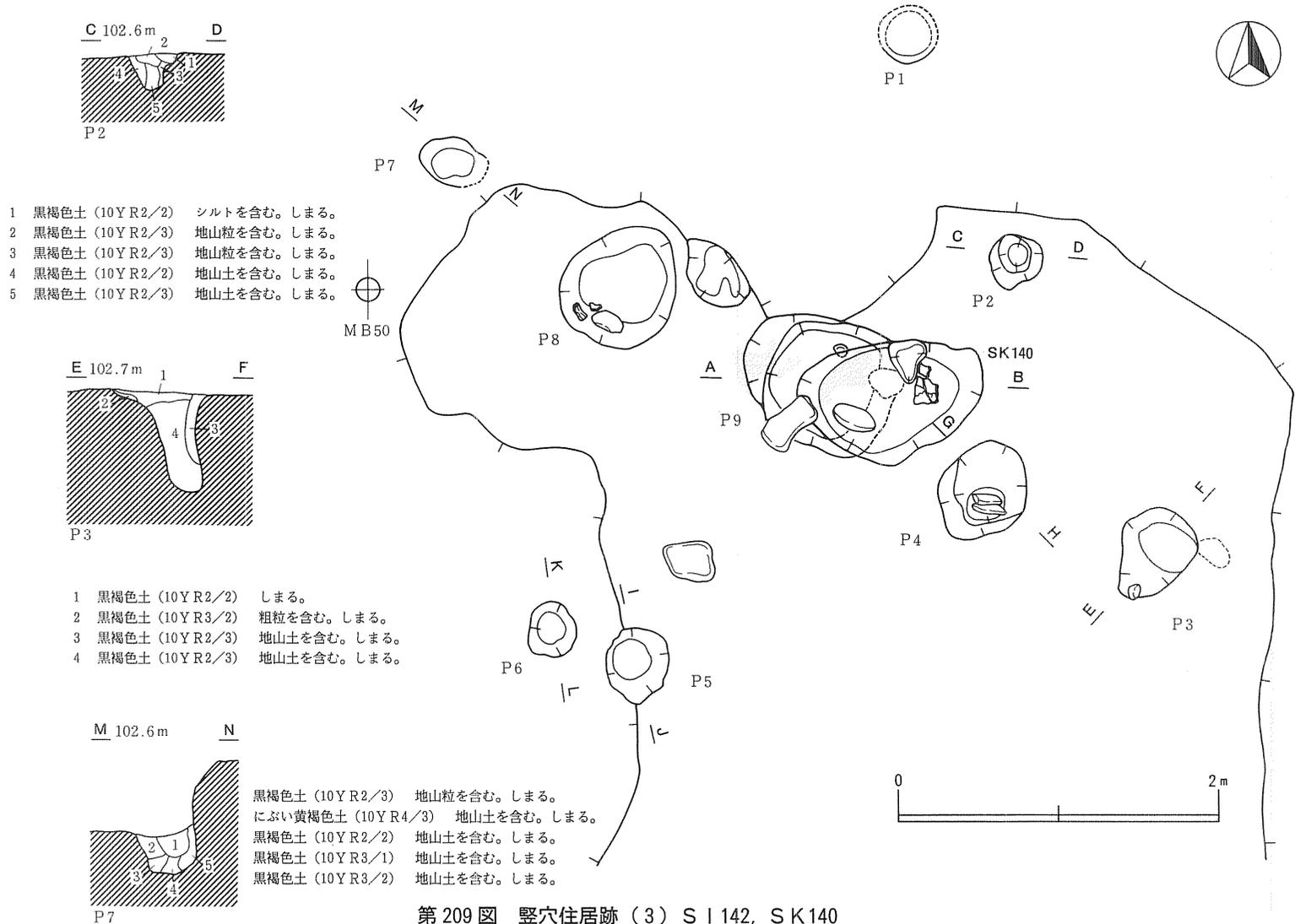
(1) 竪穴住居跡

S I 46 (第205～208図、図版1・75)

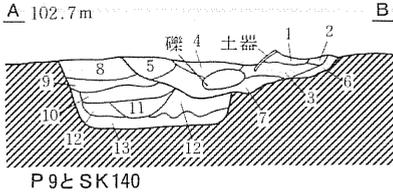
下段で調査区南西端のML52・53区に位置し、表土下約1.4mの河道H堆積層で検出。掘り下げ途中で、焼土とその上の攪乱層より縄文中期の土器が確認されたものである。攪乱で壁が削平されているものの、辛うじて床面の一部・柱穴・炉跡・焼土が見つまっている。遺構が確認された時点で、当地区は島状に残された状態のため、すでに削平されてしまった柱穴もあると思われる。平面形は不明だが、現状のピットによる広がりには4.7m×3.4mである。炉の掘り方は、1.15m×0.9mの不整楕円形で、この北側には緩い傾斜部をもつ。深さは0.5mと深い。壁面は、南側で直角に隣り合う面を造り、外は湾曲している。直角に交わる面では、壁づたいに仕切り状の溝が直角に巡る。その幅は約0.1mで、床からの深さは約0.3mである。上部の緩い傾斜部は、S K163の開口部と考えられる。炉の覆土は、上位0.2mまでは明確な焼土を含むが、それ以下は焼土粒を含んだ暗褐色土で締まりがない。溝の覆土は、黒褐色土で焼土粒を含まず軟らかい。炉の直下にはS K163が存在するので、土坑の窪みを利用した構築と考えられる。ピットはP1～P11まで検出した。その大きさは、P1が0.25m×0.25mで深さ0.4m、P2が0.3m×0.3mで深さ0.2m、P3が0.3m×0.3mで深さ0.5m、P4が0.4m×0.3m深さ0.5m、P5が0.35m×0.3mで深さ0.3m、P6が0.3m×0.25mで深さ0.5m、P7が0.3m×0.3m深さ0.2m、P8が0.35m×0.25mで深さ0.2m、P9が0.4m×0.3mで深さ0.3m、P10が0.3m×0.3m深さ0.25m、P11は現状の径が0.4m深さ0.45mである。形態は円形もしくは楕円形で、覆土は暗褐色土が主体を占める。この内、P7・P9・P10は柱穴とは考えにくい。焼土は炉跡を含んだ周りにあり、約2.5m×1mの広がりがある。住居跡の南東からは、ピットに近接して縄文前期の土器が出土しており、これが住居跡に伴うと考えられる。したがって、本住居跡の時期は、縄文時代前期に考えている。

出土遺物は、深鉢の縄文土器以外に、擦石・凹石の礫石器がある。

深鉢(D32～D57) D33～D40、D41～D49はそれぞれ同一個体である。D32は、口縁部と胴部の一部を欠損。口縁部は幾分波状で、口唇部はやや丸みをもつ。胴部中央からラップ状に外反し、そこから底部へは緩く広がる。口径19cm、底径13.5cm、器高22.3cmである。底部は上げ底で、成形は粘土盤の周囲に粘土紐を巻き、その上に積み上げている。口縁部には僅かな無文帯あり、以下にLの縄文を全面に施す。内面には工具によると考えられるナデがあり、底面は指頭圧痕の後削り込んでいる。色調は外面が橙色から褐色で裏面は褐色。内面には、煤が顕著に認められる。器厚は胴部中央で約1cmである。胎土には1～2mmの白色粒が顕著で、焼成は良好。D33からD40の内、D33・D34は口唇に刻み状の痕跡がある。筒状の器形

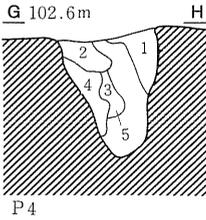


第 209 図 竪穴住居跡 (3) S I 142, SK 140



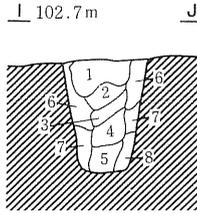
P9とSK140

- 1 黒褐色土 (10Y R2/2) 地山土を含む。しまる。
- 2 暗褐色土 (10Y R3/4) 地山土を含む。しまる。
- 3 黒褐色土 (10Y R2/2) 地山土、炭粒を含む。しまる。
- 4 黒褐色土 (10Y R2/3) 地山土、炭粒を含む。しまる。
- 5 黒褐色土 (10Y R3/2) 地山土、焼土粒、炭粒を含む。しまる。
- 6 褐色土 (10Y R4/4) 地山土を含む。しまる。
- 7 黒褐色土 (10Y R2/2) 地山土、焼土粒、炭粒を含む。しまる。
- 8 暗褐色土 (7.5Y R3/3) 地山土、
- 9 黒褐色土 (10Y R3/2) 地山土、焼土粒、炭化物を含む。しまる。
- 10 黒褐色土 (10Y R2/3) 地山土、焼土粒、炭粒を含む。しまる。
- 11 黒褐色土 (10Y R3/2) 地山土、焼土粒、炭粒を含む。しまる。
- 12 黒褐色土 (10Y R2/3) 地山土、焼土粒、炭粒を含む。しまる。
- 13 暗褐色土 (10Y R3/3) 地山土、焼土粒、炭粒を含む。しまる。



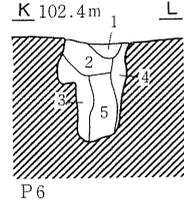
P4

- 1 黒褐色土 (10Y R2/1) シルトを含む。しまる。
- 2 黒褐色土 (10Y R2/2) 地山土を含む。しまる。
- 3 黒褐色土 (10Y R3/1) 地山土を含む。しまる。
- 4 暗褐色土 (10Y R3/3) 地山土を含む。しまる。
- 5 黒褐色土 (10Y R2/3) 地山土を含む。しまる。



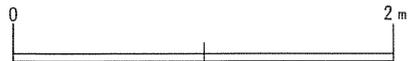
P5

- 1 褐色土 (10Y R4/6) 地山土、シルトを含む。しまる。
- 2 暗褐色土 (10Y R3/4) 地山土、シルトを含む。しまる。
- 3 黒褐色土 (10Y R2/3) シルトを含む。しまる。
- 4 黒褐色土 (10Y R2/3) シルトを含む。しまる。
- 5 黒色土 (10Y R2/1) シルトを含む。しまる。
- 6 灰黄褐色土 (10Y R4/2) シルトを含む。しまる。
- 7 黒褐色土 (10Y R2/2) シルトを含む。しまる。
- 8 黒褐色土 (10Y R2/3) シルトを含む。しまる。



P6

- 1 黒褐色土 (10Y R2/2) 地山土を含む。しまる。
- 2 暗褐色土 (10Y R3/4) 地山土を含む。しまる。
- 3 褐色土 (10Y R4/4) 地山土を含む。しまる。
- 4 にぶい黄褐色土 (10Y R4/3) 地山土を含む。しまる。
- 5 黒褐色土 (10Y R2/3) 地山土を含む。しまる。



第210図 竪穴住居跡(4) S I 142, S K 140

で、口縁部がやや外傾する。これらの器厚は1 cm 内外である。色調は内外面共にぶい褐色土で、外面に煤の付着がある。胎土は5 mm 前後の小石を含み、焼成は堅緻。D32 は大木5式に属す。D41～D49 は、胴上位に丸みがあり底部へ窄まるキャリパー状の形態で、地文にLRの縄文を施す。口縁は無文帯で、胴部上位には沈線や沈線状の列点文による区画文がある。文様は渦巻きや曲線文で構成され、磨り消し文を多様する。これらの器厚は、胴部で5～10mm である。色調は外面が橙色～にぶい褐色で、内面は灰白色である。内面には煤の付着が著しい。胎土は砂粒が顕著で、焼成は不良。D50 はLRの縄文を施すが、口縁部で羽状を呈す。D53 には沈線と磨り消し縄文が、D54 には貼付文を認める。D50～D57 は器厚が5～10mm である。色調が褐色のものが多く、胎土には砂粒が目立つ。これらの焼成は、D53・D54 が良好な外は不良。これらの時期は、中期と考えられる。

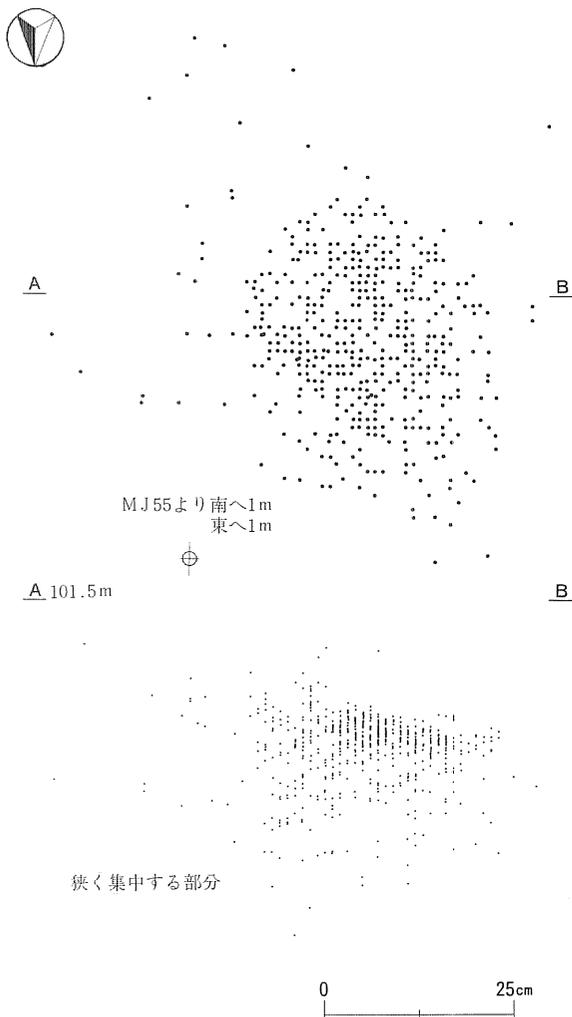
擦石 (383) c・d面に擦った不明瞭な痕跡が認められる。

凹石 (384) a面の中央に凹部がある。b面の上位を擦っている可能性がある。

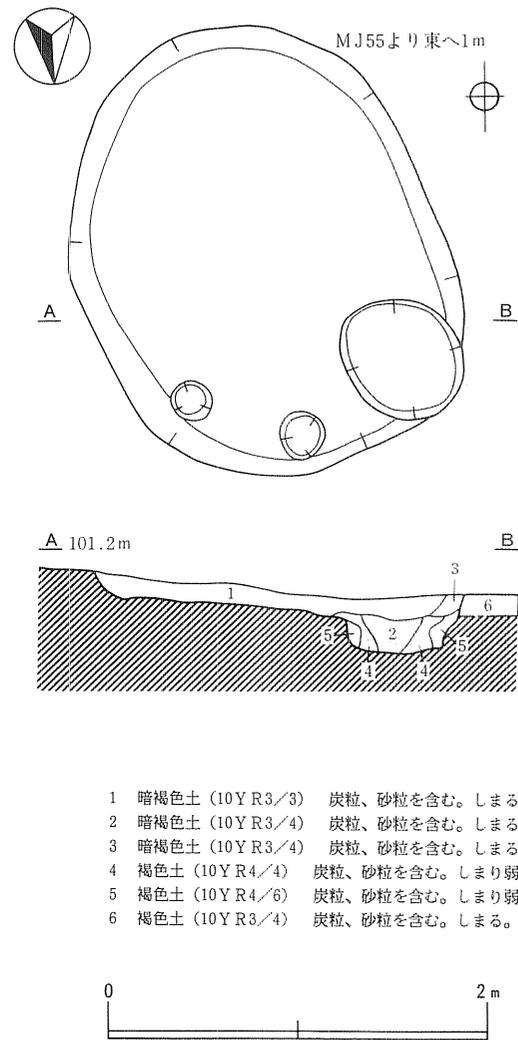
S I 142 (第209・210 図、図版1)

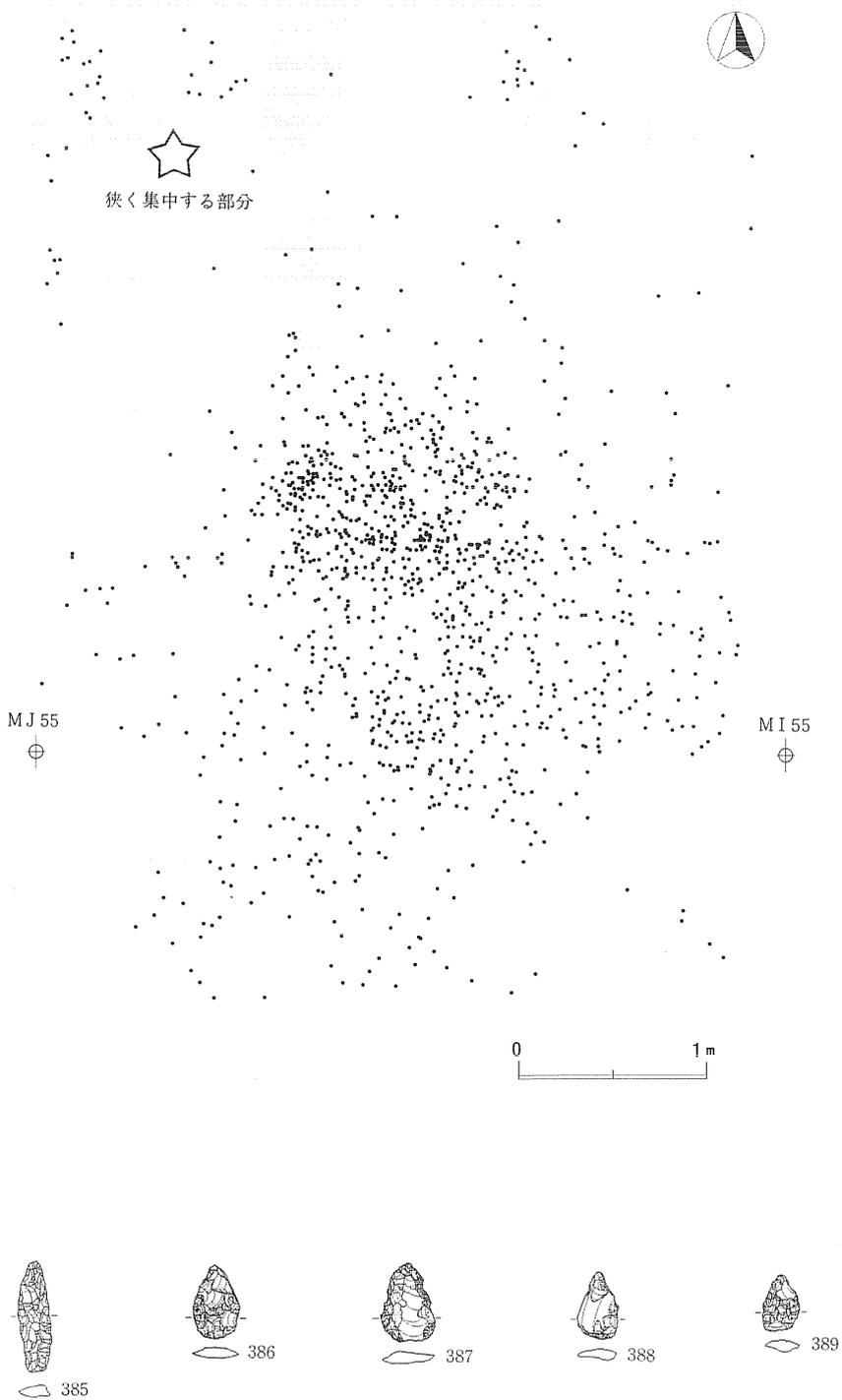
上段で調査区南側のLT49・50区、MA49・50区に位置し、表土下約0.3mのV層で検出。IV層とV層の掘り下げ途中で、ピットおよび焼土を含む土坑等まとまった遺構が見つかり、個々に精査を行った。その結果、炉跡を中心にした周辺に柱穴と考えられるピットが確認され、堅穴住居跡と判断するに至った。床面はV層中と考えられ、覆土と掘り込み面の予想されるIV層は黒色土で覆土と類似している。そのために、プランを確認できないまま掘り進めてしまったもので、壁の一部分も留めることができなかった。炉跡はSK140に切られている。平面形は不明だが、ピットによる広がりには5.5m×4.7mである。住居跡からは、炉跡1基、土坑状の落ち込み1基(P8)、柱穴7個(P1～P7)、炉跡を切り込んだピット1個(P9)を検出している。炉跡は長軸1m×短軸0.8mの不整楕円形で、深さは0.35mである。覆土は暗褐色系の土で占められ、すべてに焼土粒を含む。P8は長軸0.8m×短軸0.7mの不整楕円形で、深さは0.15～0.2mである。覆土は黒褐色土が主体である。柱穴はP1～P7まで検出した。その大きさは、P1が推定0.35m×推定0.35mで深さ0.35m、P2が0.35m×0.3mで深さ0.2m、P3が0.6m×0.5mで深さ約0.9m、P4が0.7m×0.55mで深さ約0.8m、P5が0.5m×0.4mで深さ0.6m、P6が0.35m×0.3mで深さ0.75m、P7が0.4m×0.3mで深さ約0.65mである。形態は円形もしくは楕円形で、黒褐色土が主体を占める。この内、P3は東側にかなりの傾斜をもち、P4では根石として約0.2mの礫2個が揃えて置かれてあった。この外P9は、長軸1.2m×短軸0.75mで深さ約0.2mの不整楕円形である。覆土より、中期もしくは後期と考えられる大型の土器片が出土している。覆土は黒褐色土主体である。

住居の炉跡からは、縄文があり繊維を含んだ土器片が1点出土したが、紛失してしまった。

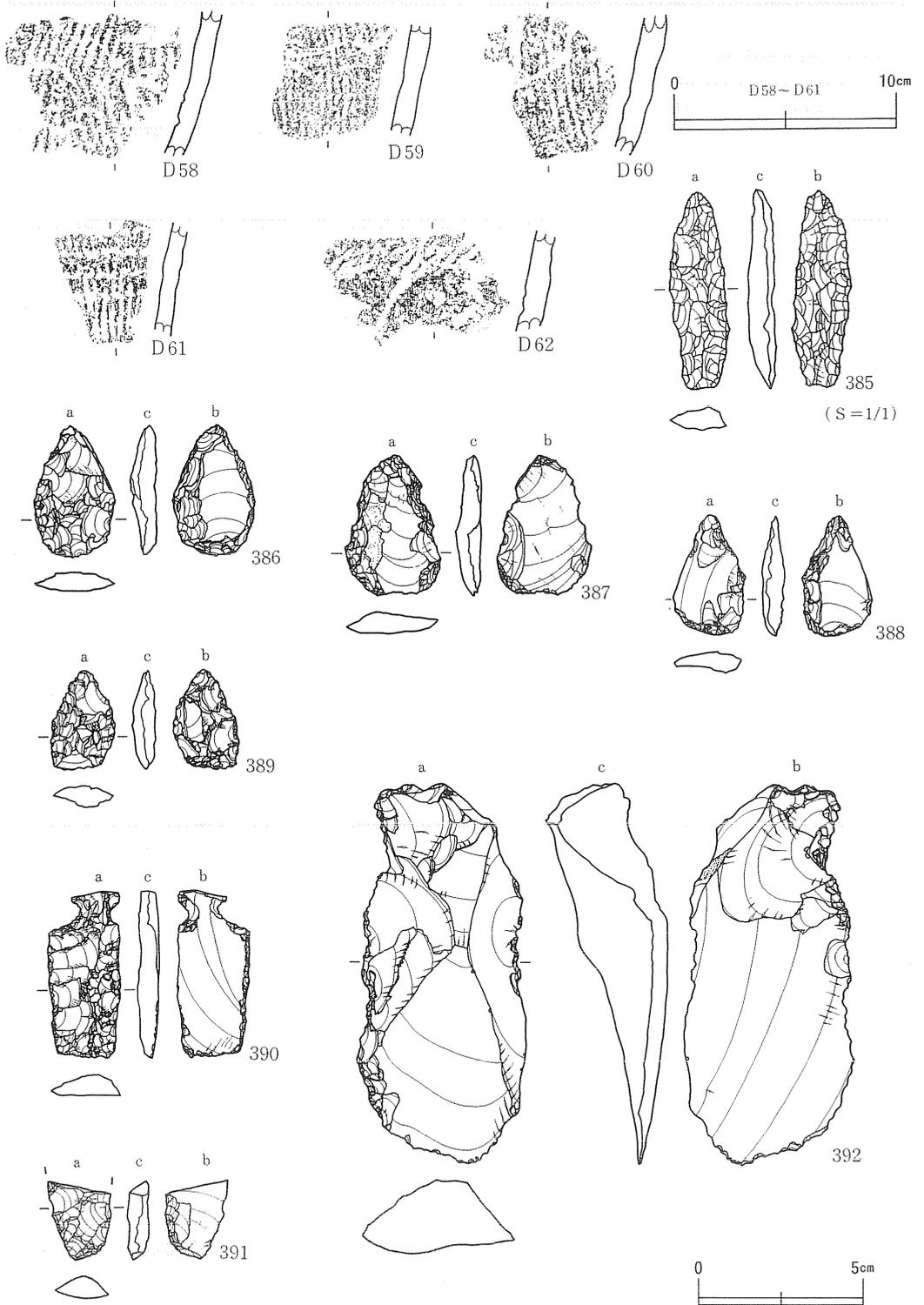


第 211 図 竖穴状遺構 (3) SXH19





第212図 竖穴状遺構(4) SXH19



第213図 遺構内出土遺物 (135) S X H19 土器・石器

住居跡の年代はこの土器によっている。

(2) 竪穴状遺構

SXH19 (第211~213図、図版2・75)

下段で調査区中央西側のMI54・55区に位置し、表土下約0.3mで河道G堆積層上部の暗褐色土(第15図④-a層)で検出。竪穴状遺構には、これに伴う石器が集中して出土した規模は、長軸2.4m×短軸1.9mの楕円形で、深さは約0.2mである。床は西側へ僅かに傾斜する。北西の壁際より、長軸0.7m×短軸0.6mの楕円形で、深さ0.15mの落ち込みを検出した。その東側の壁際からは、0.2~0.25mで深さ約0.05mの浅いピット2つを確認している。これらの覆土は、炭粒を少量含んだ砂質の暗褐色土である。

石器集中部は、総数が1,849点で、5.5m×4mの広がりをもつ。その中には、縄文時代の土器片を僅かに含む。石器の集中は、竪穴状遺構を含むその周りと北西部に顕著に認められる。特に、後者は径0.3mの狭い範囲から多量に出土し、その垂直分布から深さ0.2~0.3mのピットが存在したのと考えられる。石器集中部は、竪穴状遺構に伴うと考えられることから、竪穴状遺構で石器製作を行った可能性がある。

出土遺物は、深鉢と考えられる縄文土器片以外に、石鏃・石匙・削器の石器がある。

深鉢(D58~D62) 胎土にはすべて繊維を含む。D58・D59は同一個体で、外面にはRLの縄文を施し、内面にはD61・D62と共に条痕文がある。D61は簾状に見える痕跡で、横走する4本の条に撚り紐の痕跡が縦位に連続する。条の節が交互に出現することから、横走する縄文は複数の撚り紐に絡んだ縄の原体で、これを横に回転したものである。これらの器厚は、D61が7~8mm、外は7~10mmである。色調は外面が橙色、内面が灰褐色。胎土には、繊維の外砂粒を顕著に含む。焼成は不良。前期前半に属する。

石鏃(385~389) 棒状でc面の先端は左に反る。386~389は未製品と考えられるが、386はa面右側縁に槌状剝離があり彫器の可能性もある。

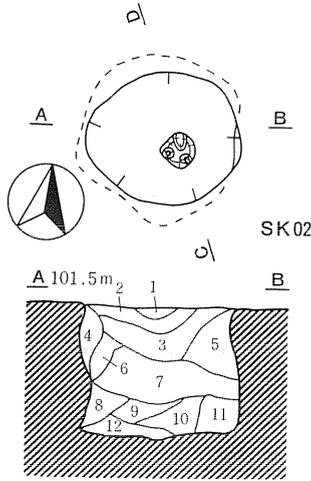
石匙(390・391) 390は横長剝片で縦が短く、再利用したものであろう。側縁の角度は、a面左側縁が緩く右側縁は急である。b面はトロトロして光沢をもつ。391は先端部の破片である。

削器(392) 横長剝片で、主にa面左側縁に調整がある。

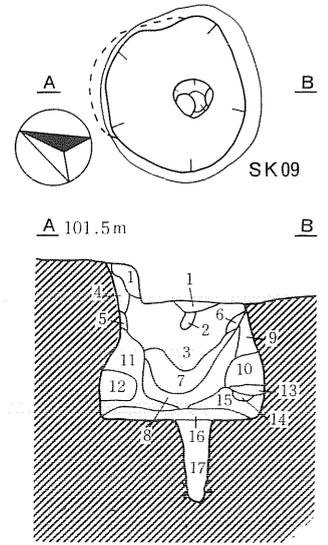
(3) 土坑

SK02 (第214図、巻頭図版4)

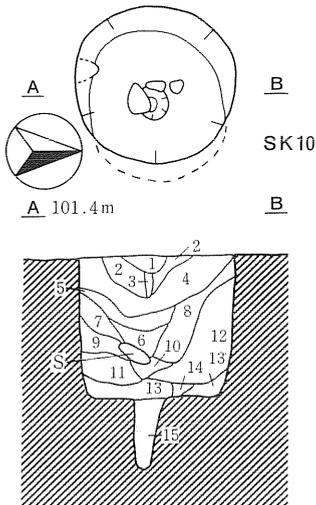
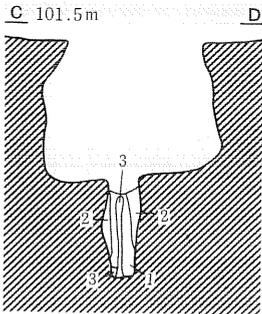
下段で調査区中央北西側のMI61区に位置し、表土下約0.1mの河道F堆積層中位の黄褐色土で検出。掘り込み面は、河道G堆積層中位もしくは上位(第15図の④もしくは②層)と考えられ、黒褐色土の円形プランとして確認。土坑は坑底の中央にピットをもつ形態で、平面形は下



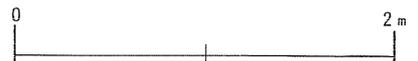
- 1 暗褐色土 (10Y R3/4) 砂粒を含む。しまる。
- 2 黒褐色土 (10Y R2/3) 砂粒を含む。しまる。
- 3 黒褐色土 (10Y R2/1) 小礫を含む。しまる。
- 4 黒褐色土 (10Y R2/3) しまる。
- 5 黒褐色土 (10Y R2/3) 礫を含む。しまる。
- 6 黒褐色土 (10Y R2/2) しまる。
- 7 黒色土 (10Y R2/1) 礫を含む。しまる。
- 8 黒褐色土 (10Y R2/3) しまり弱い。
- 9 黒褐色土 (10Y R2/2) しまり弱い。
- 10 黒褐色土 (10Y R2/3) しまる。
- 11 黄褐色土 (10Y R5/6) しまる。
- 12 黒色土 (10Y R2/1) しまる。



- 1 黄褐色土 (10Y R5/8) 砂粒を含む。しまる。
- 2 黄褐色ブロック (10Y R5/8) 地山粒を含む。
- 3 黒褐色土 (10Y R2/3) 礫、砂粒を含む。
- 4 暗褐色土 (10Y R4/3) 砂粒を含む。しまる。
- 5 黄褐色の地山ブロック (10Y R5/8) しまる。
- 6 暗褐色土 (10Y R4/3) 砂粒を含む。しまる。
- 7 黒褐色土 (10Y R2/3) しまる。
- 8 黒褐色土 (10Y R2/3) 炭粒、砂粒を含む。しまる。
- 9 暗褐色土 (10Y R3/4) 礫を含む。しまる。
- 10 暗褐色土 (10Y R3/4) しまる。
- 11 褐色土 (10Y R4/6) しまる。
- 12 暗褐色土のブロック (10Y R3/4) しまる。
- 13 黄褐色のブロック (10Y R5/8) しまる。
- 14 暗褐色のブロック (10Y R3/4) しまる。
- 15 暗褐色のブロック (10Y R3/4) しまる。
- 16 黒色土 (10Y R2/1) 砂粒を含む。しまる。
- 17 黄褐色土 (10Y R5/6) 小礫、砂粒を含む。

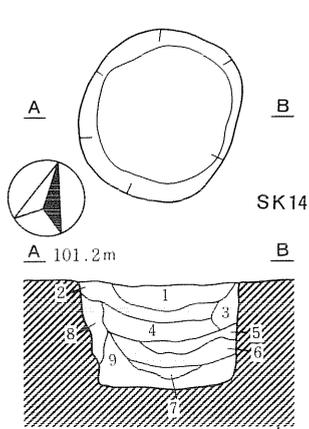


- 1 黄褐色土 (10Y R5/8) 砂粒を含む。しまる。
- 2 黒褐色土 (10Y R3/2) 礫、砂粒を含む。しまる。
- 3 黄褐色ブロック (10Y R5/8) 砂粒を含む。しまる。
- 4 黒褐色土 (10Y R2/3) 炭粒を含む。しまる。
- 5 黒褐色土 (10Y R2/3) 炭粒、礫を含む。しまる。
- 6 黒褐色土 (10Y R2/3) しまる。
- 7 褐色土 (10Y R4/4) しまる。
- 8 褐色土 (10Y R4/4) 炭粒を含む。しまる。
- 9 褐色土 (10Y R4/6) しまる。
- 10 褐色土 (10Y R4/4) しまる。
- 11 黒褐色土 (10Y R2/2) 砂粒を含む。しまる。
- 12 褐色土 (10Y R4/6) 砂粒を含む。しまる。
- 13 暗褐色土 (10Y R3/4) しまる。
- 14 褐色土 (10Y R4/6) しまる。
- 15 暗褐色土 (10Y R3/3) 砂粒を含む。しまり弱い。

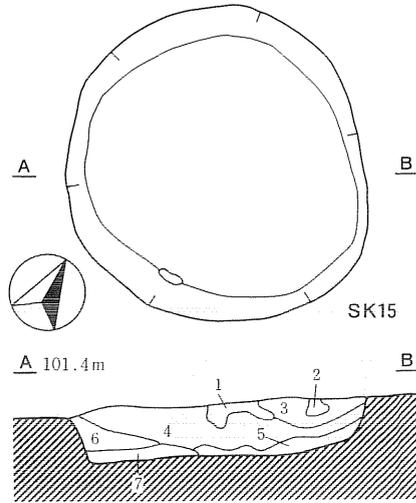


第214図 土坑(2) SK02・09・10

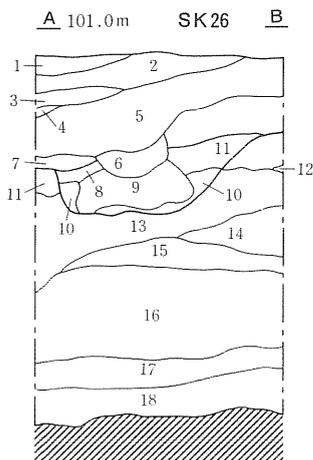
第4章 調査の記録



- 1 黒褐色土 (10Y R2/3) 炭粒を含む。しまる。
- 2 暗褐色土 (10Y R3/4) しまる。
- 3 暗褐色土 (10Y R3/4) しまる。
- 4 暗褐色土 (10Y R3/4) 炭化物、礫、砂粒を含む。しまる。
- 5 黒褐色土 (10Y R2/3) しまる。
- 6 黄褐色土 (10Y R5/8) 炭化物を含む。しまり弱。
- 7 褐色土 (10Y R4/4) しまる。
- 8 褐色土 (10Y R4/4) しまる。
- 9 褐色土 (10Y R4/6) 礫を含む。しまる。



- 1 黒褐色土 (10Y R2/2) 炭粒を含む。しまる。
- 2 暗褐色土 (10Y R2/3) 炭粒を含む。しまる。
- 3 褐色土 (10Y R4/4) 炭粒、礫を含む。しまる。
- 4 暗褐色土 (10Y R3/4) 炭粒、礫を含む。しまる。
- 5 褐色土 (10Y R4/4) 炭粒を含む。しまる。
- 6 黄褐色土 (10Y R5/8) しまる。
- 7 黒褐色土 (10Y R2/3) しまる。



- 1 表土
- 2 黄褐色土 (10Y R5/8) しまる。
- 3 褐色土 (10Y R5/6) 礫、砂粒を含む。しまる。
- 4 黄褐色土 (10Y R5/6) 礫を含む。しまる。
- 5 明黄褐色土 (10Y R6/8) 礫、砂粒を含む。しまる。
- 6 黄褐色土 (10Y R5/8) 礫を含む。しまる。
- 7 黒褐色土 (10Y R2/3) 炭粒、砂粒を含む。しまる。
- 8 褐色土 (10Y R4/4) 砂粒を含む。しまる。
- 9 暗褐色土 (10Y R3/4) 炭粒、礫を含む。しまる。
- 10 黄褐色土 (10Y R5/8) 砂粒を含む。しまる。
- 11 褐色土 (10Y R5/6) 炭粒を含む。しまる。
- 12 明黄褐色土 (10Y R6/8) 礫、砂粒を含む。しまる。
- 13 黄褐色土 (10Y R5/8) 砂粒を含む。しまる。
- 14 黄褐色土 (10Y R5/8) しまる。
- 15 黄褐色土 (10Y R5/8) 礫、粗粒を含む。しまる。
- 16 黄褐色土 (10Y R5/8) シルトを含む。しまる。
- 17 黄褐色土 (10Y R5/8) 砂粒を含む。しまり弱。
- 18 黄褐色土 (10Y R5/6) 砂粒、シルトを含む。しまる。



第215図 土坑(3) SK14・15・26

端が直径約0.9mの不整形円形を呈し、深さは0.7mである。ピットは径約0.15m、深さ0.55mである。土坑の底面は西側にやや傾斜し、壁は直線的に内側に傾斜する。覆土は底面付近が黄褐色土、他は黒褐色土で占める。ピットは、掘り方に3つの細い杭を束ねたように据えたもので、そこに地山を埋めて固定したと考えられる。

SK09 (第214図、図版3)

下段で調査区北西のMJ60・61区に位置し、表土下約0.1mの河道F堆積層上部の黄褐色土で検出。掘り込み面は、河道G堆積層中位もしくは上位(第15図の④もしくは②層)と考えられ、黒褐色土の円形プランとして確認。土坑は坑底の中央にピットをもつ形態で、平面形は直径約0.8mの不整形円形を呈し、深さは0.85mである。ピットはやや南側に偏しており、径は約0.2m、深さは0.4mである。土坑の底面は西側にやや傾斜し、壁は上位の2/3で抉れその下は袋状を呈す。覆土は中央が黒褐色のレンズ状を示し、ピット中は黒褐色土で軟らかい。

SK10 (第214図、図版3)

下段で調査区北西のMJ60区に位置し、表土下約0.3mの河道F堆積層上部の黄褐色土で検出。掘り込み面は、河道G堆積層中位もしくは上位(第15図の④もしくは②層)と考えられ、黒褐色土の円形プランとして確認。土坑は中央にピットをもつ形態で、平面形は直径約0.85mの円形を呈し、深さは0.75mである。ピットは径0.1m×0.15m、深さ0.3mである。底面は南側にやや傾斜し、壁の断面形はやや胴の張る筒形である。覆土は、中央が黒褐色土でレンズ状を示し、ピットは暗褐色砂質土である。

SK14 (第215図、図版3)

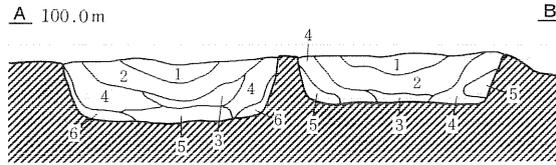
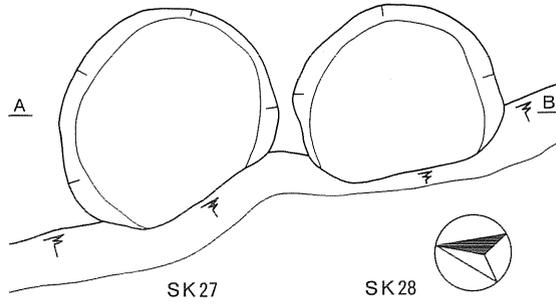
下段で調査区西側のMI57区に位置し、表土下約0.4mの河道F堆積層上部の黄褐色土で検出。掘り込み面は、河道G堆積層中位(第15図の④層)と考えられ、黒褐色土の円形プランとして確認。平面形は長軸0.9m×短軸0.8mの略円形で、深さは0.55mである。底面はほぼ平坦。壁面は、東側が直立ぎみで他はやや外傾し、底面への移行は緩やかである。覆土は上位に暗褐色土、下位では褐色土と黄褐色土がレンズ状に堆積する。

SK15 (第215図、図版3)

下段で調査区西側のMI58区に位置し、表土下約0.2mの河道F堆積層上部の黄褐色土で検出。掘り込み面は、河道G堆積層中位(第15図の④層)と考えられ、暗褐色土の円形プランとして確認。平面形は長軸1.65m×短軸1.55mの略円形で、深さは0.35mである。底面はほぼ平坦で、壁面は外傾し摺鉢状を呈する。覆土は壁際が黄褐色土で、他は暗褐色土が主体である。

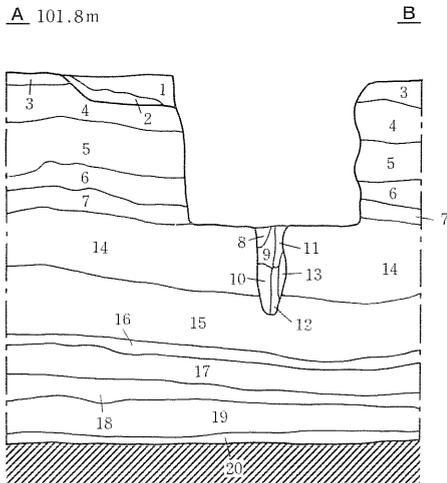
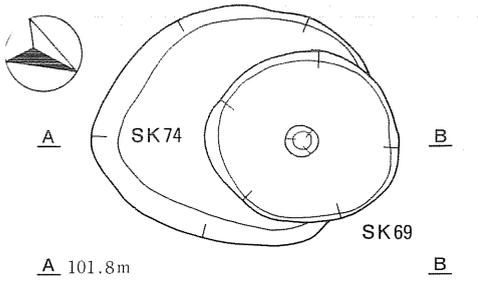
SK26 (第215図、図版4)

下段で調査区中央西側のMI54・55区に位置し、表土下約1.1mの河道F堆積層中位の暗褐色土(第15図の⑥層)で検出。MI55北壁断面の調査で大半は消滅してしまい、辛うじて断面

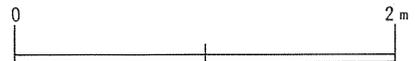


- 1 暗褐色土 (10Y R3/4) 礫を含む。しまる。
- 2 黒褐色土 (10Y R2/3) 礫、砂粒を含む。しまる。
- 3 暗褐色土 (10Y R3/4) 小礫を含む。しまる。
- 4 暗褐色土 (10Y R5/6) 礫を含む。しまる。
- 5 黄褐色土 (10Y R5/6) 礫を含む。しまる。
- 6 黄褐色土 (10Y R5/6) 暗褐色土を含む。しまる。

- 1 褐色土 (10Y R4/6) 炭粒、礫を含む。しまる。
- 2 暗褐色土 (10Y R3/4) 礫を含む。しまる。
- 3 黄褐色土 (10Y R5/6) 暗褐色土を含む。
- 4 黄褐色土 (10Y R5/6) 礫を含む。しまる。
- 5 黄褐色土 (10Y R5/6) 暗褐色土を含む。しまる。

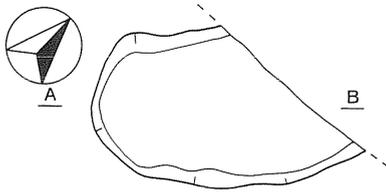


- 1 暗褐色土 (10Y R3/3) 地山土、炭粒、砂粒を含む。しまる。
- 2 褐色土 (10Y R4/4) 暗褐色土、砂粒を含む。しまる。
- 3 褐色土 (10Y R4/4) 暗褐色土を含む。しまる。
- 4 黄褐色土 (10Y R5/6) 砂粒を含む。しまる。
- 5 黄褐色土 (10Y R5/6) 明黄褐色土、砂粒を含む。
- 6 褐色土 (10Y R4/6) シルトを含む。しまる。
- 7 黄褐色土 (10Y R5/6) 砂粒を含む。しまる。
- 8 黒褐色土 (10Y R2/2) 地山土、礫を含む。しまる。
- 9 黄褐色土 (10Y R5/6) 地山粒を含む。しまる。
- 10 黄褐色土 (10Y R5/6) 地山粒を含む。しまる。
- 11 暗褐色土 (10Y R3/3) 地山土、砂粒を含む。しまる。
- 12 暗褐色土 (10Y R3/3) しまる。
- 13 にぶい黄褐色土 (10Y R5/4) しまる。
- 14 黄褐色土 (10Y R5/6) 砂粒を含む。しまる。
- 15 黄褐色土 (10Y R5/8) 砂粒を含む。しまる。
- 16 黄褐色土 (10Y R5/8) 砂粒を含む。しまる。
- 17 にぶい黄褐色土 (10Y R5/4) 砂粒を含む。しまる。
- 18 黄褐色土 (10Y R5/8) 砂粒を含む。しまる。
- 19 にぶい黄褐色土 (10Y R5/4) 褐色土、白色砂を含む。
- 20 にぶい黄褐色土 (10Y R6/3) 砂粒を含む。しまる。



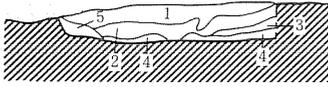
第216図 土坑(4) SK27・28・69・74

第1節 縄文時代の検出遺構とその遺物



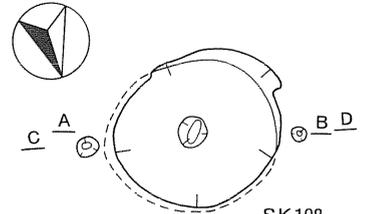
A 101.0m

B



SK47

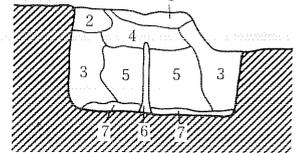
- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 焼土、炭粒、礫を含む。しまる。
- 2 褐色土 (10YR4/4) 炭粒、礫を含む。しまる。
- 3 黄褐色土 (10YR5/4) 礫、砂粒を含む。
- 4 黄褐色土 (10YR5/6) 砂粒を含む。しまる。
- 5 暗褐色土 (10YR3/4) 礫を含む。しまる。



SK108

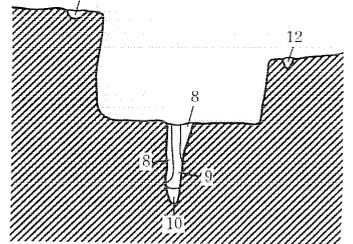
A 101.7m

B

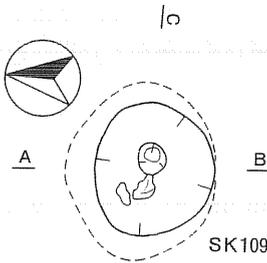


C

101.70m D



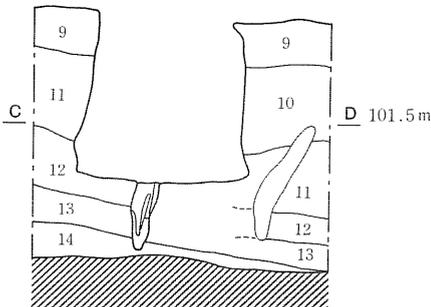
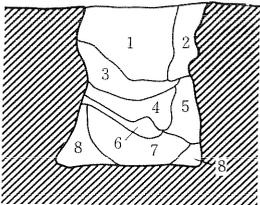
- 1 黒色土 (7.5YR1/2) 炭粒、砂粒を含む。しまる。
- 2 褐色土 (10YR4/6) 砂粒を含む。しまる。
- 3 黒褐色土 (7.5YR3/2) 地山粒、砂粒を含む。しまる。
- 4 黒褐色土 (7.5YR2/2) 地山粒、砂粒を含む。しまる。
- 5 黒色土 (7.5YR2/1) 地山粒、礫、砂粒を含む。しまる。
- 6 暗褐色土 (10YR3/4) しまる。
- 7 黒褐色土 (7.5YR2/1) しまる。
- 8 暗褐色土 (10YR3/4) 地山粒を含む。しまる。
- 9 暗褐色土 (10YR3/4) 地山粒を含む。しまる。
- 10 褐色土 (10YR4/4) 砂粒を含む。しまる。
- 11 暗褐色土 (10YR3/3) 地山粒、炭粒を含む。しまる。
- 12 褐色土 (10YR4/4) 炭粒を含む。しまる。



SK109

A 102.2m

B



- 1 黒褐色土 (7.5YR2/1) 地山粒、細粒を含む。しまる。
- 2 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒、砂粒を含む。しまる。
- 3 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒、礫を含む。しまる。
- 4 黒色土 (7.5YR2/1) 地山粒、炭粒、砂粒を含む。しまり弱。
- 5 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒、砂粒を含む。しまる。
- 6 暗褐色土 (10YR3/3) しまり弱。
- 7 黒色土 (7.5YR2/1) 地山粒、砂粒を含む。しまり弱。
- 8 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒、砂粒を含む。しまる。
- 9 暗褐色土 (10YR3/4) 礫を含む。しまる。
- 10 褐色土 (10YR4/6) しまる。
- 11 褐色土 (10YR4/6) しまる。
- 12 黄褐色土 (10YR5/8) しまる。
- 13 褐色土 (10YR4/6) 粗粒を含む。しまる。
- 14 褐色土 (7.5YR4/6) しまる。



第217図 土坑(5) SK47・108・109

第4章 調査の記録

だけが確認できたものである。平面形は不明。底面は平坦で、壁は西側が急に東側では緩やかに立ち上がる。覆土は大きく、上部の黄褐色土と下部の暗褐色土に分かれる。

S K 27 (第 216 図、図版 4)

下段で調査区中央西側の M I 54 区に位置し、表土下約 1.4m の河道 F 堆積層下部の黄褐色土で検出。西側が河道 G の削平を受けているため、掘り込み面は、河道 F 堆積層中位の暗褐色土 (第 15 図の⑥層) と考えられる。中央に約 0.1m のピットをもつ、暗褐色土の円形プランとして確認。平面形は約長軸 1.25m × 短軸 1.1 m の楕円形で、深さは 0.35m である。底面はほぼ平坦で、壁面はやや摺鉢状を呈する。覆土は壁と底面側が黄褐色土で、レンズ状の堆積を示す。

S K 28 (第 216 図、図版 4)

下段で調査区中央西側の M I 54 区に位置し、表土下約 1.4m の河道 F 堆積層下部の黄褐色土で検出。S K 27 同様、西側が河道 G で削平を受けており、掘り込み面もやはり河道 F 堆積層中位の暗褐色土 (第 15 図の⑥層) と考えられる。褐色土の円形プランとして確認。平面形は直径約 1.1m の円形と考えられ、深さは 0.25m である。底面は中央部がやや盛り上がり、壁面はやや強い角度で立ち上がる。覆土は壁と底面側が黄褐色土で、レンズ状の堆積を示す。

S K 47 (第 216・218 図、図版 4)

下段で調査区中央西側の M J 58・59 区に位置し、表土下約 0.6m の河道 G 堆積層上部の黄褐色土で検出。北東側はトレンチ調査で削平してしまった。黒褐色土の楕円形プランとして確認。平面形は長軸 1.2m × 短軸 0.85m の楕円形と推定され、深さ約 0.2m である。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は上位が黒褐色土、下位は褐色土が主体を占める。

出土遺物は、深鉢と考えられる縄文土器片が出土した。

深鉢 (D63～D66) 胎土にはすべて繊維を含む。D63・D64 は斜縄文で、D64 は内面に条痕がある。D65 は羽状縄文を施す。これらの器厚は 7～10mm である。色調は橙色から褐色を呈す。胎土は良好で、焼成は D64 が堅緻な外は不良。前期前半に属す。

S K 69 (第 216 図、図版 4)

上段で調査区北西の M I 62・61 区に位置し、S K 74 に切られており表土下約 1.3m の V 層で検出。暗褐色土の円形プランとして確認した。掘り込み面は、S K 10・09・02 と等距離に連続することから、これらの掘り込み面と同じ河道 G 堆積層中位もしくは上位と考えられる。土坑は坑底の中央にピットをもつ形態で、平面形は長軸 1 m × 短軸 0.9m の楕円形を呈し、深さは 0.8m である。土坑の底面は平坦で、その中央のピットは径約 0.15m、深さ 0.45m である。壁はやや外傾した筒状を呈す。覆土は、暗褐色土が主体を占める。ピットの掘り方には、細い 3 本の杭を束ねたように据えた痕跡があり、その周りに地山を詰め込んでいる。

S K 108 (第 217 図、図版 4)

上段で調査区北西のMH・MI 63 区に位置し、表土下約 0.9mの河道F堆積層上部の暗褐色土で検出。黒色土の円形プランとして確認した。掘り込み面は、S K 10・09・02・69 と等距離に連続することから、これらの掘り込み面と同じ河道G堆積層中位もしくは上位と考えられる。土坑は坑底の中央にピットをもつ形態で、平面形は径 0.7mの不整円形を呈し、深さは 0.9mである。土坑の底面は平坦で、そのピットは径約 0.15m、深さ 0.35mである。土坑の壁は中央で括れ、断面は上部が筒形を下部では撥形を呈す。覆土は、全体的に黒色土から暗褐色土で占められる。ピット内には、杭を示す軟らかい 2 つの筋の暗褐色土がある。

S K 109 (第 217 図、図版 5)

上段で調査区北西のMI・MH62 区に位置し、表土下約 1.4mの河道F堆積層下部の黄褐色土で検出。黒褐色土の円形プランとして確認した。掘り込み面は、S K 10・09・02・69 と等距離に連続することから、これらの掘り込み面と同じ河道G堆積層中位もしくは上位と考えられる。土坑は、中央と坑外に 2 個のピットをもつ形態である。平面形は長軸約 1 m×短軸 0.8 mの楕円形で、V層からの深さは 1.05mである。中央のピットは径 0.15m深さ 0.45mで、外側のピットは径約 0.1m深さ 0.05mである。土坑の底面は平坦で、壁の断面は筒状を呈す。覆土は下半が黒褐色土主体の層で、その中央には杭の痕跡が認められた。中央のピット内は、軟らかい褐色土が主体的で、外側のピットは炭粒を含んだ暗褐色・褐色土である。

S K 163 (第 206 図、図版 1)

下段で調査区南西端のML52 区に位置し、表土下約 1.9mでS I 46 炉跡の掘り方直下で検出。構築は河道H堆積層で、開口部は炉跡に切られ不明である。下端は、径 0.8mの略円形を呈し、深さは約 1 mである。底面は、端部が丸くほぼ平坦で、壁は断面が長い袋状を呈す。底面より、約10cmの礫が 1 点出土した。

(4) 石器石材集積遺構

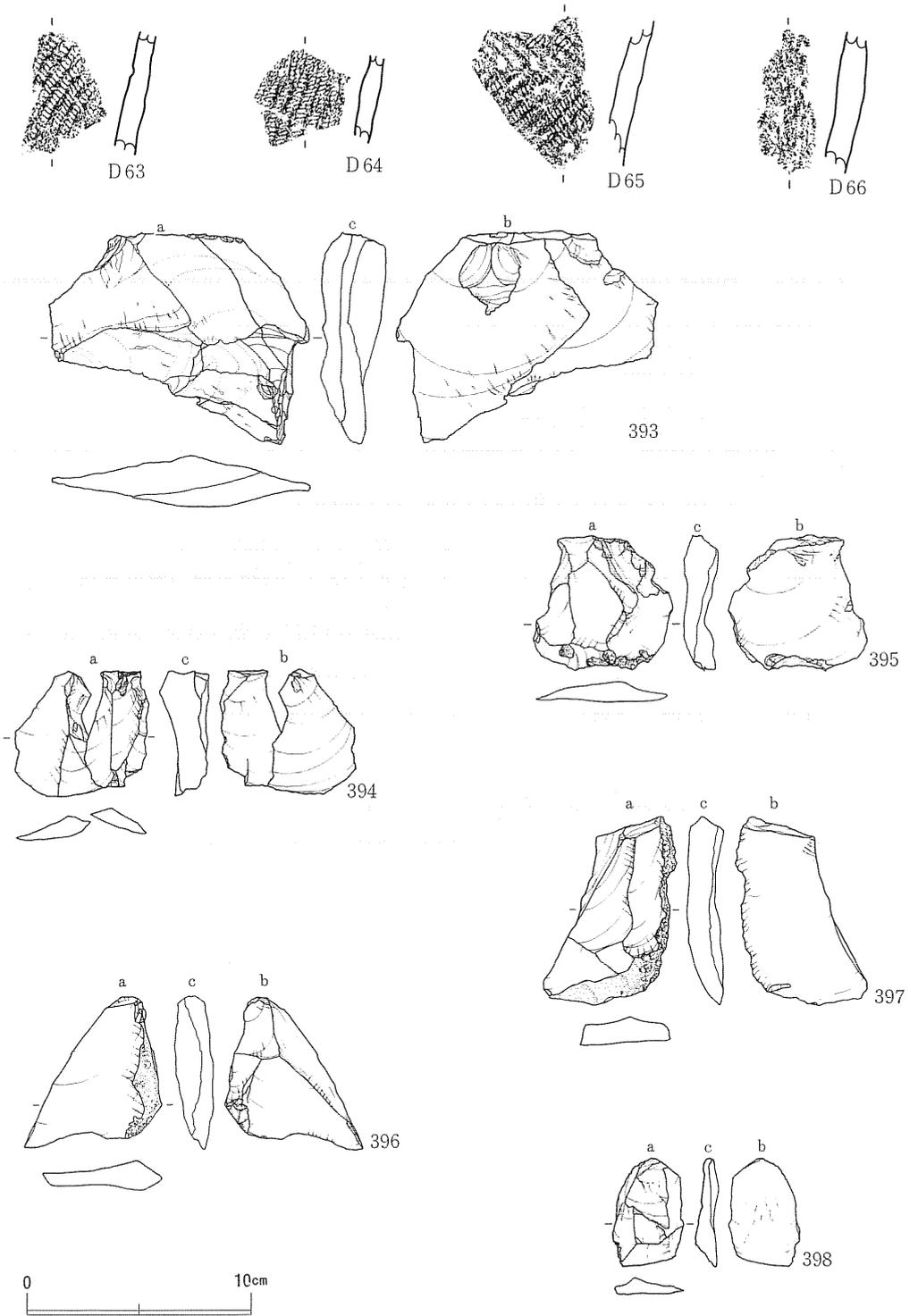
S X S 48 (第 218・223 図、図版 15)

下段で調査区北西端のML61 区に位置し、表土下約 2.4mの河道G堆積層下部と考えられる黄褐色砂質土で検出。総数は 17 点で、0.15~0.2mの範囲で 2 つのブロックに分かれる。両者は約 0.3mの距離があり、西側のブロックに大きい石器を含む。垂直分布は、東側ブロックの方が 0.05~0.1m低い。これらの約 0.5m南の同一層からは、縄文土器の細片がいくつかまとまって出土したが、脆く図化は不可能である。

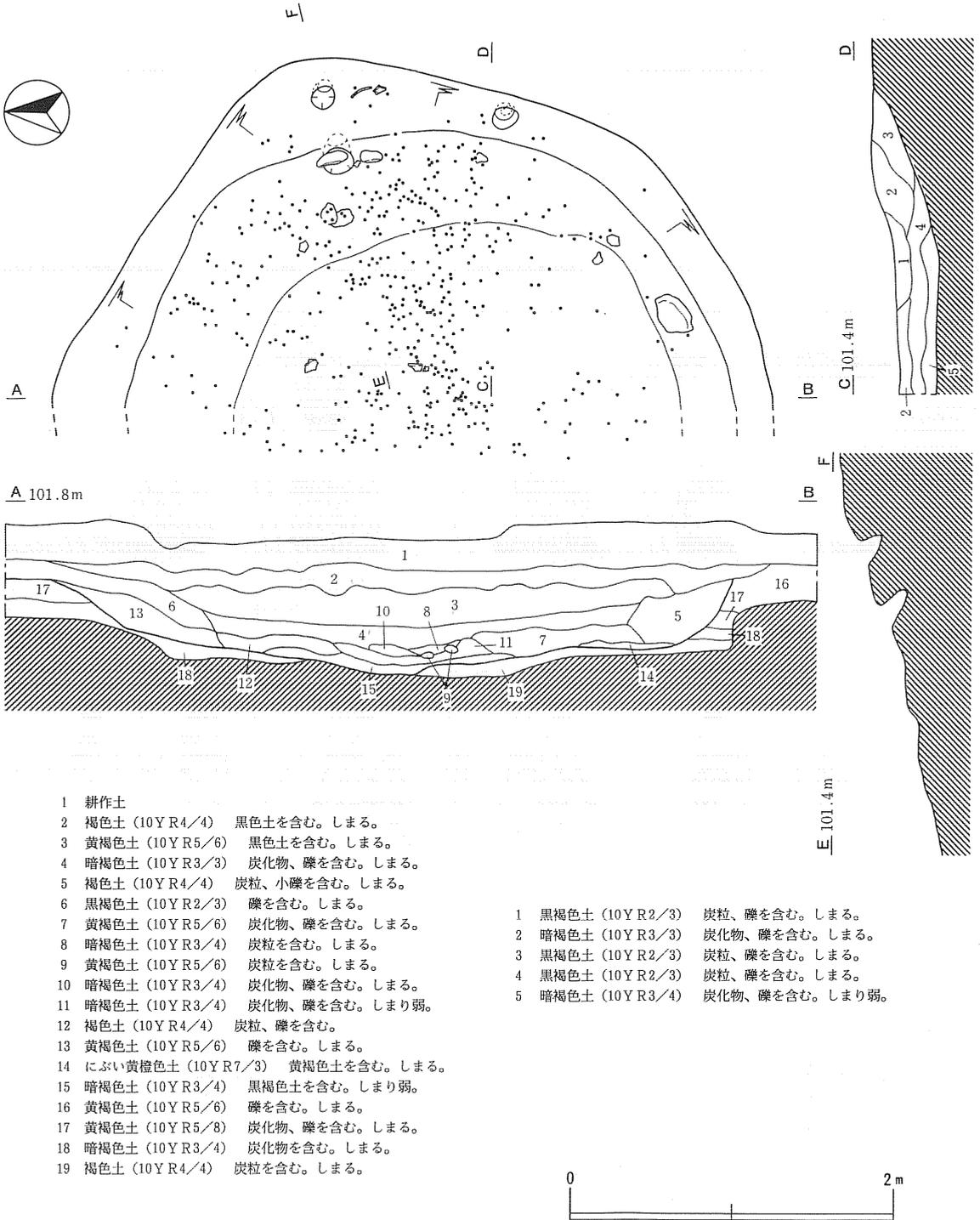
出土遺物は、縄文土器の細片と、接合資料・剝片の石器がある。

接合資料(393・394) 393 は横長剝片 2 個の、394 は縦長剝片 2 個の接合である。

剝片(395~398) 395 と 396 は横長剝片、397 と 398 は縦長剝片である。



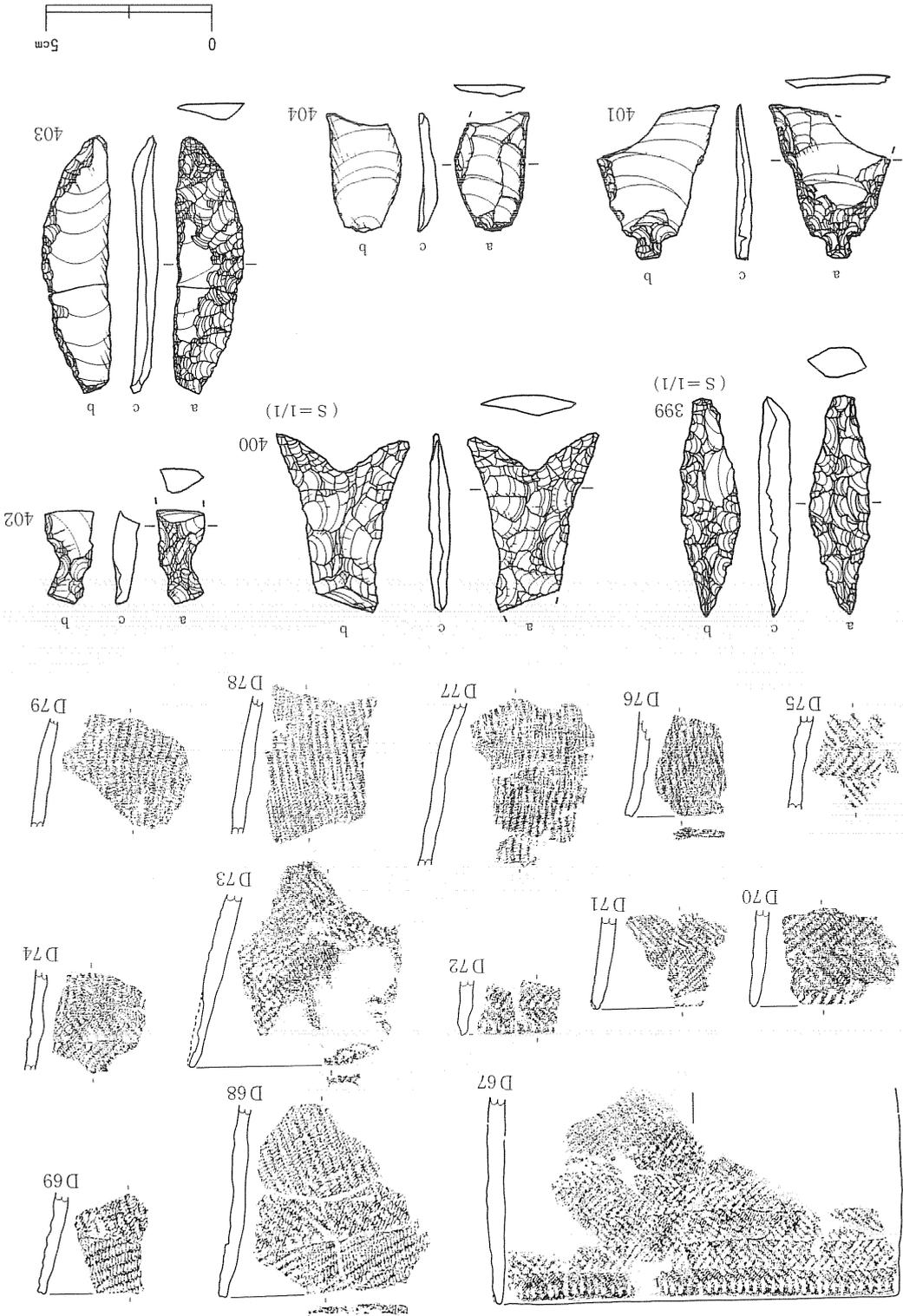
第218図 遺構内出土遺物 (136) SK47, SX S48 土器・石器



- | | |
|-----------------------|----------------|
| 1 耕作土 | |
| 2 褐色土 (10Y R4/4) | 黒色土を含む。しまる。 |
| 3 黄褐色土 (10Y R5/6) | 黒色土を含む。しまる。 |
| 4 暗褐色土 (10Y R3/3) | 炭化物、礫を含む。しまる。 |
| 5 褐色土 (10Y R4/4) | 炭粒、小礫を含む。しまる。 |
| 6 黒褐色土 (10Y R2/3) | 礫を含む。しまる。 |
| 7 黄褐色土 (10Y R5/6) | 炭化物、礫を含む。しまる。 |
| 8 暗褐色土 (10Y R3/4) | 炭粒を含む。しまる。 |
| 9 黄褐色土 (10Y R5/6) | 炭粒を含む。しまる。 |
| 10 暗褐色土 (10Y R3/4) | 炭化物、礫を含む。しまる。 |
| 11 暗褐色土 (10Y R3/4) | 炭化物、礫を含む。しまり弱。 |
| 12 褐色土 (10Y R4/4) | 炭粒、礫を含む。 |
| 13 黄褐色土 (10Y R5/6) | 礫を含む。しまる。 |
| 14 にぶい黄褐色土 (10Y R7/3) | 黄褐色土を含む。しまる。 |
| 15 暗褐色土 (10Y R3/4) | 黒褐色土を含む。しまり弱。 |
| 16 黄褐色土 (10Y R5/6) | 礫を含む。しまる。 |
| 17 黄褐色土 (10Y R5/8) | 炭化物、礫を含む。しまる。 |
| 18 暗褐色土 (10Y R3/4) | 炭化物を含む。しまる。 |
| 19 褐色土 (10Y R4/4) | 炭粒を含む。しまる。 |
| 1 黒褐色土 (10Y R2/3) | 炭粒、礫を含む。しまる。 |
| 2 暗褐色土 (10Y R3/3) | 炭化物、礫を含む。しまる。 |
| 3 黒褐色土 (10Y R2/3) | 炭粒、礫を含む。しまる。 |
| 4 黒褐色土 (10Y R2/3) | 炭粒、礫を含む。しまる。 |
| 5 暗褐色土 (10Y R3/4) | 炭化物、礫を含む。しまり弱。 |

第219図 土器集中部(2) SXP11

第220図 遺構内出土遺物 (137) SXP11土器・石器



(5) 焼土遺構

S N08 (第223図、図版11)

下段で調査区中央の南西側MG50区に位置し、表土下約1.2mの河道G堆積層下部礫層の、上面と考えられる所で検出。不明瞭であるが、焼土と炭化物の範囲として確認した。平面形は、約長軸1.1m×短軸0.7mの楕円形で、掘り込みは不明瞭である。

(6) 土器集中部

S X P11 (第219・220図、図版14・76)

下段で調査区北西のM159区に位置し、表土下の河道G堆積層上部で検出した。半円状の窪地に、土器を主体にした遺物が集中して出土した。東側に張り出している窪地は、黄褐色土に半ドーナツ状の褐色土が巡るように確認でき、当初は竪穴住居跡と考えていた。しかし、西側に壁の立ち上がり認められないこと、炉跡・柱穴が確認できないこと等から、自然の窪地と判断したものである。窪地は、半円状の弧を除く部分の径が4.5mで摺鉢状を呈す。遺物の総数は471点で、窪地に広がるように出土するが、底面の褐色土中から出土したものが殆どである。

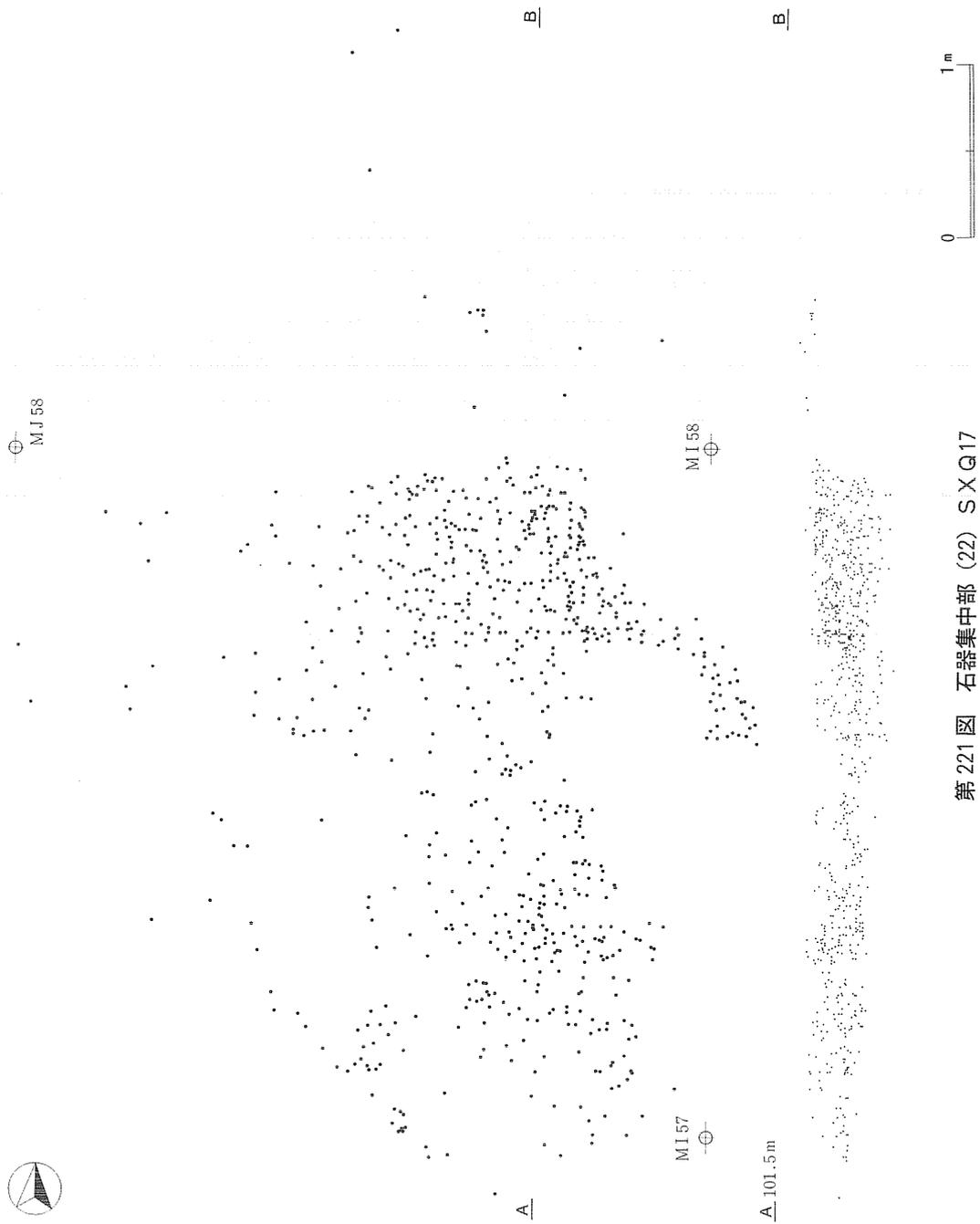
出土遺物は、深鉢の縄文土器片以外に、石鏃・石匙・削器の石器がある。

深鉢(D67~D79) D67~D75は、繊維を含んだ羽状縄文である。これらは、横位に回転した非結束縄文の組み合わせで、D67とD72、D68とD69は同一個体である。D67とD72は、口唇直下の外面に約5mmの長さで弧に直角の刻み目をもつが、D70では同様な斜めの刻みがある。D68とD69の口唇部には、LR原体の斜縄文を施す。この口縁部の下には、RL原体の上端で端を強く押し付けた文様があり、その結果、二重口縁のように見えている。D74とD75の内面には、明瞭な条痕がある。D76~D79は斜縄文で、やはり繊維を含む。D76は口唇部が平坦で、ここに縄文を施したようである。内面はD77が条痕文、D79が木口によるナデ、D78はナデである。その外小破片で掲載していないが、SXH19出土のD61と類似した簾状のものが、これは隣り合う原体の撚りが異なる。繊維を含み、器厚は7~10mmである。色調は外面が橙色からにぶい褐色で、内面はにぶい褐色のものが多い。D68・D69・D77~D79の胎土には、約5mmの小石が含まれる。焼成は全般に良好で、特にD68・D69・D75は堅緻である。時期は前期前半に属す。

石鏃(399・400) 399は棒状で、c面の先端が右に反る。両側縁に丁寧な調整がある。400は、薄く底辺が二又に分かれる形態で、先端を欠損している。

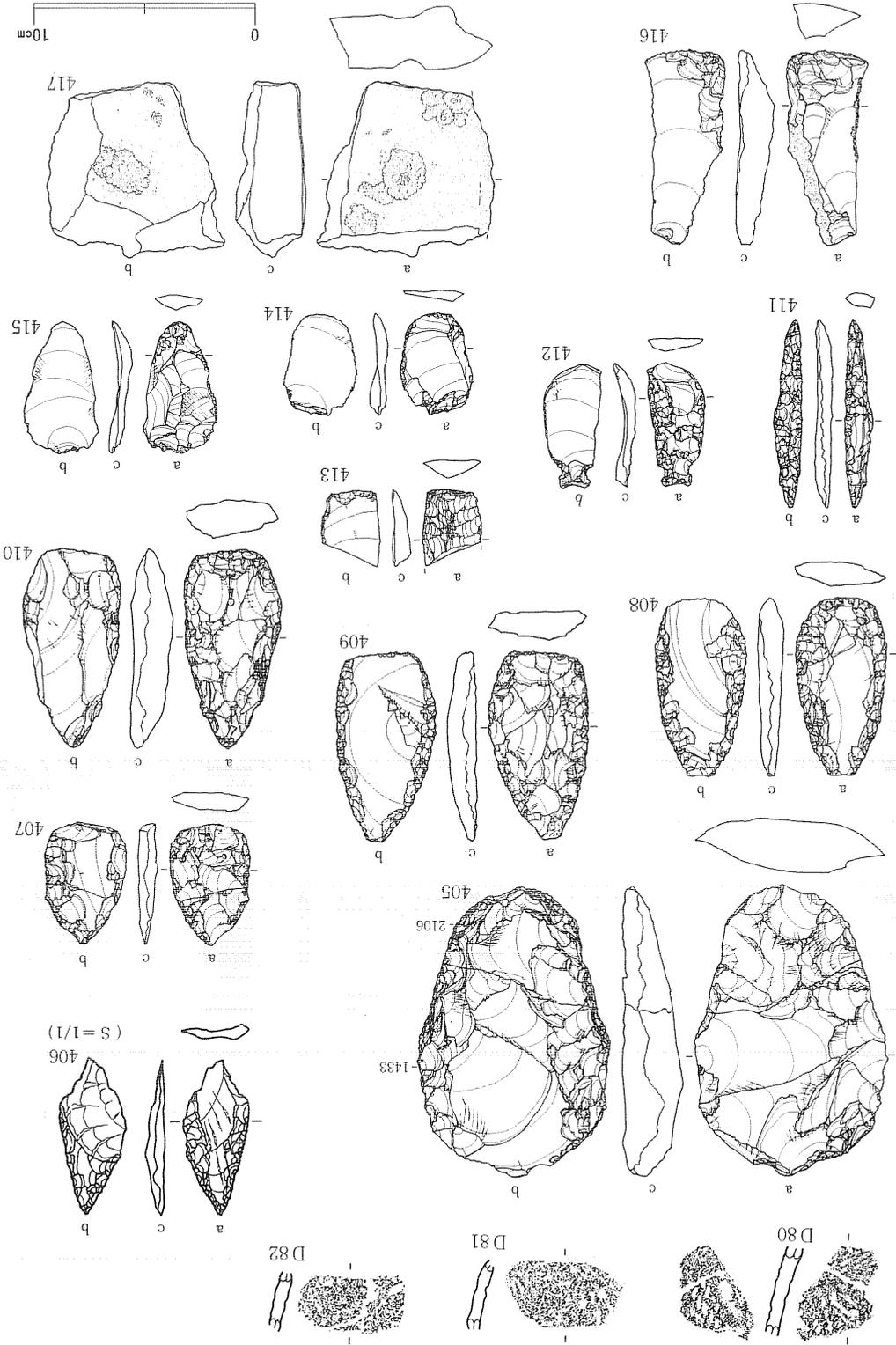
石匙(401・402) 401は底辺の一部に微小な剝離が見られ、そこが広い三角形の形態である。a面左下位を欠損。同面右側縁の剝離は新しい。402は、つまみ部付近の破片である。

削器(403・404) 403は、縦長剝片で三ヶ月形の形状を呈する。a面右側縁は直線的で調整

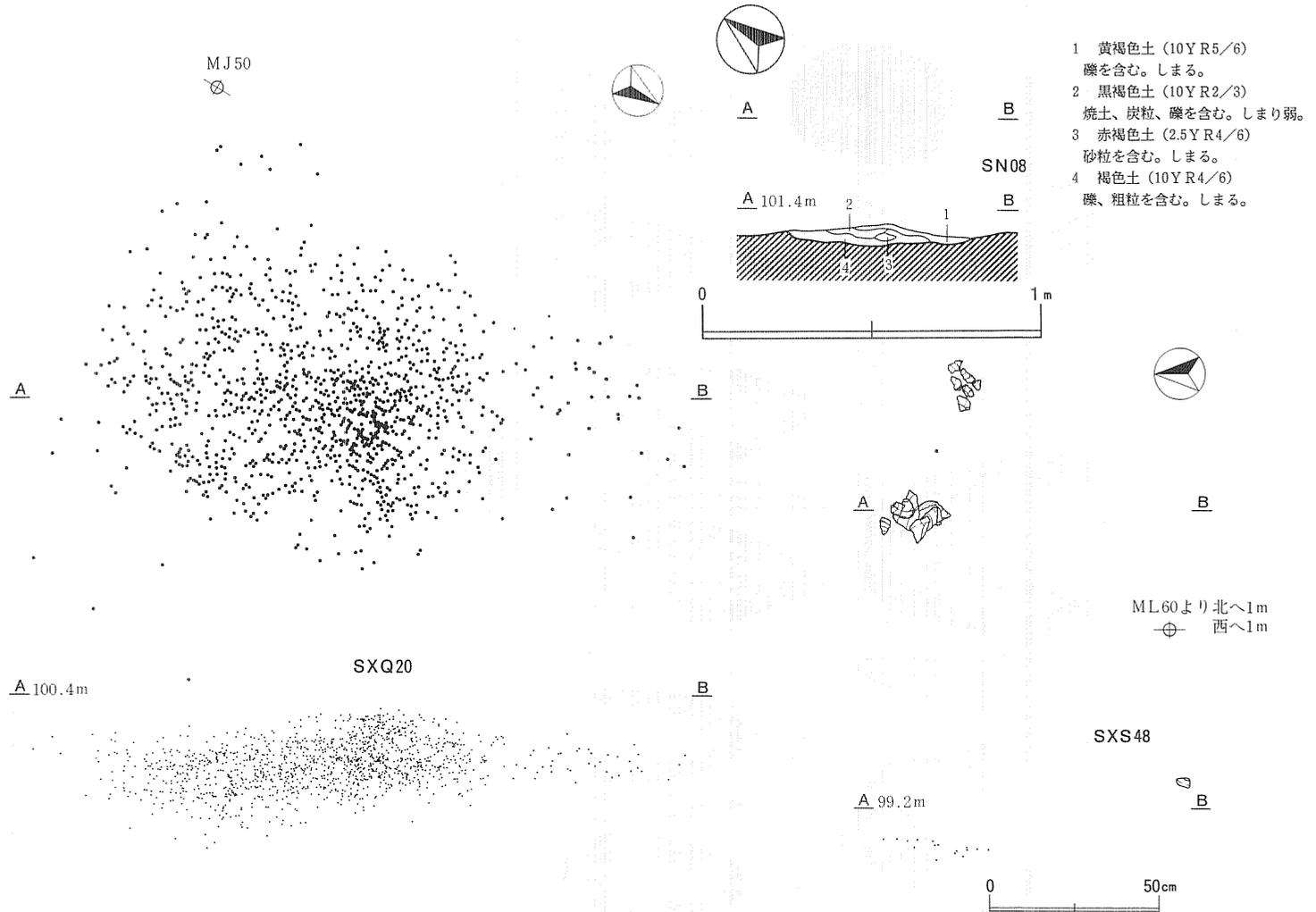


第221図 石器集中部(22) SXQ17

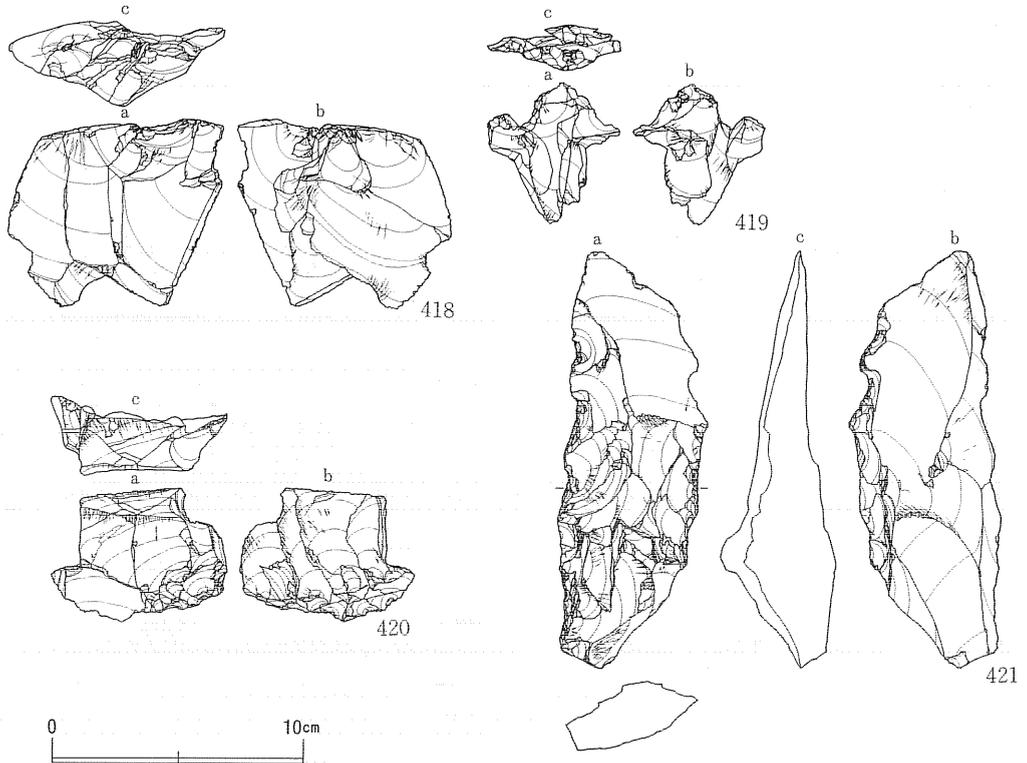
第222図 遺構内出土遺物 (138) S X Q17 土器・石器



第1節 縄文時代の検出遺物とその遺物



第223図 石器石材集積遺構(3), 焼土遺構(2), 石器集中部(23) SXS48, SN08, SXQ20



第224図 遺構内出土遺物 (139) S X Q20

が細かく、同左側縁は弓成りで両面にやや粗い調整がある。404 は a 面の両側縁に調整を施す。

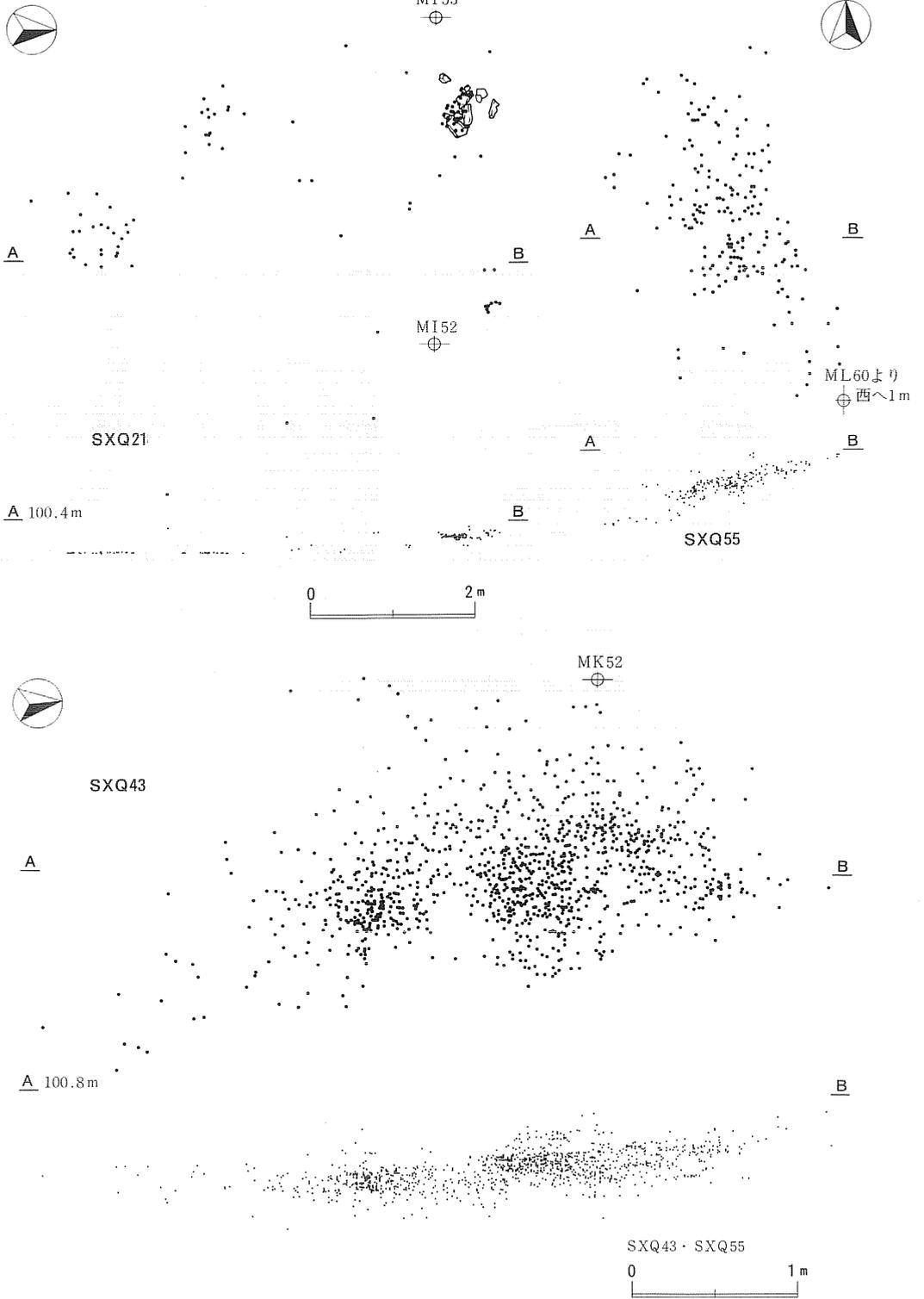
(7) 石器集中部

S X Q17 (第221・222図、図版24・76)

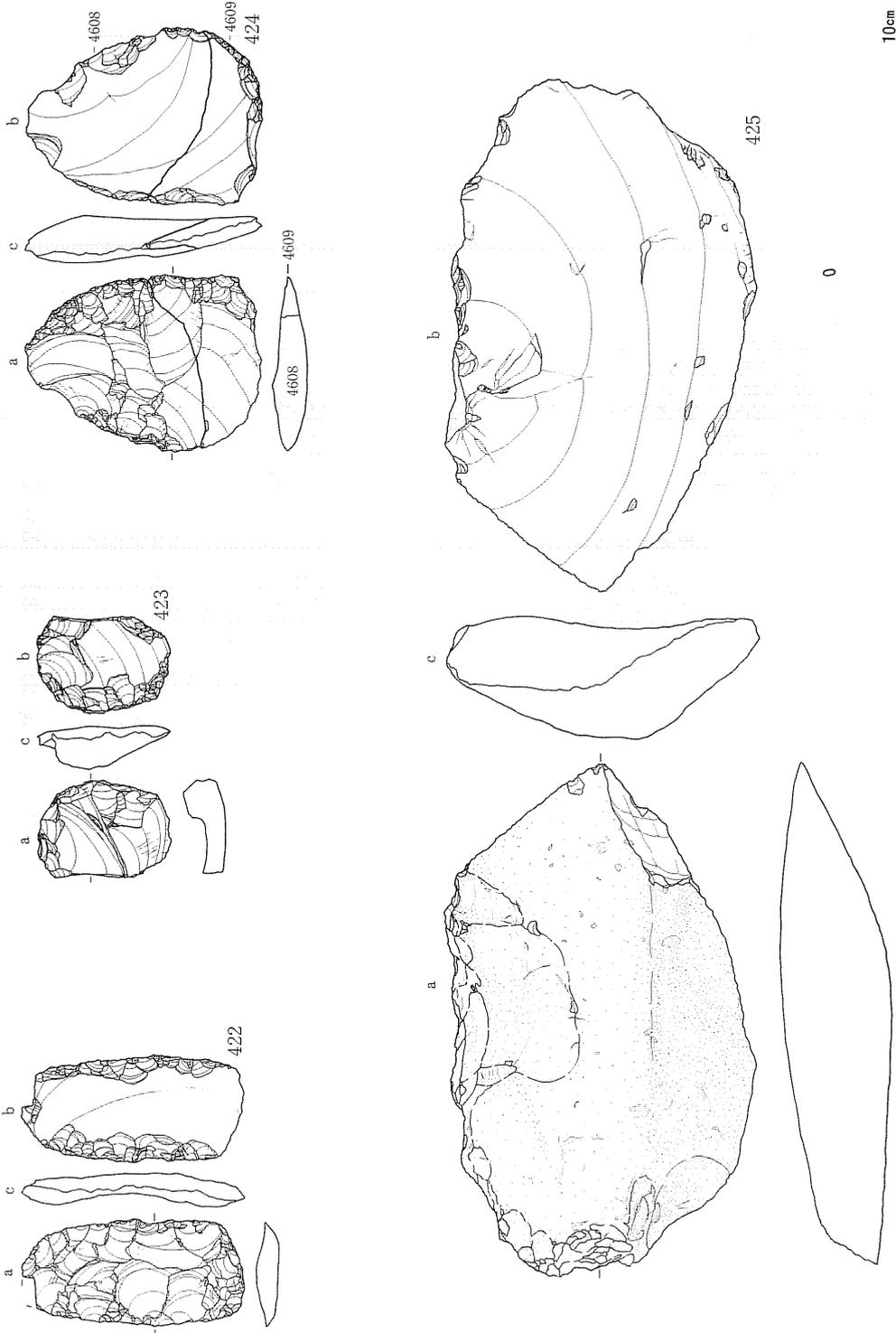
下段で調査区中央西側のM I 57・58区に位置し、表土下約0.2mで河道G堆積層上部の暗褐色土(第15図②層)より検出。取り上げ総数は849点で7m×4mの広がりを持ち、縄文土器も少量含む。この内、南側4m×3mの範囲ではまとまった在り方を示し、それ以外は希薄である。この集中している所は、さらに南北2つのブロックに分けられそうである。垂直分布は0.3~0.4mと幅があるが、これは遺物が地形に沿って西側に傾斜しているためである。遺構は、多量のチップを共伴している石器製作跡である。

出土遺物は、深鉢と考えられる縄文土器以外に、両面調整石器・石鏃・石筥・石錐・石匙・搔器・削器・凹石の石器がある。

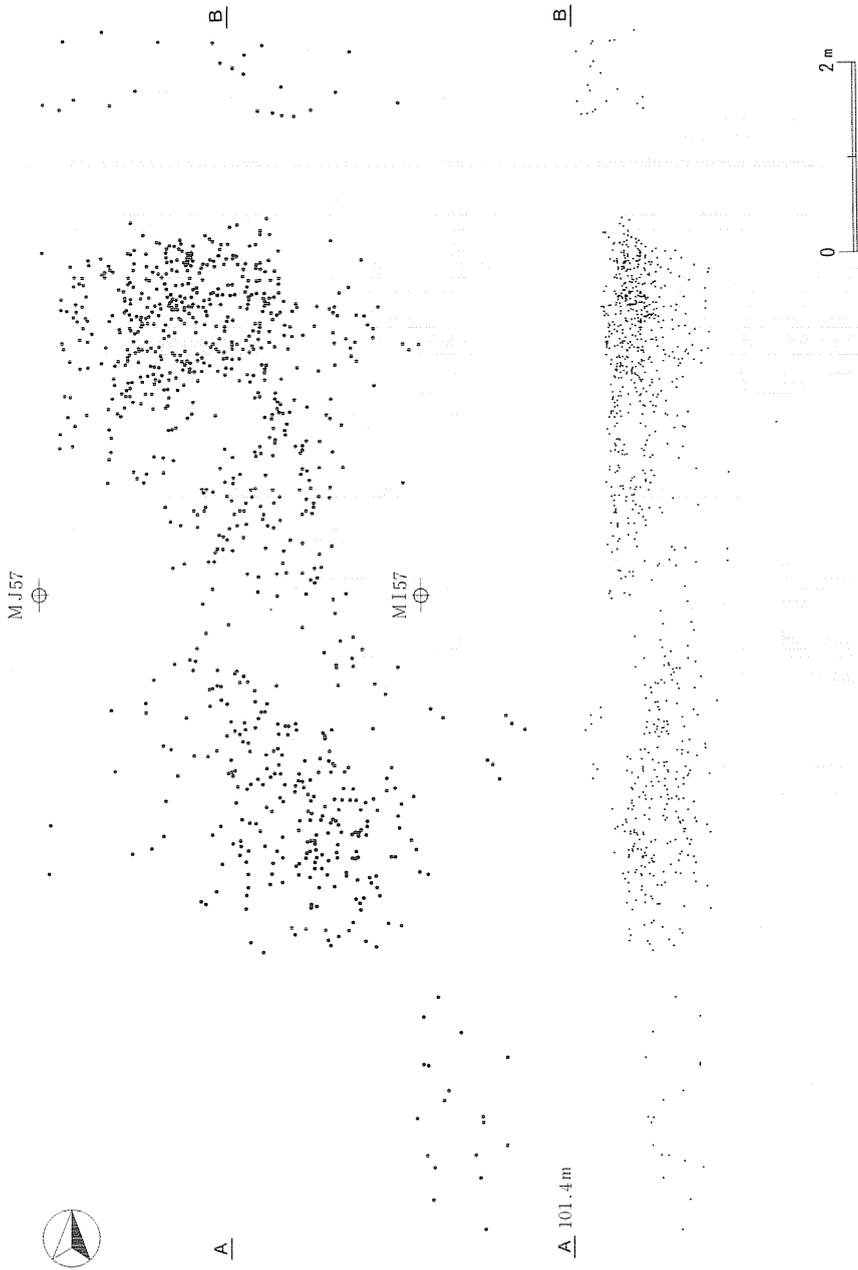
深鉢(D80~D82)すべてに繊維を含む。D80は内外面に縄文がある。D81とD82は同一個体で、外面には縄文があったようで内面は無文である。器厚は約5mm。色調はD80が内外面にぶい黄橙色。D81・D82の外面はにぶい黄橙色で、内面が暗褐色である。胎土は1~2mmの砂粒が顕著で、焼成は不良。



第225図 石器集中部(24) SXQ21・43・55



第226図 遺構内出土遺物 (140) S X G21



第227図 石器集中部 (25) S X Q22

両面調整石器(405) 剥片素材と考えられる。両側縁の全体に調整があるが、b面中央の両側縁より下位では連続する調整がある。特に同右側縁は直線的で鋭い。

石鏃(406・407) 406は基部を欠損。先端は鋭く尖り、a面の両側縁に連続した調整がある。407は未製品で、縦の長さが短い石筥状を呈す。b面からの折断がある。

石筥(408~410) すべて横長剥片を素材にする。408と409は、両側縁の全体に調整があるが、410a面の左側縁は素材面を残す。刃部は3点共a面からの剝離である。

石錐(411) 両端が尖った断面三角形の形態で、下位の先端は正三角の断面を作り鋭い。c面の稜線は、両面からの調整でよく整えられている。

石匙(412・413) 412は縦長剥片を素材とし、a面右側縁が直線的で同左側縁は弓成りである。つまみ部の中央に、小さく剝離を施して二又状にしている。413は下位の破片である。

搔器(414・415) どちらも縦長剥片で、刃部は414が幅広で415は細みになる。

削器(416) 縦長剥片で、a面左側縁に細かな調整がある。礫皮面が残る。

凹石(417) 両面の同じような位置に、約2cmの凹部がある。

S X Q 20 (第223・224図、図版24・76)

下段で調査区南西部のM I 50区に位置し、表土下約1.1mの河道G堆積層の上部と考えられる暗褐色土で検出。取り上げ総数は1,259点で、約1.8m×0.9mの範囲に集中している。垂直分布は0.3mの幅があるが、地形が南西側に傾斜していることによる。遺構は、多量のチップを共伴している石器製作跡と考えられる。

出土遺物は石器のみで、接合資料・鋸齒縁石器がある。

接合資料(418~420) 418は3点、419は4点、420は6点が接合する。

鋸齒縁石器(421) 縦長剥片で、両側縁に鋸齒状のノッチがある。ノッチは大きく、a面左側縁に3つb面左側縁に2つがある。

S X Q 21 (第225・226図、図版24)

下段で調査区南西部のM I 51区を中心にして位置し、表土下約1.2mの河道G堆積層の下部と考えられる礫層(第15図④-d層)上面で検出。取り上げ総数は103点で、約8m×6mの広がりをもつ。特に北西部の径0.8mの範囲では、やや大きい剥片を含んで集中して出土した。垂直分布は、個別には約0.1mに収まるものの、全体に北側が高く南側が低い。これは礫層上面の傾斜を反映したものである。

出土遺物は石器のみで、石筥・搔器・削器・剥片がある。

石筥(422) 横長剥片で両側縁の両面に調整があるが、a面はやや大きくb面は細かい。

搔器(423) 縦長剥片で刃部は丸く、b面左に細かい剝離がある。

削器(424) 横長剥片でa面の両側縁と、b面の下位側縁に調整がある。下位側縁を刃部に

した、搔器の可能性もある。a面からの折断がある。

剥片(425) 大型の横長剥片で、a面下位の右側縁に約4cmの丁寧な剥離がある。

SXQ22(第227・229図、図版24・77)

下段で調査区中央西側のMH55・56区、MI56~58区に位置し、高い所では表土下約0.5mの河道F堆積層上部の暗褐色土で検出。取り上げ総数は908点で、約13m×7mの広がりをもつ。全体に疎らであるが、北側の径3mの範囲がより集中する。垂直分布は平均1mの幅がある。これは包含層が、西側へ大きく傾斜していることによる。

出土遺物は、深鉢と考えられる縄文土器以外に、両面調整石器・円盤状石器・石槍・石鏃・石篋がある。

深鉢(D83) 繊維を含み、外面は縄文、内面に条線文のような痕跡がある。器厚は7mmで、色調は内外面とも橙色から褐色である。胎土は1~2mmの砂粒を含み、焼成は不良。

両面調整石器(426・427) 426は両面調整石器と推定される。b面の先端に未調整部分もあるものの、両側縁に比較的丁寧な調整がある。a面からの折断で下部は欠損。427は略楕円形で、全周に細かな調整があり、搔器にすべきかもしれない。

円盤状石器(428) やや分厚く、全周に粗い調整がある。b面に礫皮面を残す。

石槍(429) 短い細みの槍と考えられる破片である。

石鏃(430) 薄い縦長剥片で両側縁に調整がある。下部を欠損するが、そこが最大幅である。

石篋(431~434) 431~433は横長剥片の素材である。431はb面の両側縁に、角度のある細かい剥離を連続させている。432は、a面の両側縁に角度をもつ調整がある。433・434は小型で未製品の可能性があり、434は石鏃かもしれない。

SXQ43(第225・229・230図、図版24・77)

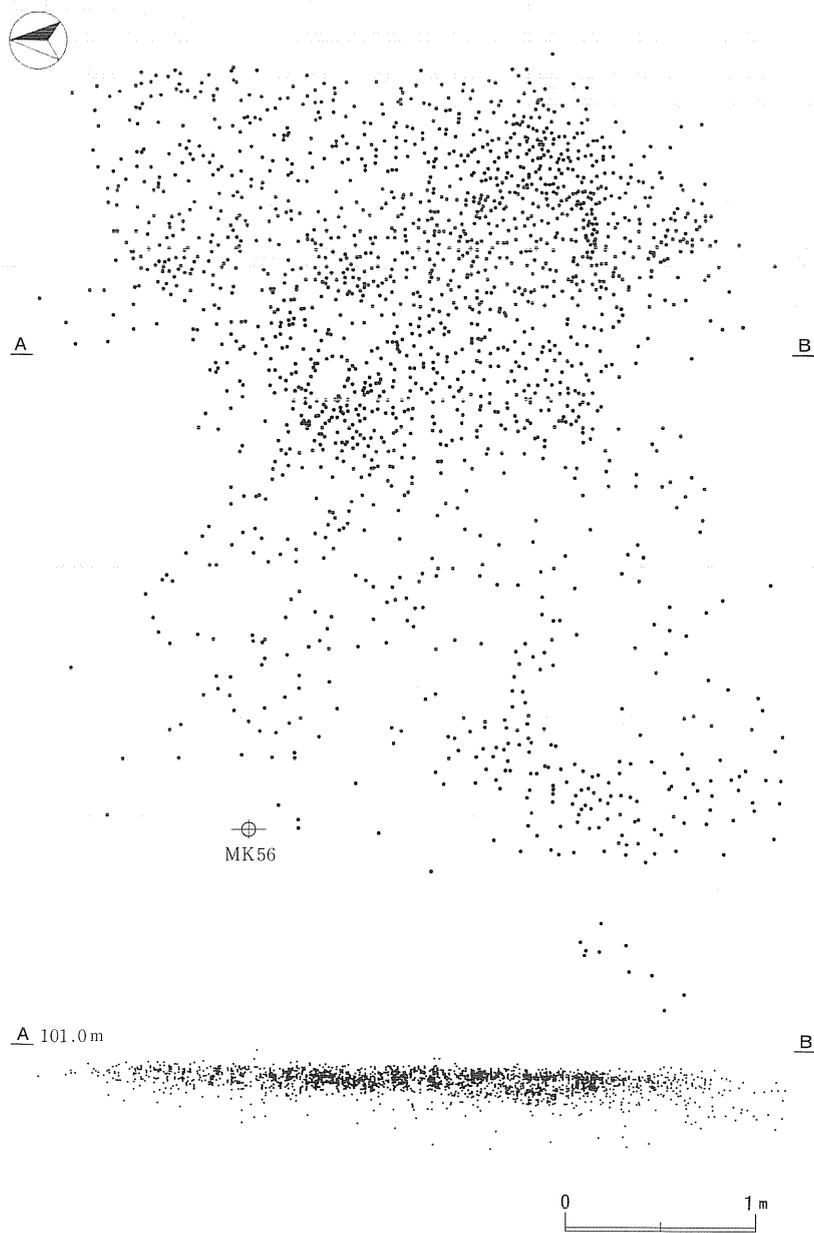
下段で調査区南西部のMJ51・52区に位置し、表土下約1mの河道G堆積層上部と考えられる暗褐色土で検出。SXQ20包含層と同じである。取り上げ総数は1,079点で、5m×4mの広さがある。分布状態は、南北に2つのブロックがありそうである。垂直分布は約0.4mの幅をもつ所もあるが、包含層の西側への傾斜が影響している。遺構は、多量のチップを共伴している石器製作跡と考えられる。

出土遺物は石器のみで、両面調整素材・石斧・搔器・削器がある。

両面調整素材(437) 縦長剥片で両側縁に粗い調整がある。

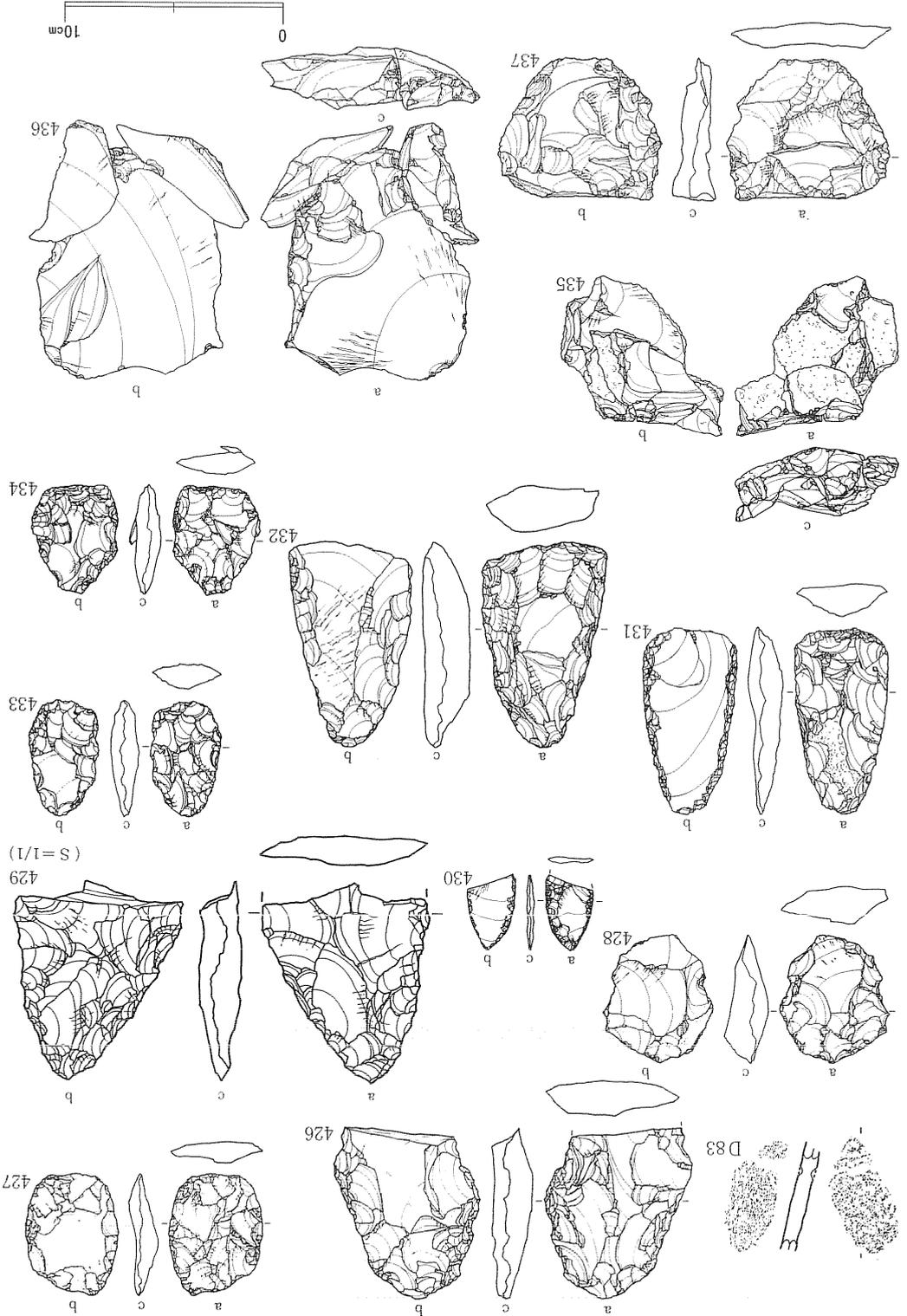
石斧(438・439) 438は横長剥片で、439は縦長剥片の可能性がある。両者とも刃部は丸く、b面の主要剥離面を残したままで、a面に丁寧な調整を施す。438はa面右側縁の剥離を失敗し、折断したものである。439はb面からの折断で、上位を折損している。

搔器(440) 横長剥片で、下位側縁に一部だけ丁寧な調整がある。a面上位右側縁の剥離を

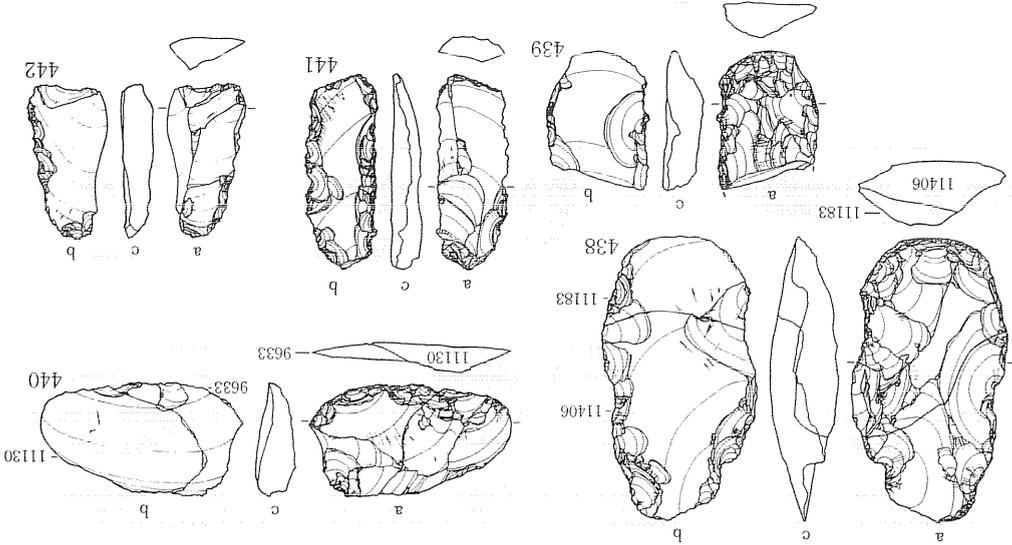
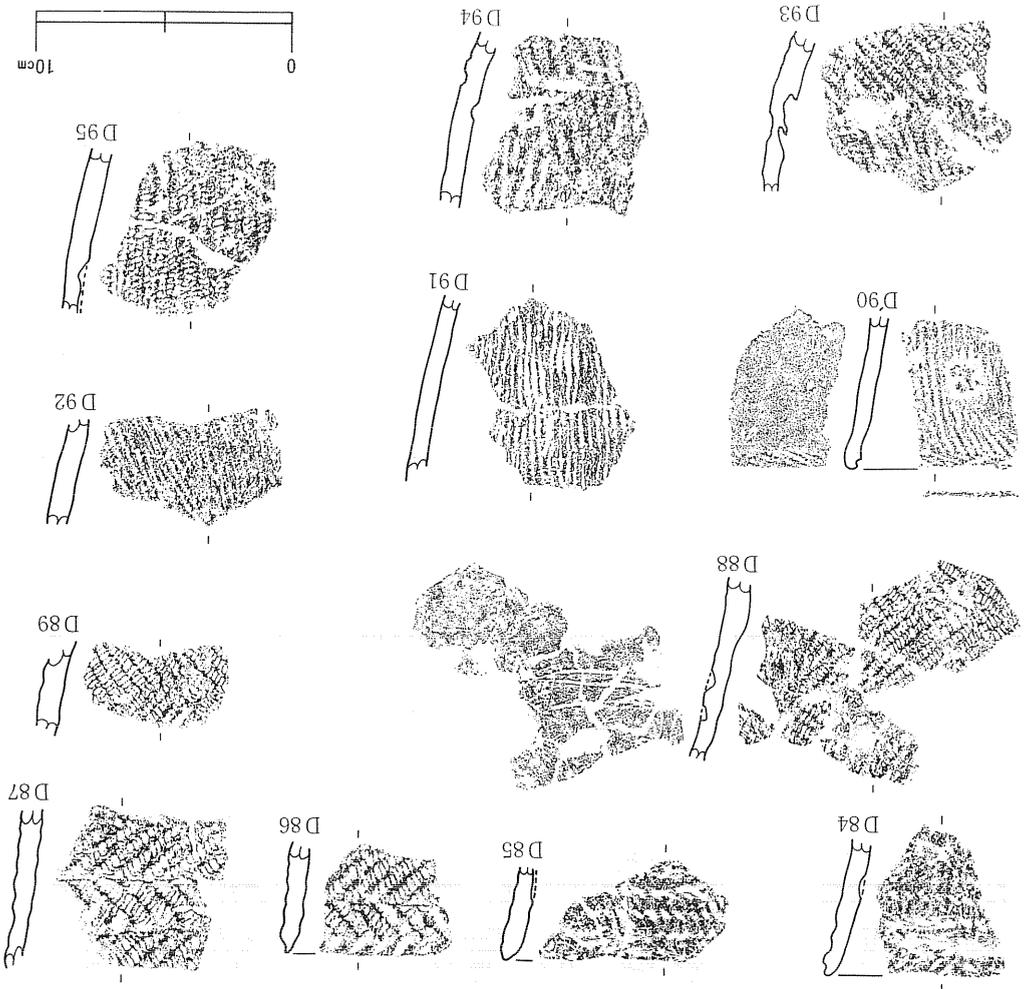


第228図 石器集中部(26) SXQ44

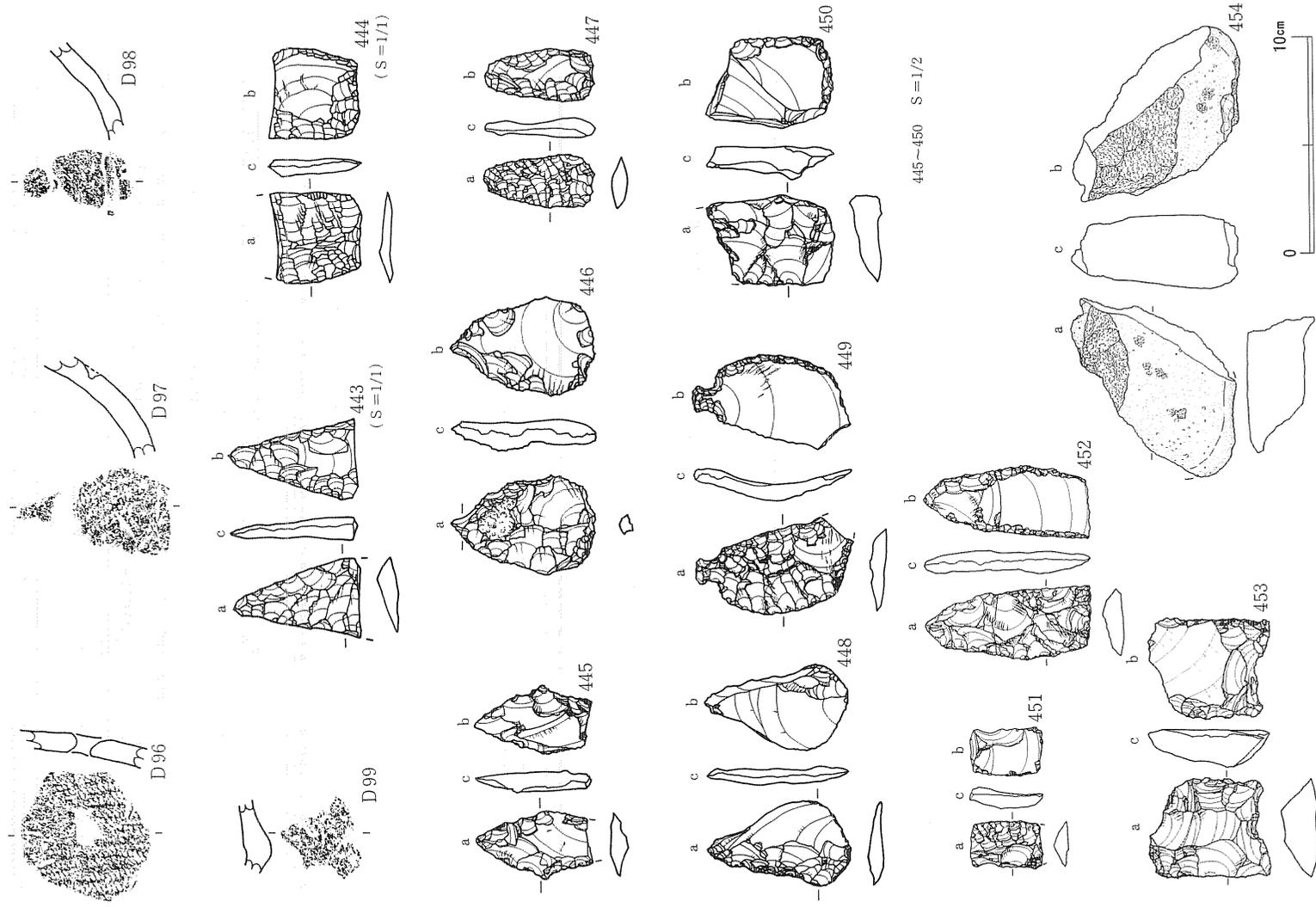
第229図 遺構内出土遺物 (141) S X Q22土器・石器, S X Q43①



第230図 遺構内出土遺物 (142) S X Q43②・44①土器



第1節 縄文時代の検出遺構とその遺物



第231図 遺構内出土遺物 (143) SXG44②土器・石器

失敗し、そこの打撃で折断している。

削器(441・442) 両者とも横長剥片で、441はb面の両側縁に、442はa面左側縁に粗い調整がある。後者のa面下端には、細かい剝離を施し刃部を形成した可能性がある。

S X Q44 (第228・230・231図、図版25・77)

下段で調査区中央の西側M J54～56区に位置し、表土下約0.5mの河道G堆積層上部の暗褐色土で検出。取り上げ総数は2,070点で7.5m×5.5mの広がりをもち、縄文土器も少量含む。分布状態は大雑把に、北側の5m×4mと南側の1.5m×1mの2ブロックに分けられる。垂直分布は一部を除いてほぼ0.2mの幅に収まるが、これらの分布している所はほぼ平坦な面を呈す。遺構は、多量のチップを共伴している石器製作跡である。

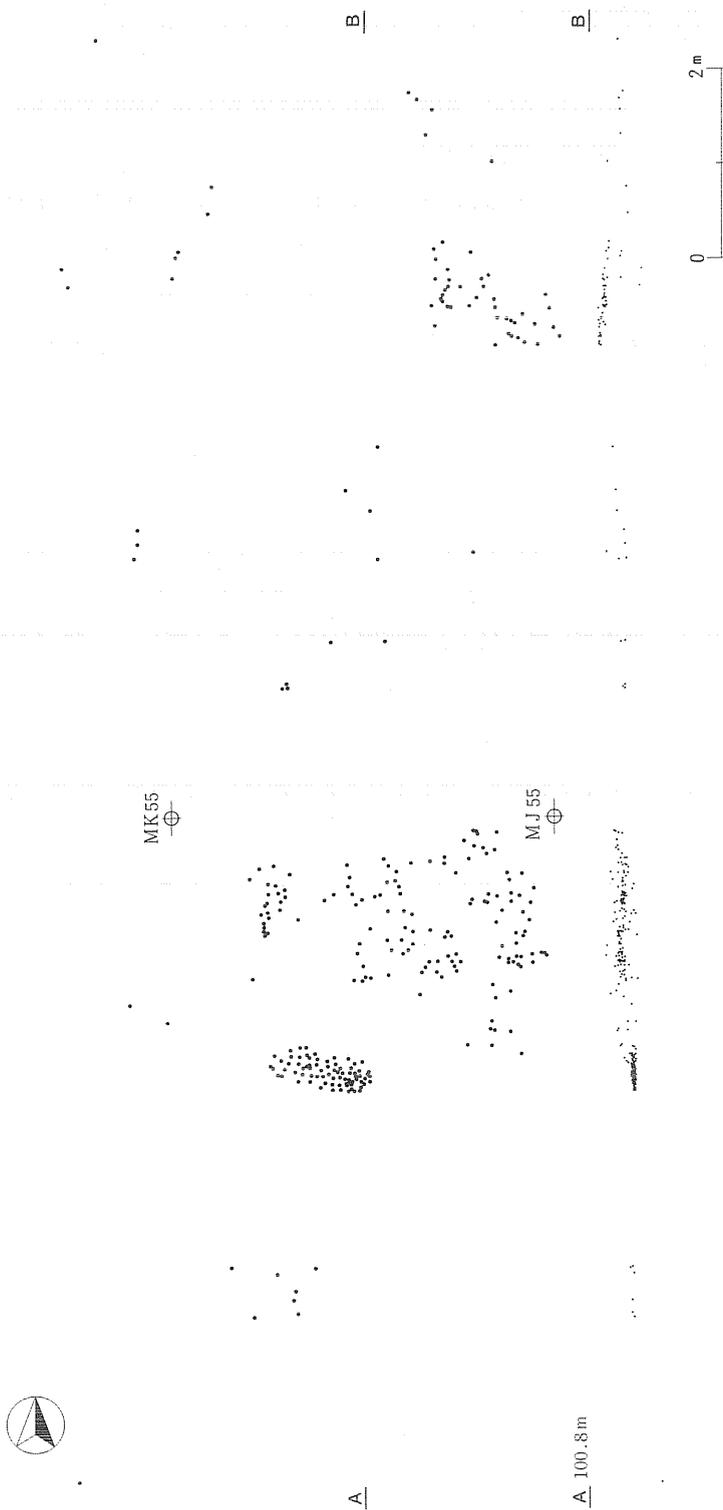
出土遺物は、深鉢と考えられる縄文土器以外に、石鏃・石匙・石篋・搔器・凹石がある。深鉢(D84～D98) すべてに繊維を含む。D84・D85は、文様構成と傾きは若干異なるが、口唇部が鋭角的で胎土・焼成が同じことから同一個体の可能性がある。D84は口唇直下に、短く斜めの押圧縄文があり、その下に撚りの緩い2本の押圧縄文がある。さらに、LRの半置半転を施す。D85も口唇直下に短く斜めの押圧縄文があり、その下に、一部(右端)はD84のような一段の押圧縄文で、それと並んだ所から下へはLRの半置半転を行う。色調は外面がにぶい褐色で、内面が浅黄橙色。D86・D87は同一個体である。口唇は鋭角的で、口縁以下に異原体による横位の羽状縄文を施す。最も上にある斜縄文は、口唇直下の斜めの刻みと組み合って羽状を呈す。D88・D89は同一個体で、異原体による羽状縄文を構成する。内面には指頭圧痕がある。D90～D92は同一個体である。D90は丸い口唇で、この直下の内外面に短い幅の縄文がある。さらに下の外面には、D91・D92も含んでRLの縄文を施す。D93～D95は、RLの斜縄文である。D97～D99は底部の破片で、D97・D98は丸底D99は尖底である。これらの内、D84～D87・D90の外面は、煤の付着が著しい。これらの器厚は7～9mmである。色調は、D90の外面とD91・D92の内面が褐灰色、内外面は橙色や浅黄橙色から褐色である。胎土は、D86・D87やD90～D92で砂粒を顕著に含む。焼成は、D88・D89やD95が堅緻な外は不良なものが多い。

有孔円盤(D96) 長軸7.5cm×短軸5.5cmの不整円形で、RL縄文の破片に穿孔したものである。器厚は8mmで、色調は内外面とも橙色である。胎土には、繊維と5mm以上の小石を僅かに含む。焼成は良好。

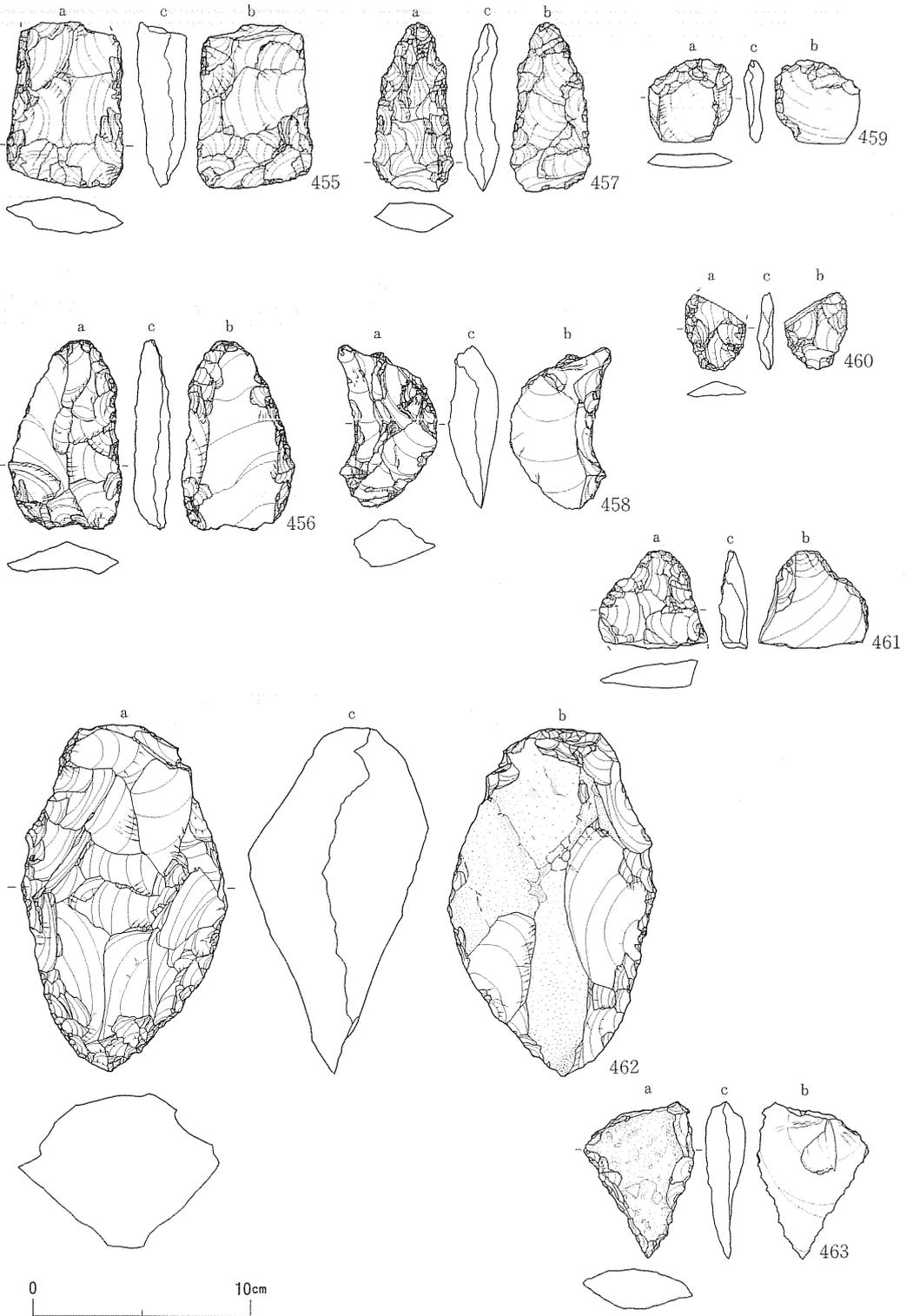
石鏃(443～448) 445～448は未製品で、443は下位が444は上位を欠損。

石匙(449～451) 449は幅の広い先端の一部を、450は幅の狭い上位を欠損。451は、上位がa面から下位をb面より折損しており、故意に折断した可能性がある。

石篋(452) 縦長剥片の整った形で、a面右側縁が直線的に同左側縁は弓成りになる。



第232図 石器集中部(27) S X Q45



第 233 図 遺構内出土遺物 (144) S X Q03・45

第4章 調査の記録

搔器(453) 不定形で両側縁に粗い剝離が、a面の左上位と右下位の側縁に細かく丁寧な剝離がある。前者は凸状で後者は凹状である。

凹石(454) 平坦な河原石に、大きめの凹みがある。

SXQ45(第232・233図、図版25・77)

下段で調査区中央の西側MJ54~56区を中心にして位置し、表土下約0.9mの河道G堆積層の下部と考えられる礫層(第15図④-d層)上面で検出。取り上げ総数は294点で、13m×6mの広がりもち、全体では疎な在り方を示す。MJ54区には、30~40cmの大型の礫が故意に置かれたようにあり、周辺からは多量のチップが出土している。垂直分布は最大0.2mの幅に収まる。遺構は石器製作跡であるが、大型の礫は石器製作時に台石として使用された可能性がある。

出土遺物は石器のみで、石斧・石篋・搔器・削器・二次加工ある剝片がある。

石斧(455) 上位を欠損し、刃部は両刃で直刃状に整えている。両側縁と刃部は鋭い。

石篋(456・457) どちらも三角形の横長剝片で、456は両側縁と刃部に457は両側縁に調整がある。457の刃部には、使用痕と考えられる微小剝離がある。

搔器(458) 横長剝片で、a面の右側縁に特に丁寧な調整がある。

削器(459・460) 459は分厚い横長剝片の素材で、a面左側縁に約90°の刃部がある。460は本来木の葉形と考えられ、上位を欠損する。両側縁に調整があり、a面から折断している。

二次加工ある剝片(461) 両側縁に調整があり、a面からの折断がある。

SXQ55(第225図)

下段で調査区北西のML60区に位置し、表土下約2.4mの河道H堆積層の下部と考えられる黒褐色土で検出。総数は178点で、2.2m×1.5mの広がりがあがる。垂直分布は西側を除くと、約0.15mの幅でまとまり、地形に沿った緩やかな傾斜を示す。

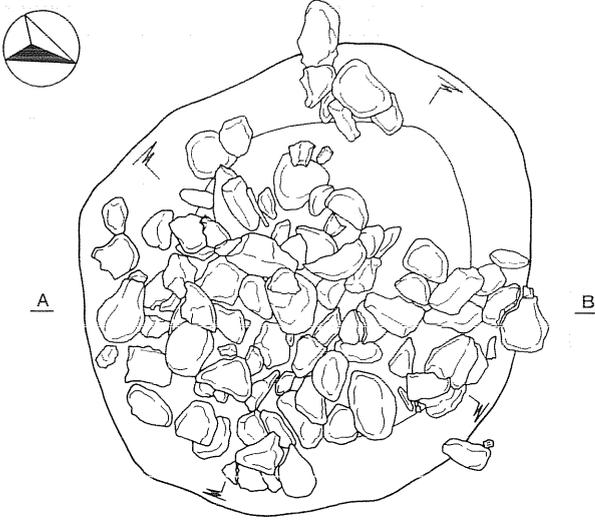
4 早期から前期

早期から前期に推定される遺構と遺物は、調査区の南北に広く散在している。層位的には、河道C堆積層から河道E堆積層までを中心としており、早期と前期の区別がつかないものを一括している。遺構の種類と数は、集石炉1基、焼土遺構1基、石器集中部5ヶ所である。遺物は、前期と考えられる土器片や、石篋・搔器・削器・凹石等の石器が出土している。

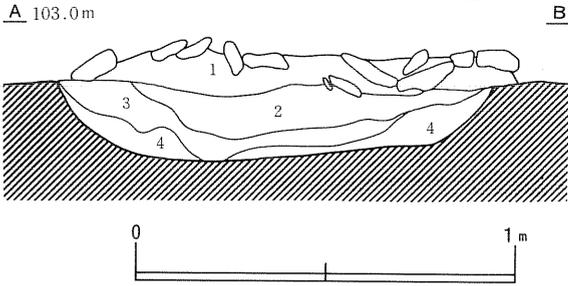
(1) 集石炉

SQ105(第234図、図版10)

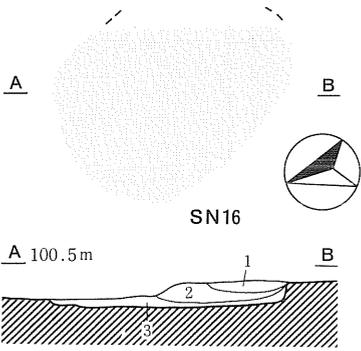
上段で調査区中央の北側MB・MC58区に位置し、表土下約0.1mのV層で検出。褐色土で、黒褐色の円形プランとして確認した。深さ0.3mの掘り込みを造り、この中に礫を充填させたものである。掘り方の平面形は、長軸1.35m×短軸1.15mの楕円形で、底面は緩く窪み壁面



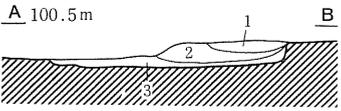
SXQ105



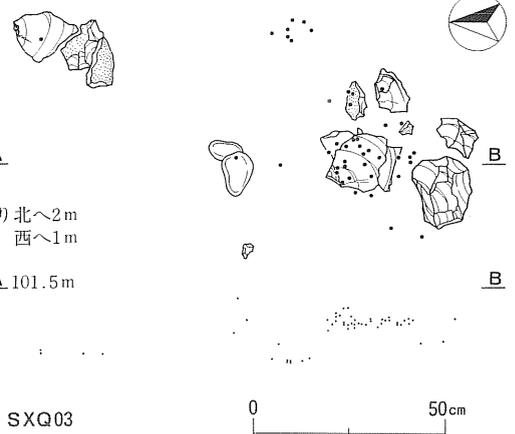
- 1 黒褐色土 (10YR2/3) しまる。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) 黒ぼい土、礫、シルトを含む。しまる。
- 3 褐色土 (10YR4/6) 炭化物、シルトを含む。しまる。
- 4 黄褐色土 (10YR5/8) シルトを含む。しまる。



SN16

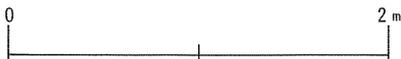


- 1 黄褐色土 (10YR5/8) 暗赤褐色土、砂粒を含む。しまる。
- 2 暗赤褐色土 (5YR3/6) 炭粒、砂粒を含む。しまる。
- 3 黄褐色土 (10YR5/6) 砂粒を含む。しまる。

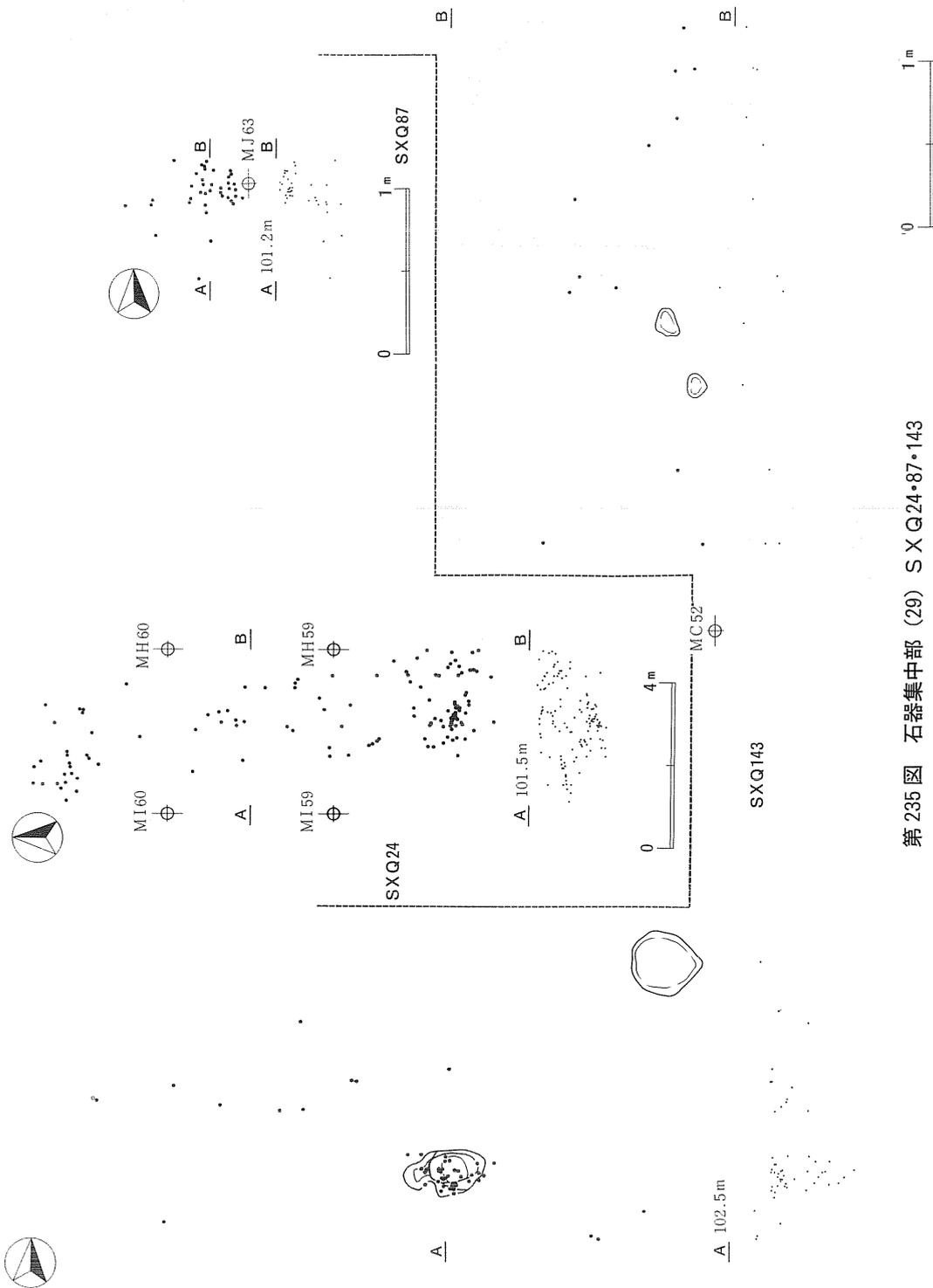


MG55より北へ2m
西へ1m

SXQ03



第234図 集石炉(7), 焼土遺構(3), 石器集中部(28) SQ105, SN16, SXQ03



第235図 石器集中部 (29) SXQ24・87・143

は摺鉢状を呈す。礫は掘り方上位に集中し、5～20cmの扁平なものが多くほとんどが赤く焼けている。これらは乱れた状態にあり、破碎したのも比較的目立つ。覆土は中位が褐色土、上位が黒褐色土である。

(2) 焼土遺構

SN16 (第234図、図版11)

下段で調査区中央やや南西のMF53区に位置し、表土下約1.1mの河道C堆積層下部の砂層で検出。不明瞭であるが、焼土と炭化物の範囲として確認した。平面形は、約長軸1.4m×短軸1mの楕円形と考えられ、掘り込み面は不明瞭。覆土は砂質である。

(3) 石器集中部

SXQ03 (第233・234図、図版25)

下段で調査区中央やや西側のMG55区に位置し、地表面下約0.1mの河道D・E堆積層上部の黄褐色土で検出。総数は54点で長軸1.3m×短軸0.7mの広がりをもつが、これより約2m西から出土した石器も含んでいる。中央部には、約10cmの礫が2点出土している。集中部での掘り込みは確認できなかった。垂直分布では、一部のまとまりが低い所で出土しており、ピット状の掘り込みがあったかもしれない。

出土遺物は石器のみで、尖頭状両面礫器・石錐がある。

尖頭状両面礫器(462) 両面礫器でb面は素材面を利用し、主にa面に調整を加えて尖った両刃を作り出す。握り部としての上部は厚く重量があり、使用時には威力がある。遺跡よりいくつ出土しており、定形的な石器であろう。

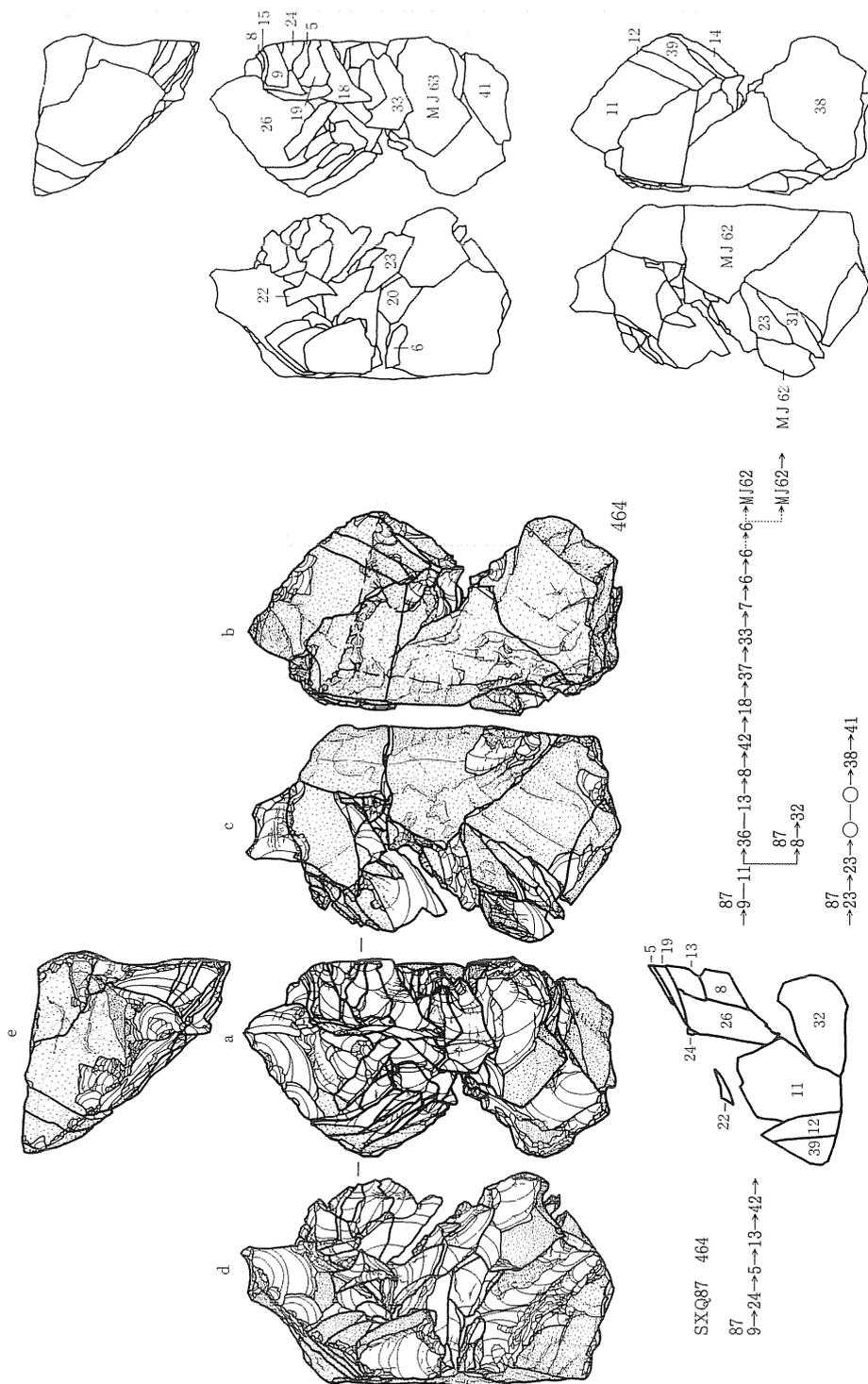
石錐(463) 横長剝片の素材と考えられ、先端の断面は三角形に尖がる。両側縁に角度のある調整を施すが、初めにやや粗く次に細かく丁寧な調整を施す。

SXQ24 (第235図、図版25)

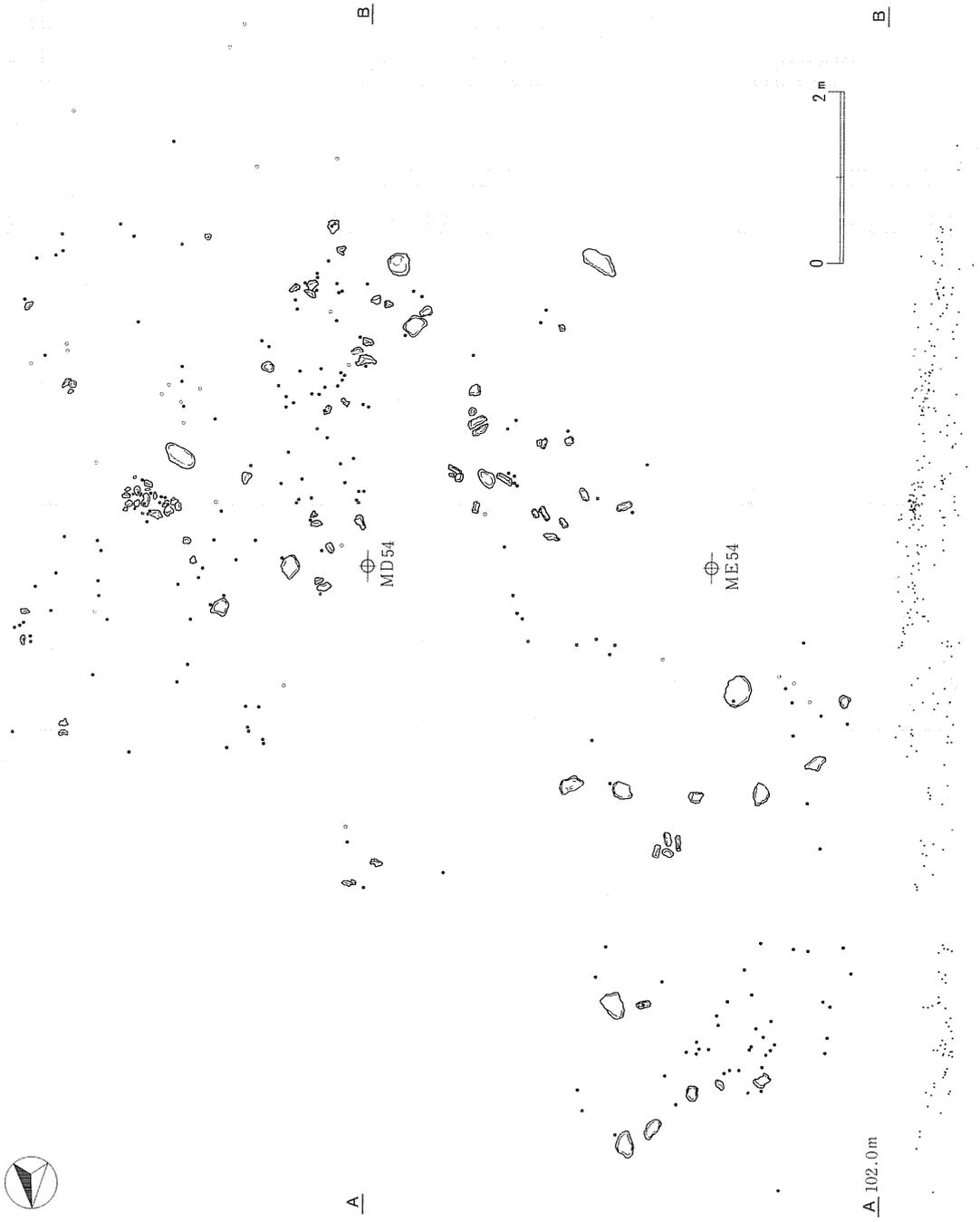
下段で調査区中央やや北西のMH58～60区に位置し、表土下約0.1mの河道E堆積層下部の褐色土を中心に検出。総数は127点で12.5m×3mの範囲がある。この幅は、河道E堆積層の褐色土の幅に規制されたものである。垂直分布の高低差は1.7mあるものの、これは褐色土が短い幅で急激な傾斜を示すことによる。そして、各グリッド毎の垂直分布では、高い東側から低い西側にかけて相対に摺鉢状を呈す。遺構は、チップが目立たないことと石器のばらつきから、石器製作跡とは言えない。

SXQ87 (第235・236図、図版25)

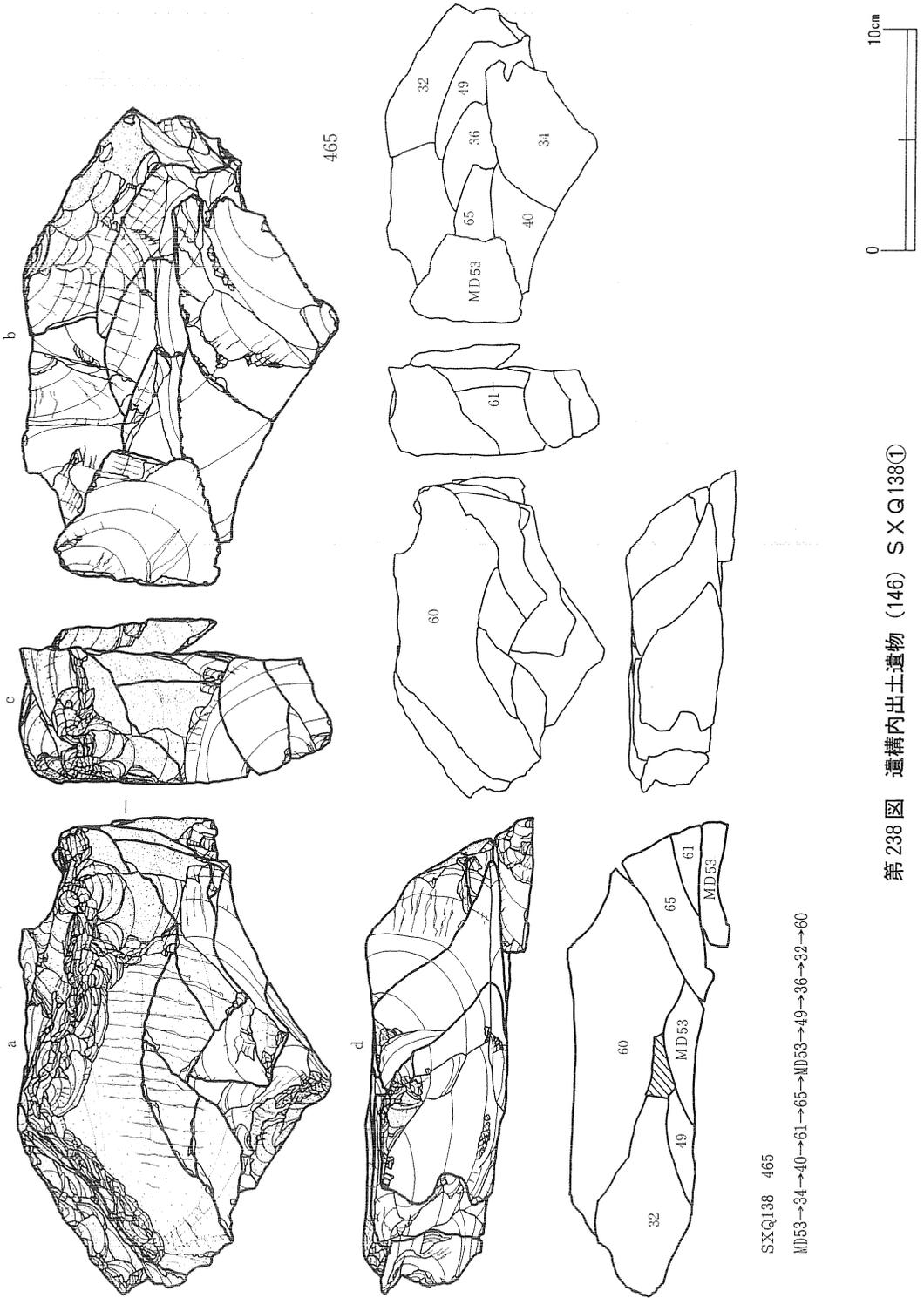
上段で調査区北西部のMJ63区南東杭付近に位置し、表土下約1.8mの河道E堆積層と考えられる黄褐色土で検出。総数は41点で、径約1mの範囲に集中している。垂直分布は0.4mであるが、西側に傾斜している包含層の影響もある。



第236図 遺構内出土遺物 (145) SXQ87



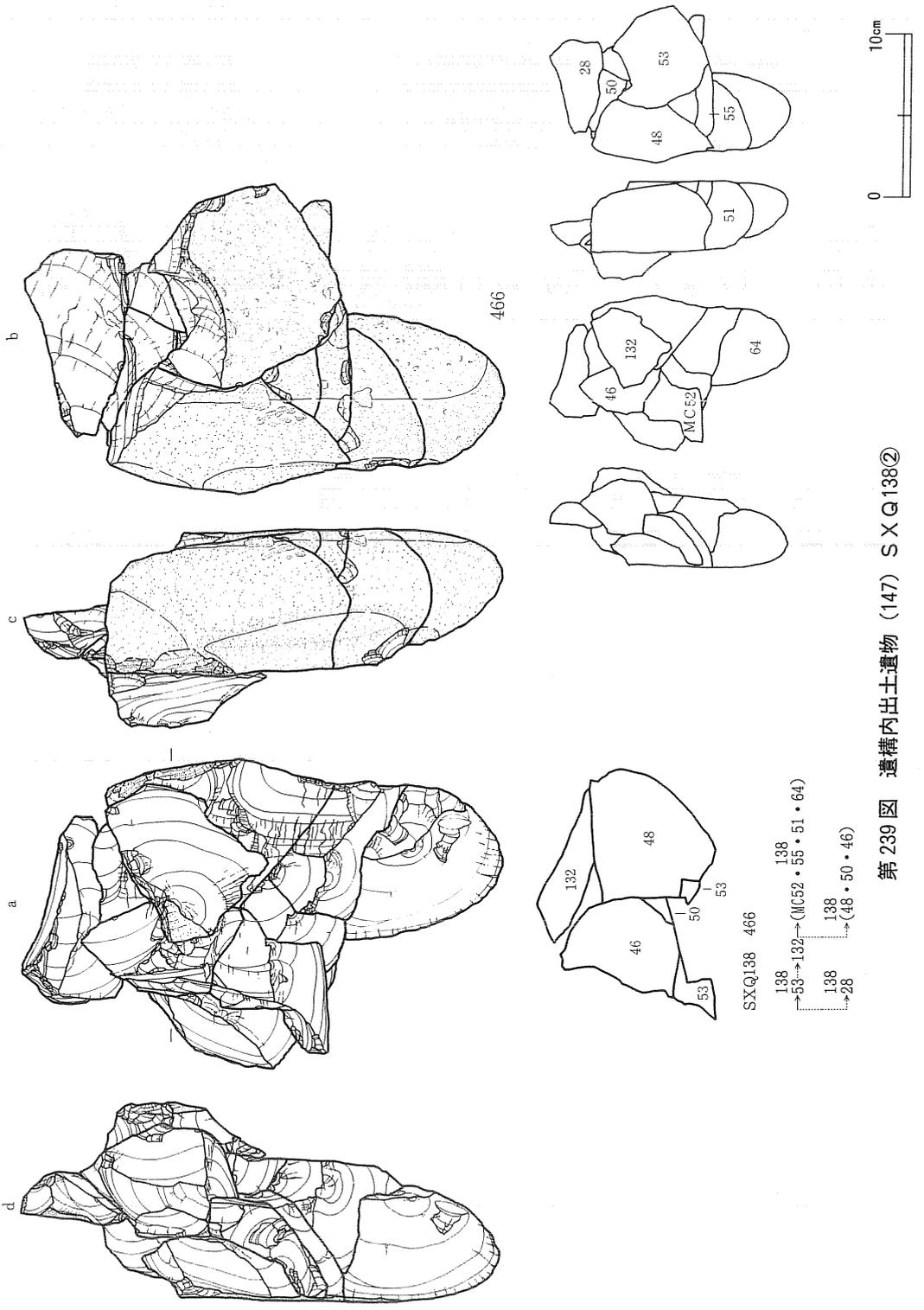
第237図 石器集中部(30) S X Q138



SXQ138 465

MD53→34→40→61→65→MD53→49→36→32→60

第238図 遺構内出土遺物(146) SXQ138①

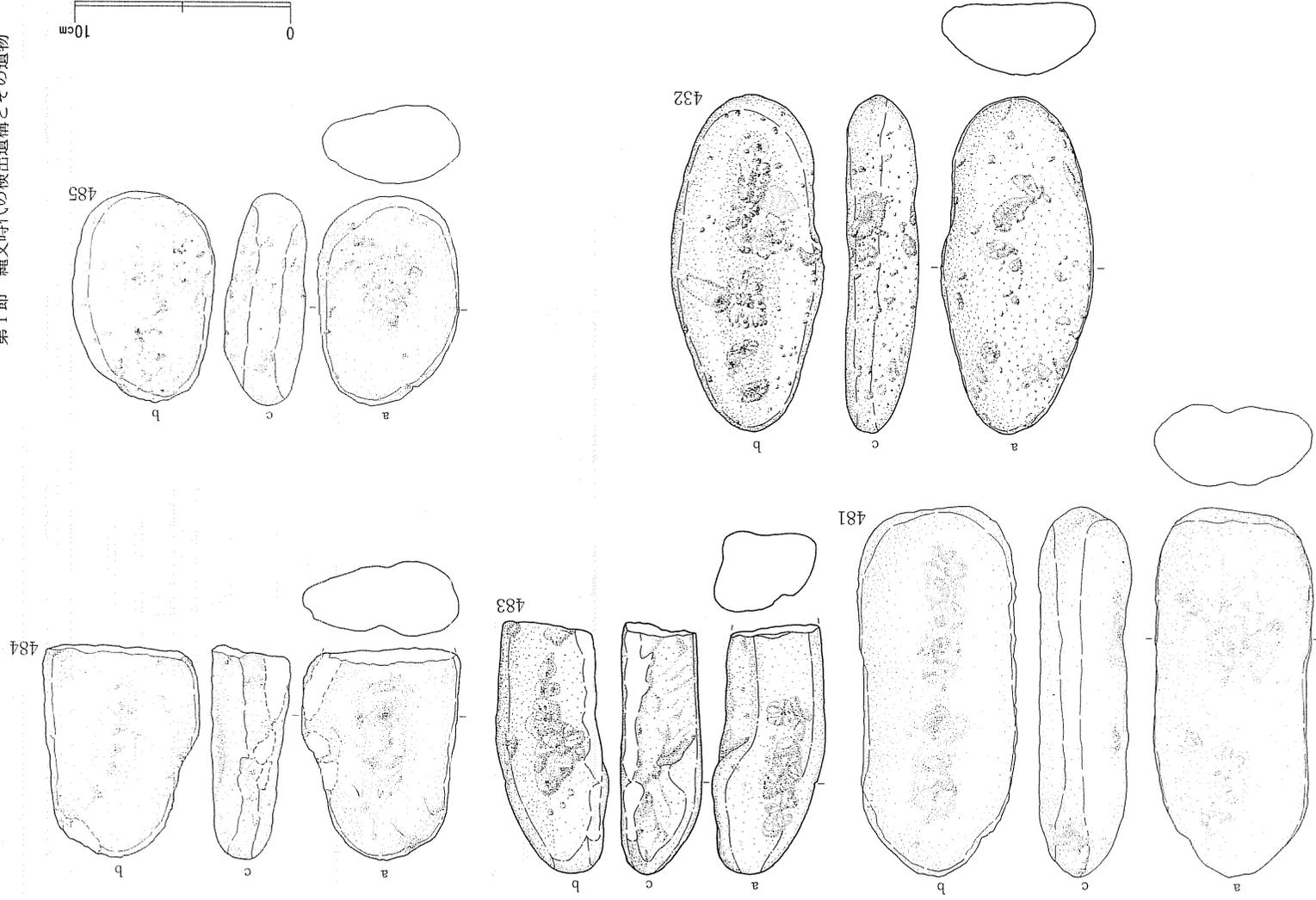


第239図 遺構内出土遺物 (147) SXQ138②

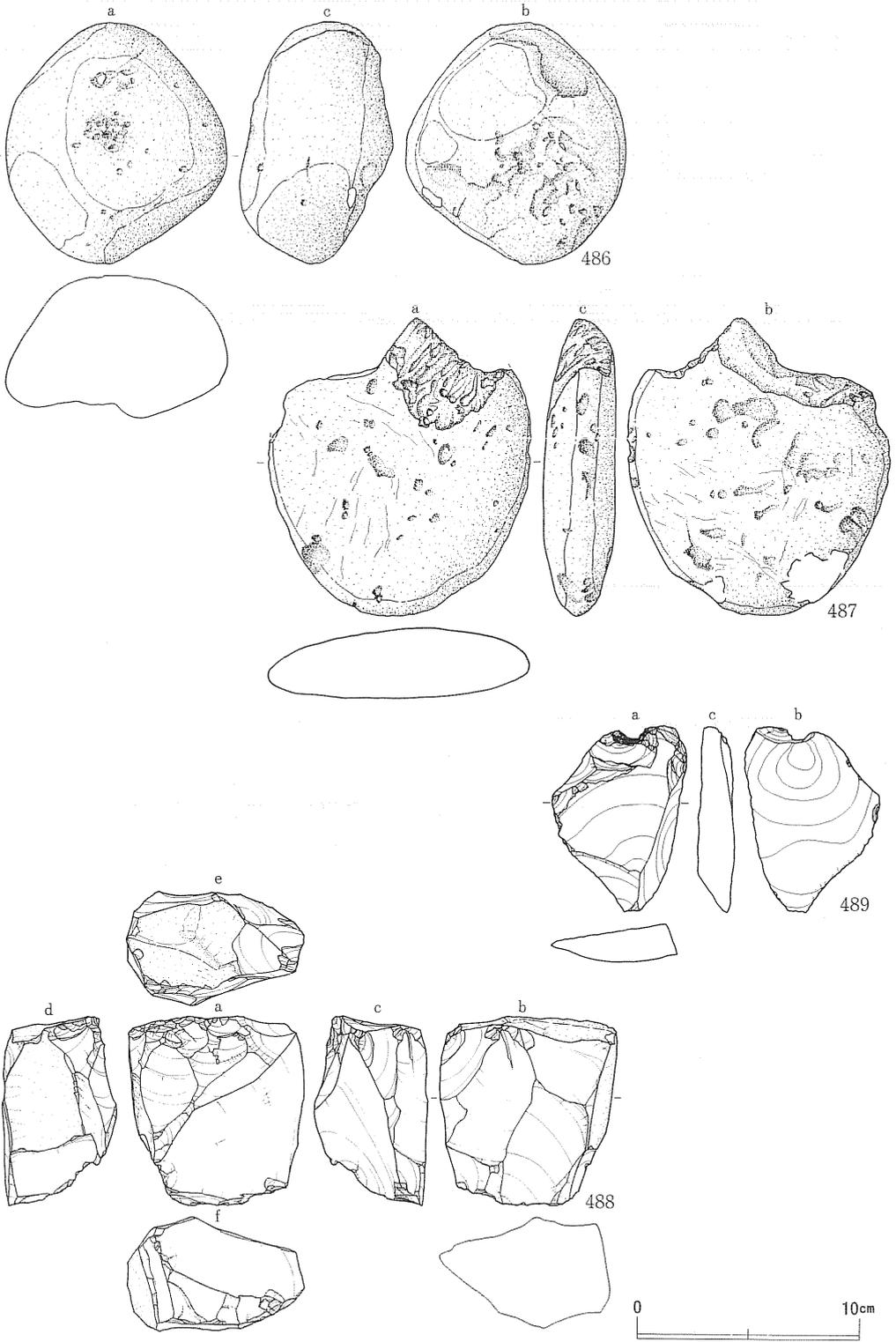
SXQ138 466
 138
 →53→132→(MC52・55・51・64)
 138
 →28 →(48・50・46)

第240図 遺構内出土遺物 (148) S X Q138㊟土器・石器





第241図 遺構内出土遺物 (149) S X Q 138④



第 242 図 遺構内出土遺物 (150) S X Q 138⑤・143

出土遺物は、接合資料のみである。

接合資料(464) b面が最も広い平坦面となる大型の河原石で、いくつかの分割礫を核にして剥片を得ている。a面の左上では、連続的な剥離が見られる。

SXQ138(第237~242図、図版25・60・77)

上段で調査区中央のMC52~54区、MD53~55区、ME54・55区に位置し、表土下0.2~0.3mのV層を中心に検出。取り上げ総数は207点で、14m×9mの広さがある。ここでは10~40cmの礫が比較的目的立ち、僅かに前期の土器片を含む外後期の土器も含んでいる。垂直分布は最大0.6mで特に南側で厚く、北側ではそれが薄い。このことと、前期の土器がMD54区より南東側の上位を占めていることから、大きく南東側の前期と北西側の早期に、分布域が分けられそうである。

出土遺物は、深鉢と考えられる縄文土器やミニチュア以外に、接合資料・両面調整石器・石篋・石錐・石匙・搔器・削器・二次加工ある剥片・凹石・礫石器の石器がある。

深鉢(D100) やや外反する口縁部で、口唇部に刻みがある。口唇直下に、RLの結節をもつ横位の回転を施す。結節間は一部に押圧縄文を認めるが、基本的に無文帯である。内面には指頭圧痕がある。器厚は6mm。色調は内外が橙色で、胎土には砂粒を僅かに含む。焼成は良好。時期は前期と考えられる。

ミニチュア(D101) 深鉢の胴部破片で、底径2cm、現存高4cmである。中央にRLの縄文を施し、横位に棒状工具で磨り消しを施す。内外面には煤が付着している。器厚は4mm。色調は内外面褐色で、胎土には砂粒が顕著である。焼成は良好。時期は晩期である。

接合資料(465・466) 465は片側が平坦な河原石の分割礫で、分厚い横長剥片をa面の下位より連続して剥離している。b面は分割面で、a面と平行した摂理面である。466は、礫皮面のある大型剥片が接合したもの。表面が2~3cmにわたり柔らかい頁岩で、中央の堅い部分に到達するために表面を粗割りした可能性がある。

両面調整石器(467) a面の右側縁が直線的で、同左側縁が弓成りを呈す半月形状である。両側縁には丁寧な調整がある。b面からの折断で下位を欠損。

石篋(468~470) 468・470は、横長剥片で主要剥離面を大きく残すが、469は全面に剥離が及ぶ。468は甲高で、両側縁の調整はa面側にある。469・470では両面から調整を施す。

石錐(471) 先端の断面が四角形状で、側縁のやや粗い調整に対して先端側に細かい調整がある。先端が尖っていないことから未製品と推定した。

石匙(472) 横長剥片で、両側縁に丁寧な調整がある。先端のa面右側縁に槌状剥離と思われる痕跡がある。つまみ部は横に長く、頂部は水平でa面の自然面に対してb面は細かく丁寧な剥離がある。

第4章 調査の記録

搔器(473~476) すべて横長剥片で、片面に丁寧な調整がある。473・474 は縦に長く、475 は円形、476 は四角形である。刃部は473・474 が丸く、475・476 では直線的である。

削器(477・478) どちらも縦長剥片で、477 は片側に478 は両側縁に調整がある。478 の a 面右側縁は角度の鋭い刃部である。

二次加工ある剥片(479・480) 479 は縦長で480 は横長の剥片である。

凹石(481~486) 481~484 は細長く、483 の棒状のものを除いて扁平である。485 も扁平で楕円形である。これらは、連続した長い痕跡を残す。486 は円形で分厚い。すべて両面に凹みをもつ。482 は上位右側縁を中心に、赤く焼けた帯状の痕跡がある。

礫石器(487) 見ためより軽い円盤状の礫で、上端の a・b 面に鼠歯状の痕跡がある。

SXQ143 (第235・242 図)

上段で調査区中央の南側MC51・52 区に位置し、表土下約0.5mのV層で検出。総数は60点で、南側の小ピットを含む8m×4mの範囲から僅かに礫を含んで出土した。ピットは長軸0.5m×短軸0.3mの不定形で、深さは0.5mである。覆土は暗褐色土。ここからは、ややまとまった石器が出土している。

出土遺物は石器のみで、石核・二次加工ある剥片がある。

石核(488) d・e面に平坦な礫皮面があり、これらを主として打面に利用している。

二次加工ある剥片(489) 縦長剥片で、a面上位にノッチがある。

5 中期

中期の遺構と遺物は、調査区の西端部の狭い範囲から集中して検出した。層位的には、河道I堆積層中より出土している。遺構の種類と数は、集石炉1基、焼土遺構8基、土器集中部1ヵ所である。遺物は、深鉢等の大木8式土器の外、石鏃・石皿等の石器が出土している。

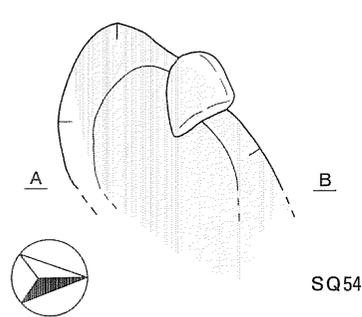
(1) 集石炉

SQ54 (第243・244 図、図版10・78)

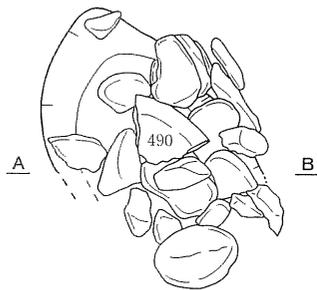
下段で調査区西端のMO57 区に位置し、表土下約2.9mの河道I堆積層中位で検出。黄褐色砂質土で暗赤褐色の焼土として確認した。焼土は長軸0.7m×短軸0.35mの広がりを示し、長軸は北東—南西の方向をもつ。この下に幅約0.5mで摺鉢状の掘り方があり、径約20cmの扁平なものを主体に約20個の焼けた礫が集中する。この北西側には扁平な礫数個が縦に、反対の南東側では東側へ開くように1個の礫がそれぞれ据えられていた。このことから、開口部は北東側と推定される。覆土は炭粒を含み、上位が極暗赤色褐土、下位が褐色土である。

出土遺物は、炉石に利用された石皿の破片がある。

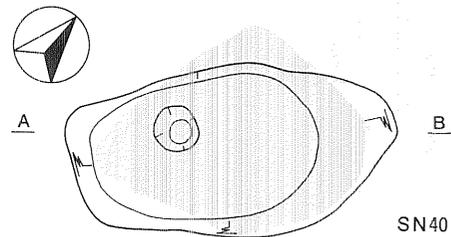
石皿(490) 楕円形の精巧な作りで、礫を掘り込んで削ったものである。周囲は約2cmの



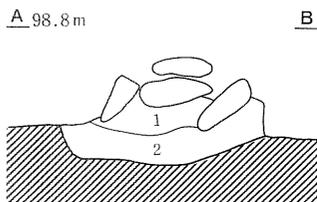
SQ54



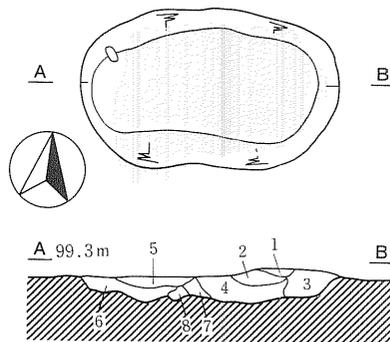
SN41



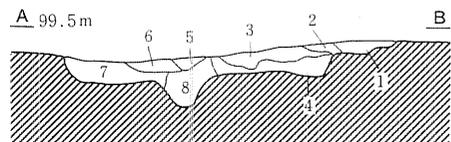
SN40



A 98.8m



A 99.3m

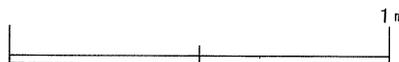


A 99.5m

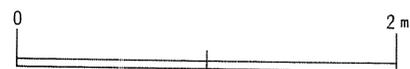
- 1 極暗赤褐色土 (5YR2/4) 炭粒を含む。しまり弱。
- 2 褐色土 (10YR4/6) 極暗赤褐色土、炭粒を含む。しまる。

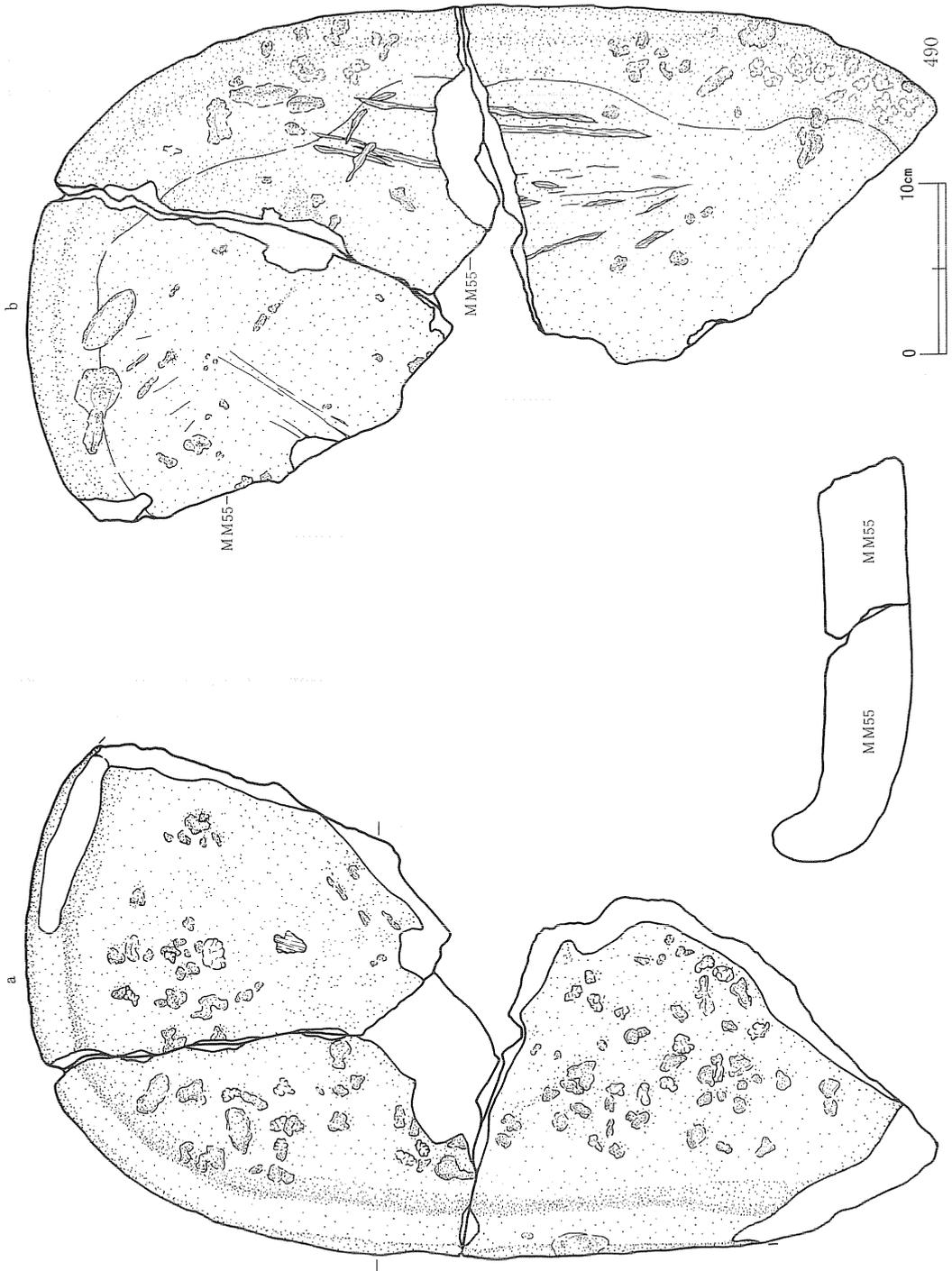
- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 焼土、炭化物を含む。しまる。
- 2 黄褐色土 (10YR5/6) 焼土、炭粒を含む。しまり弱。
- 3 褐色土 (10YR4/6) 炭粒を含む。しまり弱。
- 4 黄褐色土 (10YR5/6) 焼土、炭粒を含む。しまる。
- 5 褐色土 (10YR4/6) 焼土、炭粒を含む。しまり弱。
- 6 黄褐色土 (10YR5/6) 焼土、炭粒を含む。しまり弱。
- 7 黄褐色土 (10YR5/6) しまる。
- 8 褐色土 (10YR4/6) 焼土、炭粒を含む。しまる。

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 炭粒を含む。しまり弱。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土、炭粒を含む。しまる。
- 3 暗赤褐色土 (10YR3/6) 炭粒を含む。しまる。
- 4 黄褐色土 (10YR5/6) しまる。
- 5 暗褐色土 (10YR3/3) 炭粒を含む。しまる。
- 6 褐色土 (10YR4/4) 炭粒を含む。しまる。
- 7 黄褐色土 (10YR5/6) 炭粒を含む。しまる。
- 8 黄褐色土 (10YR5/6) 炭粒を含む。しまる。

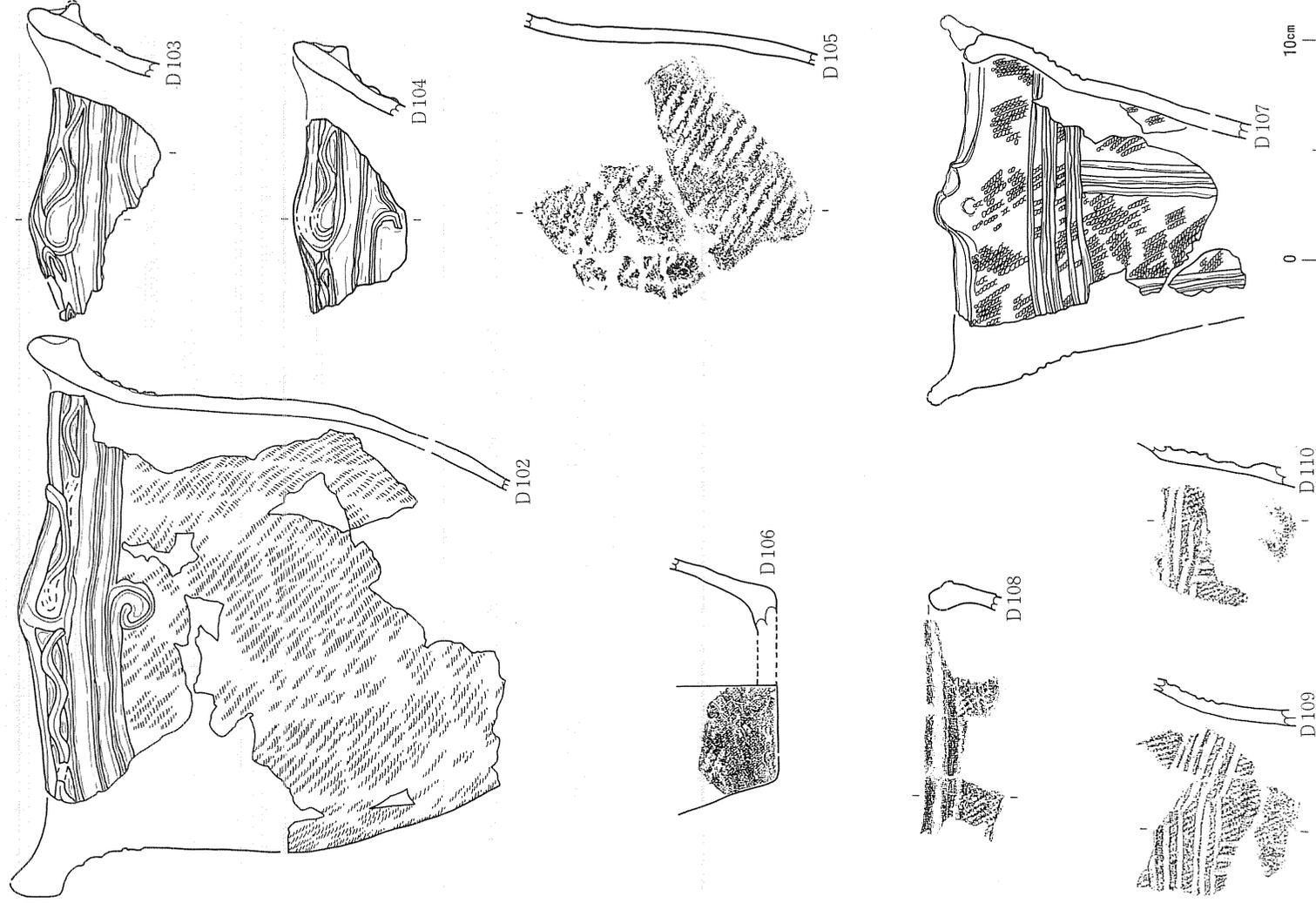


第 243 図 石組炉, 焼土遺構 (4) SQ54, SN12・40・41





第244図 遺構内出土遺物(151) S Q54



第245図 遺構内出土遺物(152) S N12・50 土器

幅で縁取りがあり、その上面から約2cm下がった所に使用面がある。底面からは、緩く丸みをもって立ち上がる。下位の破片は炉跡出土のもので、縁沿いに帯状の赤く焼けた部分がある。

(2) 焼土遺構

SN12 (第243・245図、図版78)

下段で調査区西端のMN56区に位置し、表土下約3.1mの河道I堆積層中位で検出。黄褐色砂質土で、炭化物を含む暗赤褐色土の焼土として確認した。平面形は、約長軸1.5m×短軸0.9mの不整形で、覆土は薄く目立った掘り方はない。

出土遺物には、深鉢の縄文土器がある。

深鉢(D102～D106) D102～D106は同一個体である。推定口径は約24cm、推定高約29cmである。口縁部には4つの波頂部があり、胴中央部より底部へ窄まる形態で、口縁部と頸部には貼付文による装飾がある。口縁部には波状文が、頸部には2本の平行線文を施し、この直下の波頂部には渦巻文がある。胴部には、全面にLRの縄文を施し、所々幅が狭い縦の磨消しがある。また、底部から約2cmの幅は磨きによる無文帯で、縄文の磨消しも認める。内面にはナデを施す。外面に煤が付着する。器厚は胴部で4～5mmと薄い。色調は内外面が浅黄橙色から褐色で、胎土には細砂を多量に含む。焼成はやや不良。時期は大木8b式の範疇である。

SN40 (第243図、図版11)

下段で調査区西端のMN56区に位置し、表土下約2.1mの河道I堆積層中位で検出。黄褐色砂質土で暗赤褐色土の焼土を確認した。掘り方の平面形は、長軸1.7m×短軸0.9mの不整形円形で、深さは約0.15mである。床面はほぼ平坦で、中央西側に径約0.2mの窪みをもつ。壁は、長軸側で摺鉢状を呈す。焼土は掘り方とほぼ重なるが、顕著な部分が西側の一角にある。覆土は、炭粒を含んだ赤褐色系の砂質土が主体である。

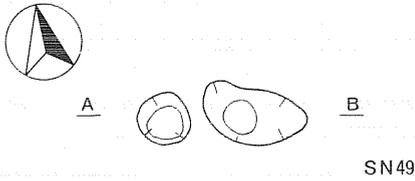
SN41 (第243図、図版11)

下段で調査区西端のMN56区に位置し、表土下約2.2mの河道I堆積層中位で検出。黄褐色砂質土で暗赤褐色土の焼土を確認した。掘り方の平面形は、長軸1.35m×短軸0.85mの楕円形で、深さは0.2mである。床面にはやや凹凸があり、壁は西側を除いて摺鉢状を呈す。焼土は掘り方とほぼ重なるが、顕著な部分は西側に片寄る。覆土は、約1cmの炭化物を含んだ赤褐色系の砂質土が主体である。

SN49 (第246図、図版11)

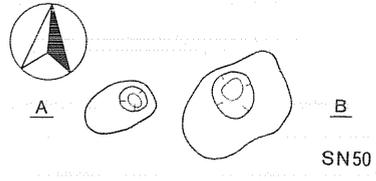
下段で調査区西端のMN57区に位置し、表土下約3.1mの河道I堆積層中位で検出。黄褐色砂質土で暗赤褐色の焼土を確認した。掘り方の平面形は、1辺が約1mの隅丸正三角形で、深さは0.1mである。底面は西側に傾斜し3つの窪みがあるが、本来中央と3つの隅に丸い窪みがあったのかもしれない。壁は摺鉢状を呈す。覆土は焼土が東側半分片寄り、その西側に

第1節 縄文時代の検出遺構とその遺物



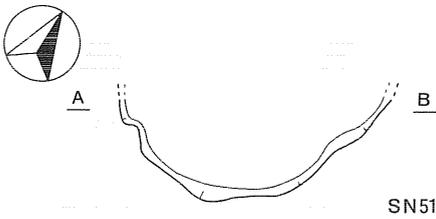
SN49

- A 98.5m B
- 1 暗赤褐色土 (5 YR3/4) 炭化物、砂粒を含む。しまる。
 - 2 赤褐色土 (5 YR4/8) 炭粒、砂粒を含む。しまる。
 - 3 褐色土 (10 YR4/6) 炭化物、砂粒を含む。しまる。



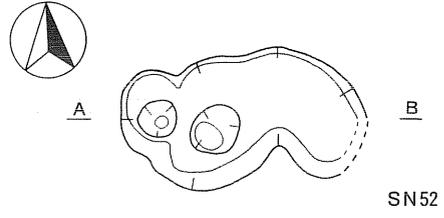
SN50

- A 98.6m B
- 1 暗赤褐色土 (5 YR3/6) 炭粒、砂粒を含む。しまる。
 - 2 褐色土 (10 YR4/6) 砂粒を含む。しまる。



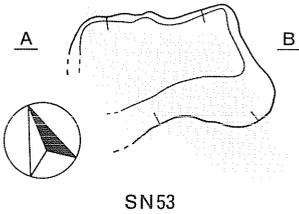
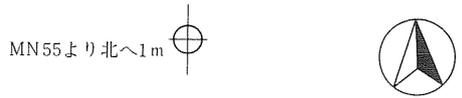
SN51

- A 99.5m B
- 1 黄褐色土 (10 YR5/8) 焼土、砂粒を含む。しまる。
 - 2 暗褐色土 (2.5 YR3/3) 炭粒、砂粒を含む。しまる。
 - 3 暗赤褐色土 (2.5 YR3/4) 炭粒、砂粒を含む。しまる。
 - 4 にぶい赤褐色土 (2.5 YR4/4) 炭粒、砂粒を含む。しまる。
 - 5 にぶい黄褐色土 (10 YR5/4) 炭粒、砂粒を含む。しまる。

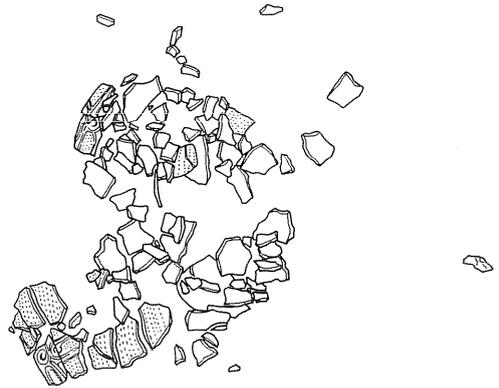
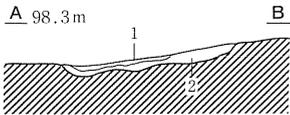


SN52

- A 98.0m B
- 1 褐色土 (10 YR4/4)
 - 2 極赤褐色土 (5 YR3/4)
 - 3 赤褐色土 (5 YR4/8)
 - 4 極暗赤褐色土 (5 YR2/4)
 - 5 極暗赤褐色土 (5 YR2/4)
 - 6 褐色土 (10 YR4/6)



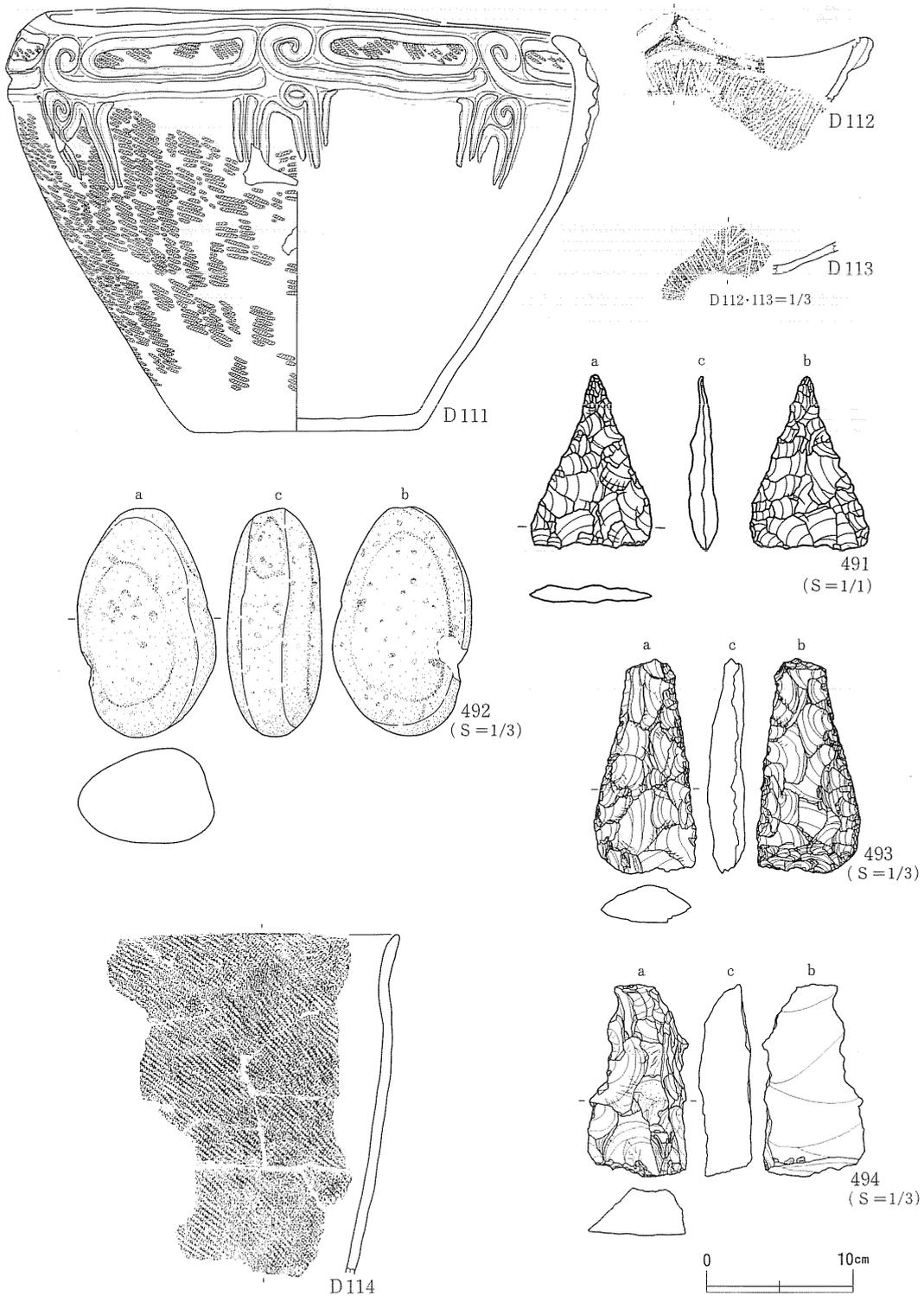
SN53



SXP42



第246図 焼土遺構(5), 土器集中部(3) SN49~53, SXP42



第247図 遺構内出土遺物 (153) S X P42 土器・石器, S X P04・65, S K140 土器

は炭化材が目立つ。

SN50 (第245・246図、図版11・12・78)

下段で調査区西端のMN57区に位置し、表土下約3mの河道I堆積層中位で検出。黄褐色砂質土で暗赤褐色の焼土を確認した。掘り方は大小2つのピットを残すのみで、床面は西側に傾斜し壁面などは不明である。ピットは、長軸0.65m×短軸0.45mと長軸0.4m×短軸0.25mの楕円形である。焼土はピットを覆うようにしてあり、約0.1mの厚さがある。

出土遺物には、深鉢の縄文土器がある。

深鉢(D107～D110) D107～D110は、同一個体である。推定口径は約16cmで、現存高約14cmである。口縁部には左右非対称形の突起があり、それは3つあった可能性がある。全体は、緩いキャリパー状の形態で、口唇部には沈線状の区画による段が付く。突起の内面には渦巻文が、外面下位には丸い貼付文がある。文様はLRの縄文に、頸部では5本の平行沈線文、胴部では縦位に円周の1/6位の間隔で3本の平行沈線文が施される。縦位沈線文を含む所々に、磨消縄文がある。器厚は胴部で5～7mmである。色調は内外面がにぶい黄橙色から暗褐色で、胎土には砂粒が顕著である。焼成は良好。

SN51 (第246図、図版12)

下段で調査区西端のMN55・56区を中心に位置し、表土下約2mの河道I堆積層上位で検出。暗褐色土で赤褐色土の焼土を確認したが、半分程を削平してしまった。掘り方の平面形は、長軸約1.7m×短軸0.8m以上の不整形で、深さが0.1mと浅い窪み状を呈す。底面は東側に緩く傾斜し、壁は不明瞭。焼土は掘り方とほぼ重なる。覆土は、炭粒を僅かに含んだ赤褐色系の砂質土である。

SN52 (第246図、図版12)

下段で調査区西端のMN56区に位置し、表土下約3.3mの河道I堆積層中位で検出。黄褐色砂質土で暗赤褐色の焼土を確認したが、一部掘り過ぎている。掘り方の平面形は、長軸1.4m以上×短軸約0.7mの不整形で、深さが約0.1mである。底面は西に緩く傾き、西側に径0.2～0.25mの2つの窪みをもつ。焼土は掘り方とほぼ重なる。覆土には炭化物を顕著に含み、極暗褐色土が主体である。

SN53 (第246図、図版12)

下段で調査区西端のMN56区に位置し、表土下約3.3mの河道I堆積層中位で検出。黄褐色砂質土で暗赤褐色土の焼土を確認したが、西側の一部を掘り過ぎている。掘り方の平面形は、約長軸1.1m×短軸0.6mの不整形で、深さが0.05mと浅い窪み状を呈す。底面は東側に傾斜し、壁は摺鉢状である。覆土には炭化物を顕著に含み、極暗褐色土が主体である。

(3) 土器集中部

SXP42 (第246・247図、図版14・78)

下段で調査区西端のMN54区に位置し、表土下約2.3mの河道I堆積層中位で検出。黄褐色砂質土で土器片の集中する範囲として確認した。ほぼ1個体分の鉢形土器が細かに砕け、かつ、土器の外表面が北と南側の端に分かれた状態で出土した。一部重なりながら土器の裏面が中央側に集合していること、口縁部が西側に底部が東側にまとまることから、横倒しの完形品が土圧で押し潰されたものと考えられる。その広がりには1.4m×0.8mで、これに石鏃が伴う外東側の近くから剥片石器1点が出土している。

出土遺物は、鉢や浅鉢の縄文土器以外に石鏃がある。

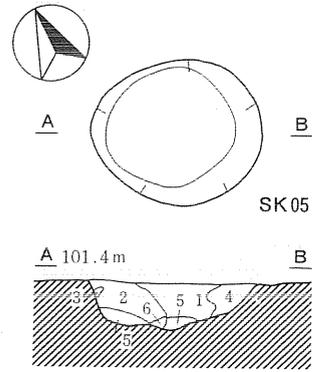
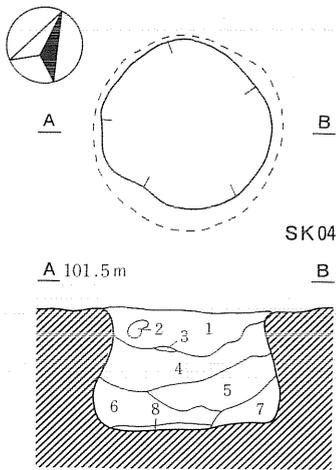
鉢(D111) 口径35cm、底径16cm、器高29.5cmである。口縁の平面形が、明瞭な楕円形になるほど大きく歪む。口縁部が内湾し、胴部と口縁部の境に最大径をもつもので、そこから平底の底部まで直線的に窄まる。文様はLR縄文の地文に、沈線と隆帯による渦巻文(蕨手状)や区画文を施す。口縁部と胴部上位の文様は、最大径で上下に2分される。上段は横位に展開する渦巻文と、その間に縄文が充填された横長の楕円形文で構成され、それぞれ7つの単位がある。その一面には、異なる渦の組み合った横C字形の渦巻文(左が中央から外側へ左回りの渦、右が中央から外側へ右回りの渦)がある。これに基本を置くと、その左渦巻き側へは左回りの渦巻きが連続して展開する。下段には上段の渦巻文に対応して、縦位に垂下する沈線と隆帯の区画内に渦巻文がある。この渦巻きは、ほとんどが右回りである。ただし、上段で基本に置いたC字形の渦の中央と対峙する所の下段の渦巻きだけは、左回りである。これらの関係は、C字形渦巻文側が正面、その反対側が裏面であることを意味する可能性がある。内面には、胴部で横位の平滑なナデを施す。器厚は胴部で1cm内外である。色調は主に、外面と内面上位が浅黄橙、内面下位が暗褐色である。胎土には、砂粒を多量に含む。時期は、大木8b式期である。

浅鉢(D112・D113) これらは、推定約4cmの底径から大きく開いた形態で、D113は口縁部である。口唇部は破損するが、隆帯は概ね口唇に沿ったものと考えられる。これ以下には、細かい縦位や斜めの沈線文が密に施される。隆帯部分に赤彩を認める。内面はナデを施し、器厚は体部で5mmである。色調は外面の一部が浅黄橙で、他は煤の影響もあり褐灰から黒色を呈する。器厚は5~7mmである。胎土には細砂が顕著で、焼成は不良。時期は、D111との共伴より大木8b式期と考えられる。

石鏃(491) 三角形の小さなもので、基部は平坦である。

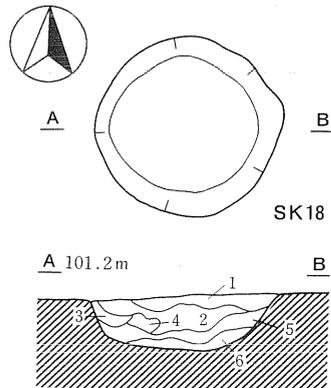
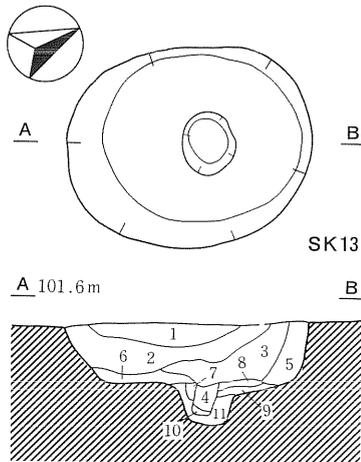
6 縄文時代で時期不明

縄文時代で時期不明の遺構と遺物は、調査区の東西の端を除く全域に広がっている。層位的



- 1 黒褐色土 (10Y R2/2) 暗褐色土を含む。しまる。
- 2 褐色土 (10Y R4/6) しまる。
- 3 黒色土 (10Y R2/1) しまり弱。
- 4 黒褐色土 (10Y R2/3) 暗褐色土、細粒を含む。しまる。
- 5 黒褐色土 (10Y R2/3) 細粒を含む。しまる。
- 6 黒褐色土 (10Y R3/2) 礫を含む。しまる。
- 7 暗褐色土 (10Y R3/3) 礫を含む。しまる。
- 8 褐色土 (10Y R4/6) 炭化物、炭化栗、砂粒を含む。しまる。

- 1 黒褐色土 (10Y R2/3) 地山粒を含む。しまる。
- 2 黒褐色土 (10Y R2/3) 地山粒を含む。しまり弱。
- 3 黄褐色土 (10Y R5/6) しまる。
- 4 黄褐色土 (10Y R5/6) 黒褐色土を含む。しまる。
- 5 黄褐色土 (10Y R5/6) 黒褐色土を含む。しまる。
- 6 黄褐色土 (10Y R5/6) しまり弱。



- 1 黒褐色土 (10Y R3/2) 炭粒、礫を含む。しまる。
- 2 黒褐色土 (10Y R2/3) 黄褐色土を含む。しまる。
- 3 黒褐色土 (10Y R2/3) 礫を含む。しまる。
- 4 暗褐色土 (10Y R3/4) 地山粒を含む。しまる。
- 5 褐色土 (10Y R4/4) 黄褐色土、小礫、砂粒を含む。しまる。
- 6 黄褐色土 (10Y R5/6) しまる。
- 7 黄褐色土 (10Y R5/8) しまる。
- 8 暗褐色土 (10Y R3/4) 礫を含む。しまり弱。
- 9 黄褐色土 (10Y R5/6) しまる。
- 10 黄褐色土 (10Y R5/6) 砂粒を含む。しまり弱。
- 11 暗褐色土 (10Y R3/3) しまり弱。

- 1 暗褐色土 (10Y R3/3) 黄褐色土を含む。しまる。
- 2 暗褐色土 (10Y R3/4) 黄褐色土を含む。しまる。
- 3 暗褐色土 (10Y R3/4) 黄褐色土を含む。しまる。
- 4 黒褐色土 (10Y R2/2) 黄褐色土を含む。しまる。
- 5 暗褐色土 (10Y R3/4) 黄褐色土を含む。しまる。
- 6 黄褐色土 (10Y R5/6) 暗褐色土を含む。しまる。



第248図 土坑(6) SK04・05・13・18

には掘り込み面が不明であるが、覆土や遺物等から縄文時代と考えられるものを一括した。遺構の種類と数は、土坑 23 基、柱穴状遺構 7 基である。遺物は、深鉢の縄文土器の外、石筥、搔器等の石器が出土している。

(1) 土坑

SK04 (第 248 図、図版 4)

下段で調査区中央西側のMH54 区に位置し、表土下約 0.1m の黄褐色土で検出。掘り込み面は不明で、黒褐色土の円形プランとして確認した。平面形は径約 0.9m の円形で、深さ 0.6m の袋状を呈する土坑である。底面は西側へ僅かに傾斜している。壁面は北西側で直立している外は、底面から連続的に湾曲している。覆土は黒褐色土が主体で、上位ほど黒さを増す。

出土遺物は、擦石の石器のみである。

擦石 (492) 両面と c 側縁の上位に擦り面がある。

SK05 (第 248 図、図版 5)

下段で調査区中央西側のMI55 区に位置し、表土下約 0.2m の河道G堆積層上位の黄褐色土 (第 15 図の③層) 上面で検出。掘り込み面は不明で、黒褐色土の円形プランとして確認した。平面形は長軸 0.9m × 短軸 0.75m の不整楕円形で、深さは 0.25m である。底面は中央に緩く傾斜し、壁面は短軸側でやや狭い摺鉢状を呈す。覆土は底面付近を除いて黒褐色土である。

SK13 (第 248 図、図版 5)

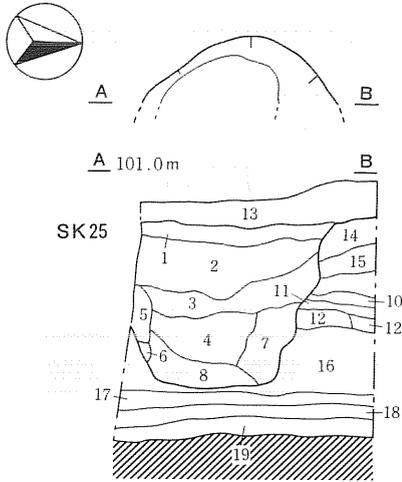
下段で調査区中央西側のMH55 区に位置し、表土下の黒色土を僅かに除去した河道F堆積層上位で検出。掘り込み面は不明で、黒褐色土の楕円形プランとして確認した。平面形は長軸 1.25m × 短軸 0.9m の楕円形で、深さは 0.3m の袋状を呈す。底面の中央やや北側には、長さ 0.3m × 幅 0.25m × 深さ 0.2m のピットをもつ。底面にはやや凹凸がある。壁面は底面から連続して内湾するが、南西側ではほぼ直立する。覆土は、ほぼ均一な黒褐色土が主体を占める。

SK18 (第 248 図、図版 5)

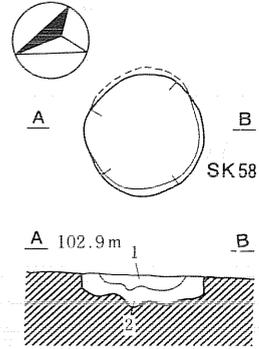
下段で調査区中央の西側MI56 区に位置し、表土下約 0.4m の河道G堆積層上位の黄褐色土 (第 15 図の③層) 上面で検出。掘り込み面は不明で、暗褐色土の円形プランとして確認した。平面形は直径 0.95m の略円形で、深さは 0.3m である。底面は中央に緩く傾斜し、壁面は全体に摺鉢状を呈す。覆土は底面付近を除いて黒褐色土である。

SK25 (第 249 図、図版 5)

下段で調査区中央西側のMI・MJ57 区に位置し、表土下約 0.1m の河道G堆積層上位の黒色土 (第 15 図の①層) で検出。MJライン西壁の断面調査で確認できたもので、東側の大半が消滅する。平面形は径 1m 以上で、深さ 0.85m の円形もしくは楕円形である。底面は壁際で湾曲し、壁は外傾する。覆土は上位で暗褐色土が、下位では黄褐色土が主体で大きく 2 分する

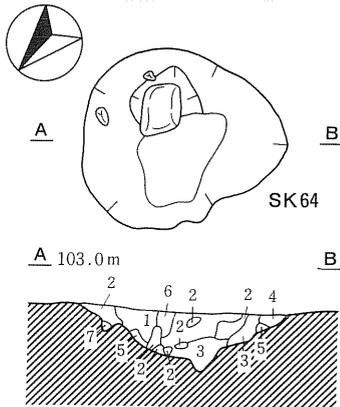


- 1 黒褐色土 (10Y R2/2) 炭粒を含む。しまる。
- 2 暗褐色土 (10Y R3/4) 炭粒を含む。しまる。
- 3 にぶい黄褐色土 (10Y R5/4) シルトを含む。しまる。
- 4 明黄褐色土 (10Y R6/8) しまる。
- 5 黄褐色土 (10Y R5/8) シルトを含む。しまり弱。
- 6 黄褐色土 (10Y R5/8) シルトを含む。しまり弱。
- 7 黄褐色土 (10Y R5/6) しまる。
- 8 黄褐色土 (10Y R5/6) しまる。
- 9 暗褐色土 (10Y R5/6) 小礫を含む。しまる。

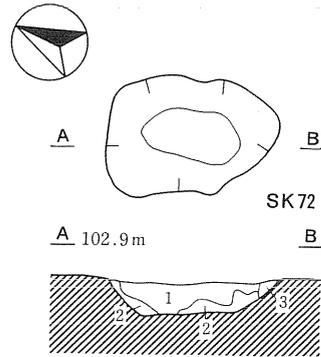


- 1 にぶい黄褐色土 (10Y R4/3) 砂粒、シルトを含む。しまる。
- 2 にぶい黄褐色土 (10Y R5/4) 砂粒、シルトを含む。しまる。

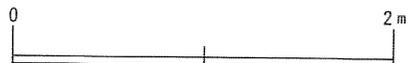
- 10 黄褐色土 (10Y R3/4) 小礫、砂粒を含む。しまる。
- 11 黄褐色土 (10Y R5/8) しまる。
- 12 褐色土 (10Y R4/4) 炭粒を含む。しまる。
- 13 耕作土
- 14 黒褐色土 (10Y R3/2) 炭粒を含む。しまる。
- 15 黄褐色土 (10Y R5/6) 砂粒を含む。しまる。
- 16 明黄褐色土 (10Y R6/8) 砂粒を含む。しまる。
- 17 褐色土 (10Y R4/4) しまる。
- 18 黒褐色土 (10Y R2/3) 炭粒を含む。しまる。
- 19 褐色土 (10Y R4/4) しまる。



- 1 黒色土 (10Y R2/1) 細粒、シルトを含む。しまり弱。
- 2 黒褐色土 (10Y R2/3) 細粒、シルトを含む。しまり弱。
- 3 暗褐色土 (10Y R3/4) 細粒を含む。しまる。
- 4 褐色土 (10Y R4/4) 細粒を含む。しまる。
- 5 黄褐色土 (10Y R5/8) 細粒を含む。しまる。
- 6 黒褐色土 (10Y R2/2) 細粒を含む。しまる。
- 7 黒褐色土 (10Y R2/3) シルトを含む。しまる。

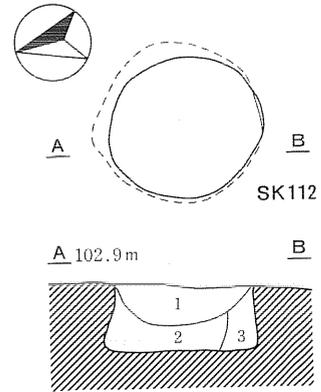
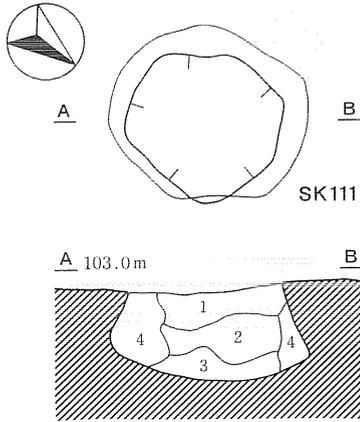


- 1 黒褐色土 (10Y R2/2) 細粒、シルトを含む。しまる。
- 2 黒褐色土 (10Y R2/2) 細粒、シルトを含む。しまる。
- 3 黒褐色土 (10Y R2/3) シルトを含む。しまる。



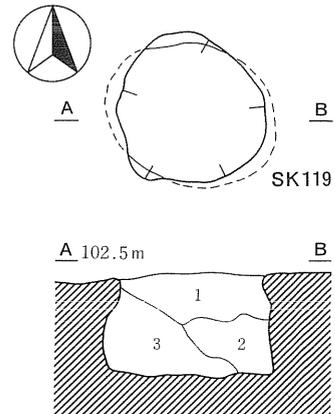
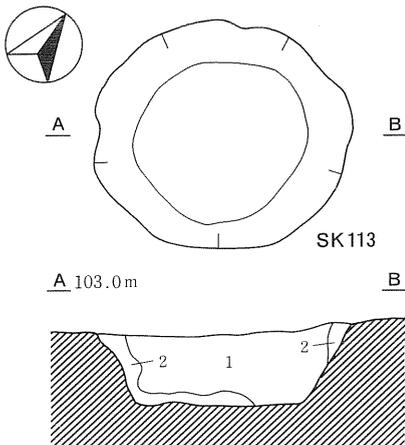
第249図 土坑(7) SK25・58・64・72

第4章 調査の記録



- 1 黒褐色土 (10Y R2/2) 地山土、炭粒、砂粒を含む。しまる。
- 2 黒色土 (10Y R2/1) 地山土を含む。しまる。
- 3 黒褐色土 (10Y R3/2) 地山土を含む。しまる。
- 4 黒褐色土 (10Y R2/2) 地山土を含む。しまる。

- 1 黒色土 (10Y R2/1) 地山土、炭粒を含む。しまり弱。
- 2 黒褐色土 (10Y R2/2) 地山土を含む。しまる。
- 3 黒褐色土 (10Y R2/2) 地山土を含む。しまる。



- 1 黒色土 (10Y R2/1) 炭粒、礫を含む。しまる。
- 2 黒褐色土 (10Y R2/2) 地山土を含む。しまる。

- 1 黄褐色土 (10Y R5/6) しまる。
- 2 黄褐色土 (10Y R5/6) しまる。
- 3 黄褐色土 (10Y R5/8) しまる。



第250図 土坑(8) SK111~113・119

ことができる。

S K 58 (第 249 図、図版 5)

上段で東側調査区北東の L R 54 区に位置し、V層で検出。北側で S K P 59 と近接している。掘り込み面は不明で、にぶい黄褐色土の円形プランとして確認。平面形は長軸 0.7m×短軸 0.6mの略円形で、深さは 0.2mである。底面には凹凸があり、壁面は西側が外傾し東側は内傾する。覆土はにぶい黄褐色土で占められる。

S K 64 (第 249 図、図版 6)

上段で東側調査区中央やや北の L T 55 南東杭付近に位置し、VI層で検出。北東側で S K P 65 と近接する。風倒木の西側で黒色土と地山を切り込んでいる。掘り込み面は不明で、黒色土の円形プランとして確認。平面形は径 0.95mの略円形で、深さは 0.3mである。底面は長軸 0.6m×短軸 0.25mの略楕円形で、それに接した東側には棚状の落ち込みをもつ。壁面は全体に摺鉢状を呈す。覆土は大きく、上位の黒色土と下位の暗褐色土に 2 分できる。

S K 72 (第 249 図、図版 5)

上段で東側調査区中央の L T 53 区に位置し、VI層で検出。掘り込み面は不明で、黒褐色土の楕円形プランとして確認した。平面形は長軸 0.9m×短軸 0.6mの略楕円形で、深さは 0.2mである。底面は溝状の楕円形で狭く、壁面は摺鉢状を呈す。覆土は、底面まで黒褐色土で占められる。

S K 74 (第 216 図)

上段で調査区北西の M I 61・62 区に位置し、V層で検出。S K 69 と切り合うが、先後関係は不明。掘り込み面は不明で、暗褐色土の楕円形プランとして確認。平面形は推定長軸 1.6m×1.3mの楕円形で、深さは 0.2mと浅い。底面は中央に緩い傾斜を示すようで、壁面は摺鉢状を呈す。覆土は暗褐色土主体の層で、壁際は褐色土である。

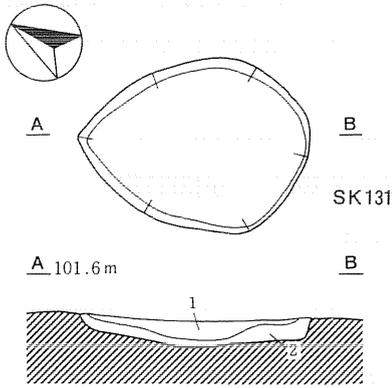
S K 111 (第 250 図、図版 6)

上段で調査区東側の L P 53 区に位置し、VI層で検出。北側で S K P 76 と近接する。掘り込み面は不明で、黒褐色土の円形プランとして確認した。平面形は上端が長軸 0.8m×0.75mの略円形、下端が長軸 1.05m×短軸 0.9mの楕円形で、深さは 0.5mである。底面は下端から中央に緩く傾斜し、壁面は強く内傾する。覆土は中央ほど黒く黒色土を呈し、他は黒褐色土で占める。

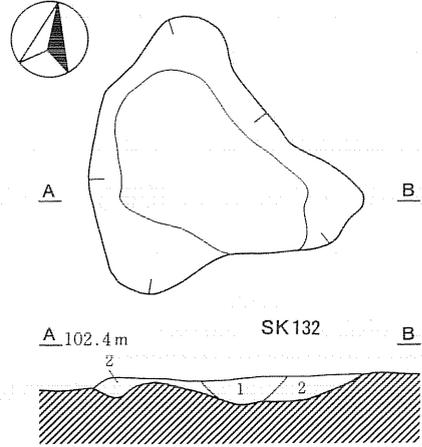
S K 112 (第 250 図、図版 6)

上段で東側調査区中央やや北の L T 55 区に位置し、V層で検出。掘り込み面は不明で、黒褐色土の円形プランとして確認した。平面形は長軸 0.85m×短軸 0.75mの略楕円形で、深さは 0.35mである。底面は比較的平坦で、壁面は特に北東側が内傾した台形状を呈す。覆土は上位

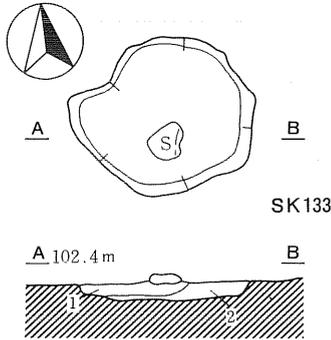
第4章 調査の記録



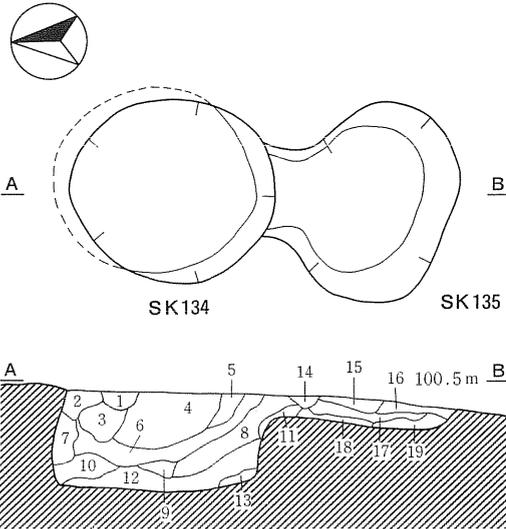
- 1 黒褐色土 (10Y R2/3) しまり弱。
- 2 暗褐色土 (10Y R3/3) しまる。



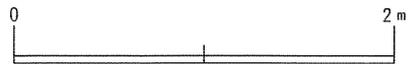
- 1 黒色土 (10Y R2/1) 地山土を含む。しまる。
- 2 黒褐色土 (10Y R2/2) 地山土を含む。しまる。



- 1 黒褐色土 (10Y R2/3) 地山土を含む。しまる。
- 2 暗褐色土 (10Y R3/4) しまる。



- 1 黒褐色土 (10Y R2/3) 地山土、細粒を含む。しまる。
- 2 暗褐色土 (10Y R3/3) 地山土、細粒、シルトを含む。しまる。
- 3 黒褐色土 (10Y R3/2) 砂粒、シルトを含む。しまる。
- 4 黒褐色土 (10Y R2/3) 地山土、シルトを含む。しまる。
- 5 黒褐色土 (10Y R2/3) シルトを含む。しまる。
- 6 暗褐色土 (10Y R3/3) 地山土、細粒、シルトを含む。しまる。
- 7 黒褐色土 (10Y R3/2) 地山土、砂粒、シルトを含む。しまる。
- 8 黄褐色土 (10Y R5/6) 地山土、シルトを含む。しまる。
- 9 暗褐色土 (10Y R3/4) 地山土、シルトを含む。しまる。
- 10 黒褐色土 (10Y R3/2) 地山土、砂粒、シルトを含む。しまる。
- 11 暗褐色土 (10Y R3/4) 地山土、細粒、シルトを含む。しまる。
- 12 褐色土 (10Y R4/4) 地山土、炭粒、細粒、シルトを含む。しまる。
- 13 黒褐色土 (10Y R2/3) 地山土、シルトを含む。しまる。
- 14 暗褐色土 (10Y R3/4) 地山土、細粒、シルトを含む。しまる。
- 15 にぶい黄褐色土 (10Y R3/4) 砂粒、シルトを含む。しまる。
- 16 暗褐色土 (10Y R3/3) 地山土、細粒、シルトを含む。しまる。
- 17 黒褐色土 (10Y R2/3) 地山土、細粒、シルトを含む。しまる。
- 18 黒褐色土 (10Y R2/3) 地山土、細粒、シルトを含む。しまる。
- 19 黄褐色土 (10Y R5/6) 地山土、細粒、シルトを含む。しまる。



第251図 土坑(9) SK131~135

で黒色土、下位は底面まで黒褐色土である。

S K 113 (第 250 図、図版 6)

上段で東側調査区北側のMA56区に位置し、V層で検出。掘り込み面は不明で、黒色土の円形プランとして確認した。平面形は長軸1.4m×短軸1.2mの楕円形で、深さは0.4mである。底面は平坦で、壁面は大きく外傾して立ち上がる。覆土は黒色土が主体で、底面には黒褐色土が薄く堆積している。

S K 119 (第 250 図、図版 6)

上段で調査区北西端のMH63区に位置し、表土下約0.5mのV層で検出。掘り込み面は、IV層の可能性があり、黄褐色土の円形プランとして確認した。平面形は径約0.8mの不整形円で、深さは0.55mである。底面にはやや凹凸があり、壁は一部を除くと袋状を呈す。覆土は、黄褐色土が主体である。

S K 131 (第 251 図、図版 6)

上段で調査区中央やや南東のMB51区に位置し、V層で検出。S K 132と切り合い、それよりも新しい。掘り込み面は不明で、黒褐色土の楕円形プランとして確認。平面形は長軸1.2m×短軸0.95mの略楕円形で、深さは0.15mである。底面は中央が緩く窪み、木の根と考えられる多くの凹凸がある。壁面は摺鉢状を呈す。覆土は上位が黒褐色土、下位が暗褐色土である。

S K 132 (第 251 図、図版 7)

上段で調査区中央やや南東のMB51区に位置し、V層で検出。S K 131と切り合い、それよりも古い。掘り込み面は不明で、黒褐色土の不整形プランとして確認。平面形は長軸約1.4m×推定短軸0.95mの楕円形の可能性があり、深さは0.15mである。底面は凹凸が激しく、壁面は摺鉢状に立ち上がる。覆土は、黒褐色土が主体を占めている。

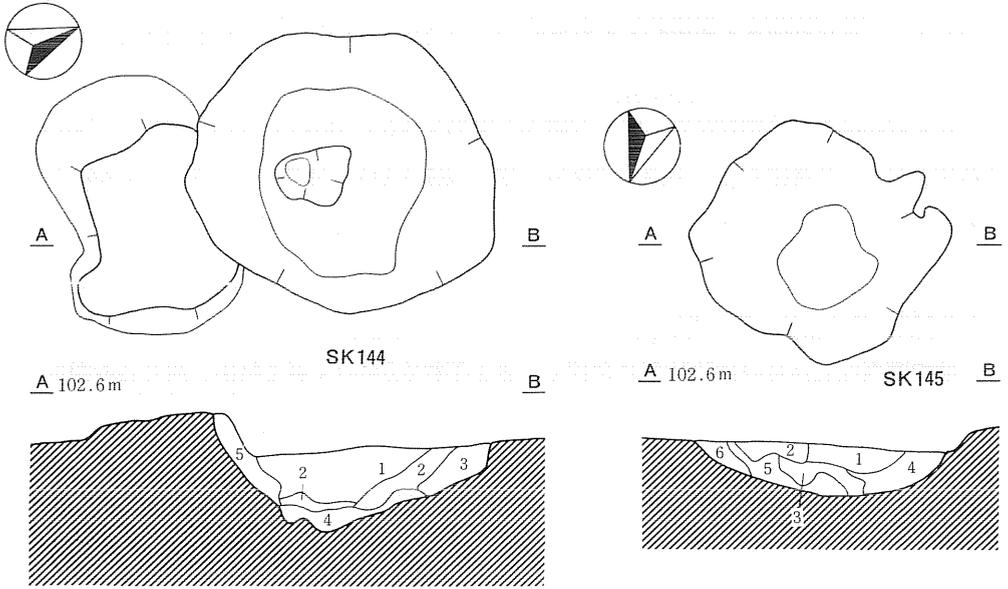
S K 133 (第 251 図、図版 7)

上段で調査区南東側のLR47・48区に位置し、河道C堆積層上部で検出。西側が突出しているが、掘り過ぎと考えられる。掘り込み面は不明で、黒褐色土の不整形プランとして確認した。平面形は長軸0.9m×短軸0.8mの略楕円形と考えられ、深さは0.1mと浅い。底面にはやや凹凸があり、壁面は摺鉢状を呈す。覆土は上位が黒褐色土、下位が暗褐色土である。この上面で掘り方の中央やや南側には、約20cmの扁平な礫が水平な状態で出土した。

S K 134 (第 251 図版、図版 7)

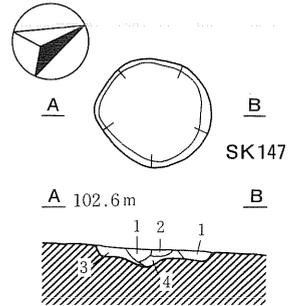
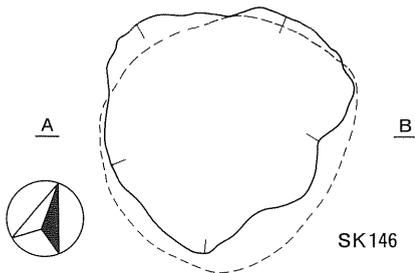
調査区南側斜面のMF46・47区に位置し、表土下約1.1mの河道D堆積層で検出。南側のS K 135と切り合い、それよりも新しい。黄褐色砂質土で暗褐色土の円形プランとして確認。平面形は長軸1.2m×短軸1mの楕円形で、深さは0.5mである。底面はほぼ平坦で、北から南側にかけて僅かな傾斜をもつ。壁面は、北側で内傾し南側では外傾して立ち上がる。覆土は暗

第4章 調査の記録

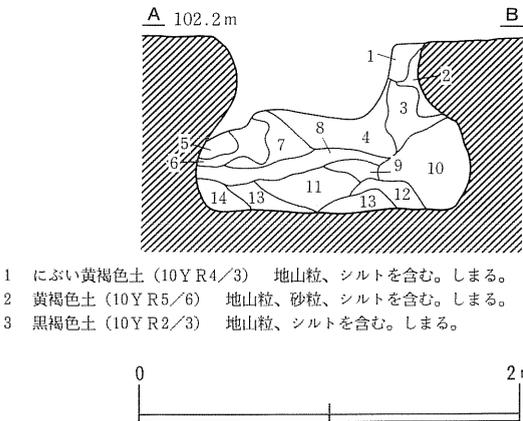


- 1 黒色土 (10Y R2/1) シルトを含む。しまる。
- 2 黒褐色土 (10Y R2/2) 地山土、シルトを含む。しまる。
- 3 黒褐色土 (10Y R2/3) 地山土、シルトを含む。しまる。
- 4 黒褐色土 (10Y R3/2) 地山土、シルトを含む。しまる。
- 5 灰褐色土 (10Y R4/2) 地山土、シルトを含む。しまる。

- 1 黒色土 (10Y R2/1) 地山土、シルトを含む。しまる。
- 2 黒褐色土 (10Y R2/3) 地山土、シルトを含む。しまる。
- 3 黒褐色土 (10Y R3/2) 地山土、シルトを含む。しまる。
- 4 にぶい黄褐色土 (10Y R5/4) 地山土、シルトを含む。しまる。
- 5 にぶい黄褐色土 (10Y R5/4) 地山土、シルトを含む。しまる。
- 6 黒褐色土 (10Y R2/3) 地山土、シルトを含む。しまる。



- 1 暗褐色土 (10Y R3/3) 地山土、シルトを含む。しまる。
- 2 黄褐色土 (10Y R5/6) 地山粒、シルトを含む。しまる。
- 3 褐色土 (10Y R4/4) シルトを含む。しまる。
- 4 明黄褐色土 (10Y R6/6) 地山土を含む。しまる。



- 4 黒褐色土 (10Y R3/2) 地山粒、細粒、シルトを含む。しまる。
- 5 黒褐色土 (10Y R3/2) 地山粒、シルトを含む。しまる。
- 6 暗褐色土 (10Y R3/3) 地山粒、シルトを含む。しまる。
- 7 黒褐色土 (10Y R2/3) 地山粒、シルトを含む。しまる。
- 8 暗褐色土 (10Y R3/3) 地山粒、シルトを含む。しまる。
- 9 黒褐色土 (10Y R2/3) 地山粒、シルトを含む。しまる。
- 10 にぶい黄褐色土 (10Y R4/3) 地山粒、シルトを含む。しまる。
- 11 黒褐色土 (10Y R2/3) 地山粒、シルトを含む。しまる。
- 12 黒褐色土 (10Y R2/3) 地山粒、シルトを含む。しまる。
- 13 暗褐色土 (10Y R3/4) 地山粒、シルトを含む。しまる。
- 14 褐色土 (10Y R4/6) シルトを含む。しまる。

第252図 土坑 (10) SK144~147

褐色土を主体とするが、南側の下方で褐色土が目立つ。

遺物は中央より、長さ 25cm×幅 10cmの礫が底面に密着して出土した。

S K 135 (第 251 図、図版 7)

調査区南側斜面のMF46区に位置し、表土下約 1.2mの河道D堆積層で検出。北側のS K 134と切り合い、それよりも古い。黄褐色砂質土で暗褐色土の円形プランとして確認。平面形は長軸 1.1m×短軸 0.8mの楕円形で、深さは 0.1mと浅い。底面はほぼ平坦で、北から南側にかけて明瞭な傾斜をもつ。壁面は摺鉢状を呈す。覆土は暗褐色土を主体とする。

S K 140 (第 209・247 図、図版 78)

上段で調査区南側のMA49区に位置し、表土下約 0.3mのV層で検出。S I 142 炉跡を切り込んだ、黒褐色土の楕円形プランとして確認。平面形は長軸 1.15m×0.8mの不整楕円形で、深さは 0.2mである。底面の中央より壁へ、緩やかに立ち上がる。覆土は黒褐色土を主体とする。

出土遺物は、深鉢の縄文土器である。

深鉢(D114) 口縁部がやや外反し、やや張りのある胴部上位より底部へ緩く窄まる。全面にRLの縄文を施すが、底部付近で磨り消す。内面は丁寧なナデを施す。器厚は 6～8mmで、色調は内外面が浅黄橙である。胎土には 1～2mmの砂粒が顕著で、焼成はやや不良。

S K 144 (第 252 図、図版 7)

上段で調査区中央のMD54区に位置し、V層で検出。南側で風倒木と切り合う。掘り込み面は不明で、暗褐色土の円形プランとして確認。平面形は径が 1.45mの略円形で、深さは 0.6mである。底面は中央に緩く落ち込み、壁面は直立ないしは内傾きみである。覆土は暗褐色土が主体である。

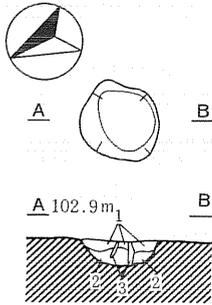
S K 145 (第 252 図、図版 7)

上段で調査区中央のMD54区に位置し、表土下約 0.6mのIV層で検出。掘り込み面は不明で、暗褐色土の円形プランとして確認した。平面形は一辺 1.2mの隅丸方形で、深さは 0.4mである。底面には凹凸があり、壁面は底面より湾曲して立ち上がる。覆土は上位で暗褐色土が、下位では地山土が主体である。

S K 146 (第 252 図、図版 7)

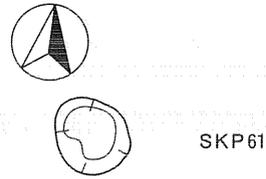
上段で調査区中央南側のMC・MD45区に位置し、V層で検出。西側の大半を削平してしまった。掘り込み面は不明で、黒褐色土およびそれと黄褐色の混在した円形プランとして確認。掘り方は上位が括れて、その下が膨らむ袋状の形態である。平面形は上端が 1 辺約 1.3mの正三角形形状で、下端が長軸 1.4m×短軸 1.3mの略円形を呈す。深さは 0.9mである。底面はほぼ平坦で、壁面への移行は摺鉢状で丸みをもつ。覆土は、西側の壁際に黄褐色土がやや顕著な外は、黒褐色土が主体を占める。

第4章 調査の記録

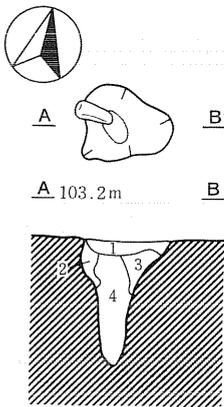


SKP59

- 1 褐色土 (10Y R4/4) 炭化物、細粒を含む。しまる。
- 2 黄褐色土 (10Y R5/8) 細粒を含む。しまる。
- 3 暗褐色土 (10Y R3/3) しまり弱。

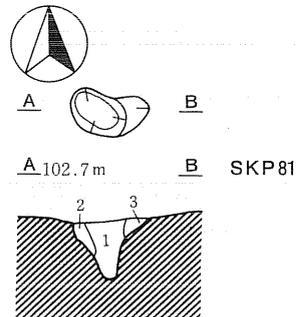


SKP61



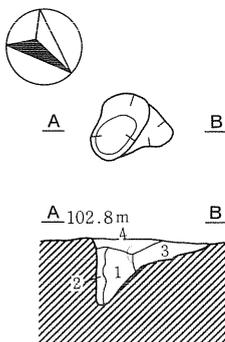
SKP76

- 1 黒褐色土 (10Y R2/3) 地山土、炭化物を含む。しまる。
- 2 暗褐色土 (10Y R3/4) 地山土、細粒を含む。しまる。
- 3 黄褐色土 (10Y R5/6) 暗褐色シルト、細粒を含む。しまる。
- 4 暗褐色土 (10Y R3/3) 炭化物を含む。しまり弱。



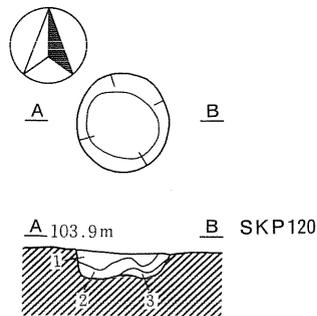
SKP81

- 1 黒褐色土 (10Y R3/2) 地山土、シルトを含む。しまる。
- 2 黒褐色土 (10Y R3/2) 地山土、シルトを含む。しまる。
- 3 黄褐色土 (10Y R5/6) 細粒を含む。しまる。



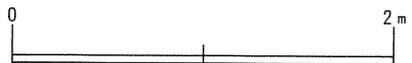
SKP82

- 1 暗褐色土 (10Y R3/4) 細粒を含む。しまる。
- 2 褐色土 (10Y R4/4) 細粒を含む。しまる。
- 3 黒褐色土 (10Y R3/2) 細粒を含む。しまる。
- 4 黒褐色土 (10Y R2/3) 細粒を含む。しまる。



SKP120

- 1 褐色土 (10Y R4/4) 炭粒を含む。しまる。
- 2 褐色土 (10Y R4/6) 砂粒を含む。しまる。
- 3 にぶい黄褐色土 (10Y R5/4) しまる。



第253図 ピットSKP59・61・76・81・82・120

SK147 (第252図、図版7)

上段で調査区中央のMC53区に位置し、V層で検出。掘り込み面は不明で、暗褐色土の円形プランとして確認した。平面形は径約0.3mの円形で、深さは0.1mと浅い。底面には凹凸があり、壁面は摺鉢状を呈す。覆土は暗褐色である。

(2) 柱穴状遺構

SKP59 (第253図、図版5)

上段で東側調査区北東のLR54区に位置し、V層で検出。南側でSK58と近接する。掘り込み面は不明で、褐色土の円形プランとして確認。平面形は長軸0.45m×短軸0.4mの略円形で、深さは約0.2mである。底面には凹凸があり、壁面は摺鉢状を呈す。覆土は上位が褐色土、下位は黄褐色土である。

SKP61 (第253図)

上段で調査区中央北側のME60区に位置し、V層で検出。掘り込み面は不明で、黒褐色土の円形プランとして確認した。平面形は長軸0.45m×短軸0.4mの略円形で、深さは約0.25mである。底面は緩く窪み、壁面は外傾して立ち上がる。覆土は中央が褐色土で、上下が黒褐色土である。

SKP65 (第247図、図版6)

上段で東側調査区中央やや北のLS55区に位置し、VI層で検出。南西側でSK64と近接する。風倒木の中央やや北側で、地山を掘り込んでいる。掘り込み面は不明で、黒褐色の円形プランとして確認。平面形は径0.3mの円形で、深さは0.15mである。底面は緩く窪み、壁面は摺鉢状を呈す。覆土は上位が黒褐色土、下位は暗褐色土である。

出土遺物は石器のみで、石筥・搔器がある。

石筥(493) 撥形に近い形態で、両側縁と刃部に調整がある。a面の刃部には、直線部分と左側縁の丸い部分がある。

搔器(494) 縦長剥片で両側縁に粗い調整があり、刃部は小さく丁寧な剝離を施す。

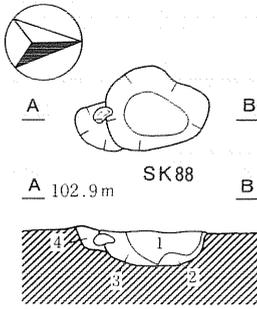
SKP76 (第253図)

上段で調査区東側のLP53区に位置し、VI層で検出。南側でSK111と近接する。掘り込み面は不明で、黒褐色土の円形プランとして確認。平面形は長軸0.5m×短軸0.4mの不整形で、深さは0.65mと深い。形状と覆土から、下半が柱痕跡と判断される。覆土は上部が黒褐色土、下半が暗褐色土である。

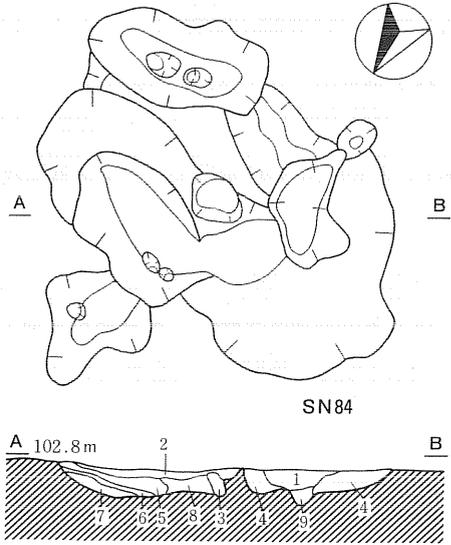
SKP81 (第253図)

上段で調査区東側のLS51区に位置し、V層で検出。掘り込み面は不明で、黒褐色土の不整形プランとして確認した。平面形は長軸0.4m×短軸0.2mの不整形を呈し、側面形は全体

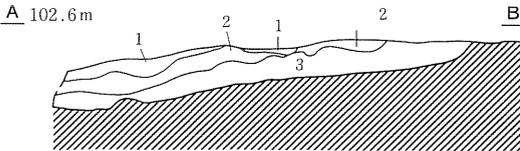
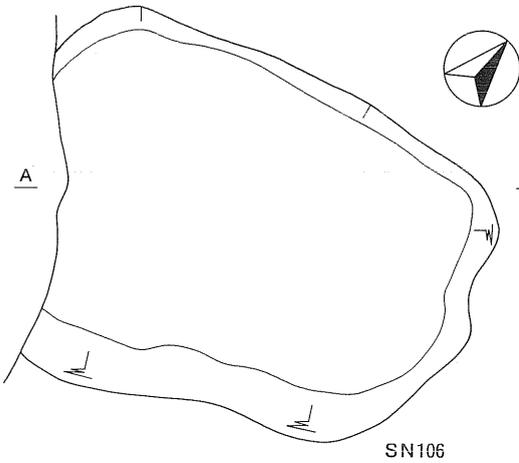
第4章 調査の記録



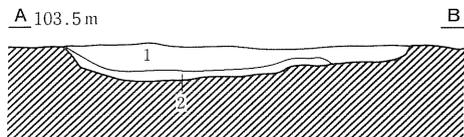
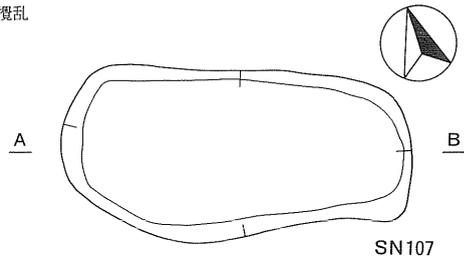
- 1 黒褐色土 (10Y R2/2) しまる。
- 2 黒褐色土 (10Y R3/1) しまる。
- 3 黒褐色土 (10Y R3/2) 細粒を含む。しまり弱。
- 4 暗褐色土 (10Y R3/3) 細粒を含む。しまる。



- 1 黒褐色土 (10Y R2/2) 地山土、炭化物、シルトを含む。しまる。
- 2 黒褐色土 (10Y R2/3) 地山土、焼土、炭化物、シルトを含む。しまり弱。
- 3 黒褐色土 (10Y R2/3) 地山土、焼土、炭化物、シルトを含む。しまり弱。
- 4 褐色土 (10Y R4/4) 地山土、炭粒、シルトを含む。しまり弱。
- 5 褐色土 (10Y R4/6) 炭粒、シルトを含む。しまる。
- 6 褐色土 (10Y R4/6) 炭粒、シルトを含む。しまる。
- 7 暗褐色土 (10Y R3/3) 地山、シルトを含む。しまる。
- 8 掘りすぎ
- 9 攪乱



- 1 黒色土 (7.5Y R2/1) 炭化物を含む。しまり弱。
- 2 炭化物層 しまり弱。
- 3 黒色土 (7.5Y R2/1) 炭化物を含む。しまり弱。



- 1 黒褐色土 (10Y R2/2) 地山土、炭化物、礫を含む。しまる。
- 2 黒褐色土 (10Y R2/2) 炭化物、礫を含む。しまる。



第254図 土坑(11), 焼土遺構(6), 炭焼成遺構 SK88, SN84, SS106・107

に漏斗状の形態である。深さは0.3mで、先細り部分は柱の抜き取り痕跡と考えられる。覆土は黒褐色土が主体である。

SKP82 (第253図)

上段で調査区東側のLP50区に位置し、V層で検出。掘り込み面は不明で、暗褐色土の不整形プランとして確認した。平面形は底辺0.45m×高さ0.3mの隅丸二等辺三角形状で、側面形は漏斗状の形態である。その深さは0.35mで、先細りである。覆土は上位で黒褐色土、下位で暗褐色土が主体である。

SKP120 (第253図)

上段で調査区中央北側のLT・MA57区に位置し、V層で検出。掘り込み面は不明で、褐色土の円形プランとして確認した。平面形は径約0.5mの円形で、深さは0.1mと浅い。底面には凹凸があり、壁面は直立ぎみに立ち上がる。覆土は褐色土が主体である。

第2節 縄文時代以外の検出遺構

縄文時代以外で時代の不明な遺構は、調査区の北西側と南東側に偏在している。層位的に掘り込み面が不明で、主に覆土の状態から縄文時代以外と考えられるものを一括した。遺構の種類は、土坑1基、焼土遺構1基、炭焼成遺構2基、溝状遺構4条である。遺構に伴う遺物は、出土していない。

(1) 土坑

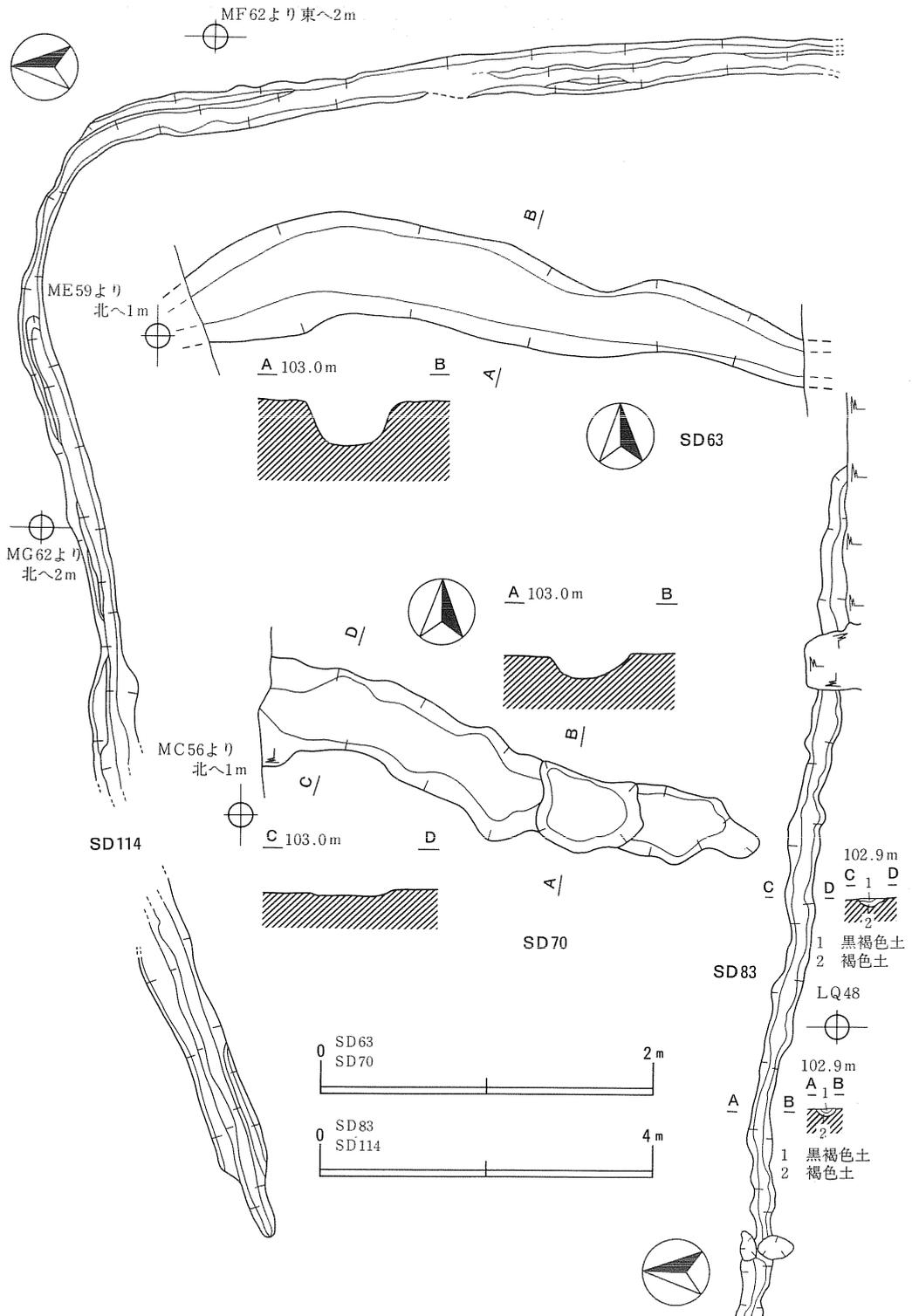
SK88 (第254図、図版7)

上段で調査区南東側のLQ48区に位置し、V層で検出。掘り込み面は不明で、暗褐色土の不整形プランとして確認した。平面形は、長軸0.75m×短軸0.45mで南側が棚状に突出した達磨状を呈し、深さは0.2mである。突出部は覆土と東側上端の連続から、2つの遺構の切り合いとは考え難い。底面の北西側では、上端を越えて柱穴状に入り込んでいる。壁面は全体に摺鉢状である。覆土は暗褐色土が主体である。

(2) 焼土遺構

SN84 (第254図、図版12)

上段で調査区南東側のLP48区に位置し、V層で検出。南側の一部がSD83に切られている。掘り込み面は不明で、黒褐色土を主体に地山土が混在した状態で確認された。焼土は北東側に顕著で、他は疎である。幾つかの土坑が切り合い混在している。全体の平面形は、主体が長軸2.3m×短軸1.5mの不整形で、深さ0.15mである。底面は凹凸が著しく、壁面は全体として摺鉢状を呈す。覆土は黒色土が主体で、全体に炭粒が認められ地山土をブロック状に含む。



第255図 溝状遺構 S D63・70・83・114

(3) 炭焼成遺構

SS106 (第254図、図版12)

上段で調査区北西端のMI62区に位置し、Ⅲ層およびⅣ層で検出。掘り込み面は不明で、炭化物を含む黒色土の不整形プランとして確認した。南西側を一部削平してしまった。平面形は長軸2.5m×短軸2mの不整形で、深さは0.25mである。底面は長軸の南西側に向かって8°の傾斜がある。床面・壁面共に不明瞭である。覆土には炭化物層が認められる。北東側に窯尻をもつ、細長い炭焼成遺構の可能性はある。

SS107 (第254図、図版12)

上段で調査区東端のLL50区に位置し、Ⅳ層で検出。掘り込み面は不明で、黒褐色の楕円形プランとして確認した。平面形は長軸1.9m×0.9mの楕円形で、深さは0.2mである。底面は西側で深く、中央より東側にかけて徐々に高くなる。壁面は底面より湾曲して立ち上がる。覆土は黒褐色土で、底面に炭化物を顕著に含む。炭焼成遺構の可能性はある。

(4) 溝状遺構

SD63 (第255図)

上段で調査区中央やや北側のMD59区に位置し、Ⅳ層で検出。東西を削平してしまった。掘り込み面は不明で、暗褐色土の溝状プランとして確認。規模は現存長3.7m×最大幅0.7mで、深さ0.25mである。東側では幅が0.3mと狭くなり、西側で大きく屈曲する。底面の断面はU字形で、東側が僅かに高い。覆土は暗褐色土である。

SD70 (第255図)

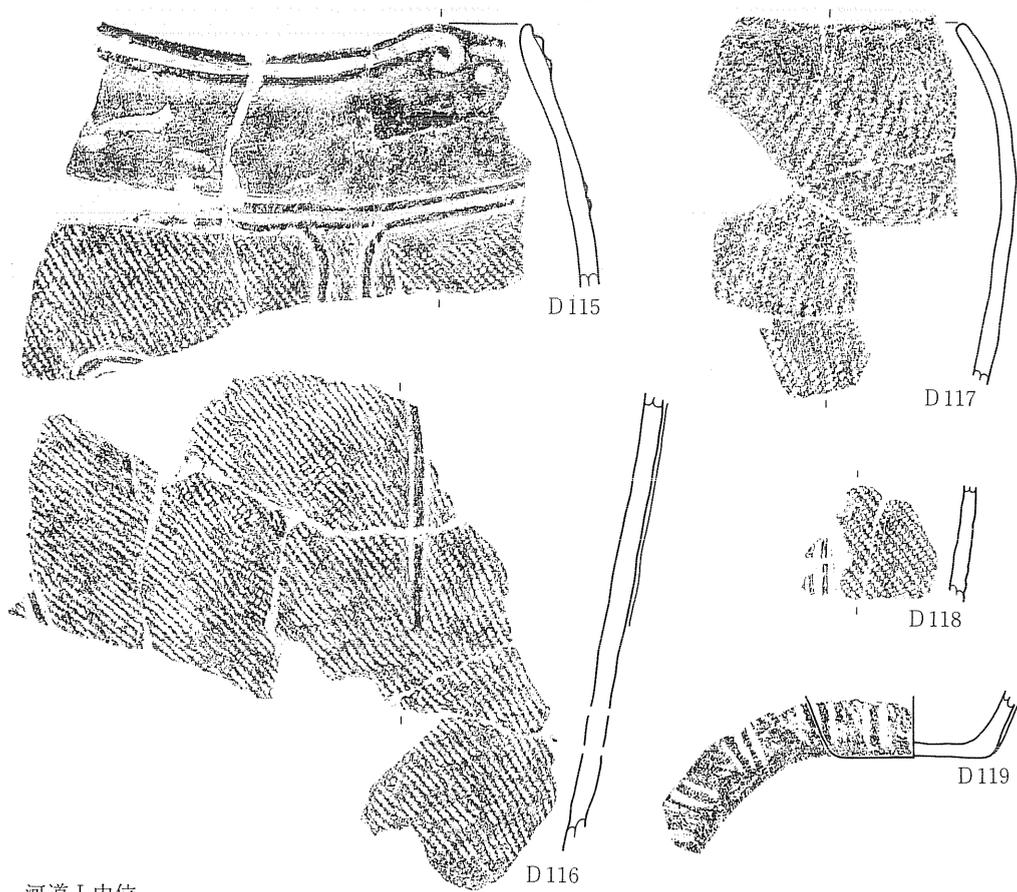
上段で調査区中央やや北東のMB56区に位置し、Ⅴ層で検出。東側は自然に消滅するが、西側は削平してしまった。掘り込み面は不明で、暗褐色土の溝状プランとして確認。規模は現存長3.1m×最大幅0.5mで、深さ0.05mと浅い。幅は上・下端共に不均一で、緩く蛇行している。底面は凸凹で東側がやや高い傾向を示し、断面は緩いU字形である。覆土は地山を含んだ暗褐色土である。

SD83 (第255図)

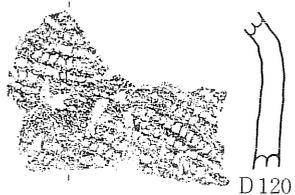
上段で調査区南東のLO47・48区、LP・LQ48区に位置し、Ⅴ層で検出。東西と東側の一部を、トレンチで削平してしてしまった。掘り込み面は不明で、黒褐色土の溝状プランとして確認。規模は現存長約10.5m×最大幅0.4mで、深さは0.1mと浅い。幅は上・下端共に不均一で、現状では小さく蛇行するがほぼ直線的な方向である。底面は凹凸が激しく、西側が僅かに高い傾向を示す。断面は緩いU字形である。覆土は上位で黒褐色土、下位は褐色土である。

SD114 (第255図)

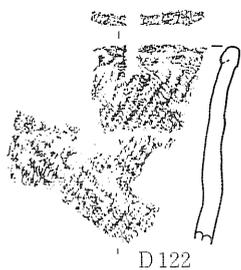
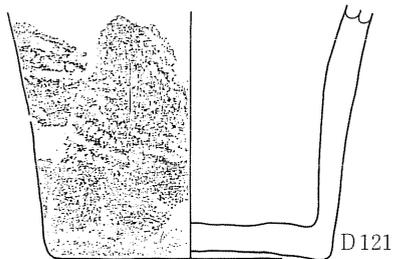
上段で調査区北西部のME60～62区、MF・MG62区、MH61・62区、MI61区にまたがっ



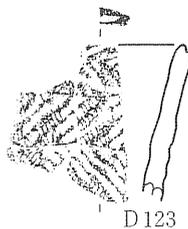
河道 I 中位



河道 H 中位



河道 H 最下位



第 256 図 遺構外出土遺物 (1) 土器①

て位置し、IV層およびV層で検出。掘り込み面は不明で、黒色土のカギ状のプランとして確認した。溝は、MF62南東杭より2m北で屈曲部を作り西側と南側に向うが、それぞれの先端は下段に連結している。西側の一部がトレンチで削平されている。遺構は新旧2つの溝が切り合い、新しい溝は南側で西寄りに、西側では中央で重なっている。規模は西側で長さ約13m×最大幅0.6m、南側で長さ9.5m×最大幅0.6mである。深さは新しい溝が深い傾向にあり、深い所で約0.3mである。底面は比較的安定しており、屈曲部からそれぞれの方向に緩く傾斜している。断面は新旧共にU字状を呈す。覆土は古い方で黒褐色土、新しい方では黒色土である。

第3節 遺構外出土遺物

1 遺構外出土土器

遺構外出土土器は、出土状況を勘案して、河道E～Iの埋没過程において出土層位が明らかなもの、表土～地山漸移層から出土して河道E～Iの覆土との対比ができないものがあり、これらを分けて記述する。

(1) 河道E～I堆積層出土土器

①河道I堆積層(第13・14図、巻頭図版2)

i) 堆積層中位(第256図、図版79)

深鉢(D115～D119) D115とD116は同一個体の深鉢。口縁部は内傾し、緩い波状口縁である。口唇直下に隆線で縁取られた太い沈線が巡り、波頂部で渦巻文となる。この下は無文帯で、その下端も隆線で縁取られた沈線が横位に巡る。胴部はLR縄文が縦位回転施文され、その上から、沈線に縁取られた隆線によって文様を描く。文様モチーフは、胴上部の横位沈線から胴中央部付近まで垂下する隆線と、この隆線に連結される曲線文様によって構成される。D117は口縁が内湾する深鉢。全面にRL縄文を施文する。原体の回転方向は斜位で、条が縦走する。D118はLR縄文を縦位回転施文し、その上に沈線で縁取られた2条の隆線が垂下する。D119の底部も、D118と同様の隆線が7単位底辺部まで垂下する。

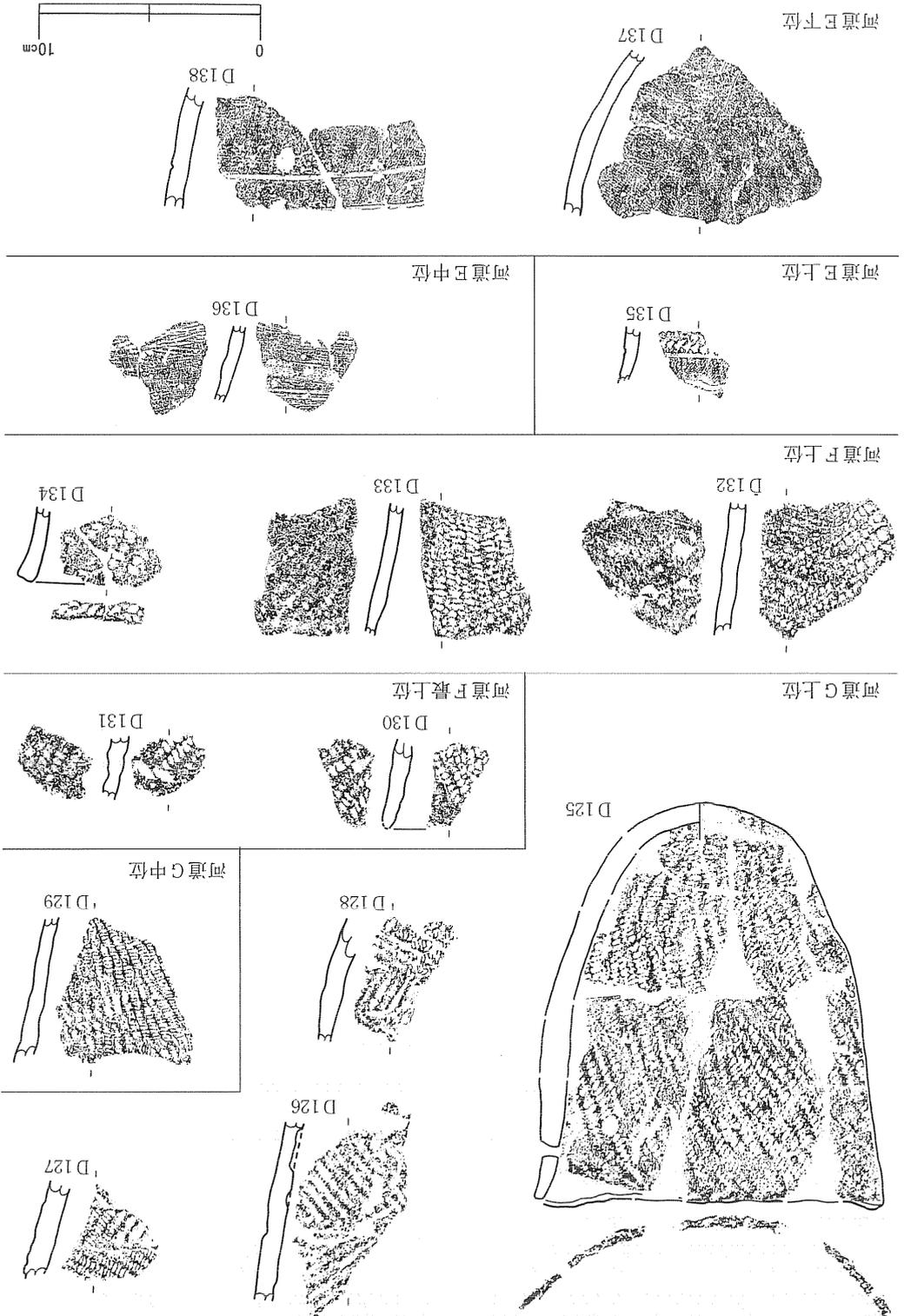
以上の土器は、SN49・50の周辺から出土した。出土地点や出土レベルは、焼土遺構出土土器に近い。D115～D119を検出して取り上げた後、若干掘り下げたところで焼土遺構を検出した。したがって、焼土遺構よりは若干新しい時期の土器である。

②河道H堆積層(第13・14図、巻頭図版2)

i) 堆積層中位(第256図)

深鉢(D120・D121) D120とD121は、同一個体の胴上半部と底部である。胴上部で内傾し、頸部が最も細くなる器形で、口縁部は外反すると考えられる。全面にRL縄文が横位回転

第257図 遺構外出土遺物(2) 土器②



施文される。器壁は厚く、胎土には繊維を多く含む。

ii) 堆積層下位 (第256図)

深鉢 (D122~D124) D122 は口縁がやや外反し、胴部が丸みを帯びて膨らむ。口唇上面を平坦化し、RL原体を斜位に押圧してキザミ目を施す。この下は、0段多条のLR原体とRL原体の、交互段状施文による横位の非結束羽状縄文を施文する。胎土には繊維を多く含む。

D123 も、0段多条のLR原体とRL原体を、横位に交互段状回転施文した非結束羽状縄文である。胎土には繊維を多く含む。

D124 は、口唇上面をやや内削ぎみに平坦化し、口唇外面端部に丸い棒状工具を斜位に押圧したキザミ目を施す。その下には、横位2条のR撚紐原体押圧痕が巡る。さらにその下には、おそらくLR原体を斜位回転押圧して条が縦走する縄文が施文される。胎土には繊維を含む。

③河道G堆積層 (第13・14図)

i) 堆積層上位 (第257図、図版79)

深鉢 (D125~D128) D125 は小型の丸底深鉢で、口径15.2~16.4cm、器高18.5cmである。口縁部はやや外反して開く。口縁部の下でやや窄まり、胴部で若干膨らむ。胎土には繊維を多く含む。焼成は良好で、器壁の剝落はほとんどない。器厚は6~8mmで、成形時の器厚のばらつきがそのまま残る。口縁部は薄く、胴中央部では厚い。口唇端部は丸みを帯び、平坦面の作り出しは行っていない。RL原体を斜位に押圧し、細かで不規則な凹凸がある。表面には、0段多条のRL原体を横位回転施文する。丸底部分と胴部の一部には縦位回転施文の部分があり基本的には横位回転施文であるものの、回転方向の統一よりも器面に縄文を充填することを目的とした施文方法である。内面は指オサエによる凹凸が残る。指オサエの後、粗いナデを施す。

D126・D127 は非結束羽状縄文で、0段多条のLR原体とRL原体を横位に交互段状回転施文する。D126 は、原体の長さが4cmと長い。D127 は2.3cmである。いずれも胎土には多量の繊維を含む。

D128 も非結束羽状縄文で、D126・D127 と同様に異種原体を用い、0段多条のLR原体とRL原体を横位に交互段状回転施文する。胎土には繊維を多く含む。

ii) 堆積層中位 (第257図)

深鉢 (D129) 0段多条のLR原体を斜位に回転施文し、条が縦走する。胎土には繊維を少量含み、焼成は良好で硬質である。裏面は平坦にナデ調整を施す。

④河道F堆積層 (第13・14図、巻頭図版2)

i) 堆積層最上位 (第257図)

深鉢 (D130・D131) D130・D131 は同一個体。器厚は6~7mmとやや厚めである。焼成

は良好。口唇部は上面がやや平坦に作られ、口唇直下から表裏両面とも縄文を施す。図を掲載していないが、同一個体の他の口唇部破片ではやや肥厚し、口唇上に指頭押圧によるキザミ目を施す部分もある。表面は、L R原体の横位回転施文と、L R原体の横位回転施文の部分がある。また一部に、L R原体の横位の結節回転文を施文する。裏面は、L R原体の横位回転施文である。表面のL R原体を除いて同一原体を用いている。

ii) 堆積層上位 (第 257 図)

深鉢 (D132~D134) D132 は器厚が 5~7 mm で焼成は良好。太めの L R 原体を、横位あるいは斜位に回転施文する。縄文施文の深い部分と浅い部分があり、浅い部分では縄文施文前の強いナデの痕跡が残る部分もある。裏面の一部に、L R 原体の横位回転施文による縄文を施す。無文の部分には、指オサエの痕跡が顕著である。

D133 は器厚が 4~6 mm と薄手である。焼成は良好。外面は、L R 原体を横位あるいは斜位に回転させ、条が縦走する縄文を施文する。裏面は、表面と同一原体を横位回転施文した縄文帯と無文の部分に分かれる。

D134 は口縁部破片。器厚は口唇端部で 9~10mm、胴上部では 5 mm である。口唇部は肥厚し、若干外反ぎみである。口唇上面のやや外面寄りの部分には、L R 原体を斜位に押圧し、キザミ目状の装飾を施す。外面は口唇施文原体と同一の原体を縦位回転施文した斜縄文である。原体には太い撚紐を用いる。

⑤河道E堆積層 (第 13・14 図、巻頭図版 2)

i) 堆積層上位 (第 257 図)

深鉢 (D135) 横位の沈線によって区画された無文帯が巡り、沈線に沿わせ貝殻腹縁圧痕を押圧施文する。小破片で文様モチーフは不明。

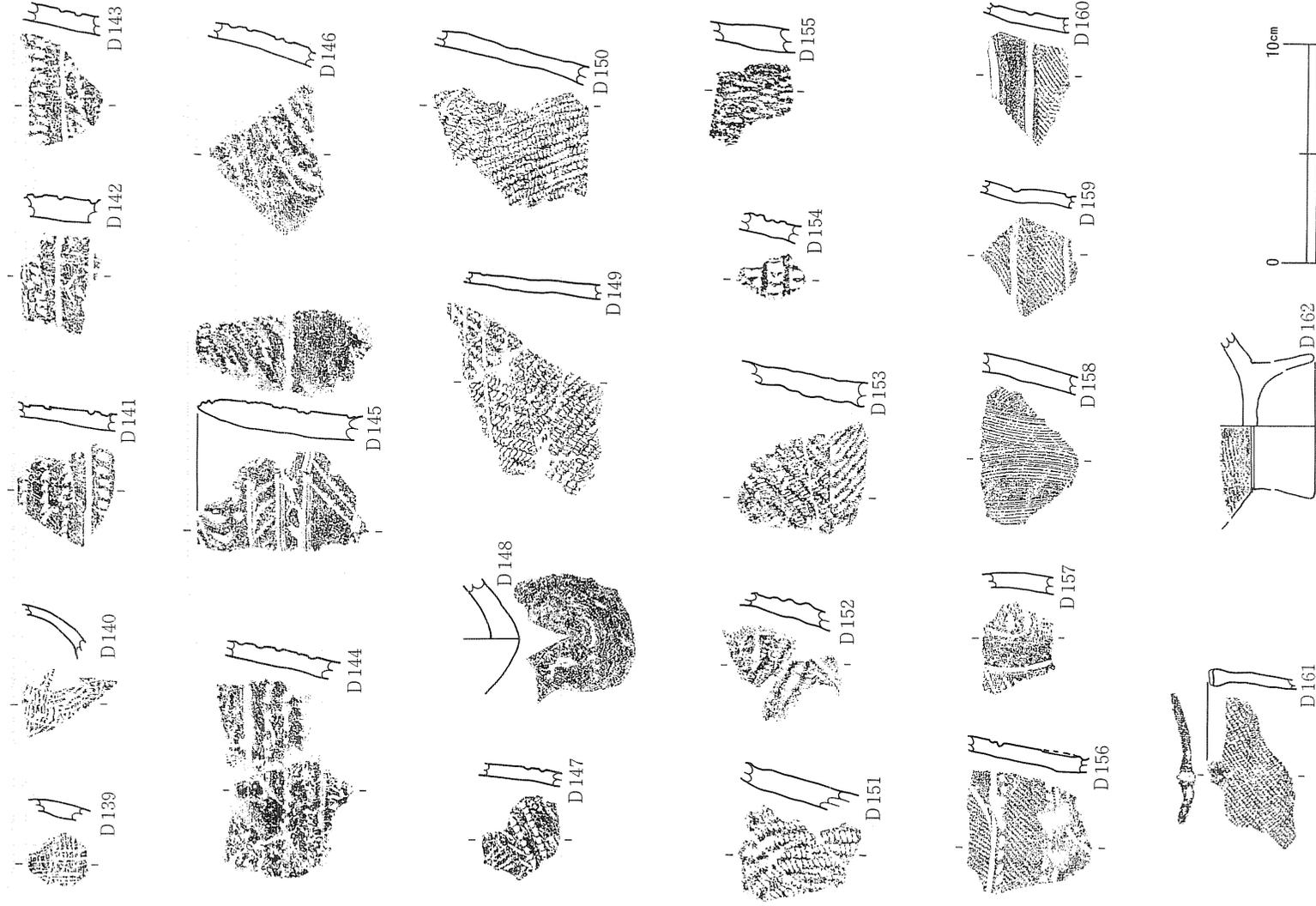
ii) 堆積層中位 (第 257 図)

深鉢 (D136) 器厚は 4~5 mm と薄手である。焼成は良好。表裏面とも横位条痕文を施す。原体は貝殻と推定される。内面は条痕が深く施文される部分と、浅くほとんど観察できない部分がある。

iii) 堆積層下位 (第 257 図、図版 79)

深鉢 (D137・D138) D137・D138 は同一個体。胴下半部が、やや丸みを帯びて膨らむ尖底土器と考えられる。器厚は 5~6 mm で、D135 や D136 と比べてやや厚手である。焼成は良好。表裏面とも、幅 3 mm 程度の縦位方向のミガキを施す。胴部中央に、浅く細い沈線が横位に 2 条巡る。沈線間の間隔は 1.6cm である。D137 と D138 を含め、同一個体の破片 5 点が近接して出土した。

以上の出土状況を総合すると、文様の変遷では沈線文→貝殻文・痕文→表裏縄文→0 段多条



第258図 遺構外出土遺物 (3) 土器③

の斜縄文→0段多条の異種原体による非結束羽状縄文→斜縄文という変遷がみられる。胎土の繊維混入は、0段多条の斜縄文土器よりみられ、非結束羽状縄文以降に顕著である。口唇の施文は、施文原体が貝殻から撚紐に変化する段階あたりからみられる。また、非結束羽状縄文段階で顕著になり、斜縄文段階ではあまり見られないようである。

各河道の形成、埋没時期を出土土器から推定すると、次のようになる。

河道E堆積層下位は早期前葉（沈線文系土器）、河道E堆積層中位～上位は早期後葉（貝殻文系土器）、河道F堆積層は早期末（表裏縄文土器）、河道G堆積層中位～河道H堆積層下位は前期初頭（0段多条の斜縄文土器、非結束羽状縄文土器）である。したがって、河道E・Fは早期の流路、河道G・Hは前期初頭の流路であったことがわかる。その後、前期中葉頃に河道Hが埋没し、河道Iが形成され、さらに河道Iが埋没する途中で中期中葉の焼土遺構と大木8b式～9式の土器が堆積土中に残されたものである。

（2）河道E～I以外の出土土器

①縄文時代早期の土器（第258図）

D139は細い沈線を格子目状に施文する。

D140は尖底土器の底部。5本1組の集合沈線によって、直線あるいは弧状の文様を描く。

D141～D144は同一個体。先端が台形と角形の2種類の工具を用い、連続して横から突き刺した横位刺突列を巡らす。その間には横位の沈線や、横位沈線によって区画された無文帯がある。刺突の方向がすべて同一と仮定すれば、上から横位沈線→先端台形工具による3段の刺突列→横位沈線→先端角形工具による1段の刺突列→横位沈線→無文帯→横位沈線→先端角形工具による1段の刺突列→横位沈線と復元できる。

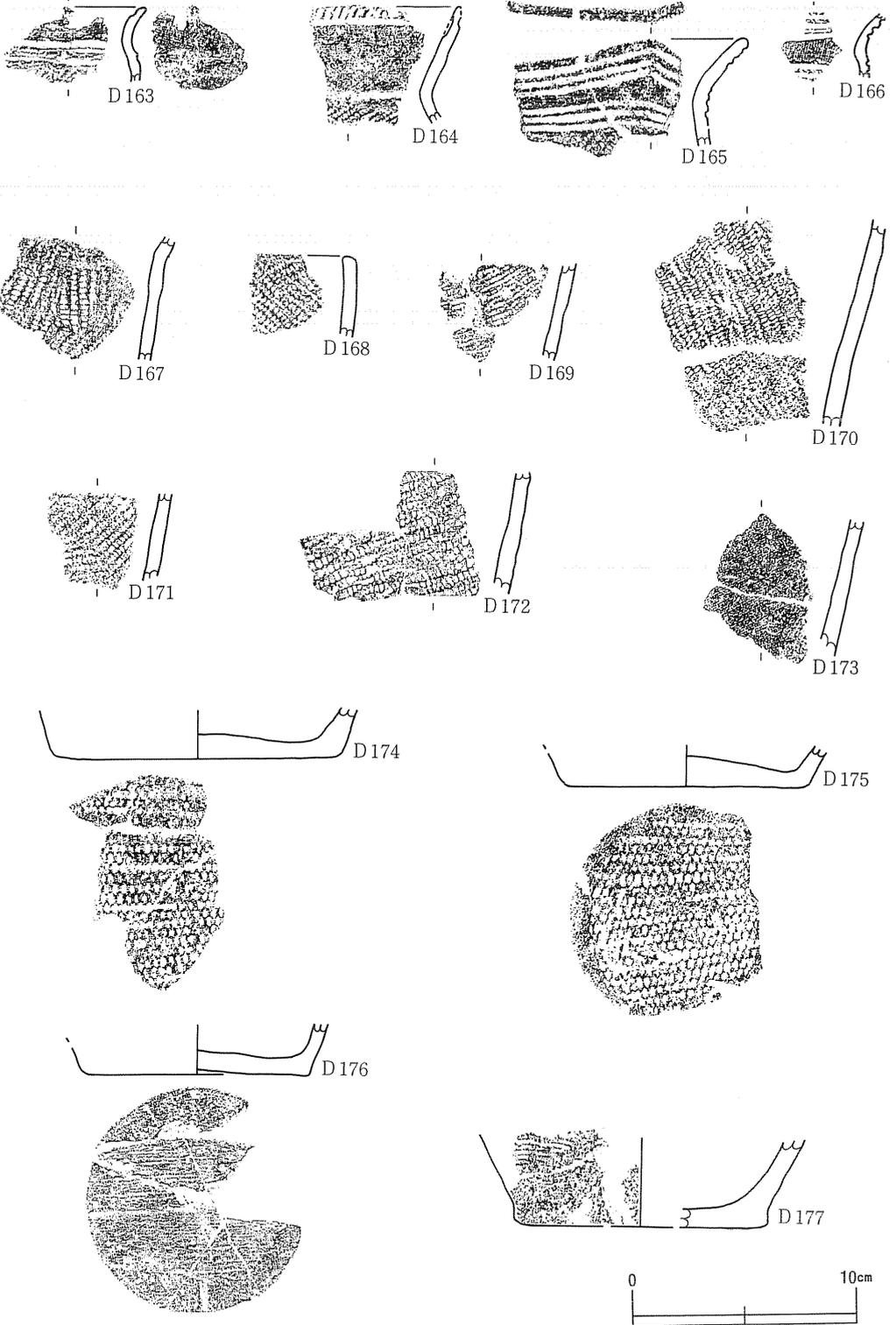
D145は貝殻文土器の口唇部破片。口唇部の断面形は先が尖り、内面に刺突列を施す。

D146は、貝殻腹縁圧痕文が横位に2条施文され、その上下には貝殻条痕文を施文する。

D147も貝殻腹縁圧痕を沿わせた沈線で文様を描く。

D148は尖底土器の底部。粘土紐の接合部から割れている。表裏面共ナデ調整され無文である。

D139～D144は、早期前葉の沈線文系土器、D145～D147は早期後葉の貝殻文系土器である。D149は、LR原体横位回転とRL0段多条原体の横位回転の組み合わせによる、非結束羽状縄文を全面に施文した後、細い横位沈線が3条以上巡る。胎土には繊維を含まない。出土状況から河道Eもしくは河道Fの堆積層に包含されていた可能性がある。沈線の施文の仕方は、河道E堆積層下位出土のD138とも類似する。また、0段多条の原体2種を用いた交互段状施文による非結束羽状縄文は、河道G堆積層上位以降の出土土器と共通する。本遺跡からは、類似する土器は外に出土していない。早期～前期初頭の、いずれかの時期に帰属すると思われるが、確実ではない。



第 259 圖 遺構外出土遺物 (4) 土器④

②縄文時代前期の土器（第258図）

D150・D151 はいずれも胎土に繊維を含む。D150は、2種の原体（RL0段多条とLR0段多条の横位回転施文）の組み合わせである。D151もLR0段多条の横位回転施文と、RL0段多条の斜位回転施文の組み合わせである。

D152・D153は胎土に繊維を含み、2種の0段多条原体の交互段状施文による非結束羽状縄文である。

D154は直径の大きい半截竹管を用い、その押引文が横位に施文される。胎土には繊維を含まない。D155は、L撚紐を巻きつけた多軸絡条体を縦位回転施文する。胎土には多量に繊維を含む。D150～D154は前期初頭、D155は前期中葉以降である。

③縄文時代中期の土器（第258図）

D156は、沈線区画文内にRL原体を縦位回転施文し、沈線に沿わせた刺突がある。D157もD156と類似する。区画文内には、縄文または刺突が充填される。これらは中期後葉～末の土器である。

④縄文時代後期の土器（第258図）

D158は櫛歯状工具による条線文で、縦方向の曲線文様を描く。工具の幅は1.8cmである。

D159・D160は太い沈線を横位に巡らす。縄文はLR横位回転施文で、原体は細く節も細かい。D160は横位無文帯も巡らす。D161はやや内湾する口縁部に小突起が付く。突起の上部は、工具によるキザミによって2分される。全体にLR横位回転による斜縄文が施文される。D162は台付鉢の底部から台部である。台部は無文で、底辺部には細かいRL縄文が施文される。

D158は後期前葉、D159とD160は後期後葉、D161とD162は後期末～晩期初頭の土器である。

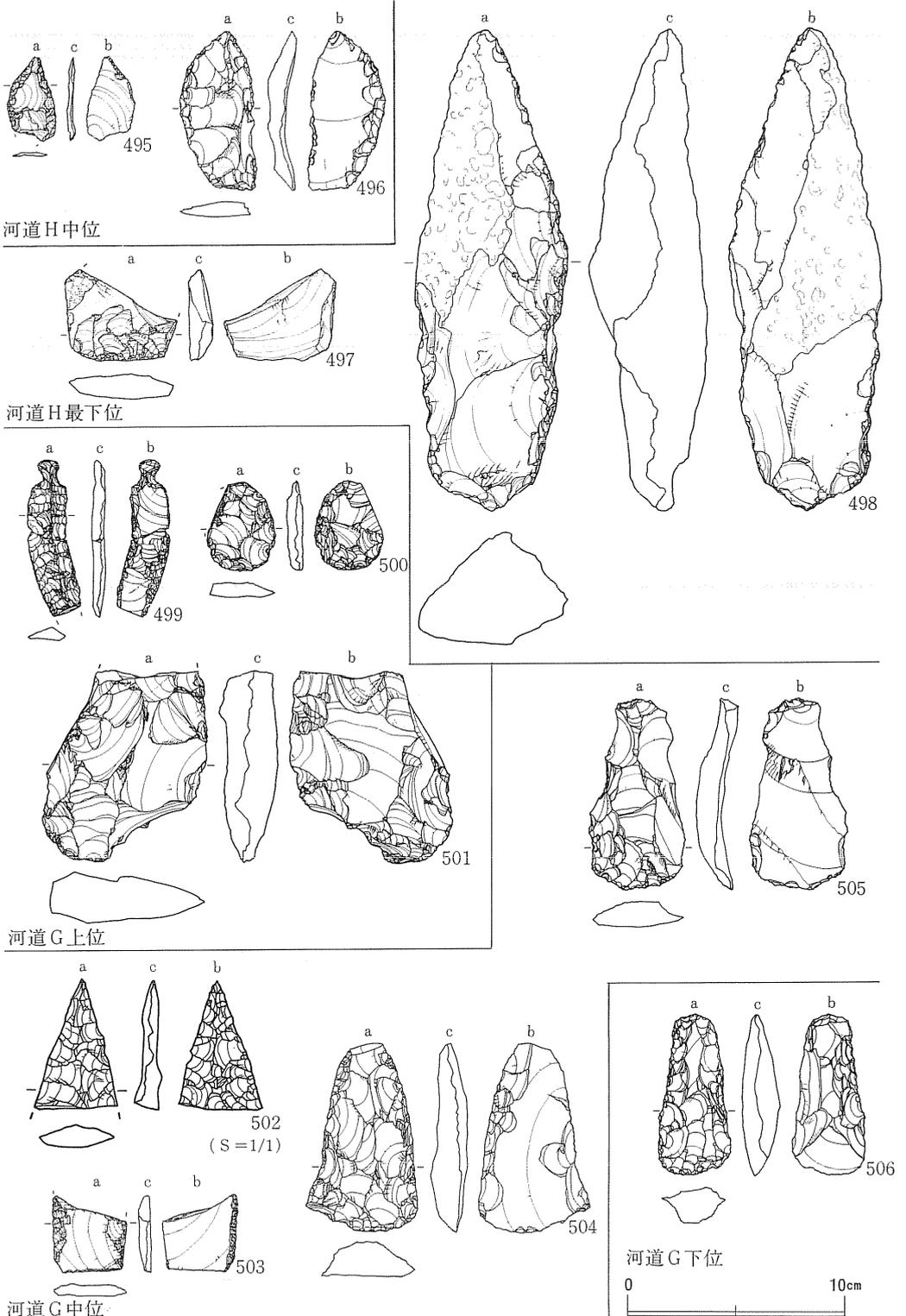
⑤縄文時代晩期の土器（第259図）

D163～D166は鉢形土器である。D163は、外反する無文の口縁部下に3条の横位沈線を巡らし、その下にはLR縄文を横位回転施文する。D164は、口唇外面に丸い棒状工具の押圧によるキザミ目の文様帯を設ける。胴部はLR縄文を横位回転施文する。D165は山形の波状口縁をもち、口唇部に平行な3条の、頸部に3条の沈線を巡らす。胴部にはLR縄文を横位回転施文する。D166は大きく外反する口縁部と胴上部に、3条以上の細かい横位沈線を巡らす。沈線の入る部分には、極めて細かい縄文を施文し、その後沈線を引いている。

これらの土器は晩期後葉の土器である。

⑥時期不明の土器（第259図）

D168はやや内湾する口縁部で、表面にはRL縄文が横位回転施文される。D167・D169～D172は縄文が施文された胴部破片。D167は口縁部が外反する器形で、RL縄文を斜位～横



第260圖 遺構外出土遺物(5) 石器①

位に回転施文する。D169・D171・D172はLR、D170は0段多条のRL縄文である。D173は無文の土器で底部に近い部分である。

D174～D177は底部資料。D174・D175は底面に網代痕、D176は笹葉痕が残る。D177の底面と底辺部は無文、胴部には細かいLR縄文が斜位から横位に回転施文される。

2 遺構外出土石器

遺構外出土石器も出土状況を勘案して、河道D～Hの埋没過程および岩盤直上の礫層から出土し先後関係が明らかなものと、表土～地山漸移層から出土し河道D～H堆積層等との対比ができないものに分けて記述する。

(1) 河道D～H堆積層および礫層出土石器

①河道H堆積層(第13・14図、巻頭図版2)

i) 堆積層中位(第260図、図版79)

この層にほぼ対応する層から、前期初頭の土器(D120・D121)が出土している。石器は、不定形石器2点が出土した。

不定形石器(495・496) いずれも縦長剝片を素材とするa面の一側縁に刃部を作出し、a・b両面の他の側縁に刃潰しの二次加工を施す。2点とも直刃である。496は、b面の全面に丁寧な二次加工を施す。

ii) 堆積層下位(第260図)

この層にほぼ対応する層から、前期初頭の土器(D122～D124)が出土している。石器は不定形石器1点、石核1点が出土した。

不定形石器(497) 縦長剝片を切断しその末端側を利用。a面の一側縁に刃部形成の二次加工を施す。刃部は直刃である。

石核(498) 頁岩の転石を母材とする。原石を分割した後、分割面を作業面として表裏両面から剝片をとる。石核を利用した両面調整石器の製作途中段階と思われる。全体にローリングを受けて摩滅する。河道Hの河川によって流出したものであろう。

②河道G堆積層(第13・14図)

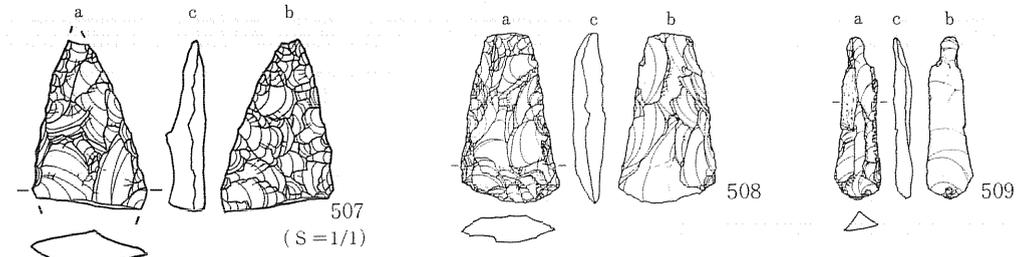
i) 堆積層上位(第260図、図版79)

この層にほぼ対応する層から、前期初頭の土器(D125～D128)が出土している。石器は石匙1点、不定形石器1点、二次加工ある剝片1点が出土した。

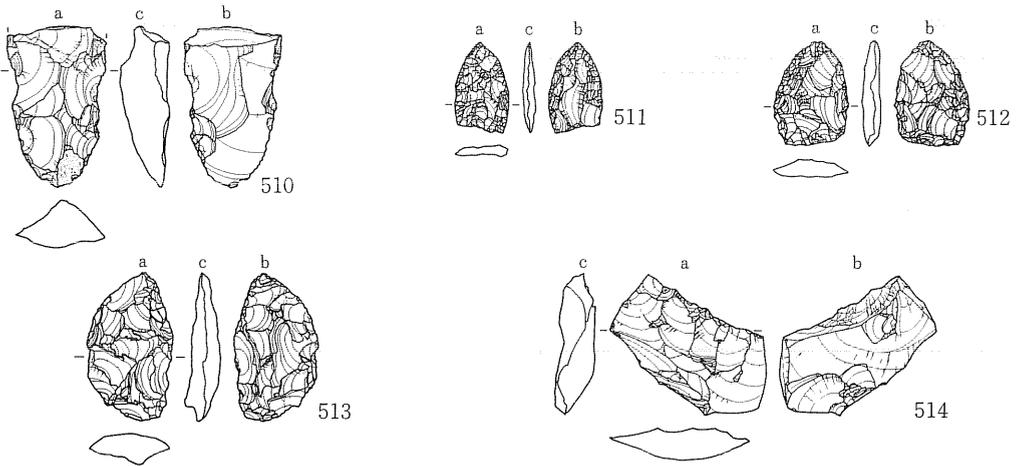
石匙(499) 縦型の形態で先端を欠失。打面調整剝離痕がa面左側縁に残る。

不定形石器(501) 厚手の剝片が素材。a・b両面に二次加工を施し、凸刃を作出している。

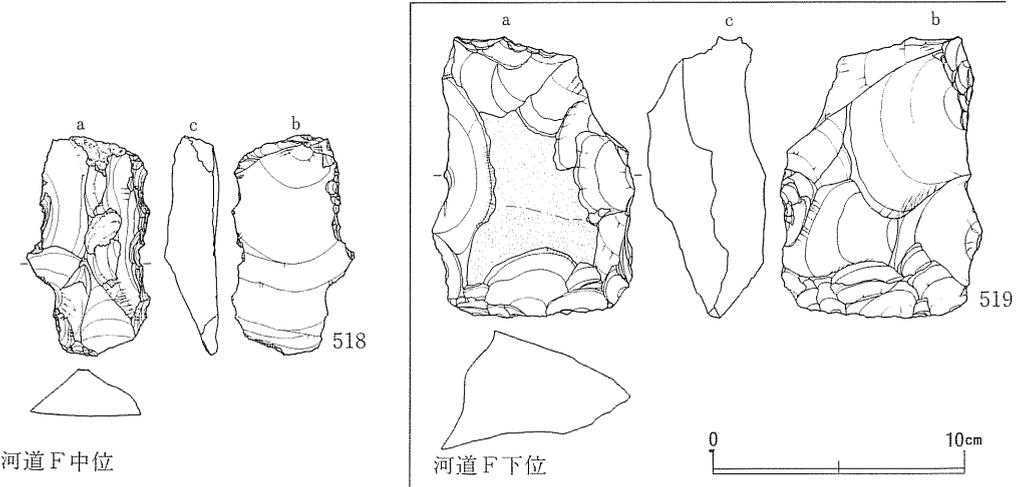
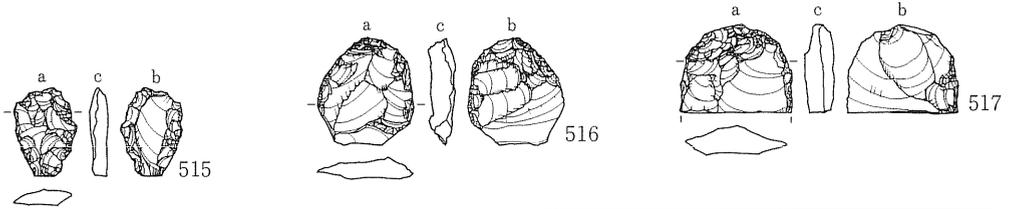
二次加工ある剝片(500) 素材剝片の周縁からa・b両面に二次加工を施し、全体を楕円形



河道F最上位



河道F上位



河道F中位

河道F下位

第261图 遺構外出土遺物(6) 石器②

第4章 調査の記録

に整形する。二次加工は全周せず、a面の左上部と右下部の一部に、素材剥片の切断面がそのまま残る。二次加工の施された部分の立面観は、ジグザグで明瞭な刃部は認められない。

ii) 堆積層中位 (第260図)

この層にほぼ対応する層から、前期初頭の土器(D129)が出土している。石器は石鏃1点、石筥2点、石匙1点が出土した。

石鏃(502) 尖端部で、鏃長はやや長いと推定される。

石筥(504・505) 504のb面は、基部の一部のみの調整を施す。505のb面には、二次加工を施さない。両者とも刃部は凸刃である。

石匙(503) 打面調整剝離技法によって整形された大型の縦型石匙である。尖端部のみ残存。a面の調整剝離痕は短く、素材の剝離面が広く残る。

iii) 堆積層下位 (第260図、図版79)

石筥1点が出土。

石匙(506) a面の全体とb面の刃部以外の部分に、二次加工を施す。刃部は凸刃。

③河道F堆積層(第13・14図、巻頭図版2)

i) 堆積層最上位(第261図、図版79)

この層にほぼ対応する層から、早期末の土器(D130・D131)が出土している。石器は石鏃1点、石筥1点、縦型石匙1点が出土した。

石鏃(507) 鏃長が長い形態で、尖端と基部側の半分を欠失。

石筥(508) 506と同じ形態の石筥で、裏面は刃部以外の部位に二次加工を施す。

石匙(509) 縦長剥片を素材とし、末端に二次加工を施すつまみ部分を作成する。a面右側縁と左側縁の尖端部のみに、二次加工を施す。素材剥片のバルブは除去されていない。

ii) 堆積層上位(第261図)

この層にほぼ対応する層から、早期末の土器(D132～D134)が出土している。石器は石槍1点、不定形石器1点、二次加工ある剥片3点が出土した。

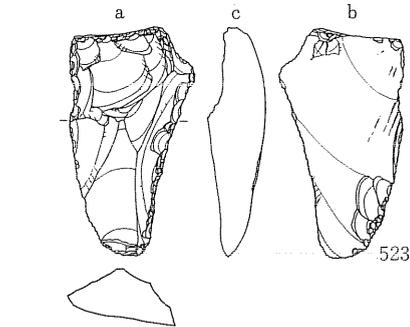
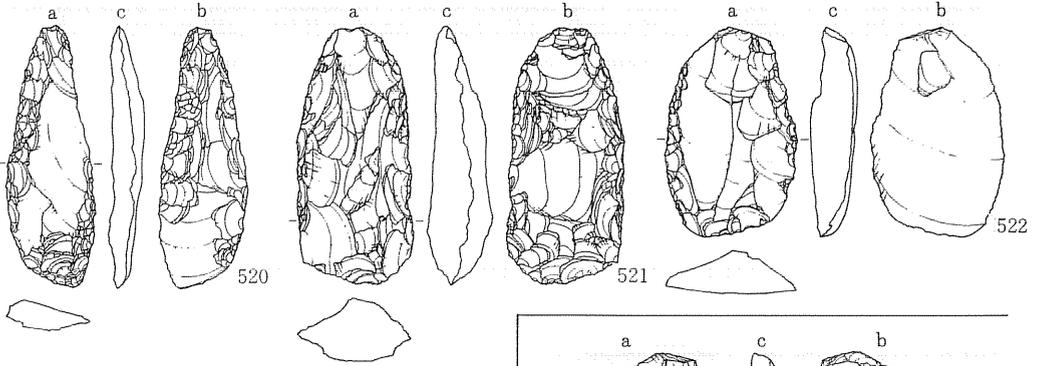
石槍(511) a・b両面に細かな二次加工を施し、扁平に整形している。

不定形石器(510) 全体の形態を尖頭形に仕上げている。a面右側縁の上部が凸刃。刃部の対辺は、b面に二次加工を施して刃潰しを行う。

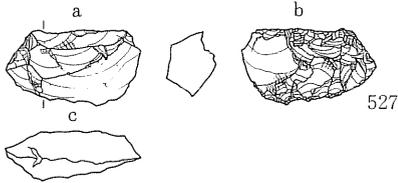
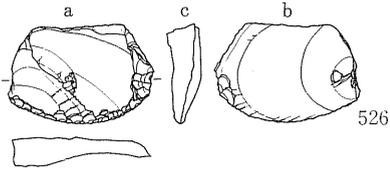
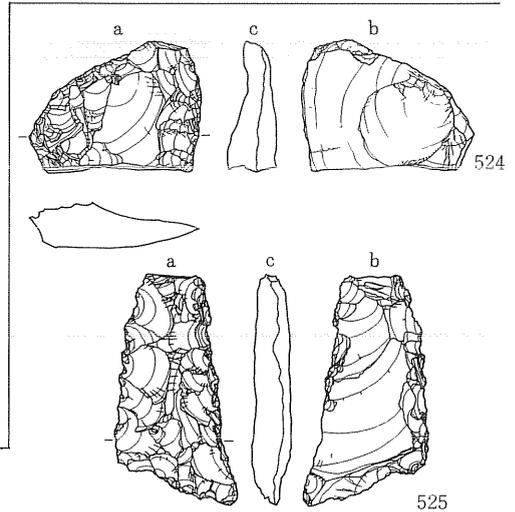
二次加工ある剥片(512・513・514) 512・513はいずれもa・b両面の全面に二次加工を施して、尖頭形に整形している。明瞭な刃部はない。514は剥片の一部に二次加工による剝離痕が認められるが、刃部の作出ではない。何らかの石器の未製品の可能性がある。

iii) 堆積層中位(第261図)

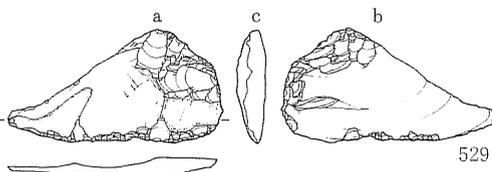
不定形石器4点が出土。



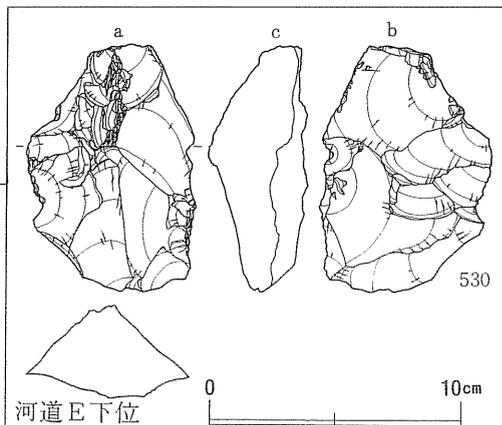
河道E最上位



河道E上位



河道E中位



河道E下位

第262圖 遺構外出土遺物(7)石器③

不定形石器 (515~518) 一側縁に凸刃の刃部を形成し、他の側縁に刃潰しの加工を施す。

515 は a 面左側縁、516 は a 面右側縁の下部、517 は a 面右側縁全部が刃部である。518 は a 面左側縁の下端部に凸刃をもち、両側縁の一部に刃潰しの二次加工を施す。

iv) 堆積層下位 (第 261 図)

石核が 1 点出土。

石核 (519) a 面に礫皮面が残る。a 面の周縁 3 辺から剝片を剝離した後、作業面を b 面に転換し、さらに a 面と同じ方向で 3 辺から剝片を得ている。

④河道 E 堆積層 (第 13・14 図、巻頭図版 2)

i) 堆積層最上位 (第 262 図、図版 79)

石筥 2 点、不定形石器 2 点が出土。

石筥 (520・521) 520 は、刃部の b 面と基部の a 面右側中央に、素材剝片の剝離面が残る。

521 は、a・b 両面の全面に二次加工を施す。

不定形石器 (522・523) どちらも縦長剝片を素材とし、一側縁の表面に二次加工を施して刃部を作出する。他の側縁には刃潰しを施す。522 は凸刃、523 は凹刃である。

ii) 堆積層上位 (第 262 図)

この層にほぼ対応する層から、早期後葉の土器 (D135) が出土している。石器では不定形石器 3 点、微小剝離痕ある剝片 1 点、二次加工ある剝片 1 点が出土した。

不定形石器 (524~526) 一側縁に刃部、他の側縁に刃潰しを施す。524 は直刃、525 は凹刃である。525 は刃部の対辺を、打面調整剝離技法によって整形する。526 は、縦長剝片の一側縁に二次加工を施し、凸刃を作出したもの。他の側縁には、刃潰しの加工は施していない。

微小剝離痕ある剝片 (528) a 面の左側縁に微小剝離痕が認められる。

二次加工ある剝片 (527) 厚みのある剝片の一部を折り取り、b 面の周縁から二次加工を施したもの。刃部は形成されていない。石器の未製品であろうか。

iii) 堆積層中位 (第 262 図)

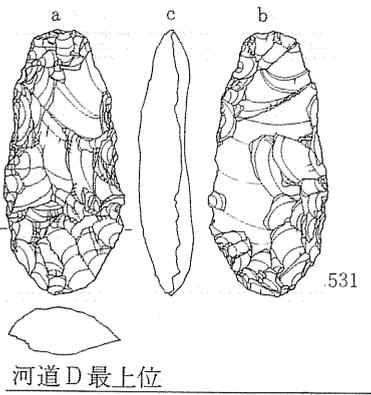
この層にほぼ対応する層から、早期後葉の土器 (D136) が出土している。石器は不定形石器 1 点が出土した。

不定形石器 (529) 横長剝片を素材とする。末端側に直刃を作出し、打面側には a・b 両面に二次加工を施してバルブを除去している。

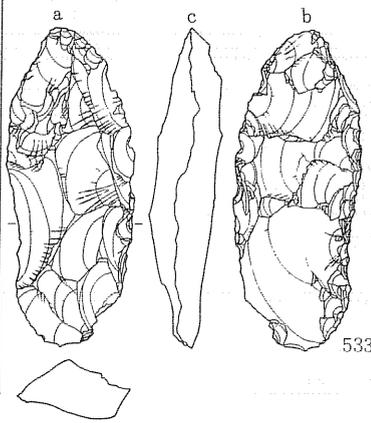
iv) 堆積層下位 (第 262 図)

この層にほぼ対応する層から、早期前葉の土器 (D137・D138) が出土している。石器は石核が 1 点出土した。

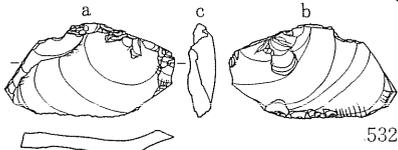
石核 (530) 厚みのある分割礫または剝片を素材とし、a 面で 2 回剝片を剝ぎ取った後、作



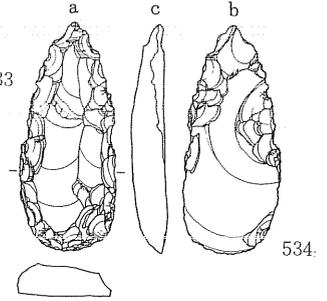
河道D最上位



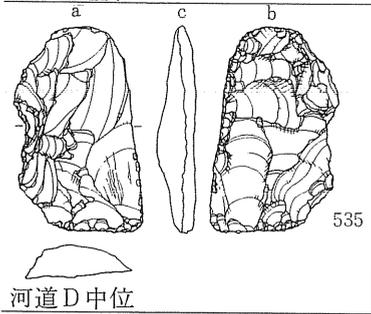
533



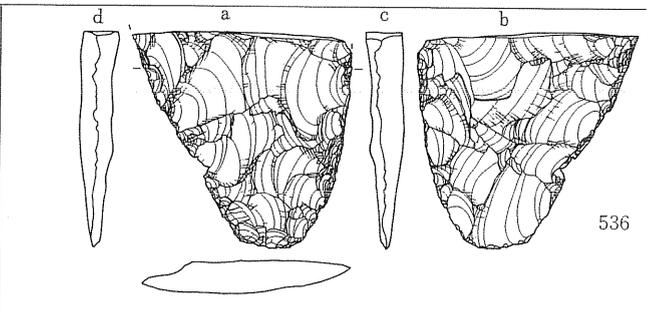
532



534



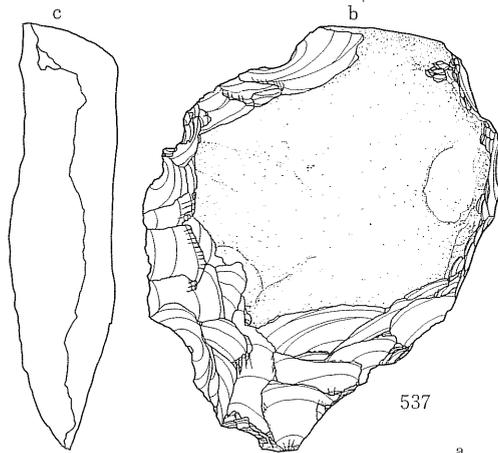
河道D中位



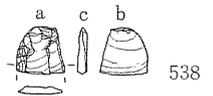
536



河道D下位



537



538



第263図 遺構外出土遺物(8) 石器④

業面をb面に転換して3回、さらにa面に戻して2回剥片剥離作業を行う。剥片生産を目的とせず、小型の両面調整石器を製作する途中で放棄された可能性もある。

⑤河道D堆積層（第13・14図、巻頭図版2）

i) 堆積層最上位（第263図、図版79）

石筥が1点出土。

石筥（531） ほぼ全面に二次加工を施す。b面中央の一部に、素材の縦長剥片の主要剥離面が残る。

ii) 堆積層上位（第263図、図版80）

両面調整石器1点、石筥1点、微小剥離痕ある剥片が1点出土。

両面調整石器（533） a面の剥離痕を打面として、b面の両側縁を加工する。a面右上の一部のみが、その後で加えられた調整である。

石筥（534） 基部の一部にのみ、a・b両面からの調整を施す。凸刃である。

微小剥離痕ある剥片（532） 一側縁に、使用によると思われる微小剥離痕が観察される。

iii) 堆積層中位（第263図）

不定形石器が1点出土。

不定形石器（535） a面右側縁に直刃を作出し、他の側縁に刃潰しの二次加工を施す。また、a・b両面の全面にも二次加工を施す。

iv) 堆積層下位（第263図）

両面調整石器2点、不定形石器1点出土。

両面調整石器（536・537） 536はほぼ半分を欠失。両面の全面を加工し、薄く仕上げている。本来は、半円形に近い形態であったと推測される。537はb面に礫皮面が残る。作業面と打面を頻繁に転換しながら加撃し、剥離痕は表裏両面とも周縁をほぼ全周する。

不定形石器（538） 縦長剥片の末端を折り取り、両側縁を使用したもの。a面左側縁は剥離痕の摩滅が著しく、側縁が丸くなる。右側縁には、使用によると思われる微小剥離痕がある。

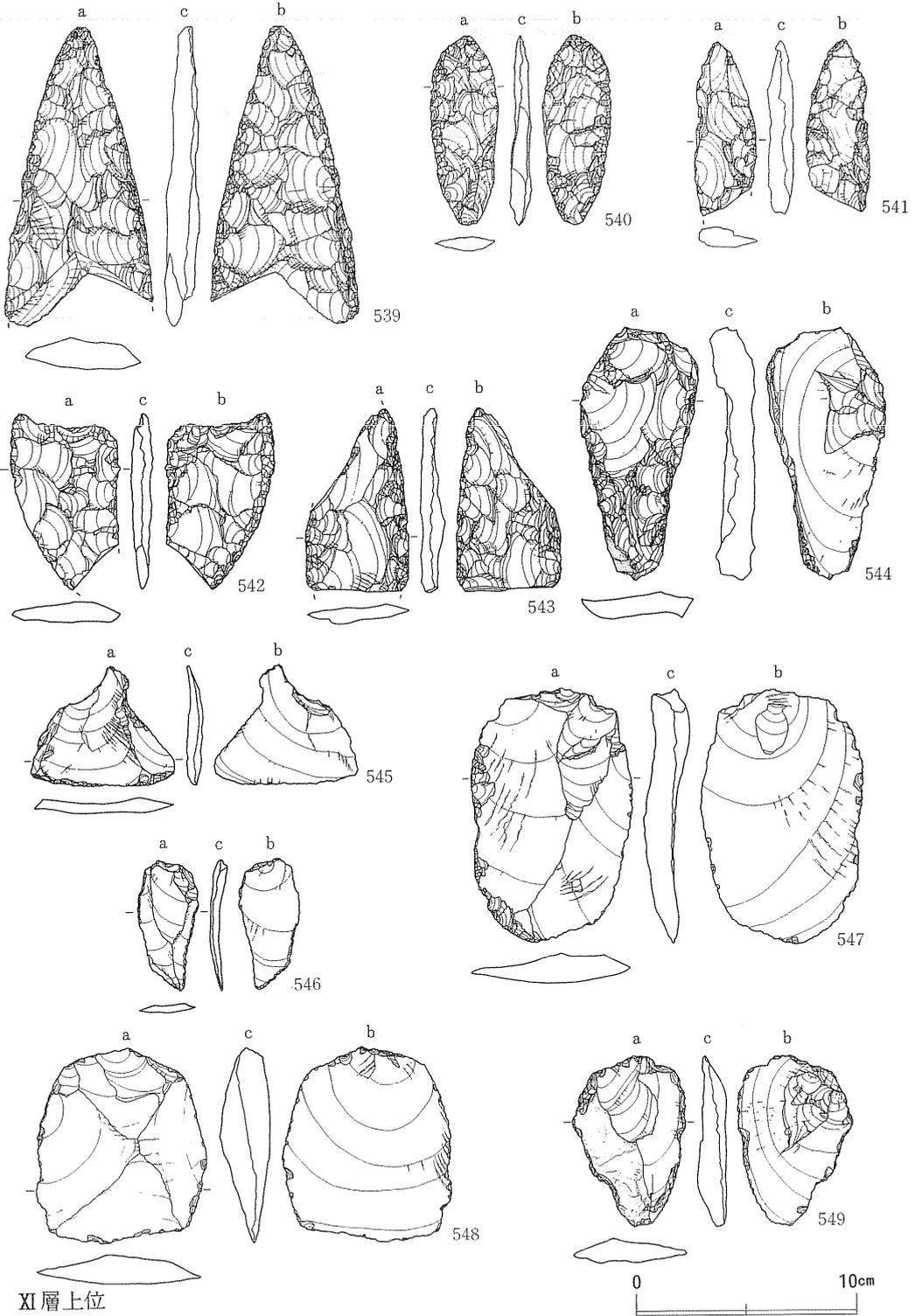
⑥礫層中（XI層）の石器（第12図、巻頭図版2）

i) 礫層上位（第264図、図版80）

両面調整石器3点、石槍2点、不定形石器2点、微小剥離痕ある剥片4点、礫器1点、二次加工ある剥片1点を掲載した。

両面調整石器（539・542・543） 539は尖頭形の両面石器の一部である。両面共に側縁からの二次加工によって調整され、薄く仕上げている。542・543も、同様の両面調整石器の一部であろう。

石槍（540・541） 540は先端の角度が約90°とやや広い。a・b両面が丁寧に調整され、先端

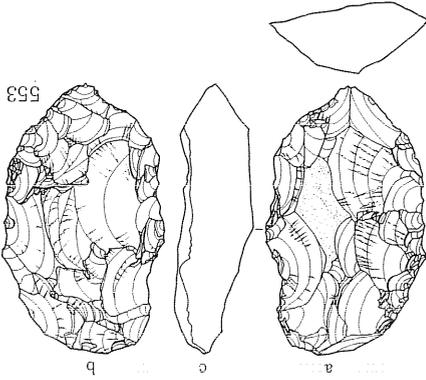
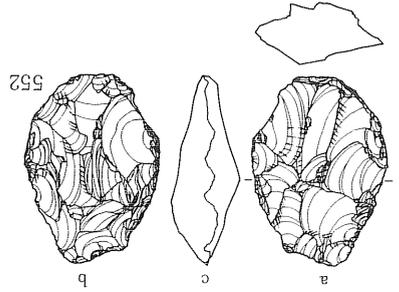
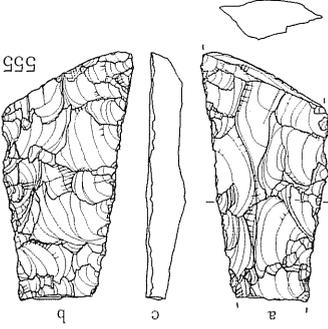
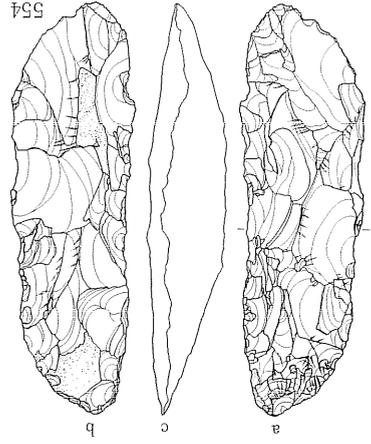
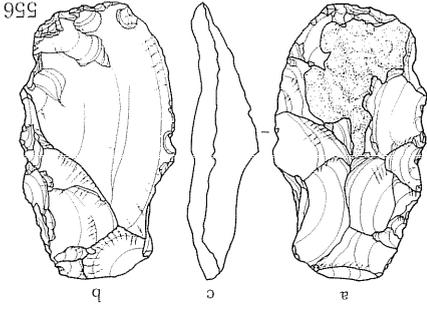


XI層上位

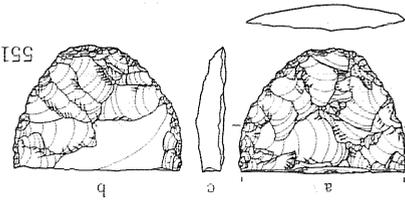
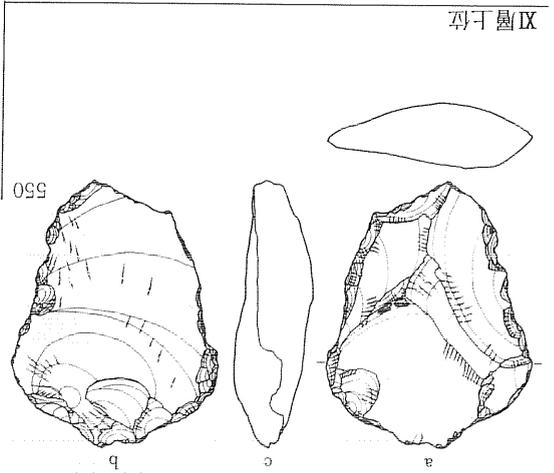
第264圖 遺構外出土遺物(9) 石器⑤

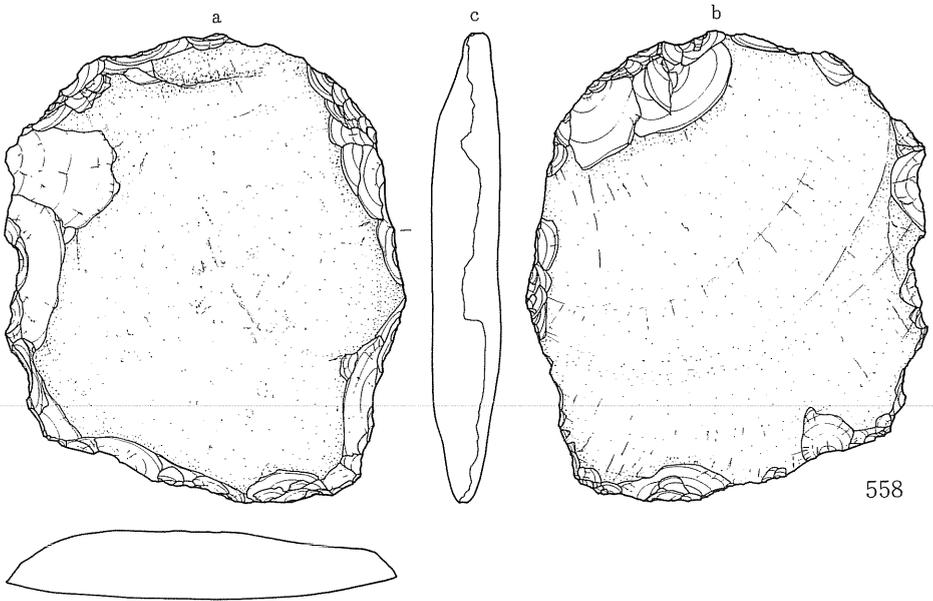
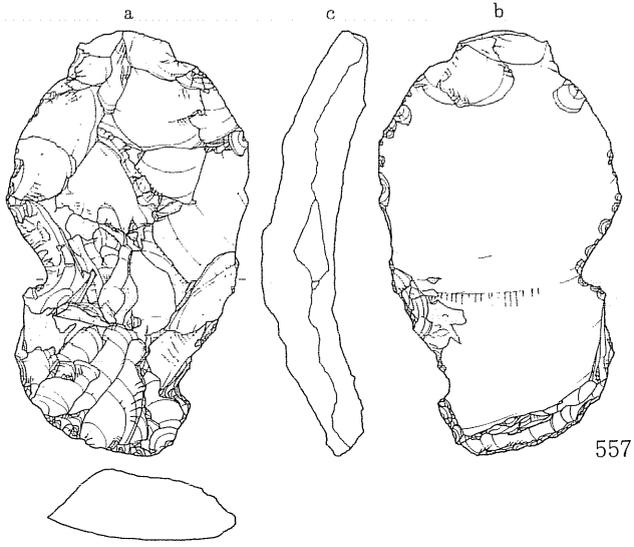
第265図 遺構外出土遺物 (10) 石器⑥

XI層中位

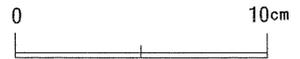


XI層上位





XI層中位

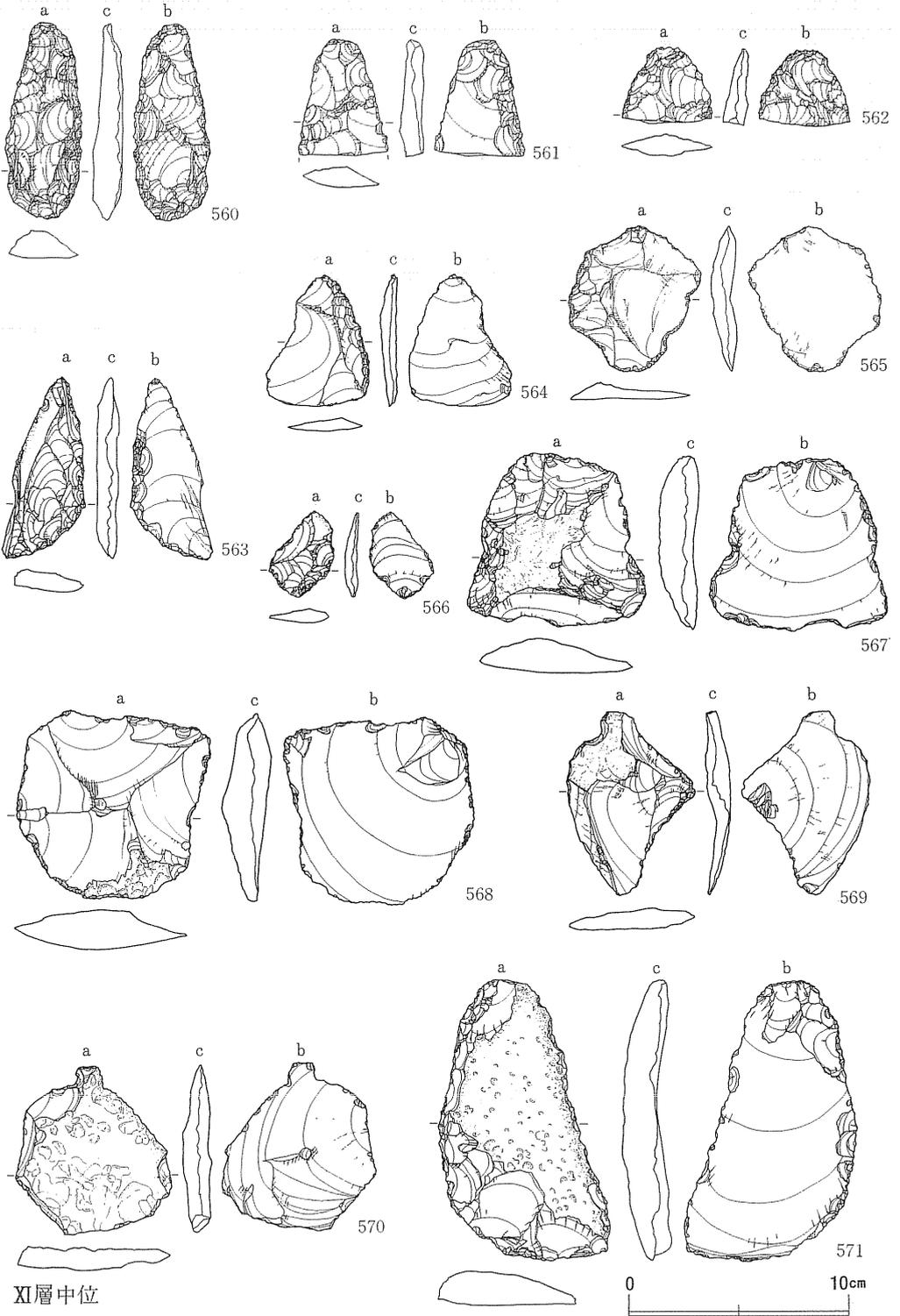


第266圖 遺構外出土遺物(11)石器⑦



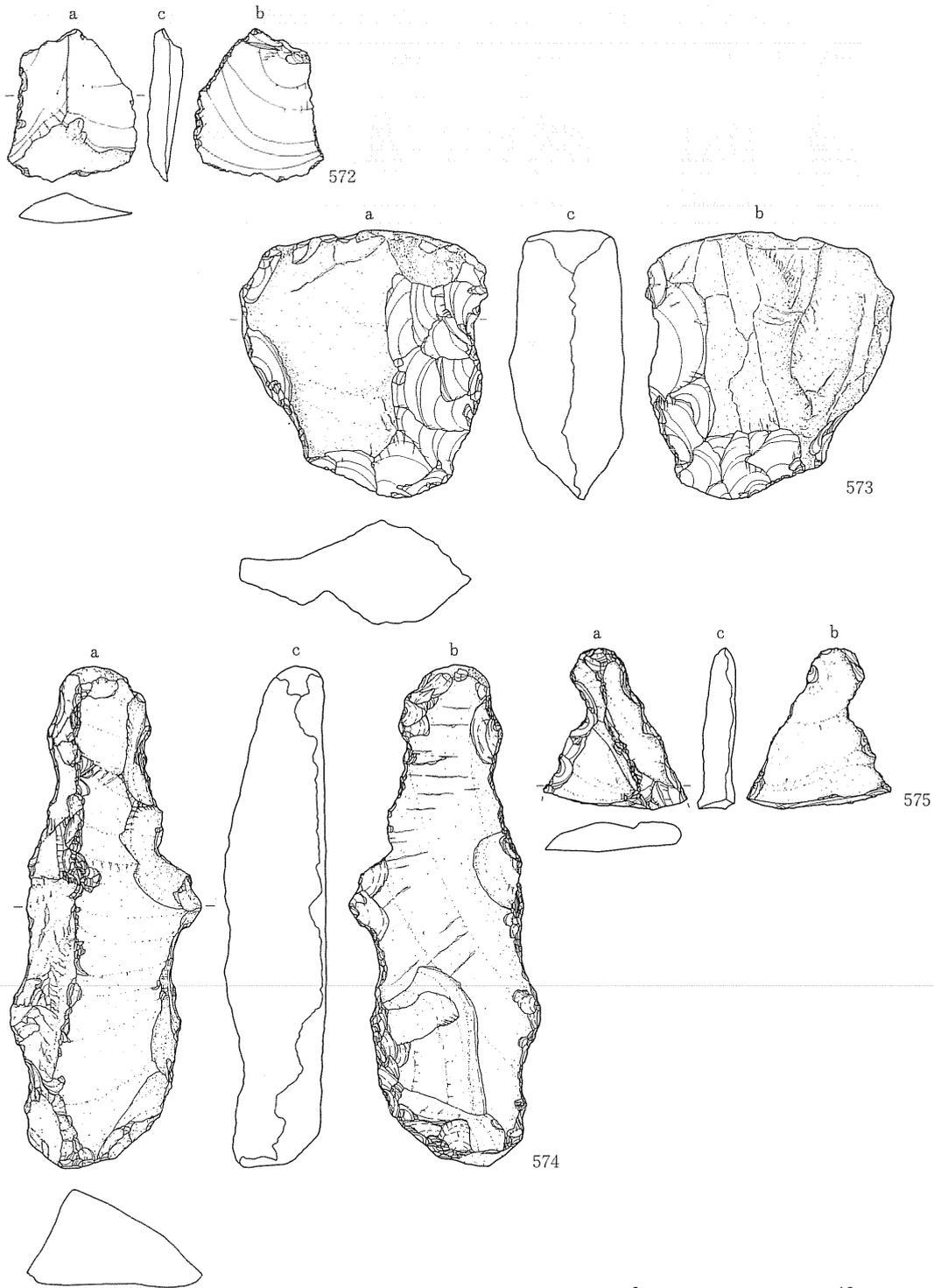
XI層中位

第267図 遺構外出土遺物(12)石器⑧



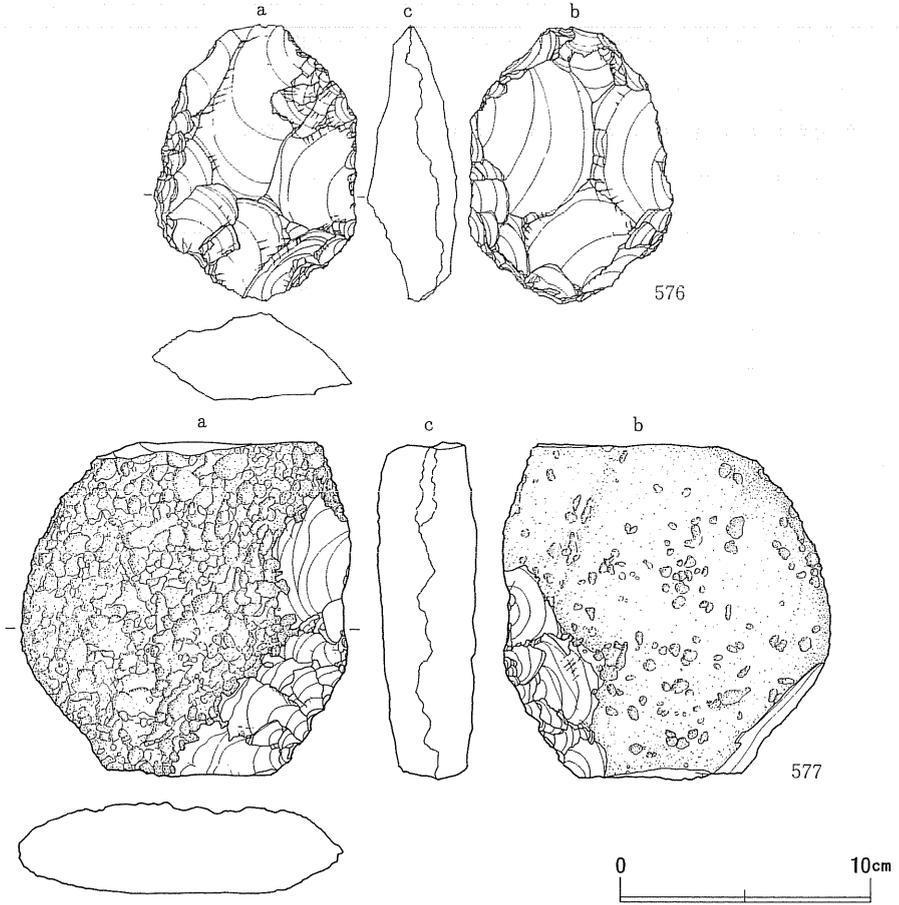
XI層中位

第 268 圖 遺構外出土遺物 (13) 石器⑨



XI層下位

第269図 遺構外出土遺物(14) 石器⑩



第 270 図 遺構外出土遺物 (15) 石器⑪

は薄く仕上がっている。541 は先端の角度が約 45° と鋭利である。a 面の調整は粗く、540 に比べて槍身が太い。

不定形石器 (544) 横長剥片の一側縁に刃部を作出し、他の側縁に刃潰しを施す。刃部は直刃である。545 は縦長剥片の上部を取り去り、末端に緩い凸刃の刃部を作出している。側縁の一部にも二次加工を施す。

微小剝離痕ある剥片 (546~549) 547 は一側縁、546・548・549 は二側縁に使用痕と思われる微小剝離痕がある。549 はローリングで全体が摩滅。

礫器 (550) 周縁のほぼ全面に、二次的な剝離痕を認める。特に素材の末端側は、a 面側に急角度で潰れ、著しい階段状剝離痕が並ぶ。ここが刃部として利用されたものであろう。ローリングで剝離痕全体が摩滅している。

二次加工ある剥片 (551) a・b 両面に二次加工を施す。刃部は整形されていない。a 面は、両側縁からの打面調整剝離技法によって調整されている。折断面が最も新しい剝離面なので、

不定形石器の刃部側が欠失したものを利用した可能性がある。

ii) 礫層中位 (第 265~268 図)

両面調整石器 4 点、両面調整石器の未製品と思われる石器 4 点、石篋 1 点、不定形石器 4 点、微小剝離痕ある剝片 6 点、二次加工ある剝片 1 点を掲載した。

両面調整石器 (552~559) 552・553 は楕円形の両面調整石器である。b 面は平坦、a 面は中央部が厚い。554 は三ヶ月形に近い形態で、やはり b 面は平坦、a 面は中央部が厚い。555 は尖頭形の形態の一部である。b 面を平坦に仕上げ、中央部は厚く a 面が盛り上がる。554 に比べて全体に薄い。

556~559 は、両面調整石器の未製品と思われる。556 は a 面に礫皮面が残る。b 面は全体の 1/3 程を占める大きな剝離痕が 1 つの外、周縁の一部に細かい剝離痕がある。557 は a 面に周縁から二次加工を施し、b 面にも細かい調整を施す。側縁に加えられた打撃によって、大きく分割された破片である。558 は、扁平な頁岩の転石の周縁を打ち欠いたもの。559 も、転石の周縁に二次加工を加えたものである。いずれも、両面調整石器を製作しようとして、途中で放棄した可能性がある。

石篋 (560) 両面の全面に、二次加工を施している。

不定形石器 (561~564) 561 は一辺に切断面を残し、三角形から尖頭形に調整している。562 は a 面左側縁、561 は a 面右側縁が刃部で、その対辺には刃潰しの加工を施す。563 は横長剝片を素材とし、打面側に刃潰しの二次加工を施したもの。刃部は、末端側の縁辺をそのまま利用している。刃部には、使用によるとと思われる微小剝離痕が認められる。564 は、縦長剝片の一侧縁に二次加工を施し、刃部を作出したものである。刃潰しは施されていない。

微小剝離痕ある剝片 (565~570) 565~568 は縦長剝片の縁辺 3 ヶ所に、使用痕と思われる微小剝離痕がある。569・570 は一侧縁のみに微小剝離痕がある。

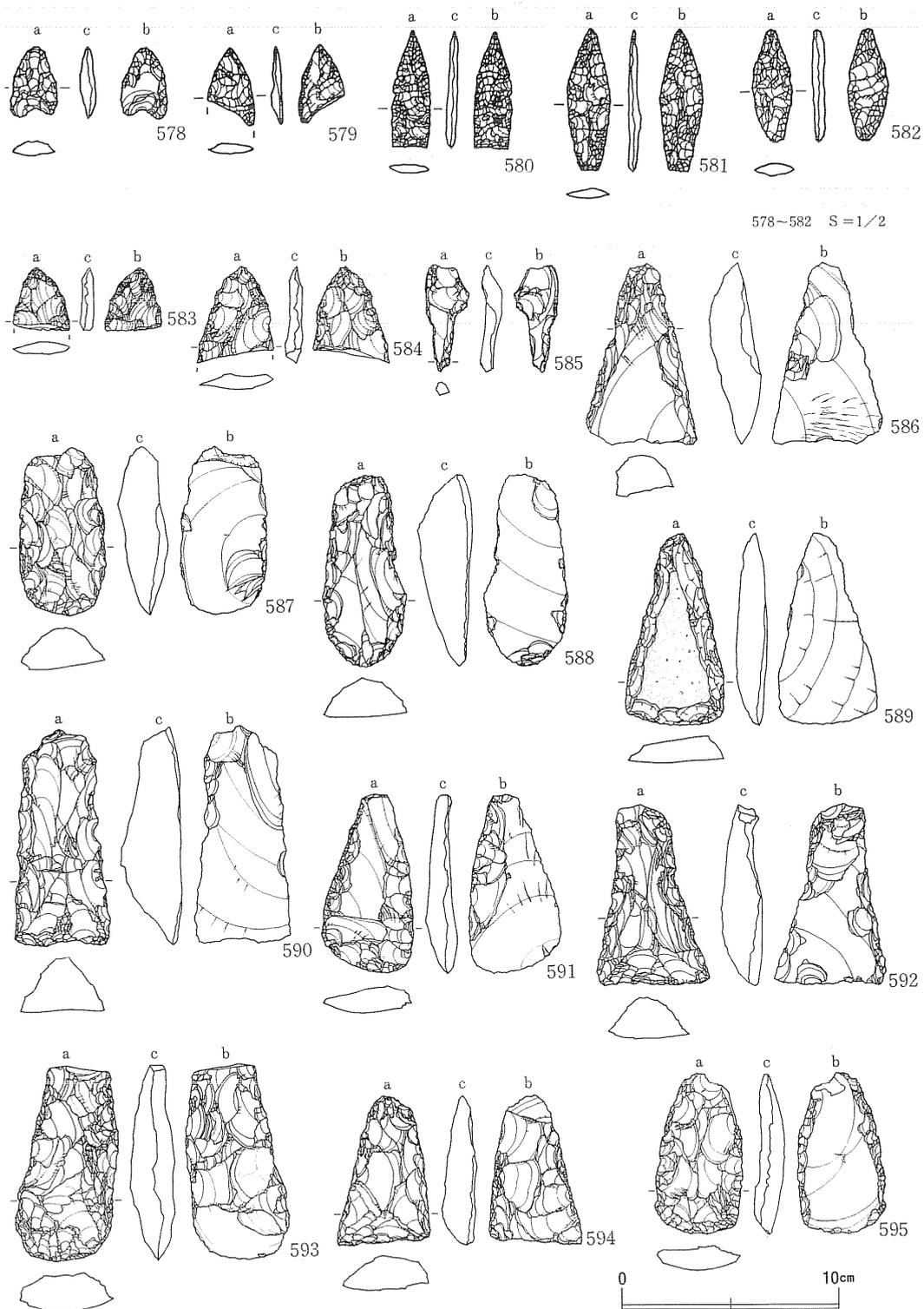
二次加工ある剝片 (571) 縦長剝片の全周縁に二次加工を施す。a 面に残る礫皮面は、左側下部は除去されるが、右側は残ったままである。周縁に明瞭な刃部が作出されないので、二次加工を施した剝片として掲載した。

iii) 礫層下位 (第 269 図)

微小剝離痕ある剝片 1 点、石核 2 点、二次加工ある剝片 1 点を掲載した。

微小剝離痕ある剝片 (572) 縦長剝片の両側縁に、使用痕と思われる微小剝離痕がある。

石核 (573・574) いずれも頁岩の転石を素材とする。573 は、側縁を打面として a・b 面交互に作業面を転換しながら剝片剝離作業を行うが、全周の 2/5 程のところまで作業を終了している。剝片は小さく、剝片生産を目的としたというより、石核素材の両面調整石器などを製作するために礫皮面を除去する途中段階ものと考えられる。574 も細長い転石を利用し、素材の平



第271図 遺構外出土遺物 (16) 石器⑫

坦面を打面として剥片剥離作業を行う。573と同種のものと思われる。

二次加工ある剥片(575)全体がローリングによって摩滅し、剥離痕の稜が丸くなる。周縁に二次加工痕が認められる。

(2) 河道D~H堆積層および礫層以外の出土石器(第13・14図)

①両面調整石器(第270図)

576は楕円形で、細かい調整剥離痕は周縁の一部のみに認められる。a・b両面のほとんどには、整形段階の大きい剥離痕が残る。577は扁平で、楕円形の転石の一部に加工したもの。原石の両端を打ち割って、円形もしくは方形に近い形に整形し、一側縁にはa・b両面に、礫皮面を除去するための打撃を行うが、一部のみで終了している。

②石鏃(第271図)

578は凹基無茎、579も基部が欠失するが同形態と思われる。580・581は平基無茎で、鏃長が長い形態。580は熱を受けて黒変し、一部に焼け弾けがある。581は柳葉形に近い。582は凸基有茎である。先端は丸みを帯びる。

③石槍(第271図)

583・584とも基部側を欠失。薄く幅広の形態である。

④石錐(第271図)

585は厚みのある横長剥片を素材とし、バルブ側を基部として利用している。錐部先端は欠失する。

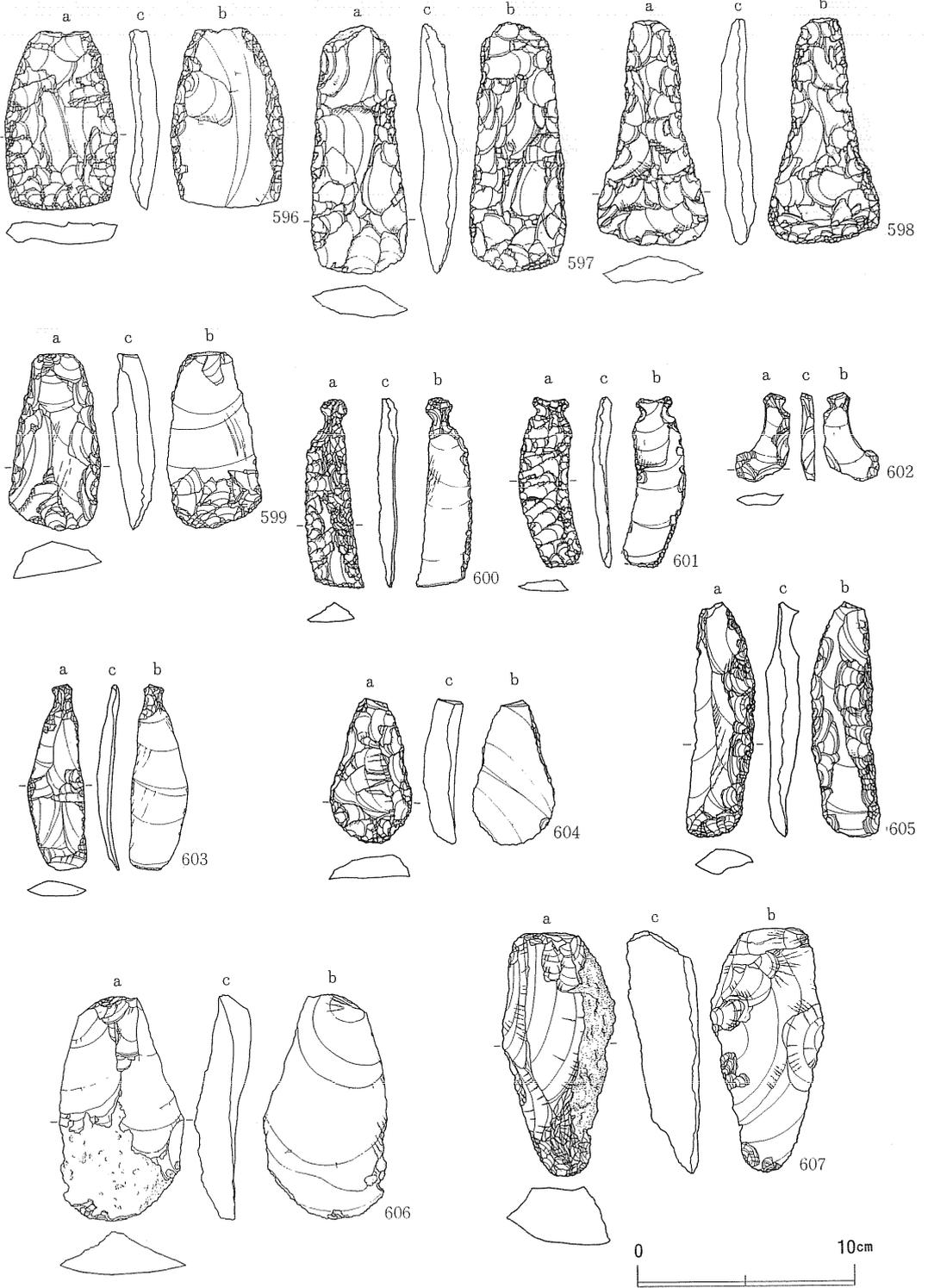
⑤トランシェ様石器(第271図)

586は横長剥片を素材とし、フェザーの側縁をそのまま刃部に利用する。他の三辺は二次加工によって調整され、全体を三角形に仕上げる。b面の基部側には、一部に二次加工痕がある。これは、素材のバルブを除去するためと考えられる。

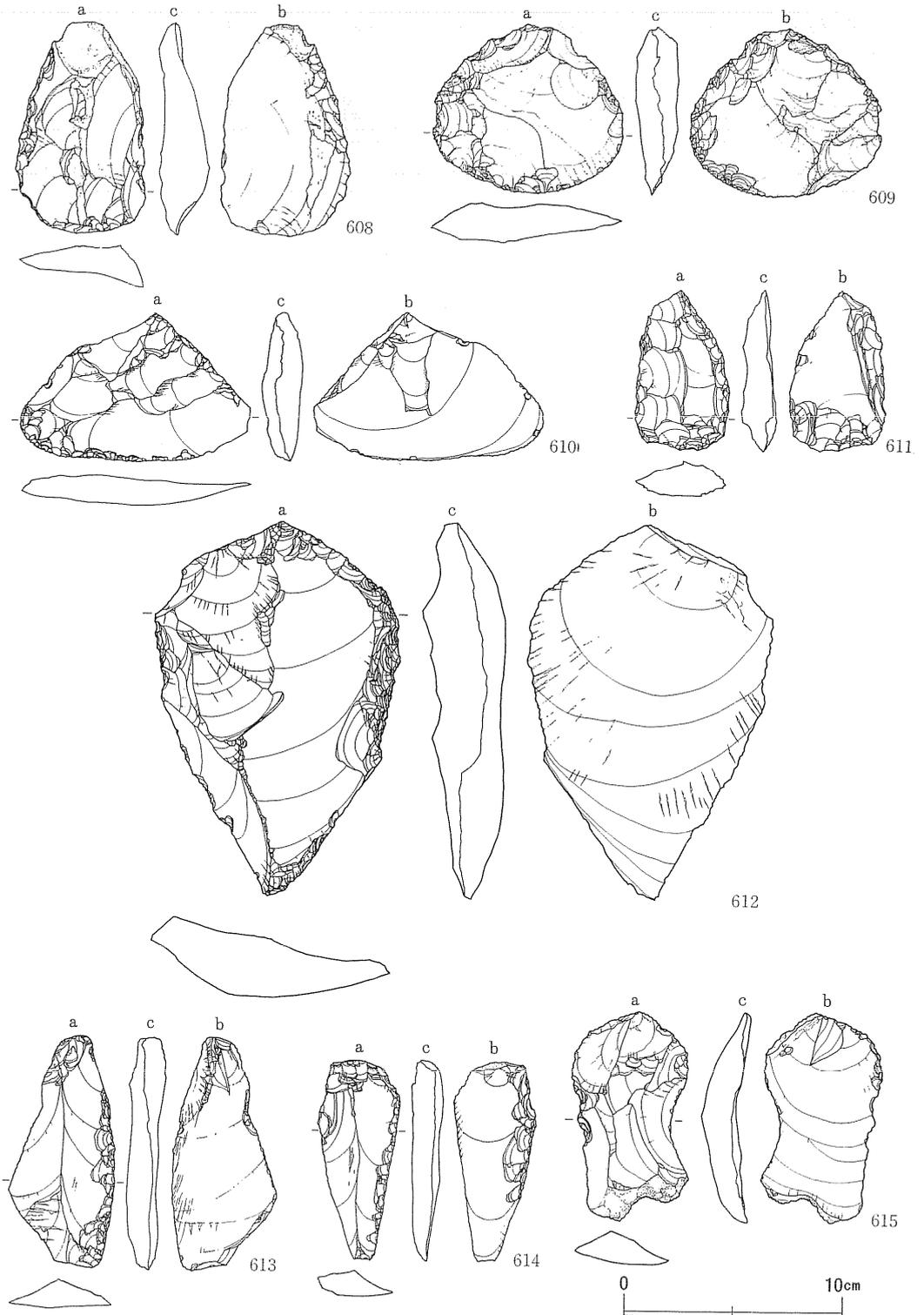
⑥石篋(第271・272図、図版80)

587~590は、b面に調整を全く加えず平坦なものである。587・588・590は断面形が半円形、589は台形を呈する。587・588は凸刃、589・590は直刃である。591・592は、基部の一部にb面からの調整を行う。591は凸刃、592は直刃である。593・594は基部全体にb面から調整を施し、刃部のみ素材剥片の主要剥離面を残す。594は刃部再生によって、b面に調整剥離の加わった部位まで使用したものであろう。593は凸刃、594は直刃である。595・596は横長剥片を素材とし、表面は両側縁からの打面調整剥離技法によって加工している。595は凸刃、596は直刃に近い凸刃である。597・598は、a・b両面の全面に二次加工を施す。597は短冊形で凸刃である。598は撥形で、直刃に近い凸刃。599は、b面の刃部のみ二次加工を施す。このタイプは1点のみの出土である。

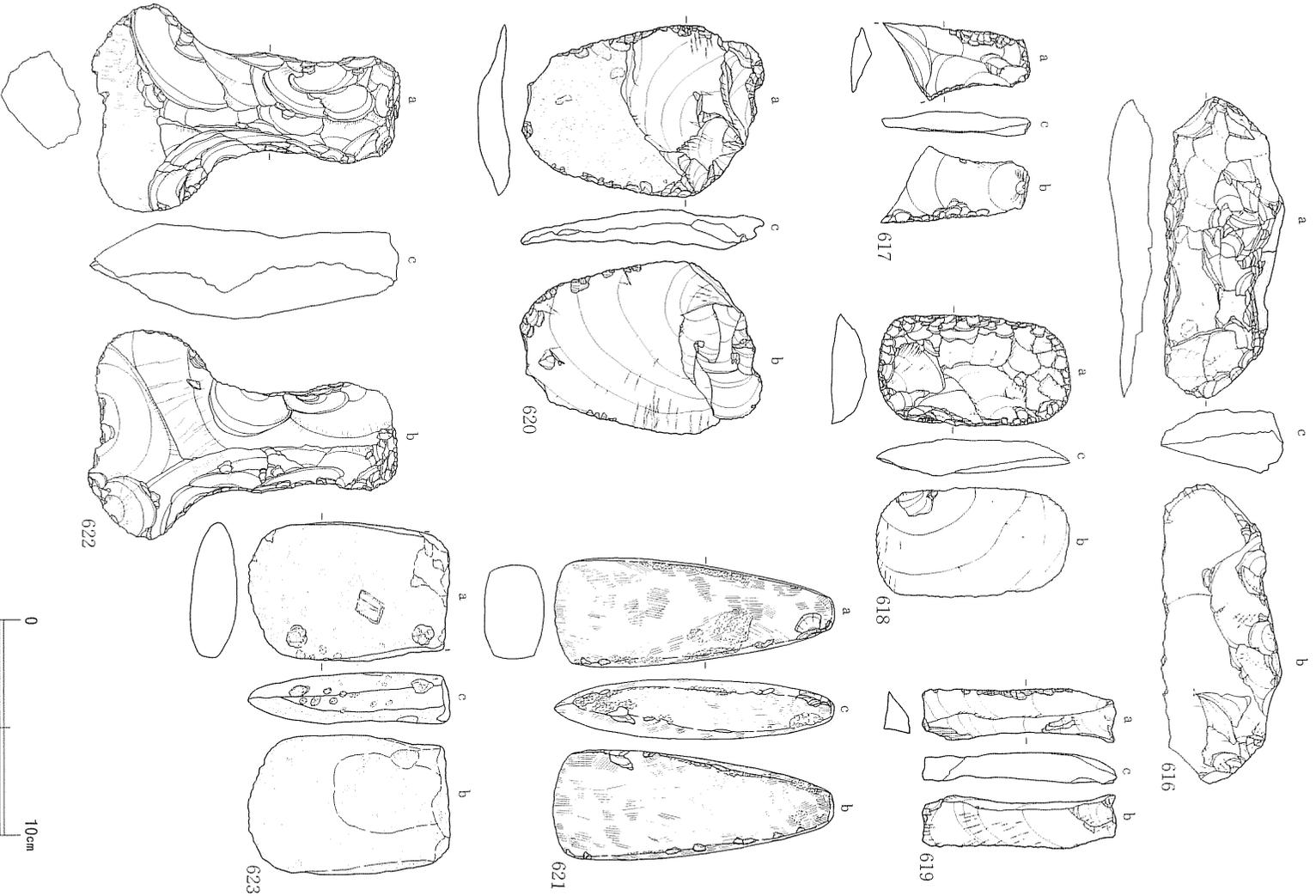
第3節 遺構外出土遺物



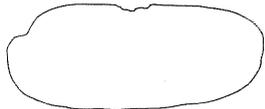
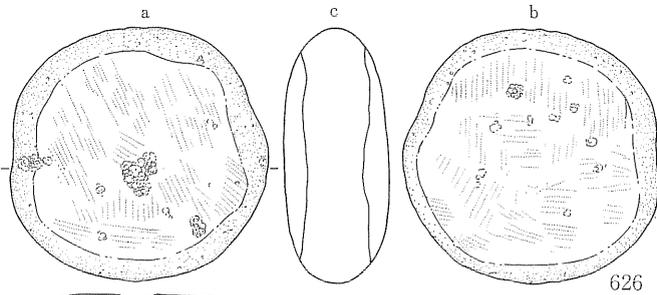
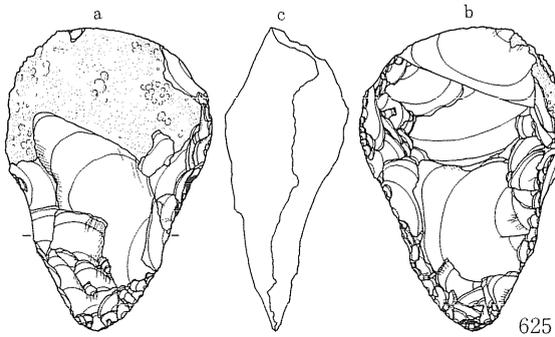
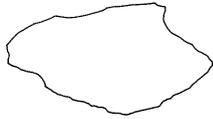
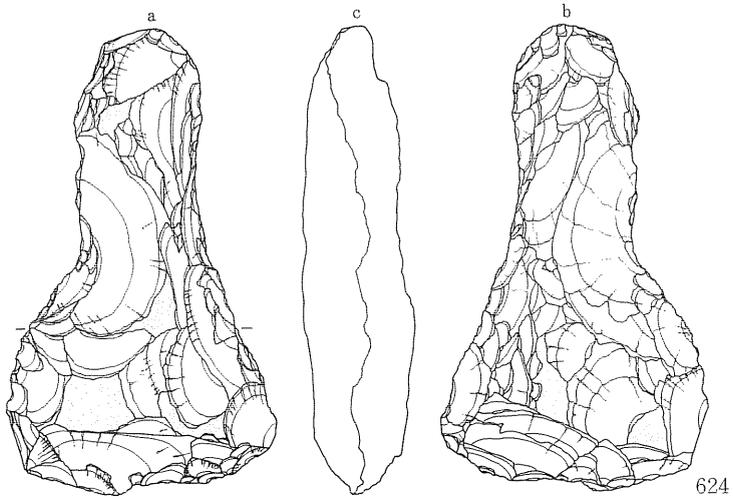
第 272 図 遺構外出土遺物 (17) 石器⑬



第 273 図 遺構外出土遺物 (18) 石器⑭



第274図 遺構外出土遺物 (19) 石器⑯



第275図 遺構外出土遺物(20) 石器⑯

⑦縦型石匙（第272図、図版80）

600・601は、a面左側縁を打面調整技法によって調整する。刃部は右側縁で凹刃である。602・603は、打面調整剝離技法を用いていない。縦型剝片の一部に二次加工を施して、つまみと刃部を作出する。

⑧不定形石器（第272～274図）

剝片の周辺に二次加工を施し刃部を作出した石器、および剝片の周縁に刃潰しの二次加工を施し、縁辺の一部をそのまま刃部として利用した石器を一括した。全体の形状と刃部の形態、二次加工の種類等を考慮し、特徴的なものを15点掲載する。

604～606は縦長剝片の末端に刃部を作出した、いわゆるエンドスクレイパーである。604はa面の全面に、605はa面の右側縁とb面の両側縁に二次加工を施して整形する。606は刃部を作出したのみで、外は二次加工を施さない。607・608は石筥状の形態で、縦長の器形で末端に刃部を作出している。

607は厚みのある断面台形の素材を利用し、刃部の外に両側縁のごく一部に二次加工を施す。608は横長剝片を素材とし、幅広の凸刃を作出している。両側縁に二次加工を施して整形する。609・610は、剝片の一縁辺に半円形の刃部を作出したもの。609は刃部以外の縁辺に二次加工を施し、全体を楕円形に仕上げる。610は縦長剝片の末端に刃部を作出し、他の縁辺には二次加工を施さない。

611～613は、剝片の一縁辺に比較的幅の広い凸刃を作出したもの。611は、刃部以外の縁辺に二次加工を施し整形する。612の刃部以外の二次加工は、縁辺の一部に小規模に施されるだけで、素材剝片の形状には大きな変化を加えていない。613は、縦長剝片の一側縁に刃部を作出するが、他の縁辺に刃潰しの二次加工は施さない。

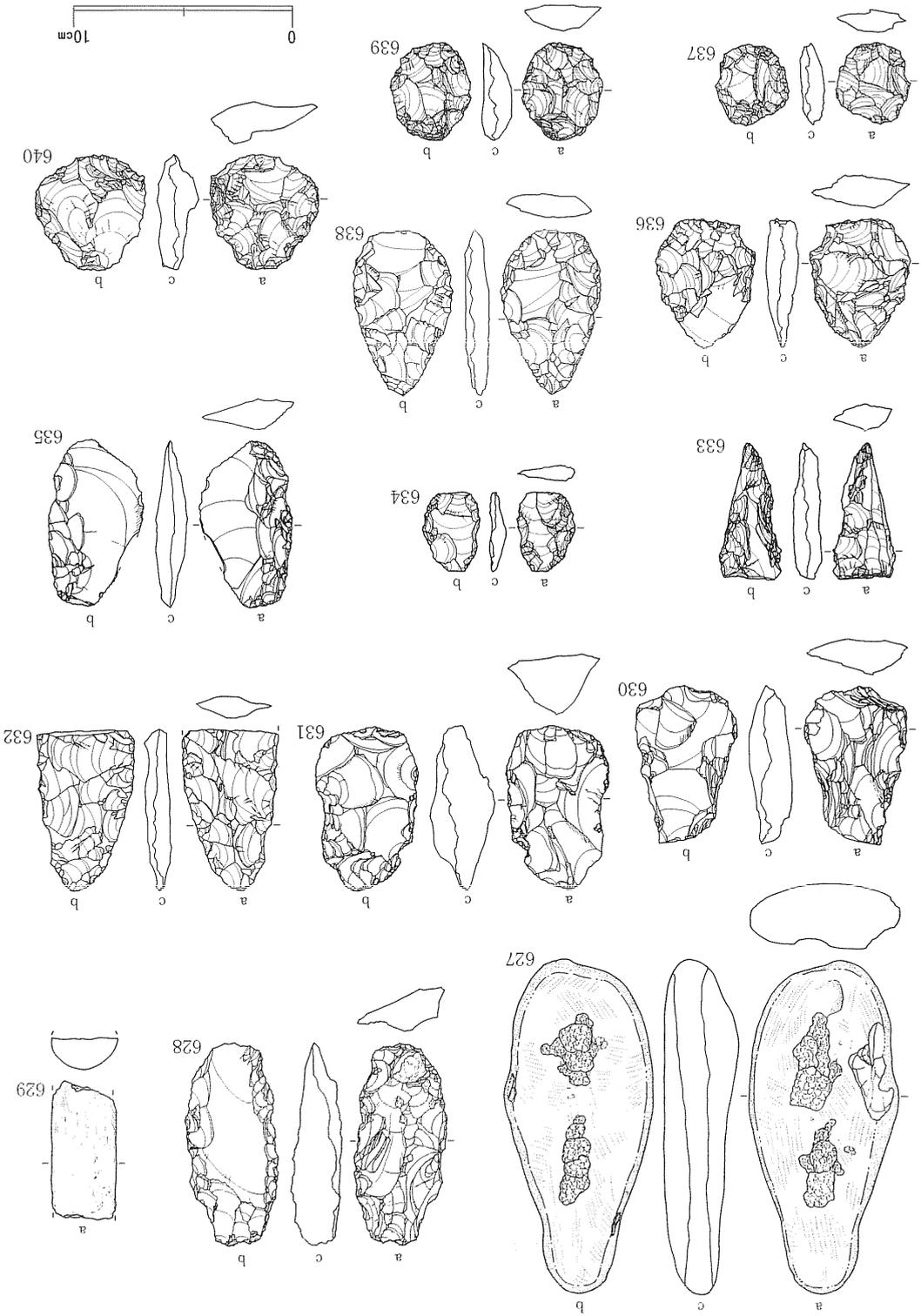
614・616は、剝片の側縁に幅広の直刃を作出したもの。両者とも刃部の対辺の一部に、刃潰しまたは整形のための二次加工を施す。615・617は、剝片の側縁に幅広の凹刃があるものである。617は二次加工を施して刃部を作出し、刃部の対辺には刃潰しの剝離痕がある。615は、素材剝片の内湾した側縁をそのまま刃部に利用したもの。刃部の対辺には、一部に刃潰しの剝離痕がある。618は横長剝片を素材とし、素材の全周を加工して小判形に仕上げたもの。素材のバルブもほとんど除去され、b面は平坦でa面が丸く盛り上がり、断面形は蒲鉾形を呈する。周縁はすべて刃部として利用可能なように、a面には細かい二次加工が施されている。

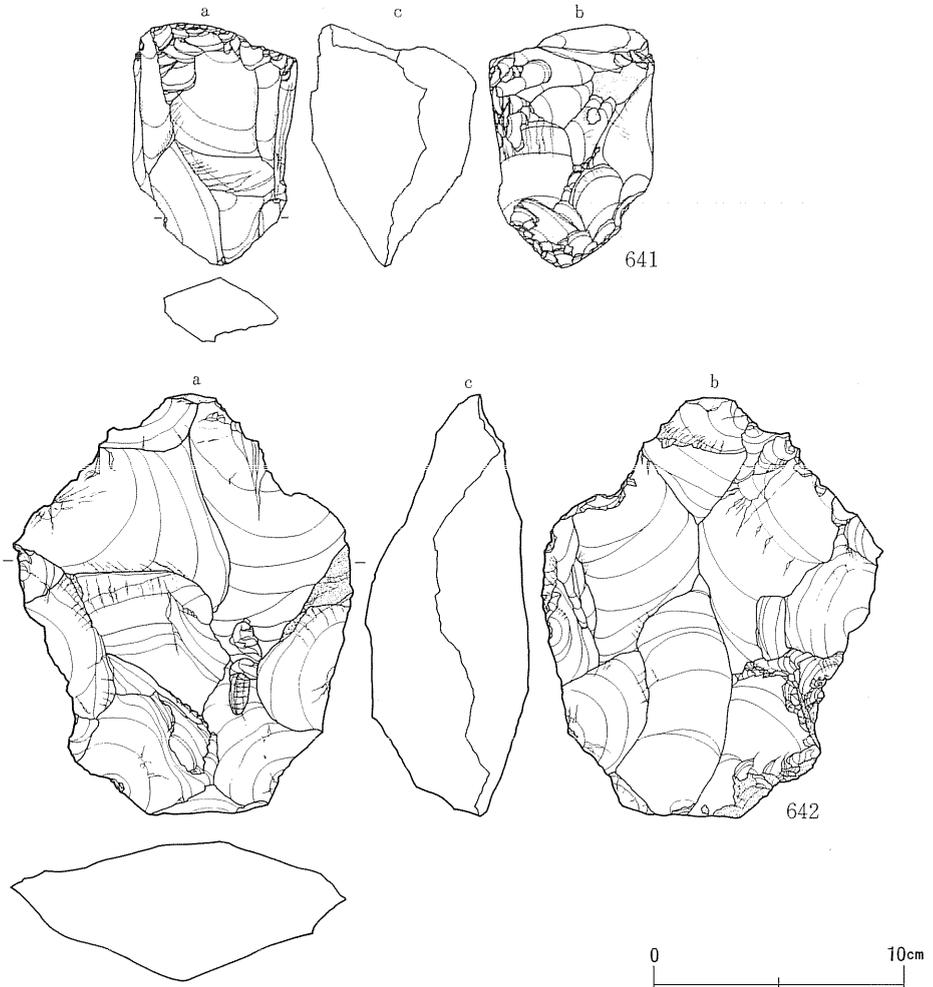
⑨微小剝離痕ある剝片（第274図）

使用痕と思われる微小剝離痕が観察される剝片である。619は一側縁、620は2つの側縁に認められる。

⑩磨製石斧（第274図）

第276図 遺構外出土遺物(21)石器⑰





第 277 図 遺構外出土遺物 (22) 石器⑩

621 は、全面に縦方向の擦痕が観察される。623 は、a 面の左側縁上端がやや内側に扶られ、a 面中央部がやや凹む。基部の端部には、若干磨かれた痕跡がある。当初は現存の 2 倍程度の長さだったものが、ほぼ中央から折損し、刃部側を再度磨いて利用したものと考えられる。

⑩打製石斧 (第 274・275 図)

622・624 は大型の分割礫を素材とし、細長い基部と幅広の刃部をもつ撥形に整形したものである。624 の刃部は敲打痕のみである。622 の刃部の b 面は平滑に磨かれ、縦方向の擦痕が明瞭。

⑪礫器 (第 275 図)

625 は、礫皮面のある分割礫を素材とする。a 面右側縁から下端部にかけて、a・b 両面に二次加工を施して刃部を作出する。

⑬擦石・凹石（第275・276図）

626 は a・b 両面に擦面がある円礫で、a 面中央は敲打によって凹んでいる。

627 はいちじく形の円礫を素材とし、a・b 両面に各2カ所の敲打による凹みがある。

⑭石棒（第276図）

629 は石棒の中央部付近の破片である。a 面には縦方向の擦痕が観察される。

⑮二次加工ある剝片（第276図、図版80）

628 は a 面の周縁全体と、b 面の一側縁を除く周縁に二次加工を施す。おそらく石篋の製作途中で、a 面中央の礫皮面を除去できず、放棄したものであろう。630 も同様の未製品と思われる。631 は、両面調整を施した石篋の未製品であらう。632・633 は尖頭形に調整されている。側縁に刃部は形成されていない。633 は石槍の未製品、632 は石槍あるいは石篋の未製品と考えられる。

634 は、小型の縦長剝片の a・b 両面の両側縁に二次加工を施す。素材の末端にヒンジフラクチャーが残る。側縁に刃部は形成されない。不定形石器の未製品であらうか。635 も不定形石器の未製品かと思われる。横長剝片を素材とし、フェザーの末端には二次加工を施さない。a・b 両面の打面側には二次加工を施し、打面とバルブを除去している。

636～640 は、a・b 両面に二次加工を施す。何らかの Tool と考えられるが、周縁に刃部を形成していない。636・638 は尖頭形、637・639・640 は円形を意識して整形されている。

⑯石核（第277図）

641 は逆円錐形で、上部の平坦面を打面として3枚の縦長剝片を側面から剝離している。

642 は周縁を加撃し、a・b 両面から交互に大型の剝片を得ている。

第3表 石器観察表(1)

NO.	出土位置	石質	大きさ(mm)			重量 (g)	備 考	NO.	出土位置	石質	大きさ(mm)			重量 (g)	備 考
			長	幅	厚						長	幅	厚		
1	SXH66	頁岩	235	99	42	812.3		2-460	SXH66	頁岩	103	76	19	178.5	石器 II
-268	"	"	48	74	15	52.8		-779	"	"	32	15	2	1.0	
-384	"	"	17	49	7	5.4		-60	"	"	31	41	7	6.5	
-387	"	"	30	58	7	10.7		-298	"	"	27	17	3	1.0	
-345	"	"	44	49	5	7.6		-486	"	"	24	23	1	1.0	
-329	"	"	55	66	8	24.0		-781	"	"	25	22	3	1.5	
-137	"	"	38	40	13	6.4		-719	"	"	31	37	8	6.6	
-353	"	"	39	52	6	8.3		-	"	"	19	9	2	0.3	
-410	"	"	74	88	12	60.5		-133	"	"	15	19	2	0.5	
-592	"	"	27	35	11	5.2		-355	"	"	21	21	6	2.4	
-277	"	"	31	32	5	4.2		3	"	"	220	132	36	314.2	
-408	"	"	71	40	6	13.5		-498	"	"	54	45	9	17.3	
-453	"	"	41	58	16	20.1		-287	"	"	61	80	8	21.7	
-280	"	"	71	83	18	69.2		-689	"	"	29	42	5	4.7	
-	MG62	"	23	48	13	12.3		-20	"	"	71	42	6	13.1	
-281	SXH66	"	50	66	19	87.3	石器 7	-357	"	"	68	70	11	36.8	
-302	"	"	144	85	30	424.8	" 7	-670	"	"	68	69	8	22.5	
2	"	"	161	116	55	628.4		-462	"	"	44	44	7	8.3	
-14	"	"	45	76	15	34.6		-62	"	"	64	64	10	23.0	
-22	"	"	39	28	9	5.9		-459	"	"	46	57	6	11.6	
-365	"	"	45	50	10	18.4		-539	"	"	55	43	7	9.8	
-385	"	"	34	36	7	5.5		-228	"	"	60	51	6	8.4	
-694	"	"	21	23	6	2.5		-493	"	"	56	60	6	11.7	
-417	"	"	35	10	2	0.8		-359	"	"	70	34	8	12.3	
-508	"	"	46	46	10	15.6		-482	"	"	41	21	6	3.1	
-506	"	"	17	19	3	1.1		-547	"	"	60	60	11	30.1	
-63	"	"	27	20	1	1.5		-489	"	"	55	32	4	6.7	
-16	"	"	41	51	9	16.8		-295	"	"	28	50	6	7.8	
-463	"	"	45	50	11	22.8		-507	"	"	58	75	9	25.9	
-660	"	"	75	50	8	16.6		-339	"	"	68	62	11	38.0	
-26	"	"	20	33	7	3.1		-313	"	"	58	26	5	4.8	
-99	"	"	36	38	2	4.4		-687	"	"	40	25	3	2.6	
-431	"	"	33	35	5	5.5		4	"	"	188	145	54	522.3	
-529	"	"	20	34	4	2.3		-518	"	"	86	82	12	58.0	
-566	"	"	33	33	7	4.3		-34	"	"	82	83	12	77.3	
-365	"	"	45	39	13	20.6		-543	"	"	88	85	16	76.7	
-58	"	"	42	44	17	20.9		-35	"	"	93	67	9	49.6	
-58	"	"	25	26	8	2.9		-	MF62	"	71	65	13	34.3	
-513	"	"	44	48	7	10.6		-674	SXH66	"	80	67	8	22.2	
-286	"	"	53	47	8	16.5		-390	"	"	52	40	5	9.7	
-4	"	"	58	75	9	33.5		-319	"	"	44	50	12	26.5	
-465	"	"	37	40	4	6.4		-178	"	"	26	25	7	3.6	
-458	"	"	38	35	4	4.8		-619	"	"	41	38	7	8.7	
-14	"	"	63	63	7	20.6		-620	"	"	92	65	12	60.4	
-697	"	"	48	53	8	19.6		-744	"	"	43	46	7	12.8	
-8	"	"	26	39	5	4.3		-435	"	"	58	28	5	5.4	
-39	"	"	21	36	3	4.1		-701	"	"	28	29	7	4.0	
-653	"	"	22	18	4	1.3		-	MF62	"	40	35	7	9.5	
-61	"	"	17	14	3	0.5		-391	SXH66	"	24	29	6	4.2	
-535	"	"	47	43	10	14.5		-619	"	"	24	26	5	2.0	
-421	"	"	19	21	3	1.0		-317	"	"	41	53	6	9.6	
-765	"	"	28	27	2	2.2		-31	"	"	37	31	5	4.9	
-226	"	"	23	18	3	1.1		-334	"	"	24	28	4	2.5	
-355	"	"	26	20	1	0.6		-547	"	"	16	37	9	4.3	
-301	"	"	53	70	8	31.7		-545	"	"	78	58	9	24.5	
-134	"	"	38	22	4	2.3		-651	"	"	47	21	3	2.6	
-	"	"	26	12	2	0.7		-605	"	"	40	45	6	9.0	
-672	"	"	12	13	1	0.3		5-265	"	"	204	113	62	1179.2	
-127	"	"	23	34	5	4.1		6	"	"	198	144	48	1066.6	
-417	"	"	9	24	2	0.8		-129	"	"	199	145	47	1035.4	
-291	"	"	52	59	13	41.5	石器 II	-	MG61	"	59	38	13	31.2	

第4章 調査の記録

第4表 石器観察表(2)

NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			重量 (g)	備 考	NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			重量 (g)	備 考
			長	幅	厚						長	幅	厚		
7	SXH66	頁岩	182	88	33	512.1		52-111	SXS95	頁岩	139	115	23	280.6	
-281	"	"	50	66	19	87.3		53-43	"	"	111	110	25	189.1	
-302	"	"	144	85	30	424.8		54-97	"	"	73	61	12	30.9	
8-90	"	"	147	96	42	542.5		55-99	"	"	76	65	13	40.1	
9-127	"	"	172	99	33	352.7		56-8	"	"	73	101	15	54.3	
10-267	"	"	105	90	21	173.0		57-44	"	"	67	75	14	49.9	
11	"	"	155	77	21	220.0		58-101	"	"	50	72	9	26.1	
-291	"	"	52	59	13	41.5		59	SXQ36	"	168	119	41	595.1	
-460	"	"	103	76	19	178.5		-	ME60	"	41	49	12	16.7	
12-130	"	"	110	84	30	174.3		-9	SXQ36	"	32	40	10	10.5	
13-115	"	"	135	59	26	175.0		-20	"	"	31	34	5	6.5	
14	"	"	194	54	19	115.0		-173	"	"	35	38	4	5.5	
-583	"	"	131	54	20	96.3		-	"	"	23	23	6	3.3	
-	"	"	65	37	13	18.7		-	"	"	75	44	12	24.7	
15-669	"	"	85	40	10	19.0		-	ME60	"	62	74	16	62.2	
16-82	"	"	69	36	9	20.0		-697	SXQ36	"	56	47	10	19.9	
17-128	"	"	85	31	105	23.9		-	"	"	27	21	5	1.6	
18-732	"	"	119	39	18	70.7		-	"	"	45	47	8	11.4	
19-2	SXS57	"	141	120	18	218.4		-88	SXQ86	"	25	19	5	2.2	
20-1	"	"	213	144	18	563.2		-202	SXQ36	"	41	27	6	5.6	
21-3	"	"	207	116	29	634.9		-	"	"	18	11	2	0.6	
22-4	"	"	194	59	24	234.8		-	ME60	"	50	56	10	29.5	
23-2	SXS94	"	108	80	25	339.8		-	SXQ36	"	30	23	4	3.0	
24-6	"	"	125	62	37	275.0		-222	"	"	30	34	9	8.9	
25-4	"	"	158	93	21	499.4		-198	"	"	47	44	5	11.1	
26-5	"	"	171	119	51	905.8		-115	"	"	55	74	11	45.3	
27-1	"	"	188	123	56	944.1		-	"	"	15	27	2	1.0	
28-3	"	"	198	99	47	675.9		-	"	"	32	23	3	1.5	
29	SXS95	"	188	123	59	1088.1		-	"	"	35	55	13	22.1	
-92	"	"	75	84	15	63.1		-	"	"	46	75	10	27.5	
-118	"	"	188	123	41	1025.0		-170	"	"	71	45	15	37.1	
30	"	"	126	123	33	314.2		-3	"	"	38	35	5	6.3	
-83	"	"	96	96	21	177.0		-221	"	"	70	47	12	40.8	石器 76
-38	"	"	120	117	15	137.2		-	ME60	"	34	27	9	6.7	" 77
31	"	"	135	118	27	295.7		-175	SXQ36	"	60	44	16	37.2	" 76
-59	"	"	124	118	24	259.4		-113	"	"	85	72	19	110.3	" 77
-104	"	"	65	64	12	36.3		-113	"	"	36	22	3	3.7	
32-57	"	"	177	105	33	716.7		-	"	"	35	31	3	2.0	
33-1	"	"	162	108	47	588.5		-9	"	"	35	25	5	3.7	
34-39	"	"	185	80	32	394.6		-680	"	"	34	21	4	2.1	
35-122	"	"	145	74	34	272.8		-668	"	"	49	51	10	21.9	
36-3	"	"	151	85	31	235.5		-129	SXQ86	"	33	22	4	2.7	
37-18	"	"	131	77	26	220.2		60	SXQ36	"	146	76	33	269.0	
38	"	"	176	105	37	647.4		-77	"	"	31	30	6	4.6	
-	"	"	62	48	35	29.2		-65	"	"	33	41	5	6.0	
-125	"	"	176	102	11	618.2		-591	"	"	28	26	4	3.4	
39-68	"	"	147	96	36	366.1		-364	"	"	37	30	4	5.1	
40-14	"	"	109	73	25	175.8		-	"	"	32	29	10	6.8	
41-118	"	"	188	123	41	1024.2		-	"	"	23	30	7	3.8	
42-58	"	"	129	59	29	183.9		-414	"	"	32	35	6	7.0	
43-	"	"	130	81	26	221.2		-528	"	"	48	36	17	23.5	
44-116	"	"	135	67	26	195.8		-7579	"	"	40	34	7	9.9	
45-32	"	"	138	80	36	327.7		-405	"	"	122	57	30	198.9	石器 74
46-106	"	"	109	89	19	126.5		61	"	"	159	105	65	618.4	
47-12	"	"	87	50	13	36.2		-7569	"	"	34	46	13	13.6	
48-120	"	"	85	49	13	43.0		-88	"	"	79	50	13	36.5	
49-2	"	"	90	102	25	138.0		-7599	"	"	78	48	11	35.8	
50-	"	"	78	102	25	121.5		-64	SXQ36	"	51	46	18	38.8	
51	"	"	126	140	26	279.3		-104	"	"	54	47	8	15.6	
-87	"	"	126	131	26	273.1		-6198	SXQ01	"	99	63	17	73.4	
-47	"	"	42	30	12	6.2		-7555	SXQ36	"	41	40	9	10.0	

第5表 石器観察表(3)

NO.	出土位置	石質	大きさ(mm)			重量(g)	備考	NO.	出土位置	石質	大きさ(mm)			重量(g)	備考
			長	幅	厚						長	幅	厚		
61-409	SXQ36	頁岩	70	72	10	61.0		65-	SXQ36	頁岩	11	27	3	0.8	
-	"	"	42	37	10	8.8		- 56	"	"	94	77	21	112.5	
-7630	"	"	36	26	11	7.9		66	"	"	168	74	48	176.2	
-7556	"	"	37	23	9	4.6		-122	"	"	54	50	19	37.5	
-	"	"	44	36	9	11.3		- 58	"	"	49	54	13	29.9	
-674	SXQ117	"	22	35	3	2.2		-7686	"	"	82	45	7	18.6	
-	SXQ36	"	35	38	11	11.1		-428	"	"	47	46	11	13.6	
-7591	"	"	25	38	8	5.6		- 39	"	"	50	39	8	11.4	
-7610	"	"	58	45	6	18.3		- 26	"	"	39	47	8	13.0	
- 93	"	"	23	36	6	3.6		-125	"	"	43	55	6	12.0	
-357	"	"	40	49	14	30.3		-251	"	"	44	38	12	13.5	
-7645	"	"	32	37	12	9.4		-408	"	"	32	41	6	5.9	
-7693	"	"	80	83	31	220.6	石器 70	- 64	"	"	30	31	8	5.5	
62	"	"	158	93	68	607.6		- 58	"	"	28	31	7	4.8	
-132	"	"	88	55	15	44.9		-	"	"	21	36	4	2.7	
-377	"	"	28	38	6	5.5		-	"	"	29	26	8	4.3	
-300	"	"	158	83	51	557.2		-	"	"	20	21	5	1.7	
63	"	"	141	117	48	575.2		-	"	"	14	27	6	1.8	
-472	"	"	39	65	28	53.4		67	"	"	137	141	27	154.6	
-7612	"	"	50	49	12	27.5		-210	"	"	33	42	7	7.8	
-512	"	"	123	120	45	494.3		-322	"	"	38	60	7	14.0	
64	"	"	187	106	73	382.3		-274	"	"	46	56	10	23.2	
-7567	"	"	42	32	7	6.7		-259	"	"	55	56	7	19.9	
- 50	"	"	52	40	15	49.7		-233	"	"	36	35	5	4.8	
- 51	"	"	47	70	15	33.1		-488	"	"	39	73	5	11.1	
-124	"	"	50	73	12	42.7		-662	"	"	21	44	3	2.2	
- 98	"	"	46	73	16	38.5		-	"	"	24	40	4	3.1	
-	MD60	"	17	18	2	0.5		-	"	"	17	25	3	1.2	
-657	SXQ36	"	44	107	22	50.2		-162	"	"	38	52	8	8.7	
-	MD60	"	20	28	5	2.1		-	"	"	23	33	7	3.9	
-	"	"	14	24	5	1.1		-	"	"	31	29	4	2.3	
-	SXQ36	"	20	18	6	1.6		-362	"	"	67	57	10	24.6	
-	"	"	16	26	5	1.6		-353	"	"	64	65	9	27.8	
- 91	SXQ71	"	20	18	4	1.4		68	"	"	143	71	21	163.6	
-	SXQ36	"	16	11	5	0.6		-	ME60	"	83	66	18	73.0	
-	"	"	14	18	5	0.8		- 43	SXQ36	"	69	72	21	80.6	
-	"	"	28	25	6	3.9		- 69	SXQ71	"	46	39	7	9.5	
-122	SXQ86	"	35	42	14	15.4		-	SXQ36	"	14	14	3	0.5	
-	SXQ36	"	27	17	4	1.2		69	"	"	150	73	31	239.3	
-	"	"	25	14	3	0.8		-302	"	"	13	12	4	0.3	
-	ME60	"	51	67	16	42.1		-217	"	"	19	16	5	0.9	
- 35	SXQ71	"	46	54	18	29.7		-	"	"	16	11	4	0.4	
-7550	SXQ36	"	29	31	8	4.2		-	"	"	33	31	3	2.4	
- 33	SXQ71	"	45	38	5	5.7		-338	"	"	57	63	10	28.1	
-193	"	"	32	23	8	3.2		-197	SXQ71	"	74	56	19	50.3	
- 2	SXQ36	"	44	66	10	21.4		- 16	"	"	93	73	25	156.9	
-	"	"	24	17	2	0.5		70-7693	SXQ36	"	80	83	31	220.6	
-	"	"	41	25	6	3.8		71-440	"	"	70	53	23	71.1	
-	"	"	29	34	7	7.2		72-7627	"	"	100	39	18	55.7	
-197	"	"	33	48	6	8.7		73-872	"	"	76	43	14	39.9	
-	"	"	11	15	2	0.4		74-405	"	"	122	57	30	198.9	
-	"	"	22	20	3	1.1		75-628	"	"	118	62	21	115.9	
65	"	"	134	106	38	271.0		76	"	"	98	51	20	78.0	
- 51	SXQ86	"	23	23	6	2.8		-175	"	"	60	44	16	37.2	
- 49	"	"	51	56	9	20.4		-221	"	"	70	47	12	40.8	
- 70	"	"	72	55	14	37.2		77	"	"	90	71	24	117.0	
-296	"	"	48	49	9	18.5		-	ME60	"	34	27	9	6.7	
- 31	"	"	37	65	16	28.2		-113	SXQ36	"	85	72	19	110.3	
-195	SXQ36	"	56	34	9	12.3		78-	"	"	18	8	3	0.4	
-308	"	"	64	53	7	13.5		79-	"	"	27	16	3	1.0	
-361	"	"	53	61	10	26.8		80-	"	"	22	18	5	1.4	

第6表 石器観察表(4)

NO.	出土位置	石質	大きさ(mm)			重量 (g)	備考	NO.	出土位置	石質	大きさ(mm)			重量 (g)	備考
			長	幅	厚						長	幅	厚		
81	SXQ60	頁岩	206	108	42	539.1		82-125	SXQ60	頁岩	23	28	9	4.4	
-63	"	"	68	38	13	28.7		-575	"	"	52	39	11	20.1	
-142	"	"	12	8	3	0.2		-763	"	"	22	20	3	1.4	
-45	"	"	21	34	7	3.5		-642	"	"	42	29	3	4.9	
-48	"	"	23	13	8	3.7		-763	"	"	20	31	5	2.7	
-151	"	"	19	17	4	0.7		-642	"	"	18	21	3	1.2	
-142	"	"	14	9	3	0.6		-761	"	"	35	41	7	8.0	
-161	"	"	36	35	5	3.1		-338	"	"	35	46	9	11.4	
-10	"	"	45	39	9	9.6		-763	"	"	23	26	8	3.8	
-70	"	"	13	8	3	2.2		-1127	"	"	28	17	6	1.9	
-4	"	"	73	47	11	30.2		-763	"	"	50	54	8	9.9	
-64	"	"	34	38	7	5.7		-763	"	"	17	27	6	2.7	
-	LT57	"	80	42	7	22.8		-348	"	"	9	21	6	1.4	
-163	SXQ60	"	41	49	7	9.3		-179	"	"	19	9	2	0.3	
-142	"	"	24	18	3	0.8		-640	"	"	49	53	9	14.4	
-121	"	"	39	36	8	8.4		-1014	"	"	27	12	5	1.3	
-9	"	"	35	58	17	29.6		-812	"	"	21	31	4	2.0	
-179	"	"	22	15	6	1.0		-1087	"	"	34	37	6	9.2	
-71	"	"	17	14	3	0.5		-814	"	"	36	40	4	6.3	
-49	"	"	29	21	6	1.5		-346	"	"	48	31	11	11.9	
-142	"	"	18	19	5	1.2		-311	"	"	50	78	11	27.7	
-142	"	"	17	13	5	0.8		-350	"	"	63	79	7	24.7	
-142	"	"	28	23	8	3.7		-1136	"	"	35	63	7	11.0	
-21	"	"	41	46	10	13.9		-349	"	"	73	39	18	29.4	
-	"	"	26	12	3	0.5		-348	"	"	27	38	7	4.2	
-82	"	"	27	32	4	2.5		-822	"	"	49	69	15	28.6	
-48	"	"	34	24	5	3.3		-763	"	"	26	30	3	1.8	
-	"	"	25	19	3	1.3		-1088	"	"	40	36	7	7.6	
-28	"	"	69	46	10	28.5		-1088	"	"	28	42	8	6.8	
-331	"	"	27	19	4	1.1		-763	"	"	33	33	4	3.1	
-142	"	"	19	21	2	0.4		-352	"	"	21	27	6	3.6	
-142	"	"	27	20	4	1.4		-1088	"	"	47	50	12	31.3	
-54	"	"	34	25	4	2.9		-	"	"	19	25	5	2.6	
-16	"	"	42	42	6	6.0		-641	"	"	56	61	21	64.8	
-257	"	"	33	23	5	2.4		-352	"	"	52	31	11	12.5	
-45	"	"	15	17	8	1.6		-1140	"	"	27	29	11	8.5	
-12	"	"	32	35	11	9.1		-816	"	"	52	44	12	27.9	
-160	"	"	38	31	5	5.7		-坂5	"	"	57	35	4	10.4	
-536	"	"	27	56	5	5.9		-F5 RQ2	"	"	61	61	10	30.0	
-	"	"	25	18	4	1.0		-F5 RQ4	"	"	46	41	8	13.8	
-49	"	"	29	20	4	2.1		-F5 RQ5	"	"	31	48	8	10.5	
-61	"	"	34	30	5	3.5		-F5 RQ1	"	"	85	94	25	185.7	石器 117
-142	"	"	21	15	4	0.8		83	"	"	152	127	56	654.5	
-76	"	"	47	48	4	7.1		-974	"	"	54	29	4	5.7	
-161	"	"	28	31	6	3.0		-876	"	"	23	19	4	1.4	
-60	"	"	36	36	5	4.5		-1055	"	"	15	39	3	1.9	
-40	"	"	22	20	3	1.0		-980	"	"	75	60	10	31.2	
-1025	"	"	31	25	3	2.0		-967	"	"	40	37	8	9.1	
-124	"	"	14	14	2	0.2		-1026	"	"	55	42	10	20.2	
-142	"	"	20	18	2	0.7		-976	"	"	75	37	5	12.7	
-27	"	"	31	27	4	2.3		-979	"	"	78	68	11	45.8	
-350	"	"	24	20	2	0.8		-1002	"	"	80	52	9	28.4	
-75	"	"	11	12	2	0.3		-977	"	"	36	45	5	4.9	
-225	"	"	18	17	3	0.7		-684	"	"	79	60	15	49.0	
-48	"	"	19	17	3	0.6		-718	"	"	55	27	9	8.3	
-417	"	"	16	22	3	1.2		-1070	"	"	28	29	5	3.1	
-331	"	"	17	22	2	0.6		-1005	"	"	58	43	13	25.1	
-156	"	"	21	16	3	0.7		-1055	"	"	35	28	4	3.5	
-553	"	"	90	71	15	97.4		-1023	"	"	37	35	7	6.1	
-1138	"	"	117	72	17	154.2	石器 121	-1025	"	"	40	36	7	8.5	
82	"	"	184	117	52	665.7		-1050	"	"	31	27	2	2.2	

第7表 石器観察表(5)

NO.	出土位置	石質	大きさ(mm)			重値 (g)	備 考	NO.	出土位置	石質	大きさ(mm)			重値 (g)	備 考
			長	幅	厚						長	幅	厚		
83-626	SXQ60	頁岩	67	70	12	53.9		86-620	SXQ60	頁岩	28	38	4	2.5	
-1026	"	"	31	23	3	2.4		-564	"	"	34	29	8	6.6	
-966	"	"	33	35	7	6.1		-709	"	"	35	40	8	6.2	
-800	"	"	22	15	5	0.9		-40	"	"	16	20	3	0.8	
-801	"	"	77	54	14	39.3		-340	"	"	82	35	11	28.6	
-965	"	"	64	61	12	35.5		-806	"	"	5	33	5	1.2	
-883	"	"	22	18	5	1.1		-660	"	"	79	80	19	58.7	
-970	"	"	45	21	2	2.2		-1138	"	"	28	21	5	2.8	
-1059	"	"	60	71	10	32.0		-846	"	"	21	22	6	2.7	
-879	"	"	26	20	3	1.2		-118	"	"	90	68	13	64.8	
-707	"	"	66	74	12	74.4	石器 113	-	"	"	13	10	8	0.6	
-710	"	"	51	45	13	29.2	" 113	-1141	"	"	41	43	6	9.5	
-614	"	"	64	111	18	109.2	" 113	-604	"	"	28	33	8	5.9	
84	"	"	156	130	50	301.5		-1357	"	"	52	64	12	32.9	
-39	"	"	32	53	11	14.8		-872	"	"	46	33	9	6.1	
-72	"	"	36	35	9	7.4		-177	"	"	40	18	18	7.7	
-30	"	"	32	22	3	2.1		-1054	"	"	34	35	6	6.4	
-	ME60	"	59	47	12	20.7		-334	"	"	48	86	29	110.2	
-71	SXQ60	"	29	27	5	4.1		-758	"	"	41	55	25	46.4	
-329	"	"	33	40	9	11.7		-763	"	"	55	66	22	50.1	
-75	"	"	37	44	6	15.4		-759	"	"	41	48	12	20.4	
-30	"	"	33	28	7	5.3		-650	"	"	39	32	10	13.2	
-21	"	"	26	27	5	2.9		-617	"	"	18	18	3	0.7	
-33	"	"	46	44	6	11.9		-828	"	"	23	35	9	5.9	
-325	"	"	36	25	6	4.1		-1055	"	"	22	27	6	3.1	
-38	"	"	37	32	7	7.2		-685	"	"	55	68	20	51.7	
-97	"	"	34	32	7	6.2		-759	"	"	48	49	17	17.9	
-45	"	"	25	49	6	4.6		-877	"	"	29	32	10	5.3	
-92	"	"	59	65	16	54.1		-1020	"	"	29	24	7	3.5	
-66	"	"	34	36	5	6.5		-802	"	"	70	65	20	79.0	
-138	"	"	19	18	5	1.1		-602	"	"	58	78	20	90.9	
-150	"	"	28	45	8	4.1		-924	SXQ100	"	35	37	8	7.7	
-22	"	"	54	59	11	34.1		-146	SXQ60	"	79	85	15	50.7	
-383	"	"	43	58	15	23.7		-142	"	"	32	7	4	0.6	
-37	"	"	45	65	16	49.6		-802	"	"	15	21	5	4.5	
-36	"	"	42	39	9	11.1		-802	"	"	14	14	4	0.6	
-30	"	"	21	33	5	2.9		-759	"	"	50	33	11	14.6	
85	"	"	182	180	68	1712.5		-1053	"	"	55	58	9	20.3	
-212	"	"	70	95	25	156.8		-1025	"	"	31	24	3	1.6	
-1008	"	"	11	35	5	1.8		-2138	"	"	75	64	10	39.9	
-187	"	"	31	35	11	9.8		-680	"	"	71	68	31	89.0	
-209	"	"	74	64	11	28.8		-876	"	"	21	45	11	6.4	
-914	"	"	40	66	13	22.0		-601	"	"	25	41	9	7.4	
-1012	"	"	16	26	5	1.2		-996	"	"	49	34	10	5.9	
-1007	"	"	31	30	11	6.7		87	"	"	190	122	49	596.5	
-915	"	"	35	25	8	4.0		-753	"	"	19	36	4	1.4	
-214	"	"	111	102	25	187.4		-609	"	"	37	29	4	3.6	
-1009	"	"	35	58	9	15.2		-198	"	"	78	44	8	24.2	
-216	"	"	95	87	23	149.8		-204	"	"	41	52	9	17.8	
-1013	"	"	33	54	12	18.2		-233	"	"	80	44	8	23.9	
-1011	"	"	34	45	6	7.9		-128	"	"	72	64	9	37.3	
-1012	"	"	37	48	10	10.8		-561	"	"	88	90	23	116.5	
-1008	"	"	20	22	5	1.2		-206	"	"	83	38	10	23.7	
-1010	"	"	56	53	7	24.2		-226	"	"	35	20	4	1.5	
-1061	"	"	36	42	10	10.9		-234	"	"	37	31	6	5.4	
-1047	"	"	22	31	10	6.3		-129	"	"	48	40	5	11.1	
-215	"	"	95	148	42	461.7		-228	"	"	72	52	6	14.4	
-217	"	"	145	127	42	587.8		-201	"	"	36	46	8	7.0	
86	"	"	207	161	68	999.1		-828	"	"	11	15	2	0.3	
-605	"	"	30	36	6	4.6		-788	"	"	14	31	3	1.5	
-690	"	"	22	31	6	3.0		-219	"	"	44	48	6	10.1	

第8表 石器観察表(6)

NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			重量 (g)	備 考	NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			重量 (g)	備 考
			長	幅	厚						長	幅	厚		
87-205	SXQ60	頁岩	25	49	5	4.4		89-131	SXQ60	頁岩	10	33	4	1.2	
-788	"	"	32	19	5	2.3		-137	"	"	46	61	3	7.8	
-795	"	"	13	12	2	0.3		-147	"	"	42	43	6	9.5	
-117	"	"	28	49	6	7.6		-110	"	"	29	27	5	2.7	
-903	"	"	33	39	8	11.4		-97	"	"	26	23	3	1.8	
-909	"	"	26	45	8	8.8		-109	"	"	39	37	4	4.3	
-181	"	"	51	56	9	15.6		-94	"	"	39	32	4	2.9	
-240	"	"	15	20	2	0.5		-114	"	"	19	25	3	1.5	
-232	"	"	24	50	4	2.8		-97	"	"	20	36	3	1.8	
-901	"	"	31	39	9	8.1		-915	"	"	26	21	4	1.5	
-1020	"	"	30	43	12	9.7		-113	"	"	69	51	6	15.4	
-127	"	"	58	93	15	58.9		-111	"	"	29	38	4	5.3	
416	"	"	14	17	8	1.5		-97	"	"	11	22	3	0.3	
-995	"	"	57	47	8	25.8		-363	"	"	39	58	7	18.1	石器 124
-223	"	"	49	33	7	5.6		-115	"	"	15	25	6	2.0	" 124
-2	"	"	52	51	5	9.8		-341	"	"	43	42	7	14.1	" 124
-902	"	"	40	60	15	28.5		90	"	"	132	90	56	469.9	
-222	"	"	56	34	12	24.9		-568	"	"	36	36	11	9.9	
-126	"	"	71	79	10	25.4		-569	"	"	82	33	8	20.8	
-523	"	"	28	14	9	1.9		-1159	"	"	83	43	7	20.6	
-195	"	"	64	37	14	29.0		-675	"	"	30	24	5	4.0	
-913	"	"	20	31	3	1.4		-893	"	"	52	53	10	19.7	
-415	"	"	28	37	7	4.6		-702	"	"	29	38	6	6.7	
-224	"	"	40	31	8	8.0		-683	"	"	42	37	12	11.4	
88	"	"	264	144	63	1264.2		-625	"	"	45	34	8	8.3	
-1355	"	"	45	53	9	18.3		-669	"	"	25	24	5	2.2	
-1353	"	"	76	97	12	88.1		-703	"	"	42	24	5	2.7	
-734	SXQ100	"	82	73	9	66.4		-686	"	"	21	27	11	4.3	
-688	SXQ60	"	88	77	19	83.1		-672	"	"	68	63	13	35.0	
-293	"	"	88	88	13	87.6		-662	"	"	119	80	30	233.4	石器 115
-736	"	"	83	72	16	82.4		-669	"	"	78	55	20	56.9	" 115
-174	"	"	58	32	11	18.9		-613	"	"	66	61	6	20.6	" 115
-1171	"	"	95	68	15	94.5		-644	"	"	32	44	12	13.4	" 115
-300	"	"	90	54	14	69.5		91	"	"	122	74	24	109.1	
-169	"	"	50	80	12	37.5		-861	"	"	33	41	10	9.1	
-647	"	"	20	39	9	6.6		-871	"	"	23	12	4	1.0	
-323	"	"	90	104	23	180.3		-649	"	"	30	29	11	4.0	
-1356	"	"	68	60	10	41.4		-657	"	"	50	48	23	56.8	石器 111
-294	"	"	63	90	13	40.9		-656	"	"	50	46	18	38.2	" 111
-736	"	"	78	79	18	76.9		92	"	"	116	96	48	477.2	
-898	"	"	81	80	17	103.1		-	MA58	"	43	40	8	15.0	
-316	"	"	25	18	4	1.2		-1331	SXQ60	"	116	96	44	450.8	
-677	"	"	48	49	7	15.5		-1324	"	"	50	4	8	11.4	
-678	"	"	13	23	4	1.2		93	"	"	148	86	40	362.3	
-166	"	"	68	55	11	29.0		-681	"	"	42	45	11	12.3	
-737	"	"	106	63	20	84.1		-298	"	"	21	18	2	0.6	
-717	"	"	62	61	10	37.7		-586	"	"	26	34	6	4.4	
89	"	"	116	96	34	164.1		-582	"	"	20	36	8	3.8	
-86	"	"	65	67	6	18.9		-1362	"	"	43	46	7	11.0	
-113	"	"	16	28	3	1.4		-722	"	"	40	74	20	45.7	
-131	"	"	20	22	4	1.4		-748	"	"	23	23	4	1.9	
-95	"	"	20	31	3	2.1		-882	"	"	29	31	3	2.5	
-115	"	"	8	34	4	0.9		-854	"	"	30	35	8	7.8	
-106	"	"	45	45	2	5.5		-729	"	"	32	30	6	4.8	
-137	"	"	27	18	2	1.2		-213	"	"	120	69	29	267.5	石器 137
-110	"	"	15	10	2	0.4		94	"	"	83	71	29	138.6	
-107	"	"	18	22	3	1.6		-659	"	"	31	45	10	14.1	
-85	"	"	68	43	5	15.2		-860	"	"	32	46	6	8.2	
-134	"	"	43	46	5	9.5		-802	"	"	18	26	4	1.6	
-171	"	"	57	50	6	13.7		-1355	"	"	20	15	2	0.3	
-90	"	"	22	27	3	2.1		-176	"	"	83	68	27	114.4	石器 118

第9表 石器観察表(7)

NO.	出土位置	石質	大きさ(mm)			重量 (g)	備考	NO.	出土位置	石質	大きさ(mm)			重量 (g)	備考
			長	幅	厚						長	幅	厚		
95	SXQ60	頁岩	144	58	36	171.7		99-1122	SXQ60	頁岩	42	38	6	7.3	
-1180	"	"	33	25	6	3.6		-"	"	"	42	34	7	7.4	
-721	"	"	29	31	9	8.9		-"	"	"	16	25	4	1.3	
-645	"	"	144	51	33	158.1	石器 114	-"	"	"	41	49	10	14.5	
-801	"	"	18	19	3	1.1		-1121	"	"	41	21	8	5.1	
96	"	"	185	120	86	1367.7		-1122	"	"	39	44	3	5.3	
-研1	"	"	68	59	15	41.9		-"	"	"	17	21	3	1.0	
-"	"	"	70	58	19	43.7		-"	"	"	10	13	2	0.3	
-"	"	"	62	60	13	27.0		-"	"	"	22	25	4	1.7	
-"	"	"	90	51	22	80.1		-"	"	"	30	23	5	2.9	
-1216	"	"	94	46	18	48.5		-"	"	"	25	26	5	1.8	
-1165	"	"	48	29	8	6.4		-"	"	"	8	30	3	0.9	
-研1	"	"	37	33	6	3.9		-"	"	"	21	18	4	1.7	
-"	"	"	56	38	11	12.6		-"	"	"	34	41	6	6.7	
-1146	"	"	76	64	23	49.5		-"	"	"	56	56	8	20.8	
-841	"	"	160	108	84	1054.1		-"	"	"	62	60	7	15.3	
97	"	"	270	126	66	1251.8		-"	"	"	31	25	5	2.8	
-7	"	"	40	58	11	12.7		-"	"	"	28	38	4	3.5	
-24	"	"	81	102	23	91.4		-"	"	"	9	20	2	0.4	
-1196	"	"	43	103	23	74.8		-"	"	"	36	26	5	3.4	
-25	"	"	110	109	55	359.0		-"	"	"	22	22	3	1.5	
-42	SXQ66	"	182	108	58	713.9		-"	"	"	19	26	2	0.8	
98	SXQ60	"	126	93	44	120.8		-"	"	"	13	16	2	0.4	
-521	"	"	20	22	3	1.2		100	"	"	198	102	52	257.9	
-243	"	"	49	48	4	9.5		-1125	"	"	18	10	3	0.5	
-研	"	"	57	60	9	28.9		-901	"	"	38	27	5	5.3	
-449	"	"	21	20	5	2.0		-384	"	"	24	22	4	1.7	
-103	"	"	29	26	7	4.2		-200	"	"	55	40	13	24.0	
-502	"	"	28	15	4	1.3		-991	"	"	40	23	8	5.9	
-273	"	"	36	36	5	5.0		-904	"	"	53	37	4	5.4	
-439	"	"	27	24	8	3.6		-221	"	"	32	21	3	1.8	
-507	"	"	33	48	9	9.8		-230	"	"	37	21	3	2.1	
-1122	"	"	76	59	10	27.2		-911	"	"	73	71	13	67.4	
-466	"	"	22	22	3	1.0		-1093	"	"	58	44	8	16.9	
-49	"	"	62	46	5	12.2		-226	"	"	20	28	5	1.5	
-465	"	"	26	30	5	4.0		-982	"	"	59	53	10	20.9	
-495	"	"	42	42	6	10.9		-941	"	"	33	28	6	4.1	
99	"	"	190	136	18	241.0		-207	"	"	48	40	5	8.1	
-1122	"	"	30	50	9	11.8		-417	"	"	16	29	2	0.9	
-"	"	"	54	52	11	24.9		-235	"	"	35	55	5	7.6	
-"	"	"	28	50	5	3.8		-972	"	"	57	55	6	15.6	
-"	"	"	15	27	3	0.8		-969	"	"	41	62	13	25.9	
-"	"	"	44	50	6	8.4		-254	"	"	19	26	5	2.5	
-"	"	"	29	17	6	4.5		-184	"	"	44	44	7	13.1	
-1115	"	"	27	27	4	1.8		-222	"	"	30	21	3	2.4	
-1122	"	"	25	34	4	1.9		-458	"	"	37	46	8	14.6	
-1122	"	"	28	45	7	6.3		-	MB58	"	27	44	11	9.7	
-"	"	"	39	33	8	6.4		101	SXQ60	"	92	120	50	147.9	
-"	"	"	28	22	4	1.8		-712	"	"	43	42	9	13.3	
-"	"	"	20	13	2	0.6		-498	"	"	51	46	11	18.6	
-"	"	"	18	34	2	1.0		-612	"	"	58	47	9	17.8	
-"	"	"	15	15	3	0.5		-758	"	"	48	35	8	9.4	
-"	"	"	15	29	4	1.5		-908	"	"	34	26	5	3.8	
-"	"	"	35	46	9	12.5		-685	"	"	24	24	12	6.5	
-"	"	"	19	19	4	1.1		-1016	"	"	32	38	11	12.9	
-"	"	"	41	29	6	6.2		-706	"	"	15	34	6	1.5	
-"	"	"	15	22	2	0.8		-890	"	"	35	20	9	6.0	
-"	"	"	14	11	2	0.3		-759	"	"	65	27	28	35.2	
-1119	"	"	67	55	10	34.1		-611	"	"	67	35	10	21.6	
-1122	"	"	39	20	5	2.7		-613	"	"	18	18	10	1.3	
-"	"	"	20	11	3	0.5		102	"	"	120	86	16	75.3	

第10表 石器観察表(8)

NO.	出土位置	石質	大きさ(mm)			重量 (g)	備 考	NO.	出土位置	石質	大きさ(mm)			重量 (g)	備 考
			長	幅	厚						長	幅	厚		
102-1	SXQ60	頁岩	77	57	6	22.9		105-457	SXQ60	頁岩	26	40	6	5.5	
-1	"	"	47	44	4	6.9		-1033	"	"	63	66	6	19.1	
-2	"	"	28	39	4	3.6		-447	"	"	47	41	6	5.5	
-3	"	"	43	43	5	7.7		106	"	"	74	74	8	34.1	
-1	"	"	35	25	4	2.0		-870	"	"	189	165	69	1108.7	
-1	"	"	39	33	5	6.0		-1084	"	"	39	35	10	8.8	
-4	"	"	11	20	2	0.3		-597	"	"	49	62	10	29.2	
-4	"	"	39	30	5	6.0		-299	"	"	58	57	8	24.2	
-5	"	"	43	48	7	10.4		-715	"	"	65	83	14	69.1	
-6	"	"	39	25	5	3.2		-603	"	"	58	46	13	27.8	
-7	"	"	32	13	4	0.9		-319	"	"	22	65	8	9.0	
-7	"	"	29	32	5	3.4		-558	"	"	32	44	17	14.5	
-8	"	"	23	13	2	0.3		-945	"	"	100	99	19	106.4	
-9	"	"	21	29	3	0.9		-679	"	"	80	56	13	40.3	
-10	"	"	23	18	4	0.8		-324	"	"	131	117	35	439.4	
103	"	"	228	159	36	286.2		-732	"	"	43	56	11	22.9	
-266	"	"	73	92	15	57.7		-716	"	"	114	80	45	313.5	
-267	"	"	34	30	6	4.3		107	"	"	182	113	36	243.7	
-1140	"	"	34	35	4	3.4		-288	"	"	46	46	11	11.9	
-899	"	"	34	51	5	5.1		-102	"	"	37	63	8	11.6	
-1097	"	"	23	35	7	3.9		-125	"	"	90	73	12	54.0	
-429	"	"	40	18	4	2.3		-964	"	"	38	30	7	4.2	
-1044	"	"	62	65	5	14.6		-897	"	"	85	75	12	42.3	
-963	"	"	64	54	7	18.9		-196	"	"	31	34	9	4.9	
-985	"	"	67	48	14	29.3		-193	"	"	64	54	6	13.0	
-1028	"	"	70	55	6	24.6		-971	"	"	58	65	6	19.9	
-595	"	"	57	62	8	19.6		-973	"	"	48	30	7	7.2	
-1233	"	"	48	59	7	10.8		-208	"	"	64	60	9	24.2	
-379	"	"	38	37	6	5.3		-560	"	"	79	88	11	50.5	
-579	"	"	36	60	6	9.9		108	"	"	159	96	42	281.2	
-588	"	"	24	22	5	1.7		-64	"	"	13	12	3	0.4	
-236	"	"	65	113	9	53.0		-331	"	"	31	16	4	1.5	
-238	"	"	35	62	8	14.7		-57	"	"	71	58	13	32.6	
-246	"	"	40	34	6	6.7		-331	"	"	27	20	5	2.1	
-1098	"	"	110	55	17	58.3	石器 147	-77	"	"	13	35	3	1.7	
104	"	"	135	120	27	174.7		-19	"	"	77	93	8	29.3	
-65	"	"	29	43	8	9.8		-157	"	"	61	76	7	15.8	
-918	"	"	44	51	8	18.3		-31	"	"	65	67	9	37.1	
-327	"	"	57	46	8	16.5		-71	"	"	20	32	3	1.2	
-58	"	"	71	57	12	34.4		-8	"	"	73	55	10	32.7	
-149	"	"	32	40	6	5.8		-72	"	"	61	53	11	20.9	
-62	"	"	58	69	5	15.4		-788	"	"	26	34	4	2.5	
-21	"	"	23	22	4	1.6		-102	"	"	45	68	13	28.1	
-74	"	"	83	68	11	45.5		-56	"	"	61	60	7	15.8	
-526	"	"	65	66	7	27.4		-159	"	"	63	57	7	16.5	
105	"	"	236	138	33	232.9		-328	"	"	75	76	10	27.4	
-696	"	"	57	69	8	22.8		-1	"	"	31	39	4	2.6	
-387	"	"	17	46	4	2.6		-138	"	"	46	44	7	13.0	
-1265	"	"	72	58	7	25.7		109-551	"	"	242	113	68	1276.3	
-790	"	"	33	30	7	7.2		110-552	"	"	177	78	68	791.2	
-864	"	"	49	42	6	9.2		111	"	"	144	60	32	95.0	
-249	"	"	73	50	6	13.5		-657	"	"	50	48	23	56.8	
-244	"	"	41	27	7	5.0		-656	"	"	50	46	18	38.2	
-998	"	"	64	72	8	25.9		112-211	"	"	146	84	30	349.0	
-1248	"	"	60	41	8	14.6		113	"	"	150	84	21	212.8	
-	MB58	"	28	33	6	4.0		-707	"	"	66	74	12	74.4	
-1243	SXQ60	"	67	40	7	14.1		-710	"	"	51	45	13	29.2	
-1319	"	"	24	24	3	1.3		-614	"	"	64	111	18	109.2	
-1247	"	"	39	38	5	7.4		114	"	"	144	51	33	167.0	
-256	"	"	27	44	6	7.0		-721	"	"	29	31	9	8.9	
-385	"	"	38	49	6	8.4									

第11表 石器観察表(9)

NO.	出土位置	石質	大きさ(mm)			重量 (g)	備考	NO.	出土位置	石質	大きさ(mm)			重量 (g)	備考
			長	幅	厚						長	幅	厚		
114-645	SXQ60	頁岩	144	51	33	158.1		151-152	SXQ71	頁岩	59	38	14	19.2	
115	"	"	124	87	34	324.3		-13	SXQ86	"	25	10	7	1.9	
-662	"	"	119	80	30	233.4		-262	"	"	43	29	11	7.3	
-669	"	"	78	55	20	56.9		-222	SXQ71	"	62	52	8	25.2	
-613	"	"	66	61	6	20.6		-113	"	"	65	83	23	89.1	
-644	"	"	32	44	12	13.4		-43	"	"	58	66	20	51.4	
116	"	"	125	76	36	301.9		-264	"	"	26	19	6	3.0	
-616	"	"	77	76	34	176.9		-44	"	"	74	79	23	78.7	
-690	"	"	71	64	34	125.0		-8	"	"	79	68	17	92.5	
117-伊51	"	"	85	94	25	185.7		-14	"	"	62	61	6	22.5	
118-176	"	"	83	68	27	114.4		-162	"	"	80	85	30	177.0	
119-733	"	"	69	82	11	67.1		-36	"	"	70	45	25	66.0	
120-1246	"	"	159	84	20	230.3		-46	"	"	63	23	11	10.8	
121	"	"	198	73	21	251.7		-249	"	"	45	50	5	15.3	
-1138	"	"	117	72	17	154.3		-335	"	"	38	35	4	3.8	
-553	"	"	90	71	15	97.4		-293	"	"	74	61	22	77.3	
122-122	"	"	85	40	9	26.5		-95	"	"	76	74	21	94.0	
123-362	"	"	90	42	8	14.1		-38	"	"	68	60	12	42.4	
124	"	"	78	60	10	34.2		-625	"	"	39	13	6	1.5	
-363	"	"	39	58	7	18.1		-7507	SXQ36	"	37	25	10	6.5	
-115	"	"	15	25	6	2.0		-247	SXQ71	"	44	33	9	9.1	
-341	"	"	43	42	7	14.1		-243	"	"	80	32	19	71.0	
125	"	"	76	37	7	14.8		-220	SXQ86	"	15	26	4	1.1	
-1224	"	"	34	21	6	4.2		-186	SXQ71	"	44	46	11	22.1	
-1278	"	"	46	38	5	10.6		-322	"	"	51	53	10	24.6	
126-29	"	"	50	25	11	34.4		-220	"	"	43	36	7	9.6	
127-554	"	"	111	41	17	64.2		-355	"	"	34	43	17	12.8	
128-1143	"	"	103	54	10	39.1		-7527	SXQ36	"	57	45	9	19.7	
129	"	"	140	54	18	131.0		-28	SXQ71	"	88	69	20	85.6	
-605	"	"	78	52	16	82.0		-150	"	"	48	37	7	7.3	
-191	SXQ91	"	65	51	5	49.0		-372	"	"	25	28	6	2.0	
130-	SXQ60	"	108	68	31	192.5		-1	"	"	74	39	14	37.2	
131-374	"	"	161	54	27	223.7		-37	"	"	47	70	18	51.7	
132-1239	"	"	61	93	8	40.9		-70	"	"	71	50	11	23.5	
133-163	"	"	83	36	8	16.9		-213	"	"	64	73	31	119.7	
134-37	"	"	87	34	11	24.1		-291	"	"	38	73	18	36.5	石器 161
135-686	"	"	114	69	23	104.7		-45	"	"	113	55	29	139.6	" 161
136-589	"	"	77	70	19	71.1		-21	"	"	99	44	32	127.7	" 161
137-213	"	"	120	69	29	267.5		152	"	"	156	120	44	431.9	
138-629	"	"	127	58	22	142.6		-105	"	"	23	27	4	2.4	
139-190	"	"	95	52	13	55.1		-243	SXQ86	"	40	51	8	11.2	
140-1198	"	"	82	47	14	41.3		-292	SXQ71	"	29	39	4	4.5	
141-373	"	"	131	60	18	80.2		-20	"	"	59	63	14	38.6	
142-78	"	"	81	50	12	27.3		-254	SXQ86	"	36	28	6	4.1	
143-951	"	"	47	55	9	19.8		-352	SXQ71	"	30	50	8	10.6	
144-88	"	"	108	73	16	104.0		-158	"	"	37	35	9	8.6	
145-26	"	"	189	66	36	299.1		-281	"	"	56	44	7	11.8	
146-652	"	"	44	94	19	70.3		-269	"	"	56	57	9	23.5	
147-1098	"	"	110	55	17	58.3		-148	"	"	25	16	3	0.9	
148-60	"	礫岩	511	255	76	8100.0		-326	"	"	22	37	6	7.2	
149	"	"	95	92	23	162.6		-18	SXQ86	"	21	27	6	3.6	
-218	"	"	92	61	20	77.1		-202	"	"	42	44	11	16.2	
-285	"	"	75	55	23	85.5		-277	SXQ71	"	35	49	5	9.4	
150-畑13	"	安山岩	102	93	25	319.9		-304	"	"	33	38	10	9.5	
151	SXQ71	頁岩	215	147	69	1378.3		-259	SXQ86	"	53	26	11	7.7	
-151	"	"	50	64	8	19.0		-160	SXQ71	"	15	16	7	1.4	
-134	"	"	31	37	21	22.0		-128	"	"	24	25	8	3.1	
-116	SXQ86	"	28	18	7	2.4		-175	"	"	18	19	7	1.9	
-241	SXQ71	"	40	34	11	12.1		-276	"	"	60	64	12	28.9	
-66	"	"	46	64	13	37.3		-195	"	"	49	39	5	10.6	
-61	"	"	82	48	26	99.3		-51	"	"	18	23	6	2.1	

第12表 石器観察表(10)

NO.	出土位置	石質	大きさ(mm)			重量(g)	備考	NO.	出土位置	石質	大きさ(mm)			重量(g)	備考
			長	幅	厚						長	幅	厚		
152-322	SXQ71	頁岩	40	37	6	8.3		154-72	SXQ71	頁岩	66	43	18	45.5	石器 163
-17	"	"	43	49	8	14.8		-62	"	"	48	53	22	37.5	" 163
-259	"	"	48	44	7	9.6		-104	"	"	15	18	2	0.5	" 163
-333	"	"	28	25	7	2.7		-59	"	"	70	60	17	107.2	" 163
-192	"	"	31	39	9	10.4		-	MD59	"	58	38	10	19.0	" 163
-5	"	"	29	27	7	4.9		-583	SXQ36	"	106	59	32	158.8	" 163
-125	"	"	32	27	6	5.5		155	SXQ71	"	156	46	30	137.8	
-48	"	"	77	54	19	68.9	石器 162	-212	"	"	23	39	4	2.9	
-	MD59	"	38	36	6	10.4	" 162	-163	"	"	13	23	3	0.7	
-110	SXQ36	"	47	26	5	6.1	" 162	-210	"	"	94	42	22	95.2	石器 164
-315	SXQ71	"	43	40	6	6.7	" 162	-486	SXQ36	"	63	40	14	39.0	
-309	"	"	43	19	12	10.4	" 162	156	SXQ71	"	128	78	29	118.0	
-65	SXQ86	"	88	47	17	55.4	" 162	-302	"	"	72	64	16	50.1	
153	SXQ71	"	124	98	46	338.0		-237	"	"	58	76	11	43.2	
-12	"	"	42	50	12	25.5		-330	"	"	36	32	6	6.3	
-9	"	"	39	25	11	6.4		-381	"	"	40	22	17	5.1	
-96	SXQ36	"	32	40	6	5.9		-	"	"	27	21	6	2.7	
-132	SXQ86	"	22	19	4	1.3		-204	"	"	36	46	8	11.0	
-124	SXQ71	"	32	39	6	7.5		-117	"	"	15	22	2	0.6	
-328	"	"	37	70	13	38.1		157	"	"	165	77	33	334.3	
-22	"	"	24	19	2	0.8		-92	"	"	27	43	6	5.6	
-	MD59	"	53	58	10	28.0		-143	"	"	22	18	3	1.4	
-111	SXQ71	"	25	51	7	10.1		-	SXQ36	"	17	21	7	2.4	
-218	"	"	45	64	10	25.1	石器 160	-310	SXQ71	"	30	37	5	3.7	
-60	"	"	90	83	33	189.3		-	SXQ36	"	21	13	4	0.9	
154	"	"	224	84	42	586.5		-56	SXQ71	"	111	75	25	204.5	
-237	SXQ86	"	47	65	13	33.0		-6184	SXQ01	"	84	59	20	71.7	
-156	SXQ71	"	43	37	8	11.4		-279	SXQ71	"	58	62	16	44.1	
-254	"	"	49	28	10	10.6		158	"	"	207	124	36	153.2	
-54	"	"	31	32	4	3.4		-682	SXQ117	"	16	24	2	1.1	
-175	SXQ86	"	28	27	3	3.0		-273	SXQ71	"	51	58	11	21.2	
-164	"	"	40	45	10	12.4		-63	SXQ36	"	30	45	10	11.4	
-11	SXQ71	"	50	40	8	11.6		-297	SXQ71	"	67	85	17	62.6	
-154	"	"	25	9	2	0.5		-107	SXQ36	"	41	25	3	3.3	
-18	"	"	43	43	8	10.6		-7601	"	"	20	26	3	1.5	
-57	"	"	45	50	7	11.5		-157	SXQ71	"	48	37	10	13.2	
-	MD59	"	32	48	9	7.5		-301	"	"	55	70	11	36.2	
-	"	"	31	30	4	3.0		-74	SXQ86	"	25	36	5	2.7	
-76	SXQ71	"	30	36	6	5.3		159	SXQ71	"	146	108	38	273.3	
-289	"	"	43	55	10	19.3		-126	"	"	39	30	8	6.0	
-222	SXQ86	"	7	15	2	0.2		-15	"	"	50	55	10	25.0	
-278	SXQ36	"	19	17	3	0.8		-112	"	"	37	42	8	9.3	
-624	SXQ117	"	24	21	5	1.9		-205	"	"	27	44	4	4.2	
-176	SXQ86	"	21	30	3	1.9		-204	"	"	15	11	3	0.5	
-282	"	"	13	23	5	1.2		-227	"	"	69	60	10	31.0	
-241	"	"	19	31	3	2.0		-306	"	"	67	70	12	58.4	
-295	SXQ71	"	58	69	9	25.4		-238	"	"	15	13	5	0.8	
-7	"	"	42	41	7	8.6		-276	"	"	35	52	8	12.4	
-336	"	"	27	29	3	2.2		-188	"	"	18	31	3	1.9	
-278	"	"	28	31	6	4.1		-163	"	"	-	-	-	-	
-221	SXQ86	"	19	13	2	0.7		-2	"	"	60	35	7	14.5	
-93	"	"	25	36	4	3.0		-266	"	"	47	65	7	46.6	
-265	SXQ71	"	30	25	3	2.3		-129	"	"	33	34	4	4.0	
-320	"	"	40	40	4	4.9		-142	"	"	36	36	3	3.5	
-153	SXQ86	"	25	20	5	1.6		-67	"	"	25	51	5	5.9	
-	MD59	"	41	48	6	9.4		-47	"	"	37	44	9	11.4	
-	SXQ36	"	26	21	3	1.4		-199	"	"	38	45	9	11.2	
-174	SXQ86	"	23	23	3	1.6		-13	"	"	52	44	9	18.3	
-22	"	"	16	16	2	0.9		-272	"	"	40	33	5	5.4	
-66	"	"	10	12	2	0.3		-169	"	"	42	16	4	3.0	
-284	SXQ71	"	16	17	2	0.5		160	"	"	96	83	36	214.4	

第13表 石器観察表(11)

NO.	出土位置	石質	大きさ(mm)			重量 (g)	特 徴	NO.	出土位置	石質	大きさ(mm)			重量 (g)	備 考
			長	幅	厚						長	幅	厚		
160-218	SXQ71	頁岩	45	64	10	25.1		166-660	SXQ117	頁岩	19	25	4	1.8	
- 60	"	"	90	83	33	189.3		- 73	SXQ85	"	29	18	2	1.6	
161	"	"	144	75	42	303.8		- 105	"	"	14	27	2	0.8	
-291	"	"	38	73	18	36.5		- 3	"	"	32	32	4	4.2	
- 45	"	"	113	55	29	139.6		-267	"	"	25	24	4	1.6	
- 21	"	"	99	44	32	127.7		-154	"	"	38	30	4	5.7	
162	"	"	132	54	36	157.9		-149	"	"	20	27	4	2.4	
- 48	"	"	77	54	19	68.9		-150	"	"	29	37	3	2.5	
-	MD59	"	38	36	6	10.4		- 82	"	"	23	17	6	1.6	
-110	SXQ36	"	47	26	5	6.1		-120	"	"	45	37	6	9.4	
-315	SXQ71	"	43	40	6	6.7		-862	SXQ117	"	27	21	5	2.7	
-309	"	"	43	19	12	10.4		-652	"	"	19	40	8	5.4	
- 65	SXQ86	"	88	47	17	55.4		- 64	SXQ85	"	65	84	16	60.0	
163	SXQ71	"	225	63	33	367.9		- 60	"	"	29	22	5	2.2	
- 72	"	"	66	43	18	45.5		-172	"	"	22	32	2	1.9	
- 62	"	"	48	53	22	37.5		- 72	"	"	62	38	11	19.7	
-104	"	"	15	18	2	0.5		- 79	"	"	39	33	5	4.3	
- 59	"	"	70	60	17	107.2		-245	"	"	89	73	26	171.9	石器 171
-	MD59	"	58	38	10	19.0		- 72	"	"	79	73	26	173.9	" 171
-583	SXQ36	"	106	59	32	158.8		167	"	"	138	104	50	403.2	
164	SXQ71	"	154	45	27	134.2		- 76	"	"	20	16	4	0.6	
-210	"	"	94	42	22	95.2		-354	SXQ36	"	85	107	12	78.7	石器 174
-486	SXQ36	"	63	40	14	39.0		- 92	SXQ85	"	25	8	3	0.3	
165	SXQ85	"	127	122	59	566.3		-158	"	"	34	40	7	8.1	
-115	"	"	53	27	5	3.8		- 37	"	"	24	25	3	1.6	
-168	"	"	34	25	3	1.8		-217	"	"	31	22	4	3.0	
-124	"	"	100	70	13	92.9		- 97	"	"	39	27	2	1.5	
-130	"	"	43	42	6	9.8		-139	"	"	36	42	4	8.6	
- 83	"	"	41	33	8	6.4		-186	"	"	19	15	3	0.9	
-160	"	"	56	65	11	22.3		-110	"	"	21	18	6	1.7	
-155	"	"	70	67	13	56.9		-197	"	"	16	19	3	0.7	
-271	"	"	33	43	7	8.2		- 31	"	"	19	34	2	1.7	
-177	"	"	26	35	7	6.0		- 34	"	"	14	29	1	0.7	
-248	"	"	52	60	7	16.2		-210	"	"	25	20	4	1.2	
-193	"	"	48	29	5	4.2		-127	"	"	24	21	7	2.8	
-141	"	"	40	26	4	3.0		- 45	"	"	37	25	3	2.9	
- 53	"	"	51	24	5	4.2		- 74	"	"	22	22	1	0.8	
- 81	"	"	53	39	7	13.1		-236	"	"	17	27	3	1.7	
- 76	"	"	43	33	4	4.2		-116	"	"	21	24	5	1.8	
-109	"	"	52	41	12	22.6		-141	"	"	11	22	3	0.8	
-189	"	"	42	37	8	9.4		- 16	"	"	79	52	10	49.1	
-103	"	"	57	50	8	19.4		- 79	"	"	15	28	6	1.5	
- 63	"	"	44	41	9	11.4		- 89	"	"	21	10	2	0.4	
-212	"	"	54	39	13	25.3		- 9	"	"	11	28	10	0.6	
-178	"	"	30	24	7	3.8		-186	"	"	21	28	7	3.4	
- 86	"	"	23	18	3	0.7		-133	"	"	58	40	9	13.8	
-219	"	"	18	24	9	2.4		-252	"	"	43	43	7	5.9	
-175	"	"	41	26	5	5.5		-192	"	"	24	40	11	6.8	
-126	"	"	55	27	7	10.4		-175	"	"	23	29	6	3.2	
-114	"	"	34	35	10	7.8		-231	"	"	25	30	2	1.6	
-108	"	"	49	43	8	13.2		- 2	"	"	36	46	3	7.2	
- 67	"	"	41	34	7	7.7		- 82	"	"	13	11	1	0.2	
-266	"	"	31	25	6	3.8		-672	SXQ117	"	48	32	5	6.5	
-195	"	"	29	25	4	2.2		-175	SXQ85	"	20	11	2	0.5	
-184	"	"	33	34	7	7.2		-197	"	"	17	17	3	0.7	
-158	"	"	99	69	30	160.5	石器 170	- 22	SXQ36	"	75	67	15	97.2	石器 172
166	"	"	166	82	42	492.7		- 1	"	"	69	66	18	84.5	" 172
-161	"	"	35	36	8	7.2		168	"	"	75	88	50	239.7	
-154	"	"	25	23	6	2.2		-663	SXQ117	"	68	38	16	41.2	
- 32	"	"	37	42	3	7.0		-162	SXQ85	"	35	45	5	6.4	
-203	"	"	24	32	4	2.9		- 41	"	"	19	28	5	2.6	

第14表 石器観察表(12)

NO.	出土位置	石質	大きさ(mm)			重量 (g)	備考	NO.	出土位置	石質	大きさ(mm)			重量 (g)	備考
			長	幅	厚						長	幅	厚		
168-28	SXQ85	頁岩	59	37	16	18.8		193-56	SXQ100	頁岩	149	74	20	175.0	
-21	"	"	35	28	10	5.7		194-587	"	"	208	89	33	488.5	
-27	"	"	27	24	9	5.3		195-315	"	"	200	63	25	355.4	
-258	SXQ36	"	29	36	15	13.4		196-111	"	"	99	68	23	143.2	
-18	SXQ85	"	19	36	8	5.3		197-588	"	"	156	72	25	258.1	
-203	SXQ36	"	61	60	23	141.0		198-508	"	"	90	36	8	15.8	
169	"	"	85	107	28	153.3		199-T35	"	"	113	53	19	108.5	
-77	"	"	50	36	10	11.1		200-188	"	"	76	57	20	76.0	
-102	SXQ36	"	53	48	7	13.2		201-651	"	"	125	84	26	219.0	
-273	SXQ85	"	37	49	12	18.2		202	"	"	95	75	15	71.8	
-74	"	"	29	22	6	2.2		-224	"	"	42	65	10	23.7	
-47	"	"	30	28	5	2.7		-226	"	"	77	70	9	48.1	
-58	"	"	38	17	5	2.5		203-296	"	"	131	63	37	239.5	
-39	"	"	64	56	8	18.1		204-18	"	"	147	77	17	141.1	
-243	"	"	43	47	7	7.9		205-782	"	安山岩	108	77	42	420.6	
-137	"	"	39	24	5	4.2		206	SXQ117	頁岩	119	116	112	932.3	
-121	"	"	46	44	6	11.6		-240	"	"	22	15	7	1.5	
-6	"	"	38	54	2	32.1		-219	"	"	16	17	6	1.2	
-182	"	"	37	48	11	15.1		-234	"	"	37	45	21	32.6	
-114	"	"	48	59	9	14.4		-404	"	"	18	14	5	1.4	
170-158	"	"	99	69	30	160.5		-527	"	"	80	78	22	116.4	
171	"	"	162	73	26	345.6		-	MJ62	"	34	38	11	11.3	
-245	"	"	89	73	26	171.9		-236	SXQ117	"	54	49	8	21.6	
-72	"	"	79	73	26	173.7		-220	"	"	24	27	4	3.3	
172	"	"	135	66	21	181.7		-224	"	"	36	17	7	3.1	
-22	SXQ36	"	75	67	15	97.2		-5476	SXQ36	"	79	61	19	80.5	石器 220
-1	"	"	69	66	18	84.5		-412	SXQ117	"	90	78	14	84.8	
173-13	SXQ85	"	19	18	4	0.9		-235	"	"	68	43	14	20.4	
174-354	SXQ36	"	108	77	27	79.3		-339	"	"	61	38	11	20.6	
175	SXQ85	安山岩	92	66	41	295.4		-231	"	"	47	21	12	10.5	
-42	"	"	45	41	40	209.3		-414	"	"	58	67	15	55.6	
-216	"	"	82	66	38	86.1		-229	"	"	59	62	24	80.2	
176-705	SXQ67	頁岩	172	66	21	227.3		-406	"	"	63	68	13	54.3	
177-14	SXQ89	"	77	72	12	48.7		-234	"	"	52	60	35	80.1	
178-13	"	安山岩	68	81	45	308.3		-225	"	"	54	89	12	48.6	
179	SXQ86	頁岩	159	117	49	886.8		-223	"	"	64	56	11	31.8	
-68	"	"	57	67	25	60.3		-415	"	"	30	14	6	2.4	
-401	SXQ36	"	80	99	45	352.3		-509	"	"	41	27	9	9.6	
-402	"	"	77	92	43	308.0		-532	"	"	24	19	7	1.6	
-403	"	"	92	68	28	141.7		-222	"	"	78	74	14	69.8	
-584	"	"	55	42	12	24.5		-526	"	"	47	44	13	21.8	
180-351	SXQ91	"	64	41	12	19.2		-400	"	"	53	70	14	36.3	
181-255	"	"	73	36	26	62.3		-232	"	"	59	43	9	25.1	
182-38	SXQ93	"	72	28	10	14.5		-	SK56	"	35	24	6	5.9	
183-20	"	"	97	54	16	43.1		207	"	"	103	54	27	90.0	
184	SXQ100	"	195	162	69	1259.4		-490	"	"	70	44	10	76.0	
-228	"	"	55	65	12	31.4		-167	"	"	40	50	27	14.0	
-709	"	"	68	72	21	90.0		208-258	"	"	186	92	58	935.7	
-643	"	"	165	141	60	1138.0		209-254	"	"	94	51	23	86.6	
185-798	"	"	90	102	81	634.7		210-289	SQ54	"	102	87	28	175.0	
186-609	"	"	76	153	67	878.8		211-326	"	"	69	42	11	21.9	
187-293	"	"	108	80	34	871.7		212-273	"	"	76	40	19	46.1	
188-643	"	"	165	141	60	1138.0		213-266	"	"	78	33	17	41.2	
189-650	"	"	271	180	79	2873.0		214-247	SXQ117	"	63	56	15	37.3	
190	"	"	120	68	22	522.5		215-288	SQ51	"	54	72	18	33.8	
-415	"	"	108	99	27	326.5		216-273	"	"	80	53	16	46.5	
-835	"	"	75	99	24	195.6		217-76	SXQ117	"	87	62	19	78.4	
191-652	"	"	176	114	44	663.6		218-364	"	"	105	66	25	108.0	
192	"	"	151	82	24	265.5		219-337	"	"	119	64	24	136.5	
-316	"	"	147	81	23	258.9		220-5476	SXQ36	"	79	61	19	80.5	
-	"	"	29	40	8	6.6		221	SXQ123	"	207	78	42	74.9	

第15表 石器観察表 (13)

NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			重量 (g)	備考	NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			重量 (g)	特徴
			長	幅	厚						長	幅	厚		
221-	MC59	頁岩	35	44	8	6.3		235	SXQ125	頁岩	369	123	93	3988.9	
-	SXQ123	"	46	82	15	33.1		- 1	SXQ91	"	67	101	13	55.5	
-	MC57	"	59	55	8	15.1		- T33	SXQ100	"	81	134	23	229.1	
-	SXQ123	"	55	45	5	9.0		- 11	SXQ125	"	24	16	5	1.4	
-	"	"	49	52	7	11.4		- 303	SXQ91	"	39	22	4	2.9	
222	"	"	222	105	45	421.9		- 302	"	"	67	28	9	13.7	
-	"	"	66	118	32	162.8		- 11	"	"	63	34	10	13.3	
-	"	"	63	69	9	24.5		- 11	"	"	21	13	4	0.9	
-	"	"	101	110	16	110.8		- 305	SXQ91	"	70	74	9	45.2	
-	"	"	81	99	24	123.8		- 17	SXQ125	"	127	38	8	4.0	
223- 3	SXQ121	"	48	40	9	9.3		- 集中部	"	"	89	157	65	694.2	
224- 2	"	"	102	34	11	22.4		- 66	SXQ91	"	72	133	24	229.5	
225- -	SXQ123	"	132	45	23	131.0		- 270	"	"	78	74	9	63.0	
226- -	"	"	68	23	11	12.7		- 集中部	"	"	67	64	14	59.1	
227- -	"	"	85	51	17	51.9		- 299	SXQ91	"	56	77	14	67.6	
228- -	"	"	108	67	17	82.6		- 308	"	"	90	69	10	65.1	
229- -	"	"	54	128	19	57.1		- 11	SXQ125	"	40	49	14	67.6	
230- -	"	"	137	65	42	308.6		- 11	"	"	58	58	8	23.8	
231- -	"	"	105	97	26	172.4		- 11	"	"	31	64	8	12.5	
232	SXQ124	"	243	152	90	2706.0		- 317	SXQ91	"	62	133	17	124.6	
- 593	SXH66	"	119	143	55	832.9		- 集中部	SXQ125	"	87	70	17	82.5	
- 121	"	"	50	31	10	15.0		- 176	SXQ91	"	28	14	4	1.1	
-	SXQ124	"	14	40	4	2.0		- 集中部	SXQ125	"	59	79	13	55.5	
-	MB57	"	27	17	7	2.1		- 11	"	"	28	45	7	5.6	
-	"	"	52	51	11	20.5		- 304	SXQ91	"	40	45	11	11.9	
-	SXQ124	"	56	64	17	32.4		- 314	"	"	33	57	12	96.9	
-	"	"	11	64	52	273.1		- 287	"	"	83	95	19	96.9	
-	"	"	16	23	4	1.3		- 330	SXQ60	"	74	53	16	57.8	
-	"	"	11	11	3	0.3		- 11	SXQ125	"	49	36	14	15.0	
-	"	"	74	71	14	70.7		- 11	"	"	13	22	2	0.7	
-	"	"	18	19	3	0.6		- 319	SXQ91	"	51	24	7	7.8	
-	"	"	10	132	36	348.0		- 306	"	"	81	60	34	140.2	
-	"	"	56	25	14	17.9		- 11	SXQ125	"	39	27	7	6.2	
-	"	"	71	60	21	42.8		- 309	SXQ91	"	39	41	9	11.4	
-	"	"	40	21	12	6.7		- 11	SXQ125	"	39	32	7	5.3	
-	MB57	"	34	42	14	17.1		- 35	"	"	20	24	4	1.3	
-	"	"	51	33	9	11.4		- 35	"	"	30	32	4	3.6	
- 1282	SXQ60	"	65	48	11	21.0		- 35	"	"	35	35	3	3.4	
-	MB57	"	42	28	12	7.7		- 35	"	"	54	40	3	5.8	
-	"	"	32	24	12	6.0		- 17	"	"	64	29	7	16.1	
-	"	"	61	36	12	18.1		- 310	SXQ91	"	97	60	17	116.8	
-	SXQ124	"	25	23	3	1.0		- 11	SXQ125	"	47	27	3	4.2	
-	"	"	66	29	10	14.4		- 35	"	"	47	41	7	10.0	
-	"	"	46	48	12	23.6		- 6	SXQ91	"	90	52	8	36.2	
-	"	"	53	15	5	3.4		- 309	"	"	35	51	14	22.3	
-	"	"	45	59	12	30.8		- 307	"	"	30	29	10	8.0	
-	"	"	39	60	5	7.0		- 11	SXQ125	"	24	19	4	1.6	
-	MB57	"	44	39	6	6.3		- 集中部	"	"	72	138	25	289.7	
-	"	"	16	24	2	0.8		- 543	SXQ60	"	71	29	11	14.9	
-	"	"	27	38	6	4.3		- 310	SXQ91	"	85	111	16	111.3	
-	MA58	"	38	43	12	17.8		- 11	"	"	36	21	4	3.2	
- 1288	SXQ60	"	53	94	38	162.7	石器 233	- 11	"	"	92	28	9	19.1	
-	SXQ124	"	134	124	50	686.3	" 233	- 11	"	"	42	35	4	4.4	
233	"	"	177	105	50	849.0		- 293	"	"	40	29	4	4.1	
- 1288	SXQ60	"	53	94	38	162.7		-	MC57	"	53	33	5	7.9	
-	SXQ124	"	134	124	50	686.3		-	"	"	44	53	8	11.8	
234	SXQ125	"	265	75	40	368.5		- 11	SXQ125	"	53	27	4	5.2	
- 67	"	"	46	53	17	24.5		- 297	SXQ91	"	33	22	4	2.9	
- 233	SXQ91	"	125	75	37	352.2		- 289	"	"	36	24	4	3.4	
- 11	SXQ125	"	39	32	8	7.9		- 318	"	"	37	24	6	3.9	
- 368	SXQ91	"	79	58	23	73.7		- 186	"	"	54	59	5	13.0	

第4章 調査の記録

第16表 石器観察表(14)

NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			重量 (g)	備考	NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			重量 (g)	備考
			長	幅	厚						長	幅	厚		
235-11	SXQ125	頁岩	21	44	7	5.4		242-4	SQ162	安山岩	123	87	30	479.1	
-308	SXQ91	"	13	28	5	1.4		243-32	SXR75	"	98	70	51	431.2	
-11	SXQ125	"	66	40	6	15.7		244-37	SXQ141	頁岩	155	81	14	368.5	
-35	"	"	22	21	3	1.3		245-27	"	"	98	35	10	26.8	
-35	"	"	19	18	4	1.4		246-28	"	"	95	44	16	45.7	
-	-	"	42	37	5	8.4		247	SXS29	"	86	124	26	118.4	
-309	SXQ91	"	17	18	4	0.6		-1	"	"	56	62	14	21.6	
-35	SXQ125	"	62	78	12	31.7		-3	"	"	55	64	13	27.0	
-35	"	"	42	34	8	10.1		-6	"	"	83	41	17	25.2	
-35	"	"	12	22	4	0.8		-8	"	"	48	57	13	18.7	
-35	"	"	33	19	5	2.8		-15	"	"	62	46	14	25.9	
-321	SXQ91	"	24	26	3	2.1		248-6	"	"	83	41	17	25.2	
-25	SXQ125	"	29	21	3	2.1		249-1	"	"	56	62	14	21.6	
-33	"	"	16	15	3	0.8		250-3	"	"	55	64	13	27.0	
-326	SXQ91	"	50	42	3	8.1		251-8	"	"	48	57	13	18.7	
-325	"	"	44	53	6	11.4		252-15	"	"	62	46	14	25.9	
-326	"	"	13	21	4	0.9		253	"	"	62	70	14	33.7	
-35	SXQ125	"	211	24	5	0.7		-2	"	"	62	45	14	17.7	
-272	SXQ91	"	28	35	6	3.6		-9	"	"	40	37	4	4.7	
-300	"	"	23	23	3	1.3		-7	"	"	48	55	5	11.3	
-391	"	"	38	51	10	16.5		254-2	"	"	62	45	14	17.7	
-集中部	SXQ125	"	45	69	11	18.0		255-7	"	"	48	55	5	11.3	
-35	"	"	50	59	10	19.8		256-9	"	"	40	37	4	4.7	
-323	SXQ91	"	36	31	7	6.8		257	"	"	98	62	20	52.8	
-54	"	"	16	17	4	0.6		-5	"	"	48	42	15	16.1	
-299	"	"	27	27	3	2.1		-11	"	"	63	43	12	16.4	
-315	"	"	90	46	9	49.9		-12	"	"	62	59	16	20.3	
-11	"	"	70	32	6	12.4		258-11	"	"	63	43	12	16.4	
-11	"	"	52	27	6	8.1		259-5	"	"	48	42	15	16.1	
-11	"	"	11	17	3	0.4		260-12	"	"	62	59	16	20.3	
-11	"	"	35	20	6	3.8		261-13	"	"	46	82	10	18.4	
-195	SXQ91	"	58	55	5	14.5		262-10	"	"	40	60	9	11.0	
-35	SXQ125	"	13	14	2	0.3		263-16	"	"	50	67	15	34.1	
-324	SXQ91	"	49	52	8	13.8		264-14	"	"	51	31	8	7.6	
-323	"	"	41	50	7	12.1		265-4	"	"	56	33	6	6.5	
-35	SXQ125	"	41	28	4	3.6		266-6291	SXQ01	"	165	134	71	1179.2	
-35	"	"	33	60	5	9.2		267-6144	"	"	27	18	7	2.0	
-398	SXQ91	"	29	35	4	2.7		268-6239	"	"	104	67	10	53.6	
-集中部	SXQ125	"	69	61	13	36.3		269-6172	"	"	71	43	15	34.7	
-328	SXQ91	"	35	42	6	0.6		270-6238	"	"	111	53	19	79.2	
-392	"	"	33	34	9	4.3		271-6191	"	"	101	63	35	140.0	
-35	SXQ125	"	19	31	8	4.3		272	SXQ73	"	144	88	50	588.8	
-集中部	"	"	52	67	13	36.3		-1612	SXQ92	"	69	62	12	57.0	
-35	"	"	24	21	4	1.1		-646	SXQ73	"	40	34	10	11.3	
-175	SXQ91	"	47	29	2	7.5		-634	"	"	34	25	5	3.4	
-33	SXQ125	"	11	24	2	0.6		-746	"	"	19	30	8	2.6	
-195	SXQ91	"	55	47	7	14.2		-41	SXQ71	"	46	38	12	14.1	
-35	SXQ125	"	45	50	50	12.6		-188	SXQ102	"	30	30	3	3.4	
-35	"	"	42	35	4	3.4		-718	SXQ73	"	27	32	6	5.2	
-543	SXQ60	"	30	21	4	2.5		-738	"	"	19	17	7	1.3	
-35	SXQ125	"	26	27	4	2.5		-736	"	"	25	16	7	1.9	
-67	"	"	46	53	17	29.5	石器 234	-110	"	"	36	44	8	11.3	
-233	SXQ91	"	125	75	37	352.4	" 234	-640	"	"	54	63	11	24.7	
-11	SXQ125	"	39	32	8	7.9	" 231	-752	"	"	15	23	3	1.1	
-368	SXQ91	"	79	58	23	73.7	" 234	-636	"	"	20	35	5	2.9	
236-38	SK143	安山岩	95	75	48	436.6		-744	"	"	41	48	6	12.1	
237-1	SQ34	頁岩	102	54	18	82.2		-682	"	"	21	37	4	2.7	
238-31	SQ35	安山岩	134	95	47	788.4		-739	"	"	39	47	8	11.4	
239-1	SXQ03	"	165	132	52	1232.4		-43	"	"	52	51	12	24.7	
240-5	SQ90	頁岩	56	26	7	4.6		-741	"	"	21	32	4	2.9	
241-1	SQ136	"	75	40	21	53.2		-79	"	"	43	56	26	51.2	

第 17 表 石器観察表 (15)

NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			重量 (g)	備 考	NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			重量 (g)	備 考
			長	幅	厚						長	幅	厚		
272-84	SXQ73	頁岩	24	30	5	3.4		283-69	SXQ80	頁岩	40	30	7	5.2	
-759	"	"	20	24	4	1.5		-414	"	"	42	50	9	16.0	
-721	"	"	23	35	6	4.1		-615	SXQ92	"	59	40	17	41.2	石器 282
-85	"	"	47	59	12	27.6		-1134	"	"	64	44	17	58.2	" 282
-86	"	"	41	61	10	21.5		284	"	"	120	109	28	42.7	
-178	SXQ102	"	75	92	25	126.2	石器 278	-896	SXQ80	"	28	25	5	2.9	
-177	"	"	53	50	21	39.7	" 278	-976	"	"	31	29	11	5.8	
-186	"	"	56	119	23	115.6	" 278	-577	"	"	29	30	7	5.6	
-748	SXQ73	"	29	21	10	4.0	" 278	-73	"	"	30	48	6	6.7	
273	"	"	170	86	45	546.1		-	"	"	15	30	4	1.2	
-522	"	"	45	37	6	7.8		-1088	"	"	122	109	26	390.5	
-491	"	"	16	20	5	1.5		285-457	"	"	77	44	25	70.0	
-440	"	"	16	34	6	2.6		286	"	"	57	66	14	43.9	
-137	"	"	45	42	14	21.3		-813	"	"	57	58	11	33.3	
-32	"	"	103	83	43	275.9	石器 281	-368	"	"	40	39	8	10.6	
-200	SXQ102	"	39	44	8	9.5		287-464	"	"	102	69	17	100.6	
-508	SXQ73	"	28	43	7	7.0		288-36	"	"	94	56	21	91.6	
-102	SXQ102	"	37	35	6	5.4		289	SXQ92	"	226	140	70	1105.9	
-433	SXQ73	"	37	25	10	6.9		-1320	"	"	34	48	10	11.8	
-699	"	"	18	53	7	5.6		-848	"	"	27	37	6	4.5	
-592	"	"	19	48	8	6.7		-770	"	"	32	42	5	4.9	
-181	SXQ102	"	93	73	28	195.9	石器 280	-1598	"	"	12	49	3	2.8	
274	SXQ73	"	113	74	29	155.4		-1233	"	"	50	92	8	24.3	
-635	"	"	14	22	4	1.0		-1713	"	"	19	22	5	2.0	
-291	"	"	22	31	5	2.7		-1528	"	"	28	14	5	1.1	
-365	"	"	30	46	8	9.2		-1378	"	"	20	28	5	2.2	
-68	"	"	24	37	8	6.5		-1431	"	"	72	41	16	43.2	
-150	"	"	24	41	4	4.1		-881	"	"	21	31	4	1.8	
-320	"	"	30	38	7	7.9		-825	"	"	48	41	5	7.4	
-637	"	"	20	23	4	1.2		-1676	"	"	26	28	5	2.9	
-36	"	"	23	29	3	1.2		-871	"	"	28	33	12	7.8	
-662	"	"	13	19	5	0.9		-1274	"	"	35	25	5	4.1	
-182	SXQ102	"	57	53	17	52.4	石器 279	-1382	"	"	44	31	5	6.0	
-183	"	"	57	69	20	68.3	" 279	-26	SXQ73	"	84	73	15	59.7	
275	SXQ73	"	142	66	40	254.9		-1816	SXQ92	"	60	109	12	54.2	
-180	SXQ102	"	53	47	18	36.0		-1463	"	"	52	45	10	20.9	
-1790	SXQ92	"	98	81	27	189.8		-1381	"	"	41	54	10	9.0	
-714	SXQ73	"	25	50	8	20.9		-1166	"	"	52	65	7	16.3	
-696	"	"	58	42	12	8.2		-1245	"	"	32	16	5	1.6	
276	SXQ73	"	137	72	41	337.1		-940	"	"	47	39	7	9.4	
-27	"	"	117	50	15	93.3		-1601	"	"	70	73	15	52.0	
-634	"	"	137	72	25	244.0		-624	"	"	46	37	6	8.3	
277-665	"	"	207	124	49	1242.7		-273	"	"	43	52	7	11.0	
278	"	"	141	80	39	165.9		-1114	"	"	45	36	10	12.2	
-178	SXQ102	"	75	92	25	126.2		-1606	"	"	20	21	6	1.6	
-177	"	"	53	50	21	39.7		-1892	"	"	49	54	10	19.8	
279	"	"	113	60	23	120.7		-1931	"	"	38	40	5	7.4	
-182	SXQ102	"	57	53	17	52.4		-365	"	"	46	46	7	12.5	
-183	"	"	57	69	20	68.3		-1158	"	"	18	25	6	2.3	
280-181	"	"	93	73	28	195.9		-1024	"	"	28	31	6	4.1	
281-32	SXQ73	"	103	83	43	275.9		-1649	"	"	16	27	5	1.3	
282	SXQ80	"	117	45	21	99.4		-1341	"	"	26	17	5	1.6	
-615	SXQ92	"	59	40	17	41.2		-990	"	"	48	31	6	5.7	
-1134	"	"	64	44	17	58.2		-1324	"	"	60	28	9	8.1	
283	SXQ80	"	117	56	32	159.0		-1406	"	"	30	21	5	2.3	
-1065	"	"	26	34	5	3.4		-1499	"	"	21	28	4	2.0	
-1072	"	"	24	41	3	3.6		-1460	"	"	50	36	6	7.1	
-48	"	"	26	35	7	4.3		-1777	"	"	48	77	14	40.7	
-629	"	"	40	39	9	12.1		-763	"	"	37	31	7	5.6	
-421	"	"	28	46	8	10.1		-1575	"	"	30	29	8	4.9	
-1646	"	"	30	29	5	4.9		-1171	"	"	23	21	5	2.2	

第4章 調査の記録

第18表 石器観察表(16)

NO.	出土位置	材質	大きさ(mm)			重量(g)	備考	NO.	出土位置	材質	大きさ(mm)			重量(g)	備考
			長	幅	厚						長	幅	厚		
289-1819	SXQ92	頁岩	20	25	5	2.0		290-57	SXQ92	頁岩	33	39	6	7.0	
-1526	"	"	82	51	16	38.6		-1485	"	"	26	38	6	4.0	
-1076	"	"	37	35	6	6.8		-1587	"	"	35	27	6	3.7	
-628	"	"	50	36	6	5.6		-867	"	"	40	53	6	9.5	
-1321	"	"	40	28	6	3.6		-1091	"	"	21	17	4	1.2	
-1259	"	"	39	62	11	14.0		-1630	"	"	43	88	10	27.3	
-1922	"	"	25	22	10	2.8		-663	"	"	53	69	17	35.5	
-664	"	"	40	38	10	8.7		-968	"	"	28	18	6	2.3	
-954	"	"	45	47	6	9.5		-71	"	"	60	32	8	9.4	
-856	"	"	55	64	13	18.6		-1154	"	"	30	30	6	4.6	
-804	SXQ80	"	31	51	8	10.9		-683	"	"	27	24	5	2.3	
-1461	SXQ92	"	43	46	11	14.9		-648	SXQ73	"	30	41	12	8.8	
-1258	"	"	28	26	5	2.8		-392	"	"	40	40	12	11.3	
-1297	"	"	30	38	3	3.1		-197	"	"	30	19	8	3.3	
-1156	"	"	30	35	11	7.7		-950	SXQ92	"	31	34	8	5.6	
-1011	"	"	20	23	9	3.4		-803	"	"	35	25	6	4.3	
-1434	"	"	50	42	7	12.2		-1452	"	"	40	71	7	14.2	
-27	"	"	25	20	4	2.1		-1590	"	"	38	25	6	3.6	
-188	"	"	64	36	9	13.7		-1607	"	"	38	55	16	17.5	
-957	"	"	69	37	10	13.3		-585	"	"	55	35	14	13.2	
-358	"	"	38	41	12	12.3		-128	SXQ73	"	36	76	13	21.0	
-767	"	"	43	55	9	11.4		-872	SXQ92	"	25	24	5	2.0	
-845	"	"	43	56	10	18.0		-965	"	"	48	67	15	41.0	
-1697	"	"	35	47	11	10.2		-943	"	"	41	25	4	3.4	
-681	"	"	48	79	15	38.8		-1737	"	"	50	45	5	8.0	
-1251	"	"	48	37	7	9.1		-866	"	"	63	82	11	48.1	
-1028	"	"	59	26	10	10.7		-83	"	"	52	52	17	37.6	
-1592	"	"	27	35	8	3.2		-1260	"	"	47	58	11	30.0	
-752	"	"	47	44	7	11.0		-1447	"	"	39	51	11	10.9	
-1772	"	"	42	47	12	14.9		-1153	"	"	50	41	9	16.2	
-1945	"	"	31	37	8	5.8		-864	"	"	42	55	12	18.0	
-865	"	"	28	29	10	6.4		-1237	"	"	36	40	6	4.5	
-1265	"	"	54	26	10	7.6		-717	"	"	35	26	5	5.2	
-1273	"	"	32	43	9	8.0		-1162	"	"	25	23	4	1.6	
-1243	"	"	12	31	4	0.8		-1078	"	"	80	29	10	11.6	
-	"	"	21	34	8	4.8		-895	"	"	40	54	9	10.1	
-75	"	"	33	57	9	12.2		-1165	"	"	25	15	3	0.9	
-967	"	"	23	29	8	4.3		-953	"	"	44	32	4	4.5	
-1146	"	"	15	20	5	1.2		-1004	"	"	27	30	5	3.6	
-684	"	"	36	36	9	8.9		-660	"	"	21	35	8	5.0	
-752	"	"	39	23	8	4.6		-1013	"	"	25	19	4	1.7	
-1003	"	"	36	28	6	4.4		-1184	"	"	42	74	13	35.7	
-54	"	"	45	54	9	15.9		-489	"	"	29	23	5	2.8	
-1004	"	"	11	28	5	1.4		-1071	SXQ80	"	74	61	24	114.4	石器 311
-936	"	"	51	100	18	46.4	石器 317	-156	"	"	73	63	27	115.4	" 311
-1085	"	"	23	33	6	4.9	" 317	-1612	SXQ92	"	23	25	8	3.6	
-398	"	"	44	55	14	23.8	" 317	291	"	"	200	114	84	833.6	
-1141	"	"	34	25	4	3.2	" 317	-1483	"	"	57	40	12	23.2	
-361	"	"	29	19	7	2.3		-1880	"	"	38	27	10	6.8	
-1614	"	"	16	35	3	1.3		-1430	"	"	84	85	24	106.0	
-1589	"	"	10	30	5	0.8		-1451	"	"	30	41	7	8.6	
-1770	"	"	66	42	21	45.5	石器 317	-1562	"	"	21	36	6	3.3	
-1437	"	"	55	42	21	49.0	" 317	-1889	"	"	17	31	7	2.5	
290	"	"	194	112	50	763.5		-712	"	"	42	11	11	5.6	
-281	SXQ102	"	23	34	5	2.5		-488	"	"	16	25	5	1.4	
-1840	SXQ92	"	28	15	4	1.3		-1429	"	"	90	67	35	158.4	
-1794	"	"	27	29	4	2.0		-1786	"	"	67	67	17	39.2	
-1394	"	"	24	36	5	2.5		-964	"	"	63	55	13	29.0	
-1927	"	"	16	18	4	0.7		-1776	"	"	66	37	9	19.6	
-689	"	"	25	46	8	7.2		-947	"	"	90	73	20	104.1	
-1625	"	"	20	28	7	1.9		-1055	"	"	46	33	9	5.5	

第 19 表 石器観察表 (17)

NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			重量 (g)	備 考	NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			重量 (g)	備 考
			長	幅	厚						長	幅	厚		
291-627	SXQ92	頁岩	21	31	6	3.0		292-999	SXQ80	頁岩	33	54	12	11.4	
-1174	"	"	44	38	11	13.5		-1127	"	"	26	44	11	8.8	
-252	"	"	46	24	8	6.4		-1119	"	"	26	19	8	2.3	
-404	"	"	61	86	19	66.6		-990	"	"	30	37	7	4.6	
-1390	"	"	44	56	16	25.5		-1080	"	"	130	70	34	382.5	石器 310
-1112	"	"	57	38	8	10.1		293	"	"	144	126	34	278.6	
-1739	"	"	48	52	15	37.5		-980	"	"	21	25	4	1.7	
-1470	"	"	23	29	6	2.3		-1106	"	"	28	44	5	7.6	
-1940	"	"	39	55	12	19.5		-996	"	"	52	40	6	9.2	
-1791	"	"	36	92	15	29.4		-891	"	"	21	42	10	7.2	
-1706	"	"	41	53	10	17.8		-288	"	"	27	29	4	2.6	
-1782	"	"	36	43	5	4.3		-841	"	"	40	38	6	7.7	
-1774	"	"	48	49	12	16.4		-827	"	"	44	37	6	7.1	
-780	"	"	46	46	9	12.3		-640	"	"	27	35	4	2.9	
-1424	"	"	51	68	22	55.8		-712	"	"	39	46	7	8.4	
292	"	"	212	90	64	902.7		-1347	"	"	31	37	3	3.9	
-108	"	"	59	52	16	40.8		-694	"	"	36	34	6	7.9	
-1496	"	"	32	15	6	2.0		-813	"	"	18	26	9	2.7	
-1614	"	"	24	10	4	0.9		-349	"	"	25	27	7	3.3	
-1489	"	"	27	39	5	3.4		-727	"	"	56	48	16	28.1	
-1003	"	"	30	37	6	6.1		-972	"	"	33	28	5	3.8	
-1626	"	"	19	44	11	8.0		-567	"	"	32	33	5	5.8	
-327	"	"	20	68	18	29.1		-994	"	"	25	35	5	2.4	
-1426	"	"	80	76	15	89.3		-773	"	"	35	40	9	9.7	
-719	"	"	29	42	5	4.9		-760	"	"	41	51	10	13.4	
-657	"	"	25	38	2	2.6		-798	"	"	29	25	5	2.2	
-1194	"	"	24	29	4	3.5		-1368	"	"	27	33	5	3.2	
-967	"	"	13	20	5	0.8		-668	SXQ92	"	33	41	6	5.3	
-1536	"	"	34	32	8	7.0		-647	"	"	42	29	6	7.6	
-1738	"	"	26	32	5	3.0		-888	"	"	41	28	5	5.0	
-866	"	"	47	26	7	7.7		-952	"	"	42	37	8	9.7	
-685	"	"	31	14	3	1.7		-1176	"	"	43	50	5	10.0	
-1535	"	"	18	22	1	0.7		-1782	"	"	29	37	7	7.3	
-1399	"	"	42	34	9	11.2		-432	"	"	19	36	3	2.0	
-1119	SXQ80	"	26	18	2	1.0		-713	"	"	43	53	12	20.5	
-508	"	"	78	87	11	65.1		-980	"	"	33	33	7	6.2	
-1418	SXQ92	"	54	86	14	67.8	石器 321	-1230	"	"	51	30	6	7.8	
-1681	"	"	22	56	7	9.3		-1074	"	"	60	47	15	33.8	
-609	"	"	32	40	8	5.5		-702	"	"	27	37	6	3.3	
-1014	"	"	19	35	7	3.2		-1139	"	"	32	38	5	5.0	
-860	"	"	39	40	8	11.6		-1477	"	"	30	39	6	4.0	
-1062	"	"	34	49	5	5.9		-1183	"	"	23	26	8	4.5	
-1265	"	"	25	23	4	2.1		-1572	"	"	41	47	5	4.7	
-662	"	"	15	22	3	0.7		-1689	"	"	26	21	3	1.1	
-1487	"	"	22	35	5	2.8		294	"	"	180	85	48	607.6	
-597	SXQ80	"	20	44	6	4.6		-1108	"	"	50	41	7	12.6	
-1088	SXQ92	"	28	43	8	7.4		-829	"	"	26	17	4	1.6	
-1522	"	"	19	33	10	3.7		-408	"	"	52	54	11	25.3	
-1747	"	"	36	38	7	7.2		-1594	"	"	35	28	9	4.1	
-1797	"	"	33	26	9	4.9		-1788	"	"	35	38	9	11.7	
-1497	"	"	24	36	3	2.0		-761	"	"	50	54	10	17.1	
-972	SXQ80	"	23	26	7	3.3		-1053	"	"	40	56	11	15.9	
-977	"	"	24	23	5	3.0		-17	"	"	29	25	7	4.4	
-1533	SXQ92	"	29	25	5	2.5		-1781	"	"	43	57	8	14.3	
-895	SXQ80	"	21	22	3	1.6		-1643	"	"	58	31	7	7.8	
-337	"	"	29	54	13	15.1		-789	"	"	38	41	3	3.6	
-881	"	"	52	41	8	13.8		-853	"	"	29	52	10	11.7	
-1113	"	"	29	24	6	3.5		-1517	"	"	35	77	12	22.6	
-974	"	"	36	37	7	7.7		-1164	"	"	34	64	25	34.5	
-986	"	"	26	31	3	2.4		-1783	"	"	27	35	11	7.3	
-985	"	"	42	44	8	12.7		-1501	"	"	33	25	7	5.0	

第20表 石器観察表 (18)

NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			重量 (g)	備 考	NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			重量 (g)	備 考
			長	幅	厚						長	幅	厚		
294-619	SXQ80	頁岩	42	43	9	10.5		298-1684	SXQ92	頁岩	74	55	14	37.0	
-934	SXQ92	"	33	50	13	14.8		-526	"	"	65	78	17	59.3	
-1159	"	"	30	33	6	3.3		-1605	"	"	38	46	6	9.9	
-141	"	"	40	48	5	7.7		-989	"	"	71	88	14	66.3	
-1432	"	"	145	74	43	371.8	石器 309	-884	"	"	42	41	5	9.0	
295	"	"	150	93	45	698.5		-882	"	"	46	41	9	17.0	
-597	"	"	30	44	7	6.2		-348	"	"	59	68	4	33.4	
-1273	"	"	54	51	8	20.2		-18	"	"	62	75	19	68.4	
-1171	"	"	71	51	15	34.4		-608	"	"	58	42	8	13.4	
-1234	"	"	34	28	11	6.8		299	"	"	166	112	14	232.1	
-1569	"	"	27	37	10	5.9		-1673	"	"	26	33	4	3.5	
-1256	"	"	23	42	4	4.3		-1246	"	"	46	50	8	13.2	
-1249	"	"	26	39	9	4.1		-1111	"	"	27	29	5	2.5	
-503	"	"	41	50	8	15.1		-1306	"	"	42	36	6	5.9	
-1651	"	"	19	30	4	2.2		-1812	"	"	54	59	11	26.3	
-594	"	"	23	32	7	3.5		-1247	"	"	55	28	8	9.5	
-872	"	"	74	77	16	71.3		-1161	"	"	21	33	6	2.6	
-1387	"	"	48	26	6	4.8		-1346	"	"	26	31	8	3.7	
-1244	"	"	34	49	12	17.2		-1231	"	"	36	42	7	7.1	
-1181	"	"	27	26	4	2.7	石器 315	-1238	"	"	47	46	5	11.3	
-956	SXQ80	"	66	82	42	161.9	" 315	-1810	"	"	63	60	10	27.1	
-1071	SXQ92	"	25	26	3	2.5		-1115	"	"	48	59	10	25.1	
-900	"	"	44	22	4	4.6		-1163	"	"	44	41	9	11.4	
-848	"	"	32	24	8	3.0		-855	"	"	45	59	11	21.3	
-1927	"	"	46	52	7	14.4		-1723	"	"	36	13	4	1.8	
-1779	"	"	36	20	4	2.8		-1723	"	"	36	13	4	1.8	
-1948	"	"	37	46	9	14.2		-872	"	"	47	37	6	6.7	
-1250	"	"	42	39	7	5.8		-1599	"	"	47	45	10	18.0	
-1673	"	"	33	33	8	6.3		-1373	"	"	54	43	8	15.4	
-1428	"	"	106	73	41	276.8	石器 308	-1469	"	"	41	35	8	10.0	
-	"	"	29	49	7	7.5		-1649	"	"	25	35	6	3.8	
296	"	頁岩	182	108	74	488.2		-1600	"	"	26	35	10	5.9	
-933	"	"	29	20	3	2.0		300	"	"	128	70	37	237.8	
-1435	"	"	108	73	21	138.1		-1925	"	"	31	51	8	8.4	
-107	"	"	30	40	6	4.2		-1599	"	"	46	54	7	9.5	
-1388	"	"	37	19	7	4.2		-1104	"	"	42	50	13	21.4	
-832	"	"	80	100	27	132.7		-1655	"	"	33	43	9	11.1	
-674	"	"	30	29	6	4.0		-1844	"	"	31	33	8	8.0	
-1436	"	"	38	92	27	70.4		-1789	"	"	118	63	29	179.4	石器 318
-778	"	"	16	37	11	2.3		301	"	"	118	85	33	293.2	
-1037	"	"	54	86	12	25.1		-1153	"	"	30	42	7	5.8	
-975	"	"	48	44	7	14.7		-1281	"	"	33	34	8	5.3	
-1457	"	"	54	39	10	17.9		-32	SXQ80	"	38	20	11	5.8	
-1525	"	"	78	48	10	35.9		-957	"	"	121	94	32	276.3	石器 306
-1642	"	"	31	36	7	6.4		302	SXQ92	"	126	74	36	164.0	
-839	"	"	47	48	8	16.2		-1371	"	"	35	40	2	5.0	
-1785	"	"	44	33	8	10.8		-956	SXQ80	"	37	54	6	12.0	
-1118	"	"	36	37	4	5.3		-443	"	"	36	59	13	19.1	
297	"	"	276	123	74	1941.4		-243	"	"	37	46	8	9.7	
-1439	"	"	96	96	13	97.5		-1588	SXQ92	"	38	49	8	13.1	
-863	"	"	42	40	5	7.8		-948	"	"	41	43	11	19.3	
-681	"	"	26	40	7	6.4		-1138	SXQ80	"	24	19	5	1.9	
-372	"	"	36	41	10	9.2		-590	"	"	21	18	2	1.0	
-935	"	"	44	38	7	7.0		-1063	SXQ92	"	58	20	8	7.6	
-1491	"	"	51	46	6	8.4		-423	SXQ80	"	29	23	3	3.6	
-1669	"	"	36	40	5	5.1		-1765	SXQ92	"	23	26	8	3.8	
-687	"	"	22	41	7	5.9		-1318	"	"	36	35	10	11.2	
-865	"	"	34	30	4	3.6		-604	"	"	31	17	6	3.4	
-1106	SXQ80	"	276	112	66	1790.5	石器 305	-1104	"	"	39	44	7	9.1	
298	SXQ92	"	188	100	51	378.1		-1471	"	"	24	34	8	3.9	
-1779	"	"	57	71	19	64.4		-1362	"	"	33	39	10	11.7	

第 21 表 石器観察表 (19)

NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			重量 (g)	備 考	NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			重量 (g)	特 徴
			長	幅	厚						長	幅	厚		
302-950	SXQ92	頁岩	54	50	10	28.6		322-193	SXQ96	頁岩	26	30	7	2.8	
303	"	"	134	78	41	180.0		-327	"	"	42	48	9	19.7	
-509	SXQ80	"	56	63	19	69.9		-258	"	"	50	65	17	31.1	
-376	SXQ92	"	50	67	14	29.9		-409	"	"	22	50	10	5.8	
-852	"	"	47	41	11	15.5		-67	"	"	51	53	5	13.8	
-858	"	"	37	26	8	5.1		-253	"	"	70	60	8	25.9	
-859	"	"	43	32	10	8.0		-	"	"	28	35	9	4.8	
-1131	"	"	29	34	8	5.1		-516	"	"	28	20	7	3.9	
-1697	"	"	34	41	4	4.2		-892	"	"	27	18	8	3.0	
-59	"	"	41	41	13	13.7		-248	"	"	34	24	6	3.5	
-1181	"	"	48	45	8	13.8		-125	"	"	28	33	6	4.9	
-863	"	"	49	49	10	17.2		-217	"	"	18	36	5	2.2	
-737	"	"	35	27	7	4.7		-181	"	"	48	67	11	28.0	
-1159	"	"	32	22	5	1.9		-81	"	"	52	33	6	7.5	
304	"	"	98	89	38	207.0		-430	"	"	30	41	5	3.9	
-1449	"	"	34	32	8	6.7		-339	"	"	38	19	3	1.9	
-38	"	"	87	44	23	57.8		-416	"	"	41	30	5	3.3	
-165	"	"	35	30	21	16.6		-466	"	"	31	31	8	8.5	
-1520	"	"	34	23	6	3.9		-280	"	"	29	40	7	7.9	
-754	"	"	35	38	16	23.7		-238	"	"	60	59	10	16.7	
-636	"	"	66	61	16	98.3		-302	"	"	30	17	4	1.8	
305-1106	SXQ80	"	276	112	66	1790.5		-325	"	"	47	42	8	13.9	
306-957	"	"	121	94	32	276.3		-880	"	"	22	35	4	1.9	
307-1421	"	"	106	58	18	113.0		-175	"	"	15	20	8	1.9	
308-1428	SXQ92	"	106	73	41	276.7		-879	"	"	38	31	4	6.0	
309-1432	"	"	145	74	43	371.8		-279	"	"	43	46	5	8.8	
310-1080	SXQ80	"	130	70	34	382.5		-174	"	"	34	31	9	7.9	
311	"	"	120	45	12	229.8		-183	"	"	35	36	8	6.0	
-1071	"	"	74	61	24	114.4		-271	"	"	33	35	9	8.2	
-156	"	"	73	63	27	115.4		-199	"	"	35	48	8	15.3	
312	SXQ92	"	120	43	12	52.5		-184	"	"	30	48	10	8.7	
-1778	"	"	70	44	9	28.5		-204	"	"	25	14	7	2.5	
-1256	"	"	65	44	10	24.0		-156	"	"	13	19	4	0.7	
313	"	"	99	47	21	91.9		-151	"	"	92	39	23	52.4	石器 340
-1422	"	"	99	47	21	89.4		-1044	"	"	15	12	5	0.8	
-	SXQ80	"	21	26	5	2.5		-230	"	"	71	68	15	50.6	
314-846	SXQ92	"	86	69	15	77.2		-21	"	"	38	47	5	6.9	
315	"	"	64	83	40	438.7		-88	"	"	47	48	9	16.8	
-956	SXQ80	"	66	82	42	161.9		-240	"	"	33	40	17	18.4	
-1181	SXQ92	"	106	73	41	276.8		-194	"	"	28	29	9	5.9	石器 331
316-1172	"	"	65	61	16	58.0		-303	"	"	36	33	7	3.6	
317	"	"	128	55	33	174.1		-80	"	"	32	35	15	8.4	
-1770	"	"	66	42	21	45.5		-	"	"	69	78	24	110.7	
-1437	"	"	55	42	21	49.0		-	"	"	24	16	3	1.2	
-1085	"	"	28	33	6	4.9		-493	"	"	19	16	3	1.0	
-1141	"	"	34	25	4	3.2		-209	"	"	69	61	23	123.3	石器 331
-398	"	"	44	55	14	23.8		-958	"	"	33	26	4	3.8	
-936	"	"	51	100	18	46.4		-58	"	"	25	22	4	1.7	
-1614	"	"	16	35	3	1.3		-576	"	"	19	24	6	1.8	
318-1789	"	"	118	63	29	179.4		-184	"	"	37	27	5	3.3	
319-1799	"	"	84	35	21	39.2		-154	"	"	31	50	11	26.6	
320-1440	"	"	82	40	20	60.6		-278	"	"	22	28	5	2.6	
321-1418	"	"	54	86	14	67.8		-785	"	"	96	56	19	97.9	石器 330
322	SXQ96	"	274	130	43	915.5		323	"	"	196	69	52	400.7	
-95	"	"	32	45	11	10.7		-1070	"	"	15	25	5	1.8	
-412	"	"	30	27	4	2.8		-467	"	"	19	21	4	1.3	
-178	"	"	59	68	9	22.7		-656	"	"	53	74	16	49.6	
-978	"	"	49	57	10	18.0		-659	"	"	72	58	15	53.7	
-295	"	"	38	58	9	11.9		-403	"	"	20	48	11	8.5	
-478	"	"	43	63	13	22.0		-126	"	"	36	32	6	3.4	
-200	"	"	33	40	7	7.0		-351	"	"	53	73	17	35.9	

第22表 石器観察表(20)

NO.	出土位置	石質	大きさ(mm)			重量 (g)	備 考	NO.	出土位置	石質	大きさ(mm)			重量 (g)	備 考
			長	幅	厚						長	幅	厚		
323-554	SXQ96	頁岩	35	32	6	4.3		328-177	SXQ96	頁岩	50	41	15	28.3	
-719	"	"	52	46	9	9.4		-12	"	"	43	63	10	26.6	
-1023	"	"	38	49	3	6.5		-4	"	"	48	44	9	13.3	
-484	"	"	31	39	3	2.6		-908	"	"	48	41	9	12.4	
-733	"	"	58	47	8	16.7		-6	"	"	30	29	10	6.9	
-447	"	"	21	38	7	5.3		-458	"	"	30	31	8	5.8	
-394	"	"	48	59	9	15.3		-267	"	"	36	26	5	3.5	
-350	"	"	21	19	2	1.1		-406	"	"	26	24	4	2.4	
-341	"	"	22	22	5	1.4		-257	"	"	34	18	5	2.4	
-507	"	"	34	54	8	11.5		-432	"	"	29	32	11	6.7	
-210	"	"	27	39	3	2.4		-767	"	"	13	32	7	2.6	
-128	"	"	28	51	5	6.3		-334	"	"	12	26	4	1.3	
-312	"	"	91	52	20	92.9	石器 332	-372	"	"	31	22	5	3.2	
-318	"	"	99	43	17	70.8	" 332	-378	"	"	39	45	9	13.0	
324	"	"	110	134	90	677.5		-490	"	"	18	19	8	1.6	
-27	"	"	55	85	24	60.1		329	"	"	174	114	62	480.2	
-59	"	"	36	37	10	13.2		-835	"	"	100	86	21	119.9	
-60	"	"	22	28	7	3.8		-1035	"	"	78	66	24	84.1	
-912	"	"	15	22	4	1.1		-1033	"	"	71	67	15	54.4	
-684	"	"	26	28	3	1.5		-838	"	"	77	67	15	42.2	
-148	"	"	65	64	27	86.5		-1032	"	"	51	74	12	34.7	
-31	"	"	57	31	8	12.8		-837	"	"	63	59	15	41.4	
-159	"	"	53	91	33	136.8		-1112	"	"	60	72	14	55.5	
-148	"	"	12	13	3	0.2		-840	"	"	33	49	12	16.5	
-75	"	"	30	55	10	11.1	石器 343	-836	"	"	46	46	8	9.4	
-354	"	"	22	26	7	3.2		-834	"	"	57	32	10	11.4	
-1050	"	"	21	30	7	3.5		-833	"	"	39	42	11	10.7	
-633	"	"	42	45	5	11.6		330-785	"	"	96	56	19	97.9	
-563	"	"	20	13	7	0.6		331	"	"	78	75	29	129.2	
-1013	"	"	57	39	12	18.1		-194	"	"	28	29	9	5.9	
-418	"	"	45	29	4	3.9		-209	"	"	69	61	23	123.3	
-674	"	"	54	49	11	23.3		332	"	"	165	52	24	163.7	
-274	"	"	35	18	5	2.5		-312	"	"	91	52	20	92.9	
-426	"	"	70	67	16	53.2		-318	"	"	99	43	17	70.8	
-343	"	"	41	32	9	9.4		333-1072	"	"	71	38	16	36.5	
-257	"	"	32	44	6	8.4		334-1026	"	"	86	55	9	19.5	
-720	"	"	27	36	6	6.5		335-689	"	"	70	68	17	50.1	
-386	"	"	24	34	6	4.2		336-940	"	"	48	31	8	5.6	
-133	"	"	37	44	15	15.8		337-64	"	"	80	34	13	25.8	
-285	"	"	43	46	15	20.3		338-85	"	"	69	35	17	27.6	
-342	"	"	82	74	18	103.8		339-311	"	"	113	65	29	140.5	
-313	"	"	72	82	15	62.1		340-151	"	"	92	39	23	52.4	
325	"	"	35	41	35	9.6		341-99	"	"	100	27	17	27.7	
-521	"	"	39	22	6	4.4		342-871	"	"	65	50	15	44.0	
-224	"	"	44	24	6	5.2		343-75	"	"	30	55	10	11.1	
326	"	"	41	42	34	24.0		344	"	"	99	59	28	89.2	
-276	"	"	40	17	5	2.7		-306	"	"	29	28	10	8.5	
-138	"	"	39	17	7	3.1		-201	"	"	31	21	9	3.1	
-291	"	"	37	16	4	1.9		-367	"	"	39	34	15	16.7	
-296	"	"	32	17	6	2.6		-988	"	"	70	58	18	60.9	
-56	"	"	45	27	8	8.8		345-90	SXQ99	"	151	77	33	337.6	
-351	"	"	46	20	5	4.9		346-58	"	"	166	84	56	490.1	
327	"	"	58	29	42	29.9		347	"	"	164	150	72	1034.9	
-660	"	"	30	19	6	2.9		-44	"	"	85	105	33	193.3	
-387	"	"	36	24	8	5.1		-17	"	"	72	50	13	32.4	
-274	"	"	40	12	6	2.5		-59	"	"	98	89	18	119.8	
-451	"	"	41	22	5	3.4		-3	"	"	53	49	11	22.0	
-764	"	"	33	24	7	5.3		-62	"	"	49	35	7	10.1	
-216	"	"	50	29	9	10.7		-32	"	"	37	43	7	7.3	
328	"	"	153	95	48	184.1		-24	"	"	37	32	5	5.1	
-373	"	"	52	66	18	55.0		-5	"	"	52	43	9	12.1	

第 23 表 石器観察表 (21)

NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			重量 (g)	備 考	NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			重量 (g)	備 考
			長	幅	厚						長	幅	厚		
347-9	SXQ99	頁岩	42	50	9	16.7		350-1423	SXQ92	頁岩	132	45	31	176.9	石器 355
-40	"	"	70	57	9	25.2		351	SXQ102	"	118	64	30	163.9	
-23	"	"	43	45	9	13.8		-262	"	"	28	16	7	1.7	
-4	"	"	49	33	8	11.4		-73	"	"	42	24	7	5.7	
-45	"	"	39	53	13	19.1		-441	SXQ73	"	29	47	5	6.1	
-39	"	"	33	37	5	4.4		-3	"	"	114	63	27	150.4	石器 356
-52	"	"	44	70	11	32.2		352	SXQ102	"	124	70	37	264.2	
-	"	"	45	28	4	4.5		-238	"	"	27	21	3	1.8	
-51	"	"	19	11	2	0.3		-609	SXQ73	"	26	28	2	1.5	
-37	"	"	31	27	9	5.1		-65	SXQ102	"	35	35	5	5.2	
-14	"	"	17	17	2	0.4		-134	"	"	32	29	3	2.4	
-84	"	"	15	21	2	0.5		-	SXQ80	"	29	14	3	0.6	
-64	"	"	36	40	10	9.1		-143	SXQ102	"	20	29	4	2.0	
-58	"	"	166	84	56	490.1	石器 346	-197	"	"	27	25	3	1.8	
348	SXQ102	"	187	94	36	317.8		-28	"	"	35	63	10	12.5	
-426	SXQ73	"	55	66	26	101.3	石器 359	-625	SXQ73	"	126	64	32	236.4	石器 357
-459	"	"	33	39	11	9.5		353	SXQ102	"	136	82	37	340.6	
-530	"	"	19	32	5	2.8		-171	"	"	30	45	7	6.6	
-176	"	"	31	23	4	1.8		-618	SXQ73	"	45	34	7	13.0	
-124	SXQ102	"	24	36	6	5.4		-108	SXQ102	"	49	39	8	14.3	
-520	SXQ73	"	59	42	3	14.8		-71	"	"	36	31	9	8.9	
-88	SXQ102	"	49	55	10	27.2		-168	"	"	51	58	10	18.8	
-123	"	"	21	35	6	4.5		-104	"	"	21	37	10	7.0	
-124	"	"	23	44	10	8.6		-596	SXQ73	"	18	35	5	3.5	
-123	"	"	30	51	6	6.5		-24	"	"	59	69	28	114.7	
-526	SXQ73	"	36	40	7	6.0		-108	SXQ102	"	44	33	8	9.3	
-158	SXQ102	"	23	29	4	2.3		-116	"	"	34	22	6	4.7	
-179	"	"	36	28	6	4.1		-23	SXQ73	"	84	63	24	133.4	石器 358
-617	SXQ73	"	48	36	5	6.2		-237	SXQ102	"	32	31	5	2.9	
-136	SXQ102	"	58	41	6	13.0		-517	SXQ73	"	19	30	7	3.5	
-551	SXQ73	"	25	21	4	1.6		354-18	SXQ102	"	114	66	32	192.2	
-135	SXQ102	"	60	71	17	56.0		355-1423	SXQ92	"	132	45	31	176.9	
-69	"	"	62	47	13	38.9		356-3	SXQ73	"	114	63	27	150.4	
-107	"	"	26	20	7	2.4		357-625	"	"	126	64	32	236.4	
-29	"	"	35	34	4	3.2		358-23	"	"	84	63	24	133.4	
-167	SXQ73	"	31	14	3	1.1		359-426	"	"	55	66	26	101.3	
-374	SXQ102	"	23	13	3	0.6		360-327	SXQ104	"	78	29	19	37.9	
349	"	"	180	86	48	500.3		361	"	"	119	73	25	36.6	
-110	"	"	49	27	8	10.1		-182	"	"	36	29	3	3.3	
-529	SXQ73	"	38	45	7	9.3		-80	"	"	22	22	2	0.8	
-140	SXQ102	"	39	44	16	23.1		-233	"	"	24	25	3	1.6	
-175	"	"	71	79	27	162.5		-167	"	"	41	26	3	2.6	
-179	"	"	116	70	26	295.3		-168	"	"	37	46	3	3.2	
350	"	"	134	70	34	261.0		-192	"	"	30	23	4	1.7	
-147	"	"	22	34	7	4.3		-197	"	"	28	30	3	3.3	
-106	"	"	25	32	6	3.4		-	"	"	44	31	6	6.9	
-111	"	"	30	38	7	7.1		-178	"	"	53	44	8	14.7	
-203	"	"	43	43	7	11.5		-227	"	"	36	35	3	4.6	
-57	"	"	27	26	5	2.5		-223	"	"	29	24	3	2.2	
-176	"	"	44	54	14	19.4		-235	"	"	22	21	4	1.2	
-174	"	"	34	35	12	10.1		-205	"	"	50	64	7	14.6	
-57	"	"	25	20	4	2.6		-167	"	"	40	31	3	3.1	
-58	"	"	25	35	4	3.3		-60	"	"	19	19	3	0.6	
-301	"	"	11	33	2	0.5		-205	"	"	26	29	5	3.1	
-66	"	"	33	41	3	2.5		-244	"	"	43	45	13	16.8	
-207	"	"	26	39	5	4.1		-80	"	"	17	19	3	0.9	
-224	"	"	14	29	3	1.6		-213	"	"	22	31	2	1.4	
-217	"	"	18	23	3	0.9		362	"	"	156	92	30	153.4	
-357	"	"	27	14	5	4.1		-203	"	"	50	52	8	11.2	
-218	"	"	32	39	4	5.3		-237	"	"	23	31	4	2.7	
-1463	SXQ92	"	14	21	3	0.9		-209	"	"	29	30	4	3.1	

第24表 石器観察表 (22)

NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			重量 (g)	備考	NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			重量 (g)	備考
			長	幅	厚						長	幅	厚		
362-222	SXQ104	頁岩	54	44	4	6.4		366-119	SXQ104	頁岩	74	65	8	52.5	
- 99	"	"	37	33	7	7.4		-285	"	"	31	37	9	7.3	
-199	"	"	23	35	7	2.9		-329	"	"	16	12	3	0.3	
-206	"	"	37	42	8	8.9		-308	"	"	50	40	10	15.5	
-213	"	"	14	13	3	0.4		-224	"	"	90	83	20	117.5	
- 87	"	"	24	25	4	1.9		-272	"	"	35	50	4	6.8	
-212	"	"	81	57	7	27.1		-150	"	"	50	53	11	19.5	
- 41	"	"	87	65	11	54.7		-330	"	"	15	32	8	3.0	
- 43	"	"	72	35	10	12.3		- 65	"	"	87	85	16	68.2	
-180	"	"	30	36	7	5.8		367	"	"	174	111	42	280.6	
- 42	"	"	32	25	5	2.5		-138	"	"	56	65	25	53.4	
-199	"	"	37	31	6	6.1		-284	"	"	35	24	7	4.8	
363	"	"	132	76	34	103.0		-282	"	"	44	57	13	25.2	
-100	"	"	41	40	11	14.2		-108	"	"	75	82	16	49.9	
- 17	"	"	40	31	9	8.9		-291	"	"	53	77	16	43.7	
-307	"	"	56	56	8	20.7		-303	"	"	38	28	6	3.1	
-286	"	"	41	21	5	3.9		- 14	"	"	48	40	4	8.0	
-166	"	"	36	29	7	5.5		-109	"	"	52	63	6	15.6	
-133	"	"	35	24	8	4.9		-112	"	"	35	34	6	6.3	
-124	"	"	55	47	9	16.9		-356	"	"	41	37	7	7.6	
-301	"	"	23	47	4	4.4		- 9	"	"	53	60	10	16.1	
-102	"	"	49	58	6	14.0		- 2	"	"	23	25	7	3.3	
-333	"	"	31	30	6	3.0		-353	"	"	25	32	3	1.8	
-273	"	"	33	33	9	6.6		-121	"	"	33	15	3	1.1	
364	"	"	120	86	22	79.6		-295	"	"	34	7	2	1.0	
- 18	"	"	52	54	10	17.4		-317	"	"	35	29	4	3.3	
- 20	"	"	53	65	6	16.4		-262	"	"	38	40	7	5.6	
-106	"	"	53	42	5	8.2		-135	"	"	62	52	17	30.8	
-162	"	"	28	19	4	1.8		368- 20	SXQ115	"	52	30	8	12.4	
-334	"	"	36	28	4	2.6		369- 39	"	黒曜石	30	20	8	4.9	
-132	"	"	25	27	3	1.2		370- 61	"	頁岩	92	38	8	45.2	
-268	"	"	28	28	5	2.2		371	SXQ150	"	144	74	34	255.8	
-121	"	"	33	30	7	4.5		-179	"	"	85	69	18	130.5	
-136	"	"	35	39	8	7.0		-143	"	"	84	79	22	125.3	
-305	"	"	27	31	4	1.8		372-153	"	"	91	33	13	37.8	
-285	"	"	27	29	6	3.2		373-149	"	"	75	44	15	47.2	
-140	"	"	23	21	5	1.9		374	"	"	148	96	56	370.1	
-304	"	"	39	28	3	2.2		-154	"	"	62	55	21	53.7	
-283	"	"	19	12	2	0.3		- 46	"	"	16	18	2	0.6	
-256	"	"	12	16	2	0.2		- 64	"	"	81	30	16	52.5	
-128	"	"	14	25	3	0.6		- 61	"	"	63	41	13	34.6	
-134	"	"	37	49	8	6.2		- 95	"	"	30	41	12	11.9	
-	"	"	11	20	7	0.6		-242	"	"	81	37	19	34.6	
-	"	"	15	15	2	0.3		-252	"	"	25	31	9	5.6	
-	"	"	17	10	2	0.2		-173	"	"	25	41	12	11.6	
365	"	"	138	114	45	233.7		-114	"	"	21	23	4	1.5	
-215	"	"	87	90	20	125.8		-136	"	"	20	17	4	1.4	
-313	"	"	91	72	13	45.0		-172	"	"	39	19	7	2.5	
-410	"	"	28	42	8	7.7		-205	"	"	18	21	2	0.2	
-133	"	"	42	64	11	18.8		-354	"	"	24	19	7	2.5	
-254	"	"	47	60	10	17.9		-105	"	"	52	48	13	17.8	
-260	"	"	40	32	6	5.2		-173	"	"	44	43	12	17.2	
-273	"	"	21	23	5	1.2		- 59	"	"	40	50	13	38.9	
-296	"	"	49	23	6	4.4		-187	"	"	54	64	14	40.3	
-261	"	"	46	27	9	7.7		-205	"	"	17	23	3	1.5	
366	"	"	177	132	45	436.4		- 29	"	"	21	20	5	2.2	
-118	"	"	67	73	17	63.6		-214	"	"	39	23	11	7.4	
-156	"	"	28	44	11	7.0		-214	"	"	59	30	6	7.6	
-141	"	"	66	36	15	28.0		-207	"	"	43	34	1	4.7	
-340	"	"	62	51	17	38.7		-144	"	"	54	44	7	9.0	
-154	"	"	44	36	7	8.5		-121	"	"	33	18	5	1.9	

第 25 表 石器観察表 (23)

NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			重量 (g)	備 考	NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			重量 (g)	備 考
			長	幅	厚						長	幅	厚		
374-175	SXQ150	頁岩	43	29	8	8.1		377	SXQ150	頁岩	110	86	36	97.9	
375	"	"	200	122	79	598.4		-205	"	"	20	32	5	2.6	
-155	"	"	95	91	25	99.3		-34	"	"	11	18	3	0.6	
-56	"	"	45	75	13	29.2		-34	"	"	15	27	3	0.6	
-182	"	"	24	23	5	1.8		-34	"	"	12	16	2	0.6	
-26	"	"	61	37	7	11.2		-34	"	"	32	60	6	6.1	
-32	"	"	23	23	5	2.0		-46	"	"	17	6	2	0.1	
-377	"	"	17	15	5	1.0		-151	"	"	49	25	10	10.5	
-148	"	"	38	36	4	3.8		-197	"	"	24	32	4	2.5	
-3	"	"	45	51	14	24.2		-174	"	"	22	30	6	3.7	
-27	"	"	17	22	3	0.8		-127	"	"	25	30	7	3.9	
-55	"	"	41	24	4	2.9		-27	"	"	17	26	6	1.9	
-23	"	"	41	26	4	2.4		-146	"	"	35	44	10	8.3	
-196	"	"	35	21	2	1.7		-348	"	"	20	26	4	1.3	
-69	"	"	38	32	4	3.2		-345	"	"	18	18	4	1.0	
-107	"	"	38	40	8	6.6		-207	"	"	29	27	7	2.4	
-62	"	"	19	71	12	27.8		-203	"	"	66	79	10	29.8	
-63	"	"	63	32	4	7.1		-358	"	"	18	14	2	0.3	
-173	"	"	21	22	3	0.9		-50	"	"	44	49	11	15.9	
-227	"	"	40	38	5	4.0		-178	"	"	19	11	6	0.8	
-16	"	"	43	33	8	9.7		-213	"	"	37	18	7	3.7	
-148	"	"	33	18	4	1.4		-180	"	"	19	19	2	1.1	
-138	"	"	25	23	4	1.7		378-17	SXQ151	"	114	66	17	89.6	
-126	"	"	25	48	8	7.0		379-18	"	"	64	134	19	133.5	
-70	"	"	16	12	3	0.5		380-1	SXQ154	"	90	55	17	98.0	
-210	"	"	11	12	2	0.2		381-19	"	安山岩	258	186	47	228.7	
-140	"	"	26	34	5	2.6		382	SXQ160	頁岩	234	226	84	1158.9	
-139	"	"	9	18	3	0.4		-7	"	"	66	76	15	59.6	
-142	"	"	34	53	9	13.0		-4	"	"	45	54	13	24.3	
-215	"	"	38	21	5	4.5		-6	"	"	42	27	10	10.9	
-69	"	"	26	17	6	2.1		-11	"	"	55	54	14	32.4	
-212	"	"	22	11	3	1.0		-5	"	"	44	37	12	13.6	
-28	"	"	55	50	11	26.3		-2	"	"	67	98	39	187.4	
-6	"	"	41	45	11	15.7		-1	"	"	140	122	53	828.2	
-102	"	"	34	43	7	9.9		-8	"	"	28	20	4	2.4	
-223	"	"	43	41	8	7.2		383-76	SX46	安山岩	80	81	61	552.4	
-49	"	"	29	65	7	9.7		384-139	"	"	116	81	57	693.9	
-149	"	"	75	44	15	47.2	石器 373	385-1321	SXH19	頁岩	29	9	4	1.1	
-	"	"	21	19	2	0.6		386-2833	"	"	40	25	6	5.9	
-	"	"	12	15	2	0.3		387-1204	"	"	43	29	7	8.4	
376	"	"	156	86	36	386.0		388-1617	"	"	36	21	6	4.9	
-4	"	"	23	31	11	5.5		389-1656	"	"	31	19	7	3.6	
-71	"	"	33	30	8	5.7		390-1295	"	"	51	22	6	8.1	
-208	"	"	41	39	10	8.7		391-1260	"	"	24	19	16	2.8	
-181	"	"	24	15	8	1.3		392-85	"	"	112	51	24	129.4	
-98	"	"	27	13	3	0.8		393	SXQ48	"	80	130	26	210.7	
-38	"	"	9	11	1	0.1		-RQ12	"	"	72	113	22	123.4	
-39	"	"	21	15	2	0.7		-RQ13	"	"	96	85	16	83.3	
-202	"	"	25	25	5	2.4		394	"	"	59	59	9	29.8	
-179	"	"	85	69	18	130.5	石器 371	-RQ2	"	"	53	30	9	12.3	
-224	"	"	25	55	4	4.8		-RQ11	"	"	57	42	9	17.6	
-210	"	"	17	17	2	0.6		395-15	"	"	61	62	11	34.0	
-30	"	"	46	52	7	11.4		396-8	"	"	65	63	16	45.4	
-87	"	"	43	30	6	4.6		397-9	"	"	83	61	11	67.8	
-94	"	"	33	59	18	25.3		398-14	"	"	50	31	10	11.1	
-226	"	"	31	30	9	6.0		399--	SXP11	"	33	9	5	1.5	
-205	"	"	15	17	2	0.4		400--	"	"	27	20	2	1.0	
-201	"	"	41	23	7	7.3		401-5	"	"	45	39	6	6.5	
-205	"	"	41	23	7	7.3		402-177	"	"	29	15	7	2.7	
-24	"	"	59	63	10	37.3	石器 371	403-54	"	"	79	21	5	9.4	
-143	"	"	84	79	22	125.3	" 371	404-6	"	"	36	23	4	3.6	

第26表 石器観察表 (24)

NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			重量 (g)	備考	NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			重量 (g)	備考
			長	幅	厚						長	幅	厚		
405	SXQ17	頁岩	132	85	26	281.4		435-11691	SXQ43	頁岩	29	36	8	11.0	
-1433	"	"	85	87	25	215.7		-11433	"	"	26	21	10	3.5	
-2106	"	"	58	71	16	65.7		436	"	"	117	100	25	223.2	
406-2188	"	"	22	10	2	0.4		-9680	"	"	10	100	22	164.6	
407	"	"	54	36	7	18.0		-10742	"	"	36	59	25	36.7	
-2139	"	"	24	32	6	4.7		-10659	"	"	74	25	18	21.9	
-9567	"	"	34	37	7	13.3		437-7852	"	"	66	75	19	83.1	
408-2158	"	"	81	41	11	39.2		438	"	"	111	63	27	172.9	
409-2157	"	"	86	45	12	55.4		-11406	"	"	85	62	23	100.5	
410-2156	"	"	91	43	19	70.0		-11183	"	"	87	60	20	72.4	
411-2184	"	"	86	13	7	8.3		439-10749	"	"	54	42	14	31.5	
412-748	"	"	56	26	6	9.5		440	"	"	46	78	16	49.0	
413-751	"	"	35	27	8	6.4		-11130	"	"	36	68	16	34.7	
414-2160	"	"	45	32	6	8.1		-9633	"	"	45	52	8	14.3	
415-2183	"	"	60	33	6	10.6		441-12279	"	"	79	29	12	27.4	
416-2170	"	"	89	41	15	39.8		442-7866	"	"	62	31	12	20.1	
417-2069		安山岩	78	75	32	167.4		443-12842	SXQ44	"	19	12	3	0.6	
418	SXQ20	頁岩	72	88	34	124.4		444-8811	"	"	14	14	2	0.7	
-2612	"	"	69	53	14	37.7		445-9945	"	"	35	21	6	3.9	
-2577	"	"	76	43	14	40.3		446-9172	"	"	44	31	9	9.1	
-5066	"	"	69	73	17	46.4		447-7327	"	"	34	16	5	3.0	
419	"	"	54	51	17	20.0		448-10162	"	"	43	27	4	5.1	
-5691	"	"	49	33	8	5.9		449-8370	"	"	50	27	5	6.5	
-4721	"	"	49	23	8	7.8		450-9935	"	"	40	28	9	9.7	
-4705	"	"	29	27	7	3.4		451-10528	"	"	34	23	8	6.8	
-5636	"	"	34	20	5	2.9		452	"	"	80	32	10	26.0	
420	"	"	50	67	25	72.1		-8230	"	"	36	28	8	8.7	
-5427	"	"	44	38	14	20.6		-8792	"	"	47	32	10	17.3	
-5870	"	"	17	20	14	3.0		453-9295	"	"	56	47	15	43.2	
-5136	"	"	45	37	10	12.8		454-8786	"	安山岩	76	87	32	176.3	
-5429	"	"	40	25	10	3.8		455-12087	SXQ45	頁岩	75	54	21	92.7	
-5158	"	"	44	41	14	21.2		456-10981	"	"	87	52	14	66.8	
-2275	"	"	47	31	8	10.7		457-11907	"	"	77	36	16	36.7	
421-2531	"	"	167	65	33	206.0		458-12102	"	"	39	39	9	12.1	
422	SXQ21	"	102	75	21	134.5		459-10967	"	"	71	55	23	58.7	
-4608	"	"	76	80	16	101.7		460-10910	"	"	35	28	7	6.3	
-4609	"	"	50	80	11	32.8		461-12470	"	"	46	50	11	28.7	
423-4618	"	"	97	47	12	65.2		462-13	SXQ63	"	153	92	76	807.9	
424-4593	"	"	60	45	17	42.0		463-	"	"	68	52	18	51.6	
425-6983	"	"	137	230	50	1532.1		464	SXQ87	"	255	140	155	3522.0	
426-2448	SXQ22	"	80	67	17	85.1		-9	"	"	45	32	7	8.9	
427-6975	"	"	42	56	10	22.9		-24	"	"	28	26	3	1.5	
428-3833	"	"	58	50	17	47.7		-5	"	"	35	31	4	3.8	
429-6815	"	"	30	26	6	3.8		-13	"	"	22	41	5	10.7	
430-3839	"	"	34	22	2	2.2		-42	"	"	24	20	5	1.5	
431-2459	"	"	85	43	15	53.4		-9	"	"	41	42	5	8.6	
432-3817	"	"	95	58	21	110.8		-11	"	"	44	36	5	10.8	
433-3799	"	"	54	31	12	20.3		-36	"	"	54	100	39	220.3	
434-	"	"	51	40	13	192.8		-13	"	"	68	69	17	67.3	
435	SXQ43	"	87	75	30	95.9		-8	"	"	38	34	14	13.3	
-10679	"	"	61	45	14	36.9		-42	"	"	31	25	8	4.4	
-11227	"	"	40	33	13	16.8		-18	"	"	75	55	14	42.5	
-9747	"	"	35	26	6	4.6		-37	"	"	15	21	5	1.1	
-10674	"	"	30	28	9	6.7		-33	"	"	80	79	14	67.9	
-11686	"	"	27	35	12	7.2		-2	"	"	42	38	8	13.4	
-9825	"	"	17	32	4	2.0		-8	"	"	12	22	6	1.4	
-12569	"	"	28	19	3	2.0		-32	"	"	100	65	38	275.5	
-10682	"	"	15	18	3	1.5		-7	"	"	54	36	8	14.0	
-9744	"	"	24	13	4	1.5		-6	"	"	80	82	26	138.2	
-10676	"	"	15	14	3	0.8		-6	"	"	60	37	8	5.9	
-12477	"	"	18	22	2	1.4		-6	"	"	42	17	4	2.8	

第27表 石器観察表(25)

NO.	出土位置	石質	大きさ(mm)			重量 (g)	備考	NO.	出土位置	石質	大きさ(mm)			重量 (g)	備考
			長	幅	厚						長	幅	厚		
464-	MJ62	頁岩	120	79	18	147.8		490	SQ54	安山岩	266	150	24	337.9	
-	MJ62	"	117	112	60	598.0		-	"	"	159	156	36	1288.5	
-23	SXQ87	"	61	83	21	78.7		-	ME55	"	183	148	38	1220.5	
-23	"	"	14	19	5	1.2		-7715	SQ54	"	190	139	36	878.9	
-31	"	"	70	64	16	78.7		491-	SXP42	頁岩	26	18	4	1.3	
-20	"	"	65	72	19	88.4		492-	SK04	安山岩	105	62	42	391.8	
-38	"	"	120	137	87	1305.0		493-	SKP65	頁岩	100	96	16	67.4	
-41	"	"	82	83	21	155.7		494-	"	"	87	45	22	94.0	
-14	"	"	69	80	13	63.6		495	ML60	"	39	22	4	2.7	
-39	"	"	77	54	21	78.7		496	"	"	75	37	14	21.4	
-29	"	"	42	31	7	6.7		497	MK59	"	43	52	11	24.0	
-12	"	"	74	52	17	69.4		498	MM53	"	223	70	55	666.8	
-21	"	"	36	22	9	6.9		499	M154	"	73	25	7	10.4	
-30	"	"	32	26	4	1.5		500	"	"	42	32	7	10.5	
-11	"	"	70	130	62	564.8		501	MJ61	"	90	76	28	182.1	
-22	"	"	42	38	8	13.4		502	M157	"	20	13	4	0.7	
465	SXQ138	"	143	207	57	1882.8		503	M154	"	36	35	6	7.0	
-	MD53	"	74	86	28	158.4		504	M155	"	89	52	17	63.1	
-34	SXQ138	"	78	105	17	174.5		505	M154	"	89	45	20	49.0	
-40	"	"	75	101	35	140.2		506	MJ61	"	76	34	18	36.2	
-61	"	"	42	64	14	29.2		507	"	"	23	15	5	1.3	
-65	"	"	80	107	38	211.2		508	MG61	"	92	32	18	41.4	
-	MD53	"	58	72	15	53.9		509	M157	"	65	19	8	6.4	
-49	SXQ138	"	78	100	18	120.1		510	"	"	65	40	20	36.9	
-36	"	"	52	83	21	72.8		511	MH55	"	36	22	50	3.3	
-32	"	"	128	55	52	288.0		512	MJ56	"	42	30	8	8.8	
-60	"	"	93	220	42	634.5		513	MH56	"	59	34	14	20.1	
466	"	"	296	176	116	3146.5		514	MH55	"	57	63	16	37.9	
-53	"	"	126	126	37	343.1		515	MH56	"	36	25	7	5.7	
-132	"	"	92	102	33	160.0		516	M157	"	43	39	11	14.4	
-	MC52	"	95	142	31	282.6		517	"	"	41	45	12	18.3	
-55	SXQ138	"	95	100	22	145.2		518	"	"	88	50	22	79.6	
-51	"	"	114	111	33	347.9		519	MJ57	"	114	82	48	364.5	
-64	"	"	104	123	34	245.0		520	MC52	"	107	36	14	41.6	
-48	"	"	98	150	84	975.5		521	MH53	"	104	47	26	115.9	
-50	"	"	56	85	30	86.1		522	MC53	"	85	53	19	77.8	
-46	"	"	78	117	51	402.0		523	"	"	93	50	24	72.0	
-28	"	"	64	118	25	159.1		524	"	"	53	69	20	65.2	
467-281	"	"	42	27	6	7.4		525	MC52	"	92	50	16	64.1	
468-321	"	"	71	38	25	63.8		526	MH59	"	59	41	14	28.9	
469-320	"	"	71	40	16	42.4		527	MH58	"	31	54	20	28.9	
470-184	"	"	103	49	15	81.6		528	MH57	"	59	37	14	21.4	
471-2	"	"	40	14	5	3.8		529	MH59	"	47	86	12	28.4	
472-177	"	"	53	22	6	7.6		530	MH58	"	98	68	40	191.9	
473-232	"	"	79	43	14	50.0		531	MC57	"	108	48	23	103.8	
474-57	"	"	55	35	10	15.4		532	MC55	"	39	68	12	18.8	
475-192	"	"	74	74	17	101.8		533	MC56	"	130	52	29	144.3	
476-136	"	"	72	84	17	127.2		534	MC53	"	93	39	16	54.8	
477-68	"	"	146	48	17	121.8		535	ME58	"	84	53	16	59.2	
478-284	"	"	75	39	7	20.0		536	"	"	88	88	16	100.8	
479-16	"	"	50	46	10	23.8		537	MF58	"	172	143	43	985.5	
480-255	"	"	36	34	6	7.7		538	MF57	"	19	19	4	1.7	
481-197	"	安山岩	171	74	41	509.7		539	MD58	"	138	68	16	94.9	
482-145	"	"	157	71	32	448.5		540	MD59	"	88	31	10	25.1	
483-150	"	"	119	51	38	242.0		541	ME60	"	80	29	12	25.6	
484-110	"	"	98	74	34	229.4		542	LT58	"	81	50	11	37.1	
485-223	"	"	97	66	37	281.0		543	MD57	"	85	47	11	35.7	
486-160	"	"	107	99	63	643.3		544	LT57	"	117	54	21	102.7	
487-117	"	"	135	118	33	325.7		545	MF61	"	55	66	8	18.0	
488-58	"	頁岩	87	77	50	380.7		546	MB57	"	61	28	9	5.9	
489-49	SXQ143	"	87	57	14	75.4		547	ME59	"	123	72	21	124.4	

第28表 石器観察表 (26)

NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			重量 (g)	備 考	NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			重量 (g)	備 考
			長	幅	厚						長	幅	厚		
548	ME59	頁岩	90	78	23	124.2		596	MA52	"	86	52	14	61.2	
549	LO50	"	79	52	13	43.8		597	ML51	"	18	45	19	89.1	
550	LL50	"	107	82	32	242.6		598	LT52	"	106	51	18	60.9	
551	MB57	"	51	67	12	38.0		599	ME61	"	84	43	20	62.0	
552	MA58	"	76	54	28	77.2		600	MJ55	"	89	27	10	16.8	
553	MD59	"	108	64	30	189.4		601	LL49	"	81	29	9	13.3	
554	MA58	"	165	50	32	208.5		602	MH54	"	42	26	6	5.3	
555	"	"	100	51	16	68.3		603	MN55	"	87	27	10	12.3	
556	MC58	"	111	62	28	149.4		604	MD57	"	69	38	18	36.1	
557	MA57	"	173	97	42	486.6		605	ME49	"	111	33	16	41.6	
558	MA57	"	160	190	28	968.8		606	MA59	"	106	58	27	101.4	
559	"	"	290	196	62	2587.2		607	-	"	114	52	33	181.7	
560	MB58	"	90	34	13	37.1		608	MB51	"	99	60	24	84.1	
561	MA59	"	53	41	11	20.5		609	ME56	頁岩	79	87	20	133.5	
562	MB59	"	35	42	11	12.7		610	-	"	70	105	19	92.4	
563	MC57	"	84	38	10	26.1		611	ME55	"	75	44	17	47.6	
564	MB60	"	61	47	8	15.4		612	MC55	"	174	113	48	555.9	
565	MB58	"	67	60	12	33.9		613	MD56	"	108	49	48	66.9	
566	MB59	"	39	29	60	5.9		614	MG61	"	93	38	15	40.8	
567	"	"	80	81	18	102.2		615	MB51	"	98	55	23	76.0	
568	"	"	87	88	22	141.5		616	LL49	"	57	140	29	176.0	
569	LT59	"	85	58	11	30.5		617	MB54	"	69	37	13	19.8	
570	MD60	"	78	71	14	71.3		618	MB53	"	91	52	18	84.9	
571	LT57	"	129	78	24	184.6		619	MD54	"	91	25	14	31.3	
572	MD59	"	70	58	16	49.1		620	MC58	"	114	80	20	119.9	
573	MB60	"	123	113	52	758.8		621	MM57	蛇紋岩	132	51	28	307.2	
574	LT56	"	231	87	47	780.1		622	ME46	頁岩	145	98	43	227.8	
575	ME60	"	75	66	17	56.1		623	LS55	安山岩	94	64	24	222.5	
576	LR48	"	112	81	36	265.5		624	MC46	頁岩	188	108	46	691.3	
577	ME55	"	136	132	40	925.3		625	MB54	安山岩	123	82	49	412.0	
578	MM55	"	22	14	6	1.3		626	MF62	泥岩	103	103	43	610.5	
579	ML60	"	24	14	4	0.5		627	-	頁岩	157	69	34	311.6	
580	M157	"	36	12	3	1.2		628	MF53	"	94	43	24	69.1	
581	MC55	"	44	14	4	1.7		629	MM57	"	65	30	14	44.1	
582	LQ49	"	35	13	4	1.6		630	-	"	74	47	21	61.3	
583	MB54	"	29	25	6	4.1		630	-	"	74	47	21	61.3	
584	MA53	"	45	35	8	9.5		631	MD56	"	77	48	30	82.6	
585	ML57	"	50	21	10	6.8		632	LT56	"	75	44	12	38.6	
586	MD55	"	85	51	25	60.9		633	LT58	"	64	28	13	19.8	
587	M151	"	79	40	23	64.1		634	-	"	37	27	7	5.9	
588	ME55	"	89	39	26	74.0		635	ML55	"	78	44	15	32.9	
589	MM53	"	90	46	15	53.6		636	MA54	"	60	46	15	35.9	
590	MB52	"	102	45	28	87.2		637	M150	"	38	34	11	12.2	
591	-	"	85	43	15	38.7		638	-	"	76	46	11	35.4	
592	LT55	"	85	52	20	60.4		639	MK55	"	45	37	13	21.1	
593	-	"	91	45	21	82.9		640	MC61	"	53	50	19	36.5	
594	MF60	"	70	43	16	40.0		641	-	"	98	66	68	383.2	
595	M157	"	76	41	15	40.2		642	MD55	"	176	136	66	1260.7	

第5章 自然科学分析

第1節 年代測定

1 学習院大学放射性炭素年代測定

(1) 1991年度分(1991年7月22日付報告)

1991年6月27日受領致しました試料についての年代測定の結果を下記の通り御報告致します。なお年代値の算出には ^{14}C の半減期としてLIBBYの半減期5570年を使用しています。また付記した誤差は β 線の計数値の標準偏差 σ にもとずいて算出した年数で、標準偏差(ONE SIGMA)に相当する年代です。また試料の β 線計数率と自然計数率の差が 2σ 以下のときは、 3σ に相当する年代を下限の年代値(B.P.)として表示してあります。また試料の β 線計数率と現在の標準炭素(MODERN STANDARD CARBON)についての計数率との差が 2σ 以下のときには、Modernと表示し、 $\delta^{14}\text{C}\%$ を付記してあります。

記

Code No.	試料	年代(1950年よりの年数)
GaK-15803	Charcoal from 岩瀬遺跡	8,430 \pm 130
	試料-1 SN08	6,480 B.C.
GaK-15804	Charcoal from 岩瀬遺跡	7,460 \pm 170
	試料-2 SN16	5,510 B.C.

以上 木越邦彦

(2) 1993年度分(1994年3月28日付報告)

1994年1月10日受領致しました試料についての年代測定の結果を下記の通り御報告致します。なお年代値の算出には ^{14}C の半減期としてLIBBYの半減期5570年を使用しています。また付記した誤差は β 線の計数値の標準偏差 σ にもとずいて算出した年数で、標準偏差(ONE SIGMA)に相当する年代です。また試料の β 線計数率と自然計数率の差が 2σ 以下のときは、 3σ に相当する年代を下限の年代値(B.P.)として表示してあります。また試料の β 線計数率と現在の標準炭素(MODERN STANDARD CARBON)についての計数率との差が 2σ 以下のときには、Modernと表示し、 $\delta^{14}\text{C}\%$ を付記してあります。

2 岩瀬遺跡の考古地磁気調査

(1) はじめに

岩瀬遺跡の焼土遺構、集石炉、炉跡等から試料を採集し古地磁気研究を行った。研究の目的

記

Code No.	試料	年代 (1950年よりの年数)
GaK-17801	炭化物 from 岩瀬遺跡	10,050 ± 150
	試料-1 (SQ77)	8,100 B.C.
GaK-17802	炭化物 from 岩瀬遺跡	10,910 ± 170
	試料-2 (SXQ60 炉1)	8,960 B.C.

以上 木越邦彦

は獲得されている磁化の性質を調べることで、および年代を推定することである。

(2) 試料および処理について

採集試料の一覧表を第29表に示す。表には遺構名、便宜的に付した試料名、遺構の種類、考古年代が示してある。焼土の場合はポリカーボネイト製のキューブを地中に挿入して試料を採集した。集石遺構の場合には、現場で水平線、磁北の方向を石に記入しておき、実験室内で水平を再現し、コアピッカーを用いて直径25mmの円筒状試料を作成した。一つの石からできるだけ多くの試料を作成するようにした。

作成した試料に対して、スピナー磁力計を用いた磁化強度、方向測定、段階交流消磁操作による磁化の安定性チェック、熱磁気分析による磁性鉱物の同定、キュリー点の測定、段階熱消磁による最終加熱温度の推定、帯磁率測定を行った。

(3) 測定結果および考察

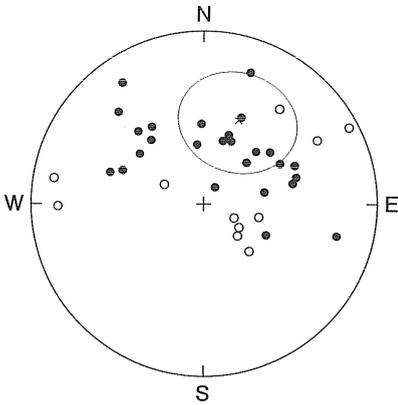
古地磁気測定による配石遺構の磁化方向分布はばらつく傾向にあることが試料全般に共通の性質である。例えば、SQ30およびSQ35試料の交流消磁後の磁化方向分布を第278図、第279図に示す。磁化方向が大きくばらついた分布をしている。しかし、偏角方向に引き伸ばした系統的な分布傾向が見える。また、磁化の反転している試料があることから、SQ30、SQ35

第29表 岩瀬遺跡採集試料一覧

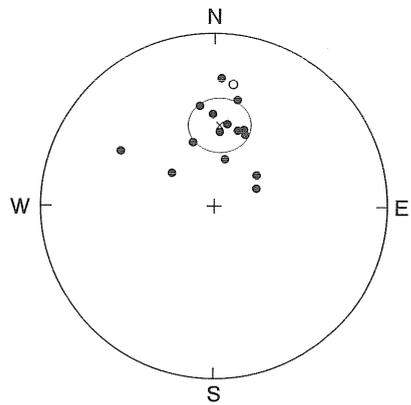
遺構名	試料名	遺構の種類	考古年代
SN08	IW08	焼土	縄文時代早期
SN16	IW16	焼土	縄文時代草創
SXQ21	北側 IWX1	石器集中部	縄文時代前期
	南側 IWX2	〃	〃
SQ30	IW30	集積炉	縄文時代草創
SQ33	IW33	〃	〃
SQ35	IW35	〃	〃
SXQ60 炉跡 1	IW60	炉跡	縄文時代草創
SQ68	IW68	集積炉	〃
SQ77	IW77	〃	縄文時代早期
SXQ125	IW125	石器集中部	〃
SQ127	IW127	集石炉	〃
SQ153	IW153	〃	〃

は川の氾濫等による攪乱を受けており、石自体が回転、あるいは反転したものと考えられる。石の形が扁平であることから、外部の力によって裏返しになるよりも回転作用の方が大きかったと予想できる。発掘されたときの状態は多分、それほど強くない攪乱作用を受けた後の状態であろう。

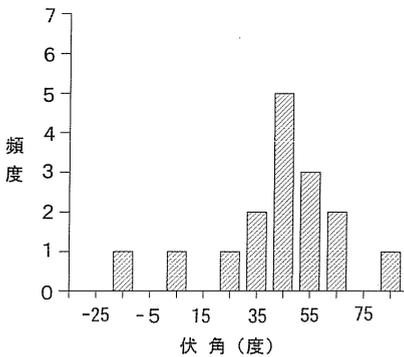
SXQ60 炉跡 1 の測定では磁化強度は集石の中心部分が周辺部に比べて大きく、強度・磁化方向のばらつきは周辺部の方が大きかった。この事実から、よく焼かれた中心部の石が外側に移動した、あるいは、石自体が回転したと考えてよいであろう。SQ68 では磁化方向のばらつきは配石の外側の試料の方が大きかった。また、SQ77 では同じ石から採集した試料でも磁化方向、磁化強度に大きな変動が見られた。このことから熱の影響は局部的でありその石が移動、



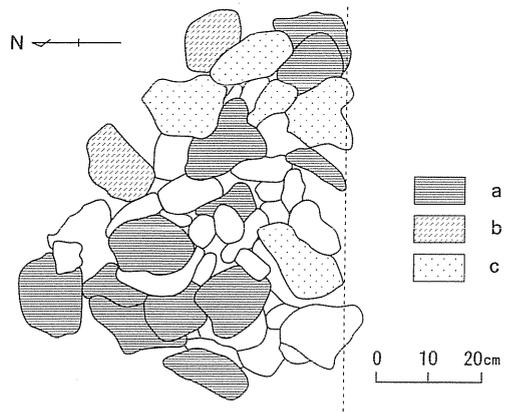
第 278 図 SQ30 試料交流消磁後の磁化方向



第 279 図 SQ35 試料交流消磁後の磁化方向



第 280 図 SQ30 試料の伏角頻度分布



第 281 図 SQ30 集石炉最終加熱時温度分布図

第30表 岩瀬遺跡考古地磁気測定結果一覧

遺構名	試料名	試料数	偏角(度)	伏角(度)	95%信頼区間(度)	精密度パラメータ	考古地磁気推定年代
SN08	IW08	30	-4.87	56.84	5.06	62.75	6000B.P.~6500B.P.または8000B.P.~8500B.P.
SN16	IW16	23	3.60	60.69	5.15	52.30	10000B.P.~11000B.P.
SXQ21	北側 IWX1	3	37.56	28.22	69.03	4.27	—
	南側 IWX2	5	-17.71	35.01	53.79	2.98	—
SQ30	IW30	30(52)	18.13	57.69	25.21	1.60	10500B.P. より古い
SQ33	IW33	11(15)	52.99	-14.26	28.07	2.83	—
SQ35	IW35	12(21)	-3.15	55.37	11.81	8.62	10500B.P. より古い
SXQ60	IW60	8	53.44	72.41	45.07	2.47	—
SQ68	IW68	28	-37.71	5.22	43.08	1.38	—
SQ77	IW77	31	-29.96	68.92	15.74	3.68	—
SXQ125	IW125	10	45.94	41.69	29.68	3.61	—
SXQ127	IW127	5	11.50	69.62	69.74	2.16	—
SQ153	IW153	10	-95.88	32.28	63.65	1.54	—

回転したことが明らかである。

石が外部の力によって動かされたとき、石の持つ残留磁化方向は元の方向を中心にして正規分布すると考えられる。この仮説を元に伏角を推定する。第280図はSQ30試料の伏角の頻度分布を示したものであり、伏角45度を中心にはほぼ正規分布していることがわかる。従って、SQ30が磁化を獲得した当時の地球磁場の伏角は45度と求まる。同様の処理によりSQ35は伏角53度が得られる。琵琶湖湖底堆積物の堆積残留磁化を調べたYasukawaら(1973)の伏角変化と比較してSQ30、SQ35は10,500B.P.より古い年代を持つと予想した。

SX21は焼土かどうか疑問が持たれていたが、磁化強度、方向の分布から考えると焼土ではないと結論できるだろう。SN08、SN16の焼土は共に安定な磁化を保持しており、SN08は6,000B.P.~6,500B.P.または、8,000B.P.~8,500B.P.、SN16は10,000B.P.~11,000B.P.と推定できた。

熱磁気分析を行った結果、キュリー点がSN08で578℃、SN16で561℃となり、磁性鉱物は磁鉄鉱であることがわかった。

段階熱消磁を行って磁化の減少傾向を解析して最終加熱時の温度分布を求め、600℃以上の温度で焼かれた石、部分的に200℃以下、および200℃以下の加熱温度と推定できる石の分布を示した(第281図)。分布状況からほとんど全ての石が焼かれているがその分布は集中しているわけではなく、川の氾濫の影響があるものと思われる。

(4) まとめ

集石の石自体が回転、移動していると予想されるため残念ながら詳しい年代の推定はできな

かった。しかし、磁化の性質、ばらつき具合から集石の移動、回転の予想が可能であることを示した。

文献

Yasukawa, K., T. Nakajima, N. Kawai, M. Torii, N. Natsuhara and S. Horie (1973): Paleomagnetism of a core from Lake Biwa (I), J. Geomag. Geoelectr., 25, 447-474.

第2節 火山灰同定

1 岩瀬遺跡の火山灰分析 (1991年度分)

(1) はじめに

岩瀬遺跡の発掘調査では、河岸段丘の良好な地層断面が作成された。そこで、野外地質調査を行って地質層序を明らかにした。さらに土壌についてテフラ検出分析を行い、すでに噴出年代が明らかにされている示標テフラを検出して、遺跡の土層断面中に時間軸を設定することを試みた。分析調査の対象とした地点は、MA51区北壁、MF51区、HE56区東壁の3地点である。また野外地質調査後、MG57区とMI57区で採取された試料が送付された。これらの試料についても、合わせて分析を行った。

(2) 地質層序

①MA51区北壁

この地点では、礫層を覆う土壌の最も良好な断面が認められた(第283図)。土壌は、下位のいわゆるローム層(5a層以下)と、上部の黒ボク土(4層)に大きく区分される。ローム層中には砂層が挟まれているほか、色調の暗い、いわゆる暗色帯と呼ばれる土層も認められる(6b層)。

②MF51区

この地点では、ローム層上部に、複数の暗色帯が認められた(第284図:8層、10層、12層)。

③HE56区東壁

本地点では、黒ボク土の良好な断面が認められた(第284図)。また、他の地点で認められなかったローム層の堆積が認められた。

(3) テフラ検出分析

①分析方法

示標テフラを検出するために、基本的に5cmごとに採取された試料から、17点を選択してテフラ検出分析を行った。分析は、次の手順で行われた。

1) 試料15gを秤量。

2) 超音波洗浄装置により、泥分を除去。

- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡および偏光顕微鏡下で、テフラ粒子の特徴を観察。

②分析結果

1) MA51 区北壁

テフラ検出分析の結果を、表 31 に示す。いずれの試料にも、火山ガラスがごく少量認められる。火山ガラスは透明で、平板状のいわゆるバブル型と、繊維束状に発泡した軽石型から構成される。これらの試料には、顕著なテフラの降灰層準は認められない。

2) MF51 区

いずれの試料にも、火山ガラスが少量ずつ認められる。顕著なテフラの降灰層準は認められないものの、試料番号 6 および 7 に含まれる火山ガラスは透明で、繊維束状やスポンジ状に発泡した軽石型、平板状のいわゆるバブル型、さらに分厚い中間型ガラスなどから構成されることでほかの層準とは特徴を異にする。また試料番号 16 には、若干多くの火山ガラスが認められる。火山ガラスは、透明なバブル型と繊維束状に発泡した軽石型から構成される。このように顕著なテフラの降灰層準は認められないものの、試料番号 7 および 16 付近にテフラの降灰層準のある可能性が若干ながら考えられる。

3) HE56 区東壁

いずれの試料にも、火山ガラスがごく少量認められる。火山ガラスは透明で、バブル型と繊維束状に発泡した軽石型から構成される。顕著なテフラの降灰層準は、認められない。

4) MG57 区

試料番号 1 には、火山ガラスがごく少量認められる。火山ガラスは透明で、バブル型と繊維束状に発泡した軽石型から構成される。顕著なテフラの降灰層準とは、考えられない。

5) MI57 区

試料番号 2 には、火山ガラスがごく少量認められる。火山ガラスは透明で、バブル型と繊維束状に発泡した軽石型から構成される。顕著なテフラの降灰層準とは、考えられない。

(4) 考察

今回の分析で検出された火山ガラスの大部分は、基盤の地層中に大量に含まれると思われるものである。ただし可能性はごく小さいながら、MF51 区の試料番号 7 および 16 付近にテフラの降灰層準のあることが考えられる。前者は、火山ガラスの特徴などから、十和田火山起源のテフラの可能性はある。仮に宮城県北部と同様に、岩瀬遺跡で認められる黒ボク土の基底を約 1 万年前とすると（早田, 1989）、試料番号 7 付近に存在する火山ガラスは約 1.0–1.3 万年前の十和田八戸テフラ（To-IIp, 町田ほか, 1984）に由来するのかも知れない。

また、試料番号 16 付近に若干多く含まれる火山ガラスは、その形態や色調などから、約

2.1-2.2 万年前に南九州始良カルデラから噴出した始良 Tn 火山灰 (AT 町田, 1976) に由来する可能性が考えられる。AT は、秋田県男鹿半島をはじめとして宮城県北部や山形県北部においても検出されている (白石ほか, 1988, 早田, 1989, 八木・早田, 1989) ことから、岩瀬遺跡付近に AT が降灰したことは確実と考えられる。いずれにしても、検出された火山ガラスの量が少ないことから、これ以上の言及はではない。

(5) まとめ

岩瀬遺跡において野外地質調査が行われ、土層の層序が明らかになった。また合わせてテフラ検出分析が行われたものの、明瞭な示標テフラの降灰層準は検出されなかった。しかし、量は少ないながら十和田八戸テフラ (約 1.0-1.3 万年前) と始良 Tn 火山灰 (AT) に由来する可能性がある火山ガラスも検出された。このことから、さらなる調査分析により、石器包含層の編年ができる可能性があることが十分に考えられる。今後も、発掘調査の際に火山灰編年学 (テフロクロロジー) により調査分析が行われ、テフラに関する資料が蓄積されていくことが必要である。

文献

- 町田 洋・新井房夫 (1976) 広域に分布する火山灰—始良 Tn 火山灰の発見とその意識。—科学, 46, p.339-347
- 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫 (1984) テフラと日本考古学—考古学研究と関係するテフラのカタログ。—古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」, p.865-928.
- 白石建雄・竹内貞子・林 信太郎・林 聖子 (1988) 秋田県男鹿半島で発見された始良 Tn 火山灰。第四紀研究, 27, p.187-190
- 早田 勉 (1989) テフロクロロジーによる前期旧石器時代遺物包含層の検討—仙台平野北部の遺跡を中心に—。第四紀研究, 28, p.296-282
- 八木浩司・早田 勉 (1989) 宮城県中部および北部に分布する後期更新世広域テフラとその層位。地学雑誌, 98, p.871-885.

2 岩瀬遺跡の火山灰分析 (1993 年度分)

(1) はじめに

東北地方には多くの第四紀火山が分布している。これらの多くは第四紀をとおして大量のテフラ (火山砕屑物、いわゆる火山灰) を噴出してきた。これらのテフラ層については、放射性年代測定法や考古学の編年学的な成果さらに古文書などに残された記録などから噴出年代が明らかにされているものも多い。したがって、これらの示標テフラ層の降灰層準を遺跡の土層断面から検出し、それらとの層位関係を明らかにすることによって、遺物包含層の堆積年代や遺構の構築年代を明らかにできるようになっている。そこで岩瀬遺跡においても、地質調査を行っ

て標式的な土層断面の土層の記載を行うとともに、テフラ検出分析を行ってすでに噴出年代が明らかにされている示標テフラの降灰層準を求めることが試みられることになった。

(2) 土層の層序

①MA59区

本地点では、岩瀬遺跡の標式的な土層断面が認められた(第282図)。ここでは礫層(層厚128cm以上、礫の最大径380mm)の上位に、下位より褐色砂質土(層厚12cm、Ⅸ層)、褐色砂層(層厚12cm、Ⅷ層)、褐色砂質土(層厚31cm、Ⅶ'層)、黄色砂質土(層厚16cm)、褐色砂質土(層厚5cm、以上Ⅶ層)、褐色砂礫層(層厚18cm、礫の最大径7mm)、黄褐色砂質土(層厚18cm、以上Ⅵ層)、暗褐色土(層厚15cm、Ⅴ層)、黒褐色土(層厚18cm)、作土(層厚11cm)が認められた。

②MC52区

ここでは、ローム層のブロック混じりの暗褐色土(層厚15cm、Ⅴ層)の上位に、下位より黒色土(層厚28cm、Ⅳ層)、暗褐色土(層厚6cm、Ⅲ層)、黒色土(層厚3cm、Ⅱ層)、黒褐色作土(層厚10cm、Ⅰ層)の連続が認められた。

③5号炉

炉址が検出された本地点では、遺構の上位の土層をよく観察できた。ここでは、炉を構成する礫群を覆って黒色砂質土(層厚5cm)が形成されており、その上位にⅨ層以上の土層の堆積が認められた。

(3) テフラ検出分析

①分析試料と分析方法

MA59区とMC52区の2地点の土層断面において基本的に5cmごとに採取された試料のうち、5cmおきの試料18点を対象にテフラ検出分析を行い、示標テフラの降灰層準を求めることになった。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料15gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の特徴を観察。

②分析結果

テフラ検出分析の結果を、第32表および第33表に示す。岩瀬遺跡MA59区では、軽石の粒子は検出されなかったものの、全試料にごく少量の火山ガラスが認められた。とくに火山ガラスの濃集する層準は検出されなかった。軽石の特徴はいずれもよく似ており、平板状のいわゆるバブル型ガラスのほか、繊維束状に発泡した軽石型のガラスも少量認められた。火山ガラスの色調は透明である。

第31表 岩瀬遺跡のテフラ検出分析結果

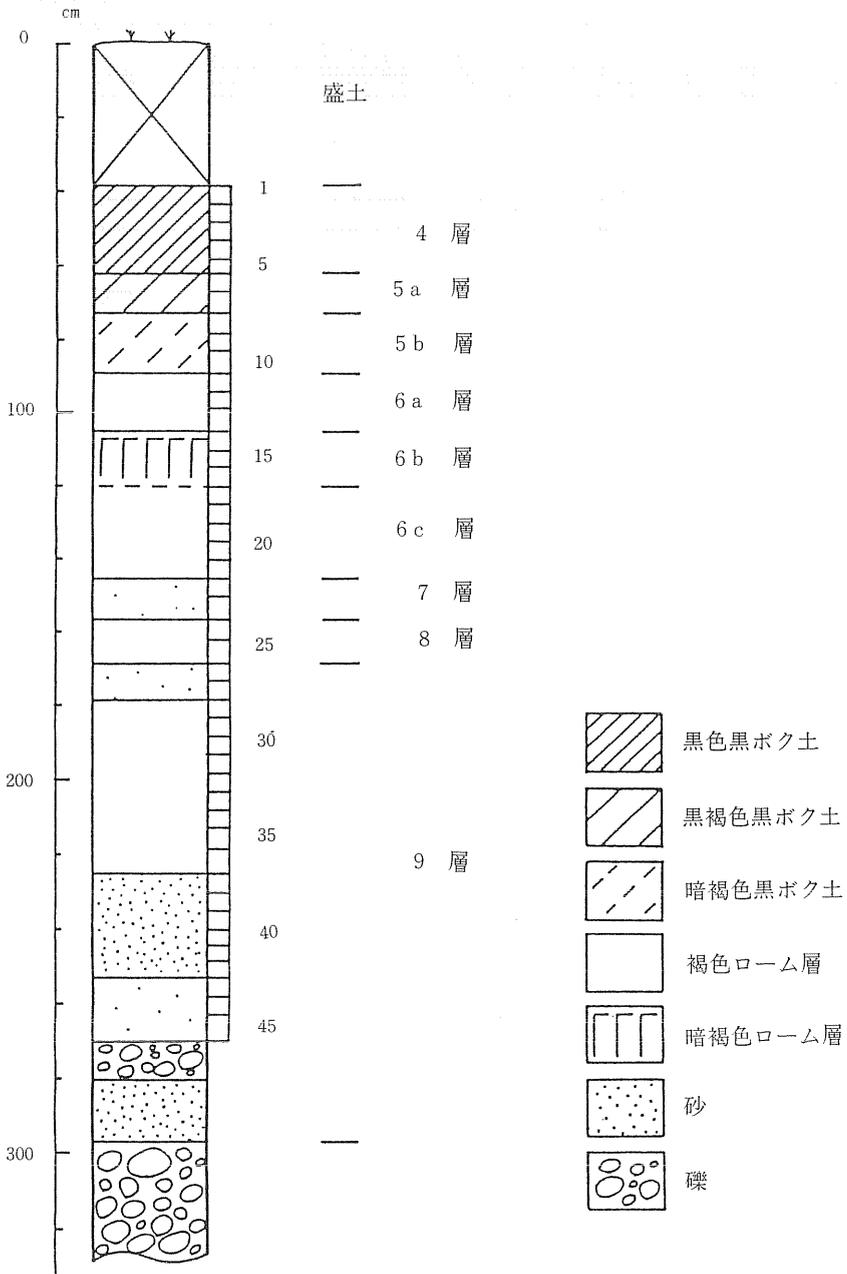
地点	試料	火山ガラスの量	火山ガラスの形態	火山ガラスの色調
MA51区	11	+	bw>pm	透明
	13	+	bw>pm	透明
	15	+	bw>pm	透明
	19	+	bw>pm	透明
	21	+	bw>pm	透明
	25	+	bw>pm	透明
	31	+	bw>pm	透明
	33	+	bw>pm	透明
	35	+	bw>pm	透明
MF51区	6	+	pm>bw>Md	透明
	7	+	pm>bw>Md	透明
	16	++	bw>pm	透明
	19	+	bw>pm	透明
HE56区	6	+	bw>pm	透明
	19	+	bw>pm	透明
MC57区	1	+	bw>pm	透明
MI57区	2	+	bw>pm	透明

++++: 特に多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない, -: 認められない. bw: バブル型火山ガラス, pm: 軽石型火山ガラス

一方、MC52区では試料番号1と2に軽石型の火山ガラスが多く認められた。火山ガラスにはスポンジ状に発泡したものと、繊維束状に発泡したものの2種類が認められる。火山ガラスの色調は透明である。その試料番号3以下の試料については、MA59区の試料と同じような特徴が認められた。つまり、含まれる火山ガラスはごく少量で、平板状のいわゆるバブル型ガラスのほかに繊維束状に発泡した軽石型の火山ガラスも少量認められた。火山ガラスの色調は透明である。これらの層準には、とくに火山ガラスの濃集する層準は検出されなかった。

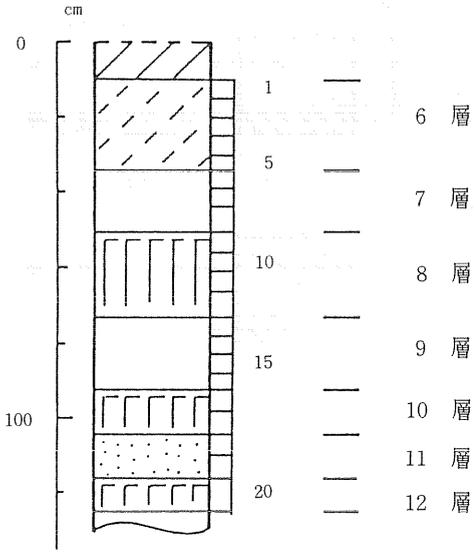
(4) 考察

岩瀬遺跡においてテフラ分析を行った結果、Ⅱ層およびⅢ層中に軽石型火山ガラスが多く検出された。土層の色調も考慮するとⅢ層中に火山ガラスに富むテフラの降灰層準のある可能性が大きい。このテフラについては、黒ボク土中に層位のあることから、完新世に堆積したテフラの可能性が大きいと考えられる。岩瀬遺跡に近い岩手県湯田町の大渡Ⅱ遺跡の発掘調査では、すでに黒ボク土に約5,300年前に十和田カルデラから噴出した十和田中振テフラ (To-Cu, 町田ほか, 1984) と915年に十和田カルデラから噴出したと推定されている十和田a火山灰 (To-a, 町田ほか, 1981) の一次堆積層が検出されている (中川・吉田, 1993, 古環境研究所未公表資料)。火山ガラスの形態も併せて考慮すると、Ⅲ層中に降灰層準のあると考えられるテフラは、To-Cu または To-a に同定される可能性が大きいと考えられる。



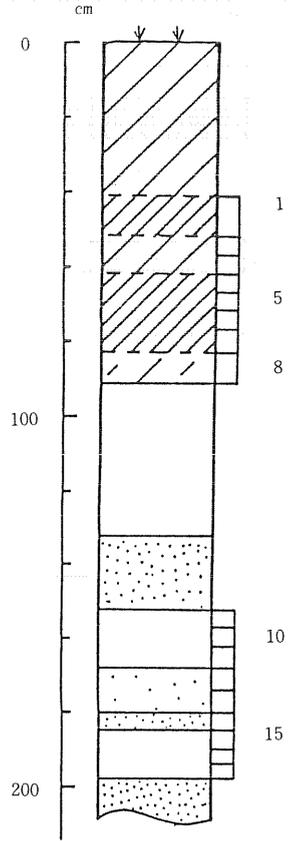
数字は、分析試料の番号

第 282 図 MA51 区北壁土層柱状図



数字は、分析試料の番号

MF51区の土層柱状図

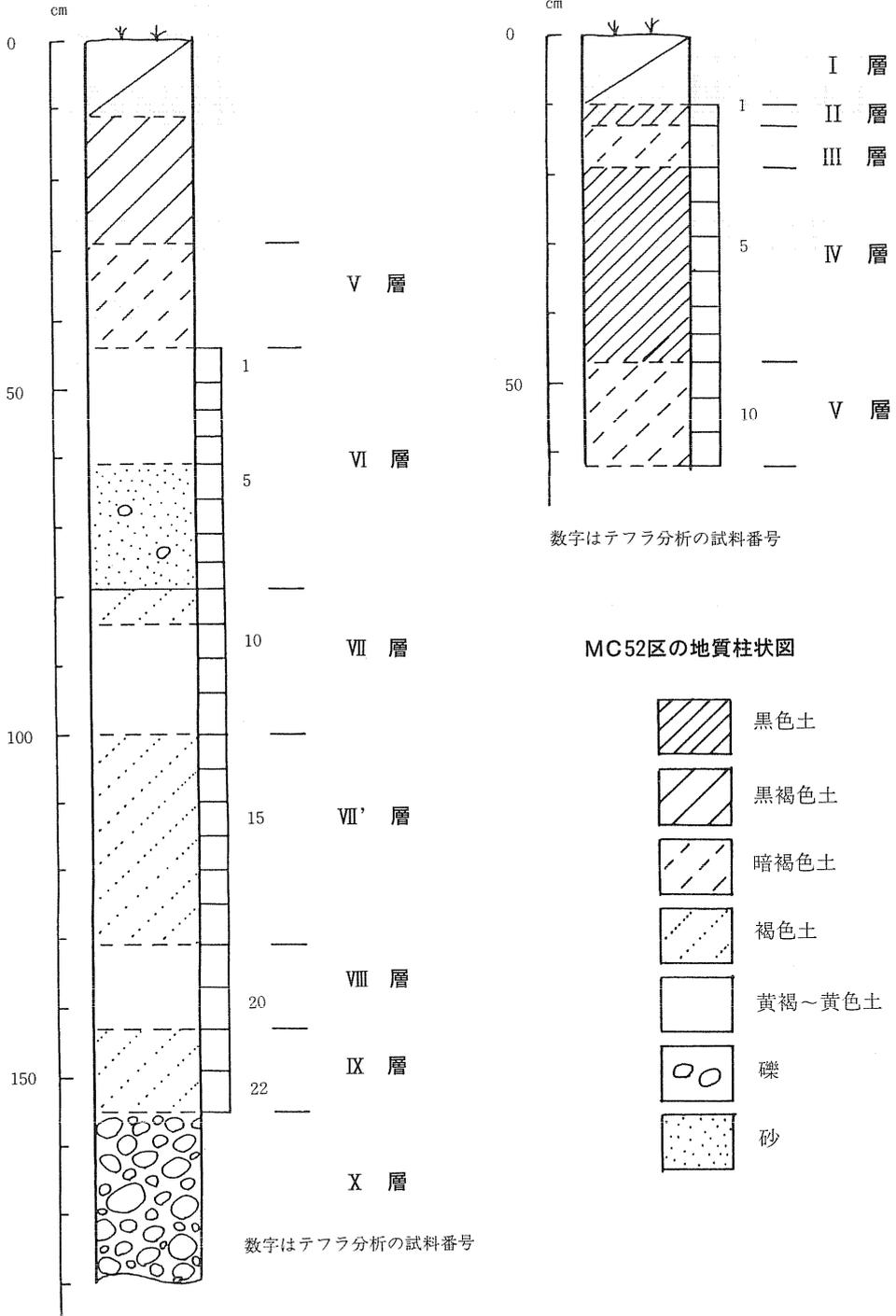


数字は、分析試料の番号

HE56区東壁の土層柱状図

-  黑色黒ボク土
-  黒褐色黒ボク土
-  暗褐色黒ボク土
-  褐色ローム層
-  暗褐色ローム層
-  砂
-  礫

第283図 MF51・ME56区土層柱状図



MA59区の地質柱状図

第284図 MA59・MC52区土層柱状図

第32表 岩瀬遺跡 MA59 区のテフラ検出分析結果

試料	軽石			火山ガラス		
	量	色調	最大径	量	色調	形態
1	-	-	-	+	透明	bw>pm
3	-	-	-	+	透明	bw>pm
5	-	-	-	+	透明	bw>pm
7	-	-	-	+	透明	bw>pm
9	-	-	-	+	透明	bw>pm
11	-	-	-	+	透明	bw>pm
13	-	-	-	+	透明	bw>pm
15	-	-	-	+	透明	bw>pm
17	-	-	-	+	透明	bw>pm
19	-	-	-	+	透明	bw>pm
21	-	-	-	+	透明	bw>pm

++++: 特に多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない,
 -: 認められない. pm: 軽石型, pw: バブル型.

第33表 岩瀬遺跡 MC52 区のテフラ検出分析結果

試料	軽石			火山ガラス		
	量	色調	最大径	量	色調	形態
1	-	-	-	+++	透明	pm
2	-	-	-	+++	透明	pm
3	-	-	-	+	透明	bw>pm
5	-	-	-	+	透明	bw>pm
7	-	-	-	+	透明	bw>pm
9	-	-	-	+	透明	bw>pm
11	-	-	-	+	透明	bw>pm

++++: 特に多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない,
 -: 認められない. pm: 軽石型, bw: バブル型.

岩瀬遺跡における前回のテフラ分析では、Ⅶ層中に約1.2万年前に十和田火山から噴出した十和田一八戸テフラ（To-HP、町田ほか、1984）に由来する可能性のある火山ガラスが検出された。しかし今回の分析では前回ほど明確に検出されなかった。これは今回の地点が、前回の分析地点と比較してテフラ降灰当時安定して土壌が形成されるような環境になかったことに起因しているのかも知れない。いずれにしても2回の分析の結果、いずれの土層中にも量は少ないながらも火山ガラスが存在し、またさらに上部の黒ボク土中には火山ガラスに富むテフラの降灰層準のあることも明らかになった。今後遺跡内の全土層を対象として、テフラ組成分析や屈折率測定など、示標テフラとの精度を向上させるための分析を行う必要がある。

(5) まとめ

岩瀬遺跡において地質調査とテフラ検出分析を合わせて行った結果、Ⅲ層に約5,300年前に

十和田火山から噴出した十和田中礫テフラ (To-Cu)、あるいは915年にやはり十和田火山から噴出した十和田 a テフラ (To-a) に同定される可能性の大きいテフラの降灰層準が検出された。このテフラについては、さらに屈折率測定などを行って示標テフラとの同定を行う必要がある。

なお前述の岩手県湯田町大渡Ⅱ遺跡においては、To-Cu と To-a のほかに、約 2.1-2.5 万年前に南九州の始良カルデラから噴出した始良 Tn 火山灰 (AT、町田・新井, 1976) が発見されている (中川, 1993)。岩瀬遺跡付近では、今後の調査によりさらに約 3.1-1.4 万年前に浅間火山から噴出した浅間-板鼻黄色軽石 (As-YP) や浅間-草津黄色軽石 (As-YPk) に由来する可能性のある二口火山灰 (FtA, 小岩・早田, 1994)、約 1.2 万年前に十和田火山から噴出した十和田-八戸テフラ (To-HP)、そして約 6,300 年前に南九州の鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰 (K-Ah, 町田・新井, 1992) など広域テフラの降灰層準の検出される可能性がある。今後本地域においてさらに土層の堆積状況の良い地点を探し、調査分析を行う必要がある。

文献

- 小岩直人・早田 勉 (1994) 東北地方中南部に分布する更新世末期のガラス質テフラ. 地学雑誌, 103, p. 68-76.
- 町田 洋・新井房夫 (1976) 広域に分布する火山灰-始良 Tn 火山灰の発見とその意義. 科学, 46, p.339-347.
- 町田 洋・新井房夫 (1978) 南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ-アカホヤ火山灰. 第四紀研究, 17, p.143-163.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス, 東京大学出版会, p.276.
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広 (1981) 日本海を渡ってきたテフラ. 科学, 51, p.562-569.
- 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫 (1984) テフラと考古学-考古学研究と関係するテフラのカタログ-. 古文化財編集委員会編「文化財に関する保存科学と人文・自然科学」, p.865-928.
- 中川重紀・吉田 充 (1993) 大渡Ⅱ遺跡調査概要. 第7回北日本の旧石器文化を語る会講演会要旨集, p. 13-16.

第3節 植物遺存体同定

1 縄文時代草創期炉の植物利用

(1) はじめに

岩瀬遺跡 (秋田県平鹿郡山内村土淵字岩瀬所在) は、奥羽山脈から横手盆地に向かって北西流する横手川の右岸に形成された河岸段丘上に位置する。横手川沿いの段丘上には、縄文時代の遺跡が数多く知られ、縄文時代の環境や人間活動を知る上で重要な地域といえる。本遺跡周辺で

も、虫内Ⅰおよび虫内Ⅲ遺跡、小田Ⅳ遺跡、上谷地遺跡において、自然科学分析を用いた古植生や生業等に関する検討が行われ（一部未公表）、過去の環境や人々の生活の一端が明らかになりつつある。

今回調査が行われた岩瀬遺跡では、縄文時代草創期～晩期を中心とした遺構・遺物が検出されている。今回の分析調査では、縄文時代草創期の集石炉 SXQ60 から採取された土壌試料を対象として、燃料材に利用した植物の種類を明らかにする。すなわち、土壌試料全点について植物珪酸体分析を実施するとともに、土壌試料中から採取された炭化材および種実遺体の同定もあわせて実施する。縄文時代草創期の燃料材に関する検討は、周辺地域における類例が知られていないため、当該期の植物利用を知る上で貴重な資料が得られるものと期待される。なお、当初食生活の一端を知るために骨・貝類の同定を計画したが、試料中に骨・貝が認められなかったため、今回はこれに関する検討は行わない。

(2) 試料

試料は、縄文時代草創期とされる集石炉（SXQ60）から採取された土壌試料5点（試料番号1～5）である（第34表）。植物珪酸体分析は、試料番号1～5の合計5点を用いた。炭化材試料は、試料番号1から4点、2から1点、3から2点、4から1点、5から2点、合計10点を抽出した。また、種実遺体は、試料番号1から抽出された1点である。

(3) 方法

①植物珪酸体分析

試料数gについて、過酸化水素水（ H_2O_2 ）と塩酸（HCL）による有機物と鉄分の除去、超音波処理（80W, 250KHz, 1分間）による試料の分散、沈降法による粘土分の除去、ポリタングステン酸ナトリウム（比重2.5）による重液分離を順に行い、物理・化学処理で植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈した後、カバーガラスに滴下し、乾燥させる。その後、プリュラックスで封入してプレパラートを作製する。

検鏡は光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現するイネ科植物の葉部（葉身と葉鞘）の短細胞に由来する植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身の機動細胞に由来する

第34表 分析試料一覧

試料番号	層 相	試 料 採 取 遺 構	時代時期	備考
1	褐色シルト混り砂	8IS SXQ60 炉跡1	縄文時代草創期	屋外炉
2	褐色シルト混り砂	8IS SXQ60 炉跡2	縄文時代草創期	屋外炉
3	褐色シルト質砂	8IS SXQ60 炉跡3	縄文時代草創期	屋外炉
4	褐色シルト混り砂	8IS SXQ60 炉跡4 黒土	縄文時代草創期	屋外炉
5	暗褐色シルト混り砂	8IS SXQ60 炉跡5 石組みの内側	縄文時代草創期	屋外炉

植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、同定・計数する。なお、近藤・佐瀬（1986）の分類を参考にした。また、イネ科植物が燃料材などで利用され検出される場合、短細胞列・機動細胞列といった組織片で認められる例もある（佐瀬，1982，1993；大越，1985）。このため、焼土については組織片にとくに注目した。

②種実遺体同定

試料を肉眼および実体顕微鏡下で観察し、種類の同定を行った。

③炭化材同定

試料を乾燥させたのち、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の割断面を作製し、走査型電子顕微鏡（無蒸着・反射電子検出型）で観察・同定した。

（4）結果

①植物珪酸体の産状

分析の結果、植物珪酸体は全く検出されなかった。

②種実遺体同定

種実遺体はイネの穎であった。以下に形態学的特徴を記す。

・イネ (*Oryza sativa* L.) イネ科

穎（籾殻）が検出された。穎は淡褐色。大きさは縦軸 8mm、横軸 4mm 程度。穎の表面には微細な顆粒状突起が密に配列する。

③炭化材同定

同定結果を第 35 表に示す。炭化材は、No.1 中の 2 点が組織の劣化が激しかったため同定にはいたらず、観察できた範囲で木材組織の形態を記した。その他の試料は全て広葉樹で、オニグルミ、ハンノキ属の一種、カエデ属の一種、トネリコ属の一種の 4 種類が同定された。各種類の主な解剖学的特徴や現生種の一般的な性質を以下に記す。なお、和名・学名等は、主として「原色日本植物図鑑 木本編〈I・II〉」（北村・村田，1971，1979）に従い、一般的性質などについては「木の辞典 第 1 巻～第 17 巻」（平井，1979—1982）も参考にした。

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura)

クルミ科

散孔材で年輪界付近でやや急に管径を減少させる。管孔は単独および 2～4 個が複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は密に交互状に配列する。放射組織は同性～異性Ⅲ型、1～3 細胞幅、1～40 細胞高。年輪界は明瞭。

オニグルミは、北海道から九州までの川沿いなどに生育する落葉高木である。材の硬さは中程度、加工は容易で狂いが少なく、保存性は低い。銃床として、洋の東西を通じて広く用いられた。ほかに各種器具・家具材などの用途も知られている。

・ハンノキ属の一種 (*Alnus* sp.) カバノキ科

散孔材で、管孔は単独もしくは放射方向に2~4個が複合する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は密に対列状に配列する。放射組織は同性、単列、1~30細胞高のものと集合放射組織とがある。年輪界はやや不明瞭。

ハンノキ属はハンノキ (*Alnus japonica* (Thunb.) Steud.)、ヤシャブシ (*A. frima* sieb. et Zucc)、ミヤマハンノキ (*A. crispa* (Aiton) Pursh subsp. *maximowiczii* (Call) Hult) など国内に約10種が自生する。いずれも根に根瘤菌が共生しているため痩地でもよく生育する。材はやや軽軟~やや重硬で、加工は容易、薪炭材や各種器具材などとして用いられる。

・クリ近似種 (cf. *Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科

環孔材で孔圏部は1~4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~15細胞高。年輪界は明瞭。試料は細片であり、組織が近似するコナラ属コナラ亜属コナラ節の可能性もあるため、本報告では近似種とした。

クリは北海道西部・本州・四国・九州の山野に自生し、また植栽される落葉高木である。材はやや重硬で、強度は大きく、加工はやや困難であるが耐朽性が高い。土木・建築・器具・家具・薪炭材などの用途が知られている。

・カエデ属の一種 (*Acer* sp.) カエデ科

散孔材で、道管は単独および2~3個が複合し、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1~5細胞幅、1~30細胞高。細胞壁の厚さが異なる2種類の木繊維が、木口面において不規則な紋様をなす。年輪界はやや不明瞭。

カエデ属には、イタヤカエデ (*Acer mono* Maxim. subsp. *marmoratum* (Nicholson) Kitamura) やイロハモミジ (*A. palmatum* Thunb.) など約25種が自生し、また多くの品種があり植栽されることも多い。属としては琉球を除くほぼ全土に分布する落葉高木~低木である。一般に材はやや重硬・強靱で、加工はやや困難、保存性は中程度である。器具・家具・建築・装飾・施作・薪炭材などに用いられる。

・トネリコ属の一種 (*Fraxinus* sp.) モクセイ科

環孔材で孔圏部は2~3列、孔圏外で急激に管径を減じのち漸減する。道管は単穿孔を有し、壁孔は小型で密に交互状に配列する。放射組織は同性 (~異性Ⅲ型)、1~3細胞幅、1~40細胞高であるが、20細胞高前後のものが多い。年輪界は明瞭。

トネリコ属には、シオジ (*Fraxinus spaethiana* Lingelsh.)、トネリコ (*F. japonica* Blume)、アオダモ (*F. serrata* (Nakai) Murata) など約8種が自生する。このうちヤマトア

第35表 炭化材の樹種同定結果

番号	試料名	時代	用途	樹種名
1	SXQ60炉跡1	縄文時代草創期	燃料材?	針葉樹 カエデ属の一種 トネリコ属の一種 広葉樹(環孔材)
2	SXQ60炉跡2	縄文時代草創期	燃料材?	ハンノキ属の一種
3	SXQ60炉跡3	縄文時代草創期	燃料材?	オニグルミ ハンノキ属の一種
4	SXQ60炉跡4	縄文時代草創期	燃料材?	トネリコ属の一種
5	SXQ60炉跡5	縄文時代草創期	燃料材?	オニグルミ トネリコ属の一種

オダモ (*F. longicuspis* Sieb. et Zucc.)・マルバアオダモ (*F. sieboldiana* Blume)・アオダモは北海道・本州・四国・九州に、ヤチダモ (*F. mandshurica* Rupr. var. *japonica* Maxim.)は北海道・本州(中部地方以北)に、トネリコは本州(中部地方以北)に、シオジは本州(関東地方以西)・四国・九州に分布する。いずれも落葉高木である。材の性質は種によって異なるが、一般には中庸～やや重硬で、靱性があり、加工は容易で、建築・器具・家具・旋作・薪炭材などの用途が知られる。

(4) 考察

5点の土壌試料中には、植物珪酸体が全く認められなかった。集石炉は、径1~2mの浅い窪み中に焼けた河原石が炭化物とともに多量に含まれている(秋田県埋蔵文化財センター, 1993)。分析を行った試料中にも、細かい炭化物が多量に含まれており、燃料材にイネ科植物ことが使用されていれば、植物珪酸体が少なからず認められるものと考えられる。今回の結果は、燃料材にイネ科植物が使用されなかった可能性を示唆する。

一方、抽出された炭化材からは、針葉樹、オニグルミ、ハンノキ属、クリ近似種、カエデ属、トネリコ属、不明散孔材が同定され、これらの木材が燃料材として使用されていたことが明らかとなった。これらの樹種は、周辺の虫内I遺跡、小田IV遺跡、上谷地遺跡等で行った炭化材の樹種同定や種実遺体の同定でも確認されており(一部未公表)、縄文時代を通じて周辺地域で入手可能であったと考えられる。これらの結果から、集石炉の燃料材は、特定の樹種が選択されていたのではなく、周辺部で得られる様々な木材が利用されていたことが推定される。

なお、試料番号1ではイネの穎(籾殻)が1点検出された。穎は保存状態が良好であり、現生のものに近い。土壌試料中から植物珪酸体が全く検出されなかったことや、本遺跡の現地表面が水田として利用されていることを考慮すると、後代の攪乱に伴うものか試料採取時に現生の穎が試料中に混入した可能性がある。

引用文献

- 秋田県埋蔵文化財センター（1993）岩瀬遺跡発掘調査略報. 5p.
- 平井信二（1979-1982）木の辞典 第1巻～第17巻. かなえ書房.
- 北村四郎・村田 源（1971, 1979）原色日本植物図鑑 木本編<Ⅰ・Ⅱ>. 453p., 545p., 保育社
- 近藤鍊三・佐瀬 隆（1986）植物珪酸体分析, その特性と応用. 第四紀研究, 25, p.31-64. 大越昌子（1985）プラント・オパール分析. 「平賀遺跡 平賀遺跡群発掘調査報告書」, p.803-815, 平賀遺跡群調査会.
- 佐瀬 隆（1982）古墳時代住居跡の炉に関する焼土について—植物起源粒子の植物珪酸体からみて—. 東京都埋蔵文化財センター調査報告書第2集「多摩ニュータウン遺跡（第3分冊）」, p.303-308, (財)東京都埋蔵文化財センター.
- 佐瀬 隆（1993）鼻館跡の古代のD3-w土坑, E4-a土坑の埋土に挟存する灰層の植物珪酸体分析, 灰像分析. 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第171集「鼻館跡発掘調査報告書国道45号久慈バイパス関連遺跡発掘調査」, p.222-227, (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター.

2 MCライン西壁の珪藻分析・植物珪酸体分析

(1) 珪藻分析

①はじめに

珪藻は、10～500 μm ほどの珪酸質殻をもつ単細胞藻類で、殻の形やこれに刻まれた模様などから多くの珪藻種が調べられている。また、現生の生態から特定環境を指標する珪藻種群も設定されている（小杉, 1988; 安藤, 1990）。一般的に、珪藻の生育域は海水域から淡水域までと広範囲に及び、中には河川や沼地あるいは池などの水成環境以外の陸地においてもわずかな水分が供給される環境、例えばコケの表面や湿った岩石の表面などで生育する珪藻種（陸生珪藻）も知られている。こうした珪藻種あるいは珪藻群集の性質を利用して、過去の堆積物中の珪藻化石の解析から、遺跡を埋積する堆積環境について知ることが可能である。ここでは、こうした珪藻化石を利用して、岩瀬遺跡の堆積環境について検討する。

②試料と処理方法

試料は、MCライン土層から採取された25点である。これらの試料は、以下の方法で処理した。

- 1) 試料から湿潤重量約1～10g程度を取り出し、計量した後ビーカーに移し、蒸留水を加えた後懸濁液を回収する。放置後上澄み液を除去し、30%過酸化水素を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行う。
- 2) 反応終了後水を加え、1時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を上澄み液が透明になるまで繰り返す（7回程度）。
- 3) ビーカーに残った残渣は、遠心管に細粒分のみ回収する。
- 4) マイクロピペットを用い、遠心管から適量を取り、カバーガラスに滴下し乾燥させる。乾燥

第36表 岩瀨遺跡の珪藻化石産出表

分類群	適 応 性				1	2	3	4	8	10	12	16	25
	塩分	pH	流水	生活									
<i>Melosira sulcata</i>	M	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
<i>Caloneis lauta</i>	M	?	?	B	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C. silicula</i>	F-ind	Alka	ind	B	5	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C. spp.</i>	F-?	?	?	B	1	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cocconeis placentula</i>	F-ind	Alka	ind	B	3	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella minuta</i>	F-ind	ind	ind	B	8	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>C. tumida</i>	F-ind	Alka	Lim	B	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C. turgidula</i>	F-ind	Alka	ind	B	3	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Diploneis ovalis</i>	F-ind	ind	ind	B	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>D. yatukaensis</i>	F-ind	?	Lim	B	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Epithemia turgida</i>	F-ind	Alka	Lim	B	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia arcus</i>	F-pho	Acid	ind	B	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Frustulia vulgaris</i>	F-ind	Alka	ind	B	3	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>F. spp.</i>	F-?	?	?	B	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema gracile</i>	F-ind	ind	Lim	B	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>G. spp.</i>	F-?	?	?	B	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Hantzschia amphioxys</i>	F-ind	Alka	ind	T	10	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Melosira varians</i>	F-ind	Alka	ind	P	5	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Navicula cuspidata</i>	F-ind	Alka	ind	B	5	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>N. elginensis</i>	F-ind	Alka	Rhe	B	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Neidium affine</i>	F-ind	ind	Lim	B	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>N. iridis</i>	F-pho	ind	Lim	B	2	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>N. spp.</i>	F-?	?	?	B	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Nitzschia amphibia</i>	F-ind	Alka	ind	B	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>N. parvula</i>	F-ind	ind	ind	B	2	2	1	-	-	-	-	-	-
<i>N. tryblionella</i>	F-ind	ind	ind	B	3	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>N. spp.</i>	F-?	?	?	P/B	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia acrosphaeria</i>	F-ind	ind	Lim	B	4	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>P. borealis</i>	F-ind	ind	ind	T	1	3	-	-	-	-	-	-	-
<i>P. microstauron</i>	F-ind	Acid	ind	B	13	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>P. subcapitata</i>	F-ind	ind	ind	B	3	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>P. viridis</i>	F-ind	ind	ind	B	17	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>P. spp.</i>	F-?	?	?	B	8	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Rhopalodia gibba</i>	F-ind	Alka	ind	B	47	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>R. gibberula</i>	F-phi	Alka	ind	B	30	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Surirella angusta</i>	F-ind	Alka	Rhe	B	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>S. elegans</i>	F-ind	Alka	Lim	P	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>S. ovata</i>	F-ind	Alka	Rhe	B	8	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>S. robusta</i>	F-pho	Alka	Lim	P	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>S. tenera</i>	F-ind	Alka	Lim	P	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>S. spp.</i>	F-?	?	?	P/B	6	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Synedra ulna</i>	F-ind	Alka	ind	B	1	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>S. vaucheriae</i>	F-ind	Alka	ind	B	1	-	-	-	-	-	-	-	-
海水種					0	0	0	0	0	0	1	0	0
海-汽水種					0	0	0	0	0	0	0	0	0
汽水種					0	0	0	0	0	0	0	0	0
淡水種					214	10	4	1	2	1	0	1	1
計数した殻数					214	10	4	1	2	1	1	1	1

凡例 (適応性)

塩分濃度	pH	流水	生活型
M : 海水種	Acid : 酸性種	Lim : 止水種	P : 浮遊生種
M-B : 海-汽水種	ind : 不定種	ind : 不定種	B : 底生種
B : 汽水種	Alka : アルカリ種	Rhe : 流水種	P/B : 浮遊生/底生種
F-phi : 淡水-好塩種	? : 不明種	? : 不明種	T : 陸生種
F-ind : 淡水-不塩種			? : 不明種
F-pho : 淡水-嫌塩種			
F-? : 淡水-不明種			

後は、マウントメディア（封入剤）で封入しプレパラートを作成する。

作成したプレパラートは光学顕微鏡下 600～1000 倍で珪藻種を同定し、殻約 200 個体を計数する。なお、珪藻殻が 200 個に満たない試料は、プレパラート 1 枚分を精査した後、検鏡を止めた。

③結果

MC ライン土層から検出された珪藻化石は、43 分類群 17 属 36 種である。これらの大半は試料 No. 1 から検出されており、他の試料からはほとんど検出されていない。これは、試料 No. 2～4 は堆積物が土壌のため珪藻が生育する環境になく、その他の試料は堆積物が砂質のため、珪藻化石が流失したものと思われる。

No. 1 の試料では、*Rhopalodia gibba* や *Rhopalodia gibberula* などの底生種が多く、安藤 (1990) が設定した沼沢湿地付着生種の *Pinnularia viridis* や *Pinnularia micros-auron* なども比較的高率で随伴する。また、小杉 (1986) が示す陸生珪藻の *Hantzschia amphioxys* も出現している。このことから、No. 1 の試料は、沼沢地的環境が推定され、また周辺ではジメジメした場所も同時に存在したものと推定される。

引用文献

- 安藤一男 (1990) 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理, p73-88. 小杉正人 (1986) 陸生珪藻による古環境の解析とその意義. 一わが国への導入とその展望-. 植生史研究, p 29-44.
小杉正人 (1988) 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 第四紀研究, p1-20.

(2) 植物珪酸体分析

①はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れた後も微化石 (プラント・オパール) となって土壌中に半永久的に残っている。この微化石は大きさや形態が植物群により固有であることから、土壌中から検出してその組成や量を明らかにすることで過去の植生 (おもにイネ科) を復元することができる (杉山, 1987)。

ここでは、岩瀬遺跡の試料について植物珪酸体分析を行い、イネ科栽培植物の検討および遺跡周辺の古植生・古環境の推定を試みた。

②試料

試料は、岩瀬遺跡 MC ライン土層から採取された No. 1～No. 10 の 10 点である。

③分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法 (藤原, 1976) をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料の絶乾 (105°C・24時間)
- 2) 試料約 1g を秤量、ガラスビーズ添加 (直径約 40 μ m、約 0.02g)
※電子分析天秤により 1 万分の 1g の精度で秤量
- 3) 電気炉灰化法による脱有機物処理
- 4) 超音波による分散 (300W・42KHz・10 分間)
- 5) 沈底法による微粒子 (20 μ m 以下) 除去、乾燥
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散、プレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400 倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1g あたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1g 中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重、単位: 10⁻⁵g) をかけて、単位面積で層厚 1cm あたりの植物体生産量を算出した。ヨシ属 (ヨシ) の換算係数は 6.31、クマザサ属型は 0.75 である。

④分析結果

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第 37 表、第 38 表および第 285 図に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。なお、A タイプについてはイネ科以外である可能性も考えられる。

[イネ科]

機動細胞由来: ヨシ属、キビ族型、ウシクサ族型、A タイプ、クマザサ属型 (おもにクマザサ属)、タケ亜科 (未分類等)

その他: 表皮毛起源、棒状珪酸体 (おもに結合組織細胞由来)、未分類等

⑤考察

1) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネをはじめオオムギ族 (ムギ類が含まれる) やキビ族 (ヒエやアワ、キビなどが含まれる)、ジュズダマ属 (ハトムギが含まれる)、オヒシバ属 (シコクビエが含まれる)、モロコシ属、トウモロコシ属などがある。分析の結果、本遺跡の試料からは、これらの分類群はまったく検出されなかった。

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、未分類等としたものの中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。

第37表 植物珪酸体分析結果 (単位: ×100個/g)

分類群 \ 試料	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
イネ科										
ヨシ属	7	7								
キビ族型	15									
ウシクサ族型	36	15								
Aタイプ	22									
タケ亜科										
クマザサ属型	306	273	69	8	30		15	7	15	
未分類等	73	74			8	8				
その他のイネ科										
表皮毛起源	22	15								
棒状珪酸体	218	118			8	8				
未分類等	531	384	8	8	23	8	8	7	8	
(海綿骨針)							8	7		
植物珪酸体総数	1230	885	76	15	68	23	23	15	23	

2) 植生および環境の推定

MC ライン土層の試料 No. 1~No. 10 について分析を行った。その結果、試料 1 では、クマザサ属型が約 30,000 個/g と多量に検出され、棒状珪酸体も比較的多く検出された。また、ヨシ属やキビ族型、ウシクサ族型、A タイプなども見られた。試料 2 もこれとほぼ同様の結果であるが、検出される分類群の数や植物珪酸体密度が減少している。

試料 3 では、クマザサ属型が 6,900 個/g と比較的少量検出されたが、その他の分類群はほとんど見られなかった。試料 4~9 についてもこれとほぼ同様の結果であるが、植物珪酸体密度はさらに低くなっている。試料 10 では植物珪酸体はまったく検出されなかった。

以上の結果から、堆積当時の植生と環境を推定すると次のようである。試料 1 と試料 2 の堆積当時は、クマザサ属を主体としてヨシ属なども少量見られるイネ科植生であったものと推定される。クマザサ属型には、チシマザサ節やチマキザサ節、スズタケ節、ミヤコザサ節などが含まれるが、植物珪酸体の形態からここで検出されたものは、その大部分がチシマザサ節およびチマキザサ節に由来するものと考えられる(杉山, 1987)。これらの植物は現在でも日本海側の寒冷地などに広く分布しており、積雪に対する適応性が高いとされている(室井, 1996)。なお、ヨシ属が見られることから、調査地点周辺は比較的湿った土壤条件であったものと推定される。

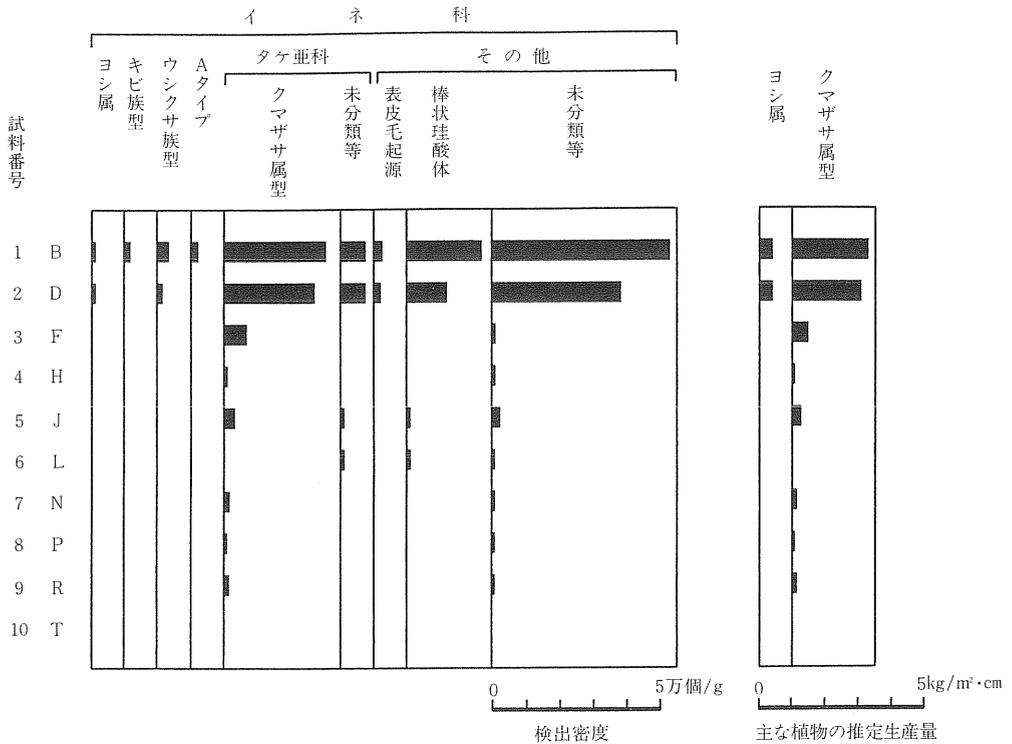
試料 3~9 の堆積当時は、クマザサ属が少量見られるイネ科植生であったと考えられるが、河川の影響など何らかの原因でそれ以外のイネ科植物の生育には適さない環境であったものと

第38表 主な分類群の植物体量の推定値

(単位: $\text{kg}/\text{m}^2 \cdot \text{cm}$)

分類群 \ 試料	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
イネ科										
ヨシ属	0.46	0.47								
タケ亜科										
クマザサ属型	2.29	2.05	0.52	0.06	0.23		0.11	0.06	0.12	

※第37表の値に試料の仮比重(1.0と仮定)と各植物の換算計数をかけて算出。



第285図 MCライン土層における植物珪酸体分布結果

推定される。

参考文献

杉山真二(1987) 遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点. 植生史研究, 第2号: p.27-37.
 杉山真二(1987) タケ亜科植物の機動細胞珪酸体. 富士竹類植物園報告, 第31号: p.70-83.
 藤原宏志(1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究(1) -数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法-. 考古学と自然科学, 9: p.15-29.
 藤原宏志(1979) プラント・オパール分析法の基礎的研究(3) -福岡・板付遺跡(夜臼式)水田および群馬・日高遺跡(弥生時代)水田におけるイネ(O. sativa L.)生産総量の推定-. 考古学と自然科学

第39表 分析試料一覧

試料番号	樹種 (和名/学名)	試料番号	樹種 (和名/学名)
No. 1	トネリコ属 <i>Fraxinus</i>	No. 16	ニレ属 <i>Ulmus</i>
No. 2	ニレ属 <i>Ulmus</i>	No. 17	コナラ属コナラ節 <i>Quercus sect. Prinus</i>
No. 3	トネリコ属 <i>Fraxinus</i>	No. 18	トネリコ属 <i>Fraxinus</i>
No. 4-1	ニレ属 <i>Ulmus</i>	No. 19	トネリコ属 <i>Fraxinus</i>
No. 4-2	トリネコ属 <i>Fraxinus</i>	No. 20	トネリコ属 <i>Fraxinus</i>
No. 5	コナラ属コナラ節 <i>Quercus sect. Prinus</i>	No. 21-1	ニレ属 <i>Ulmus</i>
No. 6	コナラ属コナラ節 <i>Quercus sect. Prinus</i>	No. 21-2	トリネコ属 <i>Fraxinus</i>
No. 7	ユズリハ属 <i>Daphniphyllum</i>	No. 21-3	ハンノキ属 <i>Alnus</i>
No. 8	ハンノキ属 <i>Alnus</i>	No. 22	ニレ属 <i>Ulmus</i>
No. 9	ニレ属 <i>Ulmus</i>	No. 23	カエデ属 <i>Acer</i>
No. 10	ニレ属 <i>Ulmus</i>	No. 24	ニレ属 <i>Ulmus</i>
No. 11	草本 <i>herb</i>	No. 25	トリネコ属 <i>Fraxinus</i>
No. 12	トネリコ属 <i>Fraxinus</i>	No. 26	トリネコ属 <i>Fraxinus</i>
No. 13	トネリコ属 <i>Fraxinus</i>	No. 27	カエデ属 <i>Acer</i>
No. 14	ニレ属 <i>Ulmus</i>	No. 28	トネリコ属 <i>Fraxinus</i>
No. 15	ニレ属 <i>Ulmus</i>	No. 29	コナラ属コナラ節 <i>Quercus sect. Prinus</i>
		No. 30	焼土塊

学. 12 : p.29-41.

室井緯. 1960. 竹笹の生態を中心とした分布. 富士竹類植物園報告, 5 : 103-121.

3 炭化材同定

(1) 試料

試料は以下に記載した30点であったが、1試料内に炭化材が複数種類含まれるものや、炭化材でないものもあった。したがって、最終的には計32点の炭化材の同定を行った。

(2) 方法

試料は割折またはカミソリを用いて新鮮な基本的3断面（木材の横断面・放射断面・接線断面）をつくり、落射顕微鏡によって75~600倍で観察した。樹種同定はこれらの試料標本をその解剖学的形質および現生樹木の木材標本として対比して行った。なお本試料は試料そのものが小さく、焼け膨れなどで保存状態も悪く、良好な各断面が作成しにくかった。

(3) 結果

同定の結果、7分類群が認められた。結果は第39表に一覧する。なお、各分類群の顕微鏡写真を示した。

以下に同定された分類群の特徴を記す。

a. ハンノキ属 *Alnus* カバノキ科

図版 83-1

横断面：小型の道管が、単独あるいは2~数個放射方向に複合して均一に散在する散孔材である。

第40表 炭化材樹種同定結果

試料番号 / 遺構	試料番号 / 遺構
No. 1 SXQ 35 覆土	No. 16 SQ 68 覆土
No. 2 SXQ 60 炉跡1 覆土 (a)	No. 17 SQ 77 覆土
No. 3 SXQ 60 炉跡1 覆土 (b)	No. 18 SK 79 覆土
No. 4 SXQ 60 炉跡1 石器集中部	No. 19 SQ 90 覆土
No. 5 SXQ 60 炉跡2 覆土 (a)	No. 20 SQ 103 覆土
No. 6 SXQ 60 炉跡2 覆土 (b)	No. 21 SQ 127 覆土
No. 7 SXQ 60 炉跡3 覆土 (a)	No. 22 SXQ 143 覆土
No. 8 SXQ 60 炉跡3 覆土 (b)	No. 23 SK 148 覆土
No. 9 SXQ 60 炉付近	No. 24 SK 149 覆土
No. 10 SXQ 60 炉跡4 覆土 (a)	No. 25 SXQ 152 覆土
No. 11 SXQ 60 炉跡4 覆土 (b)	No. 26 SQ 153 覆土
No. 12 SXQ 60 炉跡5 覆土 (a)	No. 27 SN 157 覆土
No. 13 SXQ 60 炉跡5 覆土 (b)	No. 28 MA 58 区 区-b
No. 14 SXQ 60 炉跡5 覆土 (石組内側)	No. 29 MA 57 区 区-c上
No. 15 SXQ 60 炉跡5 覆土 (石組外側)	No. 30 LT 58 区

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔である。放射組織は同性である。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列である。

以上の形質からハンノキ属に同定される。なお、ハンノキ属にはハンノキ・ヤシャブシ・ミヤマハンノキなどがある。落葉の高木または低木で、日本では北海道・本州・四国・九州に分布する。強さなど中庸の材で、現在では建築・家具・器具・薪炭・旋作などに用いられている。

b. コナラ属コナラ節 *Quercus sect. Prinus* ブナ科 図版 83-2

横断面：年輪のはじめに、大型の道管が、1~数列配列する環孔材である。孔圏部外では、薄壁で角張った小道管が、単独あるいは2~3個かたまって火炎状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞のみからなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質からコナラ属コナラ節に同定される。なおコナラ節にはカシワ・コナラ・ナラガシワ・ミズナラがある。落葉高木で冷温帯落葉広葉樹林の主要高木の一つで、日本では北海道・本州・四国・九州に分布する。概して強堅な材で、現在では家具・建築・器具・薪炭・椎茸ほだ木などに用いられている。

c. ニレ属 *Ulmus* ニレ科 図版 83-3・4

横断面：年輪のはじめに、中型から大型の道管が、1~2列配列する環孔材である。孔圏部外では、多数の小道管が複合して、花束状、接線状、斜線状に比較的規則的に配列する。早材

から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は同性ですべて平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、1~7細胞幅である。

以上の形質からニレ属に同定される。なおニレ属にはハルニレ・オヒョウ・アキニレがある。落葉または半常緑の高木で、日本では北海道・本州・四国・九州・琉球に分布する。種類によってはやや重硬な材で、家具・建築・器具・薪炭・旋作などに用いられている。

c. カエデ属 *Acer* カエデ科 図版 83-5

横断面：小型で丸い道管が、単独あるいは2~4放射方向に複合して散在する散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は同性ですべて平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、1~5細胞幅である。

以上の形質からカエデ属に同定される。なおカエデ属にはイタヤカエデ・テツカエデ・ウリハダカエデなどがある。落葉の高木または小高木で、日本では北海道・本州・四国・九州に分布する。材はやや強靱かつ堅硬で、現在では建築・家具・器具・楽器・運動具・彫刻・薪炭・旋作などに用いられている。

e. ユズリハ属 *Daphniphyllum* トウダイグサ科 図版 83-6

横断面：小型のやや角張った道管が、ほぼ単独で均一に散在する散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔版からなる多孔穿孔で、その数は多く細かい。放射組織は異性である。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で、1~3細胞幅である。多列部・単列部とも10細胞高以下のものが多く、それが上下に連結しているものが多い。

以上の形質よりユズリハ属に同定される。なおユズリハ属にはユズリハ・ヒメユズリハ・エゾユズリハがある。常緑の高木あるいは低木で、日本では北海道・本州・四国・九州に分布する。

f. トネリコ属 *Fraxinus* モクセイ科 図版 83-7・8

横断面：年輪のはじめに、中型から大型の道管が、1~2列配列する環孔材である。孔圏部外では、小型で丸い厚壁の道管が、単独あるいは放射方向2~3個複合して散在する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は同性である。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、1~3細胞幅である。

以上の形質からトネリコ属に同定される。なおトネリコ属にはシオジ・アオダモ・トネリコ

などがある。落葉または常緑の高木で、日本では北海道・本州・四国・九州に分布する。材は堅硬かつ強靱な良材で、現在では家具・建築・器具・運動具・楽器・薪炭などに用いられる。

g. 草本 Herb

図版 83-9

横断面：維管束が存在する。

放射断面および接線断面：維管束が桿軸方向に配列している。

以上の形質より草本に同定される。

(4) 所見

同定の結果、多いものからトネリコ属 12、ニレ属 10、コナラ属コナラ節 4、ハンノキ属 2、カエデ属 1、ユズリハ属 1、草本 1 であった。これらの樹種の中には暖温帯に分布する照葉樹はなく、すべてが冷温帯の落葉広葉樹に属するものを主に含む分類群ばかりである。このことからみて周囲には冷温帯落葉広葉樹林が分布していたと推定される。同定された樹種は冷温帯落葉広葉樹林から普通に得られる種類である。また、トネリコ属とハンノキ属は湿地に生育する種が主となるため、ここでは湿地林を形成する樹木と推定される。よって遺跡周囲に湿地が存在していた可能性がある。

参考文献

島地謙・伊東隆夫（1982）図説木材組織，地球社。

島地謙ほか（1985）木材の構造，文永堂出版。

日本第四紀学会編（1993）第四紀試料分析法，東京大学出版会。

第6章 ま と め

岩瀬遺跡は、東北横断自動車道秋田線建設事業に係わって平成3年と5年に実施された調査で、主に縄文草創期より晩期に至る遺構や遺物が確認された。縄文時代の検出遺構は、竪穴住居跡2軒、竪穴状遺構2基、炉跡8（内2基は不明瞭）、土坑40基、集石炉17基、石組炉1基、焼土遺構11基、土器集中部3カ所、礫集中部4カ所、石器石材集積遺構5カ所、石器集中部50カ所、柱穴状遺構7基で、縄文以外のものは土坑1基、焼土遺構1基、炭焼成遺構2基、溝状遺構4条である。以下に、草創期と早期を中心にして、(1)～(4)の項目に沿って述べる。

(1) 河道 A～I と基本層位

遺跡からは、縄文時代早期初頭頃より中期まで現河川側に移動している河道（河道 A～I）の痕跡が確認できた。河道の切り合いで、草創期から中期までの先後関係を捉えることのできた多くの遺構や遺物がある。さらに、河道 A よりも古い礫層や砂層の基本層位より、草創期の遺構や遺物が多く見つかっている。これら河道堆積層と基本層位によって、草創期より中期にかけての遺構・遺物の同時代性や変遷を理解することができた。

一方、河道の変化を把握できたことは地質学的にも重要である。遺跡は南郷Ⅲ段丘の末端に立地しており、段丘面が河川に近い微地形の変化を伴って形成されていることの理解を、具体的に示したことになる。また、新しい河道ほど河床面が低くなるのに対して B 河道のそれは高く、A～C 河道の東西流路に対して D 河道以降の流路が南北に変化する。これら早期の2つの河道の在り方は、他の河道形成とは異なる気候変動に対応するものかもしれない。

(2) 遺構

遺跡で検出された遺構のうち、草創期の竪穴状遺構（1基）、草創期の炉跡（8基のうち2基は不明瞭）・早期の集石炉（14カ所）、草創期から前期の石器集中部45カ所（各16・21・8カ所）、草創期の石器石材集積遺構（3カ所）が、特に遺跡を特色づけている。

竪穴状遺構の SXH66 は、草創期の礫層上面で緩い窪み状を呈したもので、中央側に火熱を受けた礫の範囲がある。さらに、礫面の上面も含んで多量の石器が出土しており、竪穴住居跡の可能性を考えている。竪穴住居跡は、東京都前田耕地遺跡（宮崎，1983）等で検出されており、希有な例として本遺構も加えることができよう。

炉は多く検出され、ほとんどが土坑や浅い凹みを伴う集石状のものである。草創期の遺構に伴うと考えられるものは、SXH66、SXQ36・60・125で見つかっており、本文では遺構に伴うことを考慮して他の集石炉と区別して扱った。早期の SXQ127 は掘り方をもたず、平坦面に焼けた多量の礫を充填させた例である。

第6章 ま と め

草創期から早期の石器集中部は、径が1 m以下(SXQ32)から径が8 m程(SXQ60)のものまで37ヵ所を確認した。この中には、少量でも総体に集合状態を示すもの、逆に、複数の石器集中部が区別されないまま一集合状態として扱ったものもある。また石器の出土状況には、SXQ32のように殆どがチップで占めるもの、石核・製品・剥片やチップを含んでいるもの等様々である。そして、石器を集め移動して捨てたのか製作と同時に廃棄したかの、厳密な区分はできていないが、各時代毎に石器製作を行っていたことは十分に認めることができた。

草創期から早期までの石器石材集積遺構は、4ヵ所検出された。草創期のSXS57では、4点の扁平な両面調整石器が、長軸を揃えて密着して出土した。本県の綴子遺跡では、7点の石槍が一括で出土したとされ(栗島, 1990)、SXS57も北東北のデポの資料として注目されよう。

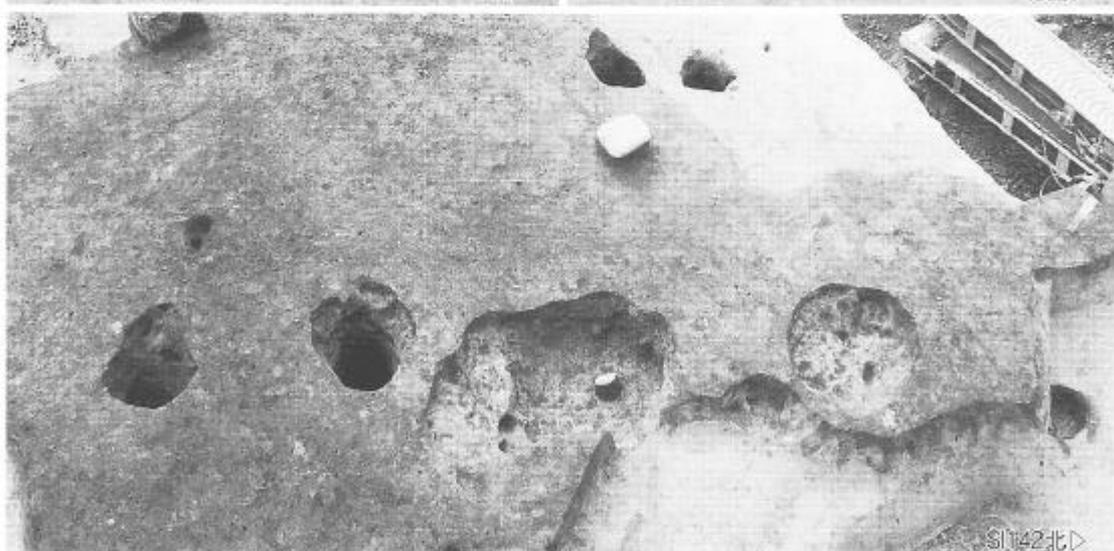
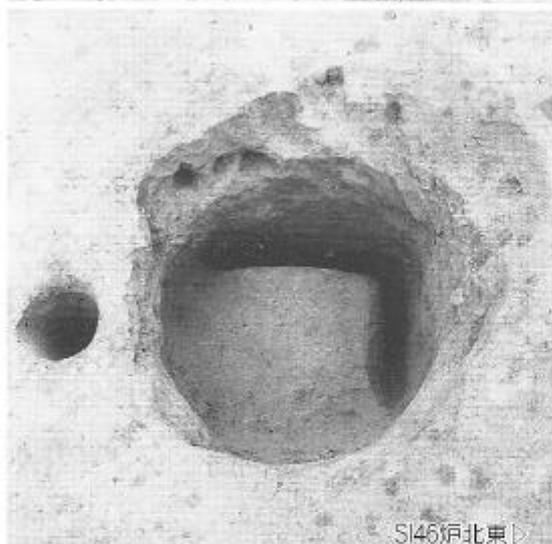
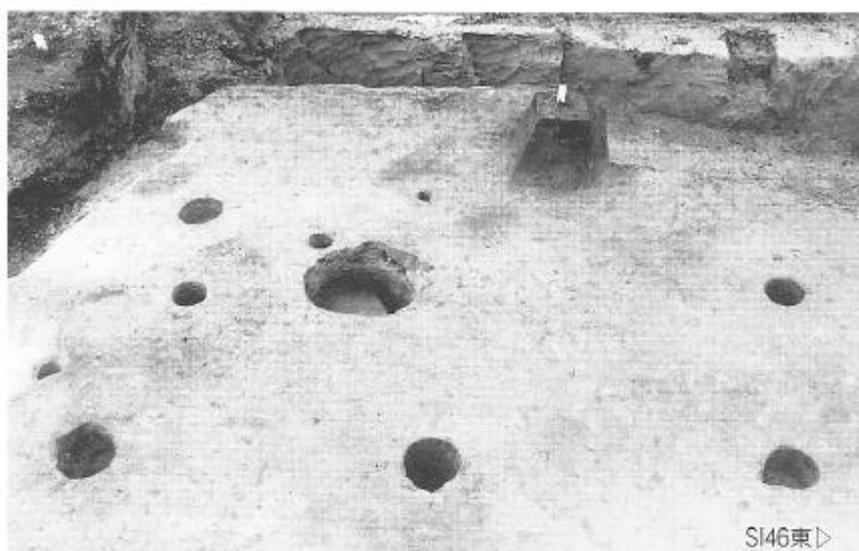
(3) 土器

草創期から早期までで、基本土層と河道の年代を決定するのに大事なのが、X層でSXQ60の爪形文・無文土器、IX層下位でSXQ100の隆起線文土器、VII層でSXQ36の縄文土器、V層でSXP98の尖底の無文土器、河道A堆積層中位でSXQ104の撚糸文系土器等である。河道Aの堆積層はVI層に収束するので、SXQ104の撚糸文系土器はSXQ36の縄文土器よりも新しい。さらに、爪形文・無文・隆起線文土器は草創期に含まれ、撚糸文系土器は口唇部の肥厚している特徴と併わせ早期の範疇で、尖底の無文土器は早期中葉である。また、SXQ36のような口唇部が肥厚して胴部に縄文を施す土器は、新潟県室谷洞窟から出土しており広義の井草式土器に対比されている(小林, 1994)。本遺跡の例は、口唇およびその内面直下に押圧縄文を施しており、この施文手法が室谷洞窟の例より古い要素と考えられる。よって、SXQ36出土の縄文土器は押圧・回転縄文をもつ多縄文系土器と考え、草創期の範疇とした。

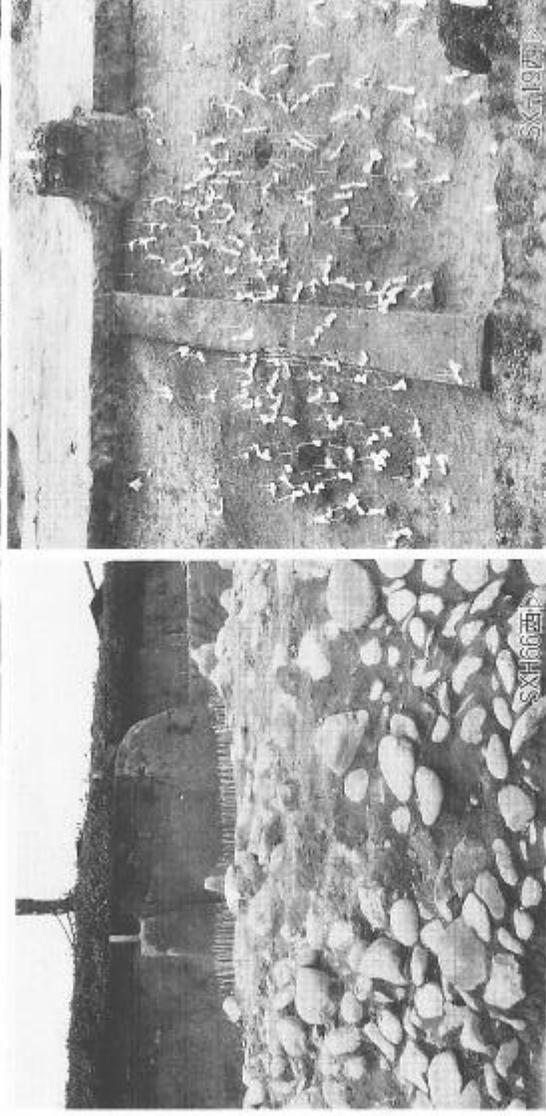
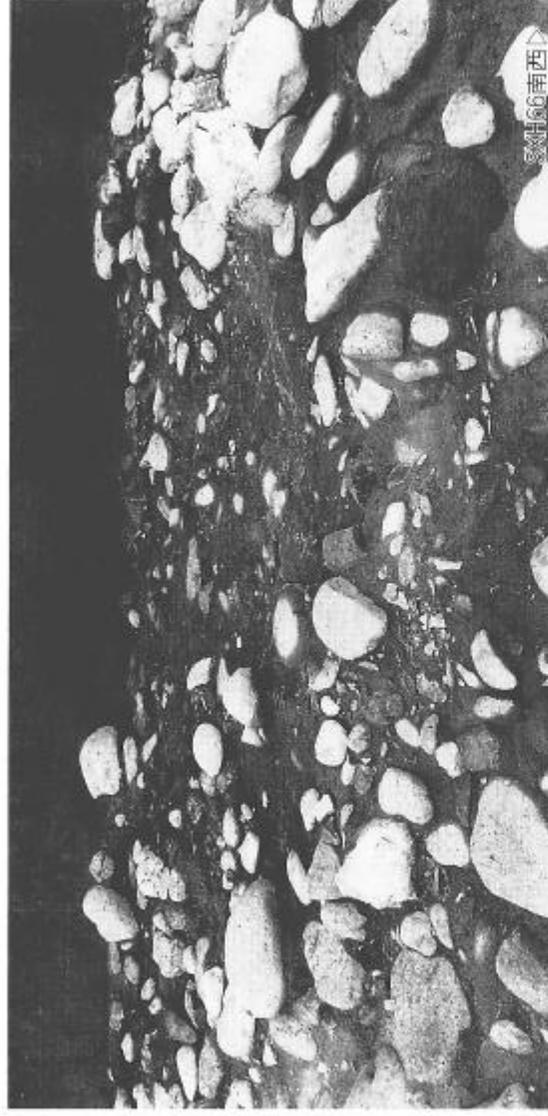
(4) 石器

草創期から早期にかけての石器には、石核・調整の整っている両面調整石器・調整の粗い両面調整素材・石槍・石斧・石筥・石鏃・石匙・石錐・搔器・削器・鋸歯縁石器・二次加工ある剥片等の石器があり、外に多くの接合資料が得られた。石槍や石斧は、製作段階の失敗品が殆どで、これらの量に比べて両面調整石器と両面調整素材は飛び抜けて多い。石器製作で捨てられた、剥片やチップの量は膨大である。接合資料では、両面調整石器・石槍・石斧・石筥等の製作過程を辿れる資料に恵まれた。さらに、遺物から個別の遺構間の関係を整理すると、①SXQ60-91-100-124-125-SXH66、②SXQ36-71-85-86-117-SK56(覆土)、③SXQ92-73-80-102と把握され、SK56を除いて①～③の各々が同時期に存在したことが裏づけられている。また、4点の石匙が草創期のSXQ60・100に伴っていることや、早期のSXQ96から舟底状の石核より剥離した幅広で小型の縦長剥片が出土したことは、特筆されてよい。

図版1 竪穴住居跡



图版 2 竖穴状遗構





SK77南東▷



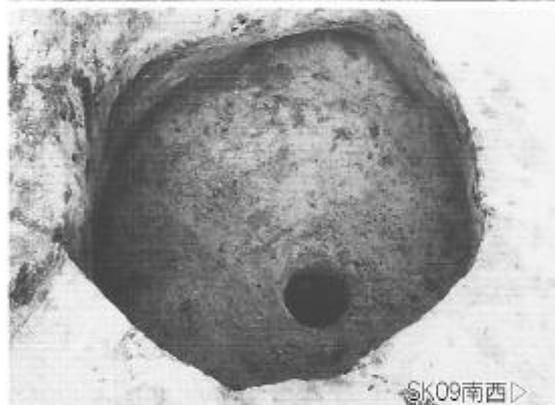
SK79南西▷



SK118東▷



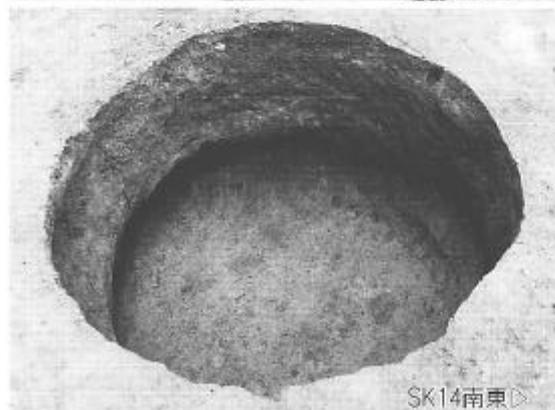
SK148南▷



SK09南西▷



SK10西▷



SK14南東▷

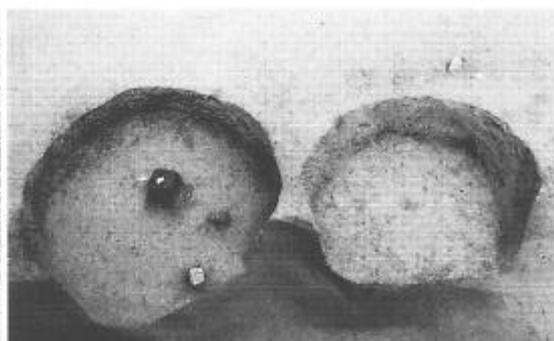


SK15東▷

図版4
土坑(2)



SK26南▷



SK27・28南西▷



SK47北東▷



SK69南西▷



SK108北▷



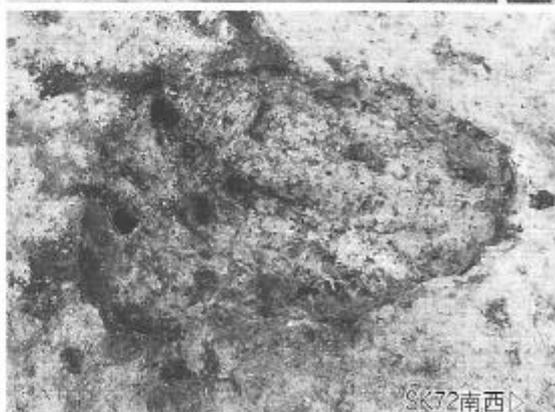
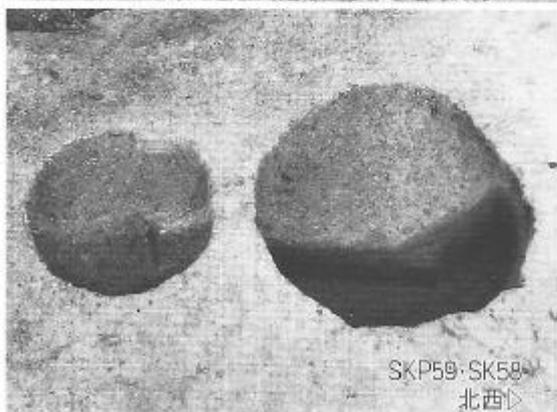
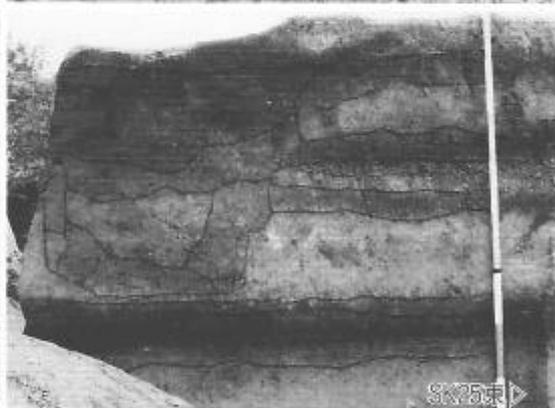
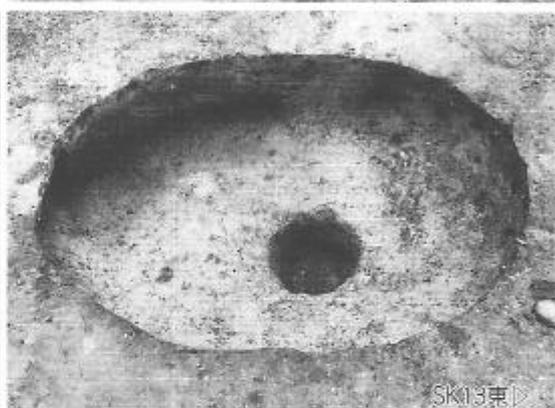
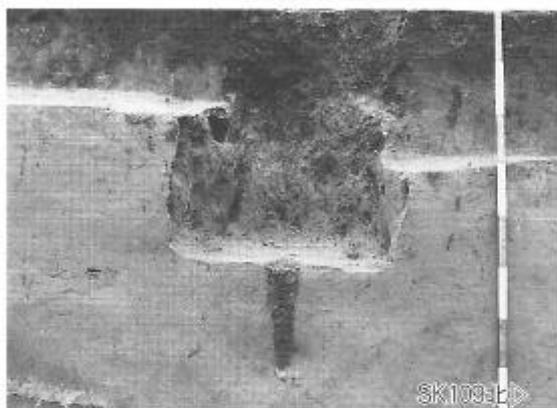
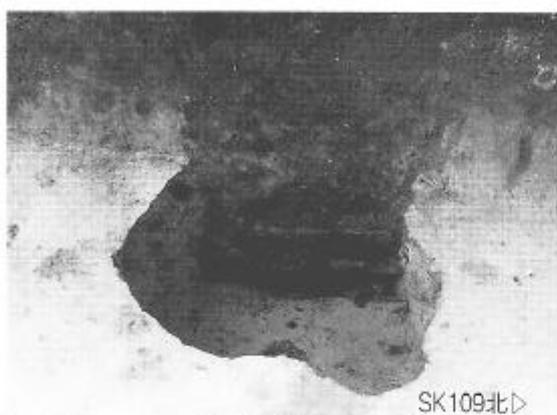
SK69北東▷



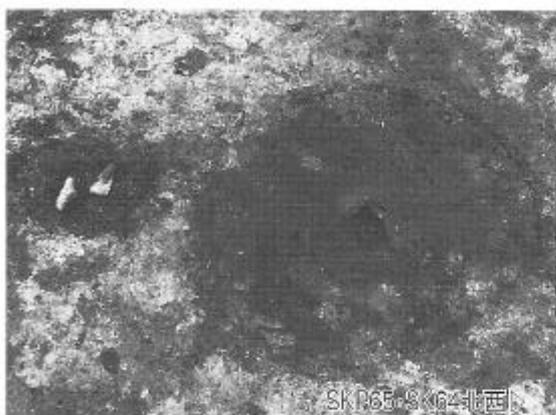
SK108北▷



SK04南東▷



圖版 6
土坑 (4)



SKP65-SK64北西



SK111東



SKP65-SK64北西



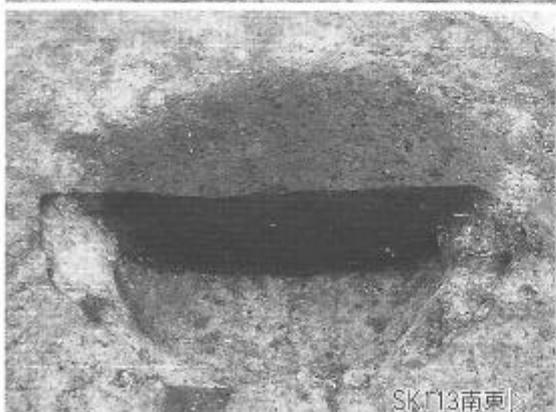
SK112南西



SK113西



SK114東

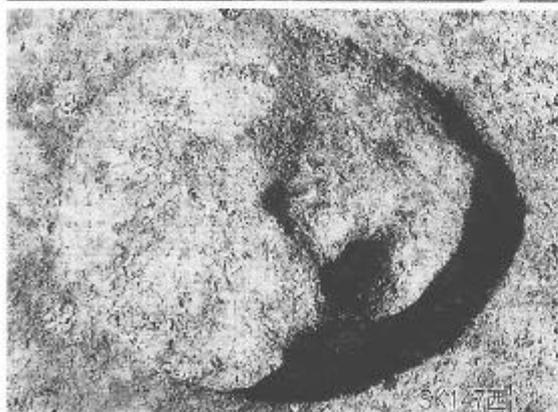
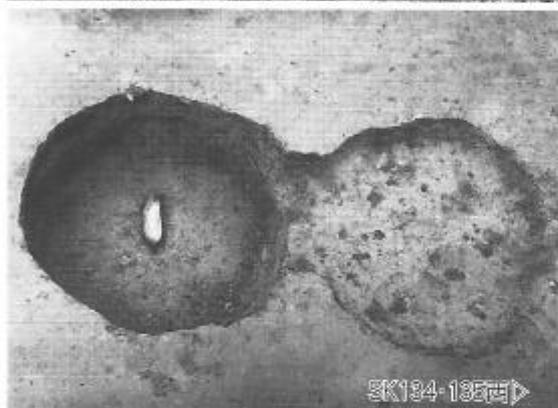
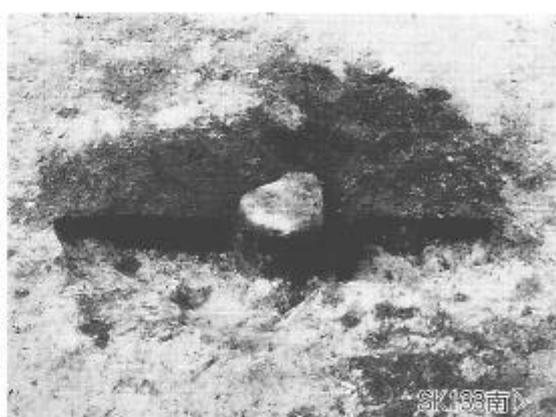


SK113南東

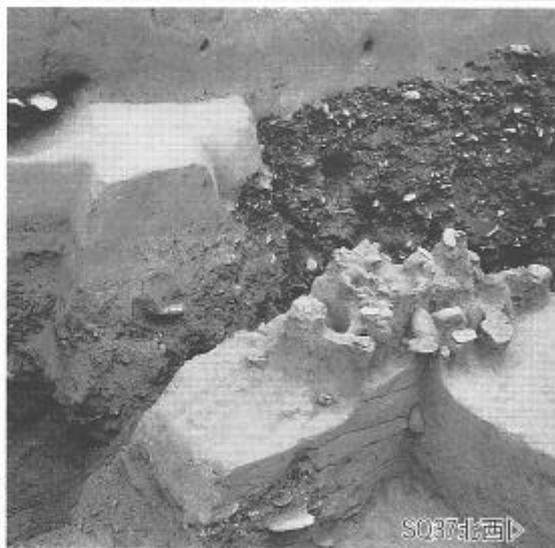


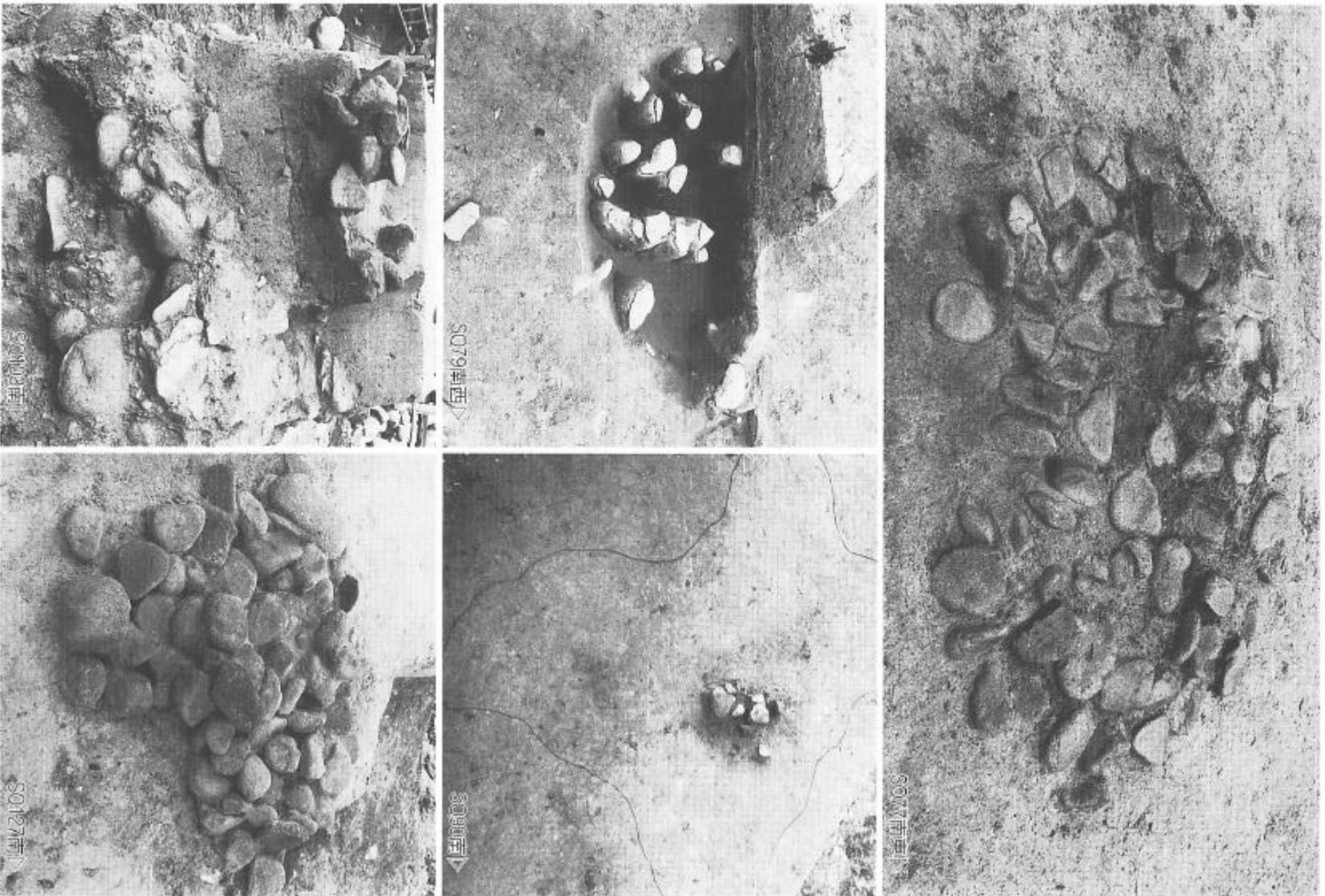
SK115西

图版 7
土坑(5)



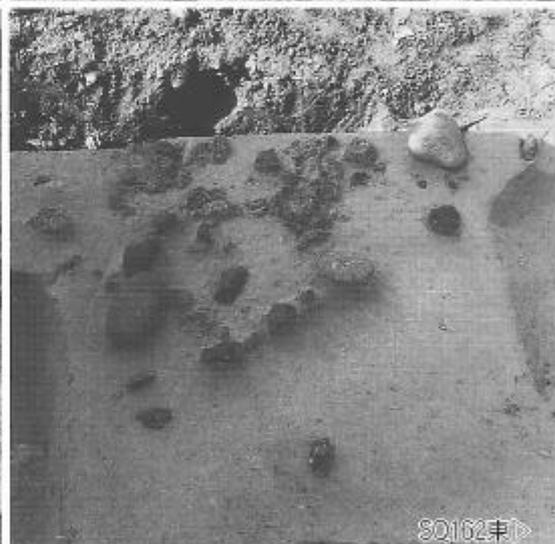
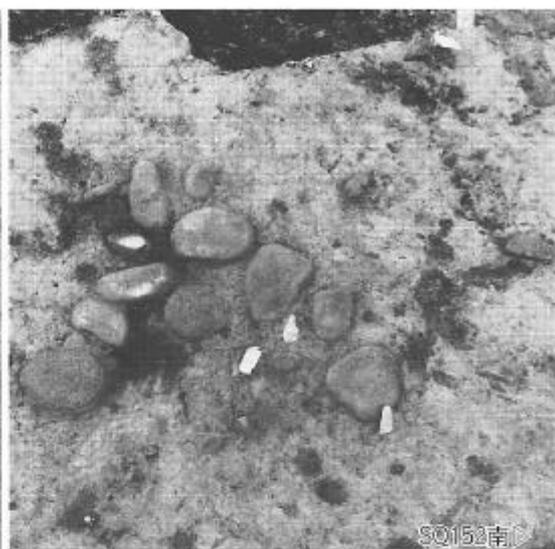
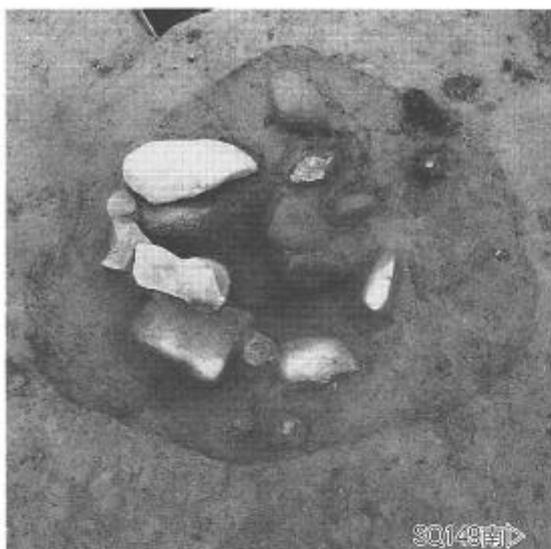
図版 8
集石炉 (1)

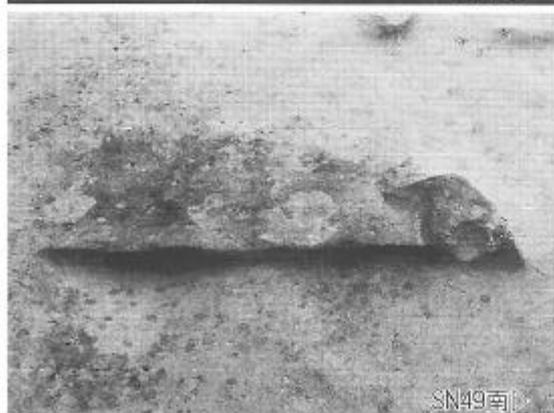
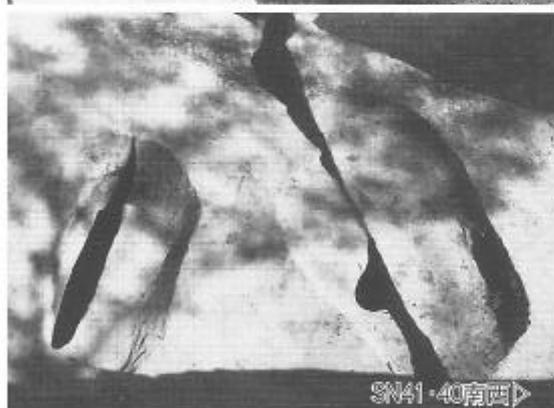
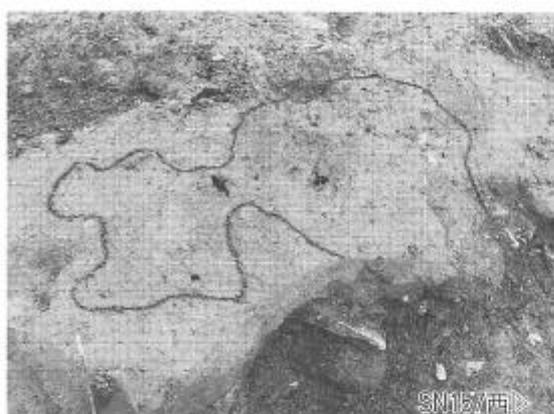




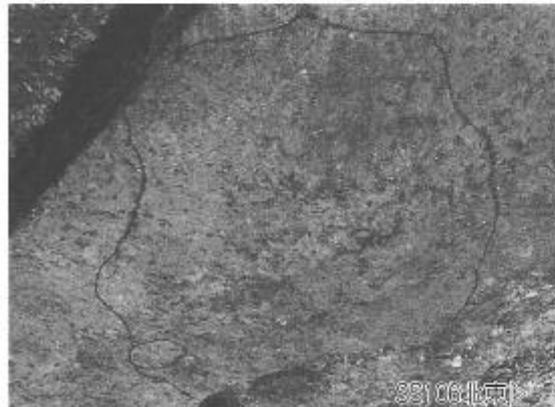
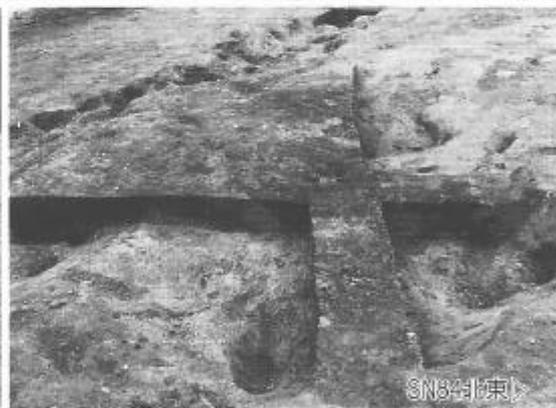
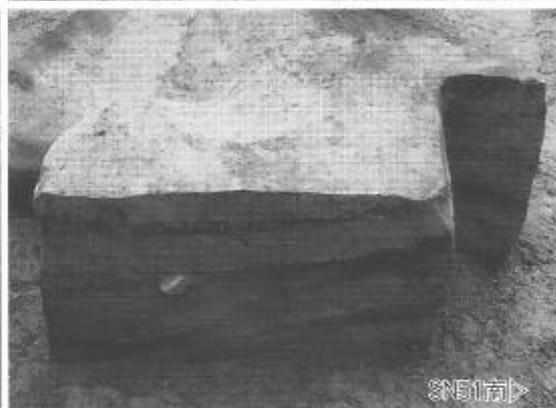
圖版 9 集石塚②

図版10 集石炉(3)・石組炉

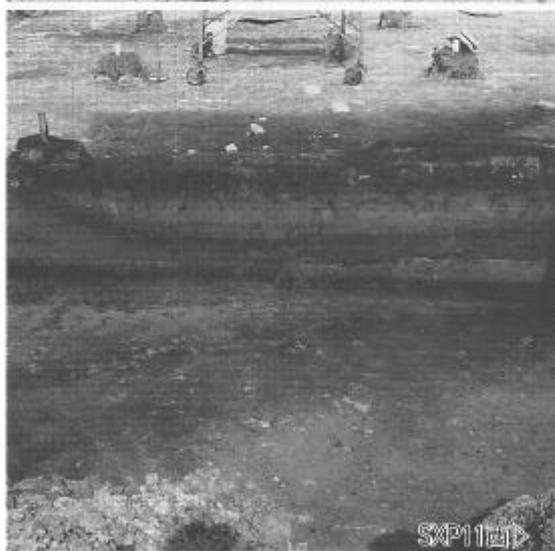
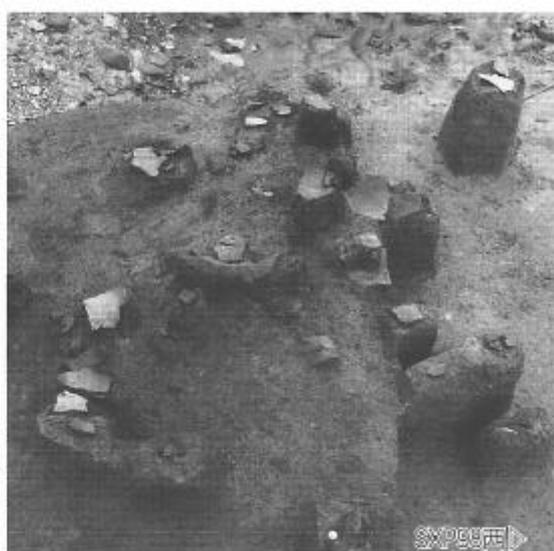




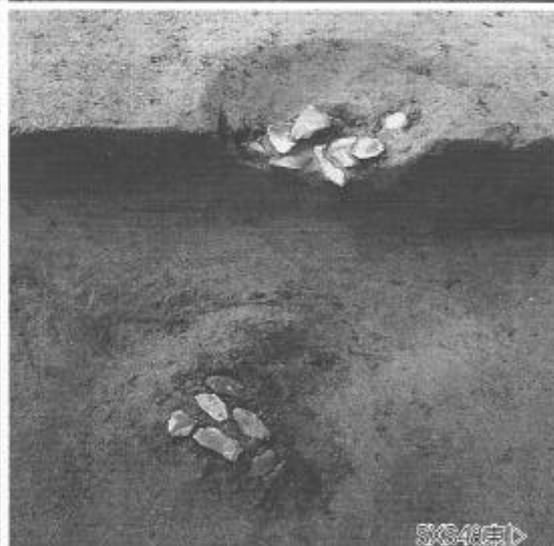
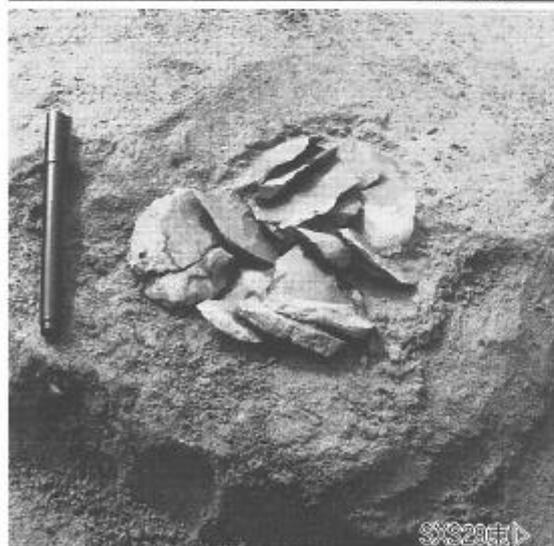
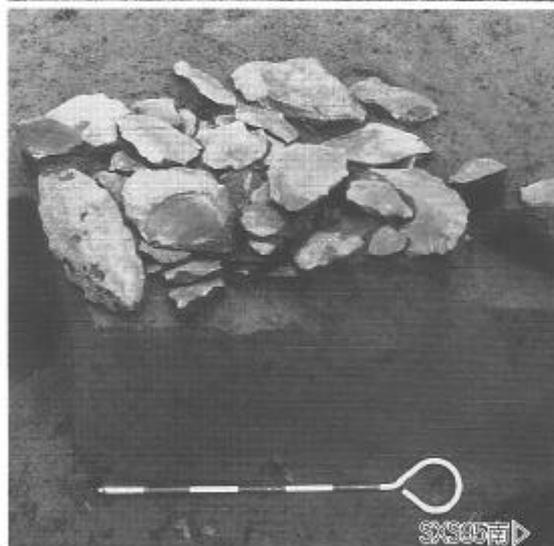
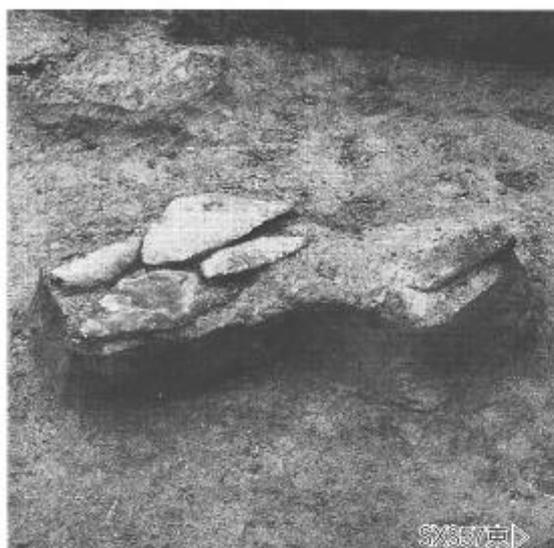
図版 12 焼土遺構(2)・炭焼成遺構



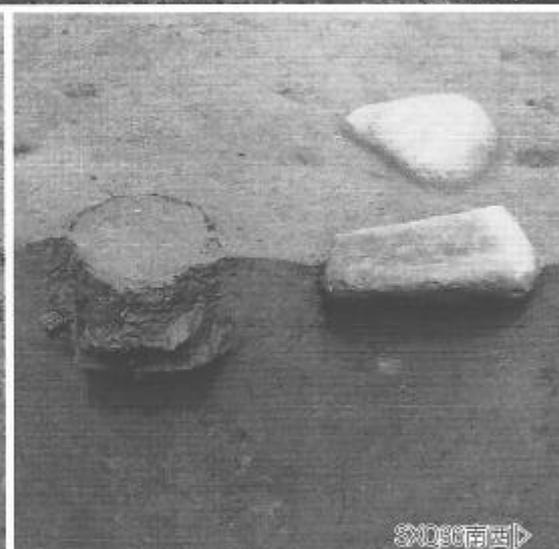
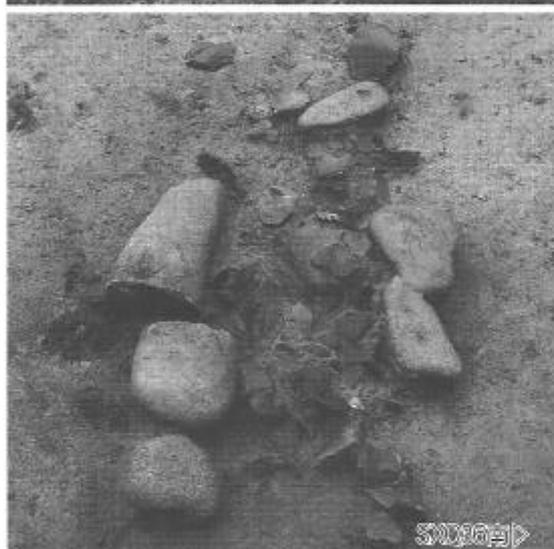




図版15 石器石材集積遺構

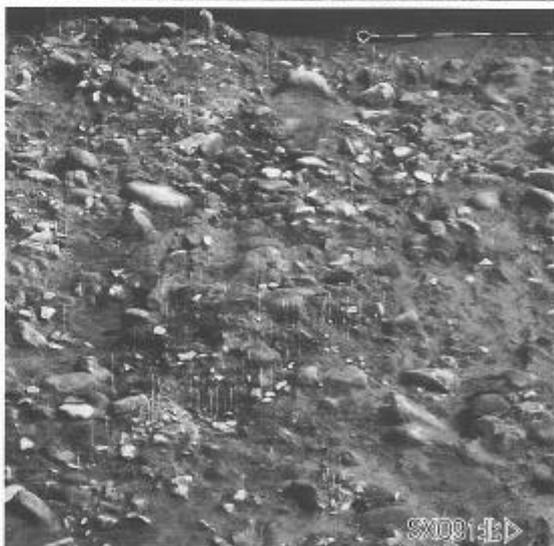
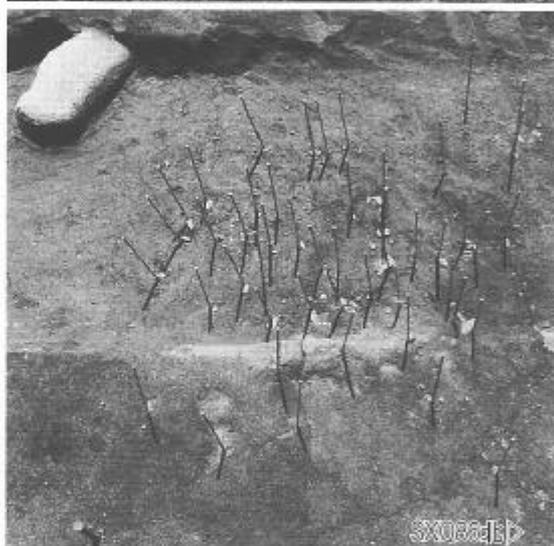
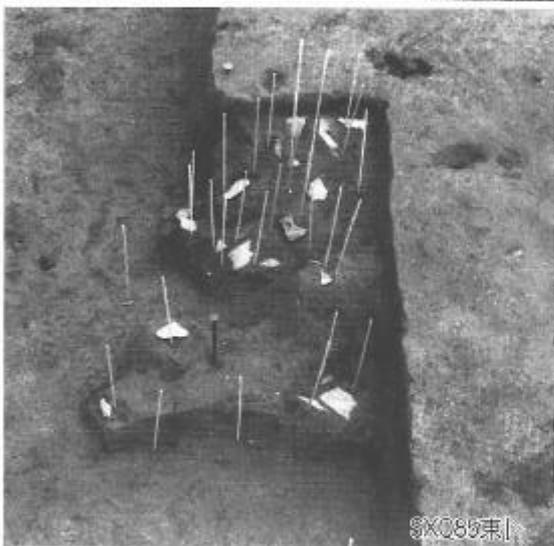


図版16 石器集中部(1)

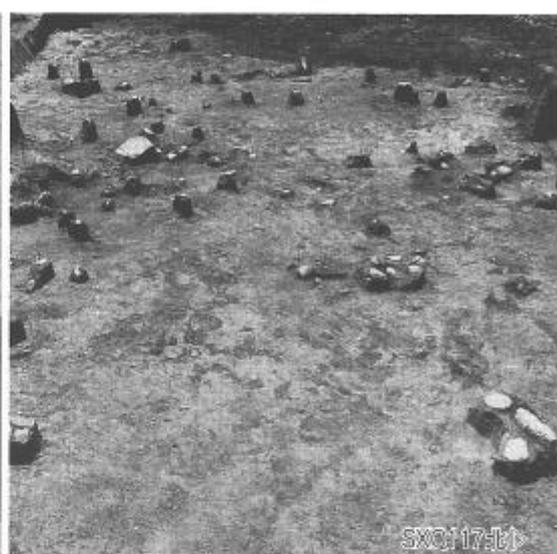
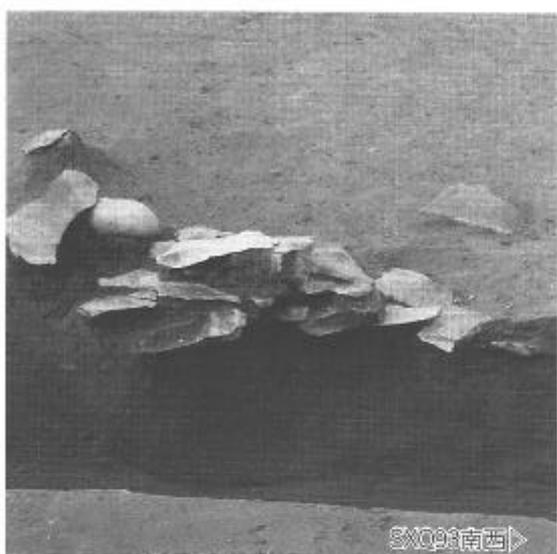


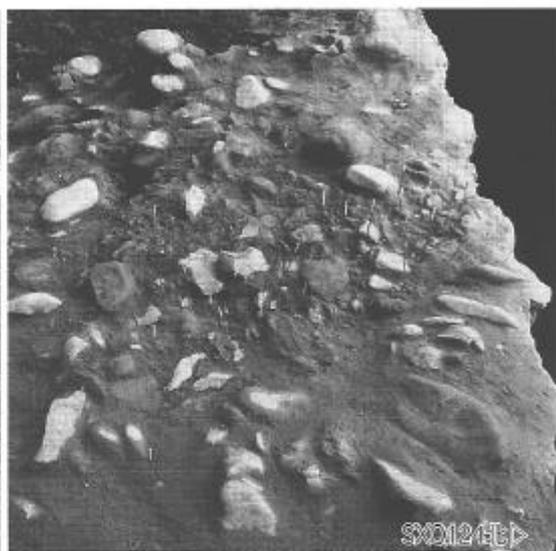
図版17 石器集中部(2)

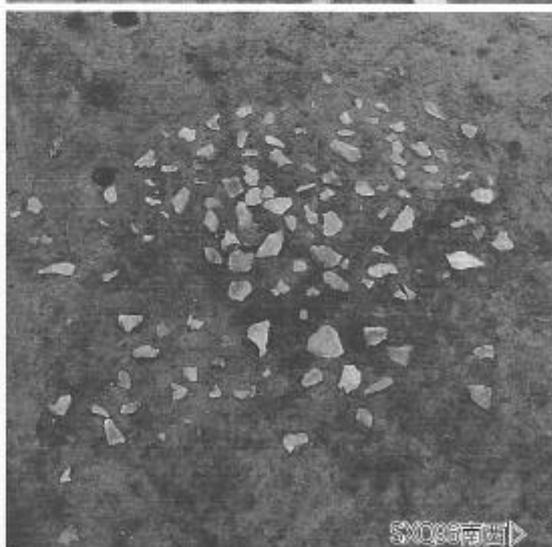
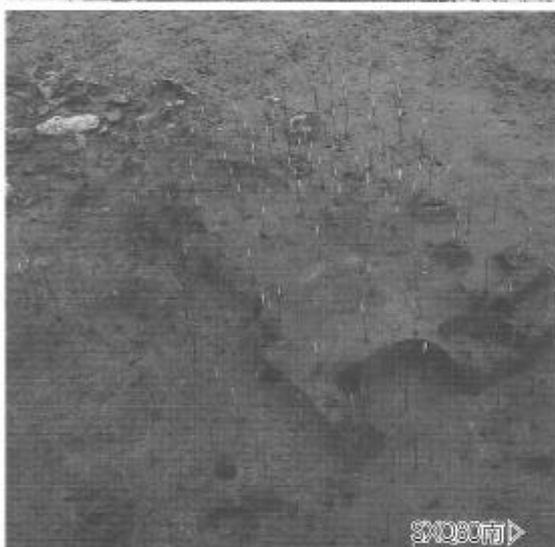
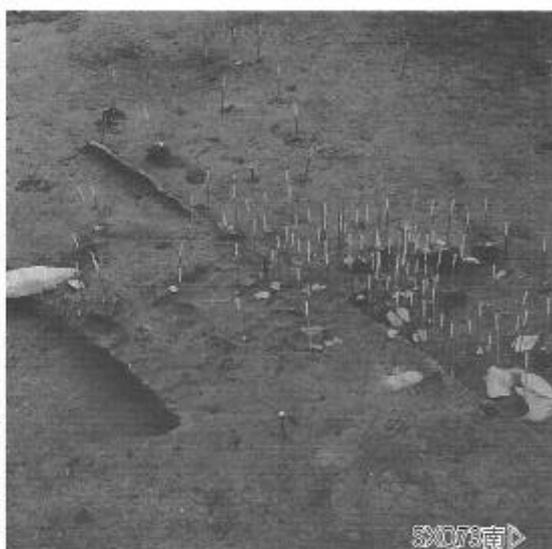
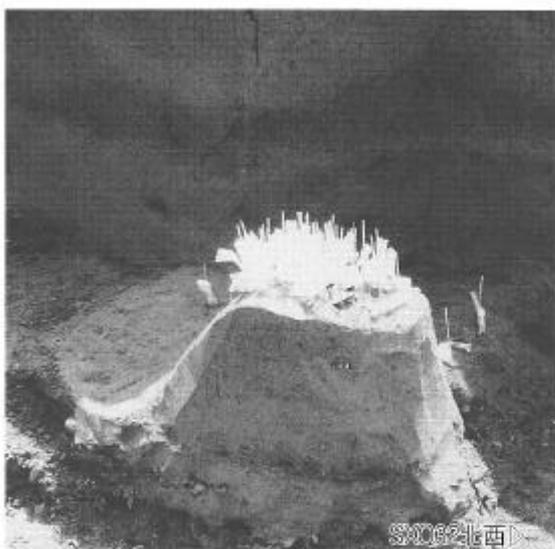


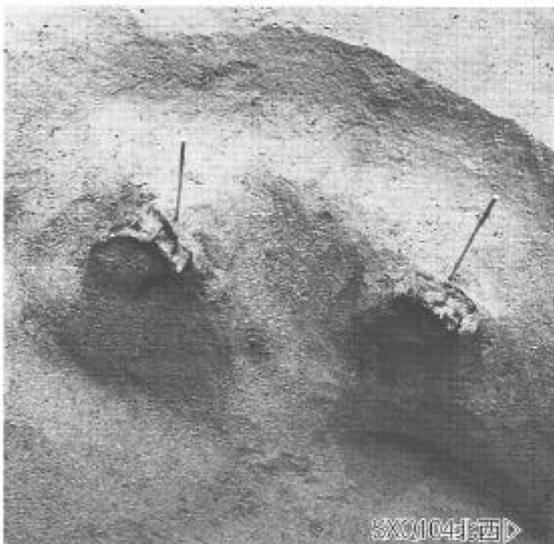


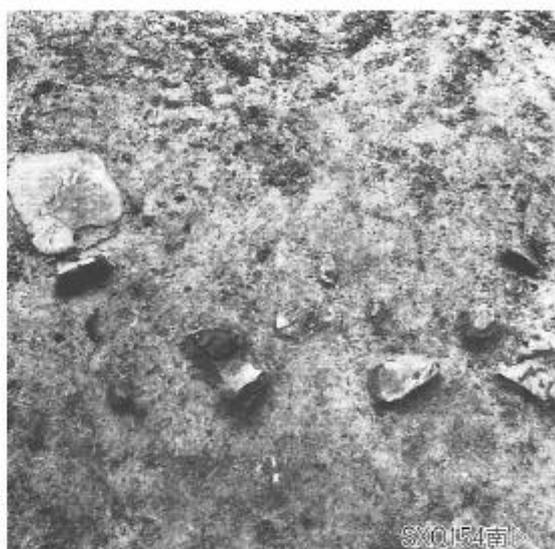
図版19 石器集中部(4)



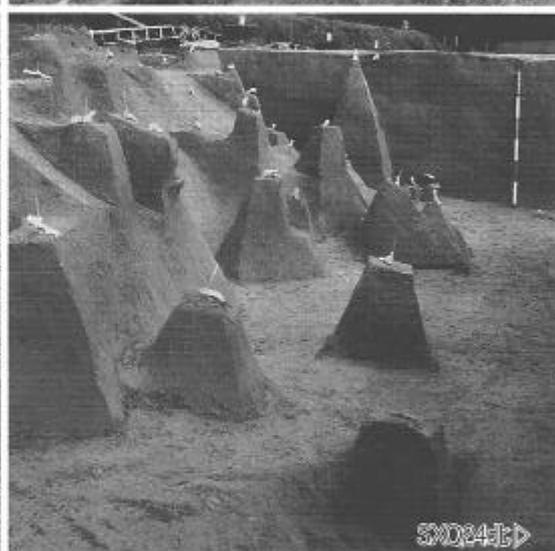
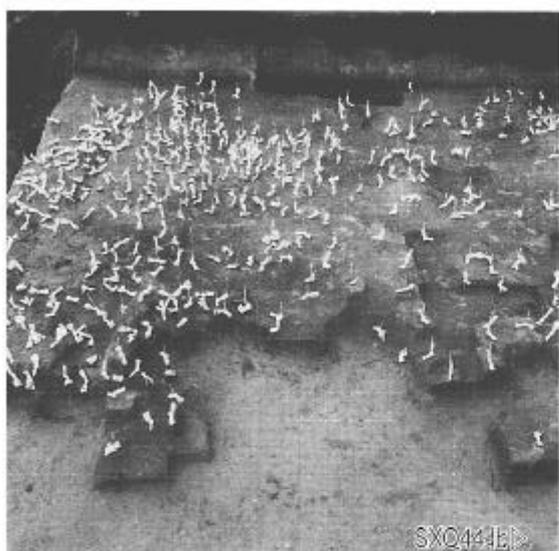




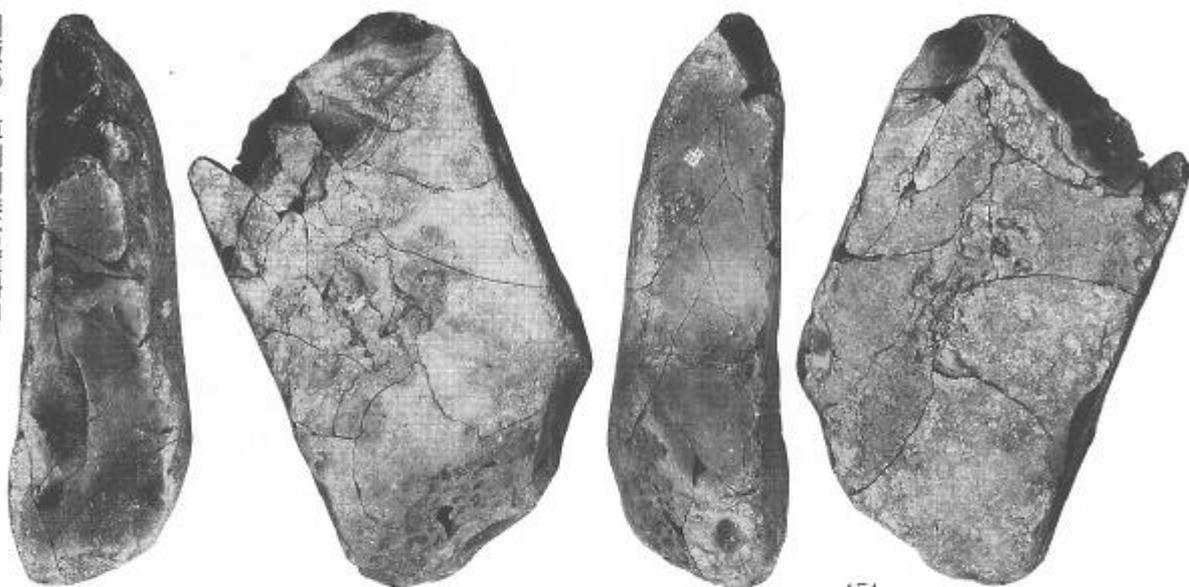




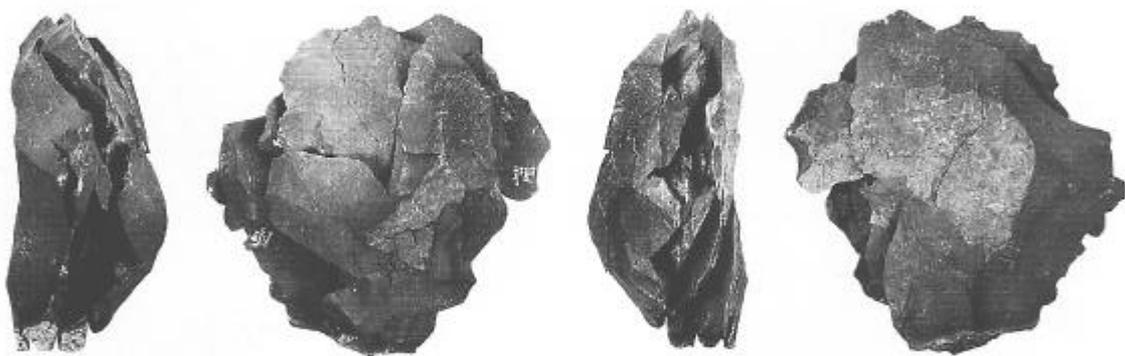




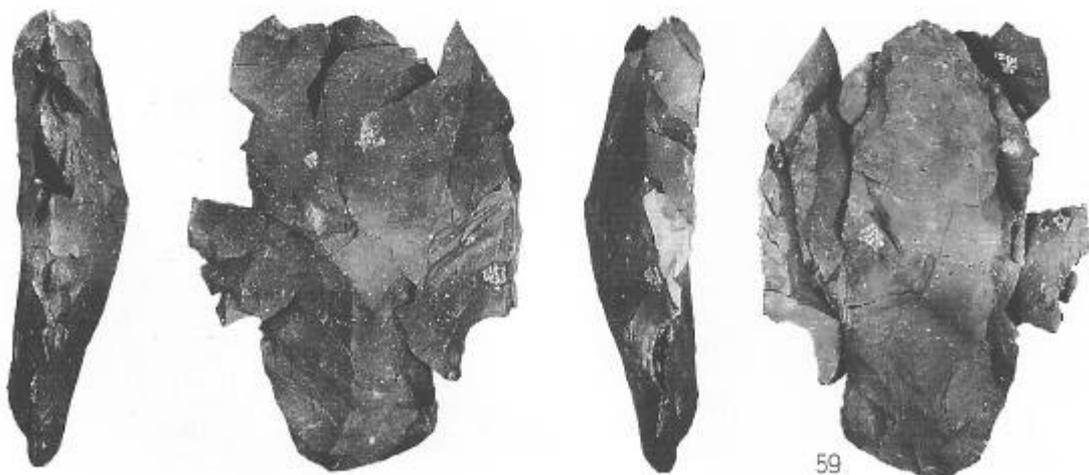
圖版 26 草創期接合資料 (1)



151



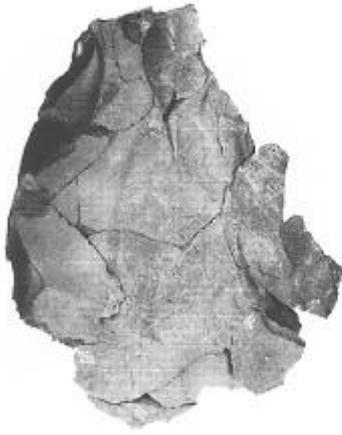
165



59



166



152



60



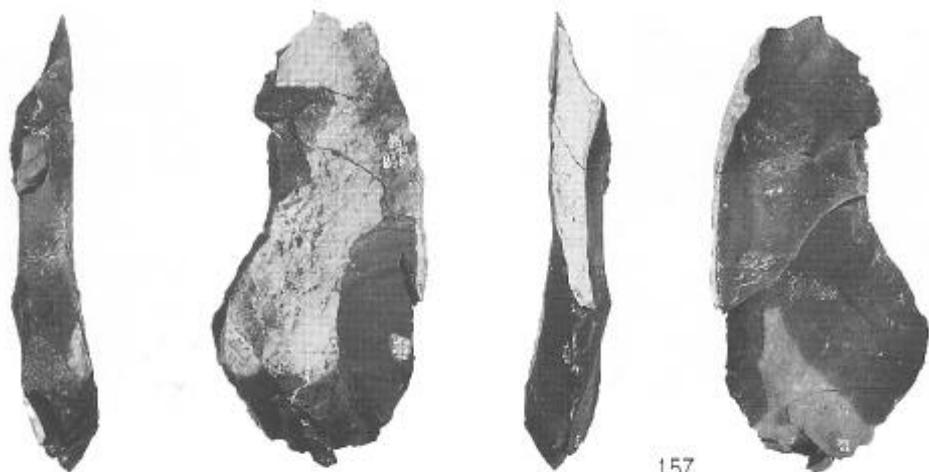
61



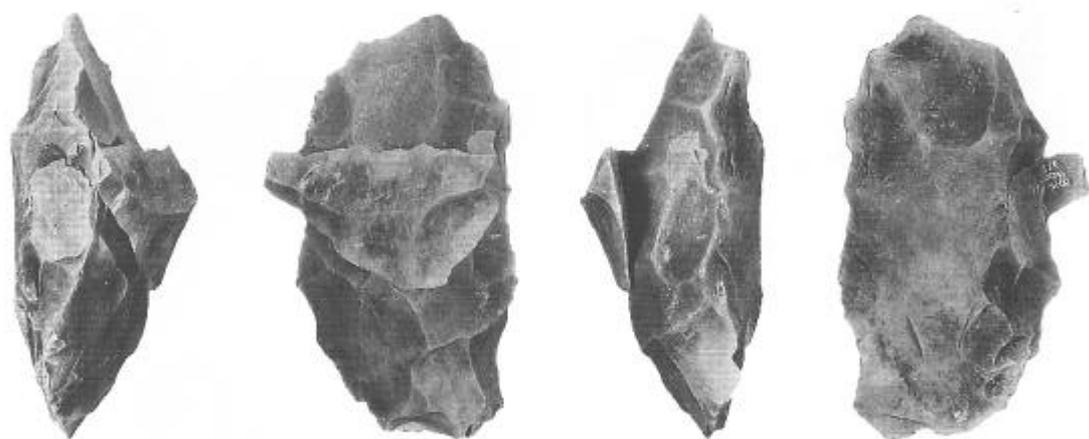
153



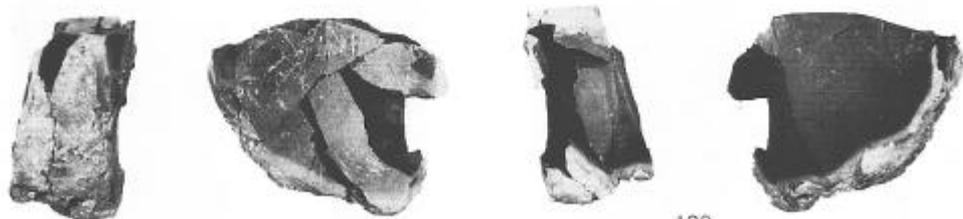
167



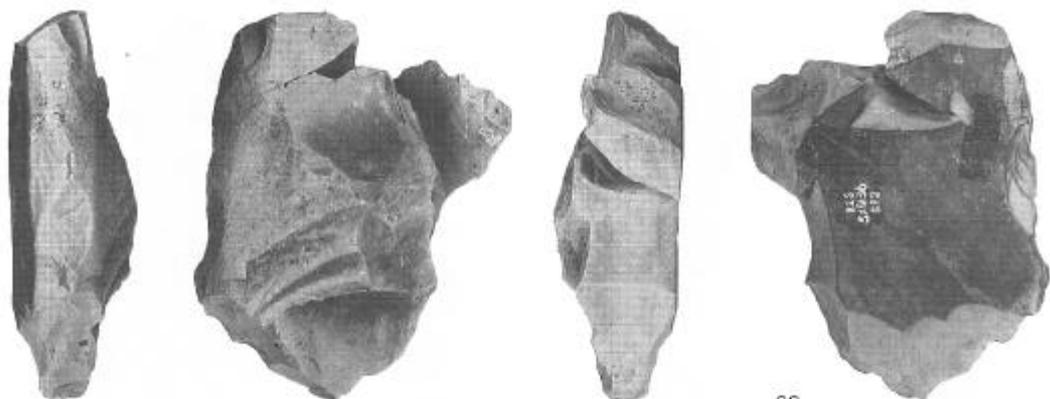
157



62



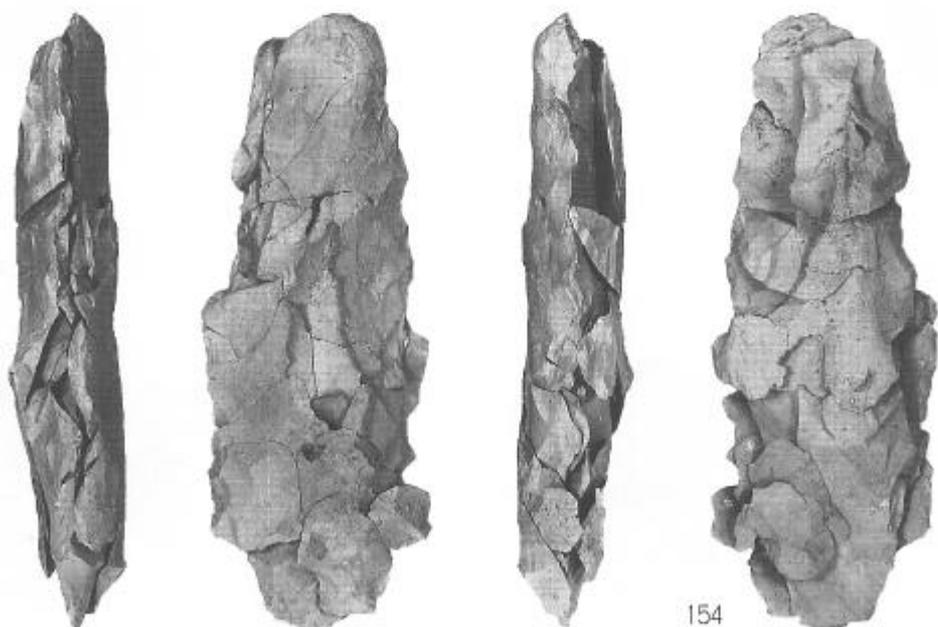
168



63



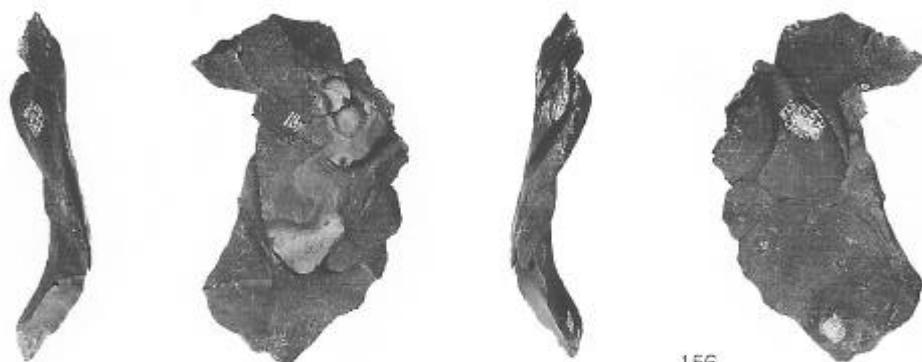
206



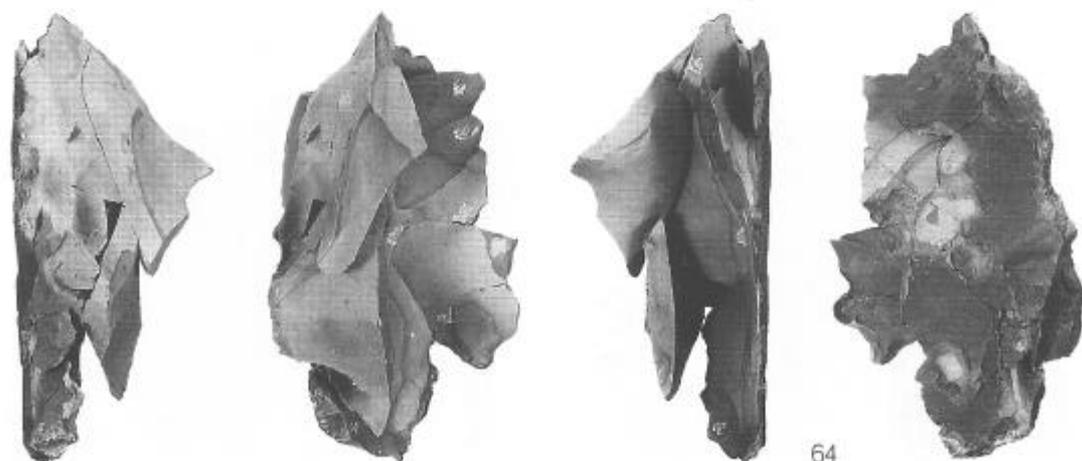
154



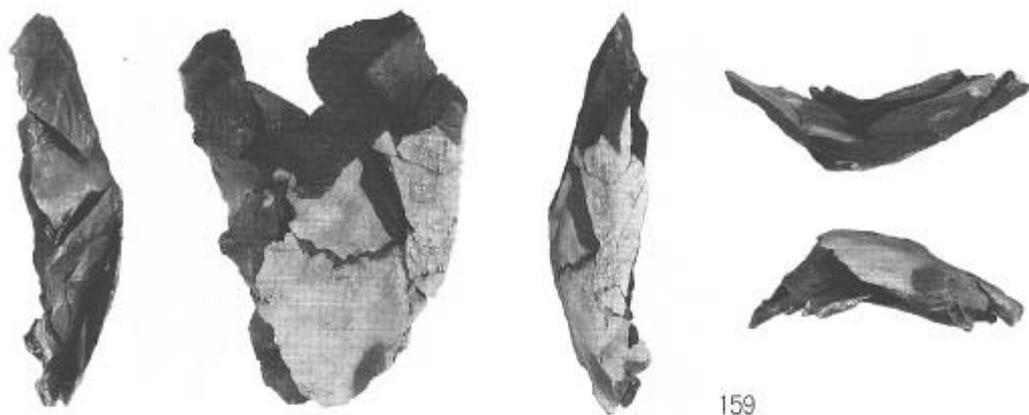
155



156



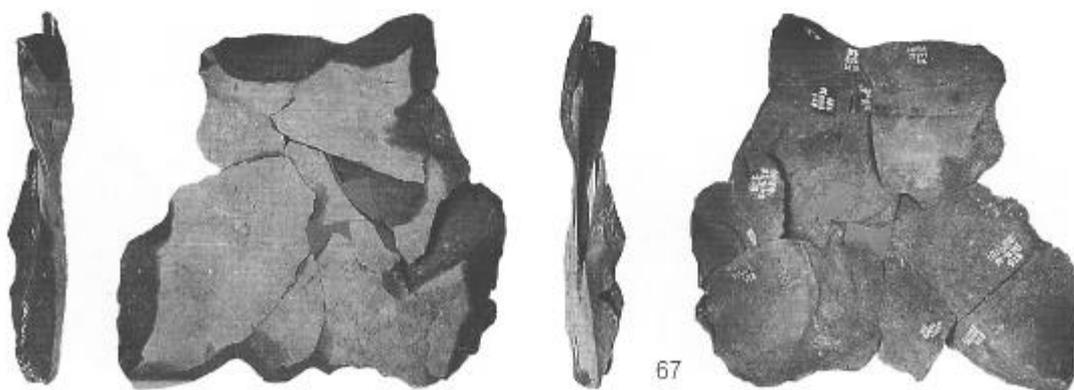
64



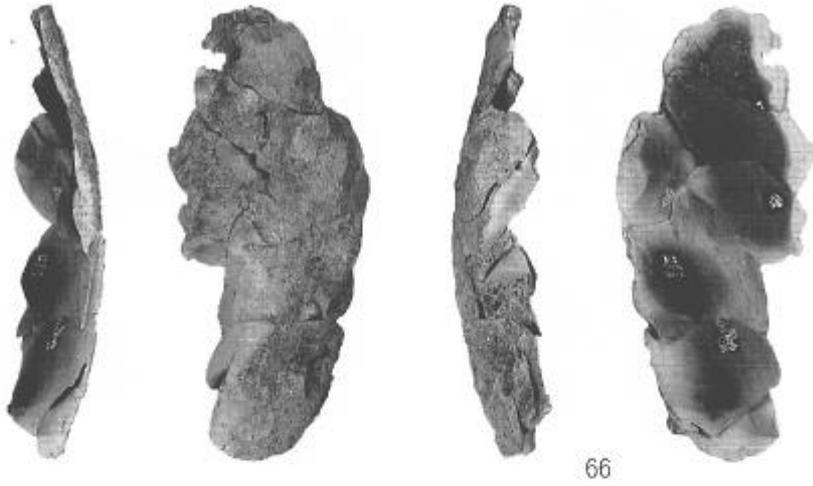
159



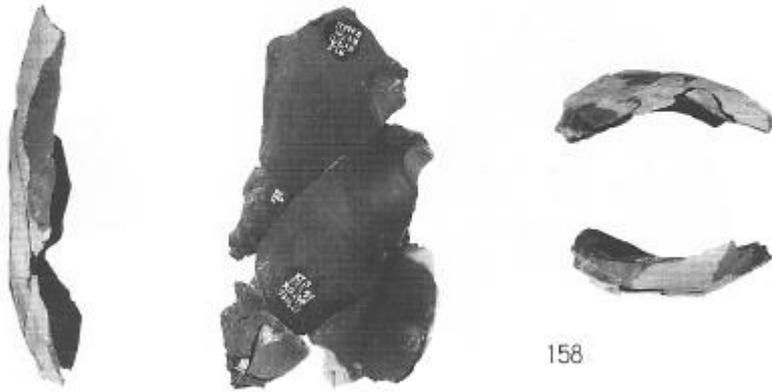
65



67



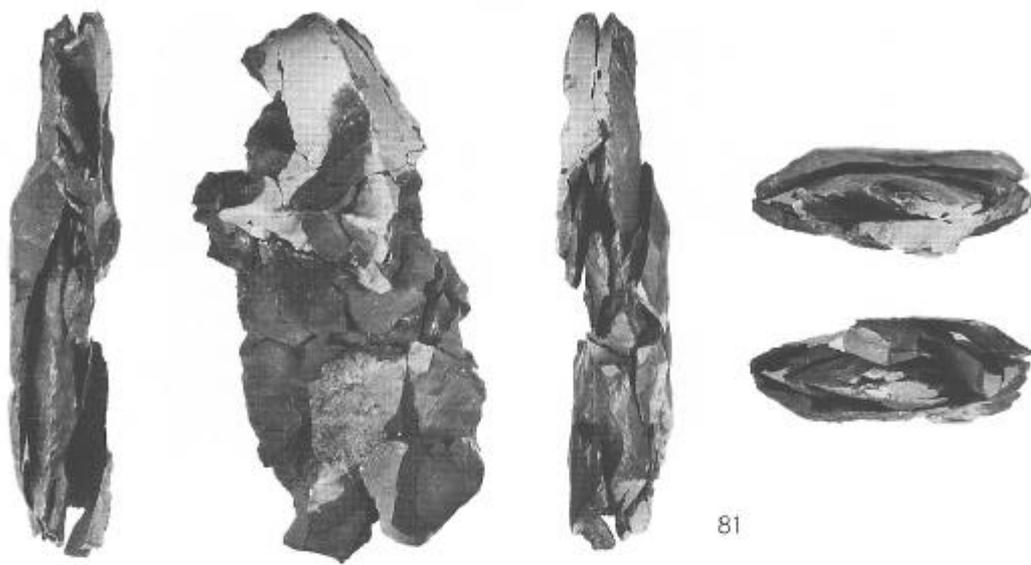
66



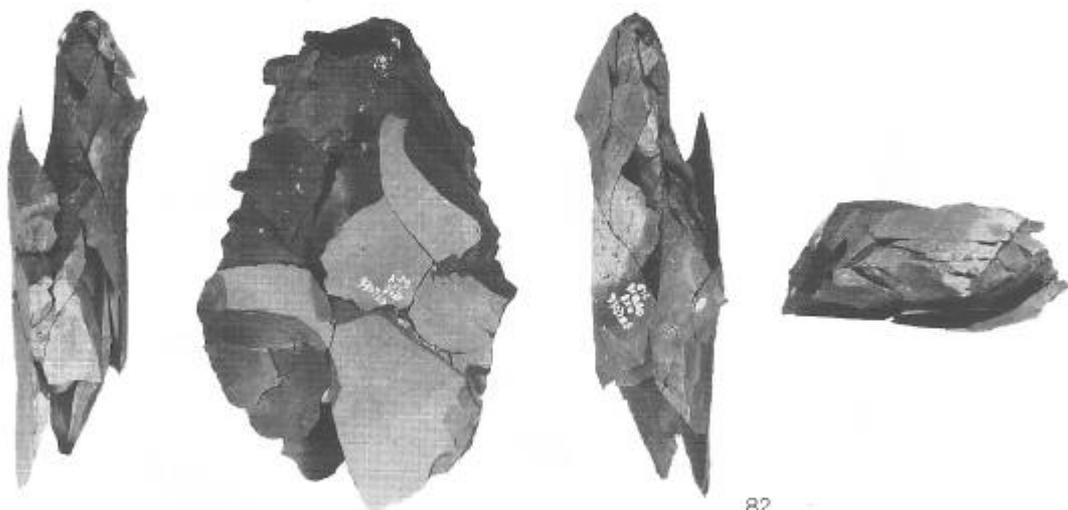
158



169



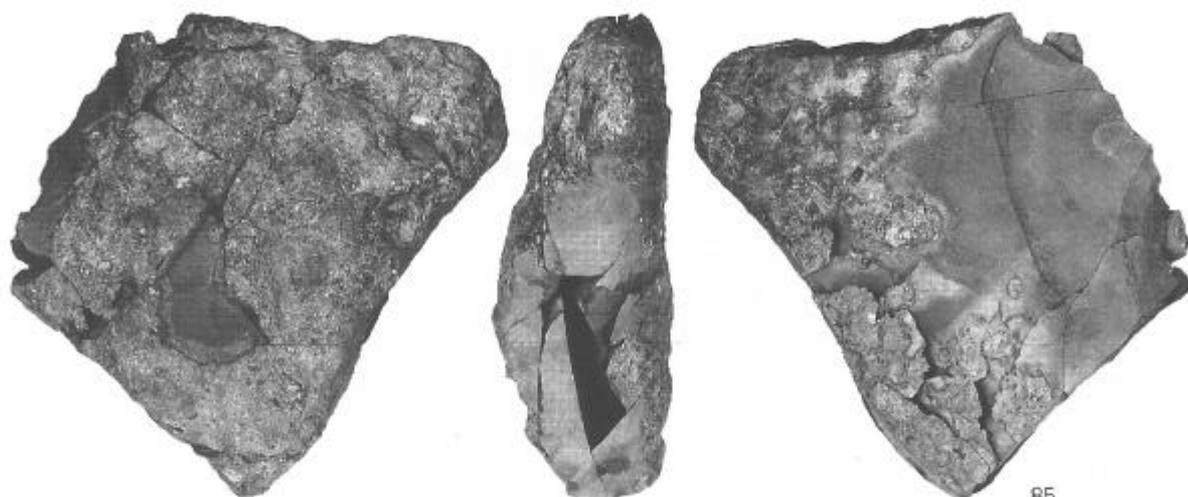
81



82



83



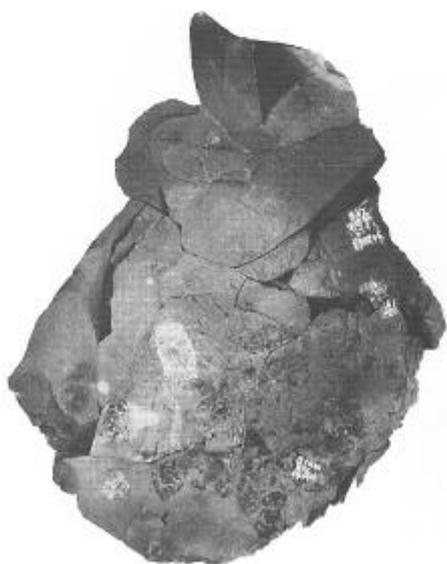
85



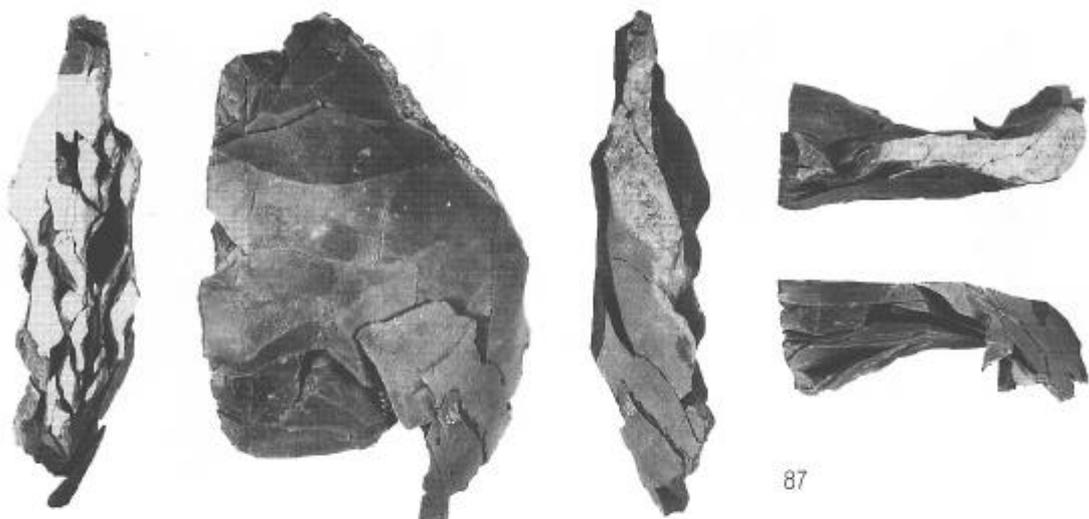
85



86



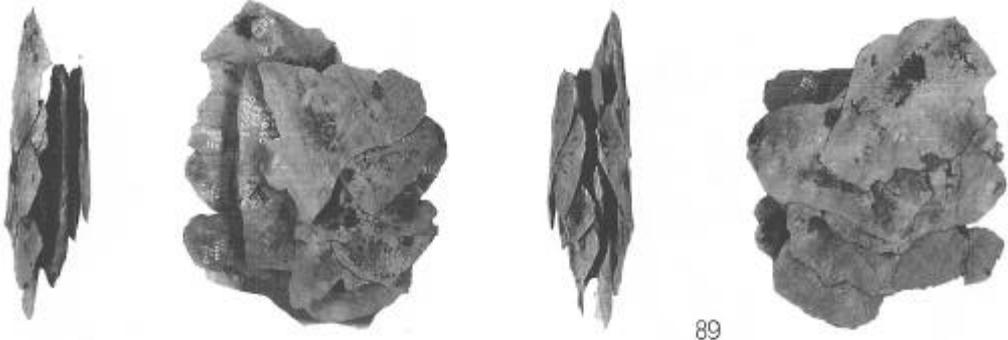
86



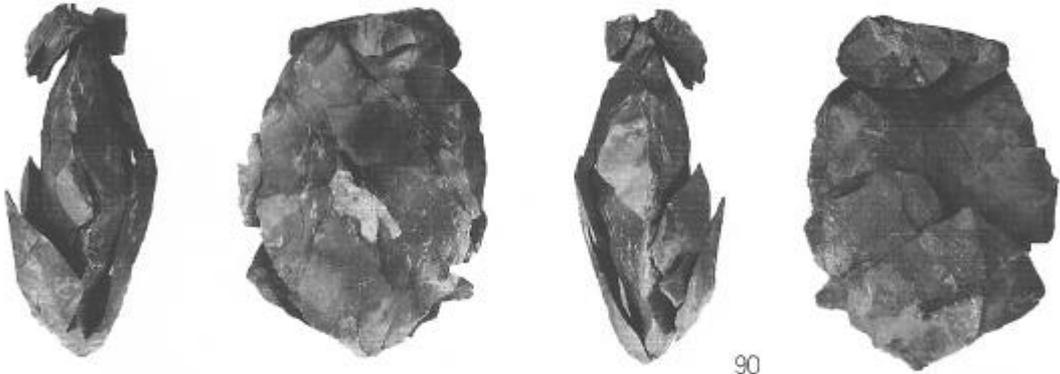
87



88



89



90



91



92



95



93



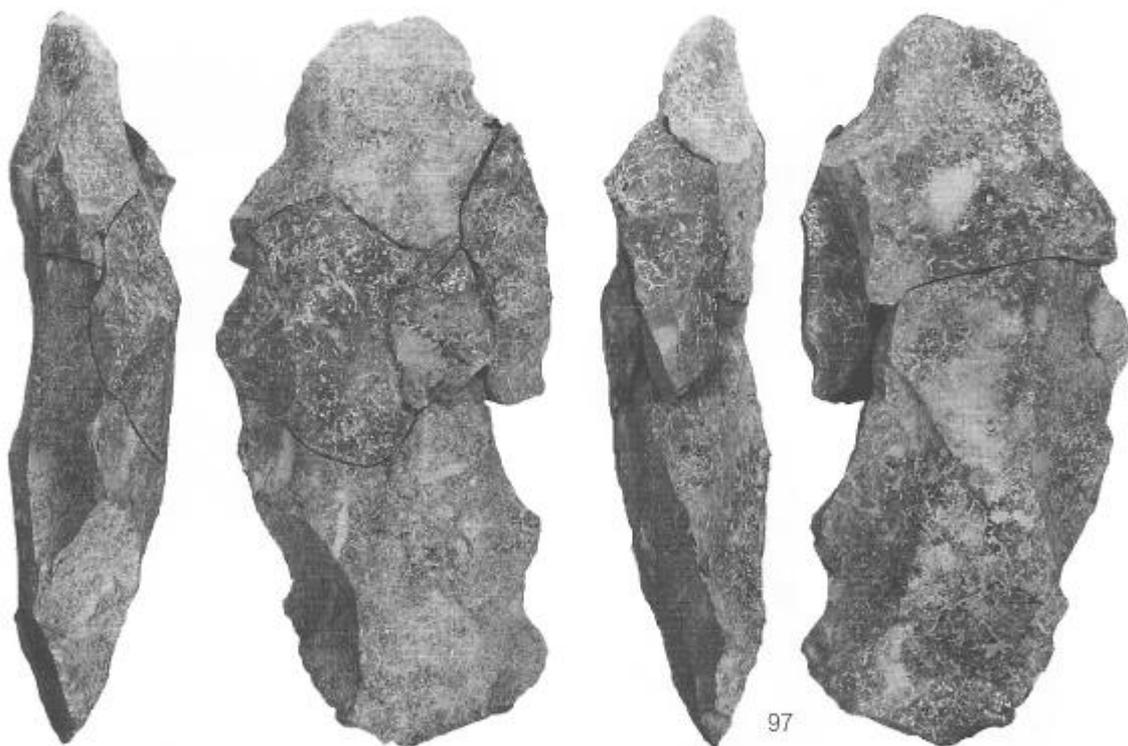
94



98



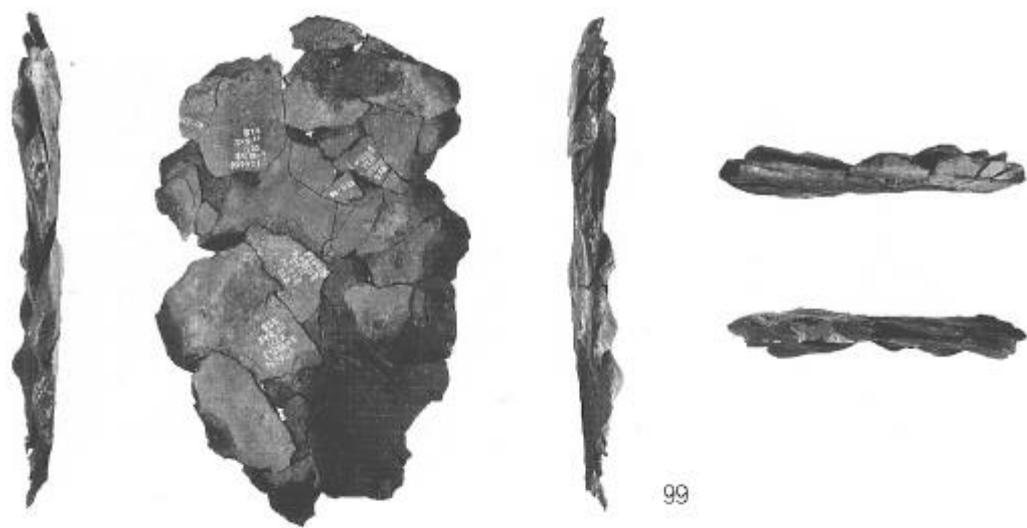
96



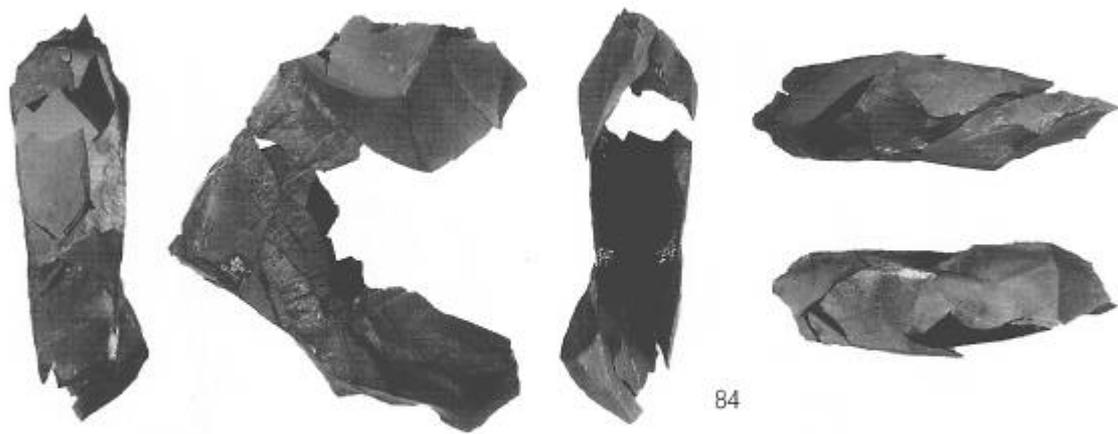
97



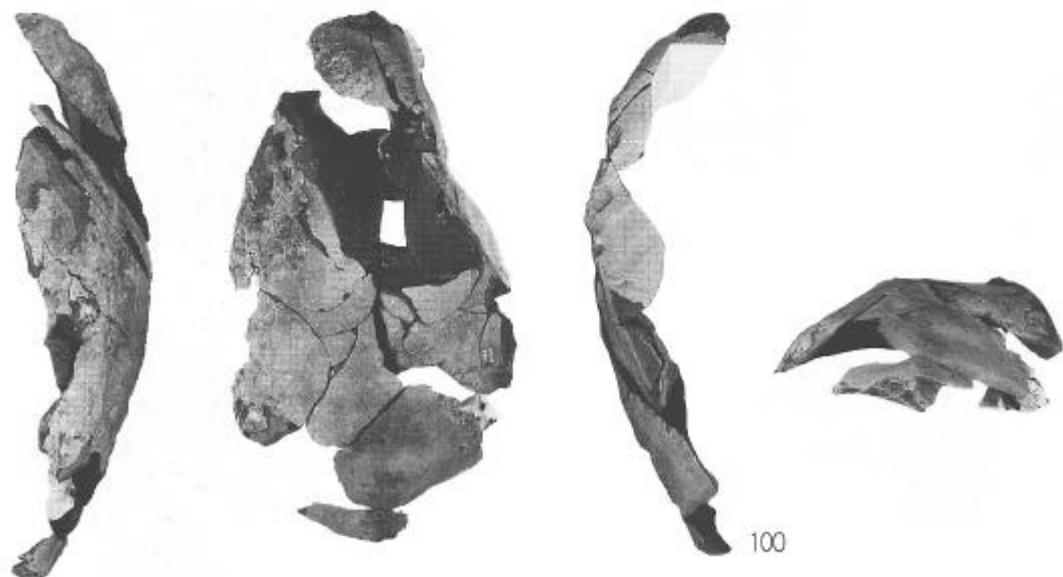
101



99



84



100